

令和 6 年度

原子力規制庁原子力施設等防災対策等委託費
緊急時モニタリング要員育成事業

事業報告書

令和 7 年 3 月

公益財団法人 原子力安全研究協会

本報告書は、原子力規制委員会原子力規制庁の原子力施設等防災対策等委託費による委託業務として、公益財団法人原子力安全研究協会が実施した令和6年度「緊急時モニタリング要員育成」事業の成果をとりまとめたものです。

本報告書の著作権は、原子力規制庁に帰属しており、本報告書の全部または一部の無断複製等の行為は、法律で認められたときを除き、著作権の侵害にあたるため、これらの利用行為を行うときは、原子力規制庁の承認手続きが必要です。

リサイクル適正の表示：印刷用の紙にリサイクルできます。
この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料〔Aランク〕のみを用いて作製しています。

目次

1. はじめに	1
2. 講座及び訓練の実施	3
2.1 モニタリング技術に関する基礎的な講座	3
2.1.1 モニタリング技術に関する基礎的な講座	3
2.1.2 福島参集型講座	9
2.2 EMC 活動訓練	11
2.3 実践演習	16
2.4 講座及び訓練の教材等の作成	17
2.4.1 テキストの作成	18
2.4.2 スライド資料の作成	20
2.4.3 副読本の作成	25
2.4.4 ウェブサイト、e ラーニングについて	25
2.4.5 ニュースレターについて	28
3. 次年度に向けた改善の検討	30
3.1 緊急時モニタリング要員育成事業検討委員会等による評価	30
3.1.1 第1回緊急時モニタリング要員育成事業検討委員会	30
3.1.2 第2回緊急時モニタリング要員育成事業検討委員会	31
3.1.3 第3回緊急時モニタリング要員育成事業検討委員会	31
3.1.4 講師連絡会	32
3.1.5 訓練検討ワーキンググループ	32
3.2 アンケート等の実施	33
3.2.1 理解度確認テスト	33
3.2.2 モニタリング技術に関する基礎的な講座アンケート	37
3.2.3 EMC 活動訓練アンケート	47
3.2.4 EMC 活動訓練評価表	58
3.2.5 次年度へ向けた改善事項の抽出と改善策の検討	72
4. 原子力総合防災訓練等のデータ作成及び支援	77
5. 講座で使用した資機材	78
6. おわりに	82

付録

付録1 緊急時モニタリング要員育成各開催のプログラム

- (1) モニタリング技術に関する基礎的な講座 …………… 付 1-1
- (2) EMC 活動訓練 …………… 付 1-14

付録2 緊急時モニタリング要員育成ニュースレター

- (1) 第1号 …………… 付 2-1
- (2) 第2号 …………… 付 2-3

付録3 理解度確認テスト

- (1) モニタリング技術に関する基礎的な講座（問題、解答） …………… 付 3-1

付録4 アンケート用紙

- (1) モニタリング技術に関する基礎的な講座（受講者） …………… 付 4-1
- (2) モニタリング技術に関する基礎的な講座（講師） …………… 付 4-5
- (3) EMC 活動訓練（受講者） …………… 付 4-7
- (4) 福島参集型講座（受講者） …………… 付 4-11
- (5) 福島参集型講座（講師） …………… 付 4-15
- (6) 実践演習（受講者） …………… 付 4-18
- (7) 実践演習（講師） …………… 付 4-24
- (8) e ラーニング …………… 付 4-30

付録5 アンケート集計結果

- (1) モニタリング技術に関する基礎的な講座（受講者） …………… 付 5-1
- (2) モニタリング技術に関する基礎的な講座（講師） …………… 付 5-151
- (3) EMC 活動訓練（受講者） …………… 付 5-202
- (4) 福島参集型講座（受講者） …………… 付 5-329
- (5) 福島参集型講座（講師） …………… 付 5-337
- (6) 実践演習（受講者） …………… 付 5-342
- (7) 実践演習（講師） …………… 付 5-364
- (8) e ラーニング …………… 付 5-372

1. はじめに

放射性物質又は放射線の放出は、原子力災害特有の事象であり、災害対策の実施にあたる関係者は共通認識の下、限られた時間の中で確実性の高い情報に基づき住民の防護措置を講じる必要がある。そのため、平時からの適切な準備と訓練が欠かせない。原子力災害対策に関連する知識の領域は、放射線測定器の取扱いや資機材の維持管理、環境試料採取といった実技から、緊急時の役割や関係機関との協力、防護措置といった体制に関する理解にいたるまで、多方面にわたる。

本事業では、「原子力災害対策指針（平成 24 年 10 月 31 日原子力規制委員会制定）」を踏まえ、緊急時モニタリングセンター（EMC）及び野外における緊急時モニタリングに従事する者を対象に、現地に講師等を派遣して、基礎から実践まで受講者の習熟度に応じた講義・実習・訓練等を開催し、モニタリング活動及びモニタリング体制の運用に関する知識、技術等の習得を図ることを目的としている。

モニタリング技術に関する基礎的な講座は、緊急時モニタリングに従事する地方公共団体職員等を対象に、講義、実習及び演習を 24 道府県で計 25 回開催した。具体的な内容としては、緊急時モニタリングの基礎についての講義、放射線の基礎、モニタリング資機材の使用法、環境試料の採取方法、野外モニタリング活動時の放射線防護等の実践的な実習及び演習である。なお、環境試料の採取等の実習や演習については、可能な限り屋外で実施した。

EMC 活動訓練は、EMC における活動に従事することが見込まれる地方公共団体職員等を対象に、EMC の役割、体制及び活動に関する知識の習得を目的とした机上訓練を 13 回開催した。具体的な内容は、EMC 活動の基本的な確認や訓練内容及びルールに関する講義、EMC に設置されている機器の操作説明・操作実習、及び EMC が立ち上がる施設敷地緊急事態以降（地域によっては、警戒事態以降）の対応についての机上訓練である。

講座及び訓練の実施とともに、①教材等の作成、②データの作成、入力及び取り込み作業、③緊急時モニタリング要員育成事業検討委員会等の設置、④アンケート等による講座及び訓練効果の確認、⑤資機材の手配及び⑥被ばく管理等衛生管理を実施した。それぞれの概要は以下のとおり。

- ① 各講座及び訓練における教材は、最新の関係法令等を取り入れ、分かりやすさ、表現の適切性等を踏まえ作成した。また、講座に関しては、緊急時モニタリングにおいて使用する測定機器等の取扱い方法をまとめた副読本「緊急時モニタリング機材取扱いガイドブック」を作成し、受講者に配付した。
- ② EMC 活動訓練で使用するデータについては、放射線モニタリング情報共有・公表システム（RAMIS）の訓練機能を使用し、地方公共団体等と調整の上で新たに作成し、RAMIS への入力及び取り込みを行った。
- ③ 外部専門家や地方公共団体のモニタリング関係者等からなる「緊急時モニタリング要員育成事業検討委員会」等を設置し、訓練内容、カリキュラム及び教材の評価等を行い、次年度への改善事項及び改善策の取りまとめを行った。また EMC 活動訓

練の評価にあたり、委員を現地に派遣した。

- ④ モニタリング技術に関する基礎的な講座の効果を確認するため、受講者の理解度確認テストを行い、集計したデータを基にカリキュラム及び教材を評価し、改善事項の抽出と改善策の検討を行った。また、講座及び訓練の実効性向上を図るため、受講者及び講師・評価者に対して講座及び訓練に対する要望や改善事項などのアンケート等を行い、アンケート等の集計結果から次年度へ向けた改善事項の抽出と改善策の検討を行った。
- ⑤ 本事業の講座で使用する資機材については、各地方公共団体が保有する資機材を活用した実習及び演習が実効的であるため、可能な範囲で各地方公共団体の資機材を借用して使用した。なお、資機材が借用できない場合及び資機材が不足する場合には、国が無償貸与する資機材を用いて実習及び演習を行った。
- ⑥ 講座及び訓練の開催にあたっては、衛生工学衛生管理者及び第一種放射線取扱主任者が健康被害を未然に防ぐよう指導を行った。

2. 講座及び訓練の実施

本章では、本年度実施した講座及び訓練等について、概要、カリキュラム、開催実績等を記載した。

2.1 モニタリング技術に関する基礎的な講座

2.1.1 モニタリング技術に関する基礎的な講座

(1) 概要

本講座では、緊急時モニタリングに従事する地方公共団体職員等に対して、緊急時モニタリングの基礎に関する講義、実習及び演習を行い、緊急時モニタリングを適切に実施するための知識や技術の習得を図った。

受講者の利便性を鑑み、講義はeラーニングで実施した。実習及び演習は現地で実施した。基本体系は図 2-1 のとおりである。

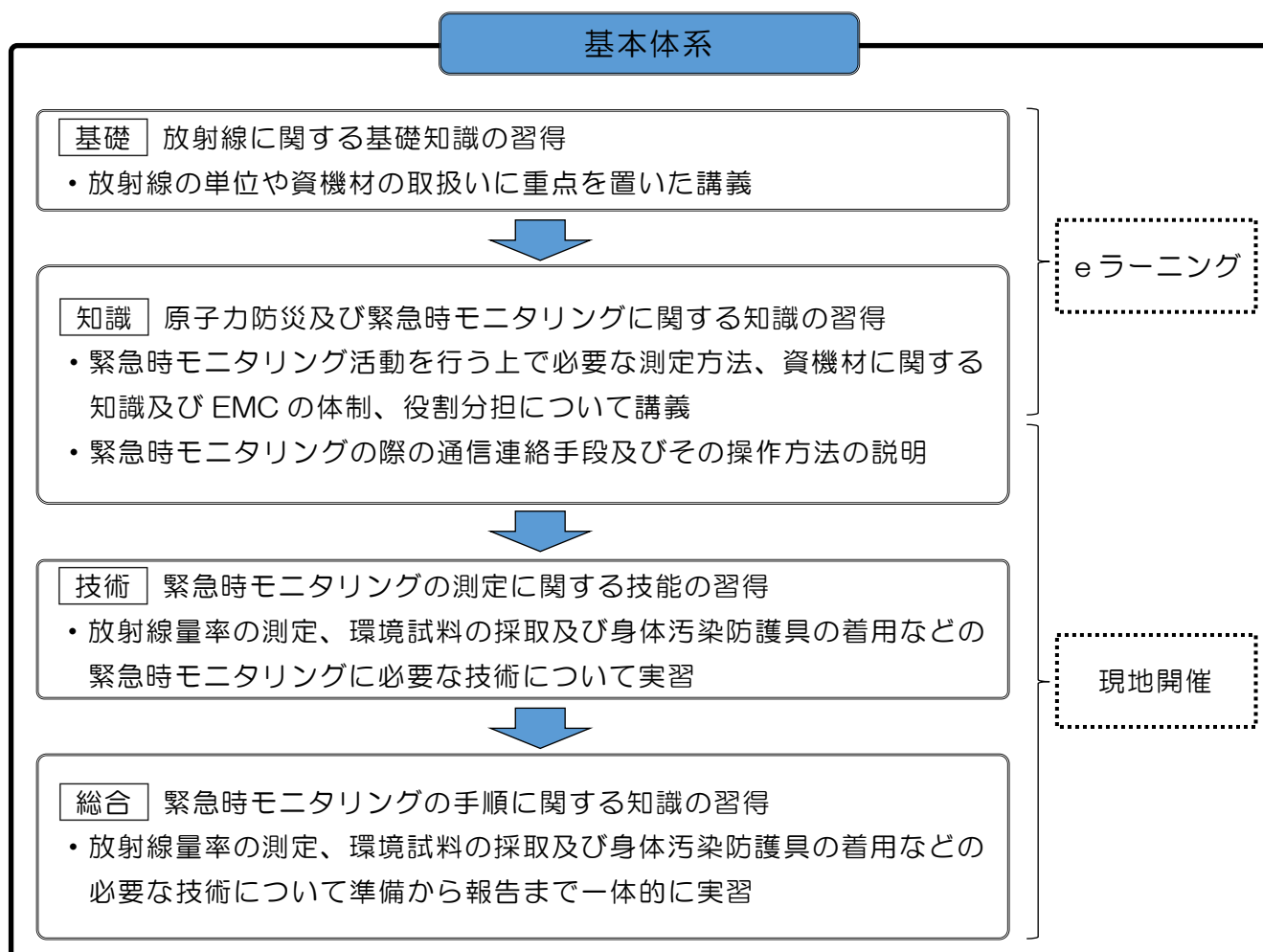


図 2-1 モニタリング技術に関する基礎的な講座の基本体系

(2) カリキュラム

基本的なカリキュラムは表 2-1 のとおりとし、これらを基に道府県担当者等関係者と調整した。

表 2-1 モニタリング技術に関する基礎的な講座の基本的なカリキュラム

e ラーニング	
講義 1 放射線の基礎	放射線の基礎知識として、放射性物質、放射線の種類と性質、放射線の測定、放射線被ばく、放射能・放射線の単位、放射線の人体への影響、放射線被ばくの防護、放射線測定器の選び方等を講義
講義 2 緊急時モニタリングの流れ	緊急時モニタリングの目的と手順、緊急事態区分と緊急時活動レベル（EAL）、運用上の介入レベル（OIL）と防護措置、事前準備、緊急時モニタリング計画と緊急時モニタリング実施計画、事態に応じた体制と活動等を講義
講義 3 緊急時モニタリングの実際	緊急時に着目する放射性物質と環境中での移行、福島原発事故での放射性物質放出とその影響、緊急時モニタリング実施計画に基づく測定方法（空間放射線量率の測定、大気中・環境試料中の放射性物質濃度測定）と留意事項、出動時の装備及び機材等を講義

現地開催	
実習 1 放射線の性質確認	放射線測定器（個人線量計や各種サーベイメータ（NaI(Tl)、電離箱、GM管、ZnS(Ag)））取扱いの確認と操作実習
実習 2 緊急時モニタリング資機材の取扱い	緊急時モニタリングに使用する資機材（可搬型モニタリングポスト等）について操作方法を実習
実習 3 空間放射線量率の測定	空間放射線量率の測定実習
実習 4 環境試料の採取	大気中の放射性物質の採取実習、環境試料（飲料水、土壌）の採取実習
演習 緊急時モニタリング活動 (1) 出動準備 (2) 測定・採取 (3) 脱衣と被ばく管理	(1) 事故想定に基づく周辺住民等の防護措置の判断に必要な野外モニタリング方法の確認、緊急時モニタリング指示書の確認、装備及び資機材の準備を確認 (2) 空間線量率の測定及びデータの確認、可搬型モニタリングポストの配備計画の確認、設置及び測定データの記録、大気試料、環境試料（飲料水、土壌）の採取 (3) 防護衣の脱衣、個人被ばく線量の記録、身体汚染状況の測定、採取試料の保管・管理、模擬汚染（蛍光塗料）を用いた汚染拡大防止の体験・拭き取りによる簡易除染
振り返り	演習における気づき事項について意見交換し、その内容をまとめ、良好事例や改善事項を抽出する

各道府県担当者等関係者とのカリキュラム調整内容は、表 2-2 のとおりである。実際のカリキュラムは付録 1 に示す。なお調整に当たっては、年度初めにオンラインでの打合せを実施し、その後、電話・電子メールでの連絡を中心に調整した。また調整に当たっては、各地の担当の上席放射線防災専門官（上席）も交えて行った。

表 2-2 各道府県とのカリキュラム調整内容

道府県	調整内容
道府県 A	・ 上席による「原子力規制事務所における緊急時モニタリング資機材の概要」説明を実施 ・ 可搬型モニタリングポストを2台借用し、2階会場内説明及び屋外設置とし、伝送を確認（ホームページ）
道府県 B	・ 基本カリキュラムで実施 ・ これまでは測定分析拠点が設置される市内で開催していたが、初の試みとして環境保健センターで実施
道府県 C	・ 実習 3 と実習 4 は 2 グループに分かれ並行して実施
道府県 D	・ 実習3と実習4は2グループに分かれ並行して実施 ・ 可搬型モニタリングポストを屋外に設置の上传送確認(ホームページ及びラミセスタブレット)
道府県 E	・ 基本カリキュラムで実施 ・ 走行サーベイ測定器（KURAMAⅡ）の使用方法的説明を実習2で実施 ・ 実習4と演習では、悪天候のため屋内でコンテナ土壌を使用して実施 ・ 道府県Eでは固定局に設置された苗箱を回収する方法もある旨を説明
道府県 F	・ 道府県職員による講義「道府県Fの緊急時モニタリング体制」を実施 ・ 全日のEMC要員向けプログラムと半日の市町村職員向けプログラムの2種類を実施 ・ 演習では半面マスクと防護服を着用して活動
道府県 G	・ eラーニングの復習、道府県Gのモニタリング体制の説明を実施 ・ 実習2において、KURAMA-Ⅱ、ラミセス、ハザードトークに関する説明を実施
道府県 H	・ 実習2において、モニタリングカー養生に関する説明を実施 ・ 演習において、安定ヨウ素剤服用と廃棄物保管管理に関する説明を実施
道府県 I	・ eラーニングの復習を実施 ・ 道府県職員による可搬型モニタリングポスト取扱い説明を実施 ・ 可搬型モニタリングポストを2台借用し、組立前後の状態を提示
道府県 J	・ eラーニングの復習を実施 ・ 実習2では、道府県からの要望でラミセスの取扱いの説明を実施
道府県 K	・ 実習3と実習4は2グループに分かれ並行して実施 ・ 5班体制で実施、演習では汚染検査を指示項目として追加

道府県	調整内容
道府県 L	・ 実習2において、大気モニタ、ヨウ素サンプラ（固定型）の取扱い説明を実施 ・ 貸会議室での実施であったが、可搬型モニタリングポストを屋外に設置の上传送確認（ホームページ及びラミセスタブレット）
道府県 M	・ 道府県Mとの共同開催 ・ 道府県職員による講義「道府県M緊急時モニタリング計画等について」説明を実施 ・ 通常の演習と同時進行で、「EMC図上演習」を実施
道府県 N	・ 実習2において、走行サーベイスシステムの取扱い説明を実施 ・ 可搬型モニタリングポストを屋外に設置の上传送確認
道府県 O	・ サーベイメータによる線量率測定に重点を置いたカリキュラムを実施 ・ 実習 1：放射線の性質確認、実習 2：空間放射線量率の測定、演習 ・ 受講者を入れ替え、午前と午後の2回実施
道府県 P	・ 基本カリキュラムで実施 ・ 出勤・帰還・脱装は活動開始前に実際のルートを通して実施 ・ 終日雨天のためすべての実習・演習を屋内で実施
道府県 Q	・ 基本カリキュラムで実施 ・ 実習 4 の土壌の採取では道府県 Q の基本的な採取方法である U8 容器による直接採取で実施し、採土器を用いた採取方法もデモで実施 ・ 道府県職員 1 名が欠席し、別の職員 1 名が当日参加
道府県 R	・ 道府県職員によるラミセス取扱い説明を実施 ・ 鼻スメアと甲状腺の簡易測定のデモを実施
道府県 S	・ 緊急時モニタリング資機材取扱いに関する実習と、環境試料採取の講義を実施 ・ 演習の出勤準備では、汚染拡大防止と簡易除染体験に加え、モニタリング車の養生を実施 ・ 演習の環境試料採取では、大気モニタ・ヨウ素サンプラを遠隔起動し、モニタリング車によりろ紙・カートリッジの回収を実施
道府県 T	・ 再処理施設を想定した α 線、中性子に関する測定器を用いた実習を実施 ・ 屋外で可搬型モニタリングポストのデータ受信を確認 ・ 演習では半面マスクと防護服を着用して活動
道府県 U	・ 道府県Uとの共催（同じ内容を2日間に分け実施） ・ 講師を2名派遣し、講義「原子力防災に関する国や道府県の計画について」、「放射線の基礎、緊急時モニタリングセンター（EMC）の活動について」、「モニタリング資機材の取扱いについて」、「防護資機材の取扱いについて」を実施 ・ 実習の補助を実施

道府県	調整内容
道府県 V	・ 遠方から来場する受講者に配慮し、短縮プログラムを実施 ・ 実習 4 において RAMIS 操作説明を実施 ・ 会場はRAMISの操作等も可能なオフサイトセンターで実施
道府県 W	・ 実習3と実習4は2グループに分かれ並行して実施
道府県 X	・ 実習2において、モニタリングカー養生に関する説明、資機材・採取試料の積載時の注意事項の説明を実施 ・ 通信に使用する衛生携帯電話を紹介 ・ 演習では、スクリーニング検査場を会場内に設け、採取試料の受け渡しも実施

(3) 開催実績

24 回の講座はすべて現地で開催した。開催時期については道府県の要望を踏まえて調整をした。

それぞれの月の開催状況は図 2-2 のとおりである。

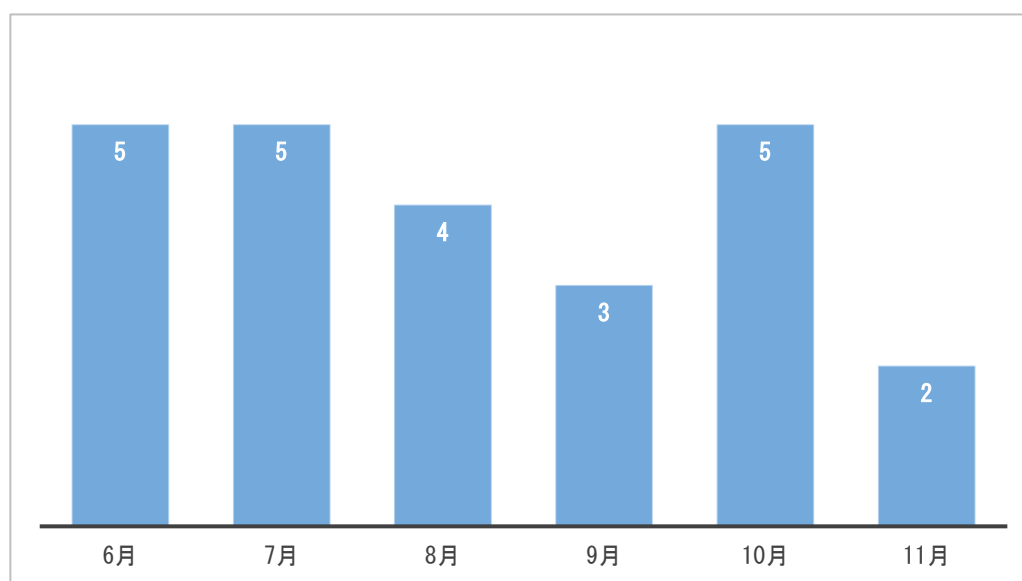


図 2-2 月ごとの開催回数

本年度実施した 24 回の講座の開催場所、受講者数は表 2-3 のとおりである。

表 2-3 モニタリング技術に関する基礎的な講座の開催場所及び受講者数

道府県	開催場所	受講者数
道府県 A	オフサイトセンター	14 人
道府県 B	道府県庁関連※1	9 人
道府県 C	オフサイトセンター	15 人

道府県	開催場所	受講者数
道府県 D	道府県庁関連	22 人
道府県 E	オフサイトセンター	10 人
道府県 F	オフサイトセンター	19 人
道府県 G	オフサイトセンター	10 人
道府県 H	道府県庁関連	11 人
道府県 I	環境センター関連※2	10 人
道府県 J	貸会議室	10 人
道府県 K	環境センター関連	18 人
道府県 L	貸会議室	8 人
道府県 M	オフサイトセンター	11 人
道府県 N	オフサイトセンター	13 人
道府県 O	道府県庁関連	39 人
道府県 P	環境センター関連	13 人
道府県 Q	環境センター関連	11 人
道府県 R	環境センター関連	11 人
道府県 S	環境センター関連	11 人
道府県 T	環境センター関連	15 人
道府県 U	オフサイトセンター	38 人 (1 日目 25 人、2 日目 13 人)
道府県 V	オフサイトセンター	11 人
道府県 W	貸会議室	17 人
道府県 X	道府県庁関連	10 人
合計		356 人

※ 1 保健福祉センター、保健環境研究所等を含む

※ 2 原子力環境センター、環境放射線監視センター等を含む

2.1.2 福島参集型講座

(1) 概要

本講座では、「モニタリング技術に関する基礎的な講座」の応用編として、福島県に参集し放射線環境下における実践的な野外モニタリング活動を通じて、野外モニタリング活動に関する知識と技術の定着を図った。

(2) カリキュラム

本年度実施した福島参集型講座のカリキュラムは表 2-4 のとおりである。

表 2-4 福島参集型のカリキュラム

現地開催（1日目）	
<u>実習1ガイダンス</u>	実習1について説明、出動準備（使用する資機材、場所（状況）、記録内容、記録用紙、実習時の連絡方法及び使用資機材の養生等）
<u>講義1</u> 福島県のモニタリング体制について	福島県の現在のモニタリング体制について講義
<u>福島県環境放射線センター見学</u>	福島県環境放射線センターの見学
<u>実習1</u> 放射線環境下での測定①	空間放射線量率の分布を調査、汚染検査
<u>講義2</u> 福島原発事故後のモニタリング	福島原発事故後のモニタリングについて講義
現地開催（2日目）	
<u>実習2ガイダンス</u>	実習2について説明、出動準備
<u>実習2</u> 放射線環境下での測定②	土壌、指標生物（松葉）採取、汚染検査
<u>実習3</u> 帰還時の対応	採取試料の搬入、資機材等の汚染検査、防護装備の脱装
<u>実習4</u> 測定結果報告	空間放射線量率測定結果を共有、地上1m線量率マップ等を作成
<u>振り返り及び講評</u>	講座における気付き事項について意見交換し、その内容をまとめ、良好事例や改善事項を抽出する。講師からの講評を実施する。
現地開催（3日目）	
<u>施設見学</u> (希望者のみ)	【共通】 震災遺構浪江町立請戸小学校、東日本大震災・原子力災害伝承館 【廃炉資料館コース】 東電廃炉資料館 【1Fコース】 福島第一原子力発電所

(3) 開催実績

基礎講座の修了程度の知識を有する者を受講対象とするため、基礎講座が終了した11月27日(水)～29日(金)に現地で開催し、15名(11道県の職員及び国要員)が受講した。

開始時の講義会場は福島県環境放射線センターの協力を得て、当該センター(南相馬市)で実施し、センター見学を含む、講義等を実施した。野外実習後は移動時間を考慮し、大熊町インキュベーションセンター(旧大野小学校)を講義会場とした。

野外実習会場は、帰還困難区域、中間貯蔵施設敷地内である次の会場で実施した。

- ・ 実習1 山神神社(大熊町夫沢)
 - 福島第一原子力発電所から西南西 2.7km
 - 空間放射線量率 10 μ Sv/h 程度
- ・ 実習2 旧大熊町立熊町小学校(大熊町熊川緑ヶ丘)
 - 福島第一原子力発電所から南南西 4km
 - 空間放射線量率 2 μ Sv/h 程度

なお、野外実習会場の旧熊町小学校の校庭は雑草が生い茂っていたため、受講者の安全のため、事前に草刈りなどの準備を行った。

2.2 EMC 活動訓練

(1) 概要

本訓練では、緊急時モニタリング業務に従事する地方公共団体職員等を対象に、EMC の役割、体制及び活動に関する知識の習得を目的とした机上訓練を実施した。

基礎的な講座と同様、受講者の利便性を鑑み、e ラーニング及び現地開催という形態とした。基本体系は図 2-3 のとおり。

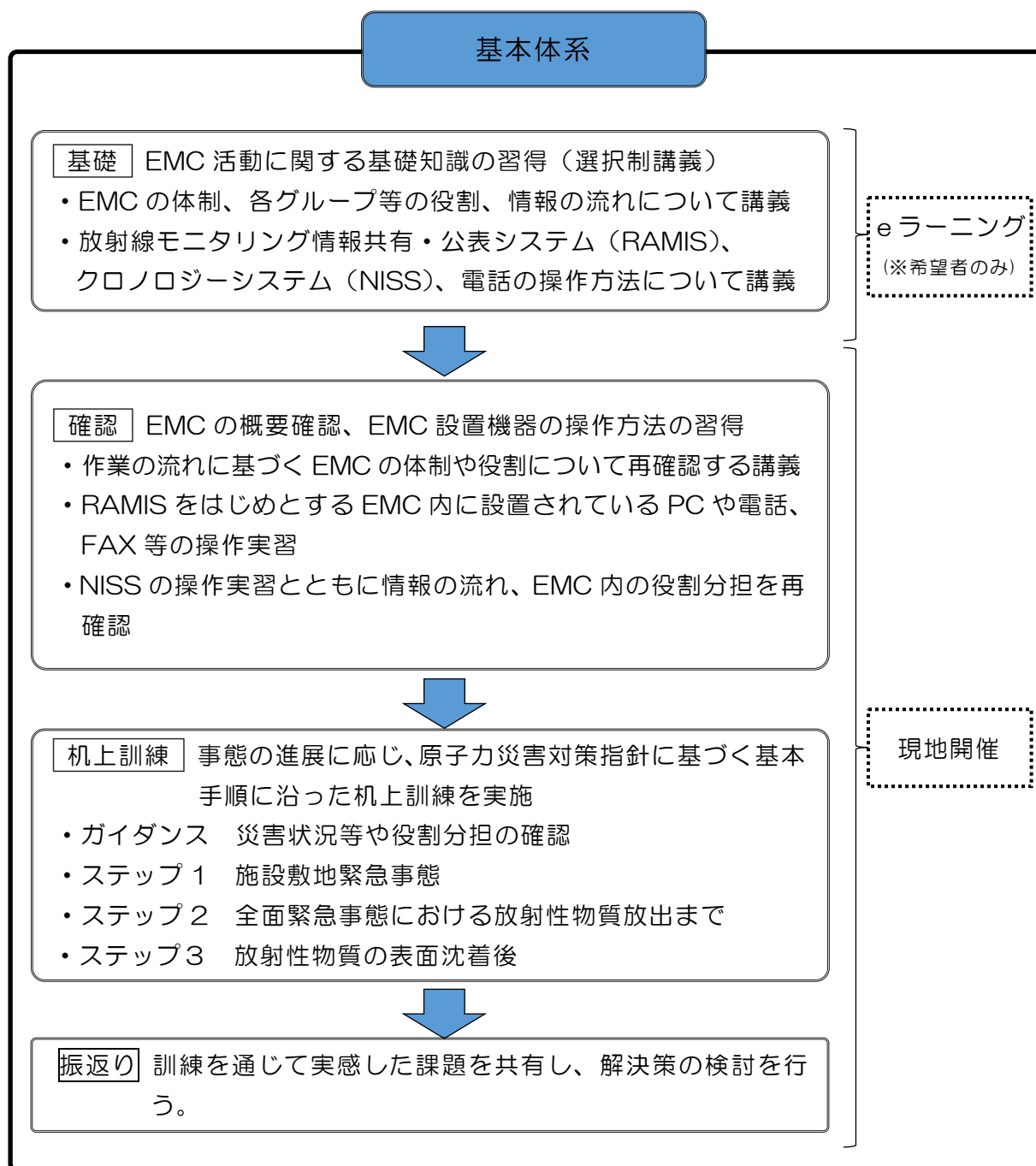


図 2-3 EMC 活動訓練の基本体系

(2) カリキュラム

本年度実施した EMC 活動訓練のカリキュラムは表 2-5 のとおりである。

表 2-5 EMC 活動訓練の基本的なカリキュラム

e ラーニング（選択制講義） ※希望者のみ	
講義 緊急時モニタリングセンター（EMC）の役割と情報の流れ	緊急時モニタリング体制の概要、緊急時モニタリングセンター（EMC）の体制、EMCセンター長や各グループ（企画調整グループ、情報収集管理グループ、測定分析担当）の役割、情報の流れについての講義
講義 放射線モニタリング情報共有・公表システム（RAMIS）の操作方法	RAMISの操作方法全般（起動からモニタリング結果の表示、情報の抽出・報告書の作成等）に関する講義
講義 クロノロジーシステム（原子力防災システム（NISS））の操作方法	NISSの操作方法全般（起動からログイン、情報の登録や編集、データの保存方法等）に関する講義
講義 電話の操作方法	電話の操作方法全般（使用範囲、発信、着信、保留、転送、代理応答、ハンズフリー通話、会議等）に関する講義
対談 福島原発事故後のモニタリング活動について	福島原発事故直後に実際のモニタリング活動に対応した者へのインタビュー
講義 福島原発事故後のモニタリング活動の実際と課題	福島原発事故直後に実際のモニタリング活動に対応した者による当時の活動内容についての概説講義

現地開催（1日目）	
講義 緊急時モニタリングセンター（EMC）の概要	緊急時モニタリングセンター（EMC）の体制及び役割を作業の流れに基づいて確認
操作実習 1 EMC設置機器操作実習（RAMIS、PC等）	RAMIS及びEMC内にあるPCや電話、FAX等の実機に触れながら操作方法を習得
操作実習 2 EMC設置機器操作実習（NISS）	NISSの実機に触れながら操作方法を習得 情報の流れ及びEMC内の役割分担を確認
机上訓練ステップ 1 (SE)	役割分担を確認し、原災法第10条通報以降の流れを把握する。ERCからの指示に従いEMCを立上げ、要員参集、資機材を確認し、ERC作成の緊急時モニタリング実施計画に対応する。モニタリング結果の定時報告を作成し送信する。
机上訓練ステップ 2-1 (GE：放射性物質放出前)	原災法第15条報告以降、大気環境への放射性物質の放出前までの流れを把握する。

現地開催（２日目）	
机上訓練ステップ 2-2（GE：放射性物質放出中）	引き続き定時報告を作成する。放出予測に基づいて野外活動の中止等の対応を取る。放出後、MP等で計測された線量率をRAMISで把握する。
机上訓練ステップ 3（GE：放射性物質地表面沈着後）	指示書に基づき測定分析担当が採取した環境試料の分析結果やモニタリング要員の被ばく線量等を報告する。
振り返りと講評	訓練を通じて実感した課題を共有し、解決策を検討する。評価者及び講師からの講評を実施する。

基礎的な講座と同様に各道府県担当者等関係者とカリキュラムの調整を行い、その内容は表 2-6 のとおりである。実際のカリキュラムは付録 1 に示す。なお調整に当たっては、年度初めにオンラインでの打合せを実施し、その後訓練内容に応じて 1 回から 3 回の打合せを実施した。また調整に当たっては、各地の担当の上席放射線防災専門官（上席）も交えて行い、さらに必要に応じて基礎的な講座の現地開催時に合わせて対面によるより詳細な打合せを実施して調整した。

表 2-6 各道府県とのカリキュラム調整内容

道府県	調整内容
道府県 A	・ 能登半島地震を踏まえ、16 の欠測局そのうち 8 局に代替可搬 MP が設置不可、道路情報は能登半島地震と同じ状況となるシナリオを設定 ・ 通信事業者の基地局の電源復旧や回線復旧に伴い、欠測局が復旧するシナリオを設定 ・ 放射性物質沈着後に欠測局周辺の航空機モニタリングの測定結果を情報付与 ・ 沈着後の活動に重点を置き、走行サーベイや分析結果の確認を実施
道府県 B	・ ALから訓練を実施 ・ 実動訓練を2日間実施 ・ 1 日目は机上訓練と一部分だけ連動して可搬型MP設置起動及びハイボリュームサンプラの設置起動（※ハイボリュームサンプラの訓練は道府県要望）を実施 ・ 2 日目は防護装備を着用し、土壌採取、採取試料搬入、脱衣汚染検査を実施
道府県 C	・ 実動訓練を机上訓練と切り離して 2 会場で実施（OFC：机上訓練及び測定採取班実働訓練、道府県 C 環境放射線監視センター：分析班実働訓練） ・ 道府県の津波想定（3m 以上）のエリア内にある 19 局が津波で欠測となる想定 ・ 指示書作成後、走行サーベイの結果を訓練中表示 ・ 分析班から情報収集管理GrにRAMIS、NISSを使用して分析結果を送信する個別訓練をコントローラー対応で実施

道府県	調整内容
道府県 D	・ 募集案内の際に「参加人数によってプログラムを調整する」ととし、2 日間のうち 1 日のみを申し込む場合は役割に応じた参加推奨日を設定 ・ 道府県 D が新規作成した「原子力災害時における飲料水等の採取・回収マニュアル(市町村向け)」の対応を取入れた訓練を実施 ・ 停電情報、断水情報を踏まえた対応が必要となるシナリオを設定 ・ UPZ 外測定分析担当を設置して実施
道府県 E	・ 「講義 EMC活動訓練について」は道府県E作成の資料に基づき、事務局が講義 ・ 停電情報を踏まえた対応が必要となるシナリオを設定 ・ 放射性物質沈着後に欠測局周辺の航空機モニタリングの測定結果を情報付与 ・ UPZ 外に計画設置した可搬型 MP の欠測に伴うバッテリー交換又は代替 MP の交換について検討が必要となるシナリオを設定
道府県 F	・ 道府県からの要望により 1 日開催でGE（放射性物質放出が放出開始する時点）からの訓練を実施 ・ 訓練開始までの状況説明用に、骨子にプレイヤーの活動を追記して配付 ・ 能登半島地震を踏まえ、39 地点の道路不通箇所の情報を付与
道府県 G	・ 多くの要員の交代に伴い、イントロダクションや講義の事前学習を拡充 ・ EMCの基本的な流れを確認できるシンプルなシナリオを設定 ・ 昨年度は実働訓練の訓練時間を確保するために昼休憩を交代制としたが、今年度は机上訓練のみとして昼休憩も一斉に取るプログラムとした
道府県 H	・ AL から訓練を実施 ・ 停電情報、断水情報を踏まえた対応が必要となるシナリオを設定 ・ 出動した要員（想定）からの情報により通行不能箇所が明らかとなり、欠測局の対応が未実施となるシナリオを設定 ・ 道府県 H は訓練 1 日目に実動訓練を実施 ・ 隣接県は活動拠点に職員をコントローラーとして配置して実施
道府県 I	・ 緊急時モニタリング実施要領の説明を道府県職員が実施 ・ AL から訓練を実施 ・ 津波の影響のため、代替可搬型 MP の設置場所を近隣の公共施設に設定
道府県 J	・ AL から訓練を実施 ・ 複数の離島での欠測対応 ・ 停電情報及びテレメータシステム警報を付与し、欠測局や商用電源断局を 27 地点設定 ・ 個別訓練として非常用発電機稼働局への給油依頼を事業者へ電話で実施
道府県 K	・ 原子力規制庁主催の参集訓練と同時開催とし、1 日半のカリキュラムで実施 ・ 道府県 K 測定分析拠点の設置場所の変更（隣接 OFC から原子力環境監視センター_敦賀）に伴う連携訓練を実施 ・ 気象条件の変化を考慮したシナリオを設定し、放射性ブルームの再来に伴い線量率が上昇する想定外の事態への対応を訓練 ・ 停電情報、断水情報を踏まえた対応が必要となるシナリオを設定

道府県	調整内容
道府県 L	・ 要員の参集メールを訓練として実際に送信 ・ 資機材が不足（道府県 L 所有の可搬型 MP10 台中 5 台が点検校正中）の想定 ・ 国所有の可搬型 MP を設置するため、設置方法を指導する実動訓練を実施 ・ 船による対応が必要な離島の欠測が発生するシナリオ ・ 停電情報及びテレメータシステム警報を付与し、欠測局や停電エリア内の対応を検討するシナリオ ・ 分析結果のRAMIS登録と承認作業を実施
道府県 M	・ 孤立集落の対応を盛り込んだシナリオ ・ 所在地が異なる施設（原子力発電所と再処理施設）で同時にトラブル事象が発生するシナリオ ・ 分析結果の RAMIS への登録を実施 ・ 妥当性確認結果表を用いて、緊急時モニタリングの結果について整合性が取れていることを確認

（３）開催実績

13 回の EMC 活動訓練はすべて現地で開催した。

それぞれの月の開催状況は図 2-4 のとおりである。

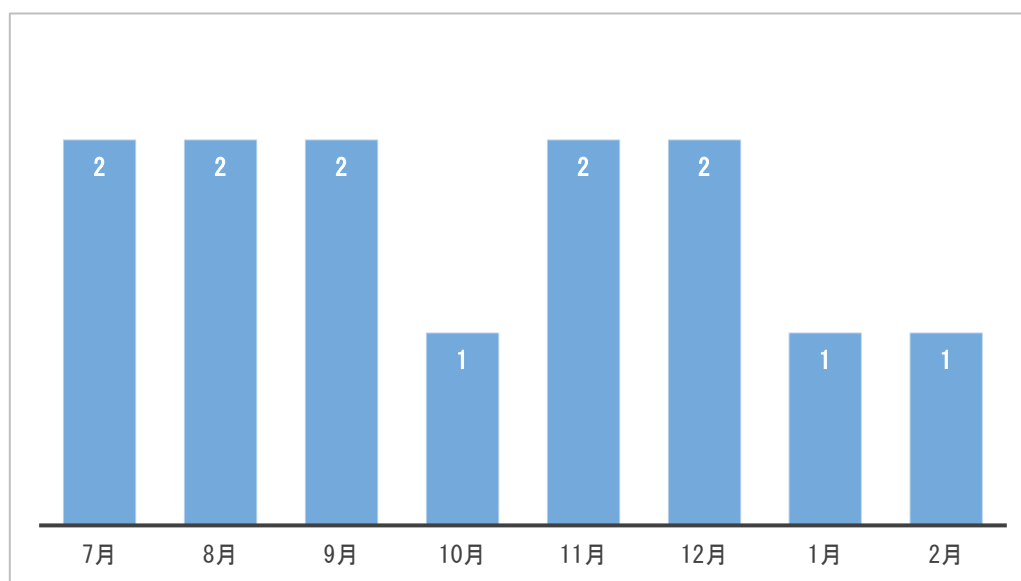


図 2-4 月ごとの開催回数

本年度実施した 13 回の EMC 活動訓練の開催場所、受講者数は表 2-7 のとおりである。環境センター関連には、原子力環境センター、環境放射線監視センター等を含む。

表 2-7 EMC 活動訓練の開催場所及び受講者数

道府県	開催場所	受講者数
道府県 A	オフサイトセンター 環境センター関連※ ¹	20 人
道府県 B	オフサイトセンター 環境センター関連	30 人
道府県 C	オフサイトセンター 環境センター関連	24 人
道府県 D	オフサイトセンター	13 人
道府県 E	オフサイトセンター	24 人
道府県 F	オフサイトセンター	19 人
道府県 G	オフサイトセンター 環境センター関連	18 人
道府県 H	オフサイトセンター 環境センター関連	50 人
道府県 I	オフサイトセンター 環境センター関連	22 人
道府県 J	オフサイトセンター 環境センター関連	23 人
道府県 K	オフサイトセンター 環境センター関連	34 人
道府県 L	オフサイトセンター 環境センター関連	38 人
道府県 M	オフサイトセンター 環境センター関連	23 人
合計		338 人

※ 1 原子力環境センター、環境放射線監視センター等を含む

(4) 使用する訓練シナリオデータ

EMC 活動訓練においては、RAMIS の訓練機能を使用し、地方公共団体等と調整の上でデータ等を新たに作成し、原子力規制庁緊急時対応センター (ERC) 等において、原則として各 EMC 活動訓練を実施する 1~2 週間前に、RAMIS を用いてデータの入力及び取り込み作業を実施した。

2.3 実践演習

各地域で開催された講座及び訓練についての事前・事後学習の一助として、かつ緊急時モニタリングの知見を広く共有することを目的として、講座及び訓練の受講者を対象に、オンラインで以下の実践演習を開催した。

- ・ 緊急時モニタリング指示書作成講座：
緊急時モニタリング指示書を作成する上で、緊急時モニタリング実施計画をどのように捉え、指示書に記載すればよいのか、その基本的な考え方や必要な取り組

みについて考え、学ぶことを目的とした。経験者向けの EMC 活動訓練事前研修として、企画調整グループで指示書作成を担当する方や訓練参加経験がありしっかり学びたい方を対象に、オンラインによるグループワークを実施した。

- ・ 緊急時モニタリング企画コース：
緊急事態の進展に応じて緊急時モニタリングの実施内容（走行サーベイのルート、土壌や水の採取場所）をどのように決定し適切なモニタリングを行うか、オンライングループワークで班ごとに討議を行った。議論を通じて、測定分析担当総括・連絡班や企画調整グループ総括・調整班としての知識の再確認と判断力の向上を図った。
- ・ 緊急時モニタリング実施コース：
緊急時モニタリング野外活動時に想定される様々な出来事への対処方法について班ごとにオンライングループワークにより討議し、講座や訓練で得た知識・技術を再確認するとともに、緊急時の判断能力を養うことをねらいとした。また、他地域の EMC 関係者や講師との意見交換により、共通認識を形成し、知識の向上を図った。演習の課題は、福島原発事故後の緊急時モニタリング活動中に、講師が実際に直面した出来事に準じた。

実践演習については計 7 回開催した。開催日及び受講者数については、表 2-8 のとおりである。

表 2-8 実践演習の開催日及び受講者数

コース名	開催日	受講者数
緊急時モニタリング指示書作成講座	7 月 3 日（水）	8 人
緊急時モニタリング指示書作成講座	7 月 4 日（木）	5 人
緊急時モニタリング企画コース	7 月 5 日（金）	12 人
緊急時モニタリング企画コース	7 月 8 日（月）	11 人
緊急時モニタリング実施コース	1 月 23 日（木）	4 人
緊急時モニタリング実施コース	1 月 29 日（木）	7 人
緊急時モニタリング実施コース	1 月 30 日（金）	5 人
合計		52 人

2.4 講座及び訓練の教材等の作成

各講座及び訓練における教材は、最新の関係法令等を取り入れ、分かりやすさ、表現

の適切性等を踏まえ作成した。また講座に関しては、緊急時モニタリングにおいて使用する測定機器等の取扱い方法をまとめた副読本を作成し、受講者に配付した。

なお、受講者の利便性を鑑み、e ラーニングを動画等で受講できるウェブサイトを開設した。さらに、主に受講者への情報提供を目的としたニュースレターを発行した。

なお、本講座及び訓練における教材等については、原子力規制庁と調整の上決定した。

2.4.1 テキストの作成

モニタリング技術に関する基礎的な講座のテキストは、カリキュラムに沿って最新の法令等を取り入れて改訂し、表現の分かりやすさや整合性などに留意しながら全体の統一を図った。主な内容と今年度の改訂点は、以下のとおり。

(1) 講義「放射線の基礎」

緊急時モニタリングを実施する上で必要な放射線の基礎知識を概説する内容とした。

【内容】	・ 放射性物質 ・ 放射線の種類と性質 ・ 放射線の測定 ・ 放射能・放射線量に関する単位 ・ 放射線被ばく ・ 身の回りの放射線 ・ 放射線の人体への影響 ・ 放射線被ばくの防護

【改訂点】	・ 出典（統一的な基礎資料）の版数更新 ・ 原発事故由来の放射性物質（半減期、蓄積臓器）を追加

(2) 講義「緊急時モニタリングの流れ」

原子力災害対策の基礎を踏まえて緊急時モニタリングを実施できるよう、緊急時モニタリングの目的や体制、関連するシステム等を記載した。

【内容】	・ 原子力災害対策指針における緊急時モニタリングの扱い ・ 原子力災害の特殊性 ・ 緊急時モニタリングの目的と実施体制 ・ 段階に応じた緊急時モニタリングの実施 ・ クロノロジーシステム（原子力防災システム（NISS）） ・ 参考：緊急時モニタリングの実施内容 ・ 参考：モニタリング結果の取扱い ・ 参考：情報の共有及び公表 ・ 参考：指定行政機関、指定地方行政機関、指定公共機関

【改訂点】	・ 原子力災害対策指針、原子力災害対策指針補足参考資料の改正（改訂）日を更新 ・ クロノロジーシステムの図差し替え ・ 関係指定公共機関に関する記述を追加

(3) 講義「緊急時モニタリングの実際」

緊急時モニタリングを実施する上で必要な知識について、実施項目ごとに記載した。

- 【内容】
- ・ 放射性物質又は放射線の放出、放射性物質の環境中での挙動
 - ・ 緊急時モニタリングの実施体制
 - ・ 緊急時モニタリングの実施項目
 - ・ 参考：放射線モニタリング機材一覧
 - ・ 参考：モニタリングカー等の緊急自動車への指定

(4) 実習「放射線の性質確認」

放射線測定器の取扱い方法を取得して放射線の性質について理解できる内容とした。

- 【内容】
- ・ 個人線量計の取扱い
 - ・ 線量率測定用サーベイメータの取扱い
 - ・ 表面汚染測定用サーベイメータの取扱い
 - ・ 距離による減衰の確認

- 【改訂点】
- ・ 距離による減衰の確認を追加

(5) 実習「緊急時モニタリング資機材の取扱い」

緊急時モニタリング資機材の取扱い方法について理解できる内容とした。

- 【内容】
- ・ 可搬型モニタリングポストの取扱い

- 【改訂点】
- ・ 測定方法に関する記述を追加
 - ・ 整備例の写真を追加
 - ・ 可搬型モニタリングポスト設置場所に関する記述を追加

(6) 実習「空間放射線量率の測定」

防護措置の判断に必要な空間放射線量率の測定方法について記載した。

- 【内容】
- ・ 空間放射線量率の測定実習

- 【改訂点】
- ・ 記録表に時定数記入欄を追加

(7) 実習「環境試料の採取」

緊急時モニタリングにおいて測定対象となる環境試料（飲料水、大気、土壌）の採取方法について記載した。

- 【内容】
- ・ 飲料水の採取実習
 - ・ 大気試料の採取実習
 - ・ 土壌の採取実習

- 【改訂点】
- ・ エアサンプラの捕集時間、採取量に関する記述を変更
 - ・ 大気試料採取の留意事項に関する記述を追加

(8) 演習「原子炉施設の事故を想定した緊急時モニタリング」

事故を想定して、指示書に基づいて緊急時モニタリング活動を模擬することにより、緊急時モニタリングの実務を習熟できる内容とした。

- 【内容】
- ・ 汚染の見える化及び簡易除染
 - ・ 事故想定（シナリオ）
 - ・ 演習手順
 - ・ モニタリング要員等の防護対策
 - ・ 防護具等の着脱
 - ・ 身体汚染状況の測定実習
 - ・ 参考：演習で使用する指示書及び記録表
- 【改訂点】
- ・ 汚染の見える化及び簡易除染を追加
 - ・ 記録表に時定数欄を追加

2.4.2 スライド資料の作成

（１）モニタリング技術に関する基礎的な講座のスライド資料

モニタリング技術に関する基礎的な講座のスライド資料については、テキストと同様にカリキュラムに沿って最新の法令等を取り入れて改訂し、表現の分かりやすさや整合性などに留意しながら全体の統一を図った。主な内容と改訂点は、以下のとおり。

i) イントロダクション

今年度も講義を e ラーニングで実施したため、講座の冒頭で使用することを目的として、事業の目的と緊急時モニタリングの概要について概説したスライド資料を作成した。

ii) 講義「放射線の基礎」

放射線の性質や種類、単位等について、より具体的に理解できるよう、図表等を多用して概説した。

- 【内容】
- ・ 放射性物質
 - ・ 放射線の種類と性質
 - ・ 放射線の測定
 - ・ 放射能・放射線量に関する単位
 - ・ 放射線被ばく
 - ・ 身の回りの放射線
 - ・ 放射線の人体への影響
 - ・ 放射線被ばくの防護
- 【改訂点】
- ・ 生物学的半減期に関するスライドを追加

iii) 講義「緊急時モニタリングの流れ」

緊急時モニタリングの目的や体制、関連するシステム等について、組織図やフロー図等を用いて説明する内容とした。

- 【内容】
- ・ 上席放射線防災専門官の役割、全国の原子力規制事務所

- ・ 原子力災害の特殊性
- ・ 原子力防災対策重点区域
- ・ 緊急事態の段階及び緊急事態区分
- ・ 緊急時活動レベル（EAL）
- ・ 運用上の介入レベル（OIL）
- ・ 緊急時モニタリングセンターの体制
- ・ クロノロジーシステム 等

- 【改訂点】
- ・ 上席放射線防災専門官の配置に関する記述、図を変更
 - ・ 原子力災害対策重点区域に関する記述、図を追加
 - ・ 防災基本計画、原子力災害対策指針の改正（改訂）日を更新

iv) 講義「緊急時モニタリングの実際」

緊急時モニタリングの実施項目等について、測定器等を示しながら説明する内容とした。

- 【内容】
- ・ 放射性物質又は放射線の放出、放射性物質の環境中での挙動
 - ・ 緊急時モニタリングの実施体制
 - ・ 緊急時モニタリングの実施項目

- 【改訂点】
- ・ 機器の役割等に関する記述を追加、修正
 - ・ 写真の全面マスクを反面マスクに変更
 - ・ 大気試料採取について捕集対象を追加 等

v) 実習「放射線の性質確認」

個人線量計や各種放射線測定器の使用方法について、実際に測定している状態の測定器の写真等を用いて説明する内容とした。

- 【内容】
- ・ 個人線量計の取扱い
 - ・ 線量率測定用サーベイメータの取扱い
 - ・ 表面汚染測定用サーベイメータの取扱い
 - ・ 実習で使用する γ 線源及び β 線源と福島原発事故で対象となった放射性物質との関連について追加
 - ・ 距離による減衰について追加

vi) 実習「緊急時モニタリング資機材の取扱い」

可搬型モニタリングポストについて、起動から測定値の読み取りまで、機器全般が理解できる内容とした。

- 【内容】
- ・ 可搬型モニタリングポストの取扱い
- 【改定点】
- ・ 「可搬型モニタリングポストの役目」に関するスライドを修正
 - ・ 測定方法の詳細を追加
 - ・ 良好事例の写真を追加

vii) 実習「空間放射線量率の測定」

空間放射線量率の測定について、具体的な手順を示す内容とした。

- 【内容】
 - ・ 空間放射線量率の測定
- 【改訂点】
 - ・ 写真の全面マスクを半面マスクに変更
 - ・ 測定地点の条件、記録写真、時定数欄を追加

viii) 実習「環境試料の採取」

環境試料（飲料水、大気、土壌）の採取方法について、具体的な手順を示す内容とした。

- 【内容】
 - ・ 飲料水の採取実習
 - ・ 大気試料の採取実習
 - ・ 土壌の採取実習
- 【改訂点】
 - ・ 飲料水採取に関する説明動画で水栓をしめる際の注意を字幕に追加
 - ・ 環境試料採取の記録写真例を追加
 - ・ エアサンプラのフィルター装着図及び採取条件の例を追加、捕集時間を変更

ix) 演習「汚染の見える化及び簡易除染」

模擬汚染（蛍光塗料）を用いた汚染拡大防止の体験・拭き取りによる簡易除染について、具体的な手順を示す内容とし、本年度新しく作成した。

- 【内容】
 - ・ 汚染拡大の見える化－手袋の脱装－
 - ・ 手袋の脱装方法
 - ・ 簡易除染－拭き取り法－
 - ・ 拭き取りによる除染
 - ・ 実験方法

x) 演習「緊急時モニタリング活動（出動・測定・帰還）」

演習の目的と事故想定（シナリオ）、演習の手順を示してから、被ばくや汚染の防護方法について示し、指示書に従って緊急時モニタリングを進めていく内容とした。

- 【内容】
 - ・ 外部被ばくの防護
 - ・ 身体汚染の防護
 - ・ 内部被ばくの防護
 - ・ 防護具等の着脱手順
 - ・ 被ばく線量の管理
 - ・ 緊急時モニタリングの実施
 - ・ 身体汚染状況の測定演習
- 【改訂点】
 - ・ 身体汚染状況の測定について、測定レンジ、検出器の距離、測定部位の詳細を追加

(2) EMC 活動訓練のスライド資料

EMC 活動訓練のスライド資料については、講座のスライド資料と同様に、表現の分かりやすさや整合性などに留意して作成した。

主な内容と改定点は、以下のとおり。

i) イントロダクション

訓練の冒頭で使用することを目的として、事業の目的と EMC 活動訓練の概要について概説したスライド資料を作成した。

ii) 講義「緊急時モニタリングセンターの概要」

緊急時モニタリングセンターの体制や各班の役割等について概説した。

- 【内容】
- ・ 事態に応じた緊急時モニタリング活動
 - ・ 緊急時モニタリングセンターの体制
 - ・ EMC センター長の役割
 - ・ EMC 企画調整グループの役割
 - ・ EMC 情報収集管理グループの役割
 - ・ EMC 測定分析担当の役割 他

iii) 操作実習「機器取扱い簡易説明書」

EMC に設置されている機器類について、基本的な取扱い方法について概説した。

- 【内容】
- ・ 電話
 - ・ 複合機
 - ・ ノート PC
 - ・ FAX

- 【改訂点】
- ・ 電話のハンズフリー通話（スピーカーホン）機能、会議機能に関する記述を追加

iv) 操作実習「ビデオ通話システムの使用方法」

EMC にあるノート PC で使用できるビデオ通話システムについて、基本的な操作方法について概説した。

- 【内容】
- ・ ビデオ通話システムの概要
 - ・ ビデオ通話の起動
 - ・ ビデオ通話の終了 他

v) 操作実習「放射線モニタリング情報共有・公表システム（RAMIS）の操作方法」

放射線モニタリング情報共有・公表システム（RAMIS）について、システムの概要やデータの確認方法、報告書の作成方法等が理解できる内容とした。

- 【内容】
- ・ 放射線モニタリング情報共有・公表システムの概要
 - ・ モニタリング情報の共有

- ・ 地図の表示方法 他

vi) 操作実習「クロノロジーシステム（原子力防災システム（NISS））の操作方法」

クロノロジーシステム（原子力防災システム（NISS））について、システムの概要や情報の入力方法、情報の整理方法等が理解できる内容とした。

- 【内容】
- ・ クロノロジーシステムの目的及び概要
 - ・ クロノロジーシステムの起動
 - ・ クロノロジーシステムのログイン
 - ・ システムのログアウト 他

vii) 訓練「実施方法、確認事項」

EMC 活動訓練の目的や机上訓練の実施方法、訓練時における役割分担等について理解できる内容とし、訓練ごとに作成した。

- 【内容】
- ・ 訓練参加の心構え
 - ・ EMC 活動訓練の目的と目標
 - ・ 机上訓練実施方法、確認事項
 - ・ 業務内容と役割分担
 - ・ 情報の収集先と提供先
 - ・ 訓練開始時点での状況等
 - ・ 訓練実施上の留意事項

- 【改訂点】
- ・ 「訓練参加の心構え」を追加

viii) 訓練「EMC における情報の流れ」

EMC 運営時における情報の流れについて、体系的に理解できる内容とした。

- 【内容】
- ・ 基本ルール
 - ・ EMC 運営における情報の流れ（概要）
 - ・ クロノロジーシステム
 - ・ EMC 活動における情報の流れ
 - ・ クロノロ文例
 - ・ クロノロ発信上での留意事項
 - ・ クロノロ常時監視の上での留意事項

ix) 訓練全体の振り返り

振り返りの方法について説明した。

x) 参考資料 用語解説

訓練中に使用する用語及び緊急時モニタリングの体制等について概説した。

- 【内容】
- ・ 用語解説
 - ・ 緊急時対応体制
 - ・ 運用上の介入レベル（OIL）

- ・ 緊急時における防護措置
- ・ 緊急時活動レベル（EAL：Emergency Action Level）

2.4.3 副読本の作成

講義内容を補足することを目的として、緊急時モニタリングにおいて使用する測定機器等の取扱い方法をまとめた副読本「緊急時モニタリング機材取扱いガイドブック」を作成し、受講者に配付した。

便宜性を考慮して、A4 見開き 2 ページに 1 つの機種に関する説明が収まるように配置している。また、両面で打ち出してラミネート加工をして携行できるよう、PDF データを e ラーニングに掲載した。

主な内容は以下のとおり。

【内容】	・ 各種サーベイメータの取扱い方 ・ 個人線量計の取扱い方 ・ 可搬型エアサンプラの取扱い方 ・ 可搬型モニタリングポストの取扱い方 ・ 防護用装備の取扱い方 ・ 付録

2.4.4 ウェブサイト、e ラーニングについて

受講希望者への開催情報等の提供、申込受付等を目的として、本事業の令和 6 年度版のウェブサイト令和 6 年 5 月 20 日に公開した（図 2-5 参照）。

ウェブサイトについては、月ごとの訪問数は図 2-6 のとおりである。

緊急時モニタリング要員育成(令和6年度)

トップページ

基礎講座(福島参集型を含む)、実践演習

EMC活動訓練

受講申込

緊急時モニタリング要員育成について

本事業は、「原子力災害対策指針(平成24年10月31日原子力規制委員会決定)」を踏まえ、緊急時モニタリングセンター(以下、「EMC」という。)及び野外での緊急時モニタリングに従事する地方公共団体職員等を対象に、基礎から実践まで受講者の習熟度に応じた講義・実習・訓練等を開催し、モニタリング活動及びモニタリング体制の運用に関する知識・技術等の習得を図ることにより、緊急時モニタリングの実効性を確保することを目的としています。

本事業では、緊急時モニタリングの基礎について講義及び実習を行う「モニタリング技術に関する基礎的な講座」と、EMCの役割、体制及び活動に関する知識の習得を目的とした机上訓練を行う「EMC活動訓練」を実施します。この2つの講座・訓練では、受講者の都合のよいタイミングで学習に取り組めるように講義はeラーニングで実施し、習熟度に合わせてカリキュラムを選択いただけます。また、事前・事後学習の一助として、eラーニングでの「自己学習コンテンツ」や「ニュースレター」を通じた教材及び情報の提供、オンラインでご参加いただける「実践演習」を開催します。

1. モニタリング技術に関する基礎的な講座、(福島参集型を含む)、実践演習
2. EMC活動訓練
3. 受講申込

図 2-5 ウェブサイトトップページ

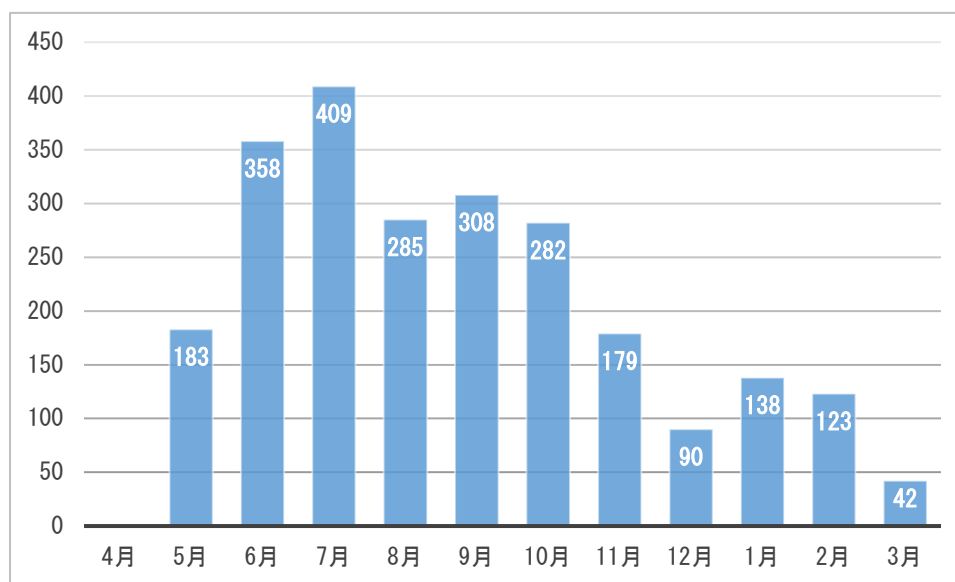


図 2-6 ウェブサイト訪問者数

また、受講者専用のeラーニングのサイトを設け、講義の動画やテキスト、参考情報の提供などを行った(図 2-7 参照)。eラーニングに掲載したコンテンツは以下のとおりである。

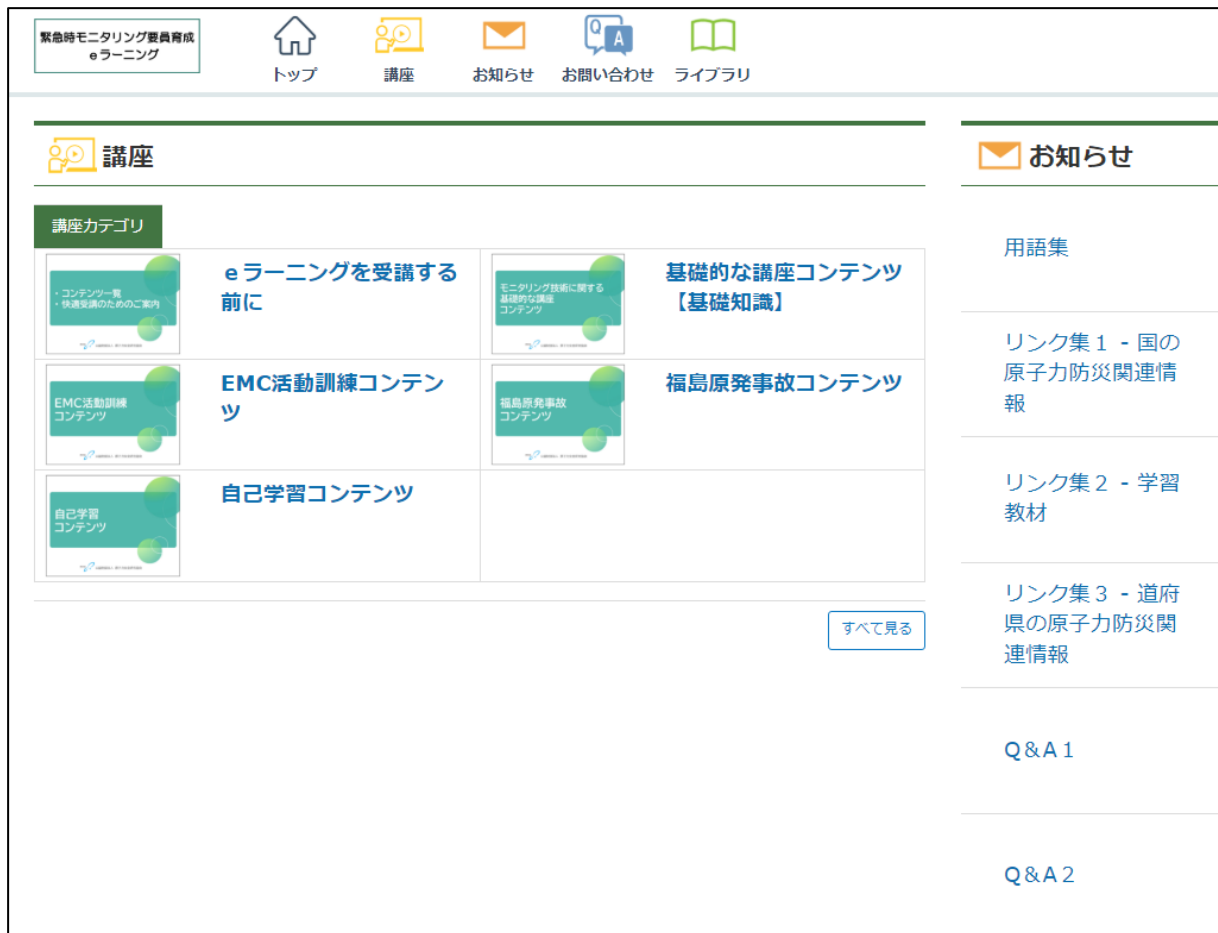


図 2-7 eラーニングトップページ

【モニタリング技術に関する基礎的な講座】

- ・ 講義 1 放射線の基礎（65 分）
- ・ 講義 2 緊急時モニタリングの流れ（55 分）
- ・ 講義 3 緊急時モニタリングの実際（50 分）
- ・ 理解度確認テスト（10 問）

【EMC 活動訓練】

- ・ 緊急時モニタリングセンターの役割と情報の流れ（30 分）
- ・ 放射線モニタリング情報共有・公表システム（RAMIS）の操作方法（35 分）
- ・ クロノロジーシステム（原子力防災システム（NISS））の操作方法（15 分）
- ・ 電話の操作方法（5 分）

【福島原発事故関連コンテンツ】

- ・ 対談 福島原発事故の緊急時モニタリング活動について（国の活動）（20 分）
- ・ 講義 福島原発事故の緊急時モニタリング活動の実際と課題（30 分）
- ・ 対談 福島原発事故のオフサイトセンター及び原子力センターでの対応（40 分）
- ・ 対談 福島原発事故の緊急時モニタリング活動（佐賀県の対応と支援）（60 分）

- ・ 対談 福島原発事故の緊急時モニタリング活動（茨城県の対応）（75 分）
- ・ 講演 福島原発事故の福島県における緊急時モニタリング活動（100 分）
- ・ 講演 ふくしまの今（1,000 年に一度の地震と原子力複合災害を経験して）（95 分）

【自己学習コンテンツ】

- ・ 理解度確認テスト（10 問ランダム出題）
- ・ 放射線の性質確認（65 分）
- ・ 空間放射線量率の測定（福島県での実測定）（10 分）
- ・ 可搬型モニタリングポストの組立方法
 - － MAR-1561（15 分）
 - － MAR-5700B（10 分）
- ・ 環境試料・大気試料の採取
 - － 大気試料の採取（10 分）
 - － 飲料水の採取（5 分）
 - － 土壌の採取（採土器）（10 分）
 - － 積雪時の対応（25 分）
- ・ 放射線防護関連動画
 - － 防護装備の着装（15 分）
 - － 防護装備の脱装、汚染検査（10 分）
 - － 表面汚染検査の検出器（プローブ）の動かし方（6 分）
 - － 防護装備の着装の工夫（盛夏期・厳冬期）（10 分）
 - － 汚染拡大の見える化（10 分）
 - － 簡易除染（10 分）
 - － モニタリングカーの養生（汚染防止対策）（15 分）

【サブコンテンツ】

- ・ 用語集
- ・ 緊急時モニタリング活動 Q&A
- ・ リンク集 1：原子力防災関連法令、ICRP 勧告、原子力総合防災訓練など
- ・ リンク集 2：放射能測定シリーズなど、学習のお役立ち情報
- ・ リンク集 3：各道府県の原子力防災関連情報
- ・ ライブラリ：「機材取扱いガイドブック」、スライド資料の PDF、ニュースレター等を掲載
- ・ ニュースレター
- ・ EMC 活動訓練良好事例集
- ・ 問い合わせフォーム

2.4.5 ニュースレターについて

また、本年度は受講者への情報提供の一環として、放射能測定法シリーズや原子力総

合防災訓練の動向、講座や訓練において特に多かった質問に対する QA 等をとりまとめたニュースレターの発行を 2 回行い、関係者へ電子メールで周知するとともに、e ラーニングに掲載した。その内容を付録 2 に示す。

3. 次年度に向けた改善の検討

次年度に向けた改善の検討として、緊急時モニタリング要員育成事業検討委員会等による評価、改善検討、アンケートの実施とその分析を行った。

3.1 緊急時モニタリング要員育成事業検討委員会等による評価

訓練内容、カリキュラム及び教材の評価等と、次年度への改善事項及び改善策の取りまとめを行うことを目的とし、外部専門家や地方公共団体のモニタリング関係者からなる「緊急時モニタリング要員育成事業検討委員会」を設置し、研修及び訓練の開始前、中間時期、終了後の3回、委員会を開催した。

さらに、講師間での教え方の相違をなくし、講座の品質を一定水準以上に保ち、安定した講座運営とするために、本事業の講座で講師を務める専門家からなる「講師連絡会」を設置し、1回開催した。また、EMC活動訓練をより実践的かつ効果的な内容とし、良好事例等の積極的な水平展開を行うため、原子力発電施設等立地地域の道府県担当者により構成する「訓練検討ワーキンググループ」を新たに設置し、1回開催した。

なお緊急時モニタリング要員育成事業検討委員会、講師連絡会及び訓練検討ワーキンググループは、ウェブ会議により開催した。

以下に各回での主な検討内容を示す。

3.1.1 第1回緊急時モニタリング要員育成事業検討委員会

(1) 日時

令和6年5月29日（水） 13:30～16:30

(2) 議題

- i) 令和6年度緊急時モニタリング要員育成事業の実施計画等について
- ii) 講座及び訓練のカリキュラム、教材、評価方法等について

(3) 議事概要

- i) 令和6年度緊急時モニタリング要員育成事業の実施計画等について

- ・ 講座及び訓練の内容
- ・ 実施スケジュール

- ii) 講座及び訓練のカリキュラム、教材、評価方法等について

①モニタリング技術に関する基礎的な講座

- ・ 可搬型モニタリングポストに関する実習の拡充
- ・ 汚染拡大防止・簡易除染に関するカリキュラムの新規採用

②EMC活動訓練

- ・ 訓練参加の心構えに関するスライドの追加
- ・ シナリオ作成
- ・ 良好事例の水平展開
- ・ 原子力災害発生時の役割の周知

3.1.2 第2回緊急時モニタリング要員育成事業検討委員会

(1) 日時

令和6年10月11日（金）13:30～16:00

(2) 議題

- i) モニタリング技術に関する基礎的な講座の中間報告
- ii) EMC 活動訓練に関する中間報告
- iii) 実践演習（オンライン）及び福島参集型講座について

(3) 議事概要

- i) モニタリング技術に関する基礎的な講座の中間報告
 - ・ 受講者の原子力災害発生時の役割に関する認識
 - ・ 夏季の演習における防護装備の着用
 - ・ 受講者の空間放射線量率の変化に対する意識
- ii) EMC 活動訓練に関する中間報告
 - ・ 妥当性確認
 - ・ 開催地域の良い事例
 - ・ 役割のローテーション
- iii) 実践演習（オンライン）及び福島参集型講座について
 - ・ 実践演習と EMC 活動訓練の関係
 - ・ 福島参集型講座の案内

3.1.3 第3回緊急時モニタリング要員育成事業検討委員会

(1) 日時

令和7年3月3日（月）15:00～17:00

(2) 議題

- i) モニタリング技術に関する基礎的な講座の報告
- ii) 次年度へ向けた改善事項の抽出と改善策の検討
- iii) 講師連絡会等、その他の開催状況

(3) 議事概要

- i) モニタリング技術に関する基礎的な講座の報告

前回委員会以降のモニタリング技術に関する基礎的な講座等の開催状況、プログラムについて説明。各開催の理解度確認テスト及びアンケート等のまとめ、それらから抽出した改善点、次年度へ向けた改善事項と改善策について議論。

 - ・ 演習重点プログラムの実施
 - ・ e ラーニングの拡充
- ii) EMC 活動訓練に関する報告

前回委員会以降の EMC 活動訓練の開催状況、プログラムについて説明。各開催の理解度確認テスト及びアンケート等のまとめ、それらから抽出した改善点、次年度へ向けた改善事項と改善策について議論。

 - ・ 指示内容の確認
 - ・ 訓練参加回数

iii) 講師連絡会等、その他の開催状況

講師連絡会、訓練検討ワーキンググループ、実践演習（オンライン）、福島参
集型講座の開催状況及びプログラム、e ラーニングについて説明。

3.1.4 講師連絡会

(1) 日時

令和 6 年 5 月 23 日（木）10:00～12:00

(2) 議題

i) 緊急時モニタリング要員育成事業の進め方について

ii) その他

(3) 議事概要

i) 緊急時モニタリング要員育成事業の進め方について

①実施計画

- ・ 前年度からの変更点

②実習 2

- ・ 可搬型モニタリングポストに関する実習の拡充
- ・ 可搬型モニタリングポストからのデータ伝送

③実習 3

- ・ 測定器の養生
- ・ 検出器を向ける方向の表現

④実習 4

- ・ U-8 容器への土壌試料の詰め方の違いによる測定結果の違い

⑤演習

- ・ 汚染拡大の見える化と簡易除染実習の導入
- ・ 資機材リストの改訂
- ・ 電離箱による測定の条件

⑥理解度確認テスト

- ・ 設問内容

⑦受講者アンケート

- ・ ペーパーレス化に関する質問の追加

ii) その他

- ・ 教材の改訂
- ・ 今後のスケジュール

3.1.5 訓練検討ワーキンググループ

(1) 日時

令和 6 年 6 月 14 日（金）10:00～12:00

(2) 議題

i) 緊急時モニタリング要員育成事業の進め方について

ii) EMC 活動訓練の見学者の受け入れについて

- iii) EMC 活動訓練の良好事例集
- iv) 訓練プログラムの紹介（道府県 F）
- v) 今年度の主な改善点の紹介（道府県 I）
- vi) 隣接県における事例の紹介（道府県 R）
- vii) 意見交換（ホワイトボードの活用、EMC 要員の構成等について）

（3）議事概要

昨年度の他地域への EMC 活動訓練見学者より所感が述べられた。道府県 F より、昨年度の EMC 活動訓練で停電設定や RAMIS への分析結果登録を取り入れたことが紹介された。道府県 I より、昨年度の EMC 活動訓練を踏まえ、道路情報の明確化、機材の追加配備等の改善を行ったことが紹介された。道府県 R より、道府県 H の EMC 活動訓練における隣接県の訓練体制、実施事項が紹介された。事務局よりホワイトボード活用の改善提案が示され、また各地域の EMC 要員構成が共有された。その後、意見交換が行われた。

3.2 アンケート等の実施

モニタリング技術に関する基礎的な講座の効果を確認するため、受講者の理解度確認テストを行い、理解度確認テストで集計したデータを基に、カリキュラム及び教材を評価し、改善事項の抽出と改善策の検討を行った。

また、モニタリング技術に関する基礎的な講座及び EMC 活動訓練の実効性向上を図るため、受講者・講師（講座のみ）に対して、実施内容に関する要望や改善事項などのアンケートを行い、アンケートの集計結果から次年度へ向けた改善事項の抽出と改善策の検討を行った。

3.2.1 理解度確認テスト

（1）設問

モニタリング技術に関する基礎的な講座で実施した理解度確認テストの設問は、表 3-1 のとおり。座学である講義 1～3 については基本的に e ラーニングで実施したため、①～⑩の設問は e ラーニングで回答し、⑪～⑳の設問について集合型研修の終了時に回答した。これらのテスト用紙及び解答を付録 3 に示す。

表 3-1 理解度確認テスト設問

設問		回答欄
① (講義 1)	透過力（物を突き抜ける力）が高いため、遮へいするには鉛などの密度の大きい物質が必要となる放射線は（ ）である。 A. α （アルファ）線 B. β （ベータ）線 C. γ （ガンマ）線 D. わからない	
② (講義 1)	放射能（放射線を出す能力）の大きさを表す単位は（ ）である。 A. Bq（ベクレル） B. Gy（グレイ） C. Sv（シーベルト） D. わからない	
③ (講義 1)	しきい値以上の放射線を受けた時に脱毛や紅斑などの症状が現れるもので、その症状の重さは、受けた放射線量に依存する影響を（ ）という。 A. 確率的影響 B. 遺伝性影響 C. 確定的影響（組織反応） D. わからない	
④ (講義 2)	防護措置の実施を判断するための基準は、空間放射線量率や環境試料中の放射性物質の濃度などの、計測可能な値で表される「運用上の介入レベル（ ）」に基づく。 A. 0IL B. EAL C. PAZ D. わからない	
⑤ (講義 2)	発電用原子炉施設（原子力発電所）における原子力災害対策重点区域に関して、緊急防護措置を準備する区域（UPZ）は、その施設からおおむね半径（ ）である。 A. 5km B. 10km C. 30km D. わからない	
⑥ (講義 2)	運用上の介入レベル 2 は、経口摂取による被ばく影響を防止するため地域生産物の摂取を制限するとともに、住民等を 1 週間程度以内に一時移転するための基準であり、初期設定値は空間放射線量率で（ ） $\mu\text{Sv/h}$ である。 A. 5 B. 20 C. 500 D. わからない	
⑦ (講義 2)	緊急時モニタリングセンター（EMC）は、原子力施設が緊急事態の初期対応段階の（ ）に至ったときに国の統括のもと立ち上げられる。 A. 警戒事態 B. 施設敷地緊急事態 C. 全面緊急事態 D. わからない	
⑧ (講義 3)	原子炉施設の事故で大気へ放出される可能性がある放射性物質は（ ）や放射性ヨウ素、放射性セシウム等である。 A. 放射性希ガス B. ウラン C. プルトニウム D. わからない	
⑨ (講義 3)	30 $\mu\text{Sv/h}$ を超えるような線量率レベルの測定には、主に（ ）サーベイメータを用いる。 A. NaI(Tl)シンチレーション式 B. GM 計数管式 C. 電離箱式 D. わからない	
⑩ (講義 3)	気体の放射性ヨウ素の濃度を測定するためには、（ ）を装備したエアサンプラで大気試料を採取する。 A. 集じんろ紙 B. 活性炭カートリッジ C. ポリエチレンろ紙 D. わからない	
⑪ (実習 1)	サーベイメータによる測定では、選択した時定数の（ ）倍の時間が経過した後に値を読む。 A. 1 B. 3 C. 5 D. わからない	
⑫ (実習 1)	γ 線のような透過力の高い放射線を効果的に弱められる遮へい材は、（ ）である。 A. アクリル板 B. 鉄 C. 鉛 D. わからない	
⑬ (実習 2)	可搬型モニタリングポストは、屋外で（ ）の連続測定を行うことができる。 A. 空間放射線量率 B. 被ばく線量 C. 身体汚染 D. わからない	
⑭ (実習 3)	空間放射線量率をサーベイメータで測定する場合の測定高さは、原則として地表面から（ ）とする。 A. 10cm B. 1m C. 2m D. わからない	
⑮ (実習 3)	空間放射線量率をサーベイメータで測定する場合、測定器の（ ）を避けるため、ポリエチレン袋等で覆う（養生する）。 A. 被ばく B. 汚染 C. 故障 D. わからない	

⑯ (実習 4)	環境試料採取の際には、()が起こらないように、試料を採取する人と補助する人をあらかじめ決めておき、試料や器材等の受け渡しを行う。 A. 遮へい B. 線量低下 C. 汚染の拡大 D. わからない	
⑰ (演習)	被ばく線量を把握し管理するために、()を装着して出勤することが重要である。 A. 防護服 B. 個人線量計 C. 防護マスク D. わからない	
⑱ (演習)	マスクは放射性物質の吸入を防ぐ目的で装着するが、防護服（タイベックス等）を装着する直接的な目的は()を防ぐためである。 A. 外部被ばく B. 内部被ばく C. 身体汚染 D. わからない	
⑲ (演習)	表面汚染密度の測定には、()サーベイメータが適している。 A. NaI (TI) シンチレーション式 B. GM 計数管式 C. 電離箱式 D. わからない	
⑳ (演習)	全面緊急事態以降、作業員が屋外モニタリング活動後に帰還したときに、被ばく管理のため確認が必要なものは()である。 A. モニタリングカーの汚染の有無 B. モニタリング活動に使用した資機材の使用量 C. 体表面の汚染の有無と個人線量計の数値 D. わからない	

(2) 集計

モニタリング技術に関する基礎的な講座の設問のうち、集合型研修で実施した⑪～⑳の設問について、全体を通しての正答率を表 3-2 に示す。比較的正答率が低かったのは、正答率を赤字及び下線で示した 2 問である。

なお、e ラーニングで実施した①～⑩の設問については、正答率が 100%になるまで繰り返し実施できるシステムとしている。

表 3-2 理解度確認テスト正答率

No.	設問内容	正答率
11	サーベイメータによる測定では、選択した時定数の（ ）倍の時間が経過した後、値を読む。 A. 1 B. 3 C. 5 D. わからない	98.9%
12	γ線のような透過力の高い放射線を効果的に弱められる遮へい材は、（ ）である。 A. アクリル板 B. 鉄 C. 鉛 D. わからない	97.0%
13	可搬型モニタリングポストは、屋外で（ ）の連続測定を行うことができる。 A. 空間放射線量率 B. 被ばく線量 C. 身体汚染 D. わからない	97.9%
14	空間放射線量率をサーベイメータで測定する場合の測定高さは、原則として地表面から（ ）とする。 A. 10cm B. 1m C. 2m D. わからない	100%
15	空間放射線量率をサーベイメータで測定する場合、測定器の（ ）を避けるため、ポリエチレン袋等で覆う（養生する）。 A. 被ばく B. 汚染 C. 故障 D. わからない	95.3%
16	環境試料採取の際には、（ ）が起こらないように、試料を採取する人と補助する人をあらかじめ決めておき、試料や器材等の受け渡しを行う。 A. 遮へい B. 線量低下 C. 汚染の拡大 D. わからない	98.7%
17	被ばく線量を把握し管理するために、（ ）を装着して出勤することが重要である。 A. 防護服 B. 個人線量計 C. 防護マスク D. わからない	97.8%
18	マスクは放射性物質の吸入を防ぐ目的で装着するが、防護服（タイベックス等）を装着する直接的な目的は（ ）を防ぐためである。 A. 外部被ばく B. 内部被ばく C. 身体汚染 D. わからない	80.9% ※
19	表面汚染密度の測定には、（ ）サーベイメータが適している。 A. NaI (TI) シンチレーション式 B. GM 計数管式 C. 電離箱式 D. わからない	84.3%
20	全面緊急事態以降、作業員が屋外モニタリング活動後に帰還したときに、被ばく管理のため確認が必要なのは（ ）である。 A. モニタリングカーの汚染の有無 B. モニタリング活動に使用した資機材の使用量 C. 体表面の汚染の有無と個人線量計の数値 D. わからない	99.1%

※ 正答率 90%以下は赤字で示している。

（３）分析

上記集計により正答率の低い設問についての分析を以下に示す。

- ・ 設問 18「マスクは放射性物質の吸入を防ぐ目的で装着するが、防護服（タイベックス等）を装着する直接的な目的は（正解：C. 身体汚染）を防ぐためである。」について

本設問の令和 4 年度正答率は 79.8%、令和 5 年度は 84.7%であり、変動している。身体汚染が被ばくをもたらすため、設問の中の「直接的な」という語句を見落とした場合、誤答である「A. 外部被ばく」または「B. 内部被ばく」を選択するものと思われる。これまで実習 1 において「タイベックススーツによる放射線の遮蔽効果はほとんどない」ことについて、実験を通して指導している。改善策として、設問を「汚染防護服（タイベックス等）を装着する直接的な目的」に修正し、汚染防護服と放射線防護服の違いを演習で指導すること等が考えられる。また選択肢を「A. 放射線による外部被ばく」、「B. 放射線による内部被ばく」、「C. 放射性物質による身体汚染」とするなど、語句を補うことについても検討の余地がある。

- ・ 設問 19「表面汚染密度の測定には、(正解：B.GM 計数管式)サーベイメータが適している。」について

本設問の令和 4 年度の正答率は 91.1%、令和 5 年度は 86.2%であったため、漸次正答率が微減している。用語の理解が不足していると考えられるため、空間放射線量率と表面汚染密度の違いについても、より一層丁寧に指導していく必要がある。

3.2.2 モニタリング技術に関する基礎的な講座アンケート

(1) 設問

モニタリング技術に関する基礎的な講座のアンケートは、受講者に対するもの、講師に対するもの、e ラーニングにおいて実施したものがある。受講者に対するアンケートについては、忌憚の無い意見をいただくため無記名とし、質問に対する回答を希望する方については記名とした。

以下にそれらの設問内容を示し、使用したアンケート用紙を付録 4 に示す。

【受講者アンケート設問】

i) 受講者の基本情報

- ・ 所属
- ・ 年齢
- ・ 原子力防災・放射線関連業務経験年数
- ・ 原子力災害発生時の役割
- ・ 原子力防災関連研修、訓練への参加経験
- ・ 受講プログラム

ii) 講座のプログラム構成や受講の手ごたえ等に関する所感

- ・ 本講座の満足度
- ・ 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになったか
- ・ 本講座は、自身の知識やスキルの向上に役立つ内容だったか
- ・ 講義に e ラーニングを導入したことについての意見
- ・ e ラーニングは本講座の理解を深めるのに役立ったか
- ・ e ラーニングで拡充してほしいコンテンツ
- ・ テキスト・副読本電子化に対する所感

iii) 実習・演習について（実習 1～4、演習）

- ① 時間配分
- ② 配付資料
- ③ 指導方法
- ④ 理解度
- ⑤ 満足度

iv) 講座全般に関する意見・要望

v) 講座の内容や緊急時モニタリング活動に関する質問

【講師アンケート設問】

- i) 各プログラムに関する評価（実習 1～4、演習）
 - ① 進め方、説明の仕方
 - ② 受講者の理解度・反応
 - ③ スライド等の教材
 - ④ 時間の長さ
- ii) 指導ポイントや講師全体が共有しておくべき事項、受講者からの質問
- iii) その他の気づき点

【e ラーニングアンケート設問】

- i) 受講者の基本情報
 - ・ 所属
 - ・ 年齢
 - ・ 経験年数
 - ・ 原子力災害時に緊急時モニタリング要員として活動するか
 - ・ これまでの原子力防災関連研修・原子力防災訓練への参加経験
- ii) 講義について
 - ① 時間配分
 - ② 講師の教え方
 - ③ あなたの理解度
 - ④ あなたの満足度
 - ⑤ 見やすさ
 - ⑥ 聞きやすさ
- iii) 操作性
- iv) 受講場所
- v) デバイス

（2）集計

それぞれのアンケートの集計について、開催ごとに取りまとめた結果を付録 5 に示す。

（3）分析結果

各開催の集計は付録 5 に示したとおりであるが、モニタリング技術に関する基礎的な講座の受講者アンケートの全回答について集計・分析した結果を以下に示す。回答数については共同開催等によりアンケート様式の異なるものを除いて 309 件であった。分析に当たっては、全ての回答を項目ごとに集計するとともに、クロス分析として「原子力災害時に緊急時モニタリング要員として活動できるか」どうかについての分析を行った。

i) 受講者の基本情報

・ 所属

所属	回答者数	割合
原子力・環境監視センター等※	41	13.3%
道府県庁（※を除く）	144	46.6%
市町村	52	16.8%
消防・警察関係	35	11.3%
その他	37	12.0%
未回答	0	0.0%
計	309	100.0%

・ 年齢

年齢	回答者数	割合
～30 歳	111	35.9%
31～40 歳	94	30.4%
41～50 歳	50	16.2%
51 歳～	52	16.8%
未回答	2	0.6%
計	309	100.0%

・ 原子力防災・放射線関連業務経験年数

経験年数	回答者数	割合
1 年未満	202	65.4%
1 年以上～3 年未満	44	14.2%
3 年以上～5 年未満	26	8.4%
5 年以上	34	11.0%
未回答	3	1.0%
計	309	100.0%

・ 原子力災害発生時の役割

災害時の役割	回答者数	割合
EMC 要員	166	53.7%
その他	84	27.2%
わからない	52	16.8%
未回答	7	2.3%

災害時の役割	回答者数	割合
計	309	100.0%

- ・ 原子力防災関連研修、訓練への参加経験

研修参加経験	回答者数	割合	訓練参加経験	回答者数	割合
あり	177	57.3%	あり	140	45.3%
なし	127	41.1%	なし	157	50.8%
未回答	5	1.6%	未回答	12	3.9%
計	309	100.0%	計	309	100.0%

ii) 本講座のプログラム構成や受講の手ごたえなどについての所感

- ・ 本講座の満足度

回答	回答者数	割合
満足度 5	137	44.3%
満足度 4	122	39.5%
満足度 3	47	15.2%
満足度 2	1	0.3%
満足度 1	0	0.0%
未回答	2	0.6%
計	309	100.0%

- ・ 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになったか。

回答	回答者数	割合
対応できる	53	17.2%
フォローがあれば対応できる	241	78.0%
あまり対応できない	12	3.9%
対応できない	1	0.3%
未回答	2	0.6%
計	309	100.0%

- ・ 本講座は、自分の知識やスキルの向上に役立つ内容だったか。

回答	回答者数	割合
十分に役に立つ	141	45.6%
役に立つ	166	53.7%
あまり役に立たない	2	0.6%
役に立たない	0	0.0%

回答	回答者数	割合
未回答	0	0.0%
計	309	100.0%

- ・ e ラーニングの導入についての意見

回答	回答者数	割合
講義は e ラーニングでよい	167	54.0%
講義も集合研修で実施してほしい	65	21.0%
どちらでもよい	75	24.3%
未回答	2	0.6%
計	309	100.0%

- ・ e ラーニングは本講座の理解を深めるのに役立ったか。

回答	回答者数	割合
非常に役に立った	81	26.2%
役立った	210	68.0%
あまり役に立たなかった	12	3.9%
役立たなかった	2	0.6%
未回答	4	1.3%
計	309	100.0%

- ・ e ラーニングで拡充してほしいコンテンツ（複数回答可）

回答	回答者数	割合
資機材取扱い	103	26.8%
空間放射線量の測定	50	13.0%
環境試料採取	41	10.7%
資機材養生	33	8.6%
放射線防護	48	12.5%
緊急時モニタリング体験談	98	25.5%
その他	11	2.9%
計	384	100.0%

- ・ テキスト・副読本電子化に対する所感

テキスト	回答者数	割合	副読本	回答者数	割合
e ラーニング でよい※	89	28.8%	e ラーニング でよい※	93	30.1%

テキスト	回答者数	割合	副読本	回答者数	割合
紙で配付してほしい	108	35.0%	紙で配付してほしい	94	30.4%
どちらでもよい	98	31.7%	どちらでもよい	106	34.3%
未回答	14	4.5%	未回答	16	5.2%
計	309	100.0%	計	309	100.0%

※e ラーニングから電子ファイルをダウンロードでよい

iii) 各プログラムについての評価

・ 実習 1 放射線の性質確認

実習 1	時間配分	
	回答者数	割合
適切	273	91.3%
短い	14	4.7%
長い	4	1.3%
未回答	8	2.7%
計	299	100.0%

実習 1	配付資料		指導方法		理解度		満足度	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
大変良い	158	52.8%	168	56.2%	142	47.5%	148	49.5%
良い	135	45.2%	120	40.1%	147	49.2%	142	47.5%
不満	0	0.0%	3	1.0%	2	0.7%	1	0.3%
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
未回答	6	2.0%	8	2.7%	8	2.7%	8	2.7%
計	299	100.0%	299	100.0%	299	100.0%	299	100.0%

・ 実習 2 緊急時モニタリング資機材の取扱い

実習 2	時間配分	
	回答者数	割合
適切	235	91.1%
短い	14	5.4%
長い	2	0.8%
未回答	7	2.7%
計	258	100.0%

実習 2	配付資料		指導方法		理解度		満足度	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
大変良い	138	53.5%	151	58.5%	131	50.8%	133	51.6%
良い	110	42.6%	96	37.2%	118	45.7%	115	44.6%
不満	4	1.6%	4	1.6%	2	0.8%	3	1.2%
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
未回答	6	2.3%	7	2.7%	7	2.7%	7	2.7%
計	258	100.0%	258	100.0%	258	100.0%	258	100.0%

・ 実習 3 空間放射線量率の測定

実習 3	時間配分	
	回答者数	割合
適切	267	93.7%
短い	11	3.9%
長い	2	0.7%
未回答	5	1.8%
計	285	100.0%

実習 3	配付資料		指導方法		理解度		満足度	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
大変良い	165	57.9%	175	61.4%	159	55.8%	160	56.1%
良い	115	40.4%	104	36.5%	119	41.8%	117	41.1%
不満	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	2	0.7%
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
未回答	5	1.8%	6	2.1%	6	2.1%	6	2.1%
計	285	100.0%	285	100.0%	285	100.0%	285	100.0%

・ 実習 4 環境試料の採取

実習 4	時間配分	
	回答者数	割合
適切	246	90.4%
短い	13	4.8%
長い	2	0.7%
未回答	11	4.0%
計	272	100.0%

実習 4	配付資料		指導方法		理解度		満足度	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
大変良い	143	52.6%	152	55.9%	138	50.7%	144	52.9%
良い	116	42.6%	104	38.2%	120	44.1%	114	41.9%
不満	2	0.7%	4	1.5%	2	0.7%	2	0.7%
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
未回答	11	4.0%	12	4.4%	12	4.4%	12	4.4%
計	272	100.0%	272	100.0%	272	100.0%	272	100.0%

・ 演習 緊急時モニタリング活動

演習	時間配分	
	回答者数	割合
適切	255	86.4%
短い	22	7.5%
長い	8	2.7%
未回答	10	3.4%
計	295	100.0%

演習	配付資料		指導方法		理解度		満足度	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
大変良い	164	55.6%	176	59.7%	163	55.3%	168	56.9%
良い	119	40.3%	106	35.9%	119	40.3%	114	38.6%
不満	2	0.7%	2	0.7%	2	0.7%	2	0.7%
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
未回答	10	3.4%	11	3.7%	11	3.7%	11	3.7%
計	295	100.0%	295	100.0%	295	100.0%	295	100.0%

実習 1～4、演習の全体集計を通しての分析は以下のとおり。

- ・ 時間配分については、「適切」という回答がすべての実習で 9 割以上であったが、演習のみ 86.4%であり、「短い」という回答が 22 件、「長い」が 8 件あった。演習の時間配分を「適切」とする割合が実習に比べて低いことは、昨年度からの課題である。
- ・ 配付資料、指導方法、理解度、満足度については、昨年度及び一昨年度に引き続き、各実習・演習とも、「大変良い」と「良い」の合計の割合が 9 割を超えており、概ね良い評価を得られている。
- ・ 「不満」の割合が 1%を超えたのは下記の項目であった。

実習 1：指導方法（1.0%）

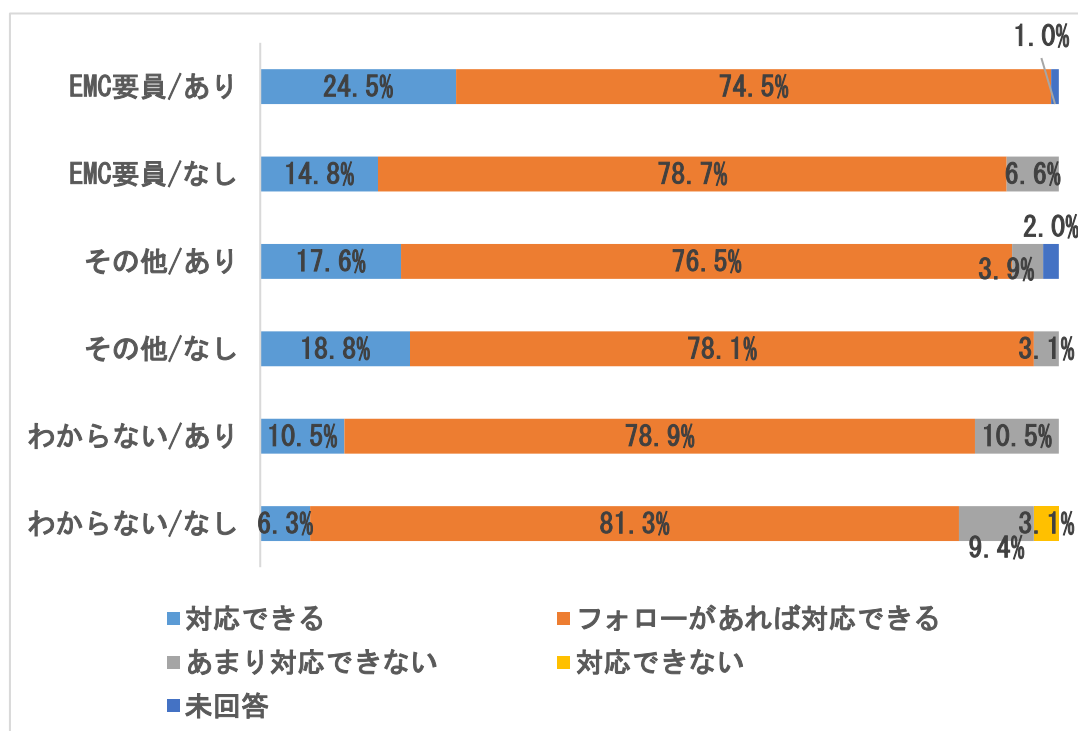
実習 2：配付資料（1.6%）、指導方法（1.6%）、満足度（1.2%）

- ・ 演習配付資料と指導方法について、昨年度は「不満」の割合がそれぞれ 1.2%と 1.6%であったが、本年度ともに 0.7%であったため、改善が見られた。
- ・ 各実習・演習において、「とても不満」との回答はなかった。

iv) 研修・訓練参加経験による、招集時に対応できるか、知識・スキルの向上に役立つかの分析

- ・ 研修参加経験の有無による、本講座を受講後、緊急時モニタリング要員として招集された際に、対応できるかの比較

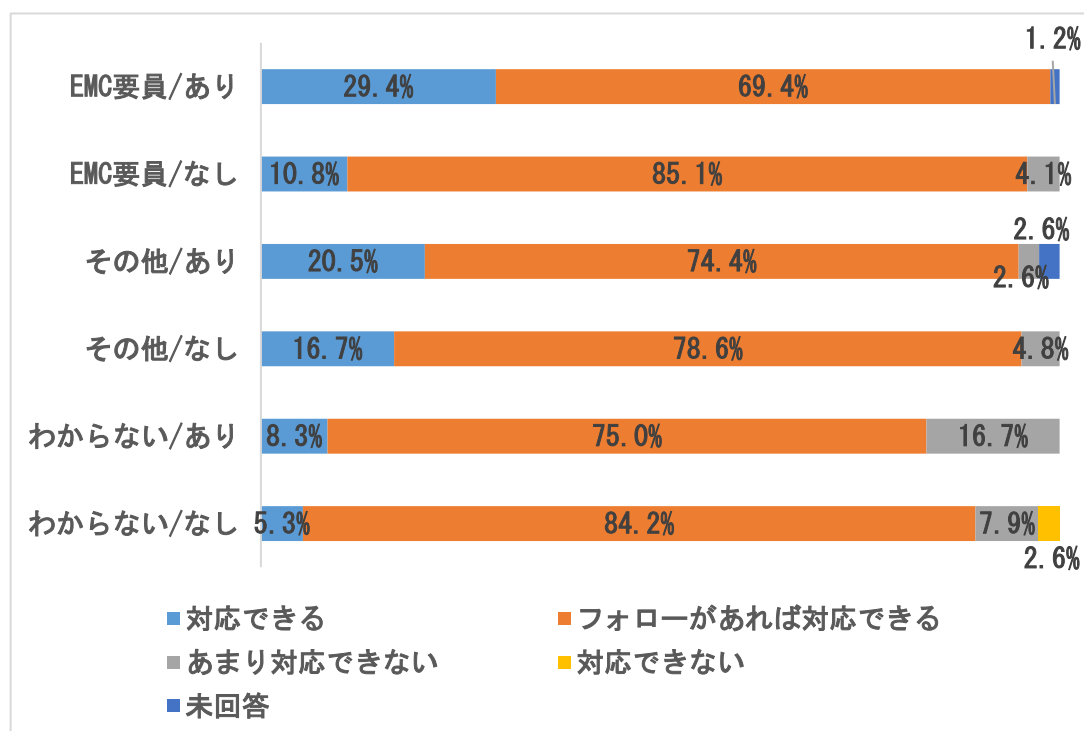
活動内容/ 研修参加経験	対応できる		フォローがあれば対応できる		あまり対応できない		対応できない		未回答		総計
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数
EMC 要員/ あり	25	24.5%	76	74.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	102
EMC 要員/ なし	9	14.8%	48	78.7%	4	6.6%	0	0.0%	0	0.0%	61
その他/ あり	9	17.6%	39	76.5%	2	3.9%	0	0.0%	1	2.0%	51
その他/ なし	6	18.8%	25	78.1%	1	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	32
わからない/ あり	2	10.5%	15	78.9%	2	10.5%	0	0.0%	0	0.0%	19
わからない/ なし	2	6.3%	26	81.3%	3	9.4%	1	3.1%	0	0.0%	32
総計	53	-	229	-	12	-	1	-	2	-	297



EMC 要員でありかつ研修参加経験のある受講者の 99.0%が、「本訓練を受講後、モニタリング要員として対応できるか」との質問に対し、「対応できる」または「フォローがあれば対応できる」と回答した（残り 1.0%は未回答）。研修の経験が EMC 要員の自信を向上させていることが伺える。

- ・ 訓練参加経験の有無による、本講座を受講後、緊急時モニタリング要員として招集された際に、対応できるかの比較

活動内容/ 訓練参加経験	対応できる		フォローがあれば対応できる		あまり対応できない		対応できない		未回答		総計
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数
EMC 要員/ あり	25	29.4%	59	69.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.2%	85
EMC 要員/ なし	8	10.8%	63	85.1%	3	4.1%	0	0.0%	0	0.0%	74
その他/ あり	8	20.5%	29	74.4%	1	2.6%	0	0.0%	1	2.6%	39
その他/ なし	7	16.7%	33	78.6%	2	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	42
わからない/ あり	1	8.3%	9	75.0%	2	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	12
わからない/ なし	2	5.3%	32	84.2%	3	7.9%	1	2.6%	0	0.0%	38
総計	51	-	225	-	11	-	1	-	2	-	290



EMC 要員でありかつ訓練参加経験のある受講者の 98.8%が、「本訓練を受講後、モニタリング要員として対応できるか」との質問に対し、「対応できる」または「フォローがあれば対応できる」と回答した（残り 1.2%は未回答）。訓練の経験も EMC 要員の自信を向上させていることが伺える。

3.2.3 EMC 活動訓練アンケート

(1) 設問

EMC 活動訓練のアンケートは、受講者に対するもの、e ラーニングにおいて実施したものがある。受講者に対するアンケートについては、忌憚の無い意見をいただくため無記名とし、質問に対する回答を希望する方については記名とした。

以下にそれらの設問内容を示し、使用したアンケート用紙を付録 4 に示す。

【受講者アンケート設問】

i) 受講者の基本情報

- ・ 所属
- ・ 所属部署の属性
- ・ 年齢
- ・ 原子力防災・放射線関連業務経験年数
- ・ 原子力防災関連研修、原子力防災訓練への参加経験
- ・ EMC 活動訓練参加回数
- ・ 机上訓練での役割

ii) 訓練のプログラム構成や受講の手ごたえ等に関する所感

- ・ 本訓練の満足度
- ・ 本訓練を受講して EMC 活動に対応できるようになったか

- ・ 本訓練は、自身の知識やスキルの向上に役立つ内容だったか
- ・ 実践演習（オンライングループワーク）は、本訓練の理解を深めるのに役立ったか

iii) 各プログラムについて（操作実習、ステップ 1～3）

- ① 時間配分
- ② 配付資料
- ③ 指導方法
- ④ 理解度
- ⑤ 満足度

iv) e ラーニングについて

- ・ e ラーニングで拡充してほしいコンテンツ
- ・ e ラーニングは本訓練の理解を深めるのに役立ったか

v) 実践演習について

- ・ どの実践演習を受講したか
- ・ 実践演習は本訓練の理解を深めるのに役立ったか

vi) 訓練に対する意見・要望

vii) 訓練の内容や EMC 活動に関する質問

【e ラーニングアンケート設問】

i) 受講者の基本情報

- ・ 所属
- ・ 年齢
- ・ 経験年数
- ・ 原子力災害時に緊急時モニタリング要員として活動するか
- ・ これまでの原子力防災関連研修・原子力防災訓練への参加経験

ii) 講義について

- ① 時間配分
- ② 講師の教え方
- ③ あなたの理解度
- ④ あなたの満足度
- ⑤ 見やすさ
- ⑥ 聞きやすさ

iii) 操作性

iv) 受講場所

v) デバイス

（２）集計

それぞれのアンケートの集計について、開催ごとにとりまとめた結果を付録 5 に示す。

(3) 分析結果

各開催の集計は付録 5 に示したとおりであるが、EMC 活動訓練受講者アンケートの全回答について集計・分析した結果を以下に示す。回答数については 329 件であった。分析に当たっては、全ての回答を項目ごとに集計するとともに、クロス分析として「EMC 活動に対応できるようになったか」どうかについての分析を行った。

i) 受講者の基本情報

・ 所属

所属	回答者数	割合
原子力・環境監視センター等※	103	32.7%
道府県庁（※を除く）	93	29.5%
市町村	12	3.8%
指定公共機関	9	2.9%
原子力事業者	45	14.3%
原子力規制庁	48	15.2%
その他	4	1.3%
未回答	1	0.3%
計	315	100.0%

・ 所属部署の属性

所属部署の属性	回答者数	割合
環境放射線モニタリング担当部署	198	62.9%
原子力防災関連部署	29	9.2%
その他	81	25.7%
未回答	7	2.2%
計	315	100.0%

・ 年齢

年齢	回答者数	割合
～30 歳	80	25.4%
31～40 歳	83	26.3%
41～50 歳	58	18.4%
51 歳～	94	29.8%
未回答	0	0.0%
計	315	100.0%

・ 経験年数

経験年数	回答者数	割合
1 年未満	75	23.8%
1 年以上～3 年未満	74	23.5%
3 年以上～5 年未満	42	13.3%
5 年以上	121	38.4%
未回答	3	1.0%
計	315	100.0%

・ 研修、訓練への参加経験はあるか

研修経験	回答者数	割合	訓練経験	回答者数	割合
あり	267	84.8%	あり	206	65.4%
なし	40	12.7%	なし	99	31.4%
未回答	8	2.5%	未回答	10	3.2%
計	315	100.0%	計	315	100.0%

・ EMC 活動訓練参加回数

回答	回答者数	割合
0 回（初めて）	120	38.1%
1 回	38	12.1%
2 回	45	14.3%
3 回	36	11.4%
4～5 回	29	9.2%
6～9 回	23	7.3%
10 回以上	22	7.0%
未回答	2	0.6%
計	315	100.0%

・ EMC 活動訓練参加回数（原子力規制庁除く）

回答	回答者数	割合
0 回（初めて）	110	41.2%
1 回	36	13.5%
2 回	42	15.7%
3 回	31	11.6%
4～5 回	24	9.0%
6～9 回	19	7.1%

回答	回答者数	割合
10 回以上	3	1.1%
未回答	2	0.7%
計	267	100.0%

- ・ EMC 活動訓練参加回数（原子力規制庁）

回答	回答者数	割合
0 回（初めて）	10	20.8%
1 回	2	4.2%
2 回	3	6.3%
3 回	5	10.4%
4～5 回	5	10.4%
6～9 回	4	8.3%
10 回以上	19	39.6%
未回答	0	0.0%
計	48	100.0%

- ・ 机上訓練での役割

机上訓練での役割	回答者数	割合
センター長	11	3.5%
センター長代理	5	1.6%
企画調整 Gr	89	28.3%
情報収集管理 Gr	95	30.2%
測定分析担当（道府県）	94	29.8%
測定分析担当（UPZ 外）	14	4.4%
その他	3	1.0%
未回答	4	1.3%
計	315	100.0%

- ii) 本訓練のプログラム構成や受講の手ごたえなどについての所感

- ・ 本訓練の満足度

回答	回答者数	割合
満足度 5	76	24.1%
満足度 4	158	50.2%
満足度 3	72	22.9%

回答	回答者数	割合
満足度 2	6	1.9%
満足度 1	1	0.3%
未回答	2	0.6%
計	315	100.0%

- ・ 本訓練を受講したことで EMC 活動に対応できるようになったか。

回答	回答者数	割合
対応できる	111	35.2%
フォローがあれば対応できる	188	59.7%
あまり対応できない	14	4.4%
対応できない	1	0.3%
未回答	1	0.3%
計	315	100.0%

- ・ 本訓練は、自分の知識やスキルの向上に役立つ内容だったか。

回答	回答者数	割合
十分に役に立つ	135	42.9%
役に立つ	175	55.6%
あまり役立たない	4	1.3%
役立たない	0	0.0%
未回答	1	0.3%
計	315	100.0%

iii) 各プログラムについての評価

- ・ 操作実習 1 EMC 設置機器 (PC 等)、RAMIS の操作方法

操作実習 1	時間配分	
	回答者数	割合
適切	229	80.4%
短い	36	12.6%
長い	6	2.1%
未回答	14	4.9%
計	285	100.0%

操作実習 1	配付資料		指導方法		理解度		満足度	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
大変良い	90	31.6%	94	33.0%	91	31.9%	94	33.0%
良い	171	60.0%	167	58.6%	166	58.2%	165	57.9%
不満	10	3.5%	8	2.8%	13	4.6%	11	3.9%
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	1	0.4%
未回答	14	4.9%	16	5.6%	14	4.9%	14	4.9%
計	285	100.0%	285	100.0%	285	100.0%	285	100.0%

- ・ 操作実習 2 クロノロジーシステムの操作方法、EMC 情報の流れ

操作実習 2	時間配分	
	回答者数	割合
適切	209	80.4%
短い	32	12.3%
長い	7	2.7%
未回答	12	4.6%
計	260	100.0%

操作実習 2	配付資料		指導方法		理解度		満足度	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
大変良い	84	32.3%	86	33.1%	74	28.5%	80	30.8%
良い	148	56.9%	150	57.7%	159	61.2%	151	58.1%
不満	14	5.4%	9	3.5%	13	5.0%	14	5.4%
とても不満	1	0.4%	1	0.4%	1	0.4%	1	0.4%
未回答	13	5.0%	14	5.4%	13	5.0%	14	5.4%
計	260	100.0%	260	100.0%	260	100.0%	260	100.0%

・ 訓練 ステップ 1

ステップ 1	時間配分	
	回答者数	割合
適切	222	85.4%
短い	27	10.4%
長い	4	1.5%
未回答	7	2.7%
計	260	100.0%

ステップ 1	配付資料		指導方法		理解度		満足度	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
大変良い	79	30.4%	90	34.6%	76	29.2%	84	32.3%
良い	167	64.2%	155	59.6%	165	63.5%	158	60.8%
不満	6	2.3%	6	2.3%	12	4.6%	10	3.8%
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
未回答	8	3.1%	9	3.5%	7	2.7%	8	3.1%
計	260	100.0%	260	100.0%	260	100.0%	260	100.0%

・ 訓練 ステップ 2

ステップ 2	時間配分	
	回答者数	割合
適切	237	84.9%
短い	31	11.1%
長い	5	1.8%
未回答	6	2.2%
計	279	100.0%

ステップ 2	配付資料		指導方法		理解度		満足度	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
大変良い	88	31.5%	97	34.8%	83	29.7%	97	34.8%
良い	178	63.8%	169	60.6%	181	64.9%	168	60.2%
不満	4	1.4%	6	2.2%	8	2.9%	7	2.5%
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
未回答	9	3.2%	7	2.5%	7	2.5%	7	2.5%
計	279	100.0%	279	100.0%	279	100.0%	279	100.0%

・ 訓練 ステップ 3

ステップ 3	時間配分	
	回答者数	割合
適切	221	79.2%
短い	26	9.3%
長い	22	7.9%
未回答	10	3.6%
計	279	100.0%

ステップ 3	配付資料		指導方法		理解度		満足度	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合
大変良い	90	32.3%	93	33.3%	83	29.7%	91	32.6%
良い	173	62.0%	169	60.6%	178	63.8%	172	61.6%
不満	6	2.2%	7	2.5%	8	2.9%	6	2.2%
とても不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
未回答	10	3.6%	10	3.6%	10	3.6%	10	3.6%
計	279	100.0%	279	100.0%	279	100.0%	279	100.0%

EMC の全体集計を通しての分析は以下のとおり。

- ・ 講義、操作実習 1 及び訓練ステップ 1～3 においては、「大変良い」と「良い」の割合の合計が 9 割以上であり、高い評価を得られた。
- ・ 操作実習 1 の「指導方法」と「満足度」については、昨年度と比べ改善が見られた。（「指導方法」88.6%→91.6%、「満足度」89.7%→90.9%）
- ・ 操作実習 2 の「配付資料」（89.2%）、理解度（89.7%）、満足度（88.9%）については 90%を下回った。「EMC 運営における情報の流れをもう少し丁寧に説明して欲しかった。情報伝達の流れを理解していないと混乱すると思う」「EMC 情報の流れは、シート・パウチ化されると実際の活動に使いやすくて良い」との感想があった。
- ・ 本年度はステップ 2 の「配付資料」「指導方法」「満足度」について、「大変良い」と「良い」の割合の合計が 95%以上に上り、高い満足度が得られた。
- ・ 講義、操作実習及び訓練ステップ 1～3 の「時間配分」について、ステップ 3 のみ「適切」とする回答が 80%を下回り、79.2%であった。「長い」とする回答が比較的多かったため、習熟度の高い地域では、ステップ 3 に妥当性確認を取り入れることなどが考えられる。

iv) e ラーニングについて

- ・ e ラーニングで拡充してほしいコンテンツ（複数回答可）

回答	回答者数	割合
EMC 活動の基本（各班別）	141	47.8%
クロノロジーシステムの操作	52	17.6%
RAMIS の操作	60	20.3%
設置機器（PC 等）の操作	23	7.8%
その他	19	6.4%
計	295	100.0%

- ・ e ラーニングは本訓練の理解を深めるのに役立ったか。

回答	回答者数	割合
非常に役に立った	46	28.2%
役立った	110	67.5%
あまり役立たなかった	6	3.7%
役立たなかった	1	0.6%
計	163	100.0%

iv) 実践演習について

- ・ どの実践演習を受講したか。

回答	回答者数	割合
指示書作成講座	16	38.1%
企画コース	18	42.9%
実施コース	8	19.0%
計	42	100.0%

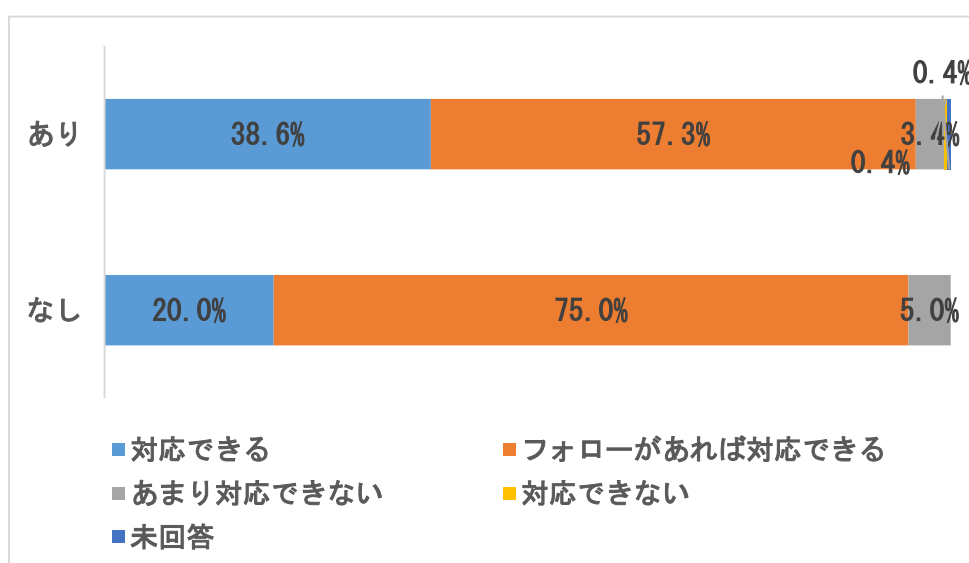
- ・ 実践演習（オンライングループワーク）は、本訓練の理解を深めるのに役立ったか。

回答	回答者数	割合
非常に役に立った	12	32.4%
役立った	24	64.9%
あまり役立たなかった	0	0.0%
役立たなかった	1	2.7%
計	37	100.0%

iv) 研修・訓練参加経験による、EMC 活動に対応できるか、知識・スキルの向上に役立つかの分析

- ・ 研修参加経験の有無による、本訓練を受講後、EMC 活動に対応できるかの比較

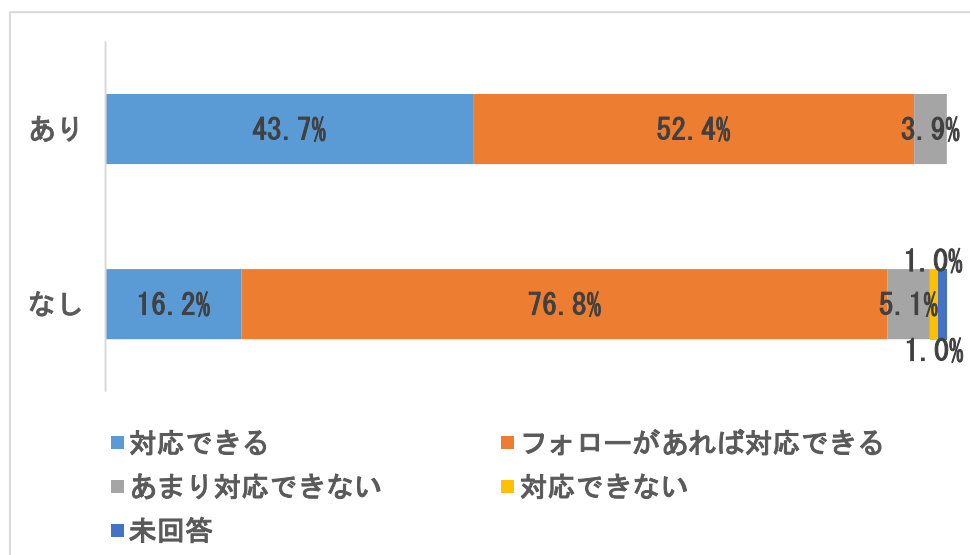
研修参加経験	十分できる		フォローがあれば対応できる		あまり対応できない		対応できない		未回答		総計
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数
あり	103	38.6%	153	57.3%	9	3.4%	1	0.4%	1	0.4%	267
なし	8	20.0%	30	75.0%	2	5.0%	0	0.0%	0	0.0%	40
未回答	0	0.0%	5	62.5%	3	37.5%	0	0.0%	0	0.0%	8
総計	111	-	188	-	14	-	1	-	1	-	315



EMC 活動に対応できるかどうかについては、類似研修の参加経験がある受講者の方が「対応できる」「フォローがあれば対応できる」とした割合が高い。

- ・ 訓練参加経験の有無による、本訓練を受講後、EMC 活動に対応できるかの比較

訓練参加経験	対応できる		フォローがあれば対応できる		あまり対応できない		対応できない		未回答		総計
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数
あり	90	43.7%	108	52.4%	8	3.9%	0	0.0%	0	0.0%	206
なし	16	16.2%	76	76.8%	5	5.1%	1	1.0%	1	1.0%	99
未回答	5	50.0%	4	40.0%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	10
総計	111	-	188	-	14	-	1	-	1	-	315



訓練経験のある受講者となない受講者の間で、「対応できる」の割合の合計は前者の方が多く、2 倍以上の差がついた。

3.2.4 EMC 活動訓練評価表

EMC 活動訓練開催時には、緊急時モニタリング要員育成事業検討委員会の委員より評価者を 2 名派遣し、訓練の評価を実施した。

(1) 評価項目

- ・ 良好な事項または改善すべき事項（ステップ 1～3）
- ・ 助長策または今後の対策（ステップ 1～3）
- ・ 各カリキュラムに対する評価
 - EMC の活動に必要な知識の習得
 - EMC 活動を通しての役割及び指揮系統や情報共有
- ・ シナリオの多様化・難度に対する評価
- ・ 訓練方法について改善するとよいと思われる事項
- ・ 良好事例として他地域に共有すべき事項
- ・ その他気付き事項

(2) 評価結果

各地域で実施された訓練に対する、評価者による評価結果は、別表のとおり。

訓練目標項目		道府県A		道府県B		道府県C		道府県D		道府県E		道府県F		道府県G		道府県H		道府県I		道府県J		道府県K		道府県L		道府県M		
		評価員 F	評価員 G	評価員 C	評価員 L	評価員 A	評価員 B	評価員 G	評価員 M	評価員 D	評価員 H	評価員 I	評価員 D	評価員 I	評価員 J	評価員 K	評価員 C	評価員 I	評価員 E	評価員 J	評価員 E	評価員 I	評価員 A	評価員 G	評価員 F	評価員 L	評価員 B	評価員 J
		1	2	2	1	1	2	2	3	3					1	3	1	1	2	2	3	2	2	2	2	1	2	1
(1) EMCの知識の習得に必要な活動	机上訓練ステップ1	1	2	2	1	1	2	2	2	3	3																	
	①EMC整備機器(電話、ビデオ会議等)操作の習得	1	1	2	1	1	1	2	2	2	2	3	3															
	机上訓練ステップ3	1	1	2	1	1	1	2	2	2	2	2	3	3														
	机上訓練ステップ1	1	2	2	1	2	1	2	2	3	2																	
	②NISS、RAMIS、情報共有フォルダの作業手順の習得	1	1	2	1	1	1	2	2	2	1	3	2	2														
	机上訓練ステップ3	1	1	2	1	1	1	2	2	1	1	2	2	2														
(2) EMC指示系統や通達を共有する役割及び	机上訓練ステップ1	1	2	2	1	2	1	2	1	4	2																	
	①グループ・担当の役割及び活動内容について	2	2	2	1	2	1	2	1	2	1	3	3	1	1	2	1	2	1	2	2	1	1	2	1	1	1	
	机上訓練ステップ3	2	1	2	1	1	1	2	1	1	1	2	3	1	1	2	1	2	1	2	1	1	2	1	1	1	1	
	机上訓練ステップ1	1	2	2	1	2	2	2	2	3	2																	
	③緊急時モニタリング実施に係る作業について	2	2	2	1	1	1	2	2	2	1	3	4	1	1	2	1	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	
	机上訓練ステップ3	2	1	2	1	1	1	2	2	1	2	3	4	1	1	2	2	2	2	2	2	1	1	2	1	1	2	
緊急時モニタリング実施に必要な情報の収集や情報共有について	机上訓練ステップ1	1	2	2	1	3	2	2	3	3	2																	
	机上訓練ステップ2	2	2	2	1	2	1	2	3	2	1	4	4	2	1	2	1	3	2	2	2	2	1	1	1	1	2	
	机上訓練ステップ3	2	1	2	1	1	1	2	3	1	1	2	4	2	1	2	2	2	1	2	2	2	1	2	1	1	3	
	シナリオの多様化	A	A	B	B	C	C	A	A	B	B	C	C	A	C	C	B	B	A	A	B	A	A	B	A	B	A	A
シナリオの難度		B	B	B	B	C	C	B	B	B	C	C	C	A	C	C	B	B	B	A	A	B	A	B	A	A	A	A

1:十分達成できている 2:概ね達成できている 3:ある程度達成できている 4:あまり達成できていない 5:ほとんど達成できていない
A:全体的に多様なシナリオに取り組んでいた、難度が高いシナリオに取り組んでいた 一部においてシナリオの多様化に取り組んでいた 適度なシナリオであった C:平易なシナリオであった

なお、良好な事項や改善すべき事項について、評価者より重要度「高」に評価された項目を以下に示す。

No.	○良好な事項 ●改善すべき事項	○助長策 ●今後の対策	要因分析
1.	●実施計画第 4 版注意事項として、赤字で要員の放射線防護について記載されているが、指示書の第 4-1 号では、その旨の記載はない。この場合の採水は室内の業務であるが、両者間の情報には齟齬がある。	●指示書に主語を明記する必要がある。様式 B を用いる場合、指示書の在り方について、要検討である。	計画
2.	●指示書の作成様式 B が用いられ、要員保護の記載に統一感がない。	●モニタリング、採水、採土など業務ごとに用意すべき事項を表としてまとめると良い。	計画、リソース
3.	●指示書の第 5-3 号について情報共有されなかった。	●UPZ 外に相当が理由であり、認識の相違であるが、ナンバリングされた内容は統一的に情報共有される必要がある。	個人能力、組織能力
4.	●実施計画第 5 版の実施項目内容について赤字記載されているが、全文が長くわかりにくい。	●箇条書きの方が情報伝達に有用と思われる。	計画
5.	○国要員が到着、プラント状況、モニタリングポスト欠測状況等を共有し、しっかり引き継ぎが行われていた。 可搬型ポスト設置の指示内容を共有し、センター長が、「設置に行けなかったらどうするか決めておいてください。」とダメだったときの代替案を事前に検討するよう明確に指示を出していた。	引き続きトップがしっかりと統括して適切な指示を出すことは重要であると思います。	組織能力

No.	○良好な事項 ●改善すべき事項	○助長策 ●今後の対策	要因分析
6.	○可搬型モニタリングポスト設置の指示に関して、「放出するかもしれないのに設置に行かせるのか」「風向きから考えて大丈夫ではないか」など現場要員のことを考えて議論していた。また、企画調整 G から測定分析担当に連絡し、「絶対に行けということではない。無理はしなくてよい。」とニュアンスを含めて伝えており、現場に寄り添った対応をしていた。	現場の状況を踏まえてみんなで議論することは重要であると思います。 また、指示する内容がどこまで必須かニュアンスを分かるように伝えることも重要であると思います。 いずれにしても現場で活動する要員の安全に配慮した指示内容とすることが最優先だと思っています。	組織能力
7.	○事故が進展し、その状況を入手すると、センター長がすぐ「夜中の 3 時に燃料が頭を出す予想となっています。」と大きな声で全体に共有していた。 それを受けてすぐみんなで、大気モニタ・ヨウ素サンプラをいつ動かすか議論していた。「夜中の 12 時に動かす?」「もっと早くから動かしていいんじゃない?」と夜中の作業にならないよう現実的な時間での作業となるように検討していた。	事故進展の重要なポイントをみんなで共有することは、その後の活動の検討に際し、共通した理解で負担が増加しないよう、危険性が高くないよう、様々な案を出し合えることにつながると思います。	組織能力

No.	○良好な事項 ●改善すべき事項	○助長策 ●今後の対策	要因分析
8.	ERC から、米子空港の屋内退避を回避したいということで、OIL2 を超えていないことを確認したいので、走行サーベ이를優先してほしいとの依頼が突発事項として入ってきた。 ○センター長が、実施計画に走行サーベ이의詳細を追加するよう国（コントローラー）に提言していた。どこからの指示かはっきりさせるためと全員に共有して意思統一していた。 ○測定分析担当には、計画が出るのを待つと時間がかかるため、走行サーベ이를開始するよう口頭で指示を出していた。	厳格に指示書を発出して活動することは基本ではあるが、突発事項、優先事項に対しては、速やかに対応し、指示書の発出を待つまでなく、臨機応変に、口頭指示で活動を開始することは適切であったと思います。	組織能力
9.	○指示書の記載内容について、合理的な方法を現場側から提案し、効率的になるように方法を協議しつつ修正して実施した点は良かった。	○測定分析担当への指示等は全体概要的な記載として、詳細部分については現場担当の判断にまかせるなど、現実的対応が取られ、TV 会議等で緊密に連携をとるなどの行動は非常に参考になると思う。	計画
10.	●他施設についても警戒事態になる難しいシナリオであるためか、RAMIS での空間線量率の監視で見落としや欠測に気付かない場面が見られた。	●まず、複数の事象発生が生じていることを監視役に認識させることが重要であり、担当役を増員するなどグループ長の確かな判断が望まれる。	組織能力
11.	○妥当性確認のためのチェックシートを作成し、情報収集・管理グループにおいて、データの確認を行った。	○データの妥当性確認について、新たな試みを検討し、チェックシートを活用した点は評価出来る。今後、課題等を検討して妥当性の確認手順等を整備すると良い。	計画

No.	○良好な事項 ●改善すべき事項	○助長策 ●今後の対策	要因分析
12.	●モニタリング実施計画第1版を受けて指示書を発出するまで時間を要した。第2版以降は、慣れもあり速やかに指示書が発出されていた。	●実際の災害発生時には、隣接県からの要員は、OFCへの参集は時間がかかることが想定される。その際の隣接県側への指示書を誰が発出するか決めておくことが必要かと考える。	組織能力 (指揮統制、連携等)
13.	○モニタリング実施計画第5版で様々なミッションが示されたが、その中で優先順位をつけ、その順番に従い、複数に分割して指示書が発出していた。	○指示書の文書番号が、道府県Lは実施計画と紐づけできるように枝番を採用していたが、隣接県は連番で採番していた。道府県Lのように枝番で採番した方がよいと思われる。	組織能力 (意思決定、指揮統制、連携等)
14.	●モニタリング実施計画で、モニタリング要員の放射線防護対策を実施するよう指示があったが、指示書ではそのことに触れられていなかった(指示書5-1以降は記載されていた)。	●モニタリング要員の健康被害に係ることであるので、文書で伝えるべきである。	組織能力 (指揮統制)
15.	○モニタリング実施計画の第5版で様々な事項について指示が出されていたが、その中で優先順位をつけ、その順番に従い、複数回に分けて指示書が発出していた。	○飲料水、土壌の測定、走行サーベイのうち、住民への影響が大きいものから順に指示を出すことは、住民が危険にさらされる恐れを低減させるため、非常に重要と考えられる。	組織能力 (情報管理、意思決定、指揮統制)
16.	●訓練開始後暫くは、NISS, RAMISの活用や電話の使用等は配布資料を参考にしながらの対応で、さらにGroup長の助言を得ながらの作業であった。	●15条事象の重大性を認識し、事前に機器の操作やRAMIS、NISSの基本的な操作に慣れておく必要がある。	個人能力

No.	○良好な事項 ●改善すべき事項	○助長策 ●今後の対策	要因分析
17.	●モニタリング実施計画4版は、Gr内での内容の確認作業が遅れ、15条発生（GE,SE対応）に対する緊張感がなく、必要な情報（プラント情報やモニタリングに必要な気象情報等の後方支援等）の確認がなされなかった。	●15条事象発生の重要性をEMC全体で把握し、何時でも放射線モニタリングを開始できる状態にあることを必要事項を確認し実施する必要がある。	組織能力
18.	●情報班長より発電所敷地境界の線量率の上昇が発せられ情報の共有が図られた。班員は講義テキストを参照しながらそれへの対応行動を確認していた。 また、線量率上昇のアナウンスがあったが、班員のなかにはRAMISやクロノロの使い方が不明なものもあり、情報Gr長は対応に追われていた。	●基本的には、放射性物質放出中の連絡方法や機器使用法についてはGr長の助言がなくても対応できるよう準備段階に時間をかけて習熟しておく必要がある。	個人能力
19.	●指示書の作成時に水のサンプリング計画でサンプリング場所、方法等で混乱が生じた。結局、県のモニタリング計画とその実施体制に未整備な事項があることが明らかとなった。	●サンプリングの実施に大きな困難を伴った。しかし、県のモニタリング計画で改善すべき点が明らかとなったことは訓練の趣旨に合致している。そう急に改善に取り組んでほしい。	組織能力
20.	●余震発生後のモニタリング実施に関して測定分析班とは異常のないことの確認を行ったが、道路状況の確認等実施に必要な情報の確認はなされなかった。その後、地震の影響なしの確認が取れた。	●余震の後にはモニタリングの実施環境の変化の可能性もあり要員の確保や道路状況の確認は必須である。EMC側から積極的に一連の情報確認をするのが原則である。	組織能力

No.	○良好な事項 ●改善すべき事項	○助長策 ●今後の対策	要因分析
21.	●実施計画第 5 版確定版を入手し、走行サーベイのルートを検討や土壌採取の分担決めなどの検討中に、新たに入った欠測地点の連絡などには注意が払われずそれに必要な対応の検討はなされなかった。	●指示書の作成に多くの人員が関わらざるを得なくなるが、欠測点の連絡に対する対応は、モニタリング指針の「実測に基づく防護対策の実施」の視点から対応を急ぐべき重要な課題との認識が必要である。	組織能力
22.	○測定分析担当の総括・連絡班の拠点の設営がスムーズに行われ、訓練開始直後から本部との連絡体制が確立していた。	○各自治体の状況にもよるが、EMC 活動訓練において、測定分析担当の拠点設営も訓練の一環として実施するようにしてはどうか。	計画
23.	●実施計画第 1 版に対する指示書に対して、可搬ポストに対する代替測定についての記述はあったが、走行サーベイとヨウ素サンプル等の準備についての記述が漏れており、ERC との情報共有に齟齬があった。	●指示書を出す段階で実施計画と指示書を見比べて内容に漏れがないか確認するなどの手順が必要かと思う。 ●ホワイトボードに実施計画に書かれた事項と指示書の指示内容の対応表を作り、漏れがないか確認しても良い。	組織
24.	○ステップ 2-1 時点で、大気モニタの起動のタイミングについて、センター長、Gr 長、県担当者が集まり、議論しながら進めていく姿勢は良かった。	○放出予測が翌日の午前で時間も、ろ紙残量も 3 日程度であったため、この時点では「起動させない」との判断であったが、どのような条件が揃ったら起動させるのか意思統一できていれば、翌日のステップ 2-2 時点での判断もスムーズにできたと思う。	組織
25.	●実施計画第 3 版を受領した時点で、炉心損傷の情報を得ているので、大気モニタの起動のタイミングを決めかねるなら、最新の放出予想時刻が出ていないか情報を取りに行く姿勢が欲しかった。	●訓練開始前に行う説明の中で、自ら情報を取りに行く姿勢を意識付けしてもらった方が良いのではないか。	個人

No.	○良好な事項 ●改善すべき事項	○助長策 ●今後の対策	要因分析
26.	●指示書 3-1 で大気モニタの起動を測定分析担当に指示したが、実際に起動したかの確認が十分でなかった。	●指示書発出後に、指示内容が実行されたか確認することを習慣づける必要がある。 ●ホワイトボードへの記載についても「○時○分 指示書○号 発出」だけではなく、指示項目も記載するようにして、実施済かどうか管理するやり方をしてほしい。	組織
27.	●大気モニタの起動が放出時刻ギリギリとなっていた。	●放出開始までの残り時間に対する認識と、それまでに実施しておくべき事項について、EMC 内で十分共有しておく必要がある。 ●起動させることを決めてから、指示書作成までに時間がかかっているため、緊急の場合は先に電話で口頭指示するなどの対応を考えても良かった。	個人
28.	○放出情報があった時点で、測定分析担当に速やかに電話連絡し情報共有しており良かった。	○測定分析担当も NISS で確認できる情報だが、現地で活動する要員の被ばくに直結する情報は、急押しで電話連絡するなどの意識付けが重要である。	個人
29.	○Gr 長が Gr 員に対して、現在の状況や今後の事象の進展予測について解説し、これから必要になると予測される対応について Gr 員に説明していたが、初心者が多い環境下では効果的であった。	○Gr 長は規制庁の上席専門官が務めることとなるので、技量向上が重要である。	個人
30.	○情報監視グループの RAMIS 監視係が、モニタリング情報として大きな声で発話していた。	線量の急上昇などに即応するには監視係からの報告が重要であると感じる。全て発話する必要はないが、気象などを考慮して、今後監視の重点を見据えて線量の上昇傾向などを EMC 全体に伝えることが出来ると良いと感じた。	組織能力

No.	○良好な事項 ●改善すべき事項	○助長策 ●今後の対策	要因分析
31.	○最後は大きな声で情報共有できていて、みんなで相談して協議して決めていたので、非常に良くなっていったと思います。企画調整 G と測定分析担当ともテレビ会議を通してしっかりコミュニケーションを取って決めていたので良かったと思います。	○今後とも訓練を積み重ねて、一連の流れを理解し習熟度を向上させていくことが重要だと思います。	個人能力 組織能力
32.	●緊急時モニタリング実施計画第 2 版受領後に指示書 1 号がだされ、実施計画第 1 版との関係が不明で測定分析班との間に混乱が生じた。	●指示書 1 号がモニタリング実施計画 1 班と 2 版の合併版であることが明記されていなかったことや電話等による確認も行われなかったことに起因する。指示書は合併版を避け、実施計画の番号に合わせて作成し、追加がある場合は枝番号を付すことを徹底すべきである。	組織能力
33.	●放射性ヨウ素の試料採取と分析について測定分析班から問い合わせがあり検討が行われた。ここで放射性ヨウ素測定における大気の捕集時間と分析時間の理解の仕方に誤解が生じていたことが判明した。また、安定ヨウ素剤の服用のタイミング、効果の継続時間などの意見交換が行われた。	●ビデオ通話等で企画調整班と測定分析班の意思疎通をしっかりとる必要がある。また、ヨウ素剤の服用については曖昧な点があった場合、原子力規制庁の刊行物等を参照し根拠を明確にしながら対応すべきである。	組織能力
34.	○「(様式 15) 初動チェックリスト」に基づき、AL 時の初動対応が適切に行われ、関係先への電話連絡等も漏れや遅滞なく行われていた。	○「初動チェックリスト」だけではなく、「全面緊急事態発生時チェックリスト」や「放出時チェックリスト」など、事態進展の各段階でチェックリストを用意しておけば、対応漏れを防ぐのに効果的と思われる。	計画

No.	○良好な事項 ●改善すべき事項	○助長策 ●今後の対策	要因分析
35.	○施設敷地緊急事態発生時点において、道府県 J と隣接県との間で情報格差が生じないように、情報収集管理 G から各県用 1 部と原本管理用 1 部を印刷して企画調整 G に情報提供されており良かった。	○企画調整 G に隣接県の職員が入るが、企画調整 G に割り当てられた PC が 4 台しかなく、各県が 1 台ずつ使用できる環境とするには、PC が不足している。	組織能力
36.	○離島の欠測局への対応のため、ERC に対して、積極的に自衛隊等の出動要請や航空機モニタリングの実施などを働きかけており良かった。	○自衛隊の出動や航空機モニタリングは、すぐに実施できるものでもないので、いつまでも固執せず、現状で実施可能な対応に EMC の活動を集中させるマネジメントが必要と感じる。 ○EMC に対する国からの支援について、ERC 側にマニュアルの様なものがあるのならば、あらかじめ EMC 側に示すことで EMC も先の見通しも立てやすくなり、緊急時モニタリング対応に専念できるのではないかな。	組織能力
37.	●全面緊急事態となった時点でも、屋外活動を伴う可搬型ポストの設置を指示しているが、放出予想時刻がいつ頃なのか（屋外作業の時間的余裕があるか）について情報収集を行っていなかった。	●「全面緊急事態発生時チェックリスト」を作るなどして、確認事項等を明確にしておくのが良いのではないかな。	計画
38.	○可搬ポスト 1 台を隣接県に貸す対応が行われており、隣接県と連携しての緊急時モニタリングが実施されていた。	○規制庁保有でオフサイトセンタに配備している可搬ポストの貸し出しも選択肢としてあることを周知させてはどうか。	個人能力
39.	●放射性物質の放出情報について、テレビ会議で 3 県の測定分析担当に周知していたが、道府県 J 測定分析担当には十分伝わっていなかった。	●放出情報の周知について、「放出が始まった。」と事実のアナウンスだけしていたように見えた。屋外活動しているチームの撤収や屋内退避を指示するなど強い表現で伝達した方が良い。 ●EMC としての判断を明確に表すには、指示書を発出して屋外活動の禁止および撤収などを指示するくらいしても良かった。	組織能力

No.	○良好な事項 ●改善すべき事項	○助長策 ●今後の対策	要因分析
40.	○情報収集管理 G で RAMIS により大気モニタの数値の監視を継続しており、屋外活動の安全確認が行われていた。	○企画調整 G の判断に影響する情報なので、EMC 内に情報共有すべき情報として、「大気モニタの観測では放射性物質が浮遊している地域は見られない」と積極的に情報発信した方が良い。	組織能力
41.	●UPZ 内でプルームが無くなっているという情報が EMC 内で共有されておらず、企画調整 G は屋外活動をさせた後に、発電所からの放出が終了していることの確認をしていた。	●放出収束後に現地活動チームを出す際の判断基準や手順についてまとめたチェックリスト等があると良いのではないかな。	組織能力
42.	●走行サーベイのコース選定にあたり、OIL2 (20 μ Sv/h) の境界付近を重点的に実施すべきだが、東松浦半島東側のサーベイが不足していると感じた。	●企画調整 G 内での検討で、走行サーベイルートを決める際の論点を整理したマニュアル等があると良いのではないかな。	組織能力
43.	●道府県 J 側の県境付近は OIL2 (20 μ Sv/h) を十分下回る固定観測局の数値で、県境を挟んだ隣県側は OIL2 (20 μ Sv/h) 超過となっていたが、道府県 J が実施する走行サーベイでは県境付近のサーベイは行われなかった。	●隣接県と協力して、県境をまたいだ走行を行っても良いと思う。 (実態として、隣接県の走行サーベイが県境をまたいで実施されていたが、相互に協力してのものではなかった。)	組織能力

No.	○良好な事項 ●改善すべき事項	○助長策 ●今後の対策	要因分析
44.	●固定観測局の観測データで $75 \mu\text{Sv/h}$ を記録したエリアも走行サーベイさせる指示書が出ていたが、同エリアでの滞在時間（走行時間）などを考慮するなど、現地作業員の被ばく線量についての配慮がなかった。 ●道府県Jは走行サーベイチームを5チーム待機させていたが、1チームのみの出動となっており、被ばく線量の低減についての配慮が希薄に感じた	●OIL1 ($500 \mu\text{Sv/h}$) を超過したエリアを見つける目的以外では、OIL2 ($20 \mu\text{Sv/h}$) を大きく超えるエリアを走らせる必要もないので、走行サーベイを行う目的についての理解の浸透が必要ではないか。 ●放出収束後の走行サーベイや屋外作業について、現地作業員の被ばく線量の管理は重要であるとの認識をもってもらうことが必要ではないか。 ●走行サーベイチームが余っている状況なら、コースを複数チームで分割して滞在時間を減らし被ばく線量を低減する工夫があっても良い。	個人能力
45.	●実施計画第5版に対する指示書で、大気モニタとヨウ素サンプラ試料の回収・分析が漏れていた。	●実施計画が来た段階で、G長やセンター長から、検討すべき事項について項目を挙げて指示した方が良い。 ●指示書を発出する際に、G長やセンター長が、実施計画との対応を確認するようにすると良い。	組織能力
46.	○走行モニタリングの検討時には、地域の状況をよく把握している企画グループ員が主導して、スムーズな計画策定を行うことが出来た。	○過去に測定班員として活動していた人がいたため、道路等の被災状況と合わせて、走行モニタリング計画を迅速に作成できていた。今後は、グーグルマップ等経路図等をデジタルで作成・共有出来る手法の検討を進めるとさらに効率的になると思われる。	組織能力

No.	○良好な事項 ●改善すべき事項	○助長策 ●今後の対策	要因分析
47.	●安定ヨウ素剤の服用に関して、詳細な議論が行われ、多少混乱した場面が見られた。その後、疑問点を解消するために ERC 等との協議を行うなど、情報取得・対応方針検討に関する積極的な姿勢が見られ大変良かった。	●外部にて対応にあたる人員や、外で測定を行う班員等への安定ヨウ素剤の服用に関し、どのタイミングで服用指示を出したら良いかなど、詳細に検討された。測定員等の安全に係わる事項については、細かな点についても疑問を解消する姿勢は今後も続けると良いと思う。また、参加する組織毎に線量の目安基準が異なる場合もあるため、講義内でも参考情報として説明して欲しい。	組織能力

3.2.5 次年度へ向けた改善事項の抽出と改善策の検討

前項までにとりまとめた理解度確認テスト、受講者アンケート、講師アンケート、訓練評価表の結果等から、改善事項を抽出し、緊急時モニタリング要員育成事業検討委員会等を通じて改善策の検討を行った。改善事項については、適宜実施内容の見直しを行い、本年度の講座及び訓練で反映したものもある。すでに反映したものを（１）本年度の主な改善点として、次年度へ向けての課題を（２）次年度へ向けた改善事項と改善策として、モニタリング技術に関する基礎的な講座及び EMC 活動訓練について以下に示す。

（１）本年度の主な改善点

モニタリング技術に関する基礎的な講座
○実習 2「緊急時モニタリング資機材の取扱い」
・ 能登半島地震で一時欠測が生じた経験から、可搬型モニタリングポストに対する関心が高まっている。可能な地域では可搬型モニタリングポストを 2 台借用し、組み立て前後の状態を展示する、屋外に運搬し GPS 受信とモニタリングデータ送信を確認する、希望者には機材の運搬やバッテリーの重量を体感させる等の試みを行った。
○実習 3「空間放射線量率の測定」
・ 狭い会場で、廊下などの直線状のスペースであっても設置できる測定地点を考案し、複数の講座で活用した。
○演習
・ 令和 5 年度に選択実習としていた汚染拡大防止及び簡易除染が、汚染に対する認識を深めるとして好評を博したため、基本プログラムである演習の一環として取り入れた。
○市町村職員対象プログラム（道府県 F）
・ 要員対象の基本プログラムに加え、道府県 F では緊急時に市町村に飲料水採取を依頼するので、「市町村職員対象プログラム」も開催した。道府県 F 職員による講義「道府県 F の緊急時モニタリング体制について」と実習 1「放射線の性質」を共通プログラムとして実施し、以降、受講プログラム別の内容を 2 会場に分かれて実施した。市町村職員対象プログラムでは、「原子力災害時における飲料水等の採取・回収マニュアル（市町村向け）」に基づき採取実習を行い、希望者 5 名を対象に防護装備の着脱体験を閉会後に実施した。
○重点項目プログラム（道府県 O）
・ 道府県の要望に応じ、サーベイメータによる線量率測定に重点を置いたカリキュラムを実施した。受講者を入れ替え、同じプログラムを午前と午後の 2 回実施した。 ・ 道府県 O の測定・採取班では、サーベイメータ配備事務所の要員がサーベイメータでの空間線量率測定を行う体制となっていることから、サーベイ要員向けのプログラムを道府県 O の要望に応じて実施した。
○歩行サーベイシステムの紹介（道府県 N）
・ 歩行サーベイシステムの展示が行われた。

○演習重点プログラム（道府県 S）
・ 測定分析担当測定・採取班の活動に対象を絞り、プログラムを大きく改変しより実践的な内容とした。主な内容は以下のとおり。 － 可搬型 MP の設置・RAMIS への伝送確認 － 飲料水採取、土壌採取、空間放射線量率測定 － 大気モニタ・エアサンプラの遠隔起動方法の確認、ろ紙・カートリッジの設置・回収方法確認、カートリッジ組み立て方法の確認 － 走行サーベイ実走、走行結果確認、車両の養生説明、乗降の注意 ・ 使用する測定器、資機材は、消耗品を除き、道府県所有のものを使用した。また、道府県の施設を利用して実際の出動の順路、帰還時の汚染検査順路で実施した。 ・ 走行サーベイの実施にあたっては、事前に道府県と運転手と使用車両、走行ルート进行调整した。 ・ 事態進展に応じて実施する緊急時モニタリング項目を理解しやすいよう、緊急時モニタリング実施計画第 1～5 版を参考資料とし、演習で使用する指示書は、各実施計画に対応させたものを使用した。
○EMC 活動訓練
・ 参加人数の増加に向けた改善策として、道府県の要望に応じて、訓練日程のどちらか 1 日のみを申し込む人向けに、役割に応じた参加推奨日（1 日目：情報収集管理 Gr、2 日目：企画調整 Gr 及び測定分析担当総括連絡班）を募集案内に記載した。募集案内には「参加人数によりプログラムを調整する」旨を記載し、参加者の力量等を参考にプログラムを設定した。
・ 「訓練」の意味合いの理解の浸透に向けた改善策として、訓練ガイダンスで「訓練参加の心構え」の説明を追加した。
・ 訓練検討ワーキンググループにて整理したホワイトボード活用のポイントをまとめた資料を、訓練ガイダンス資料として配付し、説明した。
・ 令和 6 年能登半島地震の教訓の反映として、複数の欠測局の発生、停電情報及び断水情報をシナリオに盛り込んだ訓練を実施した。停電に関する情報としては、テレメータシステムの警報（商用電源断、発電機運転中）等についてもコントローラーから情報を付与して実施した。
・ 振返りの充実化のため、各ステップの狙いと課題を整理した振返りポイントを配付し、受講者が課題をクリアできていたか具体的な振返りを促す取り組みを試行した。
・ プラントの付与情報に記載した TAF や 2Pd 等の用語解説を追加した。

(2) 次年度へ向けた改善事項

○モニタリング技術に関する基礎的な講座

- ・ 実習の時間が足りなかったとの意見を踏まえ、更なる e ラーニングの活用を検討が必要である。実習 1「放射線の性質確認」は、これまで集合研修で実施しており、その内容は測定機器の取扱いや遮蔽効果に関する説明であり、座学により知識を伝達する傾向が強い。さらに本年度の基礎講座受講者アンケート結果によると、拡充してほしい e ラーニングコンテンツとして「資機材取扱い」が 26.8%に上り、最も多くの要望があった。そこで「放射線の性質確認」事前学習として e ラーニングでの提供に切り替えることで、カリキュラムの時間配分改善と、測定機器の取扱いに関する e ラーニングコンテンツ充実化の両方を図ることができる。
- ・ コンテンツが多く、次に見るべきものがわからないというアンケートに寄せられた声を踏まえ、e ラーニングの所要時間とともに、習熟度に応じた学習を可能とする学習経路を提示する必要がある。
- ・ 土壌採取の実演は、講師と補助者がしゃがんで実施するため、受講人数や実習場所の制約からすべての受講者に見やすい環境を提供することが難しい場合もある。また講師による実演の後に受講者による土壌採取が行われていたため、すべての受講者が実習 4 の中で土壌採取を実施する時間を取ることに難しいケースもあった。これらの点を解決すべく、講師による土壌採取の実演について、動画での提供を検討する必要がある。
- ・ 土壌採取のポイントをまとめた動画を作成の上、実習 4 の中で上映することで説明時間を短縮し、すべての受講者に採取体験の機会を提供できるよう図る。
- ・ 受講者が多い場合の対応として、実習 3「空間放射線量率の測定」と実習 4「環境試料の採取」を並行して実施することで受講効果の向上を図っていたが、実習 4 に時間を要するケースが多かった。そのため、受講者が多い場合には、実習 2「緊急時モニタリング資機材の取扱い」と実習 3 を並行して実施し、実習 4 の時間の拡充を図る。さらに実習 4 の中で大気採取と土壌採取の実習 4 を並行して行う対応とする。
- ・ アンケートで好評を得ていた「汚染拡大の見える化及び簡易除染」を演習のイントロダクションとして行っていたが、受講者が手袋を装着して土壌採取を行う「実習 4（環境試料の採取）」の前に実施するようにプログラム順序を見直すことで、研修効果を高めることが期待できる。
- ・ 気温の高い時期に半数以上の講座が実施される現状と、多くの受講者には原子力災害対応以外で防護服を着用する機会がある実態を踏まえ、防護服着脱のポイントは動画にまとめ事前学習教材として提供し、演習では手袋のみの着用を基本とする。ただし開催自治体から要望がある場合は演習で着用する。
- ・ 演習では採取地点にブラインドで線源を設置し、空間線量率が BG 値より高めに検出されるよう仕掛けを行っている。測定を担当する受講者は、空間線量率が BG 値より上昇していることを班員に周知すべきであるが、注意喚起することなく線量を読み上げるのみであり、値の変化に対する意識が不足していることが伺える。

OEMC 活動訓練	
・ 指示内容の事前確認	- 指示書発出の前にビデオ通話等を活用し、指示内容について測定分析担当との間で意思疎通を図るべきである。
・ 指示内容の優先順位	- 指示書に測定の目的・優先度を明確化の上、指示内容を記載すべきである。
・ 指示書に記載する用語の明確化	- 大気モニタを例にとると、リアルタイムで伝送される数値を測定、回収したろ紙の測定を分析と区別するが、指示書上で大気モニタの「起動」「回収」「分析」「測定」といった用語が記載される場合、具体的にどういった活動を意図しているか明確化する必要がある。
・ UPZ 外測定分析担当宛の指示書の情報共有	- UPZ 外測定分析担当宛の指示書がクロノロジーに掲載されない事例があった。文書は一律でクロノロジーに掲載し、情報共有すべきである。
・ 妥当性の確認	- データの妥当性確認について、着眼点を明確にし、確認手順等を取り入れるとよい。
・ 分析結果の RAMIS 登録後の確認方法	- コントローラーが測定分析担当として、意図的に誤った測定値を RAMIS で付与したが、承認権限を持つセンター長が測定結果を承認したということがあった。RAMIS に入力された測定値を誰が確認するか明確にし、確認方法を検討しておく必要がある。
・ RAMIS 欠測表示	- ラミスの電子線量計の欠測時の黒表示が認識しづらい。 - 環境放射線モニタリングの監視強化時に、モニタリングポスト等の空間放射線量率を最短値へ切り替えをするように、必要に応じ RAMIS 欠測確認時間の設定変更を可能とする方法もあるのではないか。
・ ERC-EMC 間のマニュアル共有	- ERC と EMC が意思疎通するための共通のシステムがない場合、意見がかみ合わない。EMC に対する国からの支援について、ERC のマニュアルを予め EMC に示すことで、EMC は先の見通しを立てやすくなり、緊急時モニタリングに専念できる。

・ 事象進展の各段階での必須事項のマニュアルやチェックリスト - 「初動チェックリスト」だけではなく、「全面緊急事態発生時チェックリスト」や「放出時チェックリスト」など、事態進展の各段階でチェックリストを用意しておけば、対応漏れを防ぐのに効果的と思われる。 - ステップに応じた情報要求事項の明確化が必要。 - EMC 立ち上げ時の確認項目で、回答項目が決まっているものがあればテンプレートを事前に作成しておくのがよい
・ アンケートの電子化 - アンケートの電子化により、受講者に十分な回答の時間を与えることと、ペーパーレス化が可能となる。
・ 机上訓練と実動訓練の同時開催 - 同時開催によりそれぞれの訓練の受講者人数が少なくなる点や、実動訓練初参加者にはハードルが高かった点など、デメリットが見られた。

4. 原子力総合防災訓練等のデータ作成及び支援

内閣府（原子力防災担当）が開催する原子力総合防災訓練事前訓練（12月19日及び20日）及び原子力総合防災訓練（2月14日、15日及び16日）において、データ作成等の準備及び支援を実施した。表4-1にデータ作成等を実施した訓練名称と訓練実施期間を示す。

具体的には、提供された情報をもとに訓練データを作成し、RAMIS への取り込み作業及び緊急時モニタリングに必要な資料の提供を行った。また、両訓練実施日には、緊急時対応センター（ERC）にて当日支援対応（データに関する問い合わせ対応等）を実施した。

表 4-1 データ作成等を実施した訓練

訓練名称	訓練実施期間
原子力総合防災訓練事前訓練	12月19日及び20日
原子力総合防災訓練	2月14日、15日及び16日

5. 講座で使用した資機材

モニタリング技術に関する基礎的な講座で使用する資機材については、各地方公共団体が保有する資機材を活用することが実効的であるため、可能な範囲で各地方公共団体の資機材を借用した。なお、資機材が借用できない場合及び資機材が不足する場合には、国が無償貸与する資機材等を用いて実習を行った。

各地方公共団体と借用の調整を行った資機材は、型式によって操作方法の異なる以下のものである。

- ・ 電子式個人線量計
- ・ NaI (Tl) シンチレーション式サーベイメータ
- ・ 電離箱式サーベイメータ
- ・ GM 計数管式サーベイメータ
- ・ ZnS (Ag) シンチレーション式サーベイメータ
- ・ 可搬型モニタリングポスト
- ・ エアサンプラ
- ・ モニタリング情報共有端末

表 5-1 に各地域で借用した資機材の一覧表を示す。

表 5-1 各地域において借用した資機材

道府県	借用した資機材
道府県 U	・ 電子式個人線量計 ・ シンチレーション式サーベイメータ (RADEYE) ・ GM 計数管式サーベイメータ ・ 可搬型モニタリングポスト ・ ヨウ素サンプラ
道府県 T	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (Tl) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ β 線測定用ラギッドシンチレーションサーベイメータ ・ ZnS (Ag) シンチレーション式サーベイメータ ・ 中性子サーベイメータ ・ 可搬型モニタリングポスト ・ 可搬型ダストサンプラ
道府県 C	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (Tl) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ GM 計数管式サーベイメータ ・ 可搬型モニタリングポスト ・ エアサンプラ

道府県	借用した資機材
道府県 A	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (Tl) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ GM 計数管式サーベイメータ ・ ZnS (Ag) シンチレーション式サーベイメータ ・ 可搬型モニタリングポスト ・ エアサンプラ
道府県 N	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (Tl) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ GM 計数管式サーベイメータ ・ ZnS (Ag) シンチレーション式サーベイメータ ・ 可搬型ダストサンプラ ・ 走行サーベイ用システム
道府県 W	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (Tl) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ GM 計数管式サーベイメータ ・ ZnS (Ag) シンチレーション式サーベイメータ ・ 可搬型モニタリングポスト ・ エアサンプラ ・ モニタリング情報共有端末
道府県 F	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (Tl) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ GM 計数管式サーベイメータ ・ 可搬型モニタリングポスト ・ エアサンプラ
道府県 X	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (Tl) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ GM 計数管式サーベイメータ ・ 可搬型モニタリングポスト ・ エアサンプラ ・ 衛星携帯電話 ・ モニタリング車
道府県 G	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (Tl) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ GM 計数管式サーベイメータ ・ 可搬型モニタリングポスト ・ エアサンプラ ・ モニタリング情報共有端末 ・ 走行サーベイ用システム ・ 災害用通信機器

道府県	借用した資機材
道府県 E	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (TI) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ GM 計数管式サーベイメータ ・ 可搬型モニタリングポスト ・ 可搬型ヨウ素サンプラ ・ 走行サーベイ用システム
道府県 L	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (TI) シンチレーション式サーベイメータ ・ 可搬型モニタリングポスト ・ エアサンプラ
道府県 K	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (TI) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ GM 計数管式サーベイメータ ・ 可搬型モニタリングポスト ・ エアサンプラ
道府県 D	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (TI) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ GM 計数管式サーベイメータ ・ 可搬型モニタリングポスト
道府県 H	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (TI) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ GM 計数管式サーベイメータ ・ 可搬型モニタリングポスト
道府県 M	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (TI) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ GM 計数管式サーベイメータ ・ 可搬型ローボリウムサンプラ
道府県 R	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (TI) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ GM 計数管式サーベイメータ ・ ZnS (Ag) シンチレーション式サーベイメータ ・ 可搬型モニタリングポスト ・ エアサンプラ ・ モニタリング情報共有端末
道府県 P	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (TI) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ GM 計数管式サーベイメータ ・ ZnS (Ag) シンチレーション式サーベイメータ ・ 可搬型モニタリングポスト ・ エアサンプラ

道府県	借用した資機材
道府県 V	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (Tl) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ GM 計数管式サーベイメータ ・ ZnS (Ag) シンチレーション式サーベイメータ ・ エアサンプラ
道府県 B	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (Tl) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ GM 計数管式サーベイメータ ・ 大面積シリコン半導体サーベイメータ ・ 可搬型モニタリングポスト
道府県 Q	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (Tl) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ GM 計数管式サーベイメータ ・ 可搬型モニタリングポスト ・ エアサンプラ
道府県 O	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (Tl) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ GM 計数管式サーベイメータ ・ 可搬型モニタリングポスト ・ 表面汚染測定用サーベイメータ (半導体式)
道府県 I	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (Tl) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ GM 計数管式サーベイメータ ・ 可搬型モニタリングポスト ・ エアサンプラ
道府県 J	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (Tl) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ GM 計数管式サーベイメータ ・ 可搬型モニタリングポスト ・ エアサンプラ ・ モニタリング情報共有端末
道府県 S	・ 電子式個人線量計 ・ NaI (Tl) シンチレーション式サーベイメータ ・ 電離箱式サーベイメータ ・ 可搬型モニタリングポスト ・ 大気モニタ・ヨウ素サンプラ ・ ラジプローブ ・ モニタリング車

6. おわりに

(1) まとめ

本緊急時モニタリング要員育成事業では、「原子力災害対策指針（平成 24 年 10 月 31 日原子力規制委員会制定）」を踏まえ、緊急時モニタリングの実効性を確保することを目的とし、緊急時モニタリングセンター及び野外における緊急時モニタリングに従事する者に対し、現地に講師等を派遣して、基礎から実践まで受講者の習熟度に応じた講義・訓練等を以下のとおり開催した。

i) モニタリング技術に関する基礎的な講座

モニタリング技術に関する基礎的な講座を計 24 回開催し、受講者は計 356 名であった。本講座では放射線の基礎、モニタリング資機材の使用方法、環境試料の採取方法、野外モニタリング活動時の放射線防護等、緊急時モニタリングを適切に実施するために必要な知識及び技術の普及を図った。講座の内容検討にあたっては各自治体からの要望等を踏まえ、習熟度別の受講や選択制講義の導入等の工夫を凝らした。効果を確認するためのアンケートでは、「本講座は、受講者自身の知識やスキルの向上に役立つ内容だったか」との問いに対し、「十分に役に立つ」と回答した割合が 45.6%、「役に立つ」と回答した割合が 53.7%であり、合計すると 99.3%に上った。

さらに講座の応用編として、福島参集型講座を計 1 回開催した。各地域から計 15 名の受講者が福島県に参集の上、帰還困難区域内において低線量下での実習を実施し、アンケートでは「実際に汚染が発生する状況を体験できて今後非常に役に立つと思いました。」、「自然環境中で電離箱の値が確認できた。NaI サーベイが「over」を示す様子は衝撃的だった。」などの評価を得た。

ii) EMC 活動訓練

EMC 活動訓練を計 13 回開催し、受講者は計 338 名であった。本訓練では EMC の役割、体制及び活動に関する知識の習得を目指し、EMC 活動の基本的な確認や訓練内容及びルールに関する講義、EMC に設置されている機器の操作説明・操作実習とともに、EMC が立ち上がる施設敷地緊急事態以降（地域によっては、警戒事態以降）の対応について、状況付与型の図上演習として机上訓練を実施した。アンケートの結果、操作実習及び訓練ステップ 1～3 に対する受講者の満足度の「大変良い」と「良い」の合計は、それぞれ 93.1%、95.0%、94.2%であった。

本訓練には令和 6 年 1 月の能登半島地震の発生を受け、その教訓を反映すべく、複数の欠測局の発生、停電・断水の情報をシナリオに取り入れ、開催地域における対応の検討を促した。また「訓練参加の心構え」及び「ホワイトボード活用のポイント」を訓練ガイダンスに盛り込むなどし、訓練の意義や具体的作業に対する実践的な方法を解説した。

本訓練において、「指示内容の事前確認」や「指示書に記載する用語の明確化」等が今後の課題として見いだされた。受講者からは、一昨年度、昨年度から引き続き RAMIS への改善提案として、欠測表示の識別性向上に関する要望が多

く挙げられた。

iii) e ラーニングについて

集合研修による受講者の負担を軽減するため、また習熟度別受講に対応するため、本年度も講義は基本的に e ラーニングで提供した。講義を e ラーニングによる事前学習としたことに関するアンケート結果では、「講義は e ラーニングでよい」とする回答が 54.0%に上り、過半数を占めた。なお、「講義も集合研修で実施してほしい」との回答は 21.0%であった。自身のペースで習熟度に応じた個別学習ができるよう、資料等のダウンロードや再生スピードの変更の機能を付加していることもあり、e ラーニングの提供について支持を得ることができた。本年度は「福島原発事故の緊急時モニタリング活動」及び「理解度確認テスト(10 問ランダム出題)」に関する自己学習コンテンツ等を追加掲載し、e ラーニングの充実化を図った。

iv) 自己学習機会の提供

e ラーニングの提供だけでなく、講師との双方向の意見交換が可能となるオンラインでの演習を提供した。具体的には、EMC 活動訓練の事前研修として実践演習「緊急時モニタリング指示書作成講座」を計 2 回、緊急事態の進展に応じて緊急時モニタリングの実施内容を討議する実践演習「緊急時モニタリング企画コース」を計 2 回、緊急時モニタリング野外活動時に想定される様々な出来事への対処方法について討議する実践演習「緊急時モニタリング実施コース」を計 3 回、開催した。受講者は計 52 名であった。

v) 次年度に向けた改善の検討

講座・訓練の内容、カリキュラム及び教材の評価等を行い、次年度への改善事項及び改善策の取りまとめを行うため、緊急時モニタリング要員育成事業検討委員会を計 3 回開催し、講座・訓練のアンケート項目の改定案を取りまとめ、講座開催時の安全衛生管理等について、また訓練における妥当性確認の在り方等について、議論を行った。また各 EMC 活動訓練の評価に当たり、委員 2 名を現地へ派遣した。併せて良好事例や改善事項の共有、講師間での教え方の平準化等を目的とした講師連絡会を 1 回開催し、指導方法の統一を図った。より実践的かつ効果的な訓練内容を検討するため、道府県の担当者により構成する訓練検討ワーキンググループを開催し、EMC 活動訓練の内容の改善検討や良好事例等の水平展開を図った。

vi) 原子力総合防災訓練等のデータ作成及び支援

内閣府（原子力防災担当）が開催する原子力総合防災訓練等においては、データ作成等の準備及び支援を行った。

(2) 今後に向けて

日本の中長期的なエネルギー政策の指針を示す第 7 次エネルギー基本計画が令和 7 年 2 月に策定された。この中で原子力発電について、「国民からの信頼確保に努め、安全性の確保を大前提に、必要な規模を持続的に活用していく」方針が示された。令和 7 年 3 月現在、8 発電所における 14 基の発電用原子炉が再稼働しており、新規制

基準適合性審査中の発電用原子炉についても、終了後に順次営業運転を再開することが見込まれる。他方、令和 6 年 1 月能登半島地震の発生により甚大な被害が生じたこと、同年 8 月日向灘を震源とする地震の発生に伴い「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表されたことは記憶に新しい。このような状況の中、いつ来るかわからない自然災害との複合災害も引き続き想定しつつ緊急時モニタリング要員を継続して育成することが必須である。

また東日本大震災発生から 14 年が経過した。原発事故からの復興・再生に向けた課題は数多くあるが、事故の対策にあたった人材と原発事故を直接知らない次の世代が交代することは必定であり、経験と教訓について世代を超えて継承することも課題の 1 つであると言えよう。本事業の講座・訓練等の開催にあたっては、福島第一原発事故の経験と教訓を念頭に、緊急時モニタリング要員の育成に努めた。福島参集型講座では放射線環境下における実践的な野外モニタリング活動を実施し、e ラーニングコンテンツに原発事故対応の体験談を掲載した。本事業が世代間の知識の継承という縦の方向の働きかけの一助となることを期待する。

また災害発生時には被災地のみならず、他の自治体からの要員派遣も見込まれる。地域が異なると自治体の人員配置や立地条件等も異なるため、他の地域の実情に通じておくことも災害派遣の実効性向上につながる。本事業では、EMC 活動訓練に他の自治体からの見学を受け入れる取り組みや、訓練に関わる自治体が改善に向けた意見を出し合う訓練検討ワーキンググループを実施した。さらに前述の福島参集型講座では、所属する自治体の異なる要員が一堂に会し野外モニタリング活動に取り組んだため、本事業における活動が異なる地域間での人的交流という横の方向の働きかけを果たせたのではないかと考える。

緊急時モニタリング要員の育成は原子力活用から切り離せない取り組みであり、不断の継続が必要である。そのような中、世代間と地域間という 2 つ方向への働きかけを意識しつつ、本事業を推進することが望まれる。

付録 1 緊急時モニタリング要員育成
各開催のプログラム

(1)モニタリング技術に関する基礎的な講座

【ひな型】

時間	内容
9:00～9:10	開会・イントロダクション
9:10～10:10	実習1 放射線の性質確認
10:10～10:15	休憩
10:15～10:45	実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い
10:45～10:50	休憩
10:50～11:35	実習3 空間放射線量率の測定 / 実習4 環境試料の採取 ※二手にわかれて実施
11:35～11:40	休憩
11:40～12:25	実習3/実習4
12:25～13:25	休憩
13:25～16:40 ※途中休憩5分含む	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出勤準備 (2)測定・採取 (3)脱衣と被ばく管理 (4)振返り
16:40～16:50	講評
16:50～17:00	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県A】

時間	内容
9:00～9:10	開会・イントロダクション
9:10～10:10	実習1 放射線の性質確認
10:10～10:15	休憩
10:15～10:45	実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い 原子力規制事務所における緊急時モニタリング資機材の概要
10:45～10:50	休憩
10:50～11:35	実習3 空間放射線量率の測定 / 実習4 環境試料の採取 ※二手にわかれて実施
11:35～11:40	休憩
11:40～12:25	実習3/ 実習4
12:25～13:25	休憩
13:25～16:40 ※途中休憩5分含む	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出勤準備 (2)測定・採取 (3)脱衣と被ばく管理 (4)振返り
16:40～16:50	講評
16:50～17:00	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 B】

時間	内容
10:00～10:10	開会・イントロダクション
10:10～10:50	実習1 放射線の性質確認
10:50～10:55	休憩
10:55～11:05	実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い
11:05～11:40	実習3 空間放射線量率の測定
11:40～11:45	休憩
11:45～12:20	実習4 環境試料の採取
12:20～13:20	休憩
13:20～15:25	演習 緊急時モニタリング活動 (1) 出動準備 (2) 測定・採取 (3) 脱衣と被ばく管理
15:25～15:30	休憩
15:30～15:50	振り返り・講評
15:50～16:00	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 C】

時間	内容
9:30～9:40	開会・イントロダクション
9:40～10:40	実習1 放射線の性質確認
10:40～11:00	実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い
11:00～11:05	休憩
11:05～11:50	実習3 空間放射線量率の測定 / 実習4 環境試料の採取 ※二手にわかれて実施
11:50～12:00	休憩
12:00～12:45	実習3/実習4
12:45～13:45	休憩
13:45～16:40 ※途中休憩5分含む	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出動準備 (2)測定・採取 (3)脱衣と被ばく管理 (4)振り返り
16:40～16:50	講評
16:50～17:00	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 D】

時間	内容
9:00～9:10	開会・イントロダクション
9:10～10:10	実習1 放射線の性質確認
10:10～10:15	休憩
10:10～10:35	実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い
10:35～10:40	休憩
10:40～11:25	実習3 空間放射線量率の測定 / 実習4 環境試料の採取 ※二手にわかれて実施
11:25～11:30	休憩
11:30～12:15	実習3/実習4
12:15～13:15	休憩
13:15～16:40 ※途中休憩5分含む	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出勤準備 (2)測定・採取 (3)脱衣と被ばく管理 (4)振返り
16:40～16:50	講評
16:50～17:00	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 E】

時間	内容
9:00～9:10	開会・イントロダクション
9:10～10:10	実習1 放射線の性質確認
10:10～10:50	実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い
10:50～10:55	休憩
10:55～11:40	実習3 空間放射線量率の測定
11:40～11:45	休憩
11:45～12:30	実習4 環境試料の採取
12:30～13:30	休憩
13:30～16:40 ※途中休憩5分含む	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出勤準備 (2)測定・採取 (3)脱衣と被ばく管理 (4)振返り
16:40～16:50	講評
16:50～17:00	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 F、EMC 要員向けプログラム】

時間	内容
9:00～9:05	開会・イントロダクション
9:05～9:35	講義(道府県) 道府県Fの緊急時モニタリング体制
9:35～9:40	休憩
9:40～10:40	実習1 放射線の性質確認
10:40～10:45	休憩
10:45～11:20	実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い
11:20～11:55	実習3 空間放射線量率の測定
11:55～12:55	休憩
12:55～13:40	実習4 環境試料の採取
13:40～13:45	休憩
13:45～16:10 ※途中休憩5分含む	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出動準備 (2)測定・採取 (3)脱衣と被ばく管理 (4)振返り
16:10～16:20	講評
16:20～16:30	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 F、市町村職員向けプログラム】

時間	内容
9:00～9:05	開会・イントロダクション
9:05～9:35	講義(道府県) 道府県Fの緊急時モニタリング体制
9:35～9:40	休憩
9:40～10:40	実習1 放射線の性質確認
10:40～10:45	休憩
10:45～11:40	実習4 環境試料(飲料水)の採取
11:40～11:50	アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 G】

時間	内容
9:00～9:05	開会・イントロダクション
9:05～9:35	eラーニングの復習
9:35～10:35	実習1 放射線の性質確認
10:35～10:40	休憩
10:40～11:25	実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い
11:25～11:30	休憩
11:30～12:15	実習3 空間放射線量率の測定
12:15～13:15	休憩
13:15～14:00	実習4 環境試料の採取
14:00～14:10	休憩
14:10～16:40 ※途中休憩5分含む	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出勤準備 (2)測定・採取 (3)脱衣と被ばく管理 (4)振返り
16:40～16:50	講評
16:50～17:00	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 H】

時間	内容
9:00～9:10	開会・イントロダクション
9:10～10:10	実習1 放射線の性質確認
10:10～10:15	休憩
10:15～10:45	実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い
10:45～10:50	休憩
10:50～11:35	実習3 空間放射線量率の測定
11:35～11:40	休憩
11:40～12:25	実習4 環境試料の採取
12:30～13:30	休憩
13:25～16:40 ※途中休憩5分含む	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出勤準備 (2)測定・採取 (3)脱衣と被ばく管理 (4)振返り
16:40～16:50	講評
16:50～17:00	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 I】

時間	内容
9:00～9:05	開会・イントロダクション
9:05～9:35	eラーニングの復習
9:35～10:35	実習1 放射線の性質確認
10:35～10:40	休憩
10:40～11:00	実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い
11:00～11:05	休憩
11:05～11:50	実習3 空間放射線量率の測定
11:50～11:55	休憩
11:55～12:40	実習4 環境試料の採取
12:40～13:40	休憩
13:40～16:40 ※途中休憩5分含む	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出動準備 (2)測定・採取 (3)脱衣と被ばく管理 (4)振返り
16:40～16:50	講評
16:50～17:00	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 J】

時間	内容
9:00～9:05	開会・イントロダクション
9:05～9:35	eラーニングの復習
9:35～10:25	実習1 放射線の性質確認
10:25～10:30	休憩
10:30～11:10	実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い
11:10～11:15	休憩
11:15～11:55	実習3 空間放射線量率の測定
11:55～12:00	休憩
12:00～12:45	実習4 環境試料の採取
12:45～13:45	休憩
13:45～16:40 ※途中休憩5分含む	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出動準備 (2)測定・採取 (3)脱衣と被ばく管理 (4)振返り
16:40～16:50	講評
16:50～17:00	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 K】

時間	内容
9:00～9:10	開会・イントロダクション
9:10～9:20	講義 道府県Kの体制について
9:20～10:20	実習1 放射線の性質確認
10:20～10:25	休憩
10:25～10:45	実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い
10:45～10:50	休憩
10:50～11:35	実習3 空間放射線量率の測定 / 実習4 環境試料の採取 ※二手にわかれて実施
11:35～11:40	休憩
11:40～12:25	実習3/実習4
12:25～13:25	休憩
13:25～16:40 ※途中休憩5分含む	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出動準備 (2)測定・採取 (3)脱衣と被ばく管理 (4)振返り
16:40～16:50	講評
16:50～17:00	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 L】

時間	内容
9:00～9:10	開会・イントロダクション
9:10～10:10	実習1 放射線の性質確認
10:10～10:50	実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い
10:50～11:00	休憩
11:00～11:45	実習3 空間放射線量率の測定
11:45～11:50	休憩
11:50～12:35	実習4 環境試料の採取
12:35～13:35	休憩
13:35～16:40 ※途中休憩5分含む	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出動準備 (2)測定・採取 (3)脱衣と被ばく管理 (4)振返り
16:40～16:50	講評
16:50～17:00	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 M】

時間	内容
9:30～9:35	開会・イントロダクション
9:35～9:55	講義 道府県M緊急時モニタリング計画等について
9:55～10:55	実習1 放射線の性質確認
10:55～11:05	実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い
11:05～11:10	休憩
11:10～11:55	実習3 空間放射線量率の測定
11:55～12:05	休憩
12:05～12:50	実習4 環境試料の採取
12:50～13:50	休憩
13:50～16:50 ※途中休憩5分含む	EMC図上演習
	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出動準備 (2)測定・採取 (3)脱衣と被ばく管理 (4)振返り・講評
16:50～17:00	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 N】

時間	内容
9:00～9:10	開会・イントロダクション
9:10～10:10	実習1 放射線の性質確認
10:10～10:15	休憩
10:15～10:45	実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い
10:45～10:50	休憩
10:50～11:35	実習3 空間放射線量率の測定
11:35～11:40	休憩
11:40～12:25	実習4 環境試料の採取
12:25～13:25	休憩
13:25～16:40 ※途中休憩5分含む	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出動準備 (2)測定・採取 (3)脱衣と被ばく管理 (4)振返り
	講評
16:40～16:50	講評
16:50～17:00	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 O】

時間	内容
9:30～9:40	午前の部:開会・イントロダクション、道府県Oの緊急時モニタリング体制
9:35～10:35	実習1 放射線の性質確認
10:35～10:40	休憩
10:40～11:25	実習2 空間放射線量率の測定
11:25～11:30	休憩
11:30～12:35	演習 空間放射線量率測定に関する緊急時モニタリング活動 (1)出勤準備 (2)測定 (3)帰還と被ばく管理 (4)振返り
12:35～12:40	演習の講評
12:40～12:50	午前の部:理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会
13:40～13:50	午後の部:開会・イントロダクション、道府県Oの緊急時モニタリング体制
13:50～14:45	実習1 放射線の性質確認
14:45～14:50	休憩
14:50～15:35	実習2 空間放射線量率の測定
15:35～15:40	休憩
15:40～16:45	演習 空間放射線率量測定に関する緊急時モニタリング活動 (1)出勤準備 (2)測定 (3)帰還と被ばく管理 (4)振返り
16:45～16:50	演習の講評
16:50～17:00	午後の部:理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 P】

時間	内容
9:00～9:10	開会・イントロダクション
9:10～10:10	実習1 放射線の性質確認
10:00～10:15	休憩
10:15～10:45	実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い
10:45～10:50	休憩
10:50～11:35	実習3 空間放射線量率の測定
11:35～11:40	休憩
11:40～12:25	実習4 環境試料の採取
12:25～13:25	休憩
13:25～16:40 ※途中休憩5分含む	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出勤準備 (2)測定・採取 (3)脱衣と被ばく管理 (4)振返り
16:40～16:50	講評
16:50～17:00	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 Q】

時間	内容
9:00～9:10	開会・イントロダクション
9:10～10:10	実習1 放射線の性質確認
10:10～10:15	休憩
10:15～10:35	実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い
10:35～10:40	
10:40～11:25	実習3 空間放射線量率の測定
11:25～11:30	休憩
11:30～12:15	実習4 環境試料の採取
12:15～13:15	休憩
13:15～16:40 ※途中休憩5分含む	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出勤準備 (2)測定・採取 (3)脱衣と被ばく管理 (4)振返り
16:40～16:50	講評
16:50～17:00	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 R】

時間	内容
9:00～9:05	開会・イントロダクション
9:05～10:10	実習1 放射線の性質確認
10:10～10:15	休憩
10:15～11:00	実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い
11:00～11:05	休憩
11:05～11:50	実習3 空間放射線量率の測定
11:50～12:50	休憩
12:50～13:35	実習4 環境試料の採取
13:35～13:45	休憩
13:45～16:40 ※途中休憩5分含む	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出勤準備 (2)測定・採取 (3)脱衣と被ばく管理 (4)振返り
16:40～16:50	講評
16:50～17:00	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 S】

時間	内容
9:00～9:10	開会・イントロダクション
9:10～10:10	実習 緊急時モニタリング資機材の取扱い
10:10～10:15	休憩
10:15～10:45	講義 環境試料の採取
10:45～10:50	休憩
10:50～12:00	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出動準備1(指示書確認、資機材準備、車両養生、汚染拡大防止実習・簡易除染)
12:00～13:00	休憩
13:00～13:30	演習 緊急時モニタリング活動 (2)測定・採取1(可搬型モニタリングポスト設置、空間放射線量率測定、飲料水採取、大気モニタ・ヨウ素サンプラ遠隔起動)
13:30～13:35	休憩
13:35～14:05	演習 緊急時モニタリング活動 (3)出動準備2(防護装備の着装)
14:05～14:35	演習 緊急時モニタリング活動 (4)測定・採取2(走行サーベイ)
14:35～15:20	演習 緊急時モニタリング活動 (5)測定・採取3(土壌採取、空間放射線量率測定、大気モニタ・ろ紙、ヨウ素サンプラ・カートリッジ回収方法確認)
15:20～15:50	演習 緊急時モニタリング活動 (6)帰還・脱衣と被ばく管理
15:50～16:00	休憩
16:00～16:50	振返り・講評
16:50～17:00	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 T】

時間	内容
9:00～9:05	開会・イントロダクション
9:05～10:05	実習1 放射線の性質確認
10:05～10:10	休憩
10:10～10:30	実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い
10:30～10:35	休憩
10:35～11:20	実習3 空間放射線量率の測定
11:20～11:25	休憩
11:25～12:10	実習4 環境試料の採取
12:10～13:10	休憩
13:10～16:10 ※途中休憩5分含む	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出動準備 (2)測定・採取 (3)脱衣と被ばく管理 (4)振返り
16:10～16:20	講評
16:20～16:30	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 U】

時間	内容
10:00～10:05	開講
10:05～10:15	原子力防災に関する国や道府県の計画について
10:15～10:45	放射線の基礎、緊急時モニタリングセンター(EMC)の活動について
10:45～11:25	発電所の概要と安全対策について
11:25～11:30	緊急時における連絡方法について
11:30～11:35	本年度の防災訓練について
11:35～12:00	モニタリング資機材の取り扱いについて
12:00～13:00	休憩
13:00～13:50	防護資機材の取り扱いについて
13:50～15:20	実習 ①可搬型モニタリングポストの設置回収、バッテリー交換 ②試料採取方法 ③サーベイメータの使用方法
15:20～15:30	休憩
15:30～15:45	資機材の整理
15:45～16:00	質疑応答・閉講

【道府県 V】

時間	内容
10:30～10:35	開会・イントロダクション
10:35～11:10	実習1 放射線の性質確認
11:10～11:40	実習2 空間放射線量率の測定
11:40～11:45	休憩
11:45～12:20	実習3 環境試料の採取
12:20～12:40	実習4 緊急時モニタリング資機材の取扱い
12:40～13:40	休憩
13:40～15:20 ※途中休憩5分含む	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出動準備 (2)測定・採取 (3)脱衣と被ばく管理 (4)振返り・講評
15:20～15:30	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 W】

時間	内容
9:00～9:10	開会・イントロダクション
9:10～10:10	実習1 放射線の性質確認
10:10～10:15	休憩
10:15～10:35	実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い
10:35～10:40	休憩
10:40～11:25	実習3 空間放射線量率の測定 / 実習4 環境試料の採取 ※二手にわかれて実施
11:25～11:30	休憩
11:30～12:15	実習3/実習4
12:15～13:15	休憩
13:15～16:40 ※途中休憩5分含む	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出動準備 (2)測定・採取 (3)脱衣と被ばく管理 (4)振返り
16:40～16:50	講評
16:50～17:00	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

【道府県 X】

時間	内容
9:00～9:05	開会・イントロダクション
9:05～10:05	実習1 放射線の性質確認
10:05～10:10	休憩
10:10～11:00	実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い
11:00～11:05	休憩
11:05～11:50	実習3 空間放射線量率の測定
11:50～11:55	休憩
11:55～12:40	実習4 環境試料の採取
12:40～13:40	休憩
13:40～16:10 ※途中休憩5分含む	演習 緊急時モニタリング活動 (1)出動準備 (2)測定・採取 (3)脱衣と被ばく管理 (4)振返り
16:10～16:20	講評
16:20～16:30	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与・閉会

(2) EMC 活動訓練

【ひな型】

1日目	
時間	内容
9:30～9:35	開会・イントロダクション
9:35～10:05	講義 緊急時モニタリングセンター(EMC)の概要
10:05～10:10	休憩
10:10～11:00	操作実習1 EMC設置機器操作実習(RAMIS、PC等)
11:00～11:10	休憩
11:10～12:00	操作実習2 EMC設置機器操作実習(NISS)
12:00～13:00	休憩
13:00～14:00	机上訓練ガイダンス(状況確認、役割分担等)
14:00～15:30	机上訓練ステップ1(SE)※要望に応じてALから開始
15:30～16:40	机上訓練ステップ2-1(GE:放射性物質放出前まで)
16:40～17:00	振返り

2日目	
時間	内容
9:30～9:50	状況確認
9:50～11:50	机上訓練ステップ2-2(GE:放射性物質放出中)
11:50～12:00	振返り
12:00～13:00	休憩
13:00～13:10	状況説明
13:10～15:10	机上訓練ステップ3(GE:放射性物質地表面沈着後)
15:10～15:20	休憩
15:20～16:20	訓練全体の振返り
16:20～16:30	閉会(アンケート、修了証)

【道府県 A】

1日目	
時間	内容
10:00～10:05	開会・イントロダクション
10:05～10:35	講義 緊急時モニタリングセンター(EMC)の概要
10:35～11:25	操作実習1 EMC設置機器操作実習(RAMIS、PC等)
11:25～12:15	操作実習2 EMC設置機器操作実習(NISS)
12:15～13:15	休憩
13:15～14:00	机上訓練ガイダンス(状況確認、役割分担等)
14:00～15:00	机上訓練ステップ1-1(AL)
15:00～15:40	机上訓練ステップ1-2(SE)
15:40～16:40	机上訓練ステップ2(GE:放射性物質放出まで)
16:40～16:55	振返り
16:55～17:00	事務連絡等

2日目	
時間	内容
10:00～10:20	状況確認
10:20～12:20	机上訓練ステップ3-1(GE:放射性物質地表面沈着後)
12:20～12:30	振返り
12:30～13:30	休憩
13:30～13:40	状況確認
13:40～15:10	机上訓練ステップ3-2(GE:放射性物質地表面沈着後)
15:10～15:20	休憩
15:20～16:20	訓練全体の振返り
16:20～16:30	閉会(アンケート、修了証)

【道府県 B】

＜机上訓練＞

1日目	
時間	内容
10:30～10:40	開会・イントロダクション
10:40～11:30	操作実習1 EMC設置機器操作実習(RAMIS、PC等)
11:30～12:20	操作実習2 EMC設置機器操作実習(NISS)
12:20～13:20	休憩
13:20～14:20	机上訓練ガイダンス(状況確認、役割分担等)
14:20～14:50	机上訓練ステップ1-1(AL)
14:50～15:35	机上訓練ステップ1-2(SE)
15:35～16:15	机上訓練ステップ2-1(GE:放射性物質の放出前)
16:15～16:30	振返り
16:30	事務連絡等

2日目	
時間	内容
9:30～9:50	状況確認
9:50～11:30	机上訓練ステップ2-2(GE:放射性物質の放出)
11:30～11:40	振返り
11:40～12:40	休憩
12:40～12:50	状況確認
12:50～15:10	机上訓練ステップ3(GE:放射性物質沈着後)
15:10～15:20	休憩
15:20～16:20	訓練全体の振返り
16:20～16:30	閉会(アンケート、修了証)

<実動訓練>

1日目	
時間	内容
10:30～10:40	開会・イントロダクション
10:40～10:45	移動
10:45～11:00	実動訓練ガイダンス(訓練内容の確認)
11:00～12:20	実動訓練:初動対応、実動訓練準備
12:20～13:20	休憩
13:20～14:20	実動訓練ガイダンス(状況確認)、移動
14:20～16:15	実動訓練:欠測局への可搬型MPの設置対応 (警戒事態(AL)活動を含む)
16:15～16:30	振返り、評価者からのアドバイス

2日目	
時間	内容
9:30～9:50	状況確認、移動
9:50～11:40	実動訓練ガイダンス(状況確認、役割分担)
11:40～12:40	休憩
12:40～12:50	状況確認
12:50～15:10	実動訓練:放射性物質沈着後の対応
15:10～15:20	休憩
15:20～16:20	訓練全体の振返り
16:20～16:30	閉会(アンケート、修了証)

【道府県 C】

＜机上訓練＞

1日目	
時間	内容
9:30～9:40	開会・イントロダクション
9:40～10:10	講義 緊急時モニタリングセンター(EMC)の概要
10:10～11:00	操作実習1 EMC設置機器操作実習(RAMIS、PC等)
11:00～11:10	休憩
11:10～12:00	操作実習2 EMC設置機器操作実習(NISS)
12:00～13:00	休憩
13:00～14:00	机上訓練ガイダンス(状況確認、役割分担等)
14:00～16:40	机上訓練ステップ1(SE)、2-1(GE:放射性物質放出前まで)
16:40～16:55	訓練1日目の振り返り
16:55～17:00	事務連絡等

2日目	
時間	内容
9:30～9:50	状況確認
9:50～11:50	机上訓練ステップ2-2(GE:放射性物質放出中)
11:50～12:00	机上訓練ステップ2の振り返り
12:00～13:00	休憩
13:00～13:15	状況確認
13:15～15:40	机上訓練ステップ3(GE:放射性物質放出後)
15:40～15:50	休憩
15:50～16:50	訓練全体の振り返り
16:50～17:00	閉会(アンケート、修了証)

＜実動訓練：分析班＞

2日目	
時間	内容
9:30～9:40	開会・イントロダクション
9:40～10:10	講義 緊急時モニタリングセンター(EMC)の概要
10:10～10:20	休憩
10:20～10:30	実習概要の説明
10:30～12:00	実習(施設の養生)
12:00～13:00	休憩
13:00～13:30	試料前処理の概要説明
13:30～14:30	ゲルマニウム(Ge)半導体検出器の概要説明
14:30～14:35	休憩
14:35～15:10	分析結果のRAMIS登録訓練
15:10～15:20	講評
15:20～15:30	閉会(アンケート、修了証)

＜実動訓練：測定採取班＞

2日目	
時間	内容
9:30～9:40	開会・イントロダクション
9:40～10:10	講義 緊急時モニタリングセンター(EMC)の概要
10:10～10:40	モニタリング情報共有システム(ラムセス)説明
10:40～10:50	休憩
10:50～12:00	活動準備 ・サーベイメータ取扱説明 ・可搬型モニタリングポスト取扱説明 ・蛇口水及び土壌の採取法 ・RAMPU操作説明 ・防護着の着装、脱装及び個人線量計の取り扱い
12:00～13:00	休憩
13:00～16:10	演習 ・可搬型モニタリングポスト設置 ・走行サーベイ ・環境試料の採取
16:10～16:20	休憩
16:20～16:50	振返り、講評
16:50～17:00	閉会(アンケート、修了証)

【道府県 D】

1日目	
時間	内容
9:30～9:35	開会・イントロダクション
9:35～10:30	操作実習1 EMC設置機器操作実習(RAMIS、PC等)
10:30～10:35	休憩
10:35～11:30	操作実習2 EMC設置機器操作実習(NISS)
11:30～12:30	休憩
12:30～13:30	机上訓練ガイダンス(状況確認、役割分担等)
13:30～14:40	机上訓練ステップ1(SE)
14:40～15:40	机上訓練ステップ2-1(GE:放射性物質の放出前)
15:40～15:55	振返り
15:55～16:00	事務連絡

2日目	
時間	内容
9:30～9:50	状況説明
9:50～11:20	机上訓練ステップ2-2(GE:放射性物質放出)
11:20～11:30	振返り
11:30～12:30	休憩
12:30～12:40	状況確認
12:40～14:40	机上訓練ステップ3(GE:放射性物質の沈着後)
14:40～14:50	休憩
14:50～15:50	訓練全体の振返り
15:50～16:00	閉会(アンケート、修了証)

【道府県 E】

1日目	
時間	内容
11:00～11:05	開会
11:05～11:35	講義 EMCの活動について
11:35～11:40	休憩
11:40～12:30	操作実習1 EMC設置機器操作実習(RAMIS、PC等)
12:30～13:30	休憩
13:30～14:20	操作実習2 EMC設置機器操作実習(NISS)
14:20～14:25	休憩
14:25～15:25	机上訓練ガイダンス(状況確認、役割分担等)
15:25～16:45	机上訓練ステップ1
16:45～17:00	ステップ1の振り返り、評価者からのアドバイス
17:00	事務連絡等

2日目	
時間	内容
9:30～9:50	状況確認
9:50～11:50	机上訓練ステップ2
11:50～12:00	ステップ2の振り返り
12:00～13:00	休憩
13:00～13:10	状況確認
13:10～15:10	机上訓練ステップ3
15:10～15:20	休憩
15:20～16:20	訓練全体の振り返り
16:20～16:30	閉会(アンケート、修了証)

【道府県 F】

1日目	
時間	内容
9:00～9:05	開会・イントロダクション
9:05～9:30	机上訓練ガイダンス
9:30～11:00	設置機器操作実習、役割分担の確認
11:00～12:00	休憩
12:00～13:10	机上訓練ステップ2(GE:放射性物質の放出中)
13:10～13:30	状況説明
13:30～15:30	机上訓練ステップ3(GE:放射性物質の沈着後)
15:30～15:55	振り返り、講評
15:55～16:00	閉会(アンケート、修了証)

【道府県 G】

1日目	
時間	内容
9:30～9:45	開会・イントロダクション
9:45～10:20	講義 緊急時モニタリングセンター(EMC)の概要
10:20～11:05	操作実習1 EMC設置機器操作実習(PC等、RAMIS)
11:05～11:15	休憩
11:15～12:00	操作実習2 EMC設置機器操作実習(情報の流れ、NISS)
12:00～13:00	休憩
13:00～14:10	活動訓練ガイダンス
14:10～15:15	活動訓練(ステップ1施設敷地緊急事態)
15:15～16:15	活動訓練(ステップ2-1全面緊急事態_放射性物質の放出前)
16:15～16:30	振返り、評価員からのアドバイス、事務連絡

2日目	
時間	内容
9:30～9:50	状況確認
9:50～11:50	活動訓練(ステップ2全面緊急事態_放射性物質の放出中)
11:50～12:00	振返り
12:00～13:00	休憩
13:00～13:10	状況説明
13:10～15:10	活動訓練(ステップ3全面緊急事態_放射性物質の沈着後)
15:10～15:20	休憩
15:20～16:20	訓練全体の振返り
16:20～16:30	閉会(アンケート、修了証)

【道府県 H】

＜机上訓練＞

1日目	
時間	内容
9:30～9:35	開会・イントロダクション
9:35～10:25	操作実習1 EMC設置機器操作実習(RAMIS、PC等)
10:25～10:30	休憩
10:30～11:20	操作実習2 EMC設置機器操作実習(NISS)
11:20～11:30	休憩
11:30～12:30	机上訓練ガイダンス(状況確認、役割分担等)
12:30～13:30	休憩
13:30～14:10	机上訓練ステップ1-1
14:10～15:30	机上訓練ステップ1-2
15:30～16:45	机上訓練ステップ2-1
16:45～17:00	振返り、講評
17:00	事務連絡

2日目	
時間	内容
9:30～9:50	状況確認
9:50～11:30	机上訓練ステップ2-2
11:30～11:40	振返り
11:40～12:40	休憩
12:40～13:00	状況確認
13:00～15:10	机上訓練ステップ3
15:10～15:20	休憩
15:20～16:20	訓練全体の振返り
16:20～16:30	閉会(アンケート、修了証)

＜実動訓練＞

2日目	
時間	内容
9:30～9:35	開会・イントロダクション
9:35～10:00	実動訓練ガイダンス(状況確認、役割分担等)
10:00～11:30	実動訓練(可搬型モニタリングポストの設置)
11:30～12:30	休憩
12:30～12:50	状況確認
12:50～15:50	実動訓練(走行サーベイ、土壌採取、飲料水回収)
15:50～16:00	休憩
16:00～16:20	実動訓練の振返り
16:20～16:30	閉会(アンケート、修了証)

【道府県 I】

1日目	
時間	内容
10:00～10:05	開会・イントロダクション
10:05～10:15	講義 道府県Iの緊急時モニタリング要領について
10:15～10:55	操作実習1 EMC設置機器操作実習(RAMIS、PC等)
10:55～11:35	操作実習2 EMC設置機器操作実習(NISS、情報の流れ)
11:35～11:40	休憩
11:40～12:30	机上訓練ガイダンス(状況確認、役割分担等)
12:30～13:30	休憩
13:30～14:00	机上訓練ステップ1-1(AL)
14:00～14:10	振返り
14:10～15:25	机上訓練ステップ1-2(SE)
15:25～16:15	机上訓練ステップ2-1(GE:放射性物質放出前)
16:15～16:30	振返り、評価者からのアドバイス
16:30	事務連絡等

2日目	
時間	内容
10:00～10:20	状況確認
10:20～11:50	机上訓練ステップ2-2(GE:放射性物質放出中)
11:50～12:00	振返り
12:00～13:00	休憩
13:00～13:10	状況確認
13:10～15:10	机上訓練ステップ3(GE:放射性物質沈着後)
15:10～15:20	休憩
15:20～16:20	訓練全体の振返り
16:20～16:30	閉会(アンケート、修了証)

【道府県 J】

1日目	
時間	内容
9:30～9:50	ALの机上訓練ガイダンス
9:50～10:50	机上訓練ステップ1-1(AL)
10:50～11:00	休憩
11:00～11:10	開会・イントロダクション
11:10～12:10	操作実習1 EMC設置機器操作実習(RAMIS、NISS等)
12:10～13:10	休憩
13:10～14:10	机上訓練ガイダンス(状況確認、役割分担等)
14:10～15:35	机上訓練ステップ1-2(SE)
15:35～16:40	机上訓練ステップ2-1(GE:放射性物質放出前まで)
16:40～16:55	振返り
16:55～17:00	事務連絡等

2日目	
時間	内容
9:30～9:50	状況確認
9:50～11:35	机上訓練ステップ2-2(GE:放射性物質放出)
11:35～11:45	振返り
11:45～12:45	休憩
12:45～12:55	状況説明
12:55～15:00	机上訓練ステップ3(GE:放射性物質沈着後)
15:00～15:10	休憩
15:10～16:20	訓練全体の振返り
16:20～16:30	閉会(アンケート、修了証)

【道府県 K】

1日目	
時間	内容
12:30～12:35	開会・イントロダクション
12:35～13:20	操作実習1 EMC設置機器操作実習(機器取扱い、ビデオ通話システム、RAMIS)
13:20～14:05	操作実習2 EMC設置機器操作実習(NISS、情報の流れ)
14:05～14:15	休憩
14:15～15:00	机上訓練ガイダンス(状況確認、役割分担等)
15:00～16:20	机上訓練ステップ1(SE)
16:20～16:30	振返り、評価者からのアドバイス、事務連絡等

2日目	
時間	内容
9:30～9:50	状況確認
9:50～11:50	机上訓練ステップ2(GE:放射性物質の放出中)
11:50～12:00	振返り
12:00～13:00	休憩
13:00～13:10	状況確認
13:10～15:10	机上訓練ステップ3(GE:放射性物質の沈着後)
15:10～15:20	休憩
15:20～16:20	訓練全体の振返り
16:20～16:30	閉会(アンケート、修了証)

【道府県 L】

1日目	
時間	内容
9:30～9:40	開会・イントロダクション
9:40～10:40	操作実習1 EMC設置機器操作実習(RAMIS、PC等)
10:40～10:50	休憩
10:50～11:50	操作実習2 EMC設置機器操作実習(NISS)
11:50～12:50	休憩
12:50～14:00	机上訓練ガイダンス(状況確認、役割分担等)
14:00～15:10	机上訓練ステップ1(SE)
15:10～16:15	机上訓練ステップ2-1(GE:放射性物質放出前まで)
16:15～16:30	振返り、評価者からのアドバイス、事務連絡

2日目	
時間	内容
9:30～9:50	状況確認
9:50～11:50	机上訓練ステップ2-2(GE:放射性物質放出中)
11:50～12:00	振返り
12:00～13:00	休憩
13:00～13:10	状況確認
13:10～15:10	机上訓練ステップ3(GE:放射性物質沈着後)
15:10～15:20	休憩
15:20～16:20	訓練全体の振返り
16:20～16:30	閉会(アンケート、修了証)

【道府県 M】

1日目	
時間	内容
9:30～9:35	開会・イントロダクション
9:35～10:25	操作実習1 EMC設置機器操作実習(RAMIS、機器取扱い、ビデオ通話システム)
10:25～11:05	操作実習2 EMC設置機器操作実習(NISS、情報の流れ)
11:05～11:15	休憩
11:15～12:00	机上訓練ガイダンス(状況確認、役割分担等)
12:00～13:00	休憩
13:00～13:30	机上訓練ステップ1-1(AL)
13:30～14:30	机上訓練ステップ1-2(SE)
14:30～16:20	机上訓練ステップ2(GE:放射性物質の放出)
16:20～16:30	振返り、評価者からのアドバイス、事務連絡

2日目	
時間	内容
9:30～9:50	状況確認
9:50～11:45	机上訓練ステップ3-1(GE:放射性物質地表面沈着後)
11:45～11:55	振返り
11:55～12:55	休憩
12:55～13:10	状況確認
13:10～15:10	机上訓練ステップ3-2(GE:放射性物質地表面沈着後)
15:10～15:20	休憩
15:20～16:20	訓練全体の振返り
16:20～16:30	閉会(アンケート、修了証)

付録2 緊急時モニタリング要員育成
ニュースレター

緊急時モニタリング要員育成 ニュースレター

令和6年度 第1号

令和7年3月3日発行
発行元:公益財団法人 原子力安全研究協会

本ニュースレターは、緊急時モニタリング要員育成の講座や訓練を受講された緊急時モニタリング関係者の皆様への情報提供を目的として発行いたします。

本号では、令和6年度モニタリング技術に関する基礎的な講座（福島参集型）についての報告、令和6年度原子力総合防災訓練の情報及びモニタリング技術に関する基礎的な講座プログラムのカスタマイズ例を掲載しております。

モニタリング技術に関する基礎的な講座（福島参集型）について（報告）

本講座は、「モニタリング技術に関する基礎的な講座」の修了程度の知識を有する者を対象に、福島県に参集し放射線環境下における実践的な野外モニタリング活動を通じて、野外モニタリング活動に関する知識と技術の定着を図ることを目的として、令和6年11月27日（水）～29日（金）の3日間で開催し、15名の方に受講いただきました。

講座では、福島県環境放射線センターの分析室や検体搬入室を見学させていただき、実習では、出勤準備から帰還後の汚染検査までの一連の活動を取り入れ、福島県及び大熊町のご協力のもと、帰還困難区域内において空間放射線量率の測定、環境試料（土壌や指標植物の松葉）の採取等を実施しました。講座最終日には、希望者を対象に東電廃炉資料館や福島第一原子力発電所、東日本大震災・原子力伝承館等の施設見学会も実施しました。

受講者アンケートでは「実際に汚染が発生する状況を体験できて今後非常に役立つと思いました。」、「普段できないモニタリング実習をすることができ、知識を広げることができた。」、「1班に1人ずつ講師がつき、詳しく教えて下さったので、間違った動きにリアルタイムで気付くことができて良かったです。」等の好評をいただきました。



松葉（指標生物）の採取
（低線量下での野外実習の様子）



空間放射線量率の測定



東日本大震災・
原子力災害伝承館の見学

令和6年度原子力総合防災訓練について

令和6年度の国の原子力総合防災訓練は、令和7年2月14日から16日にかけて、九州電力株式会社川内原子力発電所を対象として実施されました。

緊急時モニタリング実施計画の策定等を行うとともに、国、地方公共団体、原子力事業者及

び関係指定公共機関が連携して、航空機モニタリングを含めた緊急時における環境放射線のモニタリングが実施されました。

具体的な内容としては、最大震度 7 の地震発生に伴う通信異常や機器故障によって電子線量計等を含む固定局が 11 局欠測し、警戒事態では鹿児島県環境放射線チームの活動として、実働とリンクさせながら可搬型モニタリングポストを設置する訓練が実施されました。

施設敷地緊急事態以降では、緊急時モニタリング実施計画等の立案や意思決定が行われ、国、鹿児島県及び原子力事業者等が連携して、EMC の立ち上げ、緊急時モニタリングの実施、関係者間における緊急時モニタリング結果の情報共有等が行われました。また、放射性物質の沈着後の活動では、UPZ 内外(鹿児島県内)を対象とした有人・無人航空機モニタリングが併せて実施され、EMC にも航空機モニタリングの結果が共有されました。

今年度実施したモニタリング技術に関する基礎的な講座カスタマイズ例 (演習を中心としたプログラム) についてご紹介

一部地域では今年度の基礎的な講座で、測定分析担当測定・採取班の活動に対象を絞り、より実践的な演習に重点を置いた内容で実施しました。

主な実施項目は以下のとおりです。

- 可搬型 MP の設置・RAMIS への伝送確認
- 飲料水採取、土壌採取、空間放射線量率測定
- 大気モニタ・エアサンプラの遠隔起動方法の確認、ろ紙・カートリッジの設置・回収方法確認、カートリッジ組み立て方法の確認
- 走行サーベイ実走、走行結果確認、車両の養生説明、乗降の注意

演習の実施にあたっては、県の施設を利用して実際の出動の順路、帰還時の汚染検査順路に沿って実施しました。

受講者や講師からは、「走行サーベイと可搬型モニタリングポストを実際に操作できてよかった。」「実用的で、実際の現場作業に即した内容の講座に変更されているということで、とても有意義であったと思います。」等のお声をいただきました。

現地開催			
9:00 ~	9:10	10分	開会・イントロダクション
9:10 ~	10:10	60分	実習 1 緊急時モニタリング資機材の取扱い
10:10 ~	10:15	5分	休憩
10:15 ~	10:30	15分	実習 2 汚染拡大の見える化及び簡易除染
10:30 ~	11:00	30分	実習 3 環境試料(飲料水・土壌)の採取
11:00 ~	11:05	5分	休憩
11:05 ~	12:00	55分	演習 緊急時モニタリング活動 (1) ガイダンス・出動準備①
12:00 ~	13:00	60分	休憩
13:00 ~	13:30	30分	演習 緊急時モニタリング活動 (2) 測定・採取 1
13:30 ~	13:35	5分	休憩
13:35 ~	14:05	30分	演習 (3) 出動準備②
14:05 ~	14:35	30分	(4) 測定・採取 2
14:35 ~	15:20	45分	(5) 測定・採取 3
15:20 ~	15:50	30分	(6) 帰還時の対応
15:50 ~	16:00	10分	休憩
16:00 ~	16:40	40分	振り返り (受講者同士による意見交換・改善点抽出)
16:40 ~	16:50	10分	講評
16:50 ~	17:00	10分	理解度確認テスト・アンケート・修了証授与 閉会

演習を中心としたプログラム例

演習の説明や準備作業【例】

- ・指示書の説明
- ・班長の決定、作業分担の確認
- ・資機材の準備
- ・測定器の動作確認
- ・汚染拡大防止実習
- ・簡易除染実習
- ・その他資機材の取扱い

本ニュースレターに関する問い合わせ先

原子力規制庁委託事業緊急時モニタリング要員育成事務局

公益財団法人 原子力安全研究協会 放射線災害医療研究所

TEL : 050-9001-2823 e-mail : moni-ken@nsra.or.jp

緊急時モニタリング要員育成ホームページ <https://www.moni-jinzai.jp/>

緊急時モニタリング要員育成 e ラーニング <https://moni-jinzai.learning-ware.jp/>

緊急時モニタリング要員育成 ニュースレター

令和6年度 第2号

令和7年3月14日発行
発行元: 公益財団法人 原子力安全研究協会

本ニュースレターは、緊急時モニタリング要員育成の講座や訓練を受講された緊急時モニタリング関係者の皆様への情報提供を目的として発行いたします。

本号では、令和6年度緊急時モニタリング要員育成事業の実施報告、EMC 活動訓練良好事例集のご紹介、e ラーニングコンテンツ新規掲載のお知らせを掲載しております。

令和6年度の緊急時モニタリング要員育成事業について（報告）

今年度の緊急時モニタリング要員育成事業では、野外での緊急時モニタリング及び緊急時モニタリングセンター(EMC)に従事する皆様を対象とし、「モニタリング技術に関する基礎的な講座」及び「EMC 活動訓練」等を実施しました。

モニタリング技術に関する基礎的な講座

モニタリング技術に関する基礎的な講座では、放射線の基礎、モニタリング資機材の使用方法、環境試料の採取方法、野外モニタリング活動時の放射線防護といった緊急時モニタリングを適切に実施するために必要な知識及び技術習得のための講義及び実習を行いました。講義については、受講者の利便性を鑑みeラーニングで提供しました。実習では、国が所有する緊急時モニタリング資機材の概要説明や演習に重点を置いたプログラムを取り入れるなど、地域の要望に応じてカスタマイズをして実施しました。演習では、前年度に選択実習として好評であった汚染の見える化及び簡易除染を取り入れて実施し、24 地域の合計 356 名の方に受講いただきました。

また、福島参集型講座として全開催地域を受講対象とした講座を福島県内で開催し、15 名の方に受講いただきました。



放射線の性質確認



緊急時モニタリング資機材の
取扱い



汚染の見える化及び簡易除染

EMC 活動訓練

EMC 活動訓練では、EMC の役割、体制及び活動に関する知識の習得を目的とした机上訓練を 13 地域で実施し、合計 338 名の方に受講いただきました。

今年度は新たな試みとして、「“訓練”の意味合いの理解の浸透」促進のため、「訓練参加の心構え」を訓練ガイダンスで説明しました。また、地域の要望に応じて、令和6年能登半島地震の教訓を反映し、複数の欠測局の発生、停電情報及び断水情報をシナリオに盛り込んだ訓練を実施しました。



机上訓練の様子①



机上訓練の様子②



机上訓練振り返り

実践演習（オンライングループワーク）

緊急時モニタリング業務に従事する地方公共団体職員等を対象に、オンラインによるグループワークを実施しました。7 月に「緊急時モニタリング指示書作成講座」（指示書作成における重要ポイントの講義、事前課題である指示書記載内容の改善点等の議論）を 2 回、「緊急時モニタリング企画コース」（付与情報に基づき制限時間内に緊急時モニタリングの実施内容を議論）を 2 回、1 月に「緊急時モニタリング実施コース」（野外での緊急時モニタリング活動で遭遇する予期せぬ状況への対処について議論）を 3 回実施しました。

EMC 活動訓練良好事例集のご紹介

今年度より、各地域での継続的な改善活動にお役立ていただくため、EMC 活動訓練における良好事例を集約し、活用できる資料として良好事例集を作成いたしました。

良好事例集では、

A.計画（防災計画・マニュアル等）

B.リソース（要員・資器材等）

C.個人能力（技術、意識・理解等）

D.組織能力（情報管理、意思決定、指揮統制、連携等）

の4つのカテゴリに分けて、各地域における良好事例をピックアップし、事例の内容について取りまとめています。

本事業 e ラーニングのライブラリに掲載しておりますので、ぜひご活用いただければと思います。

EMC 活動訓練における良好事例集		
事例	国所有の可搬型 MP の操作訓練	事例番号 C - 002
分類	☐ A.計画(防災計画・マニュアル等) ☐ B.リソース(要員・資器材等) ☒ C.個人能力(技術、意識・理解等) ☐ D.組織能力(情報管理、意思決定、指揮統制、連携等)	
事例の内容	【要約】 ・ステップ3において、国所有の可搬型 MP だけでは避難所への対応ができないシナリオとして、国所有の可搬型 MP の設置に向け、設置手順を確認した。 ・国所有の可搬型 MP の設置方法については、情報収集管理 Gr 長の上席放射線防災専門員が EMC 要員への説明を行い、操作訓練を実施した。 ・情報収集管理 Gr 長が不在の際は、情報員が Gr 長代理を務め、役割を交代した訓練が実施できた。	
図・写真		

良好事例の掲載例

e ラーニングコンテンツ新規掲載のお知らせ

e ラーニングの福島原発事故コンテンツに新たに、福島県の隣接県である茨城県における事故直後のモニタリング活動に関する対談を掲載しました。ぜひご覧ください。

編集後記

今年度も無事に本事業の全ての講座、訓練を開催することができました。開催にあたりご協力いただきました関係者の皆さま、ご参加いただきました受講者の皆さまにこの場を借りて御礼申し上げます。

本ニュースレターに関する問い合わせ先

原子力規制庁委託事業緊急時モニタリング要員育成事務局

公益財団法人 原子力安全研究協会 放射線災害医療研究所

TEL：050-9001-2823 e-mail：moni-ken@nsra.or.jp

緊急時モニタリング要員育成ホームページ <https://www.moni-jinzai.jp/>

緊急時モニタリング要員育成 e ラーニング <https://moni-jinzai.learning-ware.jp/>

付録 3 理解度確認テスト

モニタリング技術に関する基礎的な講座 理解度確認テスト

※ e ラーニングで講義と確認テストを受講済みの方は、設問⑪～⑳のみにお答えください。

※ 回答欄に記入後、紙を切り離して、2 枚目を提出してください。1 枚目はお持ち帰りください。

設問		回答欄
① (講義 1)	透過力（物を突き抜ける力）が高いため、遮へいするには鉛などの密度の大きい物質が必要となる放射線は（ ）である。 A. α （アルファ）線 B. β （ベータ）線 C. γ （ガンマ）線 D. わからない	
② (講義 1)	放射能（放射線を出す能力）の大きさを表す単位は（ ）である。 A. Bq（ベクレル） B. Gy（グレイ） C. Sv（シーベルト） D. わからない	
③ (講義 1)	しきい値以上の放射線を受けた時に脱毛や紅斑などの症状が現れるもので、その症状の重さは、受けた放射線量に依存する影響を（ ）という。 A. 確率的影響 B. 遺伝性影響 C. 確定的影響（組織反応） D. わからない	
④ (講義 2)	防護措置の実施を判断するための基準は、空間放射線量率や環境試料中の放射性物質の濃度などの、計測可能な値で表される「運用上の介入レベル（ ）」に基づく。 A. OIL B. EAL C. PAZ D. わからない	
⑤ (講義 2)	発電用原子炉施設（原子力発電所）における原子力災害対策重点区域に関して、緊急防護措置を準備する区域（UPZ）は、その施設からおおむね半径（ ）である。 A. 5km B. 10km C. 30km D. わからない	
⑥ (講義 2)	運用上の介入レベル 2 は、経口摂取による被ばく影響を防止するため地域生産物の摂取を制限するとともに、住民等を 1 週間程度以内に一時移転するための基準であり、初期設定値は空間放射線量率で（ ） $\mu\text{Sv/h}$ である。 A. 5 B. 20 C. 500 D. わからない	
⑦ (講義 2)	緊急時モニタリングセンター（EMC）は、原子力施設が緊急事態の初期対応段階の（ ）に至ったときに国の統括のもと立ち上げられる。 A. 警戒事態 B. 施設敷地緊急事態 C. 全面緊急事態 D. わからない	
⑧ (講義 3)	原子炉施設の事故で大気へ放出される可能性がある放射性物質は（ ）や放射性ヨウ素、放射性セシウム等である。 A. 放射性希ガス B. ウラン C. プルトニウム D. わからない	
⑨ (講義 3)	30 $\mu\text{Sv/h}$ を超えるような線量率レベルの測定には、主に（ ）サーベイメータを用いる。 A. NaI (TI) シンチレーション式 B. GM 計数管式 C. 電離箱式 D. わからない	
⑩ (講義 3)	気体の放射性ヨウ素の濃度を測定するためには、（ ）を装備したエアサンプラで大気試料を採取する。 A. 集じんろ紙 B. 活性炭カートリッジ C. ポリエチレンろ紙 D. わからない	
⑪ (実習 1)	サーベイメータによる測定では、選択した時定数の（ ）倍の時間が経過した後に値を読む。 A. 1 B. 3 C. 5 D. わからない	
⑫ (実習 1)	γ 線のような透過力の高い放射線を効果的に弱められる遮へい材は、（ ）である。 A. アクリル板 B. 鉄 C. 鉛 D. わからない	
⑬ (実習 2)	可搬型モニタリングポストは、屋外で（ ）の連続測定を行うことができる。 A. 空間放射線量率 B. 被ばく線量 C. 身体汚染 D. わからない	
⑭ (実習 3)	空間放射線量率をサーベイメータで測定する場合の測定高さは、原則として地表面から（ ）とする。 A. 10cm B. 1m C. 2m D. わからない	
⑮ (実習 3)	空間放射線量率をサーベイメータで測定する場合、測定器の（ ）を避けるため、ポリエチレン袋等で覆う（養生する）。 A. 被ばく B. 汚染 C. 故障 D. わからない	
⑯ (実習 4)	環境試料採取の際には、（ ）が起こらないように、試料を採取する人と補助する人をあらかじめ決めておき、試料や器材等の受け渡しを行う。 A. 遮へい B. 線量低下 C. 汚染の拡大 D. わからない	
⑰ (演習)	被ばく線量を把握し管理するために、（ ）を装着して出勤することが重要である。 A. 防護服 B. 個人線量計 C. 防護マスク D. わからない	
⑱ (演習)	マスクは放射性物質の吸入を防ぐ目的で装着するが、防護服（タイベックスーツ等）を装着する直接的な目的は（ ）を防ぐためである。 A. 外部被ばく B. 内部被ばく C. 身体汚染 D. わからない	
⑲ (演習)	表面汚染密度の測定には、（ ）サーベイメータが適している。 A. NaI (TI) シンチレーション式 B. GM 計数管式 C. 電離箱式 D. わからない	
⑳ (演習)	全面緊急事態以降、作業員が屋外モニタリング活動後に帰還したときに、被ばく管理のため確認が必要なのは（ ）である。 A. モニタリングカーの汚染の有無 B. モニタリング活動に使用した資機材の使用量 C. 体表面の汚染の有無と個人線量計の数値 D. わからない	

モニタリング技術に関する基礎的な講座 理解度確認テスト（解答）

【講義】

設 問		正解	解 説
1	透過力（物を突き抜ける力）が高いため、遮へいするには鉛などの密度の大きい物質が必要となる放射線は（ ）である。 A. α （アルファ）線 B. β （ベータ）線 C. γ （ガンマ）線 D. わからない	C	紙1枚で止められる α 線や、数mmのアルミ板で止められる β 線とは異なり、 γ 線は透過力が高いため、これを止めるためには鉛のような密度の大きい遮蔽材が必要になります。 γ 線が体に当たった場合、体の奥深くまで到達し、通り抜けることもあります。
2	放射能（放射線を出す能力）の大きさを表す単位は（ ）である。 A. Bq（ベクレル） B. Gy（グレイ） C. Sv（シーベルト） D. わからない	A	放射能の大きさを表す単位は、Bq（ベクレル）です。Sv（シーベルト）は放射線の人体への影響を考慮した放射線量の単位で（放射線を受ける側の単位）であり、放射線を受けた物質が吸収したエネルギー量（J/kg）を示します。
3	しきい値以上の放射線を受けた時に脱毛や紅斑などの症状が現れるもので、その症状の重さは、受けた放射線量に依存する影響を（ ）という。 A. 確率的影響 B. 遺伝性影響 C. 確定的影響（組織反応） D. わからない	C	しきい値以上の線量を被ばくした場合に症状が現れる影響を、確定的影響（組織反応）と言います。しきい値以上を被ばくしない限り発生することはなく、被ばくしたあと数時間から数週間以内に症状が現れる早期影響と晩発影響に分類されます。また、がんや遺伝性疾患などの確率的影響では、しきい値はなく、線量に比例した発症確率の増加があると仮定しています。
4	防護措置の実施を判断するための基準は、空間放射線量率や環境試料中の放射性物質の濃度などの、計測可能な値で表される「運用上の介入レベル（ ）」に基づく。 A. OIL B. EAL C. PAZ D. わからない	A	全面緊急事態に至って放射性物質が環境中に放出された場合には、運用上の介入レベル（OIL：Operational Intervention Level）に基づいて緊急時防護措置を実施します。OILは、空間放射線量率や環境試料中の放射性物質の濃度など、計測可能な値で示されています。
5	発電用原子炉施設（原子力発電所）における原子力災害対策重点区域に関して、緊急防護措置を準備する区域（UPZ）は、その施設からおおむね半径（ ）である。 A. 5km B. 10km C. 30km D. わからない	C	原子力発電所の場合、緊急防護措置を準備する区域（UPZ）については、おおむね半径30kmとなります。予防的防護措置を準備する区域（PAZ）はその施設からおおむね半径5kmとなります。また、発電用原子炉施設ではない施設（再処理施設や加工施設等）においては、これとは異なる範囲のUPZが定められています。

設 問		正解	解 説
6	運用上の介入レベル2は、経口摂取による被ばく影響を防止するため地域生産物の摂取を制限するとともに、住民等を1週間程度以内に一時移転するための基準であり、初期設定値は空間放射線量率で() $\mu\text{Sv/h}$ である。 A.5 B.20 C.500 D.わからない	B	緊急防護措置を準備する区域 (UPZ) においては、地上1mで計測した場合の空間放射線量率が $20\mu\text{Sv/h}$ を超えた場合は「運用上の介入レベル」(OIL) 2となり、1日以内を目的に特定の区域での生産物摂取を制限し、1週間程度以内に一時移転を実施することとなります。
7	緊急時モニタリングセンター (EMC) は、原子力施設が緊急事態の初期対応段階の() に至ったときに国の統括のもと立ち上げられる。 A.警戒事態 B.施設敷地緊急事態 C.全面緊急事態 D.わからない	B	施設敷地緊急事態に該当する事象 (原災法第10条通報事象に相当) があつた場合、国、地方公共団体、関係指定公共機関、原子力事業者は緊急時モニタリングを開始します。また、施設敷地緊急事態に至っていない情報収集事態、警戒事態からも、事態の進展を把握するためモニタリングを強化し、警戒事態において、緊急時モニタリングの準備をします。
8	原子炉施設の事故で大気へ放出される可能性がある放射性物質は() や放射性ヨウ素、放射性セシウム等である。 A.放射性希ガス B.ウラン C.プルトニウム D.わからない	A	原子炉施設から大気へ放出される可能性がある放射性物質には、クリプトンやセシウム等の放射性希ガス、揮発性の放射性ヨウ素、気体中に浮遊する放射性の微粒子などがあります。ウランやプルトニウムは重い元素であるため、敷地外に漏洩することはありません。大気中に放出されて広く拡散することはありません。
9	$30\mu\text{Sv/h}$ を超えるような線量率レベルの測定には、主に() サーマイメータを用いる。 A.NaI(Tl)シンチレーション式 B.GM計数管式 C.電離箱式 D.わからない	C	空間放射線量率を測定する際には、測定対象となるエリアの空間放射線量率レベルに応じて適切なサーバイメータを選択する必要があります。バックグラウンドレベルから $30\mu\text{Sv/h}$ 程度までは NaI(Tl) シンチレーション式サーバイメータを使用しますが、それ以上の線量率の場合は、電離箱式サーバイメータを使用します。
10	気体の放射性ヨウ素の濃度を測定するためには、() を装備したエアサンプラで大気試料を採取する。 A.集じんろ紙 B.活性炭カートリッジ C.ポリエチレンろ紙 D.わからない	B	エアサンプラでは、粒子状の放射性物質を集じんろ紙で、ガス状の放射性物質を活性炭カートリッジでそれぞれ採取します。従って、気体の放射性ヨウ素の濃度を測定するためには、活性炭カートリッジを用いて試料を採取する必要があります。

【実習】

設 問		正解	解 説
11	サーベイメータによる測定では、選択した時定数の（ ）倍の時間が経過した後、値を読む。 A.1 B.3 C.5 D.わからない	B	時定数とは、応答性の度合いを表した定数のことです。時定数と表示値の関係から、正確な値を読み取るためには時定数の 3 倍以上の時間が必要とされています。時定数と同じ時間の測定では最終値の 63% しか到達しませんが、時定数の 3 倍待って測定することで 95% 程度まで到達することができます。
12	γ線のような透過力の高い放射線を効果的に弱められる遮へい材は、（ ）である。 A.アクリル板 B.鉄 C.鉛 D.わからない	C	γ線は透過力が高いため、これを止めるためには鉛のような密度の大きい遮蔽材が必要になります。実習 1 の「γ線に対する遮へい効果」で確認した通り、鉛のように密度の高い物質（原子番号の大きな物質）の方がより効果的に放射線を弱めることができます。
13	可搬型モニタリングポストは、屋外で（ ）の連続測定を行うことができる。 A.空間放射線量率 B.被ばく線量 C.身体汚染 D.わからない	A	可搬型モニタリングポストは、固定観測局が測定不能になった場合に代替で設置されたり、任意の場所における測定を行ったりするものがあり、空間放射線量率を連続的に測定します。また、被ばく線量は個人線量計で、身体汚染は GM 管式サーベイメータ等で測定します。
14	空間放射線量率をサーベイメータで測定する場合の測定高さは、原則として地表面から（ ）とする。 A.10cm B.1m C.2m D.わからない	B	空間放射線量率を測定する際は高さ 1m の治具を使用し、測定点の真上に検出器の実効中心が来るようにします。検出器は地面と水平にしてできるだけ体から離し、検出器の向きは発災地の方向に合わせます。
15	空間放射線量率をサーベイメータで測定する場合、測定器の（ ）を避けるため、ポリエチレン袋等で覆う（養生する）。 A.被ばく B.汚染 C.故障 D.わからない	B	各種サーベイメータで測定をする場合、測定器や検出器部分に放射性物質が付着（汚染）すると正しい測定値が得られなくなるため、事前にポリエチレン袋等で全体を覆います（養生します）。養生したサーベイメータのポリエチレン袋等が汚染した場合には、適宜ポリエチレン袋等を取り替えます。

設 問		正解	解 説
16	環境試料採取の際には、() が起こらないように、試料を採取する人と補助する人をあらかじめ決めておき、試料や器材等の受け渡しを行う。 A.遮へい B.線量低下 C.汚染の拡大 D.わからない	C	試料を採取する際には、放射性物質による汚染の拡大を防止するため、試料に触れる人（採取する人）と触れない人（補助する人）をあらかじめ決めておき、試料の袋への受け渡し等を行うようにします。
17	被ばく線量を把握し管理するために、() を装着して出勤することが重要である。 A.防護服 B.個人線量計 C.防護マスク D.わからない	B	個人線量計は、体幹部（胸あるいは腹部）に装着します。実際に受けた被ばく線量の積算量を計測することができ、これらの値を用いて外部被ばく線量を管理することが可能です。防護服は放射性物質の付着による汚染を防ぐもので、また防護マスクは吸入による内部被ばくを防ぐものであり、いずれも「外部被ばくの管理」を目的としたものではありません。
18	マスクは放射性物質の吸入を防ぐ目的で装着するが、防護服（タイベックスーツ等）を装着する直接的な目的は () を防ぐためである。 A.外部被ばく B.内部被ばく C.身体汚染 D.わからない	C	タイベックスーツ等の防護服は、放射性物質の付着による身体汚染を防ぐために装着するものであり、 γ 線などの放射線はほぼ100%透過してしまいうため、これを防ぐことはできません。従って、あくまで放射性物質による汚染を防ぐものであり、放射線による外部被ばくを防ぐものではありません。
19	表面汚染密度の測定には、() サーベイメータが適している。 A.NaI(Tl)シンチレーション式 B.GM 計数管式 C.電離箱式 D.わからない	B	表面汚染密度の測定には、バックグラウンドの影響を受け難く対象物の表面汚染を比較的正確に測定できるという理由から、GM 計数管式サーベイメータを用います。また、 α 線を放出する放射性物質による汚染を測定する場合は、ZnS(Ag)シンチレーション式サーベイメータを用います。
20	全面緊急事態以降、作業員が屋外モニタリング活動後に帰還したときに、被ばく管理のため確認が必要なのは () である。 A.モニタリングカーの汚染の有無 B.モニタリング活動に使用した資機材の使用量 C.体表面の汚染の有無と個人線量計の数値 D.わからない	C	放射線環境下にある屋外でモニタリング活動を実施して帰還した場合は、活動中に個人が受けた外部被ばく線量を確認することはもちろんのこと、放射性物質による体表面の汚染の有無を確認することも重要です。また、場合によっては内部被ばくの検査も必要になります。

付録4 アンケート用紙

令和6年度原子力規制庁委託 緊急時モニタリング要員育成事業
モニタリング技術に関する基礎的な講座 受講者アンケート

本日は、本講座を受講いただきありがとうございました。本講座の充実・改善のため、率直なご意見・ご感想をお聞かせください。ご協力をお願いいたします。

1. 受講者ご本人について伺います。該当する選択肢にチェックを入れてください。

所属	☐ 原子力・環境監視センター等 ☐ 道府県庁（左を除く） ☐ 市町村 ☐ 消防・警察関係 ☐ その他（ ）			
年齢	☐ ～30歳 ☐ 31～40歳 ☐ 41～50歳 ☐ 51歳～			
原子力防災・放射線関連業務経験年数	☐ 1年未満 ☐ 1年以上3年未満 ☐ 3年以上5年未満 ☐ 5年以上			
原子力災害発生時の役割	☐ EMC要員 ☐ その他（ ） ☐ わからない			
原子力防災関連研修、訓練への参加経験	研修（他団体含む）	☐ あり	☐ なし	
	訓練	☐ あり	☐ なし	
受講プログラム	☐ すべて受講 ☐ 実習1 ☐ 実習2 ☐ 実習3 ☐ 実習4 ☐ 演習			

2. 本講座のプログラム構成や受講の手ごたえなどについて、所感を伺います。
該当する選択肢にチェックを入れてください。また、回答の理由もご記入ください。

1) 本講座の満足度について伺います。				
小	満足度			大
☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
【理由】				
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。				
☐ 対応できる ☐ フォローがあれば対応できる ☐ あまり対応できない ☐ 対応できない 【理由、その他の内容】				
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立つ内容でしたか。				
☐ 十分に役に立つ ☐ 役に立つ ☐ あまり役立たない ☐ 役立たない 【理由】				
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。 eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。				
☐ 講義はeラーニングでよい ☐ 講義も集合研修で実施してほしい ☐ どちらでもよい 【理由】				
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。				
☐ 非常に役に立った ☐ 役立った ☐ あまり役立たなかった ☐ 役立たなかった 【理由】				

4) 実習 4 環境試料の採取

①時間配分	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
②配付資料	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
③指導方法	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
④理解度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
⑤満足度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
【理由・感想等】				

5) 演習 緊急時モニタリング活動

①時間配分	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
②配付資料	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
③指導方法	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
④理解度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
⑤満足度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
【理由・感想等】				

4. 本講座全般に関するご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

【ご意見・ご要望】

5. 本講座の内容や緊急時モニタリングについてご質問がございましたらご記入ください。

【ご質問】

※回答を希望される方は、以下の欄に氏名・連絡先をご記入ください。

【氏名】

【連絡先】※メールアドレス等

質問は以上です。ご協力いただきありがとうございました。

令和6年度原子力規制庁委託 緊急時モニタリング要員育成
モニタリング技術に関する基礎的な講座 講師アンケート

氏名： _____

本日は、本講座の開催にご助力賜りまして、誠にありがとうございました。今後、本講座を充実・改善していくための参考といたく、下記アンケートへのご協力をお願いいたします。

1. 各プログラムに関する評価を教えてください。該当する評価にチェックをしてください。
問題点など改善を要する点は自由記述欄に具体的にご記入ください。

実習1 放射線の性質確認

①進め方、説明の仕方	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
②受講者の理解・反応	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
③スライド等の教材	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
④時間の長さ	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
【自由記述】				

実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い

①進め方、説明の仕方	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
②受講者の理解・反応	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
③スライド等の教材	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
④時間の長さ	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
【自由記述】				

実習3 空間放射線量率の測定

①進め方、説明の仕方	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
②受講者の理解・反応	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
③スライド等の教材	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
④時間の長さ	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
【自由記述】				

実習 4 環境試料の採取

①進め方、説明の仕方	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
②受講者の理解・反応	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
③スライド等の教材	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
④時間の長さ	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
【自由記述】				

演習 緊急時モニタリング活動

①進め方、説明の仕方	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
②受講者の理解・反応	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
③スライド等の教材	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
④時間の長さ	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
【自由記述】				

2. 指導のポイントなどの講師全体で共有しておくべき事項をご記入ください。また、受講者から受けた質問がありましたら、その質問と回答について教えてください。

【共有事項】	
【受講者からの質問】	☐ あり ☐ なし

3. その他、お気づきの点がございましたらご記入ください。

質問は以上です。ご協力いただきありがとうございました。

令和6年度原子力規制庁委託 緊急時モニタリング要員育成事業
EMC活動訓練 受講者アンケート

本日は、本訓練を受講いただきありがとうございました。本訓練の充実・改善のため、率直なご意見・ご感想をお聞かせください。ご協力をお願いいたします。

1. 受講者ご本人について伺います。該当する選択肢にチェックを入れてください。

所属	☐ 原子力・環境監視センター等 ☐ 市町村 ☐ 原子力規制庁 ☐ 道府県庁（左を除く） ☐ 指定公共機関 ☐ 原子力事業者 ☐ その他（ ）
所属部署の属性	☐ 環境放射線モニタリング担当部署 ☐ 原子力防災関連部署（上を除く） ☐ その他
年齢	☐ ～30歳 ☐ 41～50歳 ☐ 31～40歳 ☐ 51歳～
原子力防災・放射線関連業務経験年数	☐ 1年未満 ☐ 3年以上5年未満 ☐ 1年以上3年未満 ☐ 5年以上
原子力防災関連研修、訓練への参加経験	研修（他団体含む） ☐ あり ☐ なし 訓練（EMC要員として） ☐ あり ☐ なし
本EMC活動訓練参加回数	☐ 0回（初めて） ☐ 4～5回 ☐ 1回 ☐ 6～9回 ☐ 2回 ☐ 10回以上 ☐ 3回
本日の訓練での役割	☐ センター長 ☐ 企画調整グループ ☐ 測定分析担当（道府県） ☐ その他（ ） ☐ センター長代理 ☐ 情報収集管理グループ ☐ 測定分析担当（UPZ外）

2. 本訓練のプログラム構成や受講の手ごたえなどについて、所感を伺います。
該当する選択肢にチェックを入れてください。また、回答の理由もご記入ください。

1) 本訓練の満足度について伺います。	
小 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 大 【理由】	満足度
2) 本訓練を受講したことで、EMC活動に対応できるようになりましたか。	
☐ 対応できる ☐ フォローがあれば対応できる ☐ あまり対応できない ☐ 対応できない 【理由、その他の内容】	
3) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立つ内容でしたか。	
☐ 十分に役に立つ ☐ 役に立つ ☐ あまり役立たない ☐ 役立たない 【理由】	

3. 本訓練の各プログラムについての評価を伺います。該当する評価にチェックを入れてください。
また、評価の理由も具体的に教えてください。

1) 講義 緊急時モニタリングセンター（EMC）の概要

①時間配分	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
②配付資料	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
③指導方法	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
④理解度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
⑤満足度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
【理由・感想等】				

2) 操作実習 EMC設置機器（PC等）、RAMISの操作方法

①時間配分	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
②配付資料	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
③指導方法	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
④理解度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
⑤満足度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
【理由・感想等】				

3) 操作実習 クロノロジーシステム（NISS）の操作方法、EMC情報の流れ

①時間配分	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
②配付資料	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
③指導方法	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
④理解度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
⑤満足度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
【理由・感想等】				

4) 机上訓練 ステップ1 施設敷地緊急事態（SE）の活動

①時間配分	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
②配付資料	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
③活動内容	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
④理解度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
⑤満足度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
【理由・感想等】				

①時間配分	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
②配付資料	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
③活動内容	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
④理解度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
⑤満足度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
【理由・感想等】				

①時間配分	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
②配付資料	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
③活動内容	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
④理解度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
⑤満足度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
【理由・感想等】				

1) EMC活動訓練について拡充させてほしいコンテンツを教えてください（複数選択可）。 ☐ EMC活動の基本(各班別) ☐ クロノロジーシステムの操作 ☐ RAM I Sの操作 ☐ 設置機器(P C等)の操作 ☐ その他（ ）
2) EMC活動訓練コンテンツは、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。 未受講の方は回答不要です（質問5へ）。 ☐ 非常に役に立った ☐ 役立った ☐ あまり役立たなかった ☐ 役立たなかった 【理由】

1) どの実践演習を受講されましたか。過年度の受講も含めてご回答ください。			
☐ 指示書作成講座	☐ 企画コース	☐ 実施コース	☐ わからない
2) 実践演習は、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。			
☐ 非常に役に立った	☐ 役立った	☐ あまり役立たなかった	☐ 役立たなかった
【理由】			

6. 本訓練に対するご意見ご要望がございましたらご記入ください。

【ご意見・ご要望】

7. 本訓練の内容やEMC活動についてご質問がございましたらご記入ください。

【ご質問】

※回答を希望される方は、以下の欄に氏名・連絡先をご記入ください。

【氏名】

【連絡先】※メールアドレス等

質問は以上です。ご協力いただきありがとうございました。

令和6年度原子力規制庁委託 緊急時モニタリング要員育成事業
モニタリング技術に関する基礎的な講座（福島参集型）受講者アンケート

本日は、本講座を受講いただきありがとうございました。本講座の充実・改善のため、率直なご意見・ご感想をお聞かせください。ご協力をお願いいたします。

1. 受講者ご本人について伺います。該当する選択肢にチェックを入れてください。

所属	☐ 原子力・環境監視センター等 ☐ 道府県庁（左を除く） ☐ 指定公共機関 ☐ 省庁	
年齢	☐ ～30歳 ☐ 31～40歳 ☐ 41～50歳 ☐ 51歳～	
原子力防災・放射線関連業務 経験年数	☐ 1年未満 ☐ 1年以上3年未満 ☐ 3年以上5年未満 ☐ 5年以上	
原子力災害発生時の役割	☐ EMC 企画調整 Gr ☐ EMC 情報収集管理 Gr ☐ EMC 測定分析担当総括・連絡班 ☐ EMC 測定分析担当測定・採取班 ☐ EMC 測定分析担当分析班 ☐ その他（ ）	
原子力防災関連研修、訓練 への参加経験	研修（他団体含む） ☐ あり ☐ なし 訓練 ☐ あり ☐ なし	

2. 本講座のプログラム構成や受講の手ごたえなどについて、所感を伺います。
該当する選択肢にチェックを入れてください。また、回答の理由もご記入ください。

1) 本講座の満足度について伺います。

小	満足度				大
☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	

【理由】

2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。

☐ 対応できる ☐ フォローがあれば対応できる ☐ あまり対応できない ☐ 対応できない

【理由、その他の内容】

3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立つ内容でしたか。

☐ 十分に役に立つ ☐ 役に立つ ☐ あまり役立たない ☐ 役立たない

【理由】

4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。

☐ 講義はeラーニングでよい ☐ 講義も集合研修で実施してほしい ☐ どちらでもよい

【理由】

5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。

☐ 非常に役に立った ☐ 役立った ☐ あまり役立たなかった ☐ 役立たなかった

【理由】

6) eラーニングに拡充してほしいコンテンツを教えてください（複数回答可）。

☐ 資機材取扱い ☐ 空間放射線量率の測定 ☐ 環境試料採取 ☐ 資機材養生 ☐ 放射線防護
☐ 福島原発事故後の緊急時モニタリング体験談 ☐ その他（ ）

7) DX (デジタルトランスフォーメーション) 推進の一環として、ペーパーレス化を検討しています。本日、紙媒体で配付した以下の資料について、ご意見をお聞かせください。 ※テキスト、副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。			
①テキスト	☐ eラーニングでよい	☐ 紙で配付してほしい	☐ どちらでもよい
②副読本	☐ eラーニングでよい	☐ 紙で配付してほしい	☐ どちらでもよい
【理由】			

3. 各プログラムについての評価を伺います。該当する評価にチェックを入れてください。
また、評価の理由も具体的に教えてください。

1) 実習1 ガイダンス

①時間配分	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
②配付資料	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
③指導方法	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
④理解度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
⑤満足度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
【理由・感想等】				

2) 講義1 福島県のモニタリング体制について

①時間配分	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
②配付資料	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
③指導方法	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
④理解度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
⑤満足度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
【理由・感想等】				

3) 実習1 放射線環境下での測定①—空間放射線量率測定—(山神神社)

①時間配分	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
②配付資料	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
③指導方法	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
④理解度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
⑤満足度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
【理由・感想等】				

4) 講義2 福島原発事故後のモニタリング

①時間配分	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
②配付資料	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
③指導方法	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
④理解度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
⑤満足度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
【理由・感想等】				

5) 実習2 ガイダンス

①時間配分	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
②配付資料	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
③指導方法	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
④理解度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
⑤満足度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
【理由・感想等】				

6) 実習2 放射線環境下での測定②ー土壌採取、松葉採取ー（旧大熊町立熊町小学校）

①時間配分	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
②配付資料	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
③指導方法	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
④理解度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
⑤満足度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
【理由・感想等】				

7) 実習3 帰還時の対応

①時間配分	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
②配付資料	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
③指導方法	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
④理解度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
⑤満足度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
【理由・感想等】				

8) 実習4 測定結果報告

①時間配分	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
②配付資料	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
③指導方法	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
④理解度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
⑤満足度	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
【理由・感想等】				

4. 野外実習会場の満足度について伺います。

1) 山神神社				
小	_____	満足度	_____	大
☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
【理由】				
2) 旧大熊町立熊町小学校				
小	_____	満足度	_____	大
☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
【理由】				

5. 施設見学について伺います。

1) ☐参加：廃炉資料館コース ☐参加：1Fコース ☐不参加

2) 参加の方に伺います。コース設定の満足度について教えてください。

小	満足度				大
☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5	
【理由】					

3) 見学したい施設（福島県内）がございましたら教えてください（複数回答可）。

☐福島県環境創造センターコミュニティ福島 ☐特定廃棄物埋立情報館リプルンふくしま
☐日本原子力研究開発機構櫛葉遠隔技術開発センター（NARREC）
☐日本原子力研究開発機構廃炉環境国際共同研究センター（CLADS）
☐産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所 ☐中間貯蔵施設 ☐Jヴィレッジ
☐福島ロボットテストフィールド ☐福島第二原子力発電所
 【その他・理由等】

6. 本講座全般に関するご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

【ご意見・ご要望】

7. 本講座の内容や緊急時モニタリングについてご質問がございましたらご記入ください。

【ご質問】

※回答を希望される方は、以下の欄に氏名・連絡先をご記入ください。

【氏名】

【連絡先】※メールアドレス等

質問は以上です。ご協力いただきありがとうございました。

令和6年度原子力規制庁委託 緊急時モニタリング要員育成
モニタリング技術に関する基礎的な講座（福島参集型） 講師アンケート

氏名：_____

本日は、本講座の開催にご助力賜りまして、誠にありがとうございました。今後、本講座を充実・改善していくための参考といたく、下記アンケートへのご協力をお願いいたします。

1. 各プログラムに関する評価を教えてください。該当する評価にチェックをしてください。
問題点など改善を要する点は自由記述欄に具体的にご記入ください。

実習ガイダンス①

①進め方、説明の仕方	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
②受講者の理解・反応	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
③スライド等の教材	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
④時間の長さ	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
【自由記述】 				

講義1 福島県のモニタリング体制について

①進め方、説明の仕方	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
②受講者の理解・反応	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
③スライド等の教材	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
④時間の長さ	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
【自由記述】 				

実習1 放射線環境下での測定①ー空間放射線量率測定ー（山神神社）

①進め方、説明の仕方	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
②受講者の理解・反応	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
③スライド等の教材	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
④時間の長さ	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
【自由記述】 				

講義2 福島原発事故後のモニタリング

①進め方、説明の仕方	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
②受講者の理解・反応	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
③スライド等の教材	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
④時間の長さ	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
【自由記述】				

実習ガイダンス②

①進め方、説明の仕方	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
②受講者の理解・反応	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
③スライド等の教材	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
④時間の長さ	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
【自由記述】				

実習2 放射線環境下での測定②ー土壌採取、松葉採取ー（旧大熊町立熊町小学校）

①進め方、説明の仕方	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
②受講者の理解・反応	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
③スライド等の教材	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
④時間の長さ	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
【自由記述】				

実習3 帰還時の対応

①進め方、説明の仕方	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
②受講者の理解・反応	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
③スライド等の教材	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
④時間の長さ	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
【自由記述】				

実習4 測定結果報告

①進め方、説明の仕方	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
②受講者の理解・反応	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
③スライド等の教材	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ あまり良くない	☐ 良くない
④時間の長さ	☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
【自由記述】				

2. 指導のポイントなどの講師全体で共有しておくべき事項をご記入ください。また、受講者から受けた質問がありましたら、その質問と回答について教えてください。

【共有事項】
【受講者からの質問】 ☐ あり ☐ なし

3. その他、お気づきの点がございましたらご記入ください。

質問は以上です。ご協力いただきありがとうございました。

令和6年度原子力規制庁委託 緊急時モニタリング要員育成事業
実践演習「緊急時モニタリング指示書作成講座」受講者アンケート

この度は、実践演習を受講いただき誠にありがとうございました。本講座の充実・改善のため、率直なご意見・ご感想をお聞かせください。ご協力よろしくお願いいたします。

1. 受講者ご本人及び受講環境について伺います。該当する選択肢にチェックを入れてください。

所属	☐ 原子力・環境監視センター等 ☐ 市町村 ☐ 原子力規制庁		☐ 道府県庁（左を除く） ☐ 指定公共機関 ☐ 原子力事業者 ☐ その他（ ）	
所属部署の属性	☐ 環境放射線モニタリング担当部署 ☐ 原子力防災関連部署（上を除く）		☐ その他	
年齢	☐ ～30歳 ☐ 31～40歳 ☐ 51歳～		☐ 41～50歳	
原子力防災・放射線関連業務経験年数	☐ 1年未満 ☐ 3年以上5年未満		☐ 1年以上3年未満 ☐ 5年以上	
「モニタリング技術に関する基礎的な講座」参加経験	☐ 令和5年度 ☐ 令和3年度以前		☐ 令和4年度 ☐ なし	
原子力防災関連研修及び訓練参加経験（他団体含む）	研修	☐ あり	☐ なし	
	訓練	☐ あり	☐ なし	
原子力災害発生時の役割	☐ EMC要員 ☐ その他（ ）			
	→ EMC活動における役割もご回答ください。 ☐ 企画調整グループ ☐ 測定分析担当 ☐ 情報収集管理グループ ☐ わからない			
受講場所	☐ 職場		☐ 自宅	☐ その他
使用デバイス	☐ パソコン		☐ タブレット	

2. この講座の内容、受講環境についての評価を伺います。該当する評価にチェックを入れてください。
また、評価の理由も具体的に教えてください。

1) 内容について

小		満足度			大
	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
②時間配分		☐ 適切	☐ 短い	☐ 長い	
③プログラム構成		☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
④班編成・人数		☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
⑤配付資料		☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
⑥講師の指導方法		☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
⑦理解度		☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
【理由・感想等】					

2) 受講環境について

①映像	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
②音声	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
③通信状態	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
④画面操作	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
【理由】				

3. 受講の手ごたえなど、所感について伺います。該当する選択肢にチェックを入れてください。
また、選択の理由も教えてください。

1) この講座を受講したことで、指示書作成について、対応できるようになりましたか。

☐ 対応できる ☐ フォローがあれば対応できる ☐ あまり対応できない ☐ 対応できない

【理由】

2) この講座は、ご自身の知識やスキル向上に役立つ内容でしたか。

☐ 十分に役に立つ ☐ 役に立つ ☐ あまり役に立たない ☐ 役に立たない

【理由】

3) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。

また、拡充させてほしいコンテンツを選択肢から選んでください（複数選択可）。

☐ 非常に役に立った ☐ 役立った ☐ あまり役立たなかった ☐ 役立たなかった

☐ 未受講

【理由】

【コンテンツ選択肢】 ☐ EMC活動の基本(各班別) ☐ EMCにおける情報の流れ

☐ クロノロジーシステムの操作 ☐ R A M I S の操作

☐ 福島原発事故後の緊急時モニタリング体験談 ☐ その他()

4. この講座で取り上げてほしい内容や配付してほしい教材などのご要望、その他のご意見などがありましたらご記入ください。

【ご要望・ご意見】

5. この講座の内容や緊急時モニタリング活動及びEMC活動について、ご質問がありましたらご記入ください。

【ご質問】	
※回答を希望される方は、以下の欄に氏名・連絡先をご記入ください。	
【氏名】	【連絡先】※メールアドレス等

※回答を希望される方は、以下の欄に氏名・連絡先をご記入ください。

【氏名】	【連絡先】※メールアドレス等

【連絡先】※メールアドレス等

質問は以上です。ご協力いただきありがとうございました。

令和6年度原子力規制庁委託 緊急時モニタリング要員育成事業
実践演習「緊急時モニタリング企画コース」受講者アンケート

この度は、実践演習を受講いただき誠にありがとうございました。本講座の充実・改善のため、率直なご意見・ご感想をお聞かせください。ご協力よろしくお願いいたします。

1. 受講者ご本人及び受講環境について伺います。該当する選択肢にチェックを入れてください。

所属	☐ 原子力・環境監視センター等 ☐ 道府県庁（左を除く） ☐ 市町村 ☐ 指定公共機関 ☐ 原子力事業者 ☐ 原子力規制庁 ☐ その他（ ）		
所属部署の属性	☐ 環境放射線モニタリング担当部署 ☐ 原子力防災関連部署（上を除く） ☐ その他		
年齢	☐ ～30歳 ☐ 31～40歳 ☐ 41～50歳 ☐ 51歳～		
原子力防災・放射線関連業務経験年数	☐ 1年未満 ☐ 1年以上3年未満 ☐ 3年以上5年未満 ☐ 5年以上		
「モニタリング技術に関する基礎的な講座」参加経験	☐ 令和5年度 ☐ 令和4年度 ☐ 令和3年度以前 ☐ なし		
原子力防災関連研修及び訓練参加経験（他団体含む）	研修 ☐ あり ☐ なし 訓練 ☐ あり ☐ なし		
原子力災害発生時の役割	☐ EMC要員 ☐ その他（ ） ↳ EMC活動における役割もご回答ください。 ☐ 企画調整グループ ☐ 情報収集管理グループ ☐ 測定分析担当 ☐ わからない		
受講場所	☐ 職場 ☐ 自宅 ☐ その他		
使用デバイス	☐ パソコン ☐ タブレット		

2. この講座の内容、受講環境についての評価を伺います。該当する評価にチェックを入れてください。また、評価の理由も具体的に教えてください。

1) 内容について

①満足度	小	満足度			大
	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
②時間配分	☐ 適切 ☐ 短い ☐ 長い				
③プログラム構成	☐ 大変良い ☐ 良い ☐ 不満 ☐ とても不満				
④班編成・人数	☐ 大変良い ☐ 良い ☐ 不満 ☐ とても不満				
⑤配付資料	☐ 大変良い ☐ 良い ☐ 不満 ☐ とても不満				
⑥講師の指導方法	☐ 大変良い ☐ 良い ☐ 不満 ☐ とても不満				
⑦理解度	☐ 大変良い ☐ 良い ☐ 不満 ☐ とても不満				
【理由・感想等】					

2) 受講環境について

①映像	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
②音声	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
③通信状態	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
④画面操作	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
【理由】				

3. 受講の手ごたえなど、所感について伺います。該当する選択肢にチェックを入れてください。
また、選択の理由も教えてください。

1) この講座を受講したことで、緊急時モニタリング要員として対応できますか。

☐ 対応できる ☐ フォローがあれば対応できる ☐ あまり対応できない ☐ 対応できない

【理由】

2) この講座は、ご自身の知識やスキル向上に役立つ内容でしたか。

☐ 十分に役に立つ ☐ 役に立つ ☐ あまり役に立たない ☐ 役に立たない

【理由】

3) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。

また、拡充させてほしいコンテンツを選択肢から選んでください（複数選択可）。

☐ 非常に役に立った ☐ 役立った ☐ あまり役立たなかった ☐ 役立たなかった

☐ 未受講

【理由】

【コンテンツ選択肢】 ☐ EMC活動の基本(各班別) ☐ EMCにおける情報の流れ
☐ クロノロジーシステムの操作 ☐ R A M I S の操作
☐ 福島原発事故後の緊急時モニタリング体験談 ☐ その他()

4. この講座で取り上げてほしい内容や配付してほしい教材などのご要望、その他のご意見などがありましたらご記入ください。

【ご要望・ご意見】

5. この講座の内容や緊急時モニタリング活動及びEMC活動について、ご質問がありましたらご記入ください。

【ご質問】	
※回答を希望される方は、以下の欄に氏名・連絡先をご記入ください。	
【氏名】	【連絡先】※メールアドレス等

※回答を希望される方は、以下の欄に氏名・連絡先をご記入ください。

【氏名】	【連絡先】※メールアドレス等

【連絡先】※メールアドレス等

質問は以上です。ご協力いただきありがとうございました。

令和6年度原子力規制庁委託 緊急時モニタリング要員育成事業
実践演習「緊急時モニタリング実施コース」受講者アンケート

この度は、実践演習を受講いただき誠にありがとうございました。本講座の充実・改善のため、率直なご意見・ご感想をお聞かせください。ご協力よろしくお願いいたします。

1. 受講者ご本人及び受講環境について伺います。該当する選択肢にチェックを入れてください。

所属	☐ 原子力・環境監視センター等 ☐ 道府県庁（左を除く） ☐ 市町村 ☐ 指定公共機関 ☐ 原子力事業者 ☐ 原子力規制庁 ☐ その他（ ）		
所属部署の属性	☐ 環境放射線モニタリング担当部署 ☐ 原子力防災関連部署（上を除く） ☐ その他		
年齢	☐ ～30歳 ☐ 31～40歳 ☐ 41～50歳 ☐ 51歳～		
原子力防災・放射線関連業務経験年数	☐ 1年未満 ☐ 1年以上3年未満 ☐ 3年以上5年未満 ☐ 5年以上		
「モニタリング技術に関する基礎的な講座」参加経験	☐ 令和6年度 ☐ 令和5年度 ☐ 令和4年度以前 ☐ なし		
原子力防災関連研修及び訓練参加経験（他団体含む）	研修 ☐ あり ☐ なし 訓練 ☐ あり ☐ なし		
原子力災害発生時の役割	☐ EMC要員 ☐ その他（ ） ↳ EMC活動における役割もご回答ください。 ☐ 企画調整グループ ☐ 情報収集管理グループ ☐ 測定分析担当 ☐ わからない		
受講場所	☐ 職場 ☐ 自宅 ☐ その他		
使用デバイス	☐ パソコン ☐ タブレット		

2. この講座の内容、受講環境についての評価を伺います。該当する評価にチェックを入れてください。また、評価の理由も具体的に教えてください。

1) 内容について

①満足度	小	満足度			大
	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5
②時間配分	☐ 適切 ☐ 短い ☐ 長い				
③プログラム構成	☐ 大変良い ☐ 良い ☐ 不満 ☐ とても不満				
④班編成・人数	☐ 大変良い ☐ 良い ☐ 不満 ☐ とても不満				
⑤配付資料	☐ 大変良い ☐ 良い ☐ 不満 ☐ とても不満				
⑥講師の指導方法	☐ 大変良い ☐ 良い ☐ 不満 ☐ とても不満				
⑦理解度	☐ 大変良い ☐ 良い ☐ 不満 ☐ とても不満				
【理由・感想等】					

2) 受講環境について

①映像	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
②音声	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
③通信状態	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
④画面操作	☐ 大変良い	☐ 良い	☐ 不満	☐ とても不満
【理由】				

3. 受講の手ごたえなど、所感について伺います。該当する選択肢にチェックを入れてください。
また、選択の理由も教えてください。

1) この講座を受講したことで、緊急時モニタリング要員として対応できますか。

☐ 対応できる ☐ フォローがあれば対応できる ☐ あまり対応できない ☐ 対応できない

【理由】

2) この講座は、ご自身の知識やスキル向上に役立つ内容でしたか。

☐ 十分に役に立つ ☐ 役に立つ ☐ あまり役に立たない ☐ 役に立たない

【理由】

3) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。

また、拡充させてほしいコンテンツを選択肢から選んでください（複数選択可）。

☐ 非常に役に立った ☐ 役立った ☐ あまり役立たなかった ☐ 役立たなかった

☐ 未受講

【理由】

【コンテンツ選択肢】 ☐ EMC活動の基本(各班別) ☐ EMCにおける情報の流れ
☐ クロノロジーシステムの操作 ☐ R A M I S の操作
☐ 福島原発事故後の緊急時モニタリング体験談 ☐ その他()

4. この講座で取り上げてほしい内容や配付してほしい教材などのご要望、その他のご意見などがありましたらご記入ください。

【ご要望・ご意見】

5. この講座の内容や緊急時モニタリング活動及びEMC活動について、ご質問がありましたらご記入ください。

【ご質問】	
※回答を希望される方は、以下の欄に氏名・連絡先をご記入ください。	
【氏名】	【連絡先】※メールアドレス等

質問は以上です。ご協力いただきありがとうございました。

令和6年度原子力規制庁委託 緊急時モニタリング要員育成
実践演習：指示書作成講座（オンライングループワーク）
講師アンケート

氏名：_____

今後の本講座の参考とさせていただきたく、アンケートへのご協力をお願いいたします。

1. カリキュラムについて、該当する番号を○で囲んでください。
また、講師の教授方法としてよかった点や改善が必要な点についてご意見をご記入ください。

4. 大変良かった	3. 良かった	2. あまり良くなかった	1. 全く良くなかった

①全体の進め方・説明	4	3	2	1
②受講者の理解度、反応	4	3	2	1
③時間（長さ）	4	3	2	1
④スライド	4	3	2	1
⑤班の人数と編成	4	3	2	1

（ご意見等） 特に問題点や改善を要する点につきましては、具体的にお書きいただけますようお願いいたします。または、受講者からの質問（直接受けた場合）（後日メールにて、回答文をご相談させていただく場合がございます。）

【裏面に続く（1/2）】

2. 指導ポイントやQ A 集として講師が共有するとよいと思われる事項をご記入ください。

3. その他お気づきの点についてご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

令和 6 年度原子力規制庁委託 緊急時モニタリング要員育成
実践演習：緊急時モニタリング企画コース（オンライングループワーク）
講師アンケート

氏名：_____

今後の本講座の参考とさせていただきたく、アンケートへのご協力をお願いいたします。

1. カリキュラムについて、該当する番号を○で囲んでください。
また、講師の教授方法としてよかった点や改善が必要な点についてご意見をご記入ください。

4. 大変良かった	3. 良かった	2. あまり良くなかった	1. 全く良くなかった

模擬：緊急時モニタリング活動の実施

①全体の進め方・説明	4	3	2	1
②受講者の理解度、反応	4	3	2	1
③時間（長さ）	4	3	2	1
④スライド	4	3	2	1
⑤班の人数と編成	4	3	2	1
（ご意見等） 特に問題点や改善を要する点につきましては、具体的にお書きいただけますようお願いいたします。または、受講者からの質問（直接受けた場合）（後日メールにて、回答文をご相談させていただく場合がございます。）				

【裏面に続く（1/2）】

2. 指導ポイントやQ A 集として講師が共有するとよいと思われる事項をご記入ください。

3. その他お気づきの点についてご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

令和6年度原子力規制庁委託 緊急時モニタリング要員育成
実践演習：緊急時モニタリング実施コース（オンライングループワーク）
講師アンケート

氏名：_____

今後の本講座の参考とさせていただきたく、アンケートへのご協力をお願いいたします。

1. カリキュラムについて、該当する番号を○で囲んでください。
また、講師の教授方法としてよかった点や改善が必要な点についてご意見をご記入ください。

4. 大変良かった	3. 良かった	2. あまり良くなかった	1. 全く良くなかった

模擬：緊急時モニタリング活動の実施

①全体の進め方・説明	4	3	2	1
②受講者の理解度、反応	4	3	2	1
③時間（長さ）	4	3	2	1
④スライド	4	3	2	1
⑤班の人数と編成	4	3	2	1
（ご意見等） 特に問題点や改善を要する点につきましては、具体的にお書きいただけますようお願いいたします。または、受講者からの質問（直接受けた場合）（後日メールにて、回答文をご相談させていただく場合がございます。）				

【裏面に続く（1/2）】

2. 指導ポイントやQ A 集として講師が共有するとよいと思われる事項をご記入ください。

3. その他お気づきの点についてご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

e ラーニングアンケート

1. 受講者の基本情報

所属	☐ 原子力・環境監視センター等 ☐ 道府県庁（原子力・環境監視センター等を除く） ☐ 市町村 ☐ 指定公共機関 ☐ 原子力規制庁 ☐ その他（ ）
年齢	☐ ～３０歳 ☐ ３１～４０歳 ☐ ４１～５０歳 ☐ ５１歳～
経験年数	☐ １年未満 ☐ １年以上～３年未満 ☐ ３年以上～５年未満 ☐ ５年以上
原子力災害時に緊急時モニタリング要員として活動されますか。	☐ EMC 要員 ☐ その他
「その他」を選択された方は、「その他」の内容	
これまでの原子力防災関連研修への参加経験	☐ あり（緊急時モニタリング関連） ☐ あり（その他） ☐ なし
これまでの原子力防災訓練への参加経験	☐ あり ☐ なし

2. 講義について

①時間配分	☐ 大変良い ☐ 良い ☐ 不満 ☐ とても不満
②講師の教え方	☐ 大変良い ☐ 良い ☐ 不満 ☐ とても不満
③あなたの理解度	☐ 大変良い ☐ 良い ☐ 不満 ☐ とても不満
④あなたの満足度	☐ 大変良い ☐ 良い ☐ 不満 ☐ とても不満
⑤見やすさ	☐ 大変良い ☐ 良い ☐ 不満 ☐ とても不満
⑥聞きやすさ	☐ 大変良い ☐ 良い ☐ 不満 ☐ とても不満
ご意見・ご要望 ※講義1の①～⑥の問いについて、 不満、とても不満と回答した方はその理由も記載願います。	

3. eラーニングについて

本 e ラーニングの操作性について	☐ 大変良い ☐ 良い ☐ 不満 ☐ とても不満
本 e ラーニングはどちらで受講しましたか。	☐ 職場 ☐ 自宅 ☐ その他

受講に際して使用したデバイスについて	☐ パソコン ☐ スマートフォン ☐ タブレット
本 e ラーニングに追加してほしいコンテンツがあればご入力ください。	

付録5 アンケート集計結果

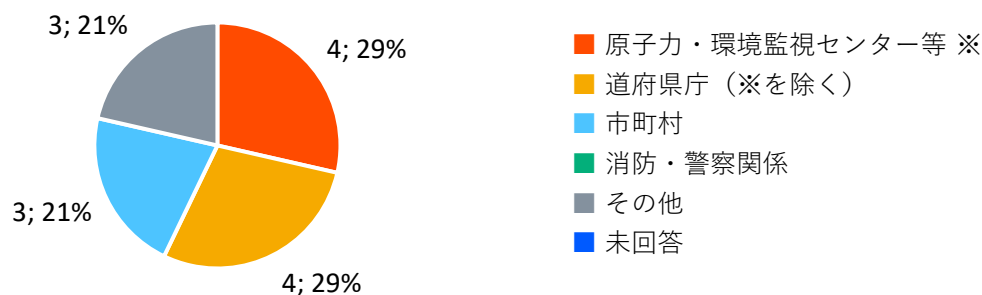
道府県A 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 14 名

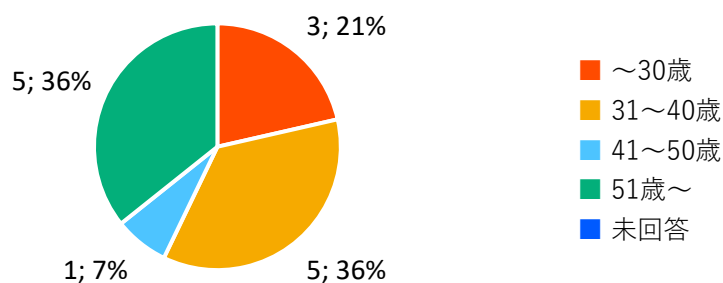
受講者数 : 14 名

1. 受講者自身について

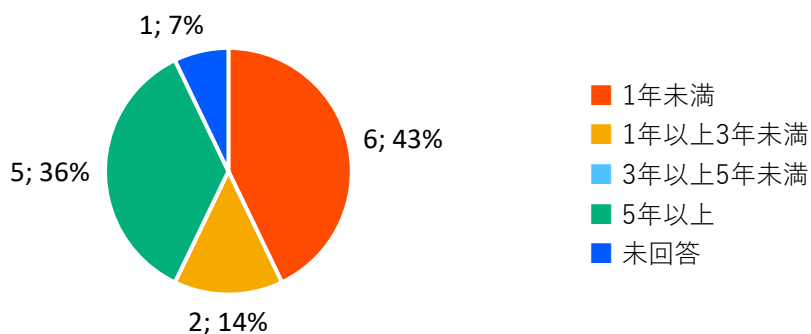
1) 所属



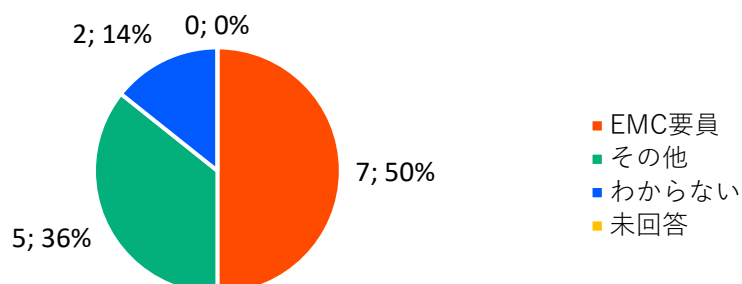
2) 年齢



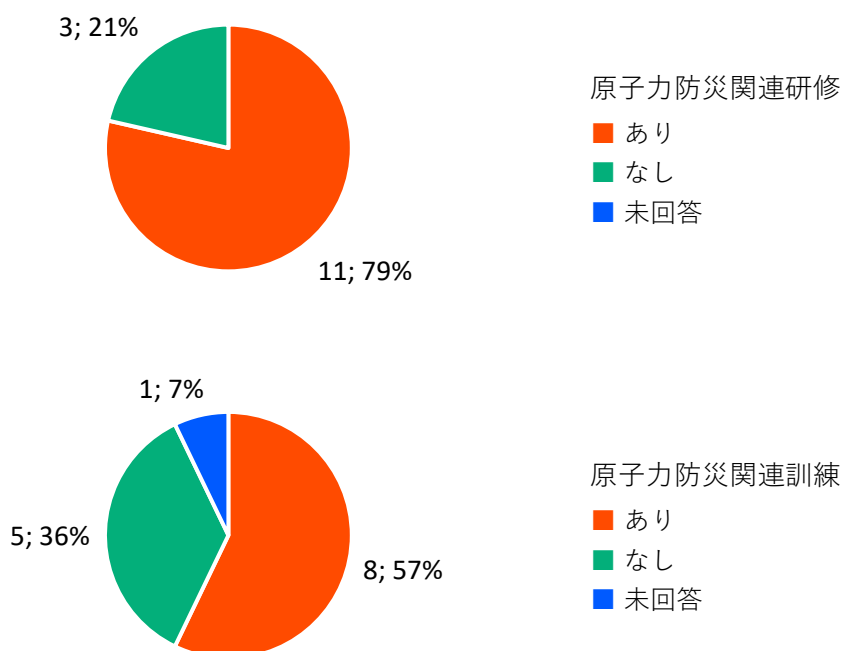
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



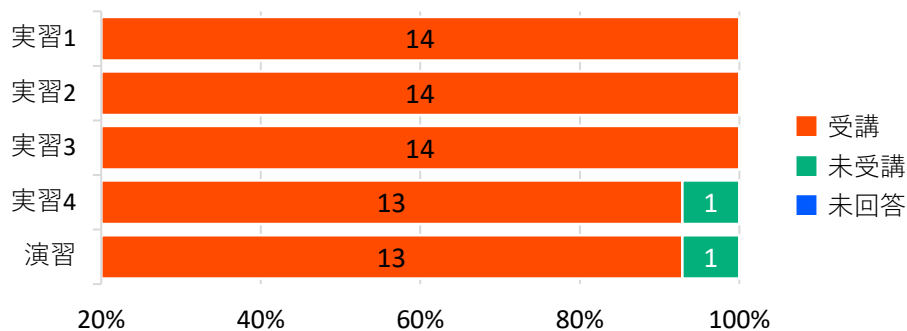
4) 原子力災害発生時の役割



5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

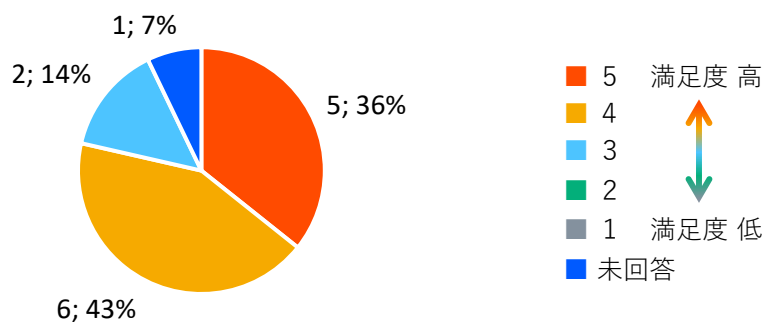


6) 受講プログラム



2. 本講座を受講しての所感等について

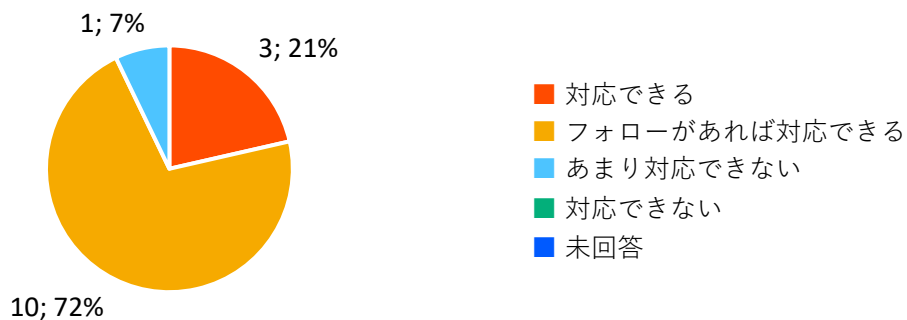
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度4；実際に想定した演習中心で身に付いた部分が多かった。
- ・ 満足度4；机上研修後に実技演習できたので、理解が深まった。
- ・ 未回答；測定や試料の採取について、再認識できたこと。

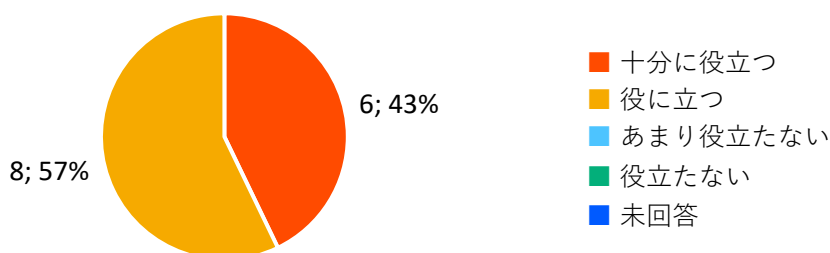
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ 対応できる；実際に試料の採取を行い、再認識できたこと。

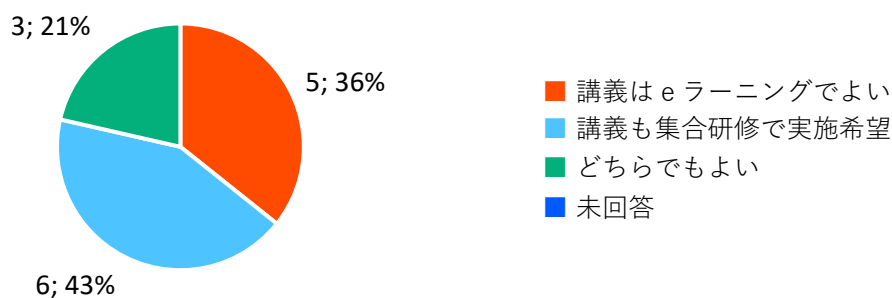
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ なし

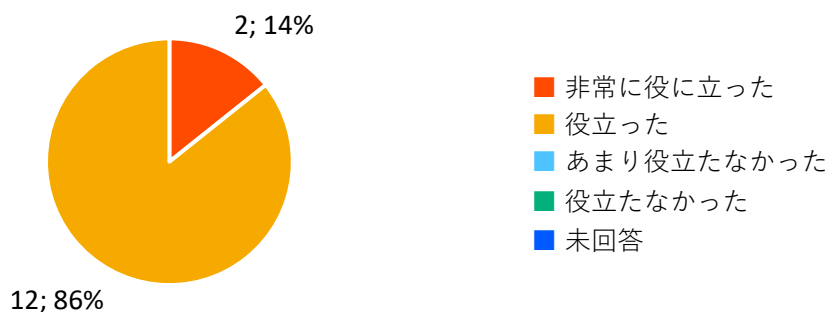
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ 講義はeラーニングでよい；研修で演習時間を確保するため

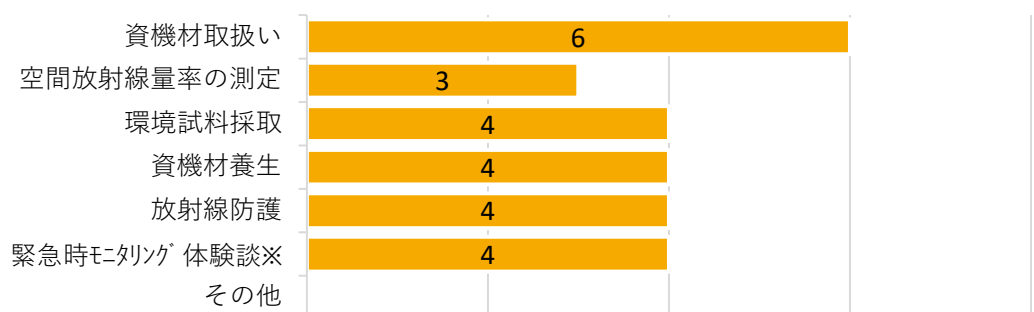
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ なし

6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください(複数回答可)。



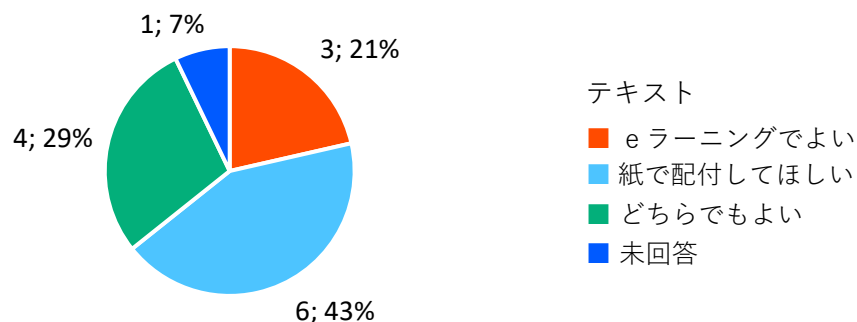
※福島原発事故に係る

その他の意見

- ・ なし

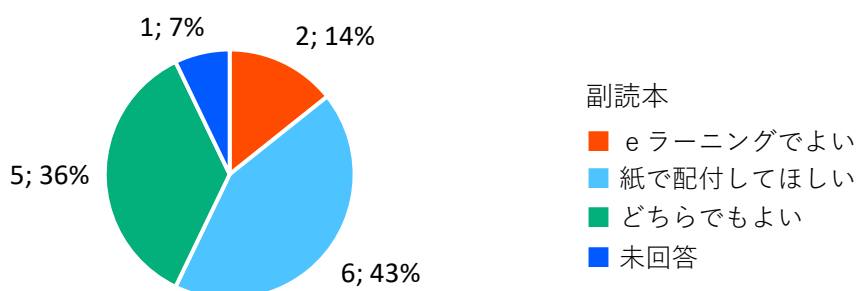
7) DX (デジタルトランスフォーメーション) 推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。

※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。



テキスト

- eラーニングでよい
- 紙で配付してほしい
- どちらでもよい
- 未回答



副読本

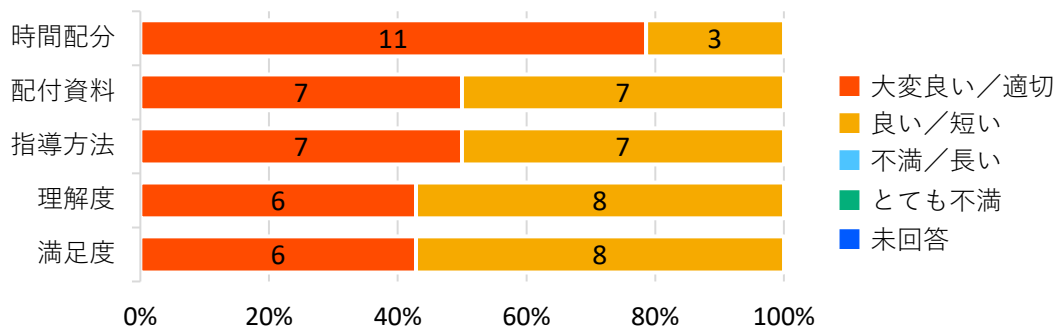
- eラーニングでよい
- 紙で配付してほしい
- どちらでもよい
- 未回答

自由記述

- ・ [テキスト]紙で配付してほしい/[副読本]紙で配付してほしい；eラーニングは忘れやすいため。

3. 各プログラムの評価について

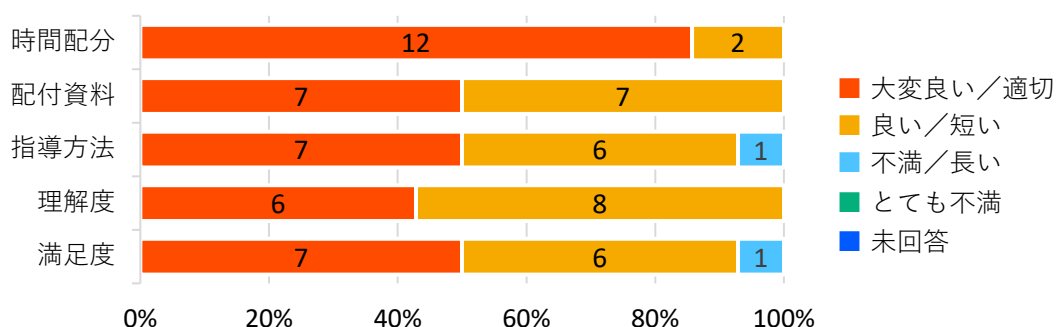
1) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ これまでの復習として有効活用できた。

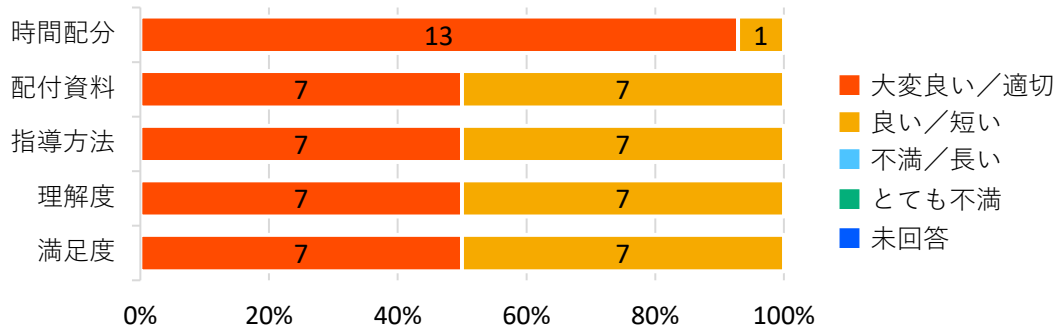
2) 実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ なし

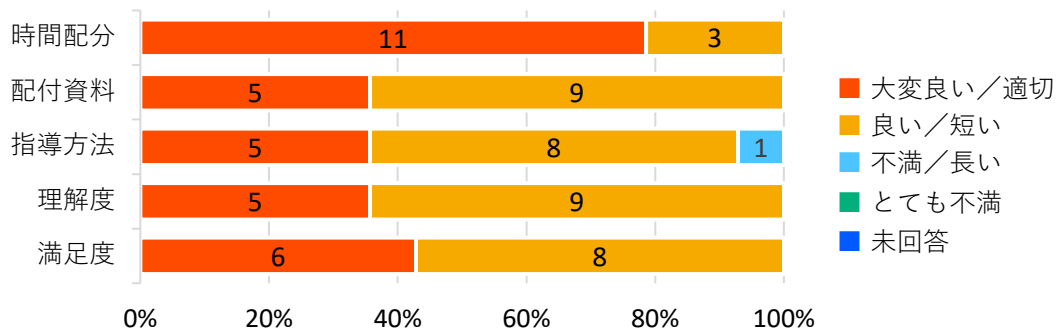
3) 実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 測定位置が安定しなく、線量率変動してしまった。

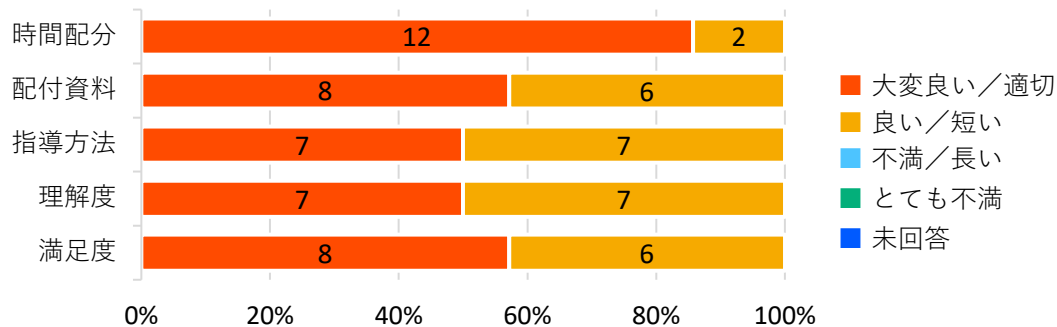
4) 実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ なし

6) 演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 目に見えない物質の汚染対策を身に付けるのに難しいと感じるが、発光塗料で体験できたのは良かった。
- ・ 実際にやってみて、忘れていたことや難しい点を認識できた。
- ・ 実際に測定や試料採取を行って、再認識できた。

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ 実試料のサンプリングの演習を行えたのが良かった。
- ・ タイベックの着脱について、もう少し練習したかった。
- ・ 休憩が短いと感じました。
- ・ 各項目ごとにもっと時間をかけて、理解度を深められたら良かった。
- ・ JC0事故以来のモニタリング業務（研修）でした。今後、全く携わらないとは言えないので、再度研修を受けることができて良かったです。ただ、全体的に詰め込み過ぎで、しっかりと休憩を取っていただきたかったです。
- ・ 良い点：準備時、用意する担当を決めたところが良かった。
- ・ 悪い点：土をU8容器に入れる前に袋の空気をきっちり抜くべきだった。
- ・ 悪い点：演習時に手荷物をもっと事前にチェックすべきだった。主に養生袋や棒（1m）
- ・ 悪い点：事前にBGを測定すべきだった。

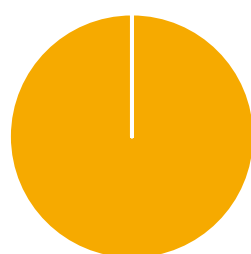
道府県B 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 9 名

受講者数 : 9 名

1. 受講者自身について

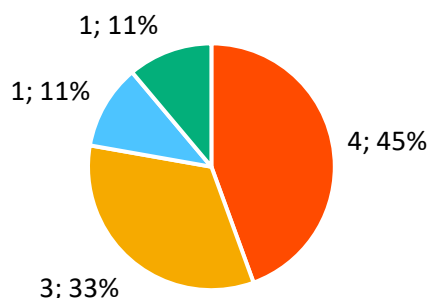
1) 所属



9; 100%

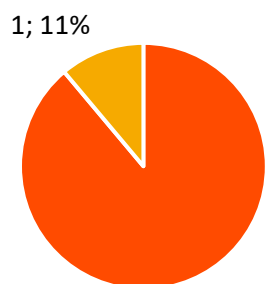
- 原子力・環境監視センター等 ※
- 道府県庁（※を除く）
- 市町村
- 消防・警察関係
- その他
- 未回答

2) 年齢



- ～30歳
- 31～40歳
- 41～50歳
- 51歳～
- 未回答

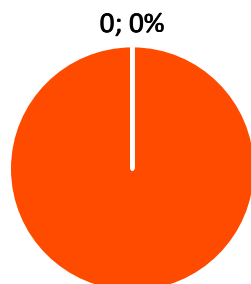
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



8; 89%

- 1年未満
- 1年以上3年未満
- 3年以上5年未満
- 5年以上
- 未回答

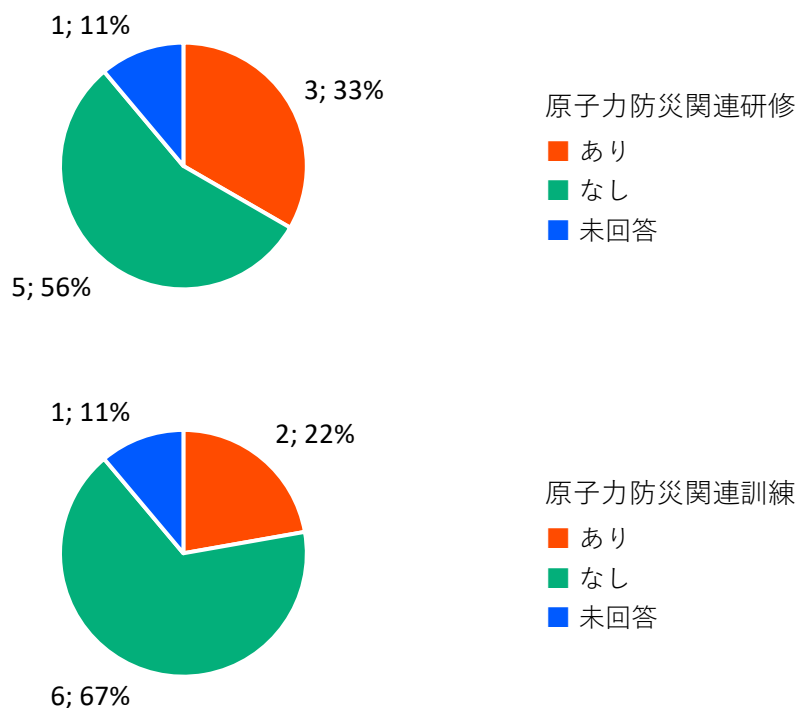
4) 原子力災害発生時の役割



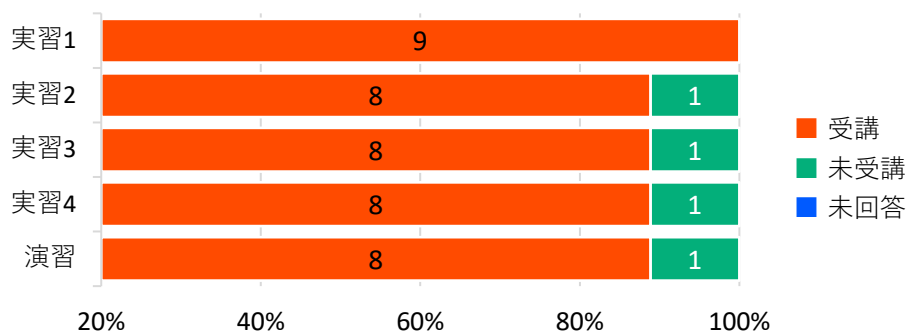
9; 100%

- EMC要員
- その他
- わからない
- 未回答

5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

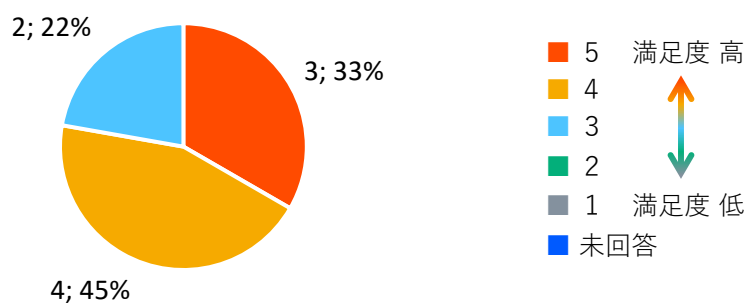


6) 受講プログラム



2. 本講座を受講しての所感等について

1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；演習があることで実際に想定した行動ができたため。
- ・ 満足度5；分からないことはその場で聞いたので分かりやすかった。
- ・ 満足度5；実際に採取・測定して方法が分かった。
- ・ 満足度5；eラーニングで学んだことを、実際に機器を用いることで身に付いたため。

- ・ 満足度4；内容は概ね理解することができた。演習により、やるべきことを身に付けられた。
- ・ 満足度4；実際の役割は連絡班で指示を出す係のため、測定の方法、手順が実際に分かって、指示内容が想像しやすくなった。
- ・ 満足度4；モニタリング技術について勉強になった。
- ・ 満足度4；約15年前に受講した講義と大きく変わるものではなかったため。
- ・ 満足度3；実習・演習が多く、実際の作業イメージが持つことができたが、内容も多く、一つ一つの時間が少なかったため。

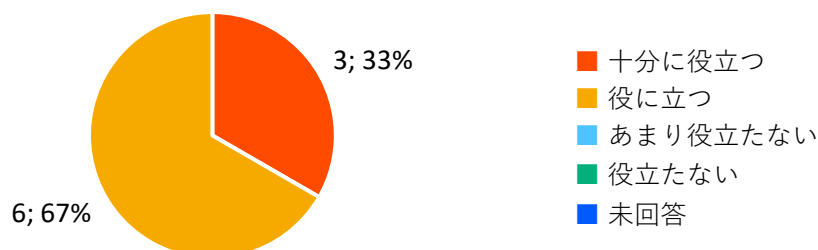
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ 対応できる；試料採取について一通り実践できたことが自信につながったため。
- ・ フォローがあれば対応できる；専門的であり、把握にはまだ至っていないため（概要のイメージが掴めて良かった）
- ・ フォローがあれば対応できる；可搬型モニタリングポスト等の装置は操作が難しかった。
- ・ フォローがあれば対応できる；1人でのというのは難しいと思うので、役割分担をきちんとした上で臨みたい。
- ・ フォローがあれば対応できる；午後の訓練でアドバイスをもらいながらの作業が多々あったので、自分の記憶のみでやりきれなかった。
- ・ フォローがあれば対応できる；ある程度の流れが分かったため。

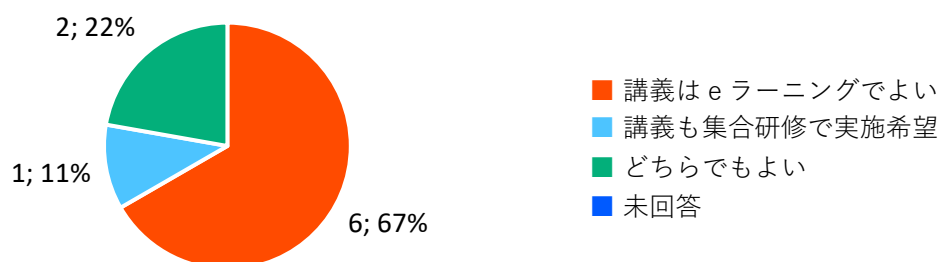
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ 十分に役に立つ；実践できたので、頭に残りやすいため。
- ・ 十分に役に立つ；秋の訓練の前段階として知識がついた。
- ・ 役に立つ；理解が深まったため。
- ・ 役に立つ；実際に試してみ、知識とスキルが身に付いたと感じた。

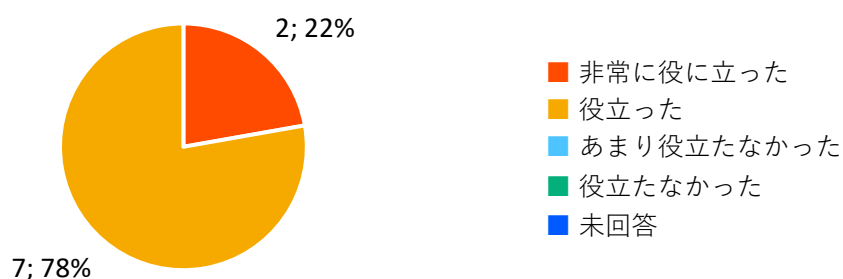
- 4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ 講義はeラーニングでよい；講義もすると研修日の時間が足りないため。
- ・ 講義はeラーニングでよい；自分で止めたり、繰り返し見ることができた。
- ・ 講義はeラーニングでよい；気になった点は戻って復習できるため。
- ・ 講義はeラーニングでよい；基本的な内容のため（ただし、スライドの重要部分の強弱があった方がよい）
- ・ 講義はeラーニングでよい；自分のペースで受講できるため。
- ・ 講義も集合研修で実施してほしい；eラーニングは便利だが、業務中にeラーニングをする時間の確保が難しいところがあるため。

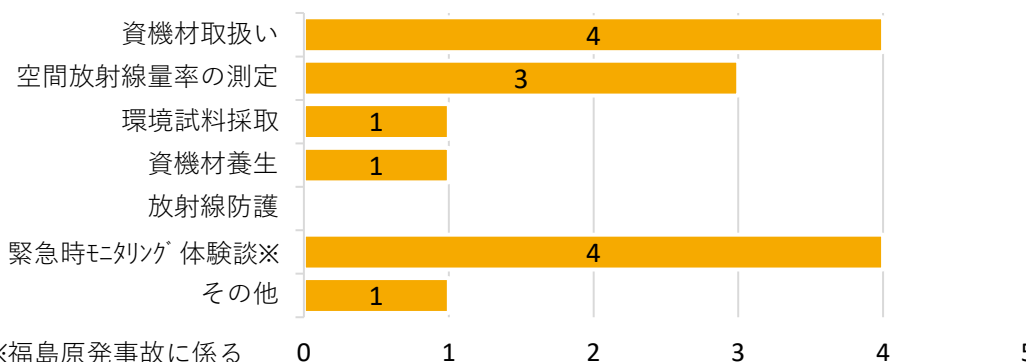
- 5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ 役立った；（聞き逃したところも）繰り返し聞けるというメリットと、質問ができないデメリットがあるため。
- ・ 役立った；理解度確認テストで復習できた。
- ・ 役立った；事前に知識が得られ、実習等に活かせるため。

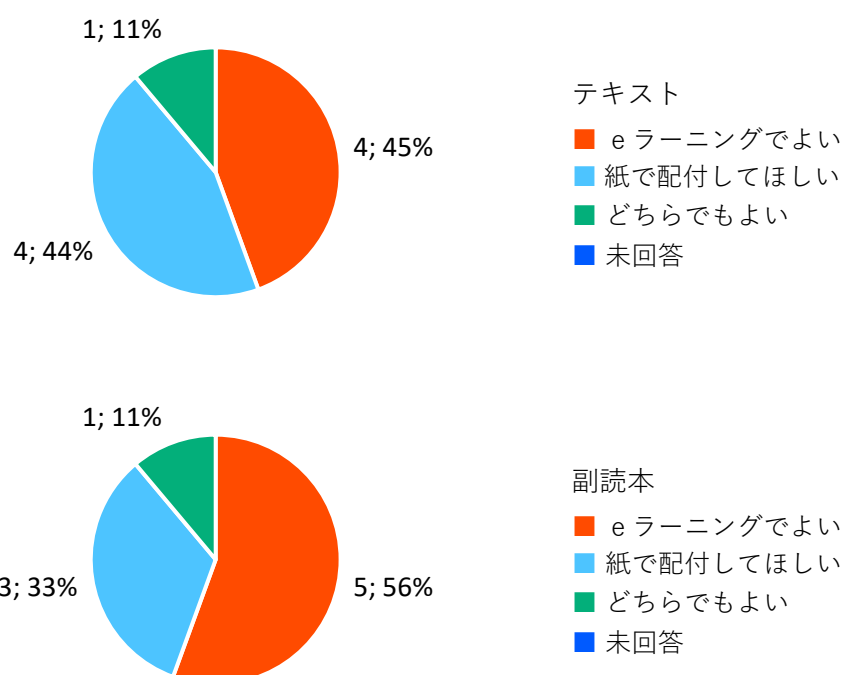
- 6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください（複数回答可）。



その他の意見

- ・ なし

- 7) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。
※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。

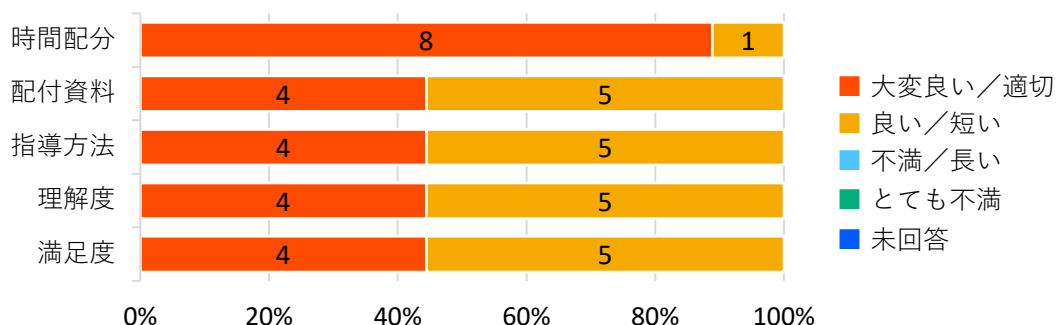


自由記述

- ・ [テキスト]紙で配付してほしい/[副読本]紙で配付してほしい；紙媒体の方が見返すから
- ・ [テキスト]紙で配付してほしい/[副読本]紙で配付してほしい；電子データは便利だが、別途紙があると発生時に持ち運べて便利
- ・ [テキスト]紙で配付してほしい/[副読本]紙で配付してほしい；紙の方が戻って班員に目を通してもらいやすいと感じるため
- ・ [テキスト]eラーニングでよい/[副読本]eラーニングでよい；現地で確認したりするとき自分で印刷し確認
- ・ [テキスト]eラーニングでよい/[副読本]eラーニングでよい；データの方が検索しやすいため

3. 各プログラムの評価について

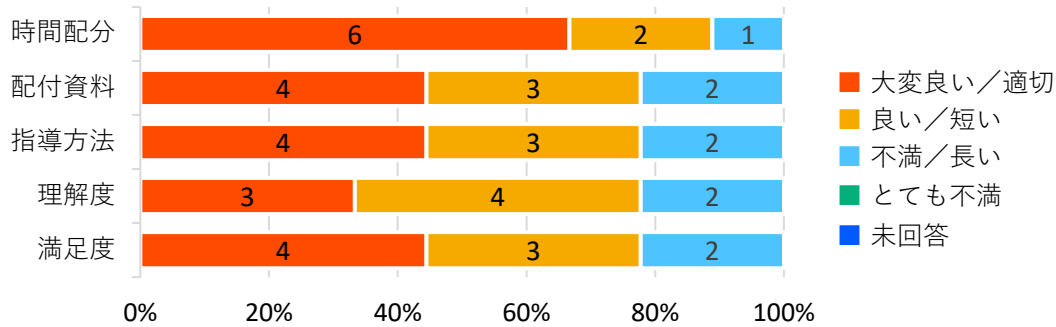
1) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ 遮へいされていることがよく分かった。
- ・ 基礎的知識の習得はなかなか馴染みがなく、全て理解するには至っていないが、イメージがつかめて良かった。
- ・ 遮へいや距離等の影響が実験で理解できた。

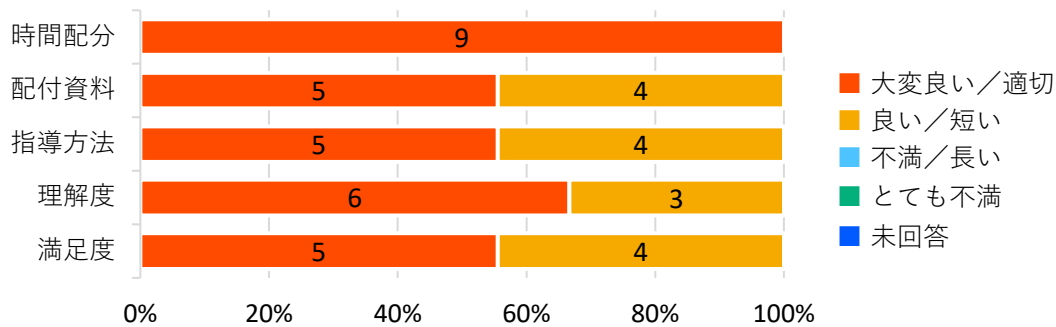
2) 実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ 透過率の変化を間近で体験できて良かった。
- ・ 可能であれば、ポストの組み立ても行いたかった。
- ・ 測定器の種類に応じた使い分けをもっと自習する必要があると良いと思った。
- ・ 実際にポストを設置する所で知りたかったため。

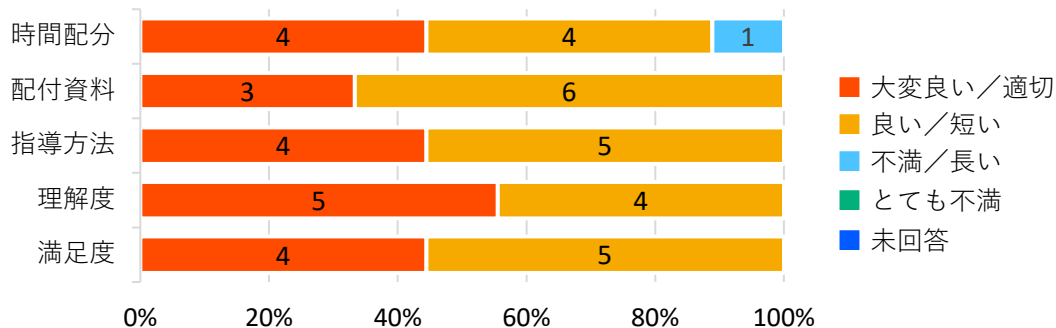
3) 実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 測定のイメージがついたので、良かった。
- ・ 体で覚えると分かりやすい。

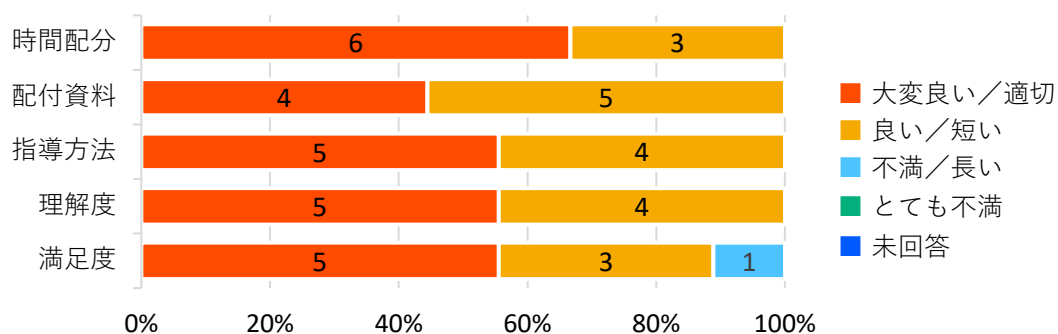
4) 実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ 実際に土など採取できて良かった。
- ・ なるべく省略せずに訓練をしたい。
- ・ 土壌は固いものが多いため、もう少し固くても良かったと思う。

5) 演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 自分たちで行うことで課題点などがよく分かった。
- ・ 時間が短く、メンバーとのコミュニケーションが取れたとは言えない。

4. 講座全般に関する意見・要望

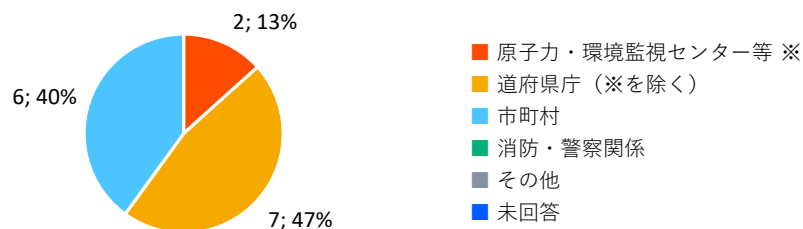
- ・ 分からないことがあれば質問させてください。ありがとうございました。
- ・ 演習でそれぞれを丁寧に実習するというのも良いように感じました。

道府県C 受講者アンケート集計結果

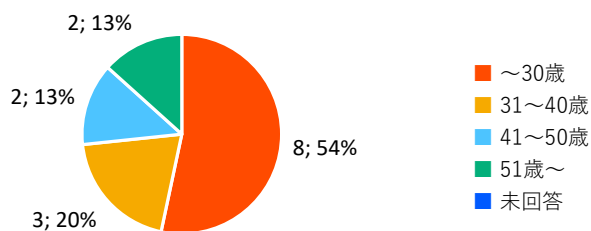
回答者数 : 15 名 受講者数 : 15 名

1. 受講者自身について

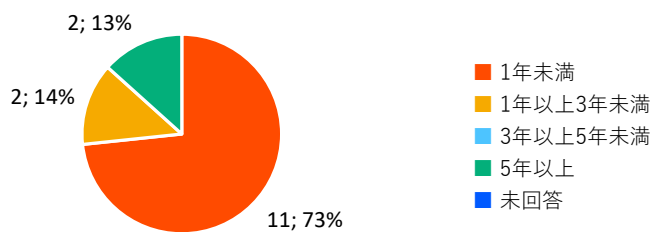
1) 所属



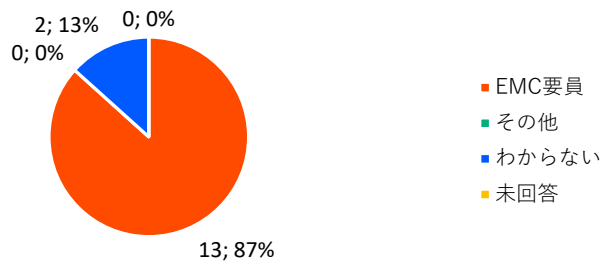
2) 年齢



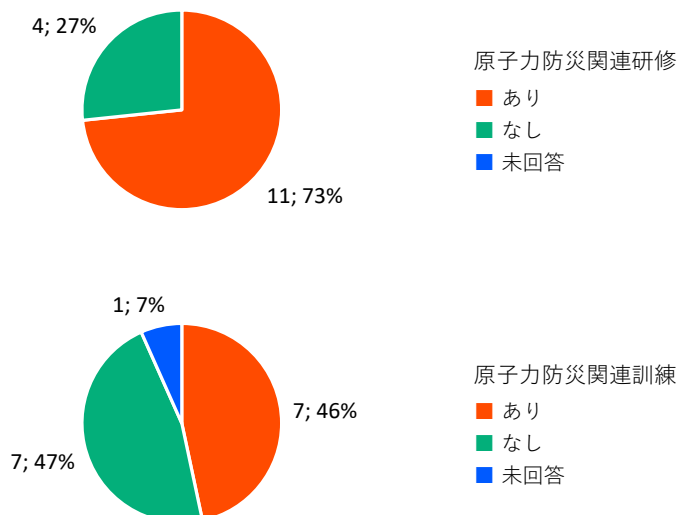
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



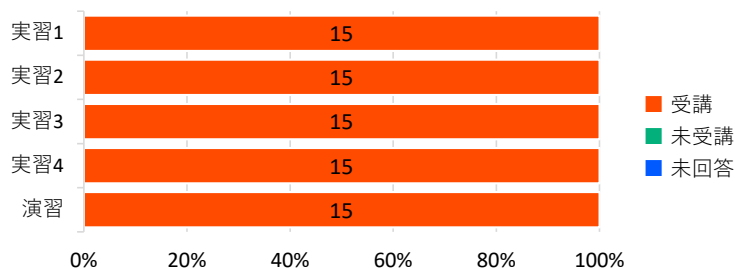
4) 原子力災害発生時の役割



5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

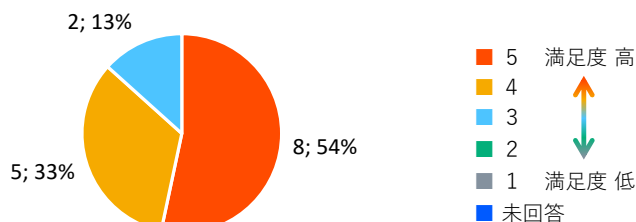


6) 受講プログラム



2. 本講座を受講しての所感等について

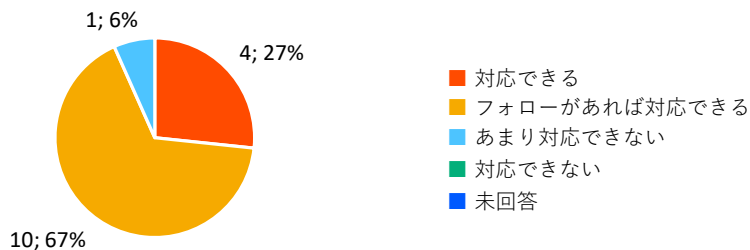
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；緊モニに対する具体的なイメージが持てて良かった
- ・ 満足度5；実際のモニタリングにいて使用する機器を使用して訓練を行うことができたため、実際の作業のイメージを掴むことができたから。
- ・ 満足度4；内容について理解できた
- ・ 満足度4；説明、試料がとてもわかりやすい
- ・ 満足度4；実際の測定器等に触れることができイメージができた

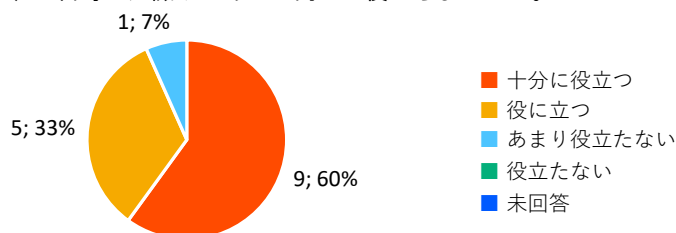
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ フォローがあれば対応できる；資機材の使用方に習熟していないため
- ・ フォローがあれば対応できる；主体的にはまだ不安があるが、知識は習得できた
- ・ フォローがあれば対応できる；資機材の取り扱いなどのフォローが必要と感じた。
- ・ あまり対応できない；完全におぼえることができなかった

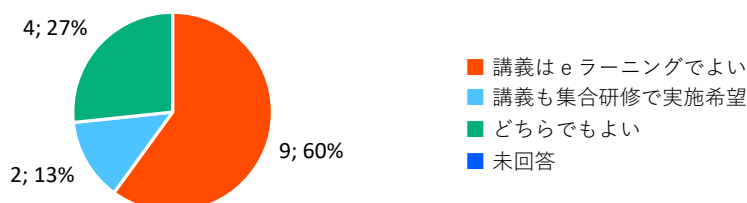
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ 十分に役に立つ；緊モニに対する具体的なイメージが持てて良かった
- ・ 十分に役に立つ；さらに知識を得ることが必要であることがわかった
- ・ 役に立つ；無知だったため勉強になった

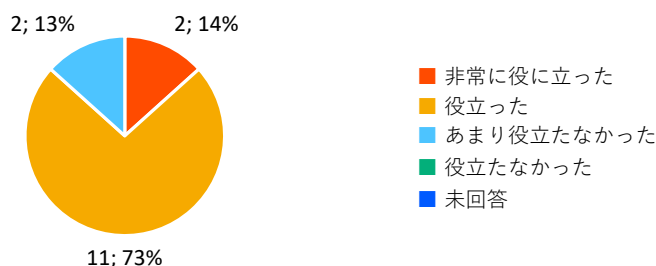
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ 講義はeラーニングでよい；eラーニングでも講義は理解できる
- ・ 講義はeラーニングでよい；個人別に必要な講義を選択できて大変良い
- ・ 講義はeラーニングでよい；実習の方のみでやるのが、時間の長さに頭に入りやすいと感じた。
- ・ 講義はeラーニングでよい；何回も講義を受けることができるため

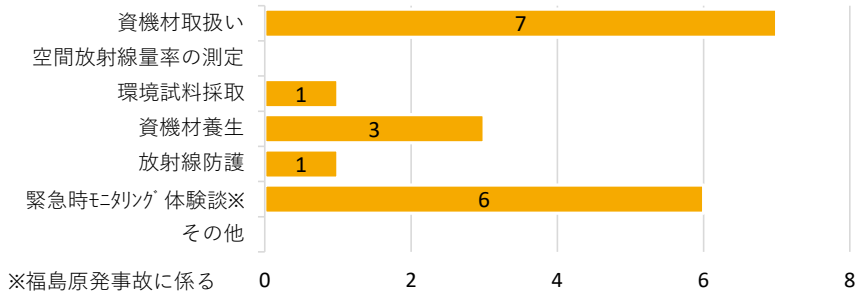
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ 非常に役に立った；事前知識として身につけることで研修の内容を把握しやすくなったため。
- ・ 役立った；事前知識を習得できたため、理解しやすかった
- ・ 役立った；量があるので自分のペースで進められてよかった。
- ・ あまり役立たなかった；未受講です

6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください(複数回答可)。

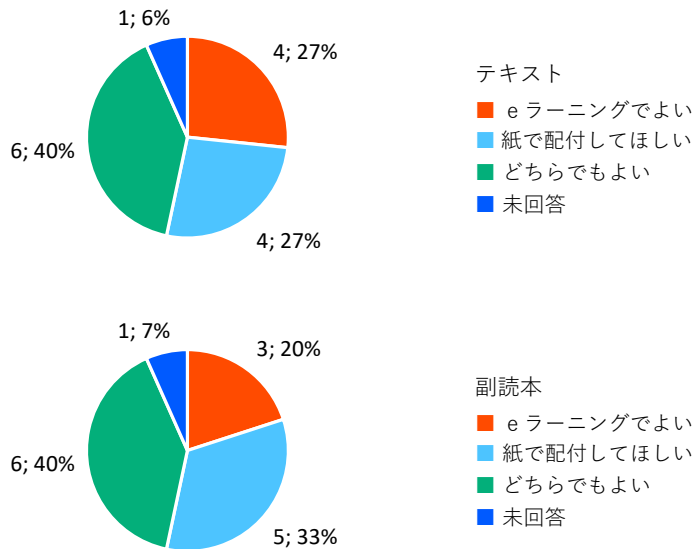


その他の意見

- ・ なし

7) DX (デジタルトランスフォーメーション) 推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。

※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。

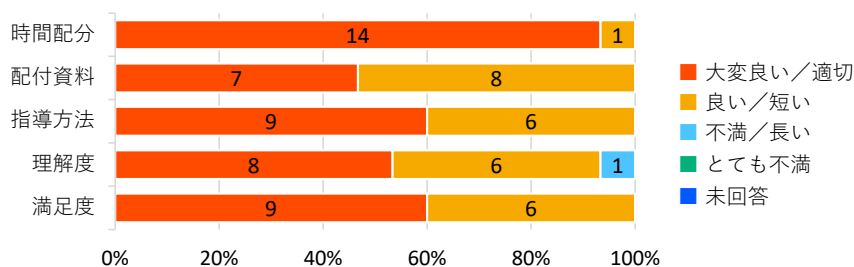


自由記述

- ・ [テキスト]紙で配付してほしい/[副読本]紙で配付してほしい；紙のほうが見やすい
- ・ [テキスト]紙で配付してほしい/[副読本]紙で配付してほしい；研修ではメモしたいので配付していただくと助かります
- ・ [テキスト]紙で配付してほしい/[副読本]紙で配付してほしい；紙のほうが使いやすい
- ・ [テキスト]どちらでもよい/[副読本]どちらでもよい；必要な内容が確認できればどちらでもよい

3. 各プログラムの評価について

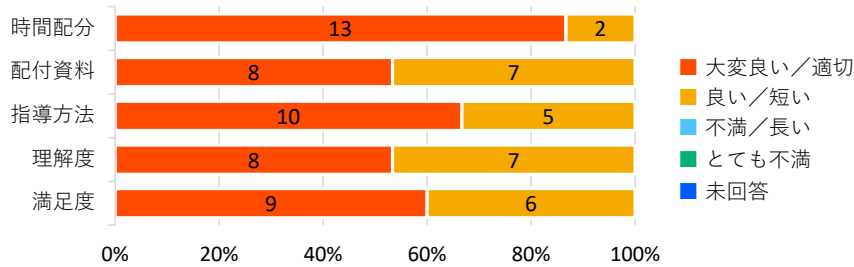
1) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ 内容が理解しやすく有意義だった
- ・ 短的に復習になって良かった
- ・ 用語の説明をもう少し細かく教えてほしい
- ・ 説明はとても解りやすく、時間的にも集中しやすい適切な時間だった。

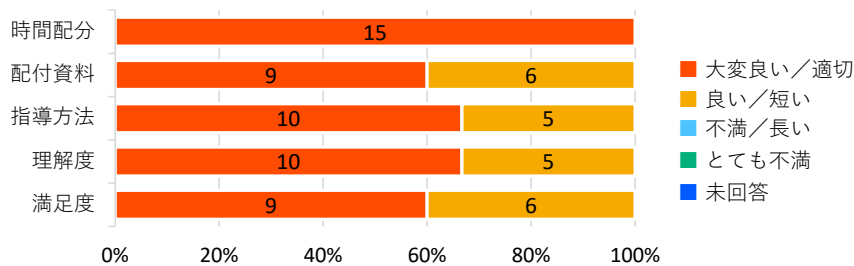
2) 実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・もう少し資材の使い方を学びたかった
- ・実習4、演習につながり良かった
- ・実際に実勢するなどしたため、とても理解しやすかったと感じた。
- ・可搬型ダストヨウ素サンプラの使用方法について理解が不足していたため

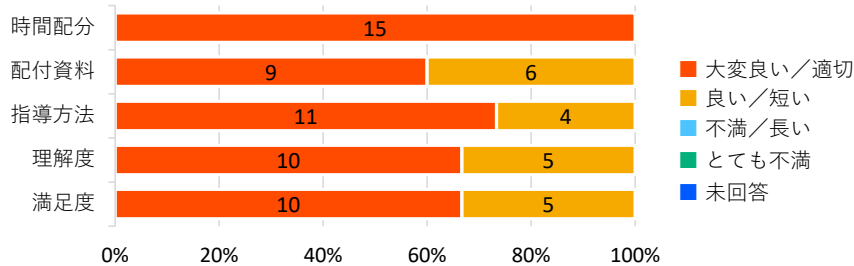
3) 実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・わかりやすく理解できた
- ・実習4、演習につながり良かった
- ・実際にやってみるなどして、理解が深まりやすかった。

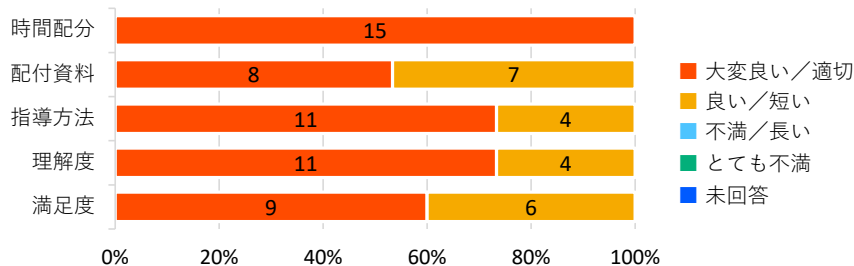
4) 実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・作業方法が分かりやすかった
- ・具体のイメージができるようになったので良かった。
- ・実際にやってみたことがとても良かった。とても勉強になった。

5) 演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・内容が適確で勉強になった
- ・具体のイメージができて良かった。
- ・連続してやることで、自分たちで考え段取りながらやる必要があり、大変勉強になった。

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ 協力してできたのでよかった。基礎知識を深めることができたが忘れないように演習等の回数を多めにしてほしい。
- ・ 全体を通して大変勉強になりました。特に、実技・実習は実際の動きを行いながら作業を進めるため、自分の中でシミュレーションできたことがとても大きかったと感じました。また、研修の時間の長さもちょうどよかった。
- ・ 実際の機材を用いて、作業することができとても勉強になった。

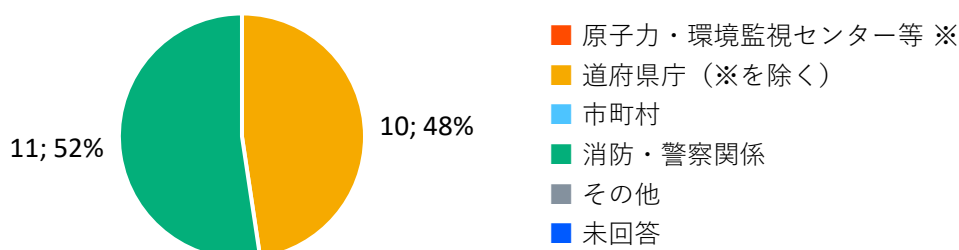
道府県D 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 21 名

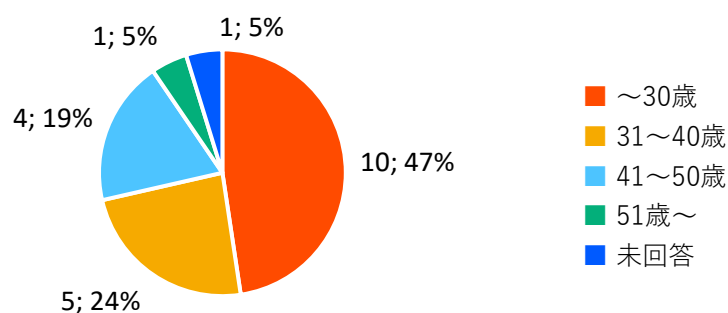
受講者数 : 22 名

1. 受講者自身について

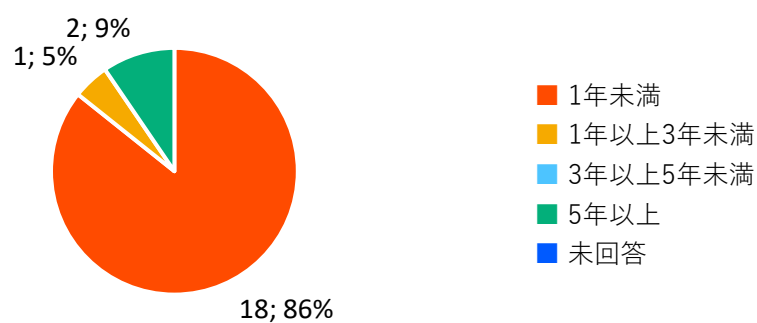
1) 所属



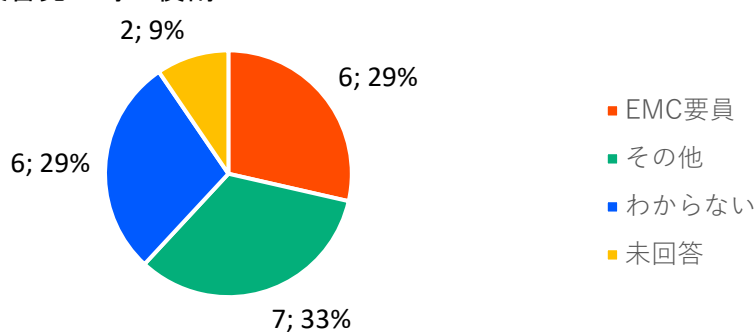
2) 年齢



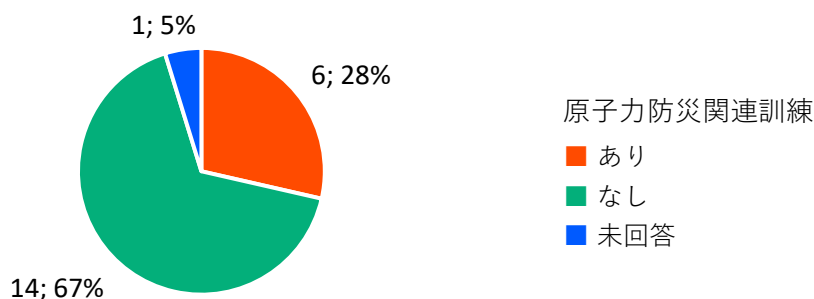
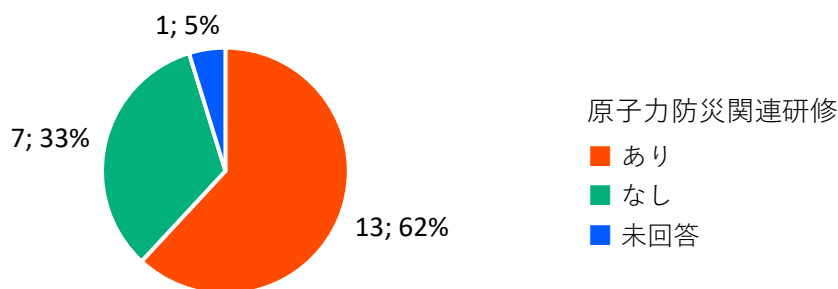
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



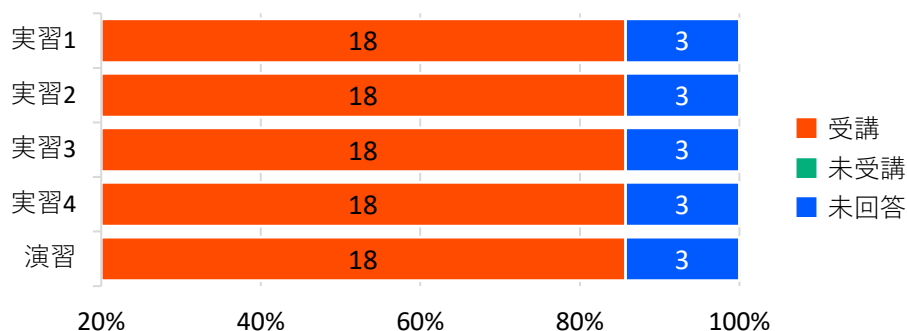
4) 原子力災害発生時の役割



5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

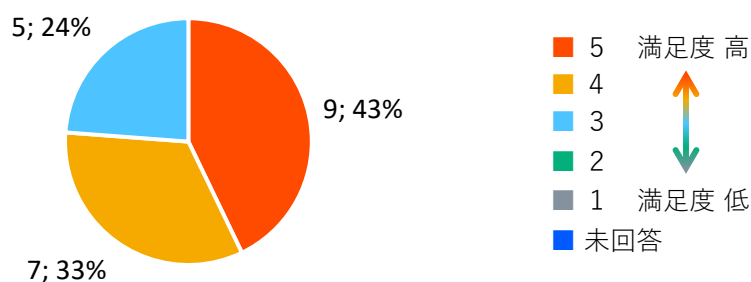


6) 受講プログラム



2. 本講座を受講しての所感等について

1) 満足度

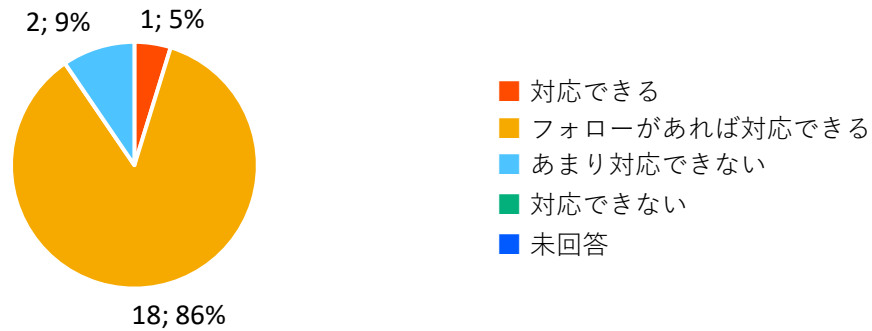


自由記述

- ・ 満足度5；実習が多く分かりやすかった。
- ・ 満足度5；非常に勉強になりました。
- ・ 満足度4；先生の講義が大変分かりやすかったです。eラーニングでいまいち分からなかった項目が解決しました。
- ・ 満足度4；モニタリングの方法について理解ができた。

- ・ 満足度3；普段使用する機会の少ない測定資機材を取扱うことができた。

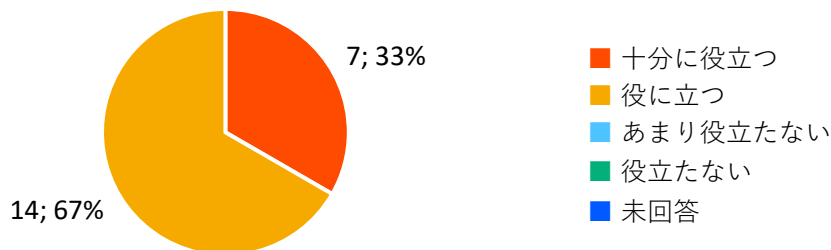
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ フォローがあれば対応できる；資機材の取扱いが難しい
- ・ フォローがあれば対応できる；マニュアルがあれば対応できると思いました。

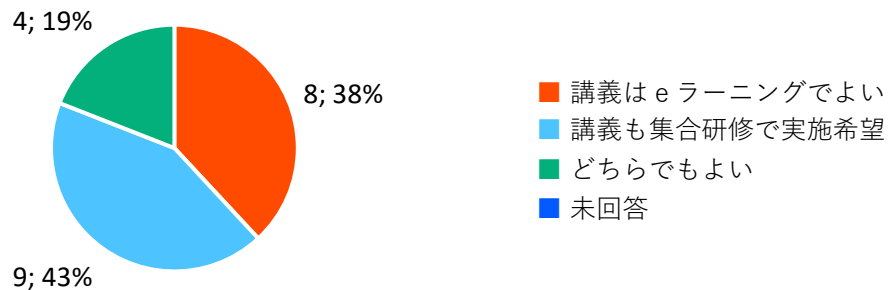
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ 十分に役に立つ；私自身、知らなかった新しい知識を身に付けることができた。
- ・ 十分に役に立つ；有事の際、必要となる実務を理解できたので。
- ・ 役に立つ；原子力、放射線の知識が深まった
- ・ 役に立つ；全体の流れを把握するため。

4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。

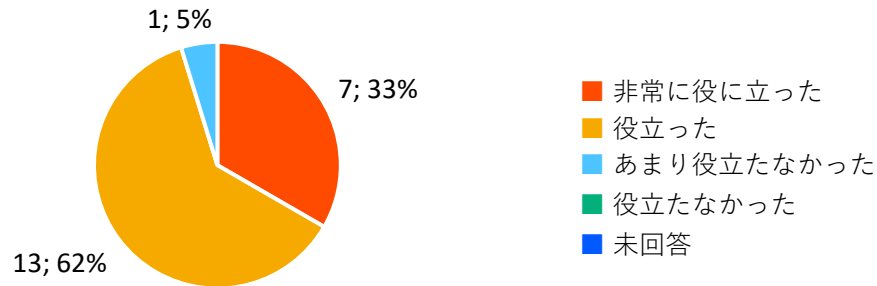


自由記述

- ・ 講義はeラーニングでよい；eラーニングを受けたからこそ内容が入ってきやすかった。
- ・ 講義はeラーニングでよい；eラーニングを受講して、知識が深まった
- ・ 講義も集合研修で実施してほしい；eラーニングの簡単なおさらい（まとめみたいな）を講義でしてほしい。
- ・ 講義も集合研修で実施してほしい；eラーニングでの講義も理解できたが、集合研修としても良いと思う。
- ・ 講義も集合研修で実施してほしい；講義形式の方が習得しやすいため。

- ・ 講義も集合研修で実施してほしい；所属では受講しづらい

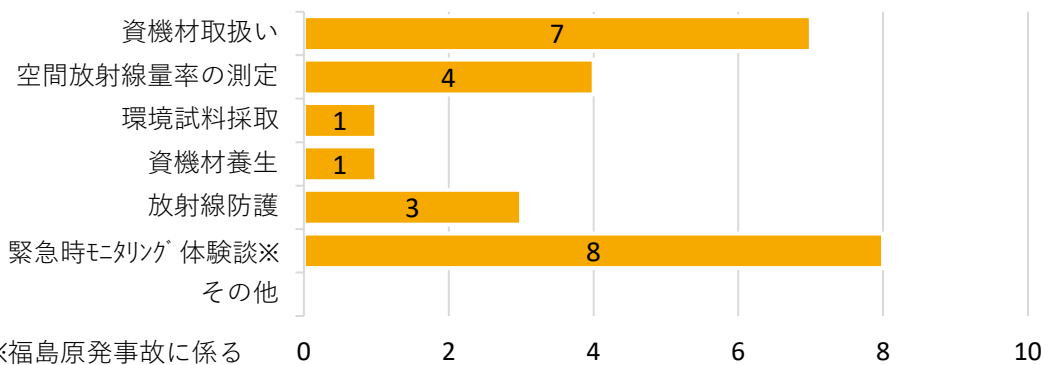
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ なし

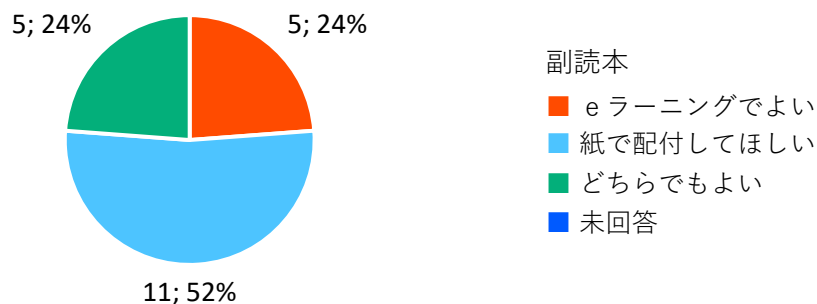
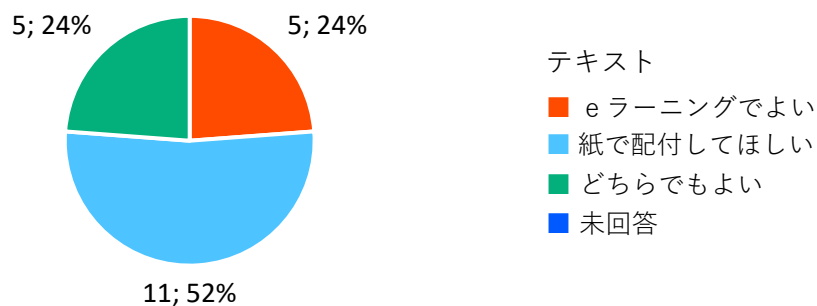
6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください（複数回答可）。



その他の意見

- ・ なし

7) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。
※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。

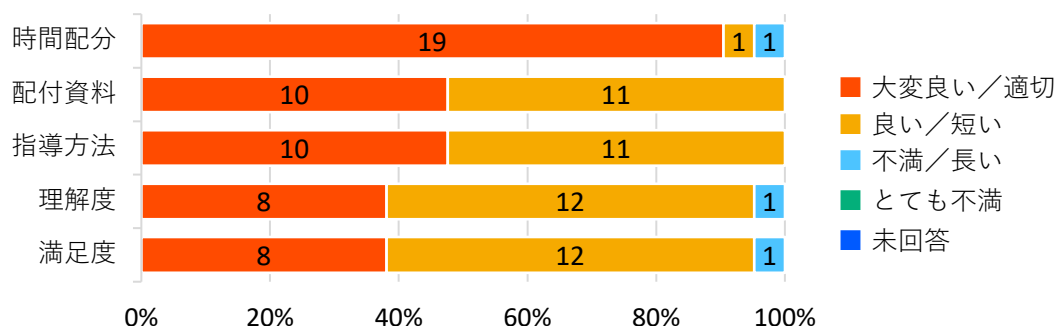


自由記述

- ・ [テキスト]eラーニングでよい/[副読本]eラーニングでよい；eラーニング受講時に印刷しているため。
- ・ [テキスト]紙で配付してほしい/[副読本]紙で配付してほしい；メモがとりやすい。

3. 各プログラムの評価について

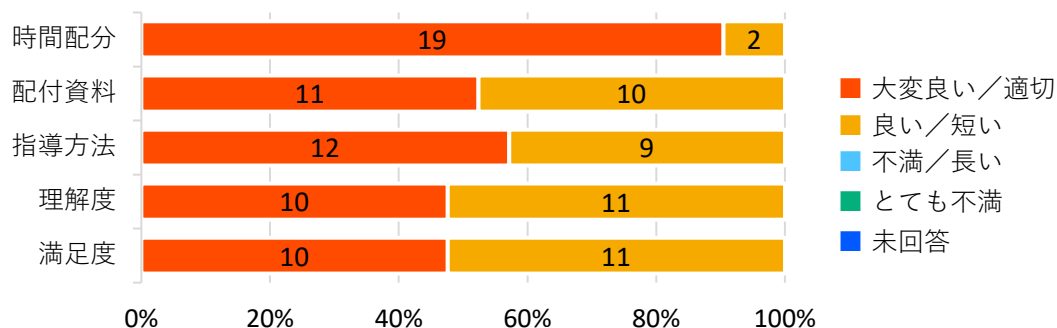
1) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ 理解を深めることができた。

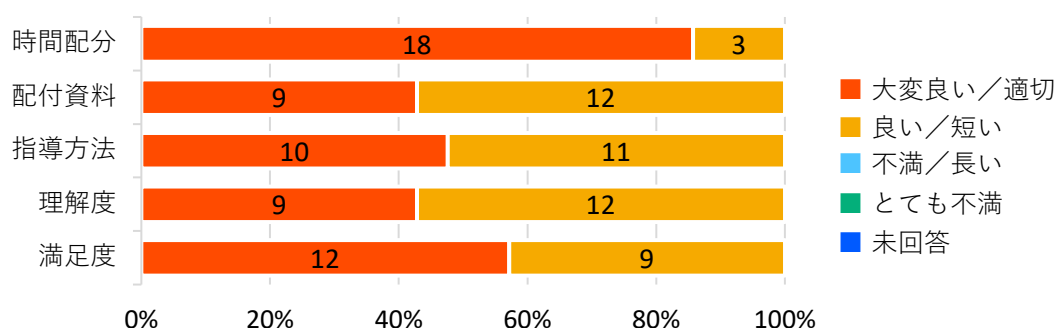
2) 実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ 資機材の使用方法についてしっかり学べた。

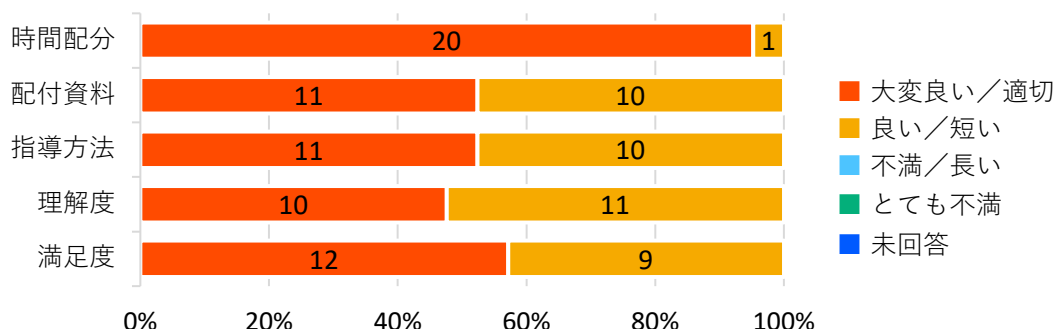
3) 実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 測定方法等をしっかり出来た。

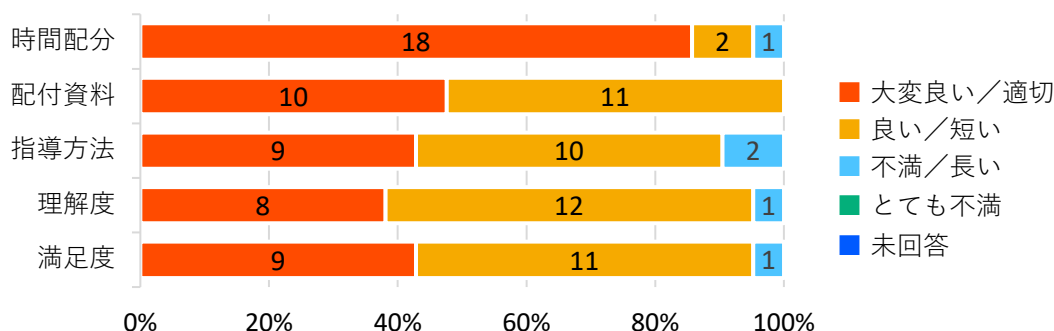
4) 実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ 基本をおさえることが出来た。

5) 演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 地点によっては職員の方がいらっしゃらない地点があり、合っているかどうかの確認ができなかった。
- ・ 測定実習において、様式の書き方を把握していないなか、記録するのは少し手間取りました。
- ・ 活動方法についてしっかりと出来た。
- ・ 資機材準備に関し、分かりにくかった。

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ 研修ありがとうございました。
- ・ 道府県において、誰（どの部署）がどの役割を行うのかの説明があるといいなと思いました。（防災部局の人がそこは担当してもいいかと。）
- ・ 知識を増やすことができ、また実習もたくさんできたので非常に有意義な経験ができました。今後も定期的に本講座のような研修を受けたいと思います。
- ・ 水や土等の摂取、測定について学習する項目が多いので、1日で全てを学ぶことは難しいと感じた。
- ・ 可搬式 緊急モニタリングについて実際に設置すれば、経験になると思う。
- ・ 大気の採取は慣れていないと難しいと感じた。
- ・ 現場で活動するためには採取者と補助者の連携が重要だと思う。
- ・ 測定時の汚染対策が注意すべき点が多く、学習できて良かったと思います。
- ・ 実試料を用いて実習させてもらうことで、実際の放射線の挙動がよく分かったと思います。
- ・ 各実習、とても分かりやすかったです。

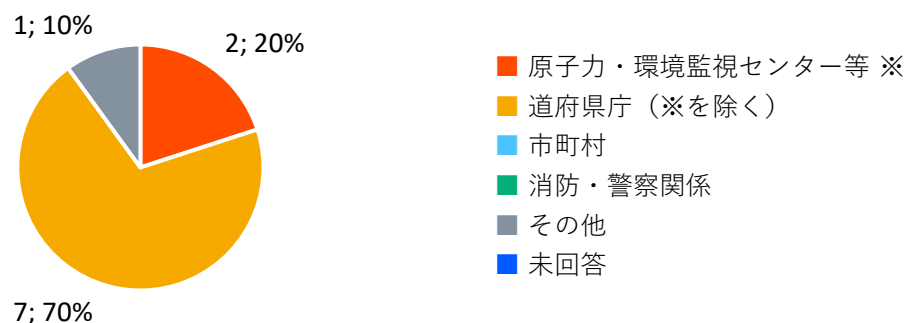
道府県E 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 10 名

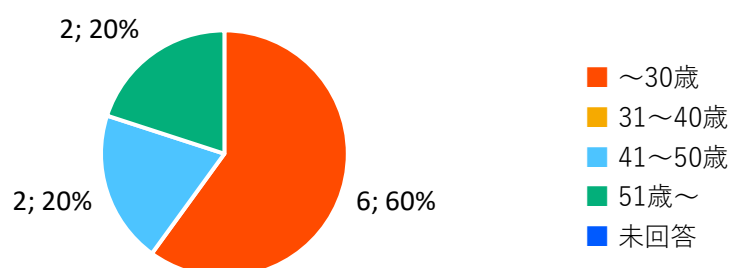
受講者数 : 10 名

1. 受講者自身について

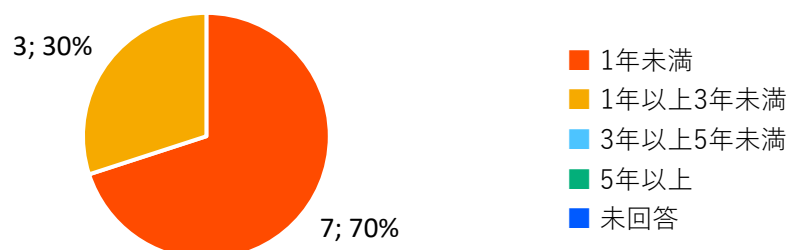
1) 所属



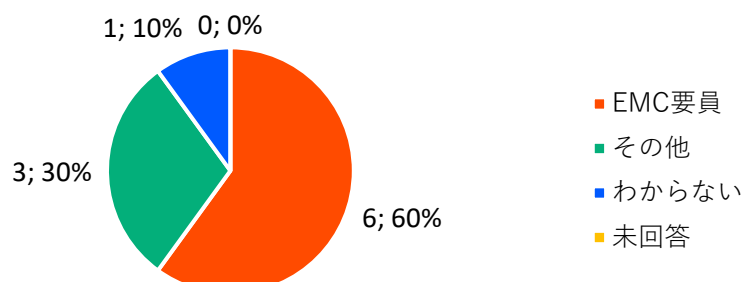
2) 年齢



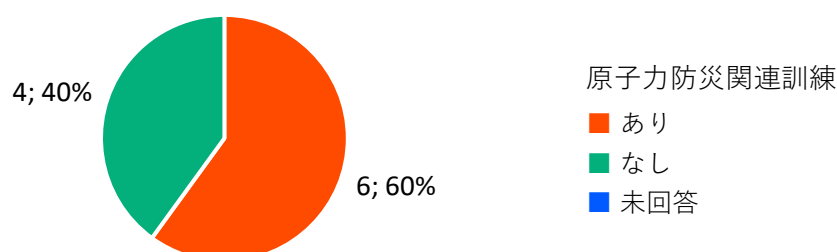
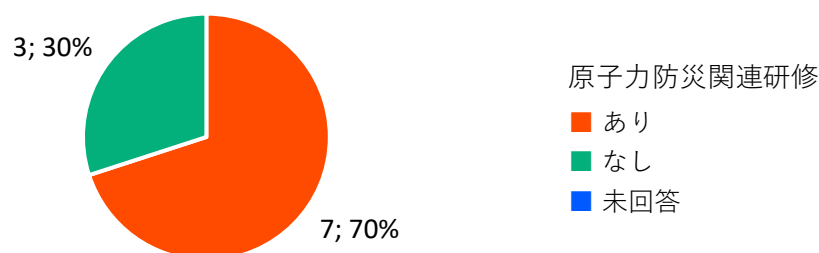
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



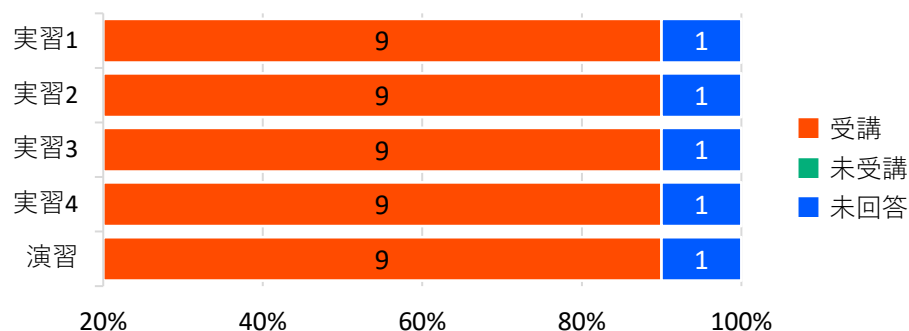
4) 原子力災害発生時の役割



5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

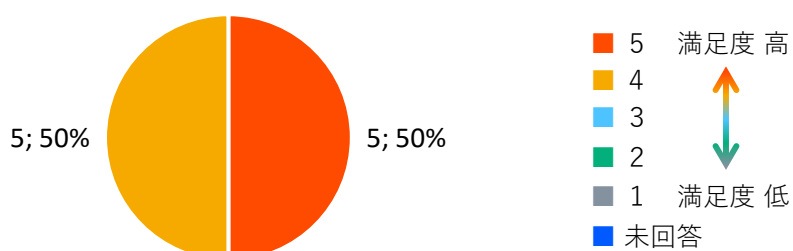


6) 受講プログラム



2. 本講座を受講しての所感等について

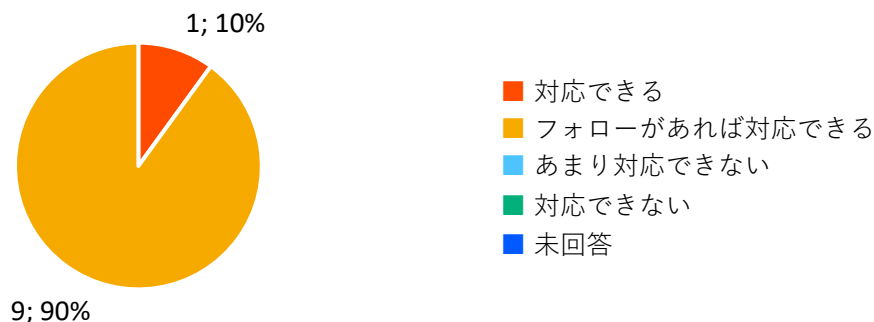
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；演習があることで実際に想定した行動ができたため。
- ・ 満足度5；分からないことはその場で聞けたので分かりやすかった。
- ・ 満足度4；実際の役割は連絡班で指示を出す係のため、測定の方法、手順が実際に分かって、指示内容が想像しやすくなった。
- ・ 満足度4；モニタリング技術について勉強になった。

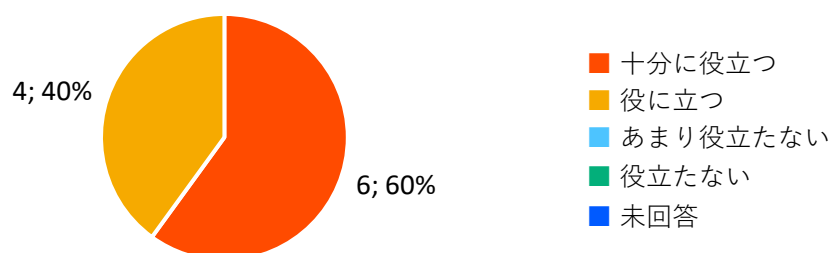
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ フォローがあれば対応できる；実際の現場では今回の仮定では起きないことが起きる可能性があるため。
- ・ フォローがあれば対応できる；素早く対応をするのがまだ一人では難しい。

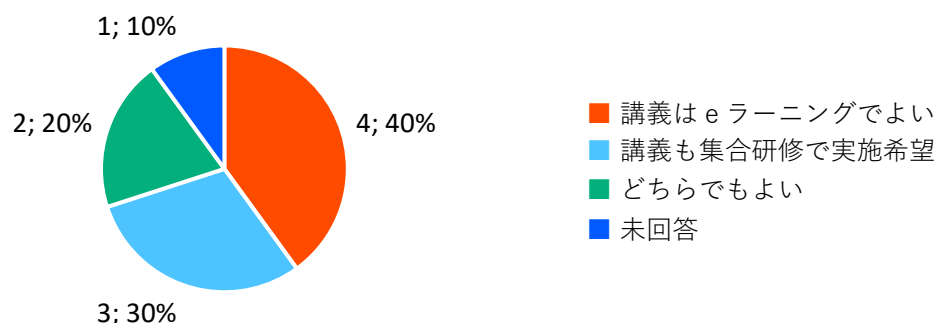
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ 十分に役に立つ；この研修を受けなければ知らなかったと思うため。
- ・ 十分に役に立つ；知らないことばかりだったため、分かりやすく説明していただけて良かった。

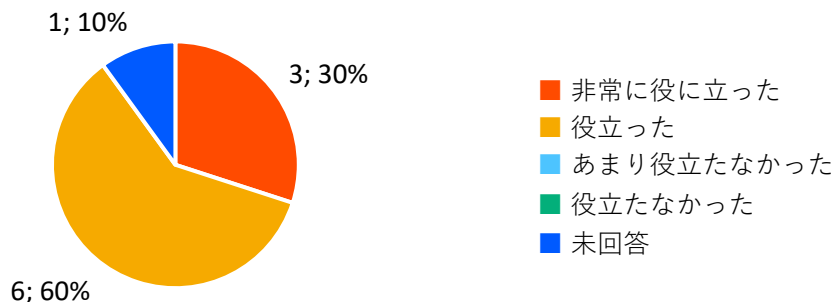
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ 講義も集合研修で実施してほしい；実際、機器を見ながら説明してもらう方が分かりやすかった。
- ・ どちらでもよい；どちらにも良い点があったため。
- ・ どちらでもよい；eラーニングのHPアドレスが分かりにくかった。メールのアドレスでは「h」が抜けていたため、HPにたどり着けなかった。

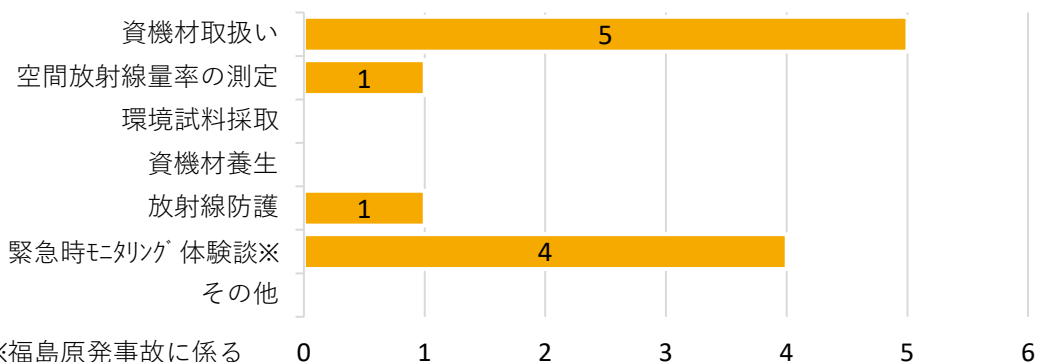
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ 非常に役に立った；自分のスピードで学べるため。
- ・ 非常に役に立った；聞き逃したとき戻れるのが良い。

6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください（複数回答可）。



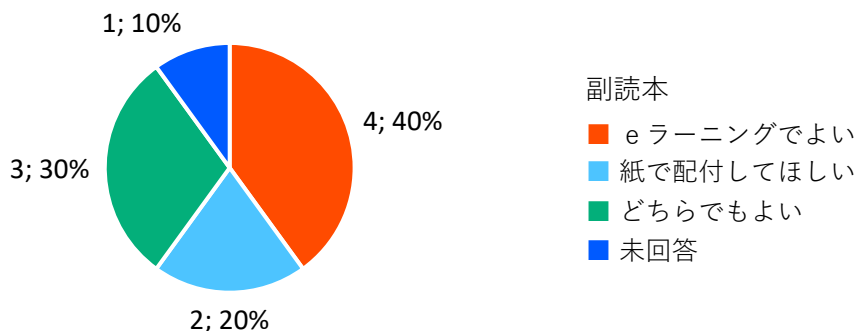
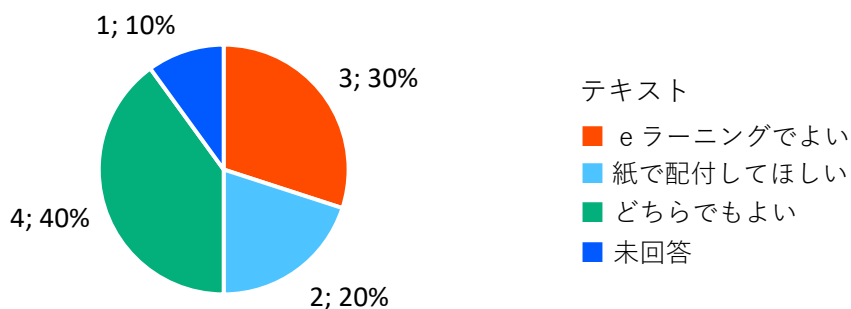
※福島原発事故に係る

その他の意見

- ・ なし

7) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。

※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。

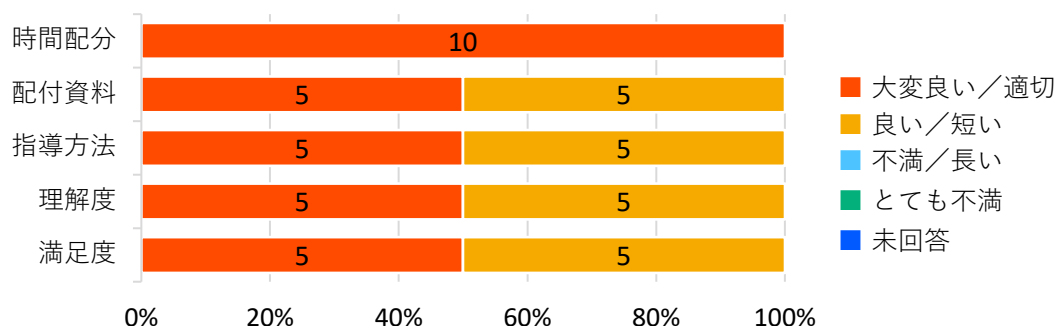


自由記述

- ・ [テキスト] どちらでもよい/[副読本] eラーニングでよい；テキストは必要な人が印刷すればよい
- ・ [テキスト] どちらでもよい/[副読本] どちらでもよい；パソコンから取り込みにくい環境なので、紙で配付は助かった。

3. 各プログラムの評価について

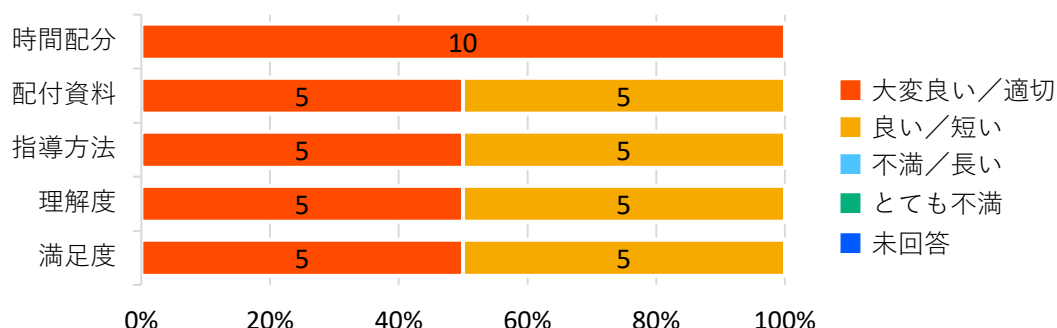
1) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ 基礎理解に役立ちました。ありがとうございました。
全て理解できたと思いたい。

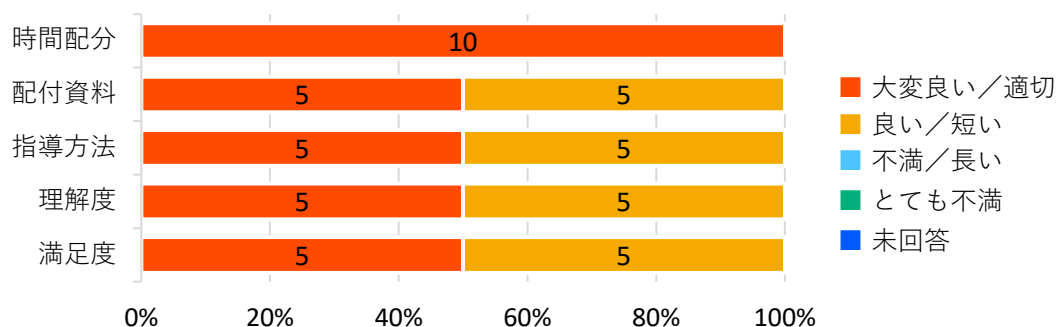
2) 実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ 紙で書いてあるので分からなくても大丈夫だった。

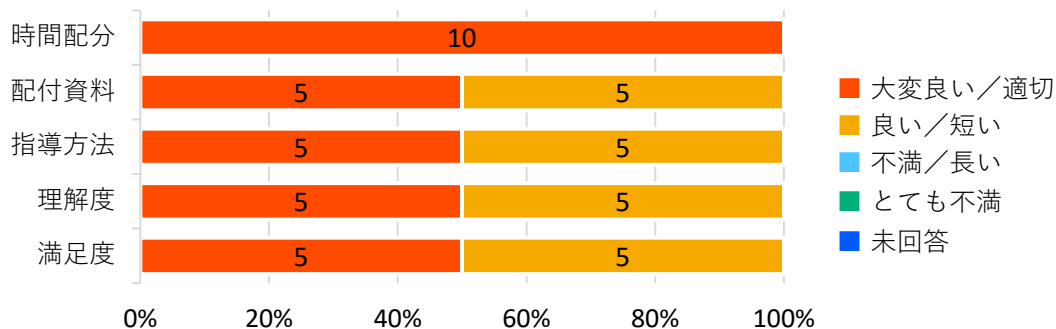
3) 実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 何回もやれたので作業は覚えた。

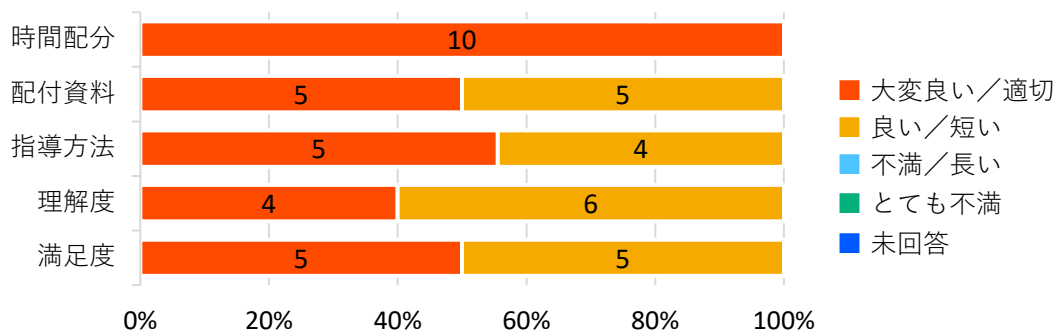
4) 実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ 実際にできたので良かった。

5) 演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 原子力災害が起こった時にどのような動きをするのかももう少し詳しく説明が欲しい（今回参加された人は災害時にどこの要員となるか分からないため）。
- ・ 実際に自分たちで行うことに学びがあった。
- ・ 手袋を外すのが難しい

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ 講座内容とは少し外れますが、実習で使用する富士電機製の可搬MPの使い方について（道府県E所有のもの）→内部バッテリーを使用しないようお願いいたします。バッテリーの充電が不可能のため、交換が必要となり、大変高額となります。
- ・ 未経験だったので、実習は有効的だった。ありがとうございました。
- ・ 出来れば終了時刻をもう少し早めて欲しい。
- ・ Sサイズのゴム手袋があったら欲しいです。

道府県F（市町村職員対象プログラム）受講者アンケート集計結果

回答者数 : 14 名

受講者数 : 14 名

1. 受講者自身について

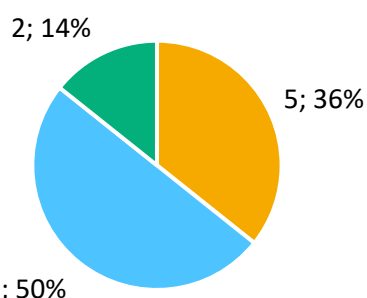
1) 所属



14; 100%

原子力・環境監視センター等 ※
道府県庁（※を除く）
市町村
消防・警察関係
その他
未回答

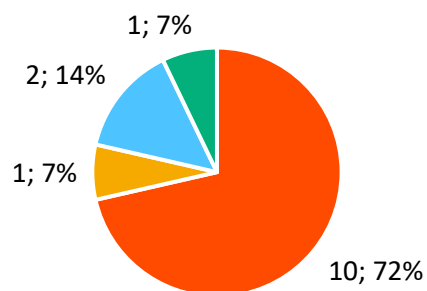
2) 年齢



7; 50%

～30歳
31～40歳
41～50歳
51歳～
未回答

3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



1; 7%

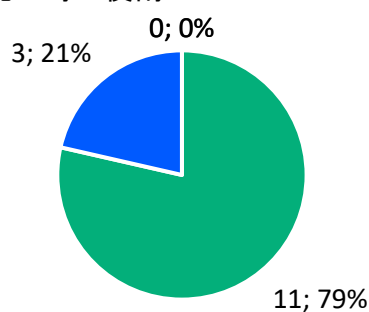
2; 14%

1; 7%

10; 72%

1年未満
1年以上3年未満
3年以上5年未満
5年以上
未回答

4) 原子力災害発生時の役割



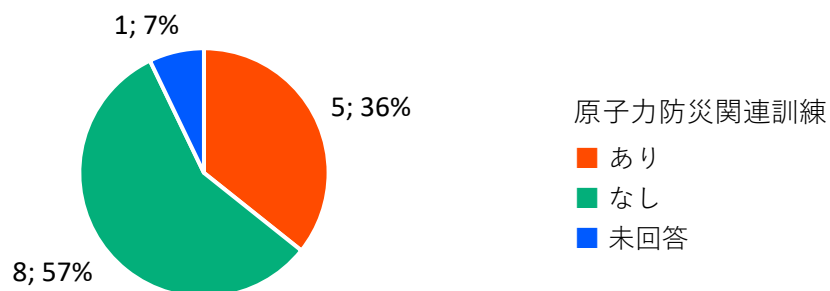
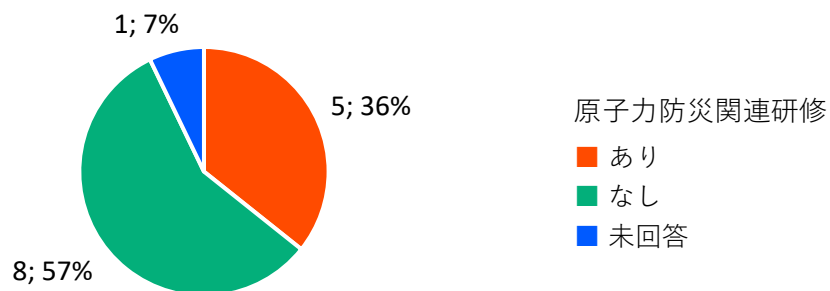
0; 0%

3; 21%

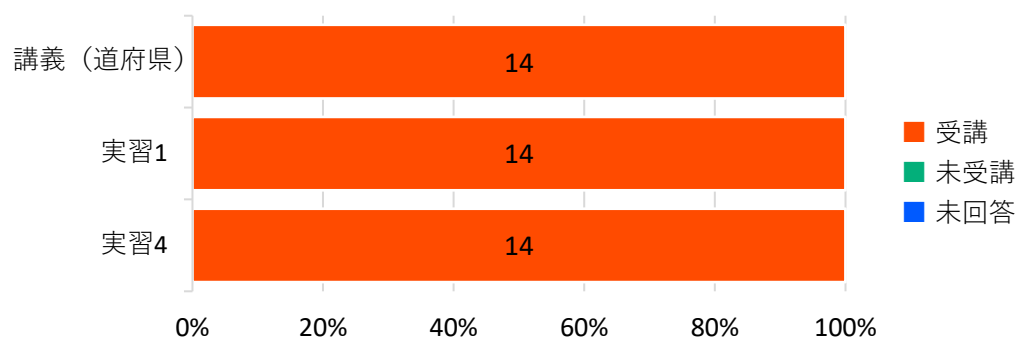
11; 79%

EMC要員
その他
わからない
未回答

5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

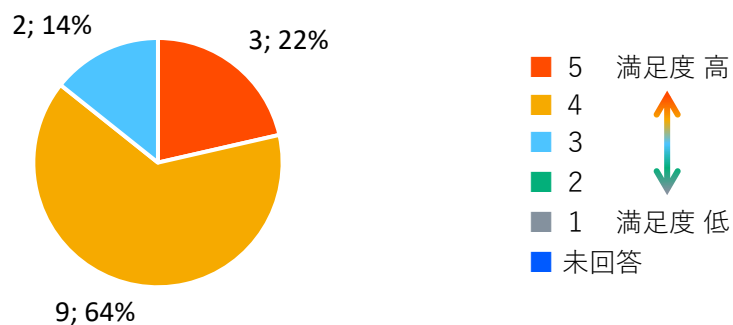


6) 受講プログラム



2. 本講座を受講しての所感等について

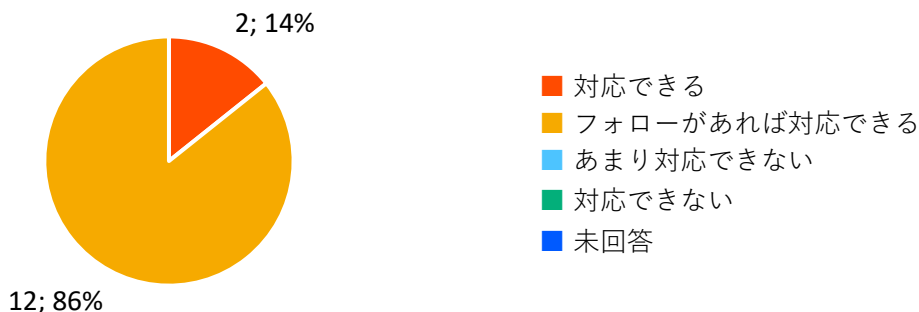
1) 満足度



自由記述

- 満足度4；普段使用しない機器を使えた。

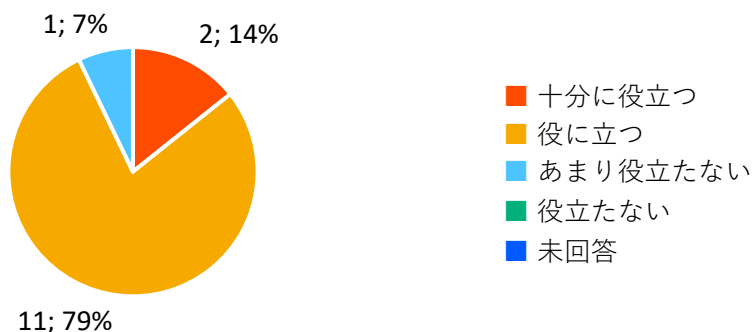
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ フォローがあれば対応できる；計測時の注意点や機器の取り扱いなど、細かい点がわからない。
- ・ フォローがあれば対応できる；今回の研修と道府県のマニュアルだけでは、実際に対応できるか不安がある。

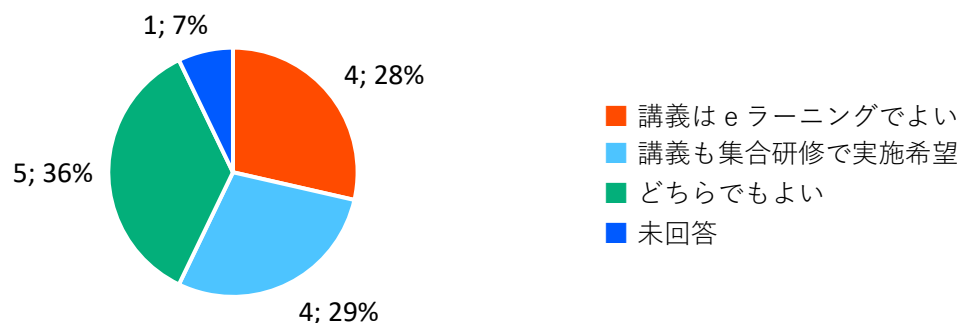
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ なし

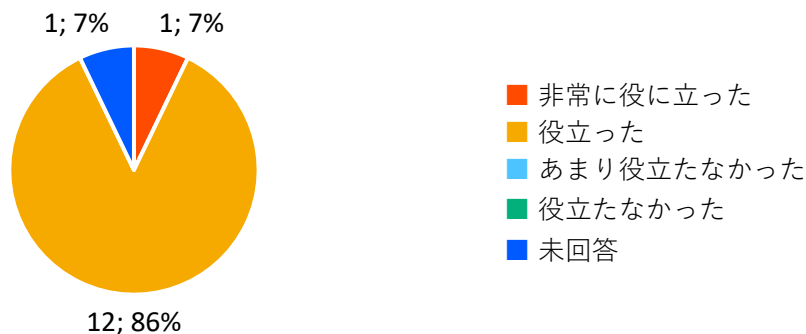
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ 講義も集合研修で実施してほしい；実習は役に立つ。

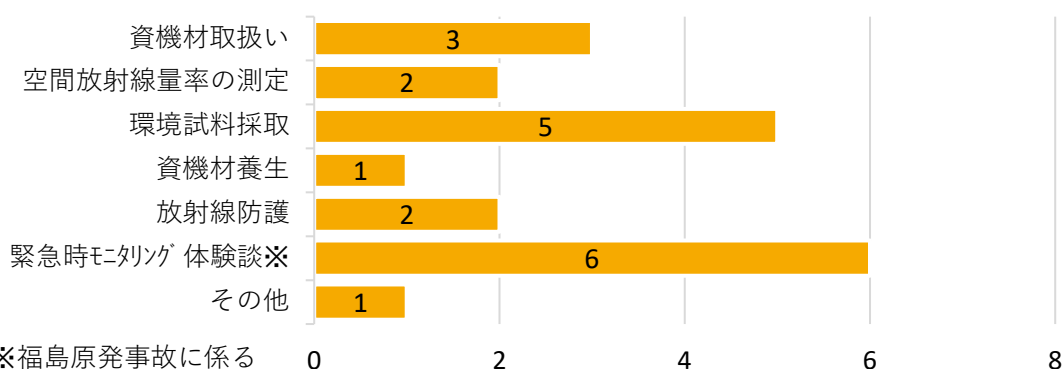
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ 役に立った；eラーニングだけでは不十分（逆に集合研修の方が効果的と思う）。なかなか理解が進まなかった。

6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください（複数回答可）。



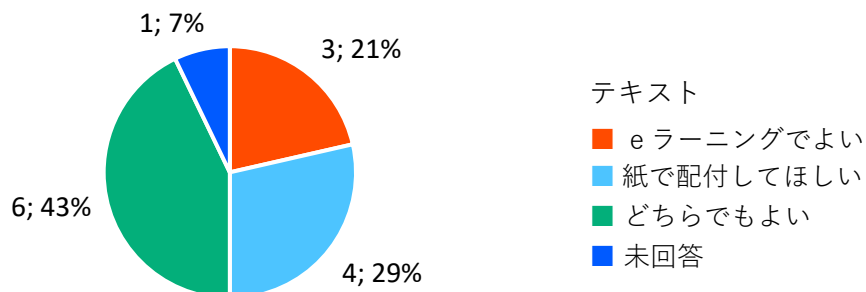
※福島原発事故に係る

その他の意見

- ・ 対応の流れ、実際にやること

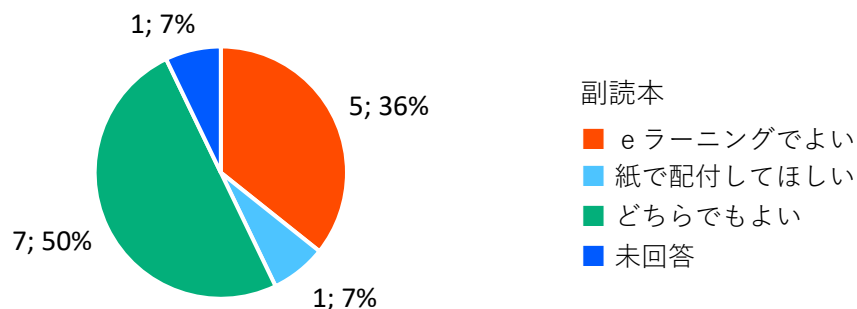
7) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。

※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。



テキスト

- eラーニングでよい
- 紙で配付してほしい
- どちらでもよい
- 未回答



副読本

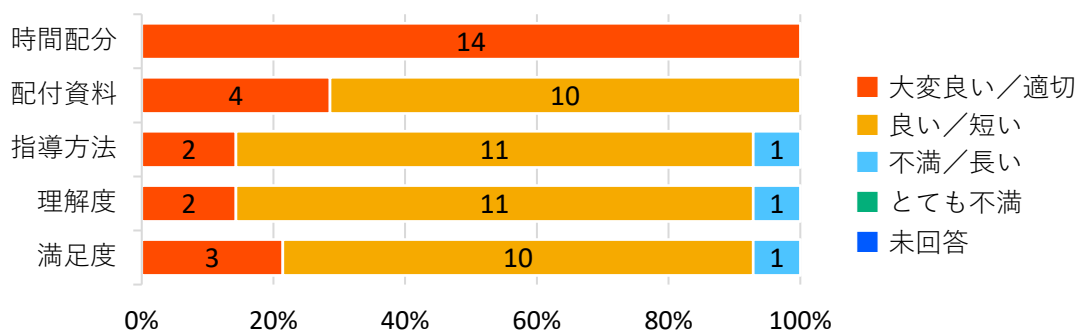
- eラーニングでよい
- 紙で配付してほしい
- どちらでもよい
- 未回答

自由記述

- ・ [テキスト] どちらでもよい/[副読本] どちらでもよい；本市では、閲覧用の端末が十分でないため、データでいただいても研修に用いる際には紙での出力となってしまう。

3. 各プログラムの評価について

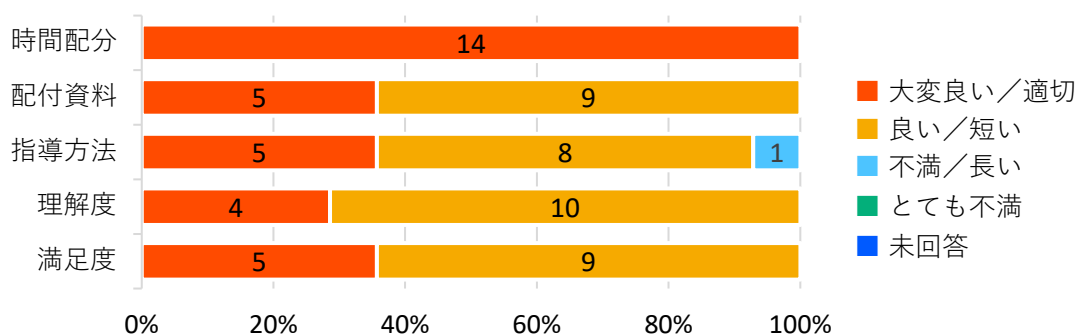
1) 講義（道府県） 道府県Fの緊急時モニタリング体制



自由記述

- ・ なし

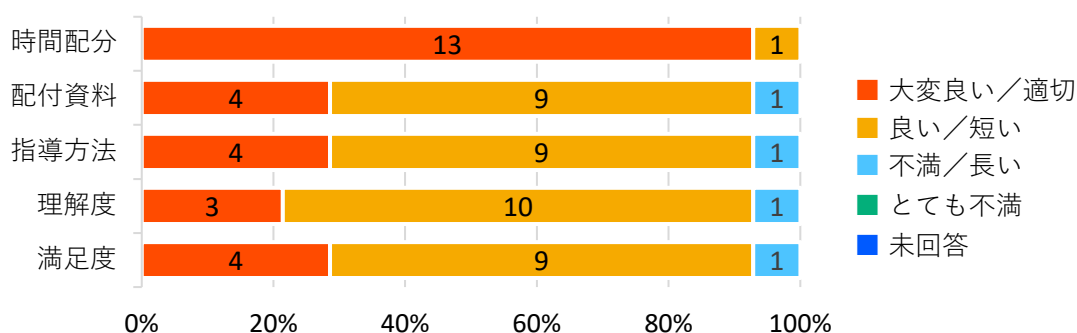
2) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ 指示が不明確でわかりづらかった。
- ・ 実際に体感でき、理解度が高かった。

3) 実習4 環境試料（飲料水）の採取



自由記述

- ・ 体験することで、足りないものがわかった。
- ・ もう少し詳しく指導してほしい。ゴム手袋の外し方、道府県から配布される採取道具一式など。
- ・ 道府県のマニュアルだけでは、詳細の手順等がなく、対応できると思わない。

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ 飲料水採取時に出るごみ（手袋等）の回収・処分はどうか、対応があればよいと思う。
- ・ 市町村職員が対応するためには、今回のような研修の定期的な開催、詳細なマニュアルの整備が必要。

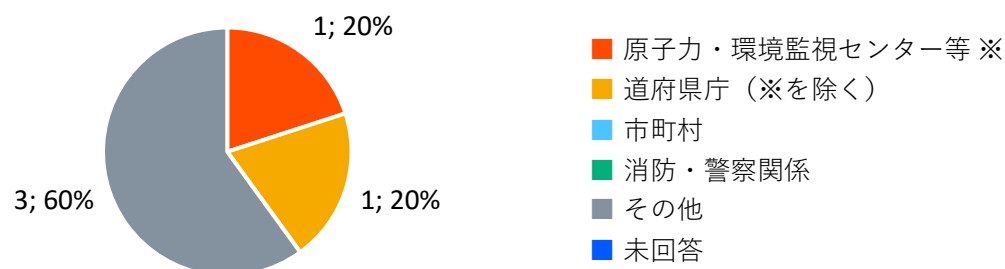
道府県F（EMC要員対象プログラム）受講者アンケート集計結果

回答者数 : 5 名

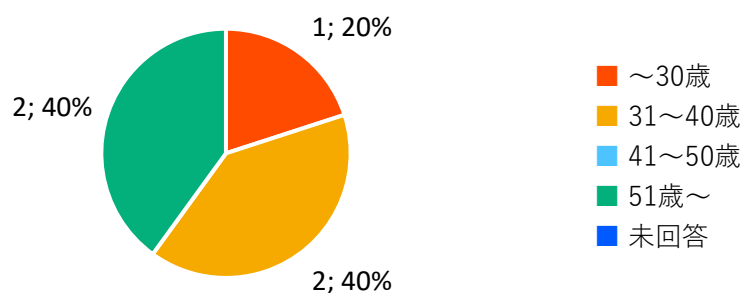
受講者数 : 5 名

1. 受講者自身について

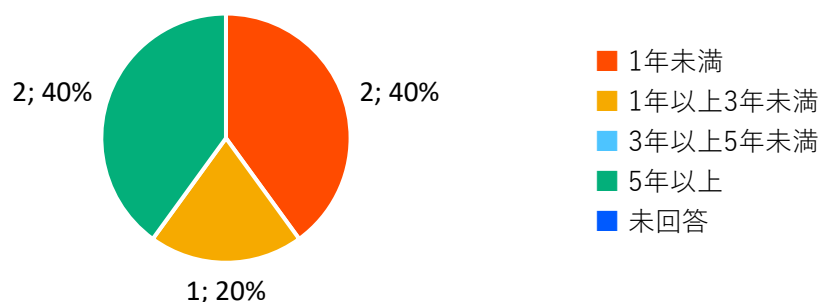
1) 所属



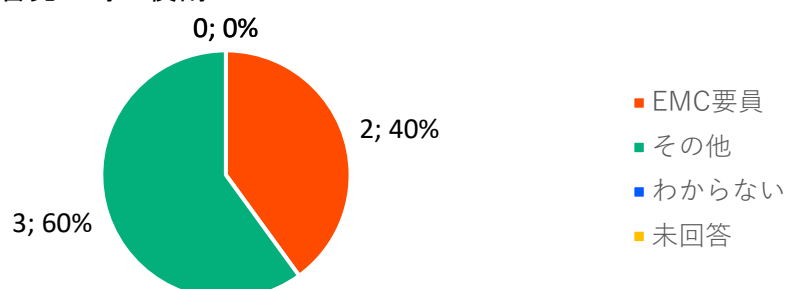
2) 年齢



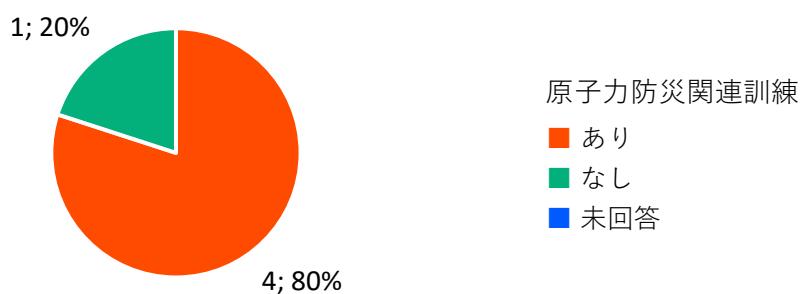
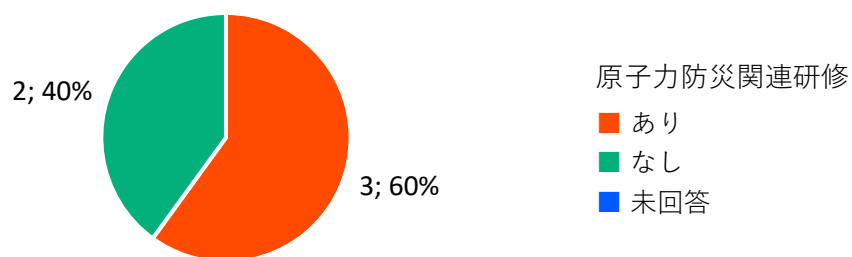
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



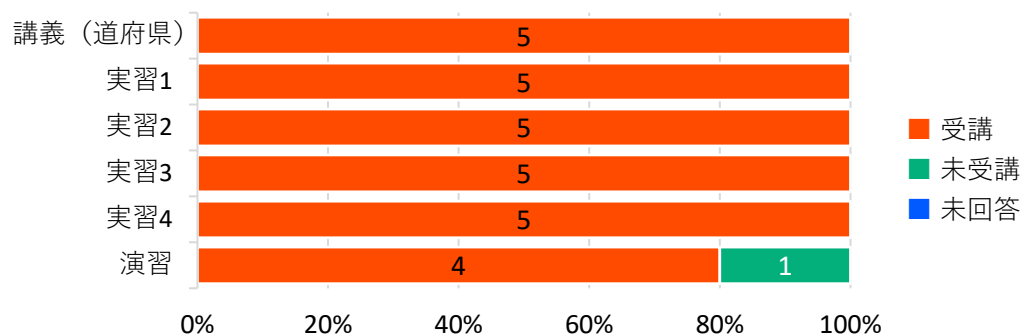
4) 原子力災害発生時の役割



5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

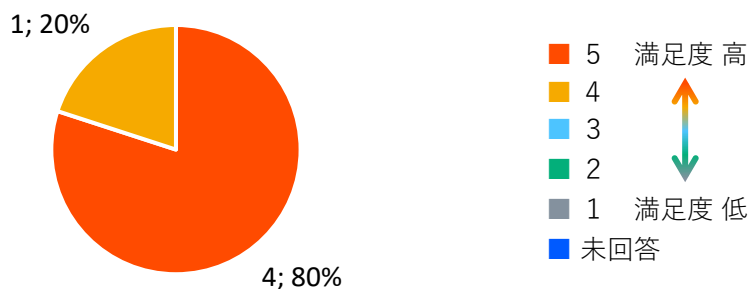


6) 受講プログラム



2. 本講座を受講しての所感等について

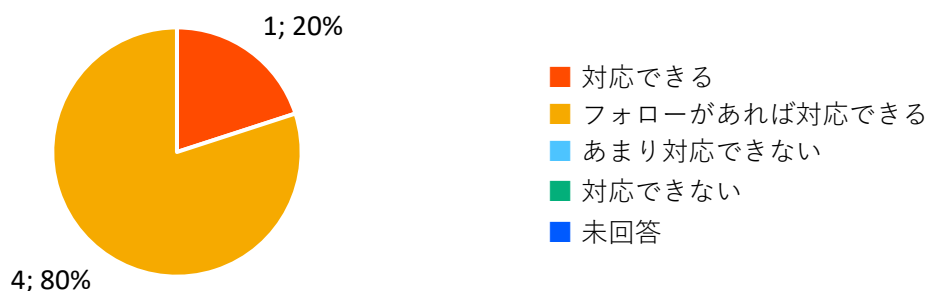
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；実践的な講座だったので。
- ・ 満足度4；緊急時モニタリングの基礎的なことが学べた。

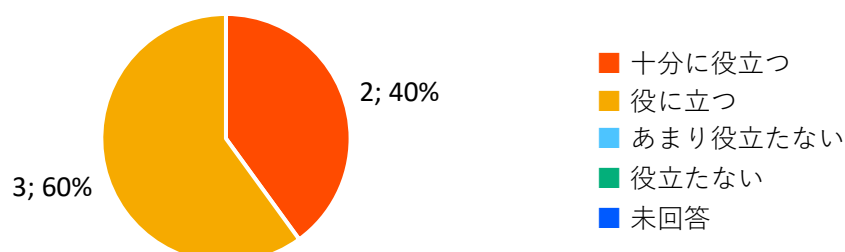
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ 対応できる；測定チームでなら活動できるレベルであると思った。
- ・ フォローがあれば対応できる；今回実習した試料採取であれば。

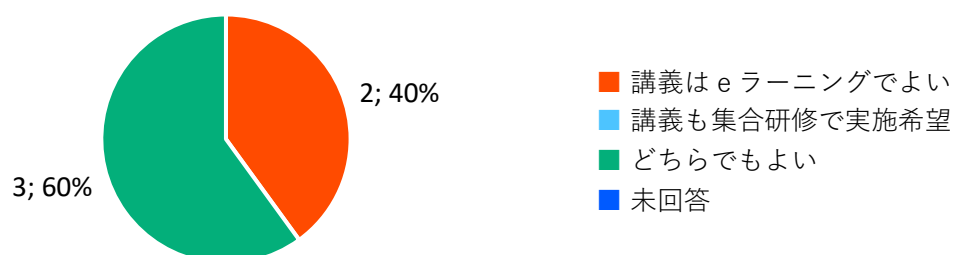
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ 十分に役に立つ；原子力防災の視点からもかなり役立ったと思う。

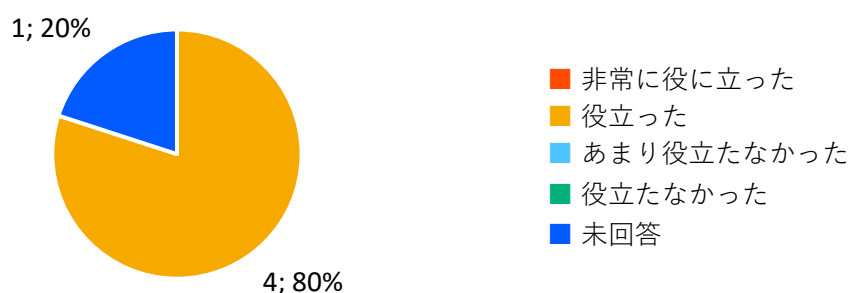
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ どちらでもよい；それぞれ利点欠点があるため、どちらと決められない。

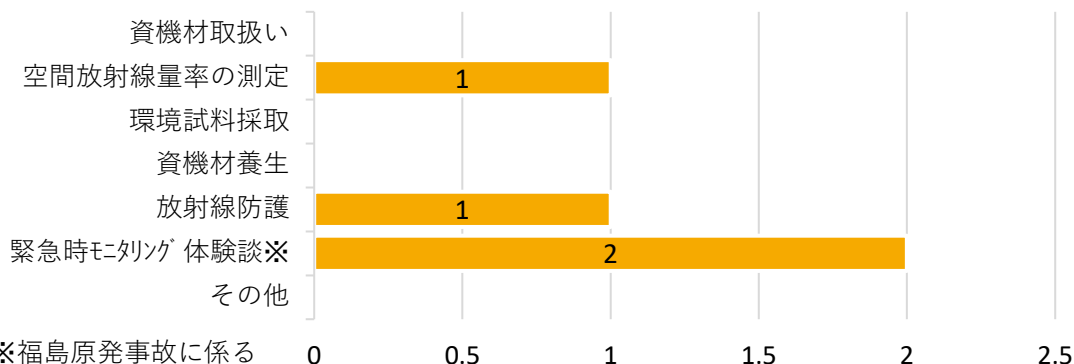
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ 役立った；放射線の知識の整理ができたから。

6) e ラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください（複数回答可）。

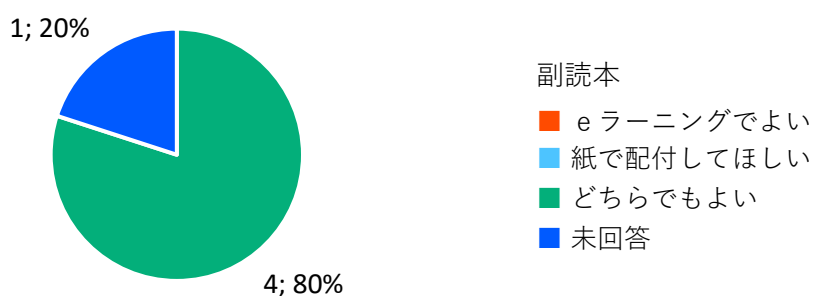
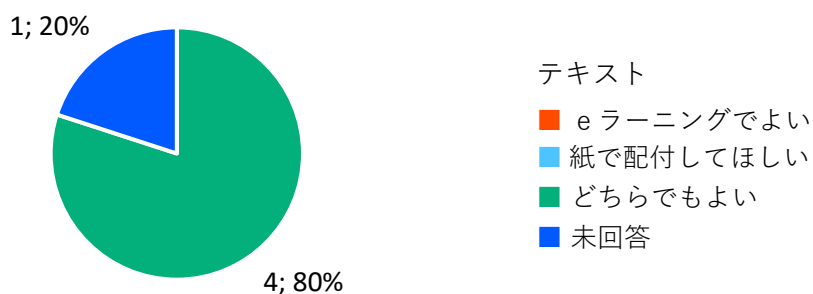


その他の意見

- ・ なし

7) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。

※テキスト及び副読本は、e ラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。

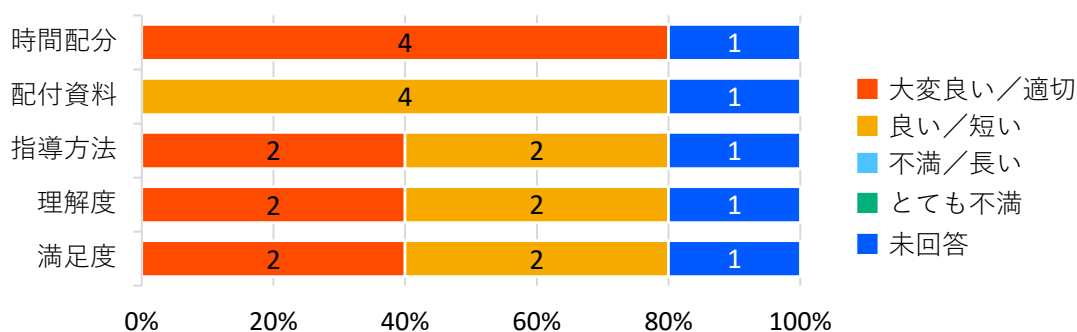


自由記述

- ・ [テキスト]どちらでもよい/[副読本]どちらでもよい；どちらもメリットがあるのでどちらでも可。
- ・ [テキスト]どちらでもよい/[副読本]どちらでもよい；データとして配付、もしくは、いつでも閲覧可であれば、データでもよい。

3. 各プログラムの評価について

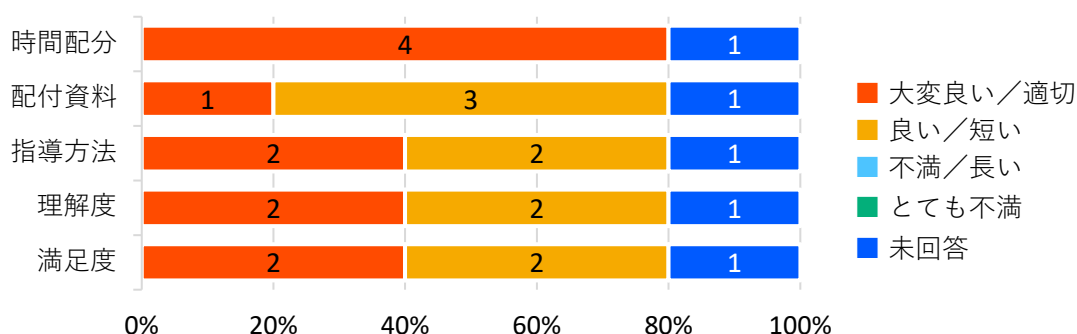
1) 講義（道府県） 道府県Fの緊急時モニタリング体制



自由記述

- ・ なし

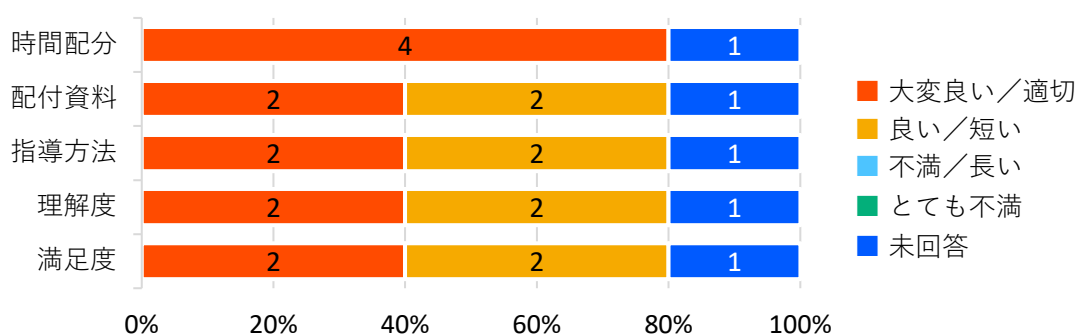
2) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ 実際に機材を用いることで理解が促進された。
- ・ 線種と遮へいの組み合わせが良くわかった。

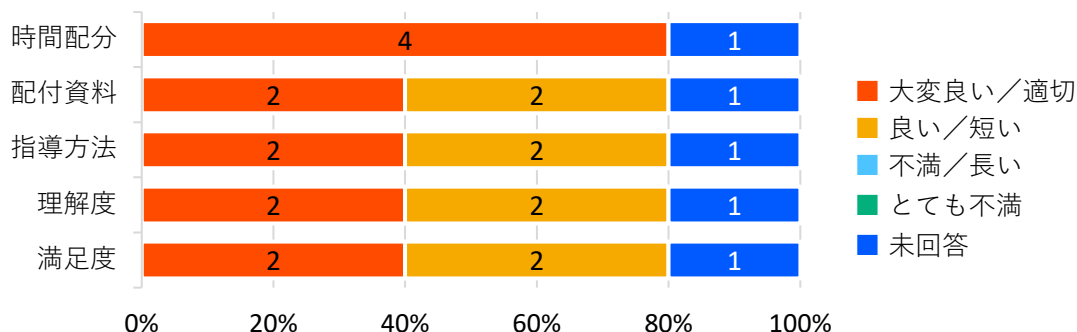
3) 実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ 機材の種類、使い方など、色々学べた。
- ・ 実地に機材に触れたので良かった。

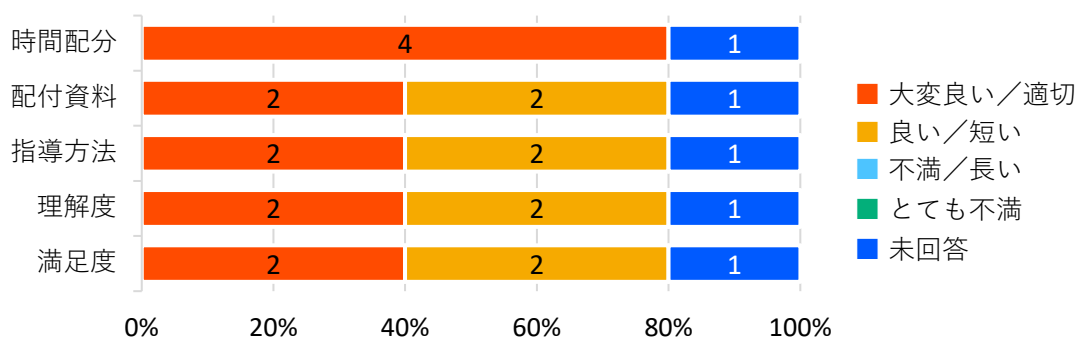
4) 実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 機材の組み込み方など、有益な情報を得られた。
- ・ 実地にできて良く理解できた。

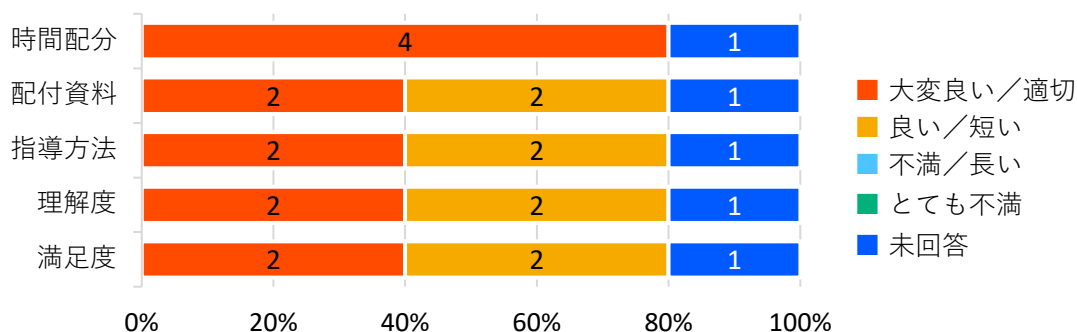
5) 実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ 実際の採取法など、ためになった。
- ・ 実地にやってみて良くわかった。

6) 演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ RPGのようで確実に身についたと思う。
- ・ 実践的な状況で実施できたのが良かった。

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ 非常に勉強になった。
- ・ 本講義や実演は、もっと原子力に携わる方に受講させるべきと感じる。
- ・ 実に有意義なカリキュラムであった。
- ・ 良い教育だったと思う。
- ・ 実習が多く見について、記憶にも定着しやすかったと思う。
- ・ 参加人数が少ない場合は、日程を再調整することを検討いただけたらと思う。
- ・ 開催日は金曜日にしていただけると助かる。

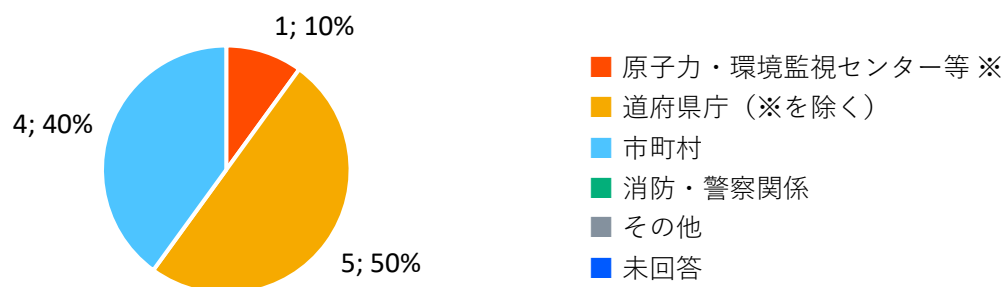
道府県G 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 10 名

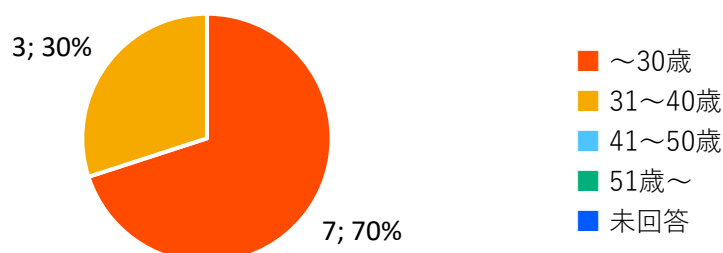
受講者数 : 10 名

1. 受講者自身について

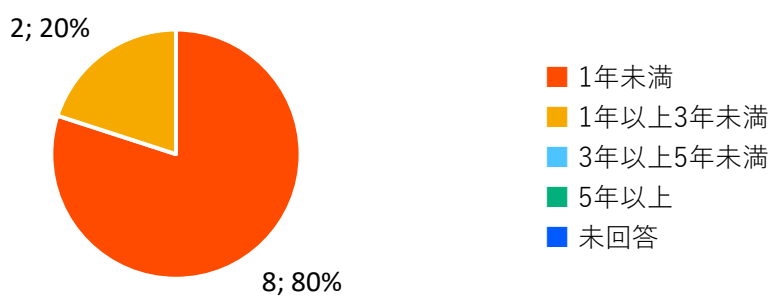
1) 所属



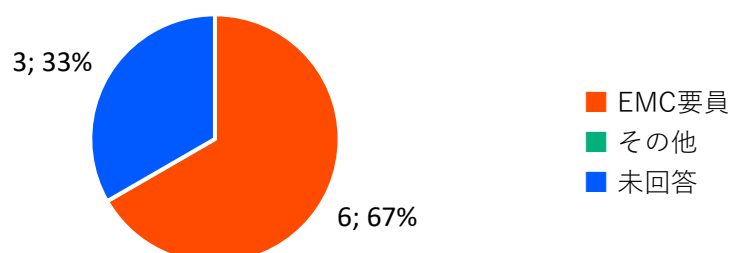
2) 年齢



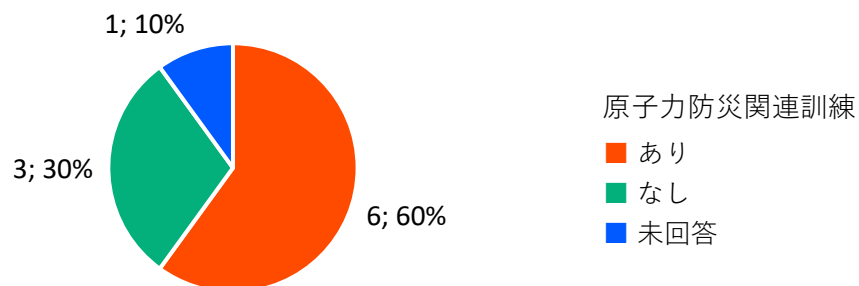
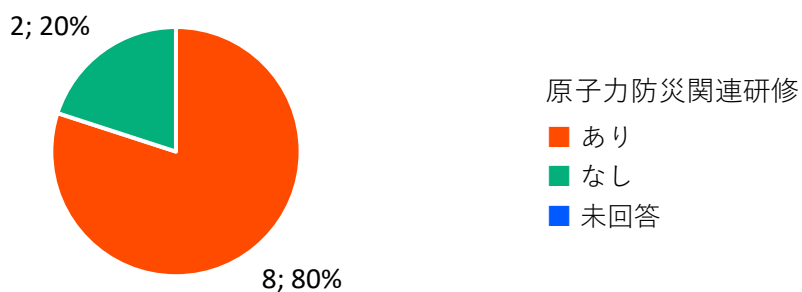
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



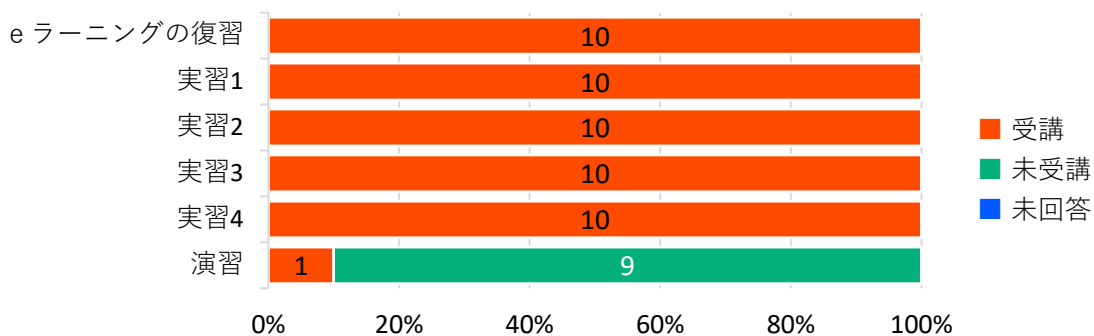
4) 原子力災害発生時の役割



5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

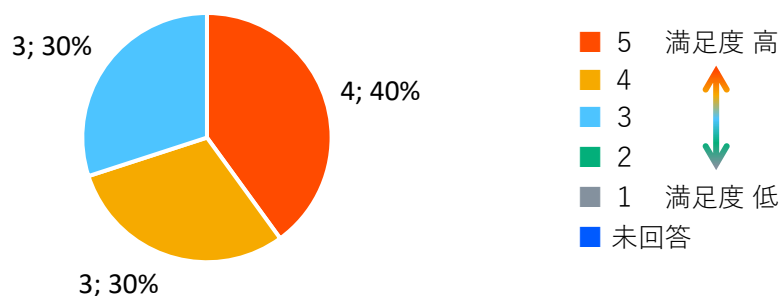


6) 受講プログラム



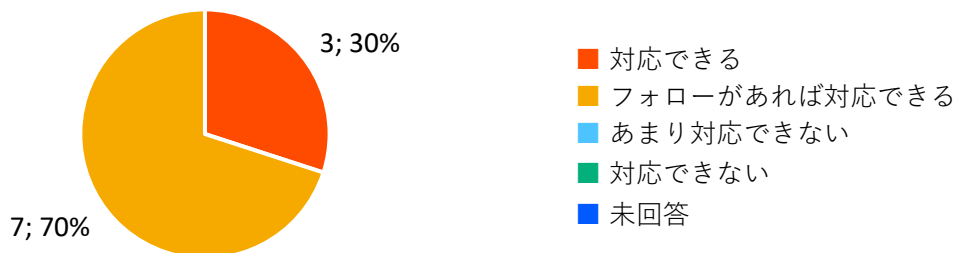
2. 本講座を受講しての所感等について

1) 満足度



自由記述
・ なし

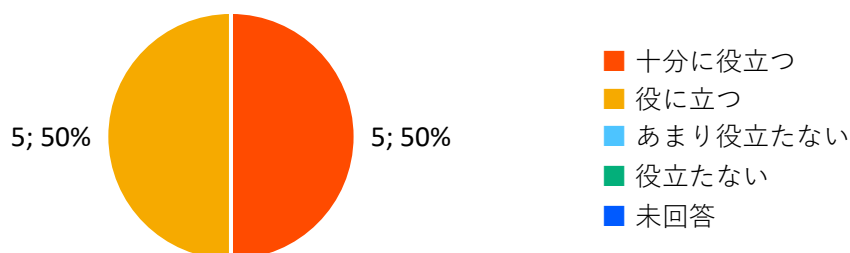
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ フォローがあれば対応できる；単独ではまだ実施不可だと感じた。回数をこなす必要あり。

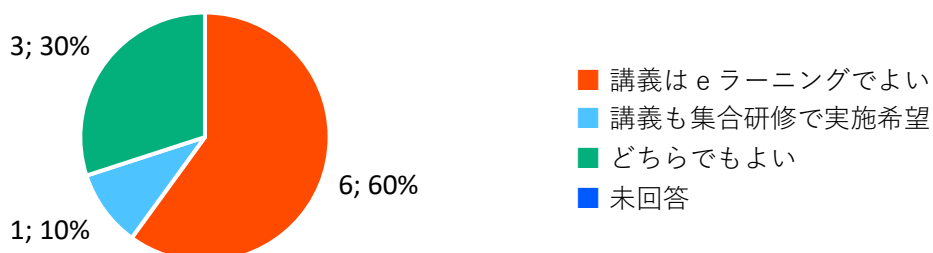
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ なし

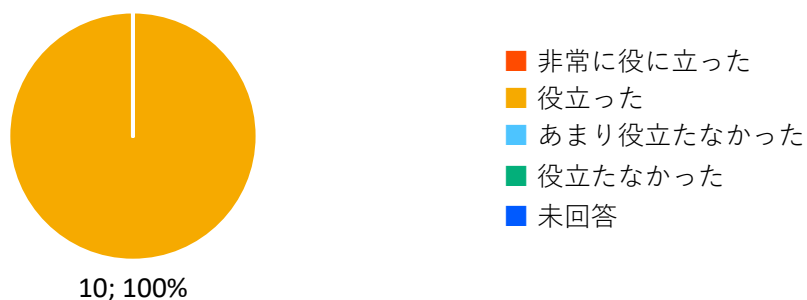
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ 講義はeラーニングでよい；実習、演習の時間が多い方がよい。

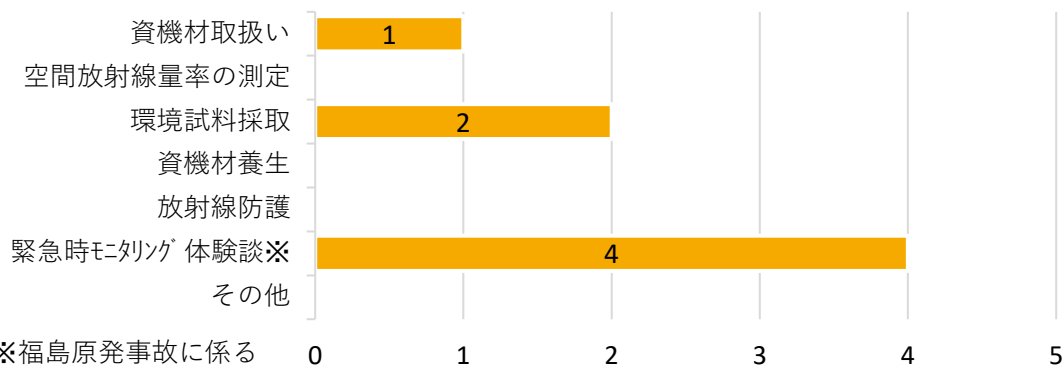
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

・ なし

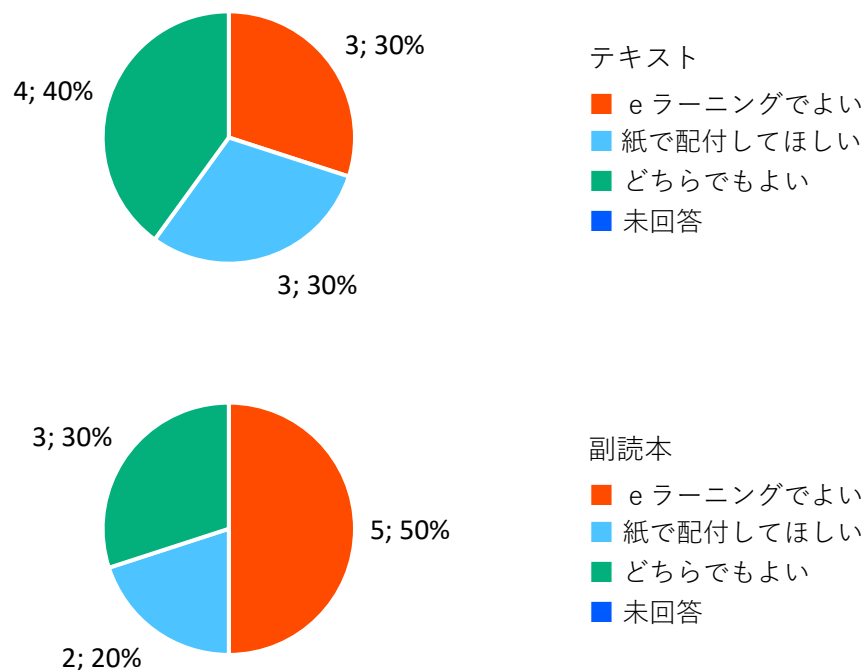
6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください(複数回答可)。



その他の意見

・ なし

7) DX(デジタルトランスフォーメーション)推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。
※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。

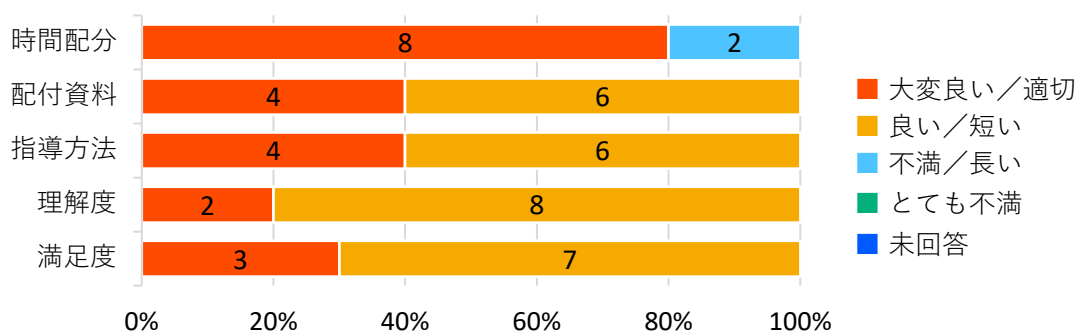


自由記述

・ なし

3. 各プログラムの評価について

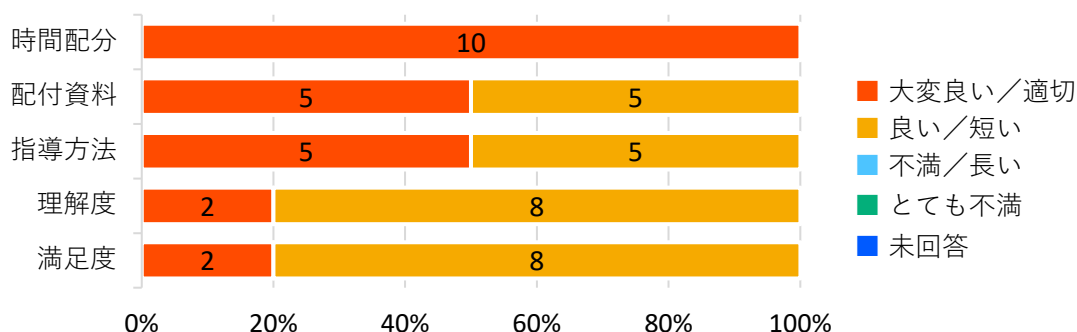
1) eラーニングの復習



自由記述

・ なし

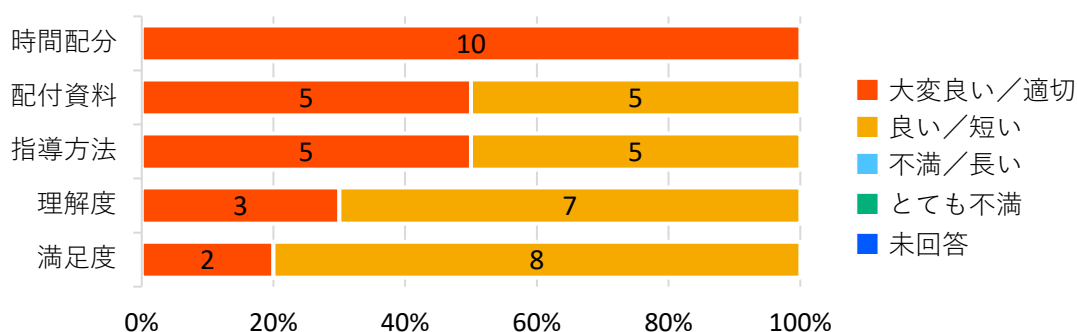
2) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

・ なし

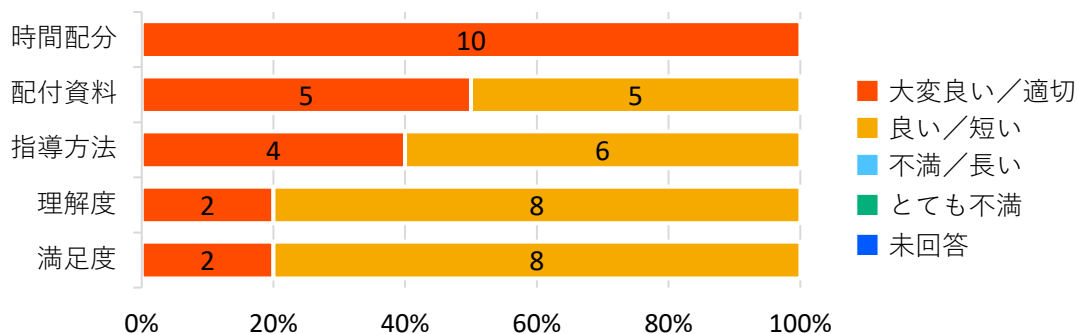
3) 実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

・ なし

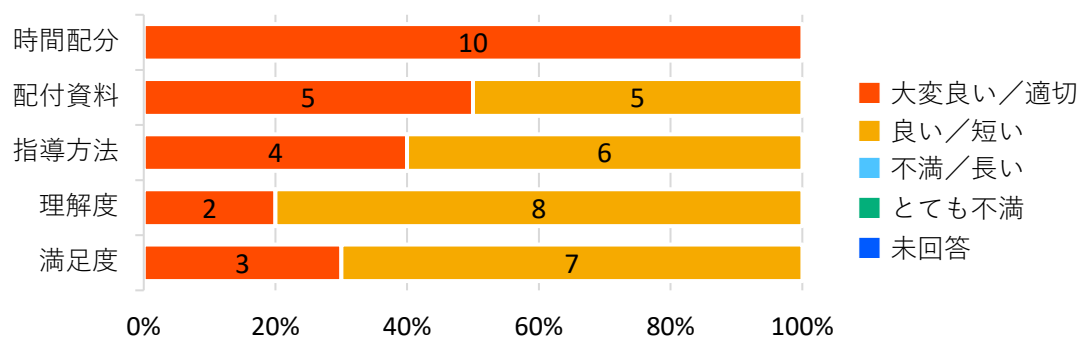
4) 実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

・ なし

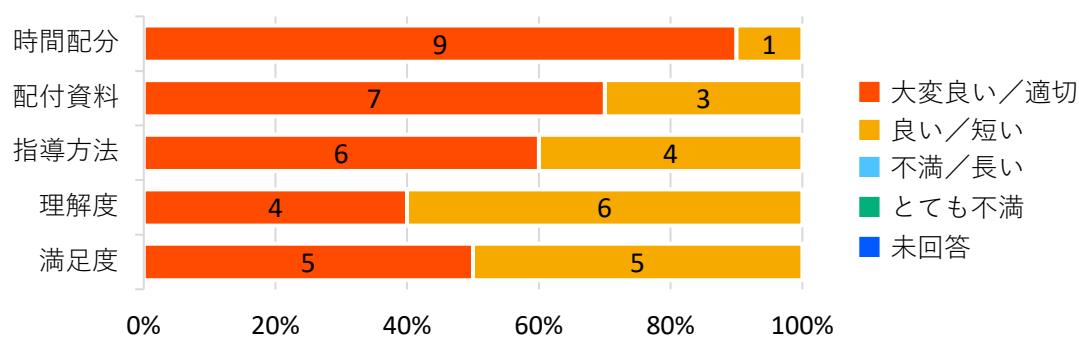
5) 実習4 環境試料の採取



自由記述

・ なし

6) 演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

・ なし

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ 講座ごとに場所を移動してやるのが効率悪く感じてしまった。
- ・ 暑かったけど外でサンプリングとかなら、一回一回上に戻らずに一気にやりたい。
- ・ 今回のような実習はなかなか経験できないので良い体験になった。
- ・ 給水が外でしかできないが、休憩が少なすぎる（短すぎる）と思った。

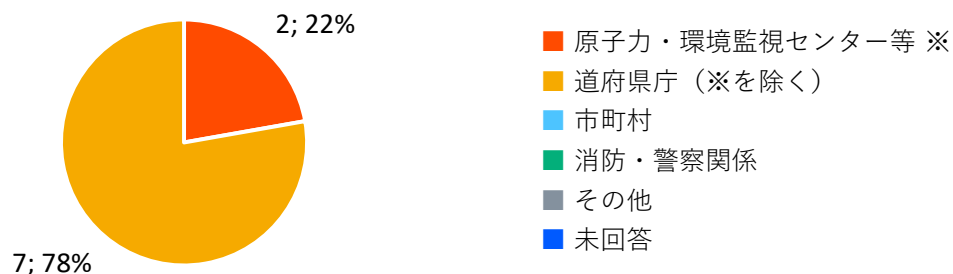
道府県H 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 9 名

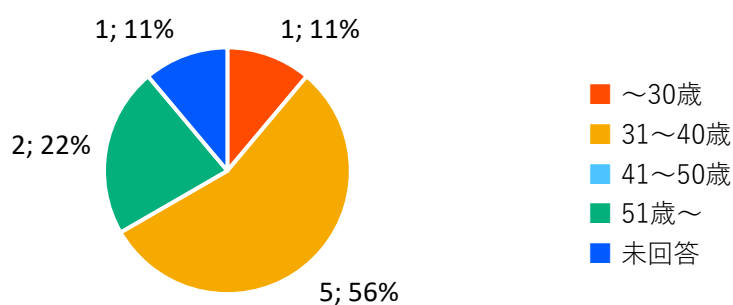
受講者数 : 11 名

1. 受講者自身について

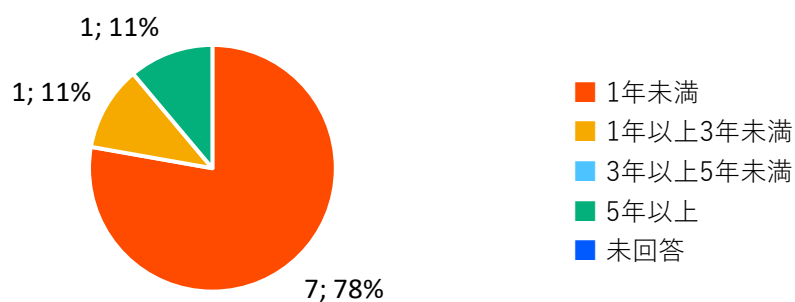
1) 所属



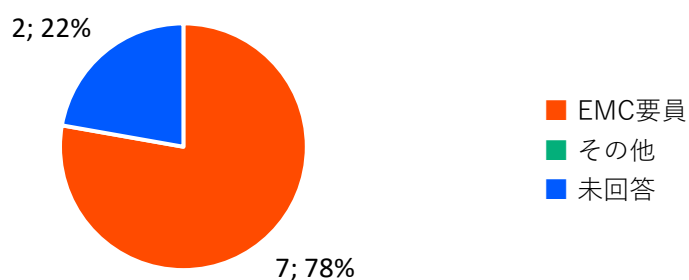
2) 年齢



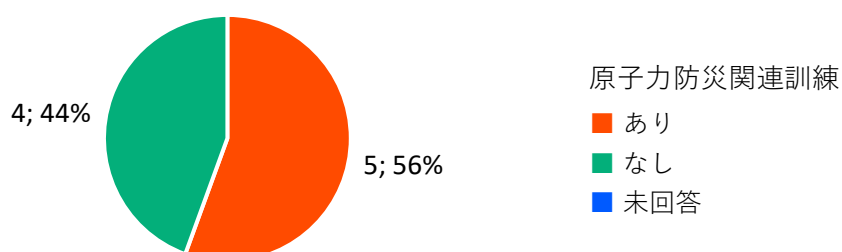
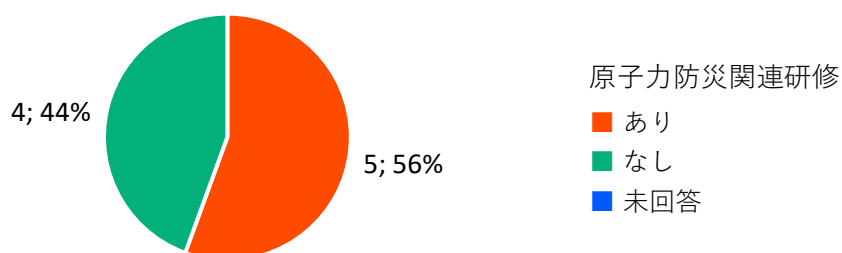
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



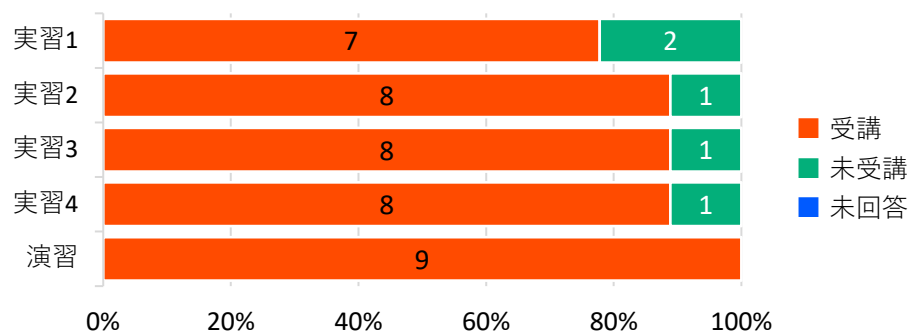
4) 原子力災害発生時の役割



5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

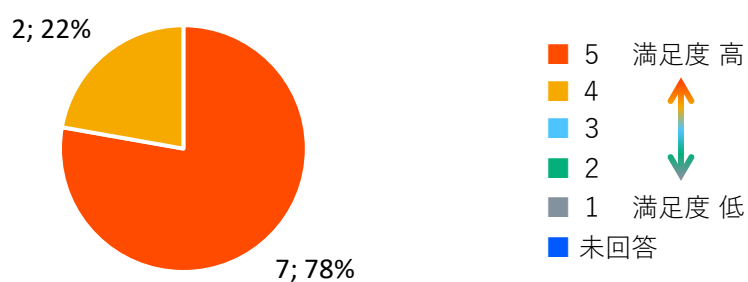


6) 受講プログラム



2. 本講座を受講しての所感等について

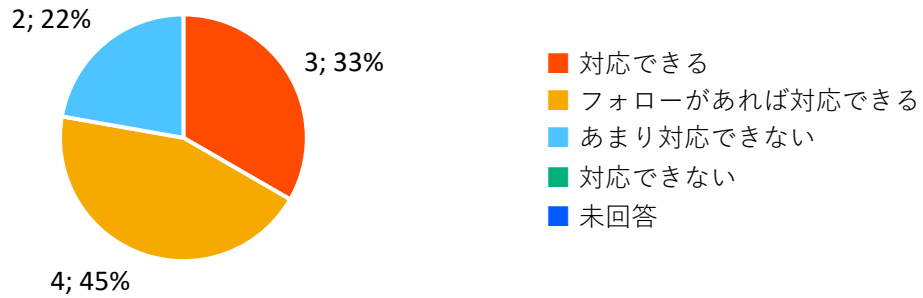
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；とてもわかりやすかった。
- ・ 満足度5；演習が実践的で楽しかった。予期せぬところで躓くことがなかった。
- ・ 満足度5；学ぶことが多かった。
- ・ 満足度4；ひとつひとつわかりやすく教えてもらえた。

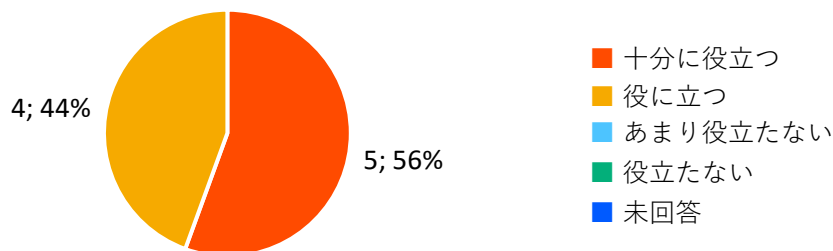
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ フォローがあれば対応できる；装置の故障等、突発的な事象にも的確な対応ができる自信はあまりない。
- ・ フォローがあれば対応できる；訓練を積みたいと思う。
- ・ フォローがあれば対応できる；多分忘れてしまう。
- ・ あまり対応できない；現時点ではできると思うが、時間が経つと忘れてしまう気がする。

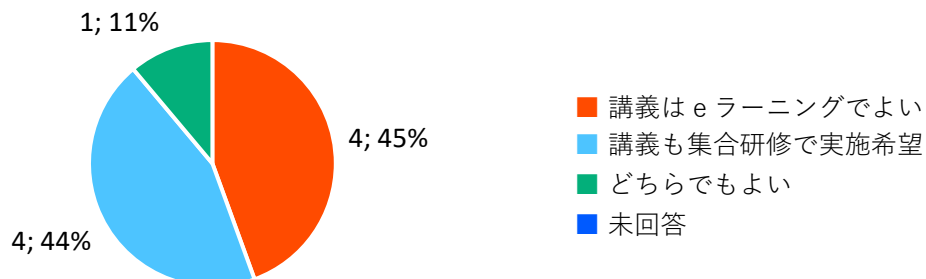
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ 十分に役に立つ；自分でわかったつもりのところを再確認できた。
- ・ 役に立つ；突然対応することになっても、少しは動けると思う。

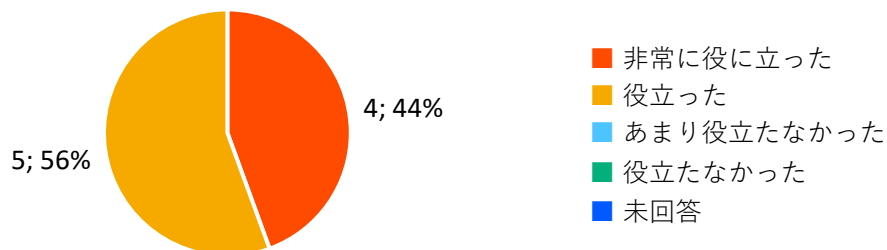
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ 講義はeラーニングでよい；自分の好きな時間に取り組める。
- ・ 講義はeラーニングでよい；演習多めの方が良いと思い、eラーニングに賛同です。
- ・ 講義も集合研修で実施してほしい；eラーニングはどうしても「ながら見」的になるので、講義でおさらいを。

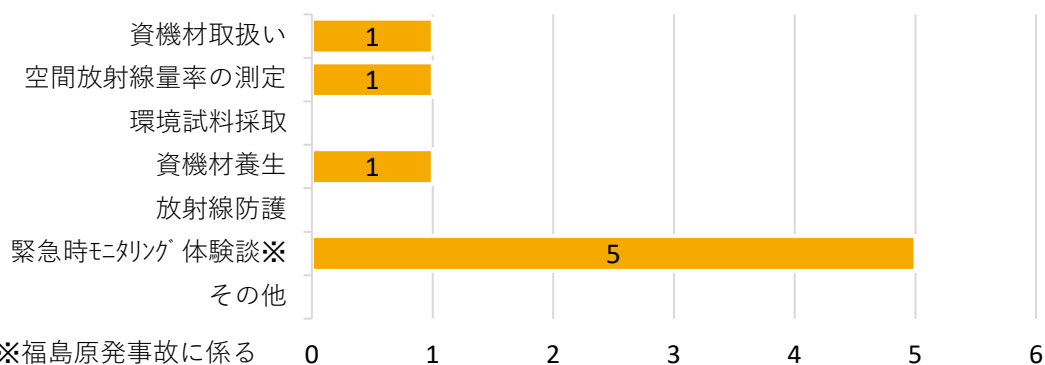
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ 非常に役に立った；他団体の研修を受けたことがあったが、今回はわかりやすかったと思う。
- ・ 役立った；当日の演習の理解度が高まった。

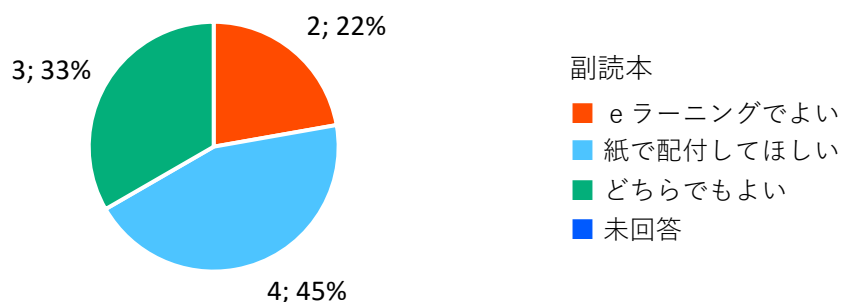
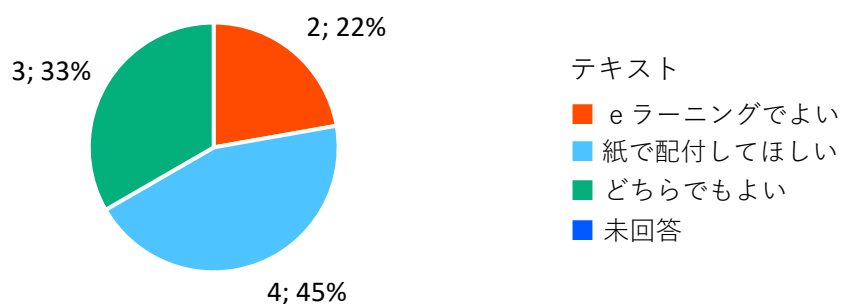
6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください（複数回答可）。



その他の意見

- ・ なし

7) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。
※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。

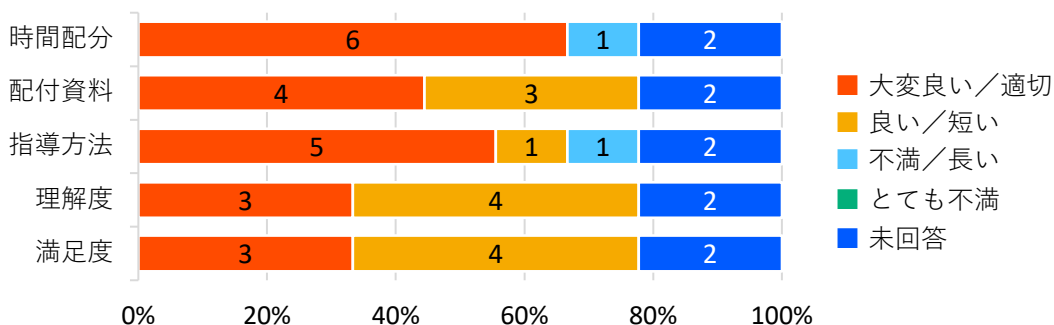


自由記述

- ・ [テキスト] e ラーニングでよい/[副読本] e ラーニングでよい；データの方が管理しやすいが、緊急時に現地に持っていくべき資料はペーパーでもほしい。
- ・ [テキスト] 紙で配付してほしい/[副読本] 紙で配付してほしい；印刷だと事後管理が難しい。
- ・ [テキスト] 紙で配付してほしい/[副読本] 紙で配付してほしい；緊急時にも参照することを鑑みると、PCがないと見れないのは不安。
- ・ [テキスト] 紙で配付してほしい/[副読本] 紙で配付してほしい；カラープリンタが使えないこともある。

3. 各プログラムの評価について

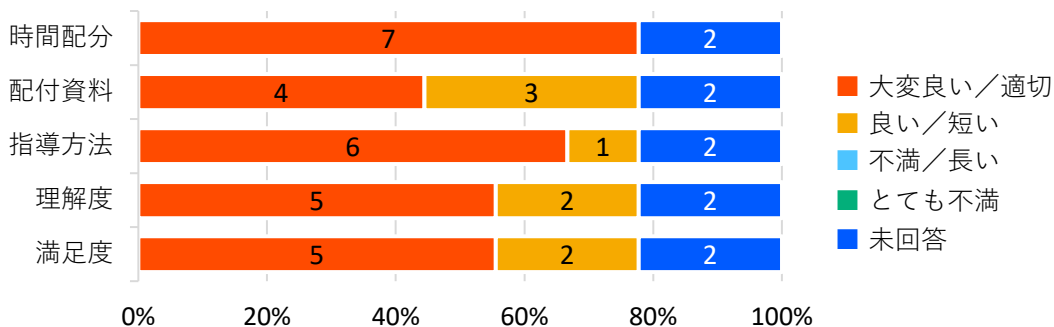
1) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ なし

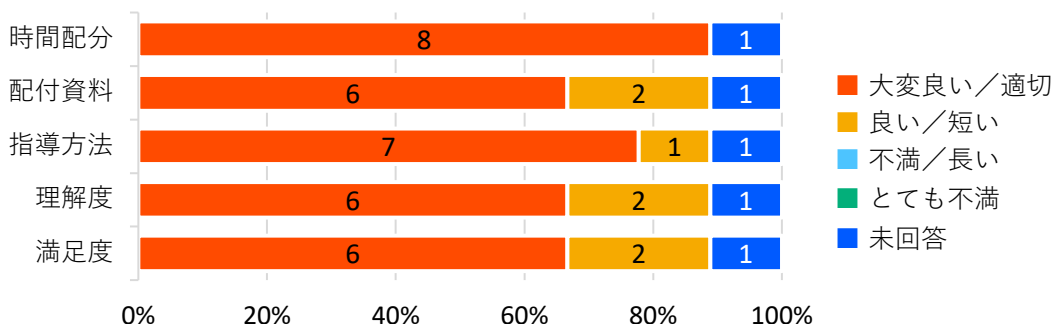
2) 実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ モニタリングカーの養生を初めて見る事ができた。

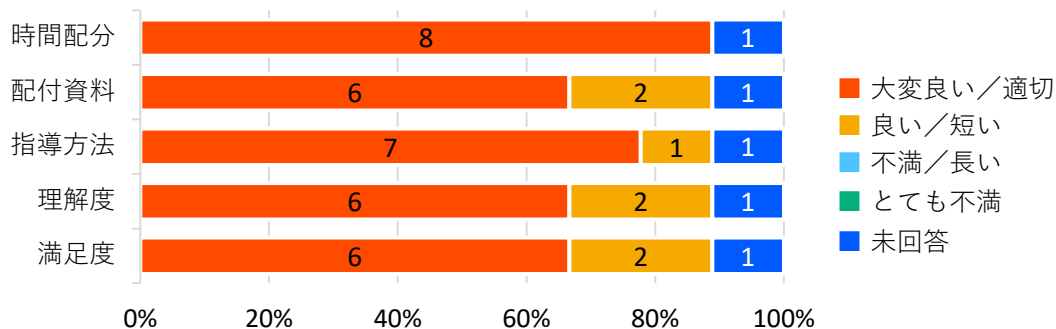
3) 実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ なし

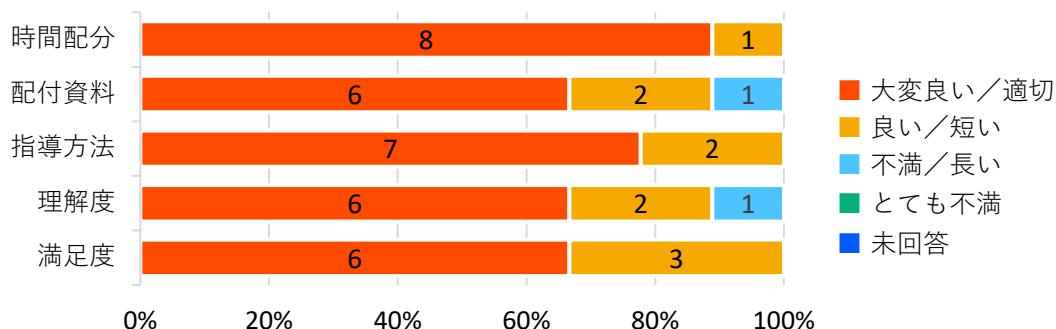
4) 実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ よく考えられてプランが立てられていたと思いました。

5) 演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 間違えて覚えてしまうことが心配だったので、講師の先生にアドバイスいただけたことが良かったです。
- ・ 資料については必要事項が1つの資料にまとまっている方が良いと感じました。

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ 内容は十分すぎるほど濃いと感じました。
- ・ とてもよかったと思います。
- ・ 全体的に時間が詰まっているので、もう少しゆとりのある時間で実施してほしいと思いました。
- ・ eラーニングでPDFデータをダウンロードできるのは非常にありがたい。一点、スライド資料のPDFがほぼすべて2in1になっており、余白が大きく、PC画面で表示した時に小さくて見にくいので、2in1にしないPDFを置いていただくか、余白を小さくしたPDFを置いていただきたいです。
- ・ 資機材は年1回程度しか取り扱わないので、詳しい講師の方に教えていただきありがとうございました。
- ・ 資材を準備するのが難しい中、用意頂いてありがとうございました。机上ではわかったことが、実際に行動出来るのが重要だと思うので、今回の演習はとてもよかったと思います。
- ・ 大変有意義な研修でした。ありがとうございました。

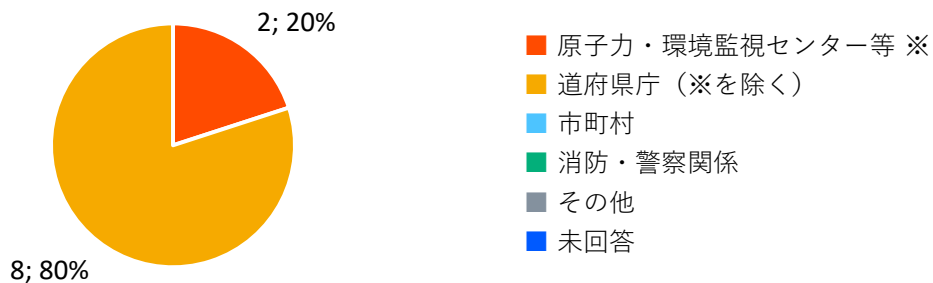
道府県I 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 10 名

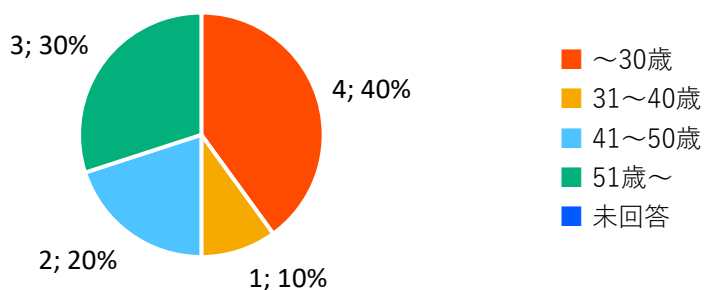
受講者数 : 10 名

1. 受講者自身について

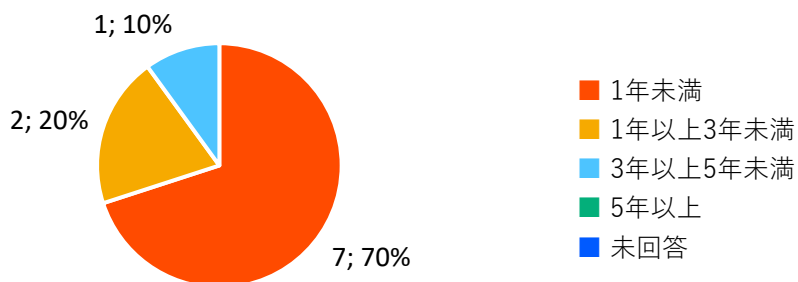
1) 所属



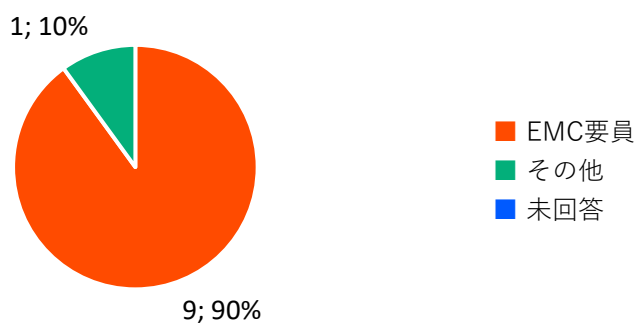
2) 年齢



3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数

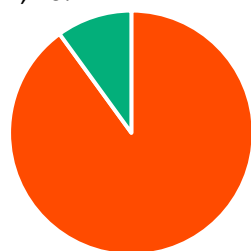


4) 原子力災害発生時の役割



5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

1; 10%

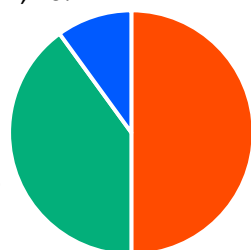


9; 90%

原子力防災関連研修

あり
なし
未回答

1; 10%



4; 40%

5; 50%

原子力防災関連訓練

あり
なし
未回答

6) 受講プログラム

e ラーニングの復習



実習1



実習2



実習3



実習4



演習



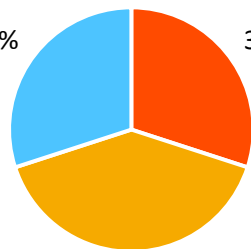
0% 20% 40% 60% 80% 100%

受講
未受講
未回答

2. 本講座を受講しての所感等について

1) 満足度

3; 30%



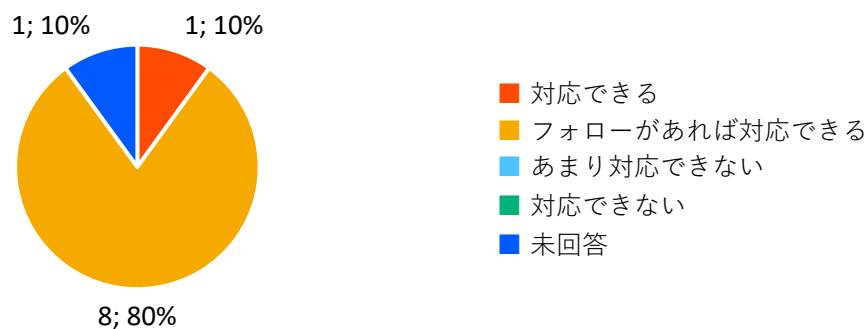
4; 40%

5 満足度 高
4
3
2
1 満足度 低
未回答

自由記述

- 満足度5；実際に演習することができたおかげでしっかりと理解することができた。
- 満足度3；知っていることが多かったが勉強になった。

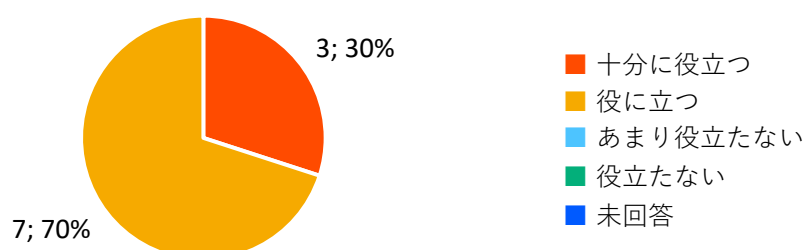
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ フォローがあれば対応できる；今回改善点もみつかったので、フォローがあればなおさら確実にできるかなと思いました。

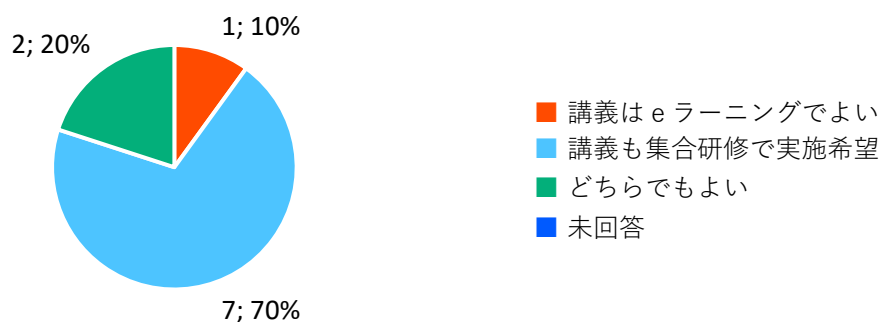
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ なし

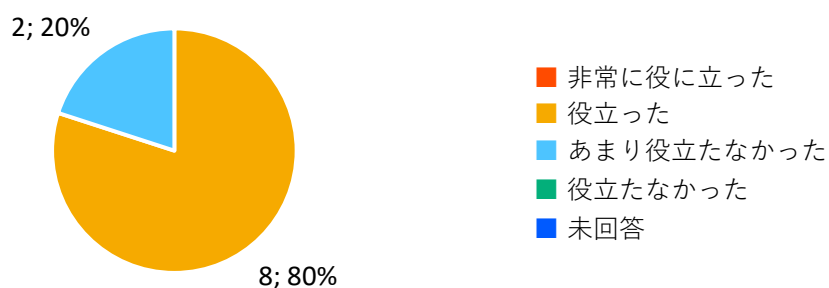
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ 講義も集合研修で実施してほしい；疑問点について質問できるため

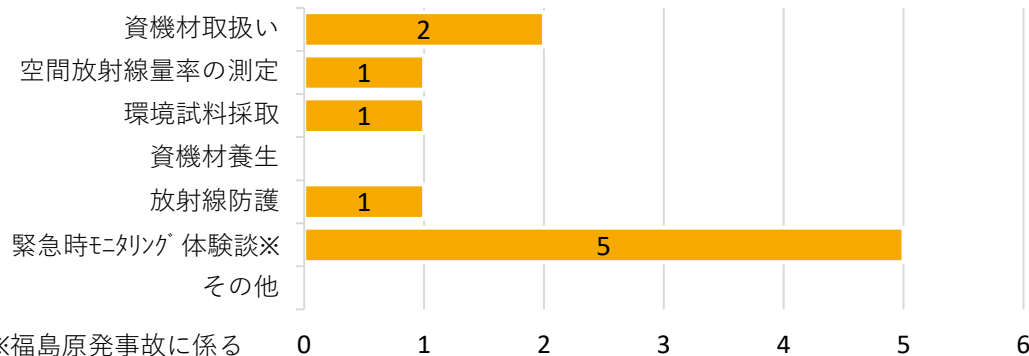
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ 役立った；もう少しeラーニングの受講期間に余裕があればよかった。
- ・ あまり役立たなかった；難しかった（特に講義1の基礎）。時間がどのくらいかかるのか案内がなかったので、講座前日にやろうとしたら時間が足りなかった。
- ・ あまり役立たなかった；仕事しながらの受講には難しい内容と思う。

6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください（複数回答可）。

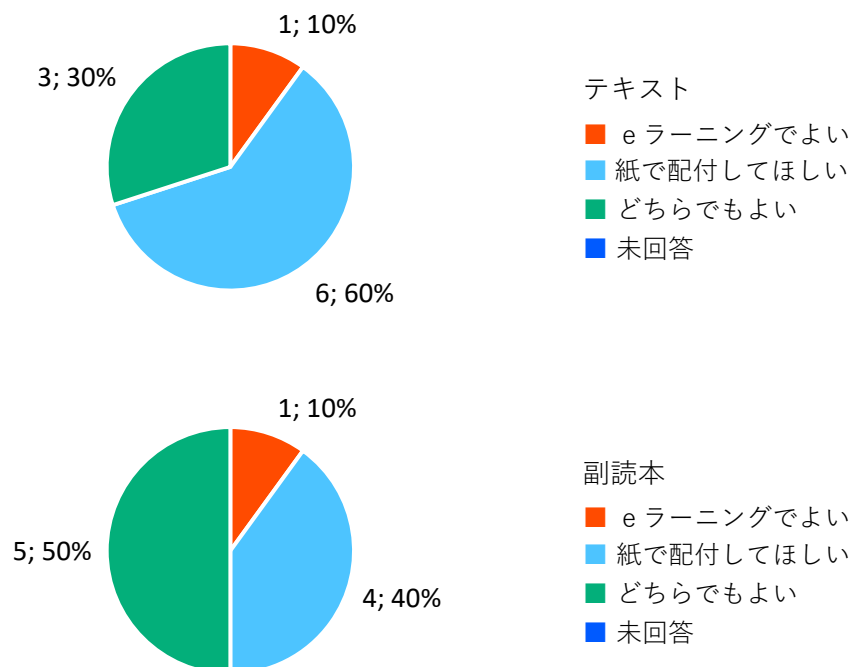


その他の意見

- ・ なし

7) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。

※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。

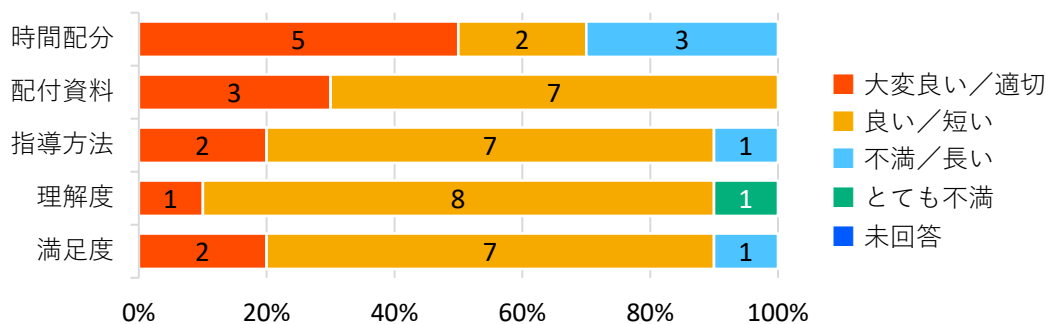


自由記述

- ・ [テキスト] どちらでもよい/[副読本] どちらでもよい；後から見返せるような完全版のマニュアルがあればそれだけでいいように思います。

3. 各プログラムの評価について

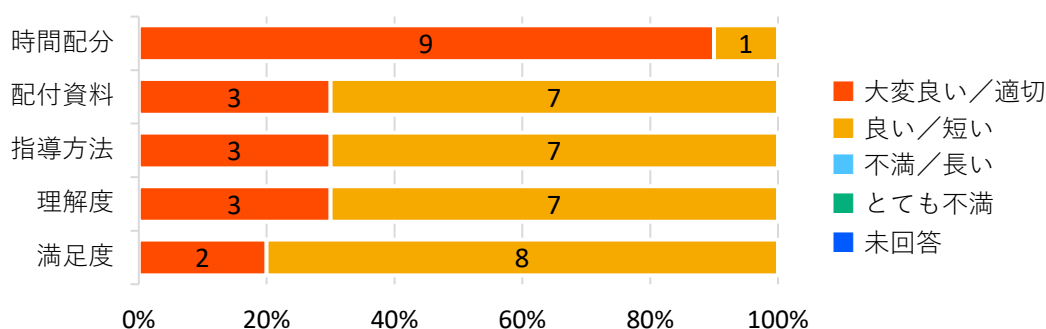
1) eラーニングの復習



自由記述

・ なし

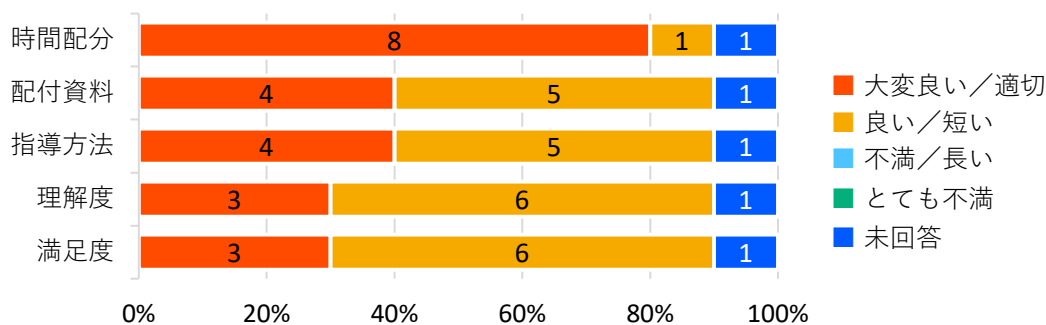
2) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

・ なし

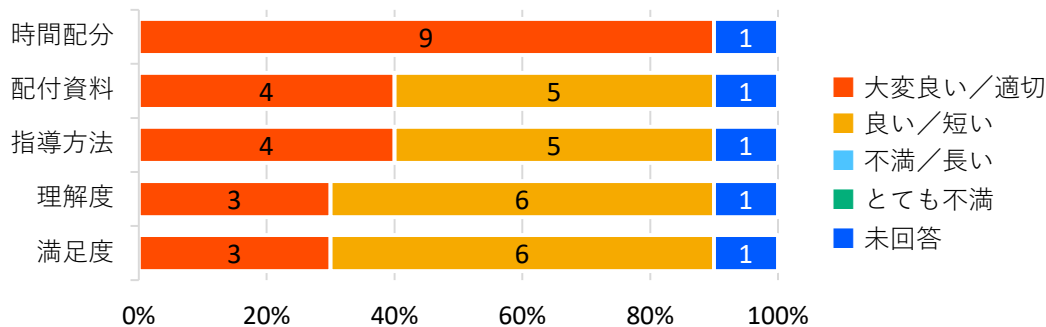
3) 実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

・ なし

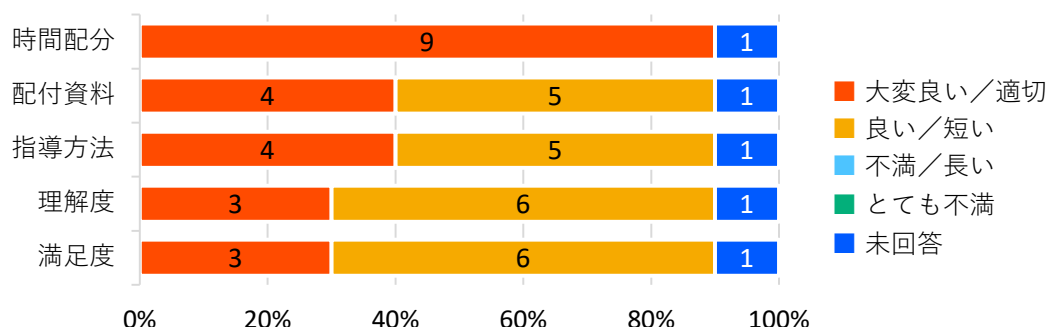
4) 実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ なし

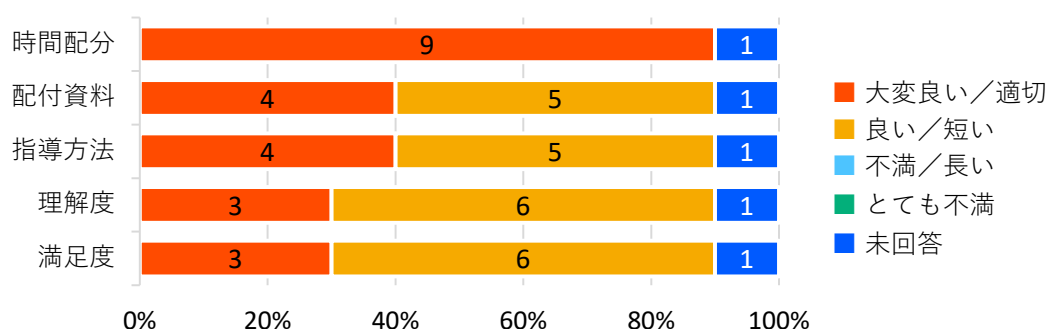
5) 実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ なし

6) 演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 非常に有意義であり、単純に面白かった。

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ eラーニングの内容については、勤務しながらの学習は困難であると感じた。
- ・ モニタリング指示書のB地点C地点は、空間放射線量率を先に測定することが分かりやすいように、①空間放射線量測定、②サンプル採取とした方がいいと思います。
- ・ 雨・雪・台風など、荒天時のモニタリングについて補足で説明があればいいなと思いました。
- ・ 土壌採取、演習の際、いきなりHot、Coldという単語がでてきてとまどった。専門用語を使う際は事前に解説が欲しい。
- ・ モニタリング指示書の実施内容は、実施する順番で内容を書いて欲しい。例：大気サンプリングでエアサンプラ→NaIの順で書いてあるが、実際にはNaI→エアサンプラの順で行うはずなので、その順に記載してほしい。
- ・ EMC要員として活動することになった場合、対応できるか不安であったが、今回の研修を受講することによって、活動することへの自信が少しついた。
- ・ 正確なデータをモニタリングするために、適切なサンプルの採取と計測が、事故対応時の事象への大切な判断材料となることが理解できた。
- ・ 県職員すべてが知っていて損はないので、対象者を増やして実習していいように思う。

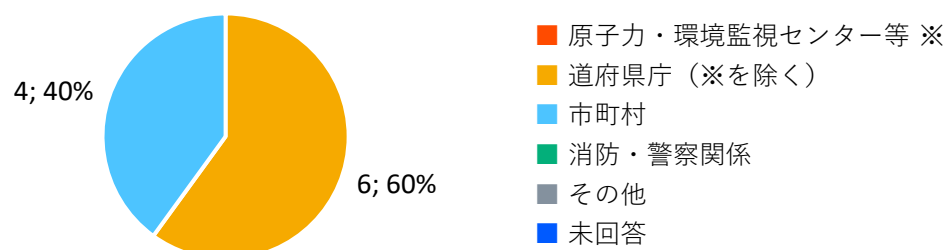
道府県J 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 10 名

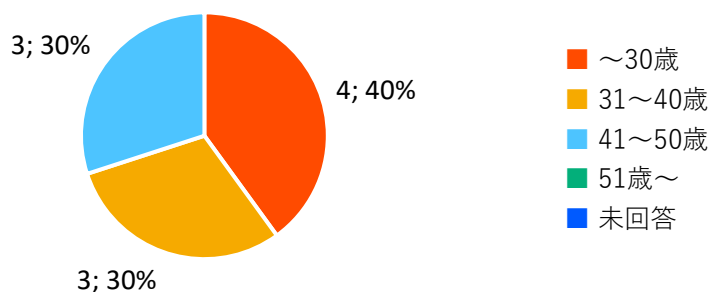
受講者数 : 10 名

1. 受講者自身について

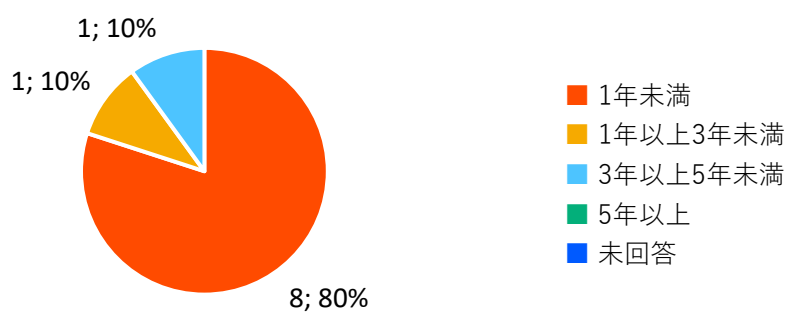
1) 所属



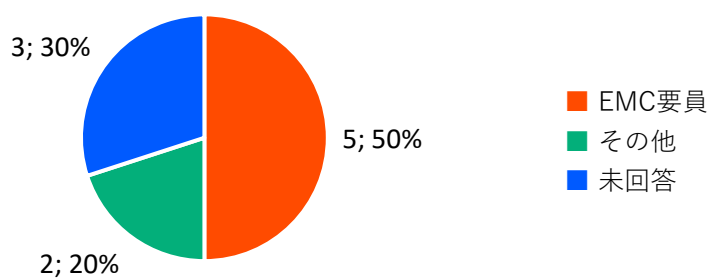
2) 年齢



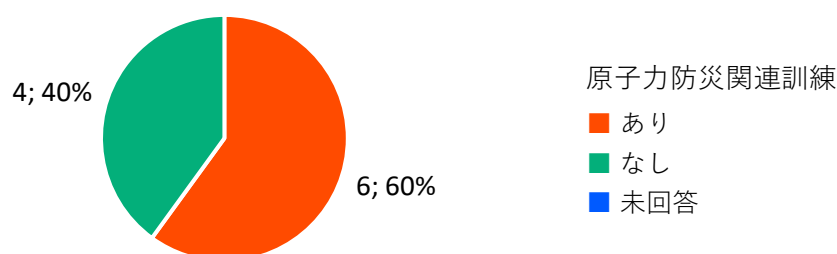
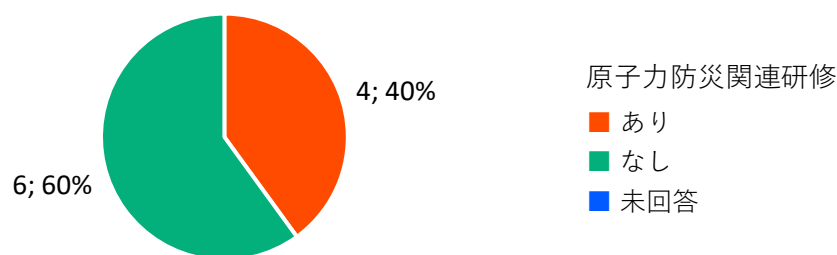
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



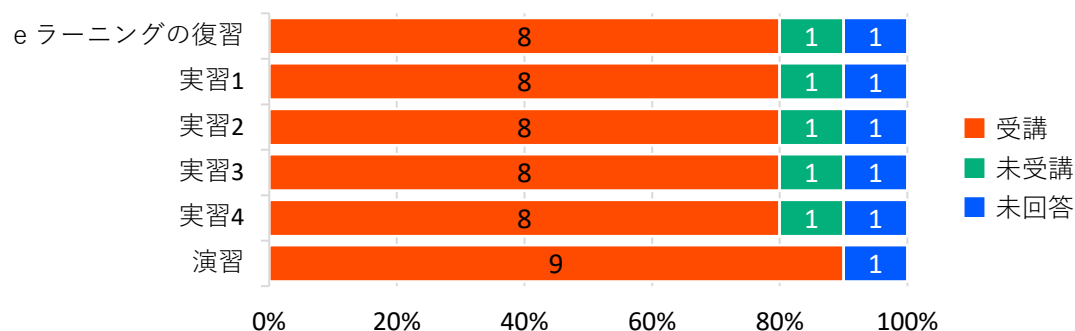
4) 原子力災害発生時の役割



5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

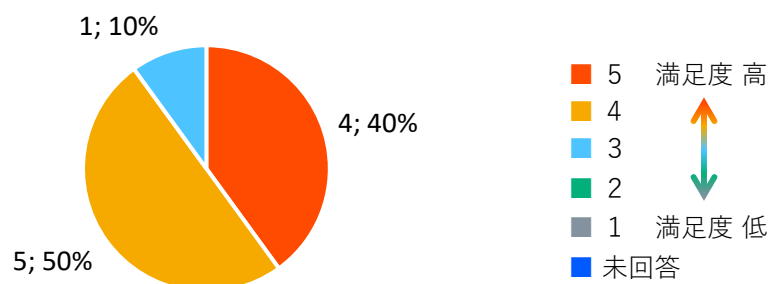


6) 受講プログラム



2. 本講座を受講しての所感等について

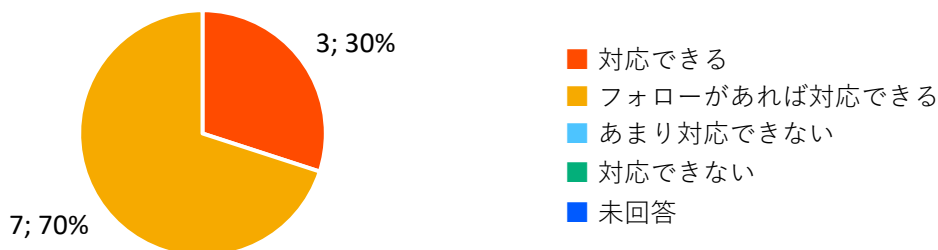
1) 満足度



自由記述

- 満足度5；分からないことへの回答やアドバイスを優しくしていただけ理解が深まったため

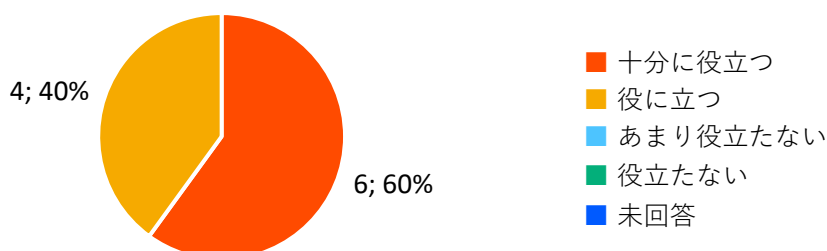
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ 対応できる；実習で実際の手順を学べたから
- ・ フォローがあれば対応できる；一通り流れや手技が分かったため

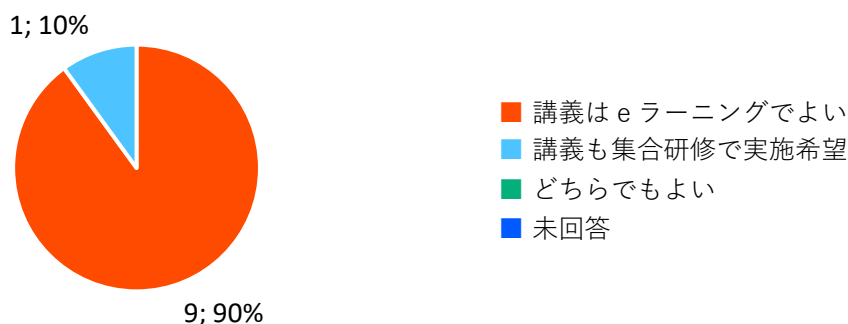
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ 十分に役に立つ；手技の理解が深まった
- ・ 十分に役に立つ；座学だけでは見えてこない課題の発見につながったから

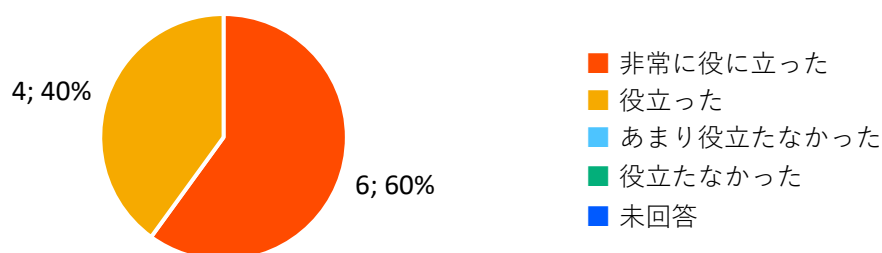
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ 講義はeラーニングでよい；聞くだけですしeラーニングだと自分のペースで学べ頭に入れる時間もとれるため
- ・ 講義はeラーニングでよい；eラーニングであれば不明点などをいつでも何度でも見返すことができるから
- ・ 講義はeラーニングでよい；分からない時に繰り返し見ることができ好きな時間に学習できるため

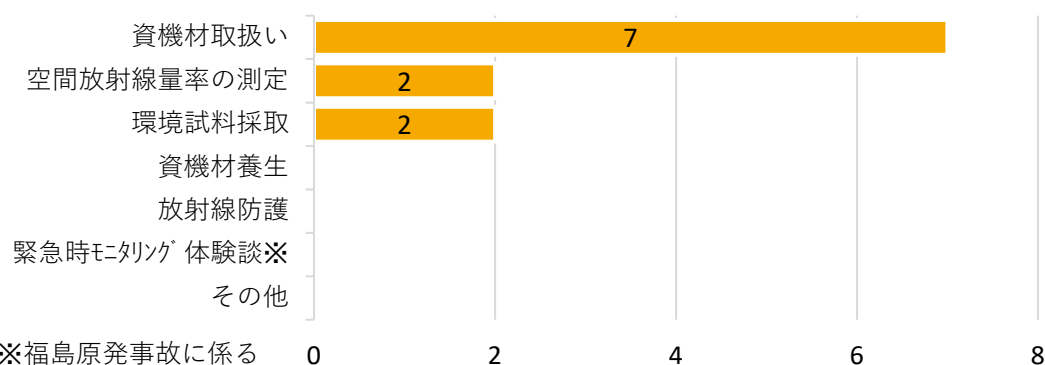
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ 非常に役に立った；知識がついたため
- ・ 非常に役に立った；同上
- ・ 非常に役に立った；放射線の知識が全くない状況でもeラーニング後の講座内容が理解できたため

6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください（複数回答可）。

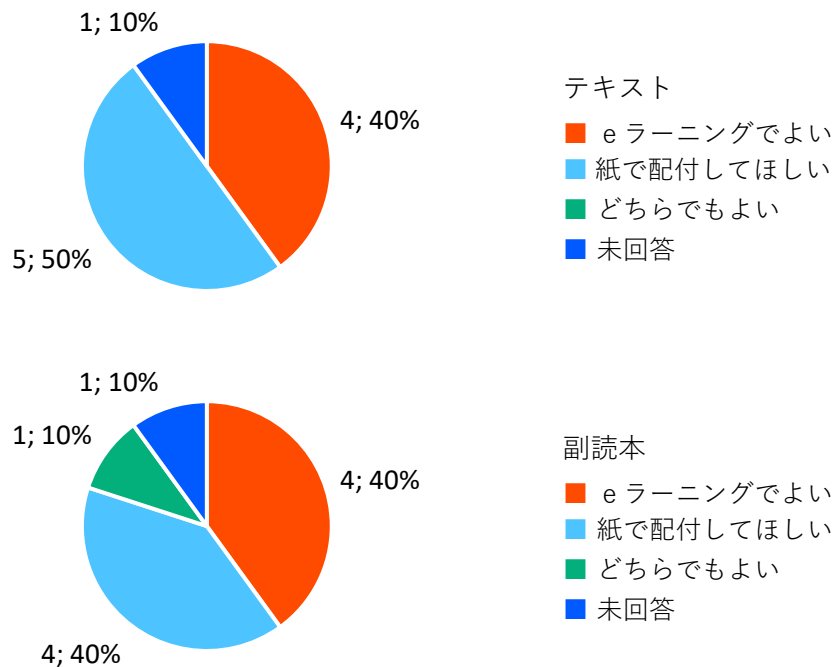


その他の意見

- ・ なし

7) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。

※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。

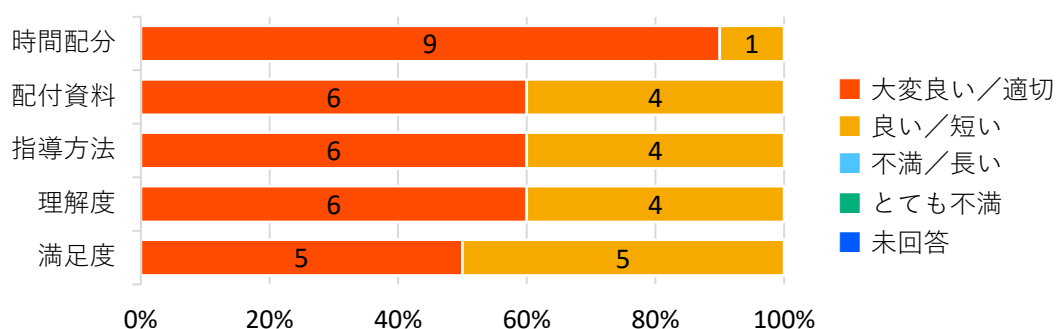


自由記述

- ・ [テキスト] e ラーニングでよい/[副読本] e ラーニングでよい；自宅でプリントアウトすれば十分であるから
- ・ [テキスト] 紙で配付してほしい/[副読本] 紙で配付してほしい；テキストなどに載っていない内容を紙に書くことで記憶を記録できるため
- ・ [テキスト] 紙で配付してほしい/[副読本] 紙で配付してほしい；経験して感じたことなどを残しておきたい
- ・ [テキスト] 紙で配付してほしい/[副読本] 紙で配付してほしい；必要に応じてメモが書けるため

3. 各プログラムの評価について

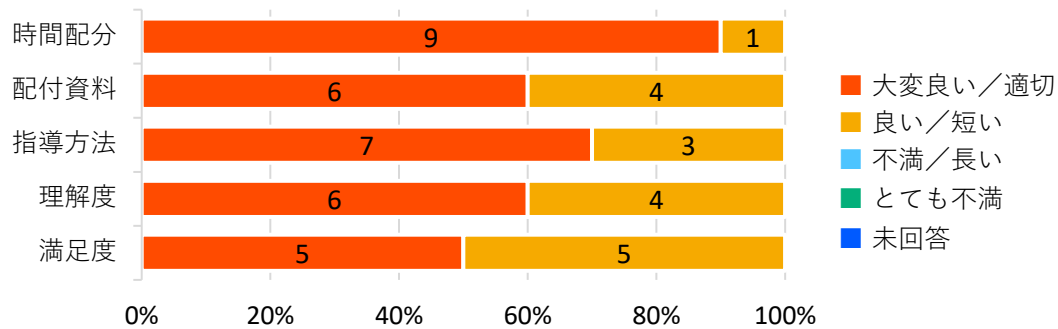
1) e ラーニングの復習



自由記述

- ・ なし

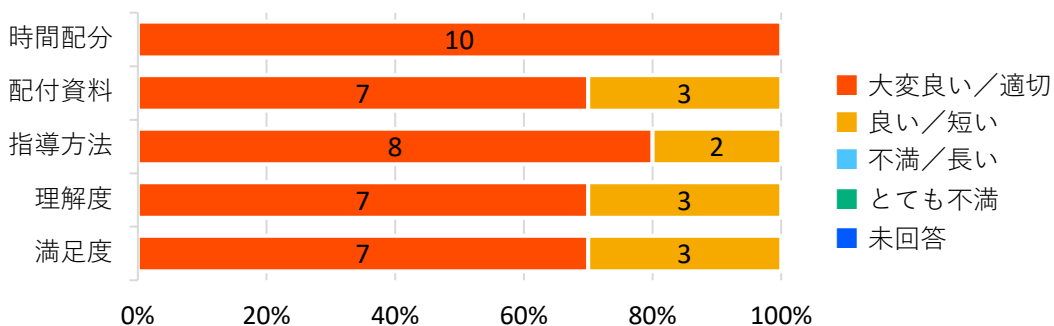
2) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ 時間も有り良かった
- ・ α 線、 β 線、 γ 線の性質の違いについて理解しました
- ・ 放射線の存在はふだん意識しなくて、気づかないが実体が分かった

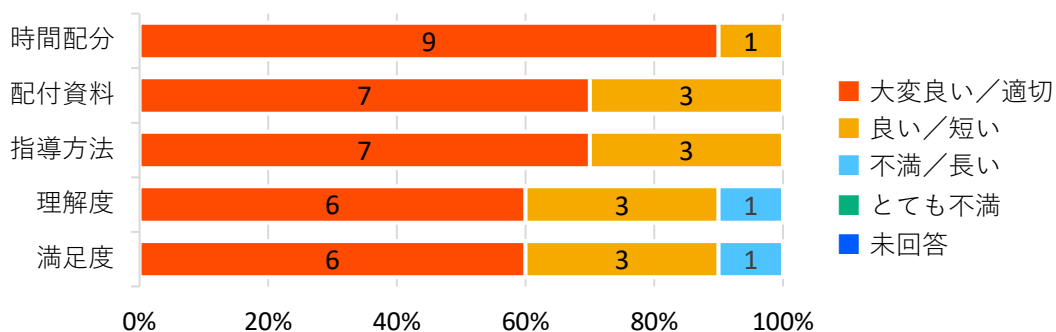
3) 実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ 時間も有り良かった
- ・ 各機材の使用方法を理解できた
- ・ 初めて実物を見た状況でも使い方が分かったから良かった

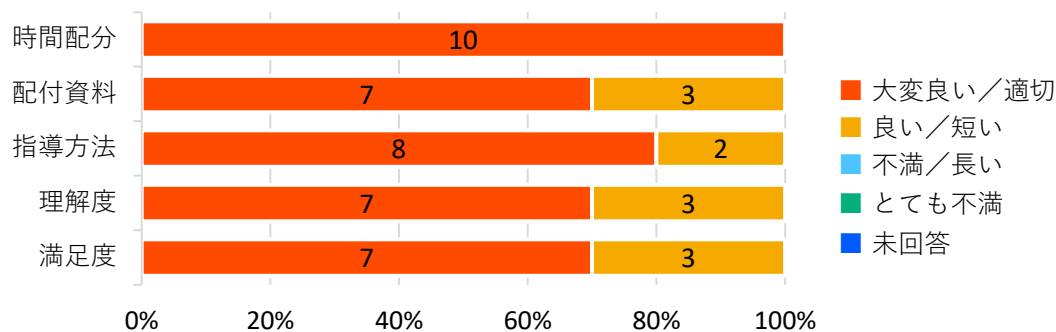
4) 実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 時間が短いのかかなり早く進んでいる印象です。
- ・ 平均の計算をして班内で値の共有をしている間に話がどんどん進み、正味、測定後の話は一切入ってこなかった。（入れる聞く暇がなかった）
- ・ 実際の演習をとおして、測定方法を学ぶことができた。
- ・ 作業の手順などは体験してみなければ分からないことも多いため、とても学習の役に立った
- ・ 線量率が何かが実習を通じて理解できたので良かった

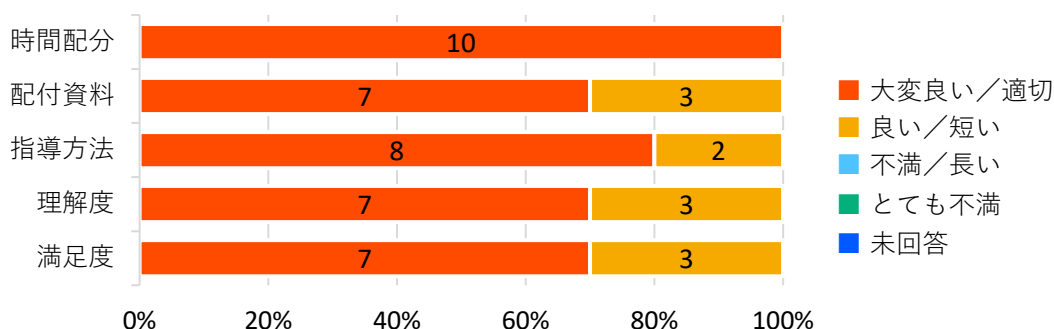
5) 実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ 時間も有り良かった。
- ・ 土の採取は屋外での作業のため特に汚染に注意すべきだと感じた
- ・ 実際にやるところを見てから演習ができたので、この時間があって良かった

6) 演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 防護具の脱着から実際の測定、撤収まで一連の流れで活動出来て理解が深まった
- ・ ただ、時間が足りず終了時刻には終われなかったり後半駆け足になり大変であった
- ・ 来年度、可搬型MPは新型機種を使用するように調整させていただきます。
- ・ 頭では理解できているつもりだったが、実際に演習をしてみると、不手際やヌケ、モレがあったため実習や訓練の大切さを痛感した
- ・ 想像力をかなり使うことが分かった。具体的に活動内容がイメージできたので良かった。

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ 全体的に時間が少なく内容を入れいるのに時間が足りなかった。
- ・ その他は満足であった。
- ・ 機材について、どの機材が何を測定するつもりなのか、どういった場合で使用するべきものなのか等を表でまとめていただけると、より理解の助けになると思った。

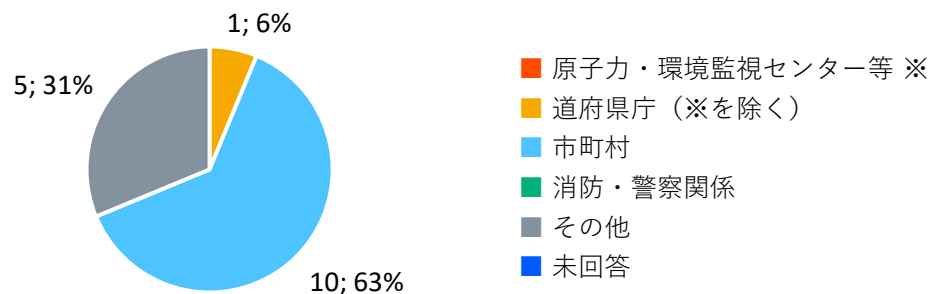
道府県K 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 16 名

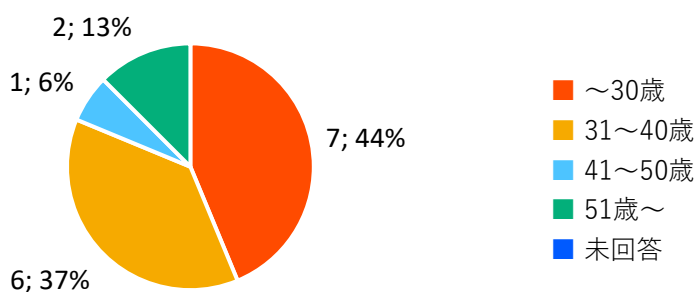
受講者数 : 18 名

1. 受講者自身について

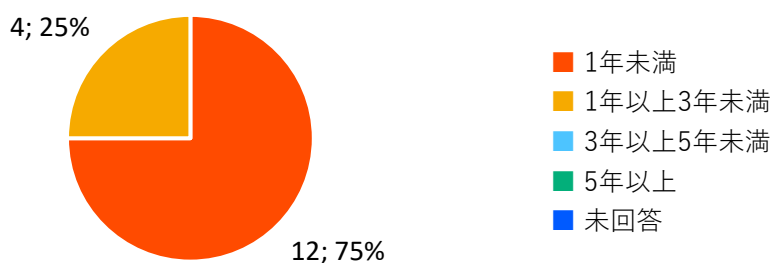
1) 所属



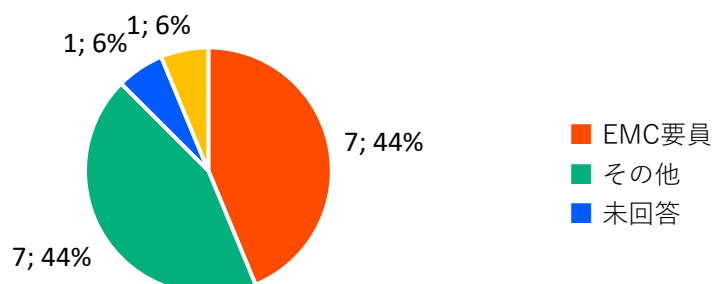
2) 年齢



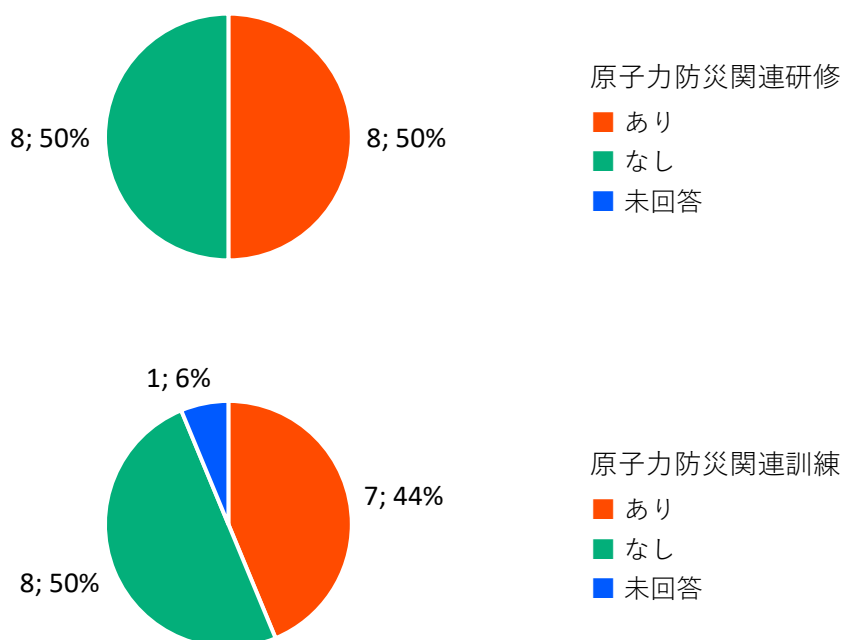
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



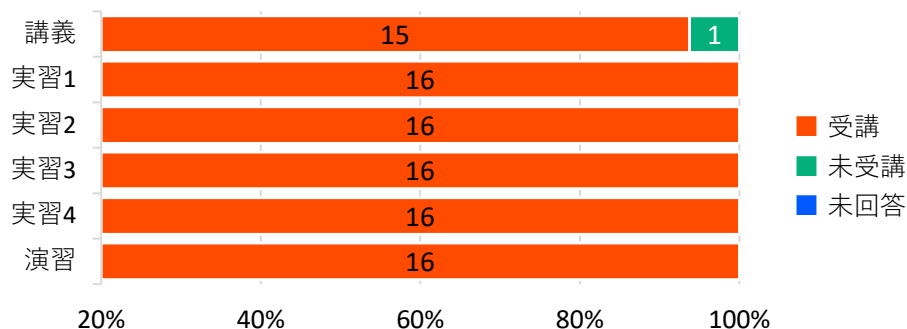
4) 原子力災害発生時の役割



5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

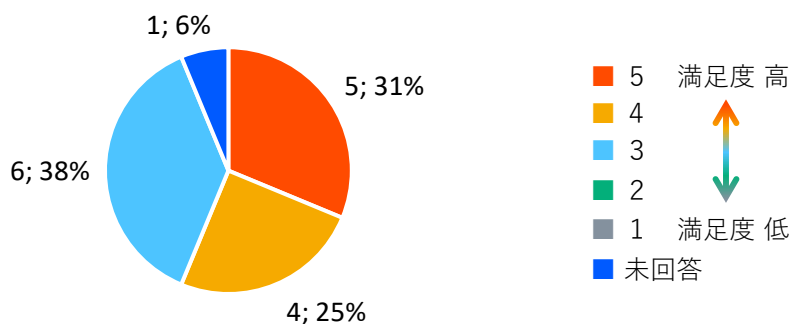


6) 受講プログラム



2. 本講座を受講しての所感等について

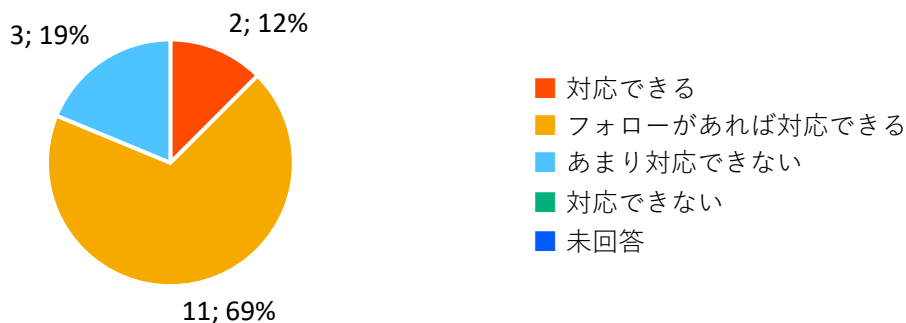
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；実際の作業の流れを体験することができたため。
- ・ 満足度4；空間線量率を測定したり、今まで経験したことのない土壌や飲料水の採取方法を学べたから。

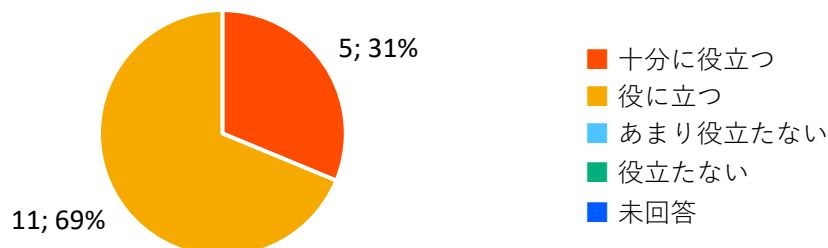
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ フォローがあれば対応できる；手順、機器の操作
- ・ フォローがあれば対応できる；グループ内に1人でも慣れた人がいると良い。
- ・ あまり対応できない；EMC要員ではないため、元からあまり技術がない。
- ・ あまり対応できない；今回は、講義後で実地研修を行ったので対応できたが、実際には、本日学んだことは、ほぼ忘れてしまうことが高いため、対応することは難しいと思う。

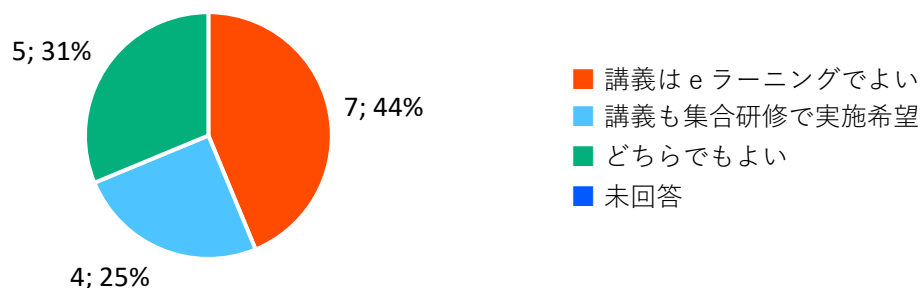
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ なし

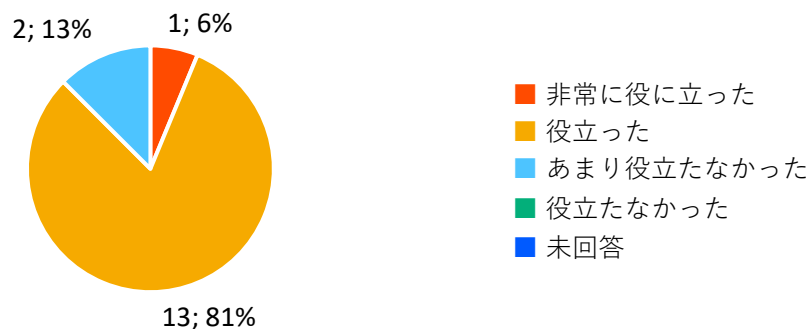
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ 講義はeラーニングでよい；講義も研修中でやると、とても1日では終わらない。
- ・ どちらでもよい；講義は一部はeラーニングでよいが、反復で知識、記憶として定着するので対面でもポイントは説明してほしい。

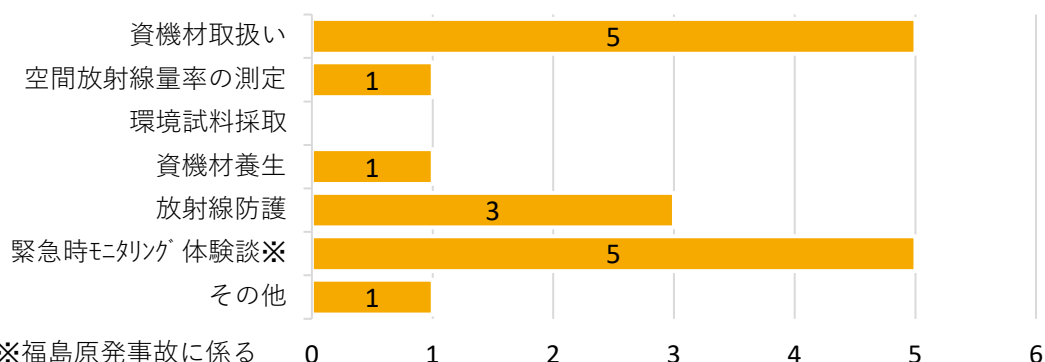
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ 非常に役に立った；昨年よりわかりやすかった。
- ・ あまり役立たなかった；業務時間内にeラーニングをやるのは困難なため。

6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください（複数回答可）。

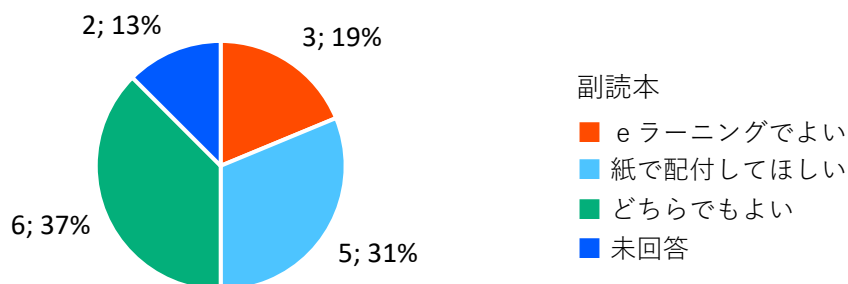
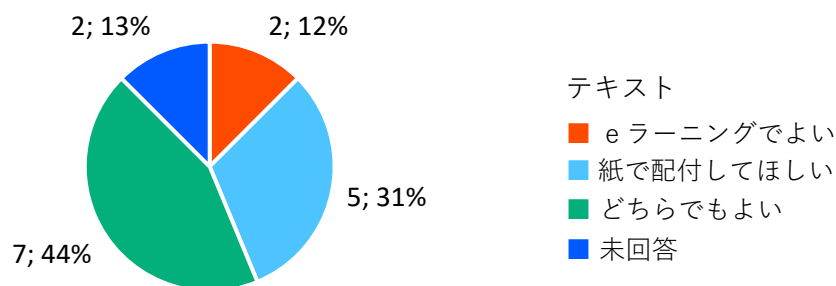


その他の意見

- ・ 測定法、分析機器の選択

7) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。

※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。

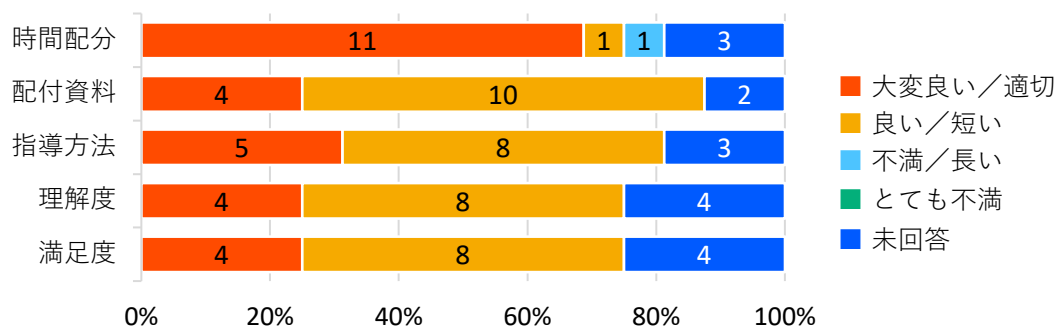


自由記述

- ・ [テキスト]紙で配付してほしい/[副読本]紙で配付してほしい；紙のほう書き込みができるため。
- ・ [テキスト]紙で配付してほしい/[副読本]紙で配付してほしい；受講後も手元で資料として活用できる。

3. 各プログラムの評価について

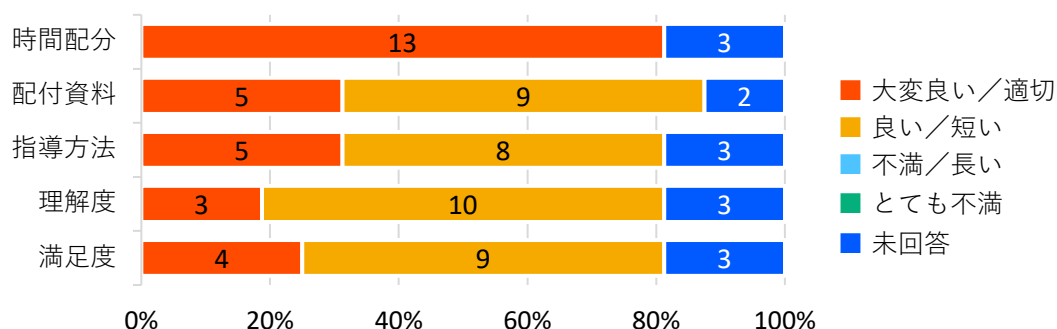
1) 講義 道府県Kの体制について



自由記述

- ・ なし

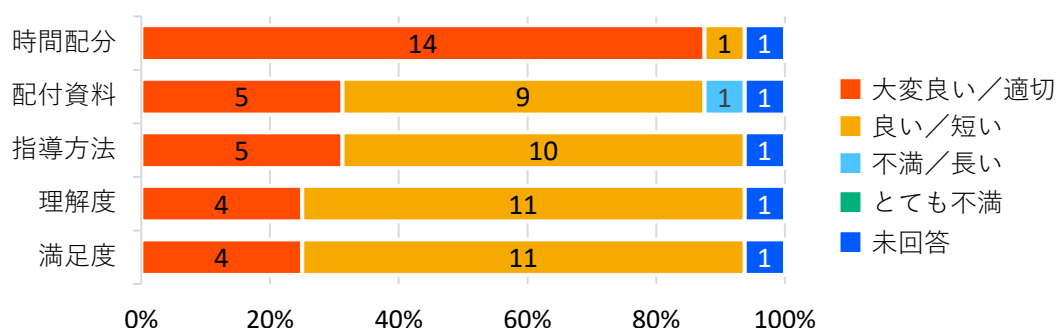
2) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ 遮へいの効果を実体験をもって学ぶことができた。

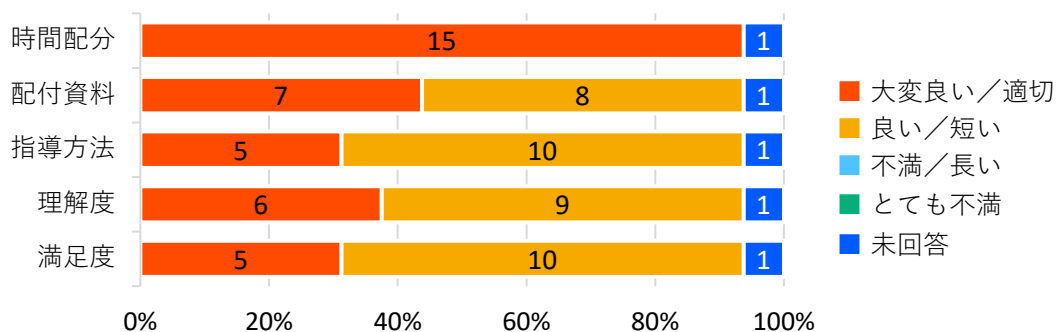
3) 実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ 実習2の到達目標がわからず、今回の講義でMPを扱いのが目標だとしたら、全く自信がもてなかった。
- ・ 測定器の用途の違いと使い方がよく分かった。

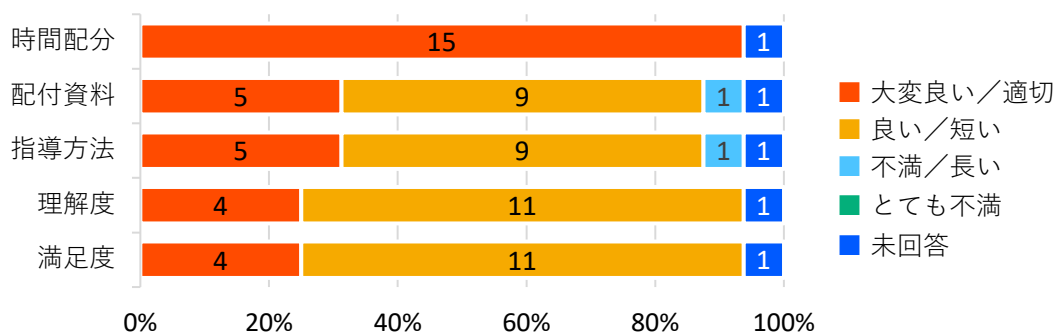
4) 実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 座学で学んだことを実践できて良かった。

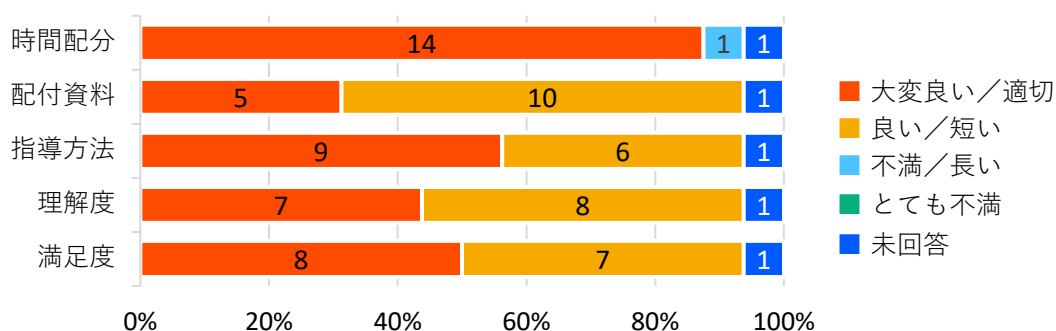
5) 実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ 動画の音質で聞き取れない箇所があった。

6) 演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 測定、採取試料の概略を知ることができた。実際の活動時に事故、汚染なく活動するには、日頃からの反復学習、訓練が重要と感じた。
- ・ タイベックスーツを着て、フィールドでの実践もでき、大変有意義でした。

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ イントロダクションの説明で自分の役割を理解してから受講でき、わかりやすかった。

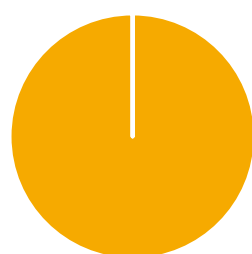
道府県L 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 8 名

受講者数 : 8 名

1. 受講者自身について

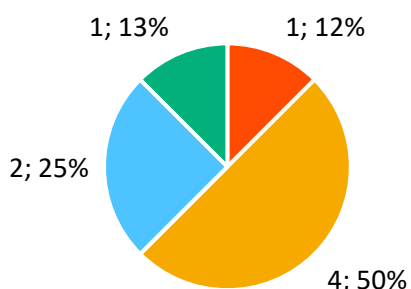
1) 所属



8; 100%

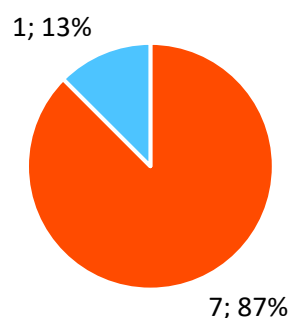
原子力・環境監視センター等 ※
道府県庁（※を除く）
市町村
消防・警察関係
その他
未回答

2) 年齢



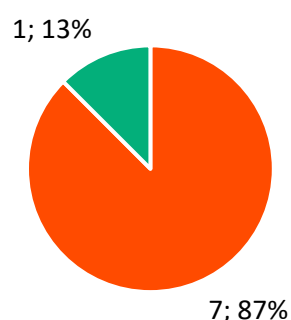
～30歳
31～40歳
41～50歳
51歳～
未回答

3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



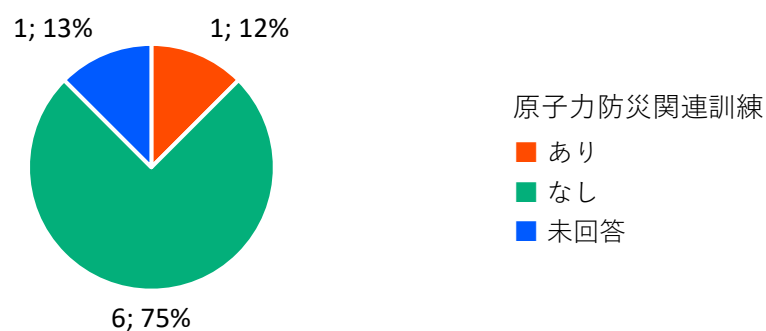
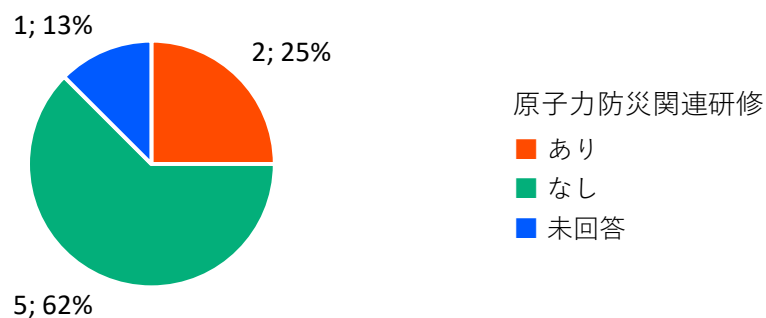
1年未満
1年以上3年未満
3年以上5年未満
5年以上
未回答

4) 原子力災害発生時の役割

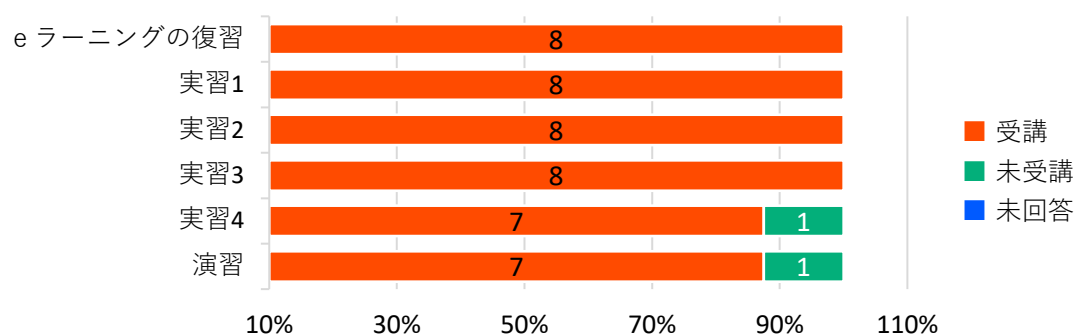


EMC要員
その他
未回答

5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

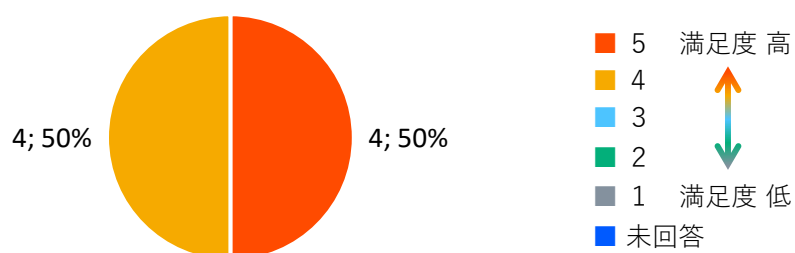


6) 受講プログラム



2. 本講座を受講しての所感等について

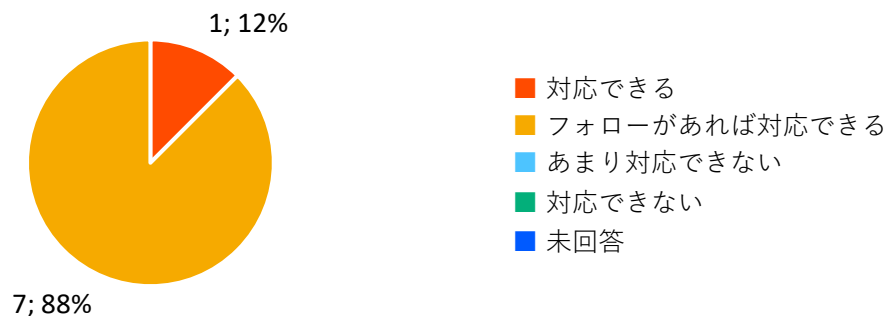
1) 満足度



自由記述

- 満足度4；演習と実習がセットになっていてわかりやすかったです。

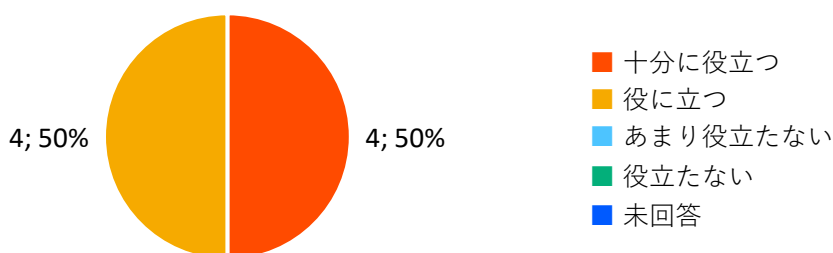
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ フォローがあれば対応できる；項目が多いため、1回の受講では難しい。

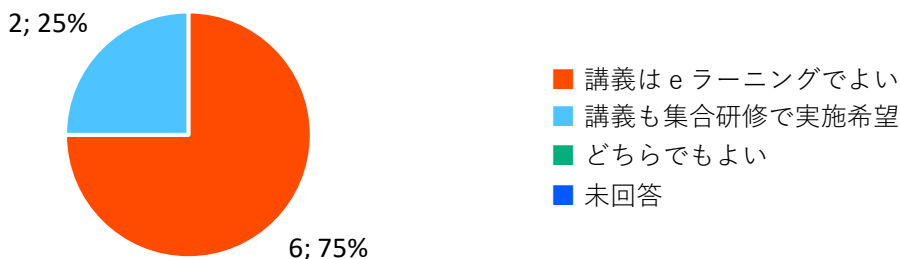
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ なし

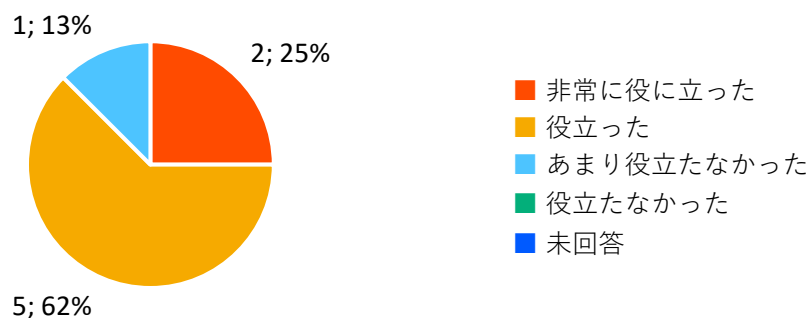
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ 講義も集合研修で実施してほしい；実物を見て、操作しないとイメージがわからないため。

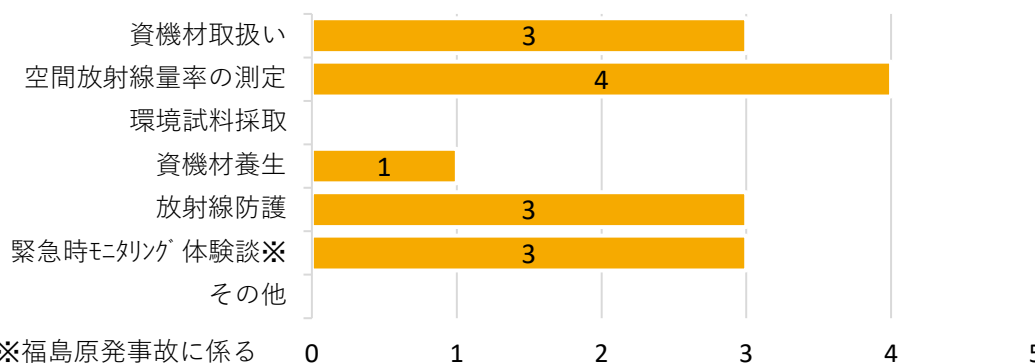
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ 非常に役に立った；0からわからない内容だったため、少しでも事前説明があると助かりました。

6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください（複数回答可）。

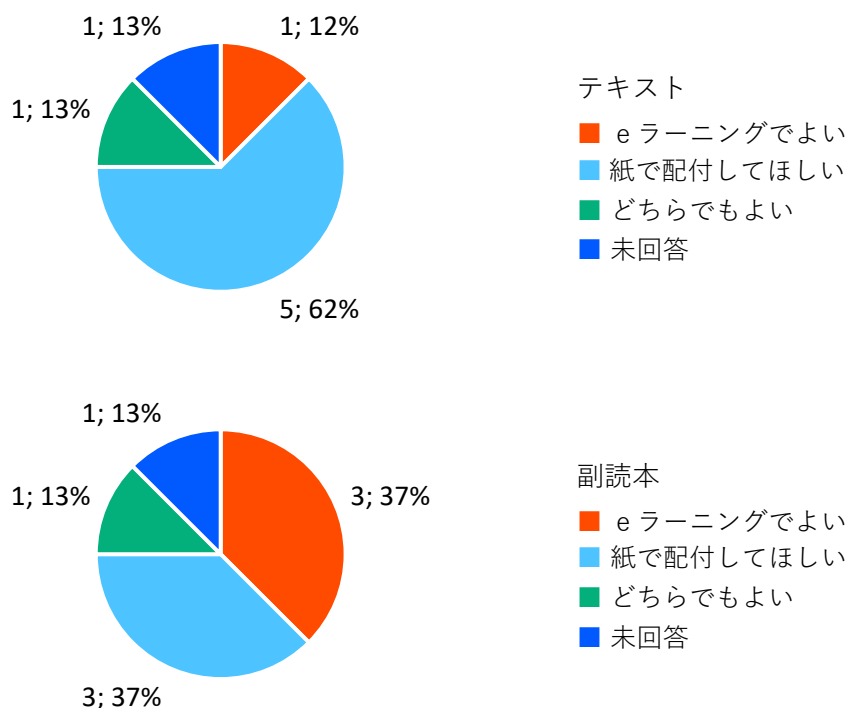


その他の意見

- ・ なし

7) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。

※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。

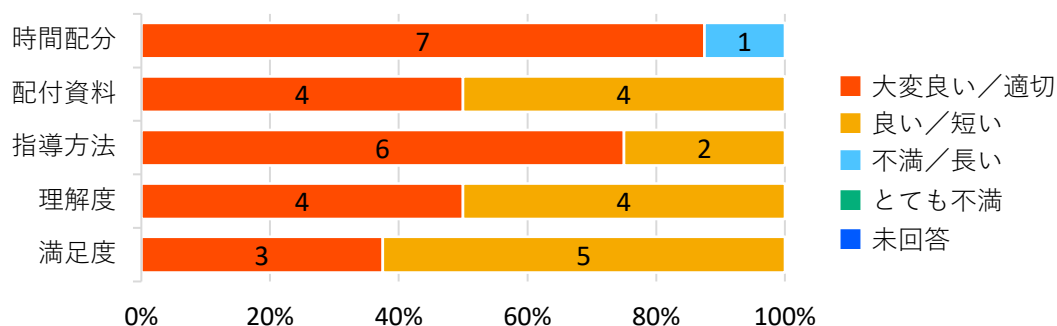


自由記述

- ・ なし

3. 各プログラムの評価について

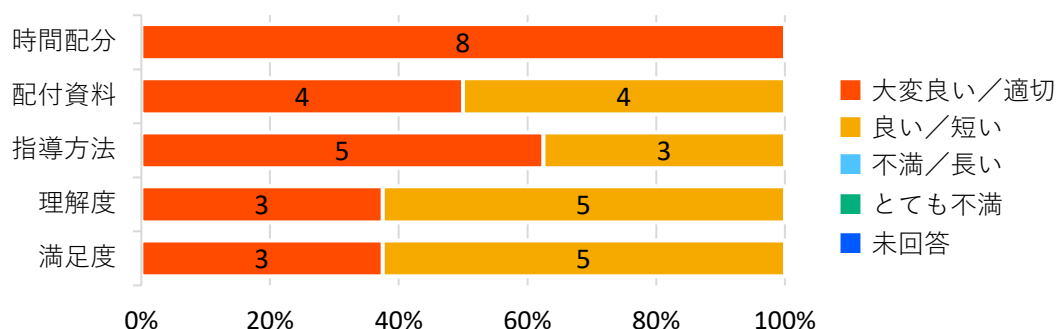
1) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

・ なし

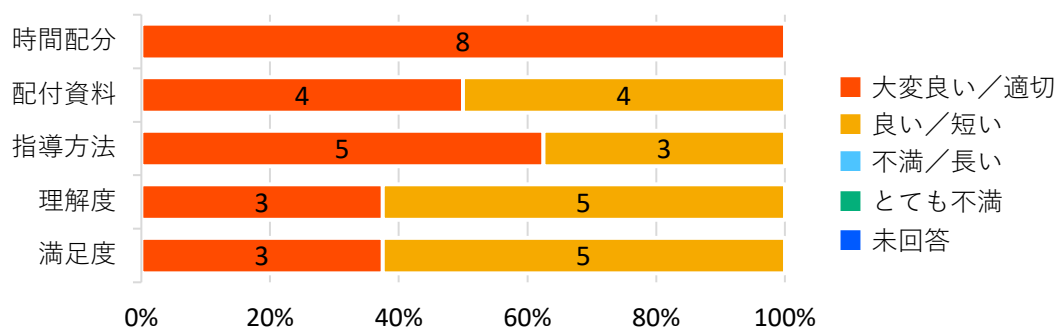
2) 実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

・ なし

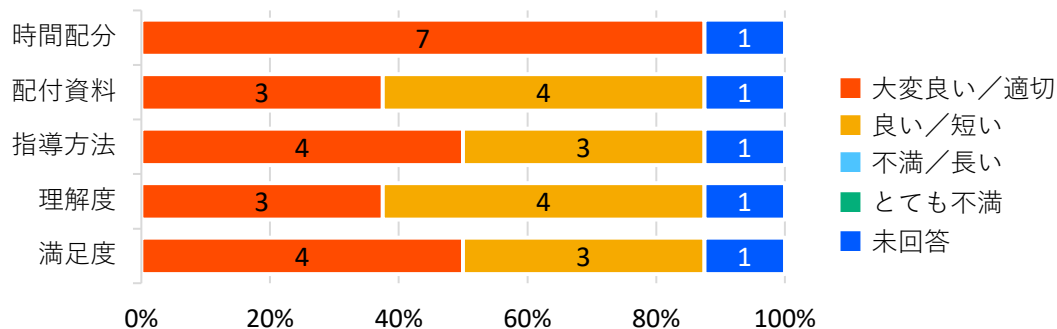
3) 実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

・ なし

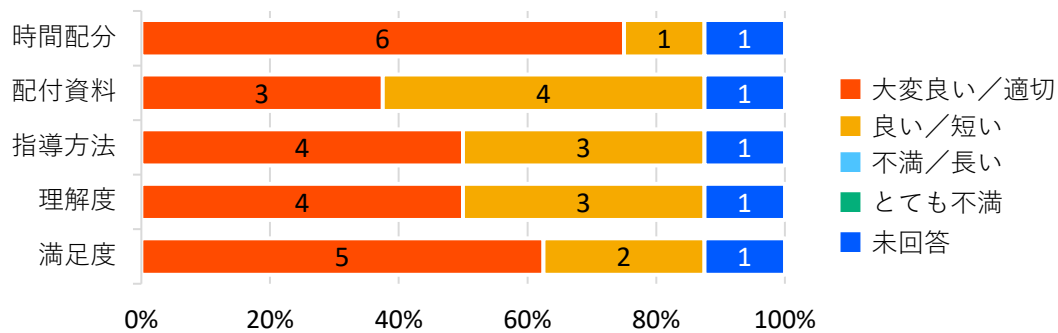
4) 実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ なし

5) 演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ なし

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ 11月に行われる市町村での訓練（毎年実施）の様子の説明があるとよりためになりました。
- ・ もっと多くの職員が受講すべきだと感じました（モニタリング要員になってて、未受講であると、実際にモニタリングするときに困ると思う）。

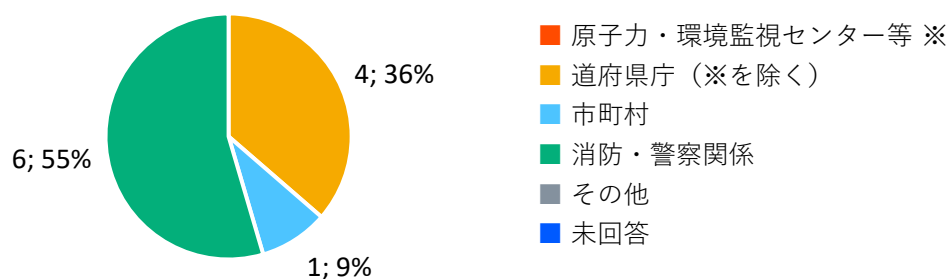
道府県M 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 11 名

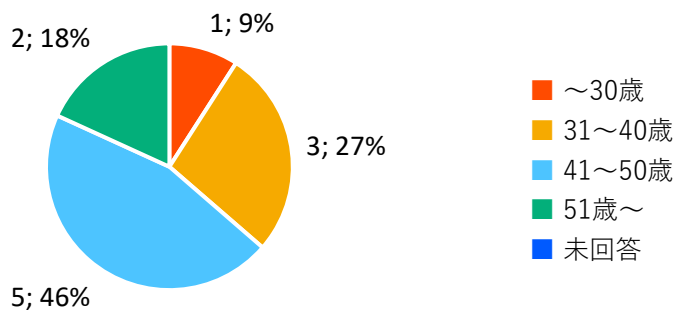
受講者数 : 11 名

1. 受講者自身について

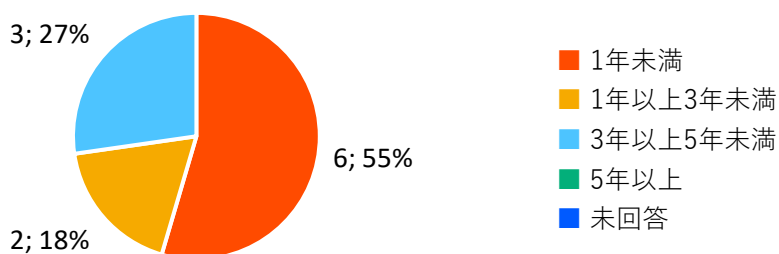
1) 所属



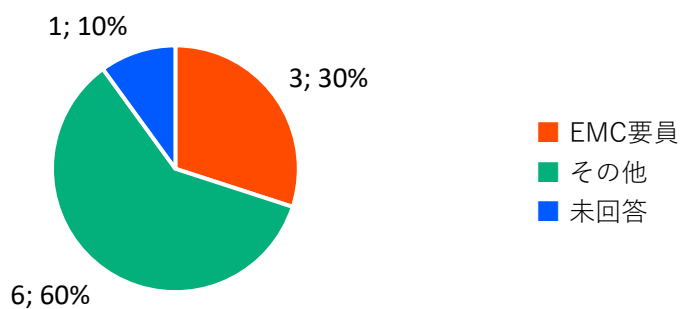
2) 年齢



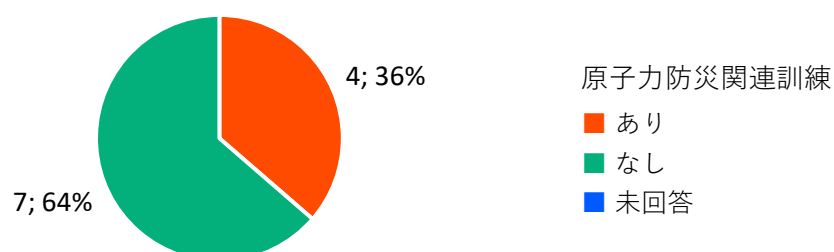
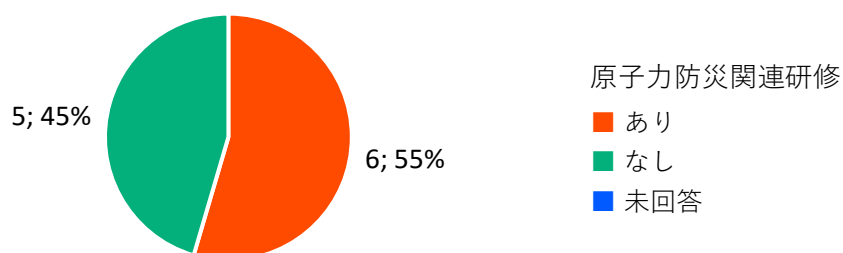
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



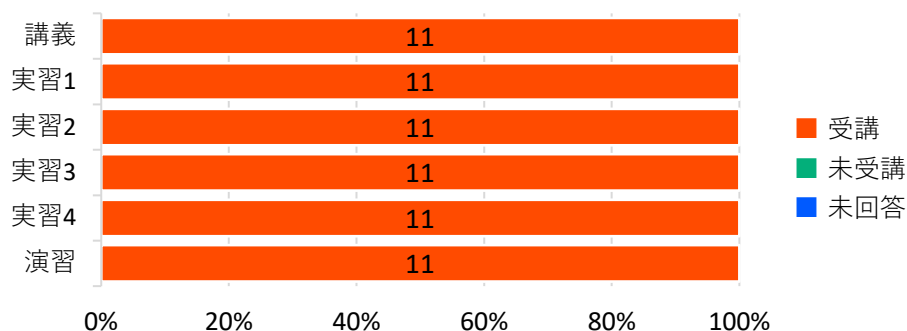
4) 原子力災害発生時の役割



5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

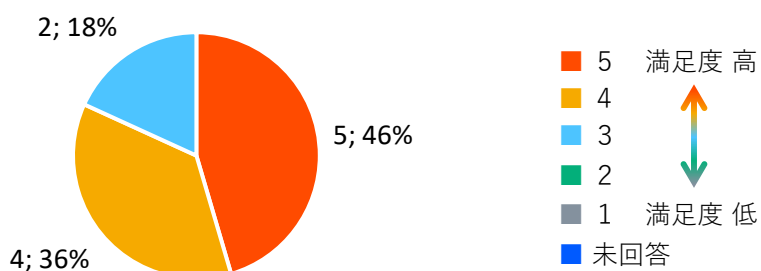


6) 受講プログラム



2. 本講座を受講しての所感等について

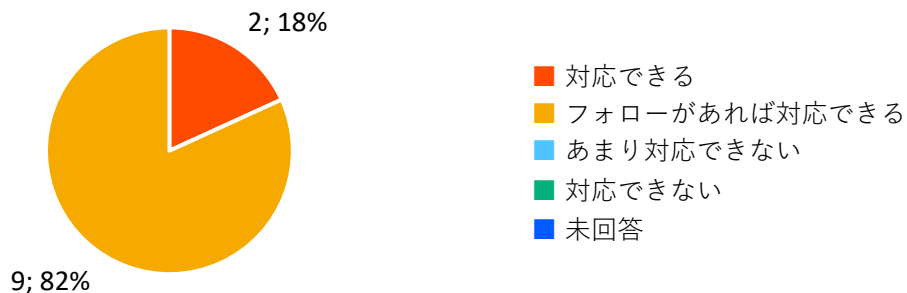
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；非常にわかりやすい内容でした。
- ・ 満足度4；資機材の基本を学べたこと。

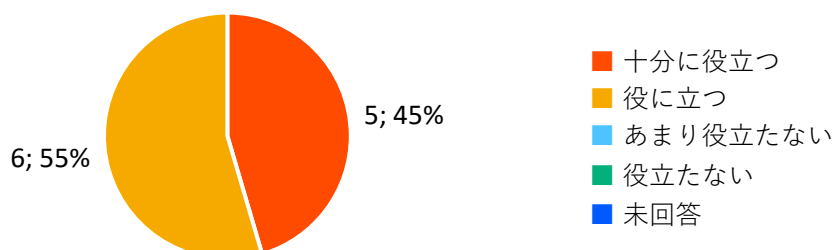
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ 対応できる；やるべきことを実際に出来た。
- ・ フォローがあれば対応できる；日頃疑問に思っていることを明瞭化できた。

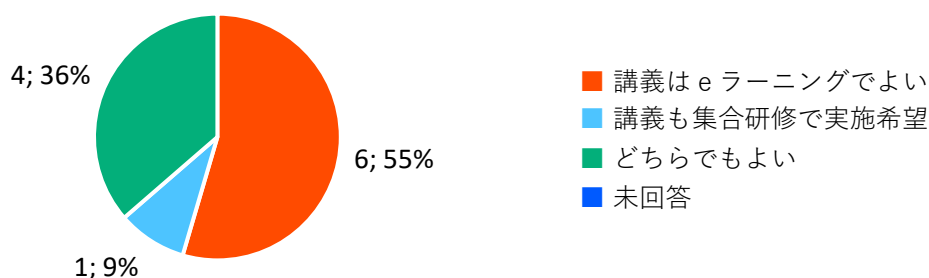
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ 十分に役に立つ；普段原子力に注力できない中、改めて勉強になった。

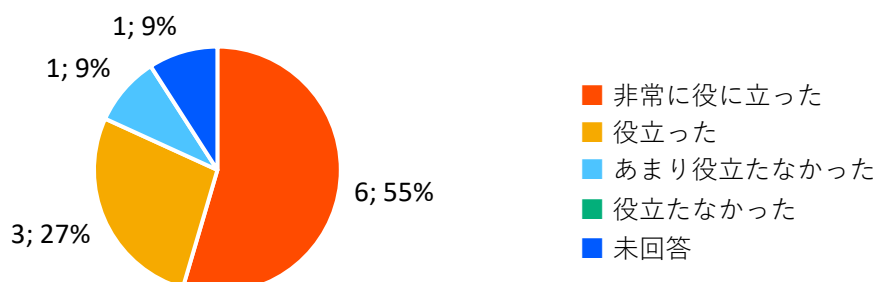
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ なし

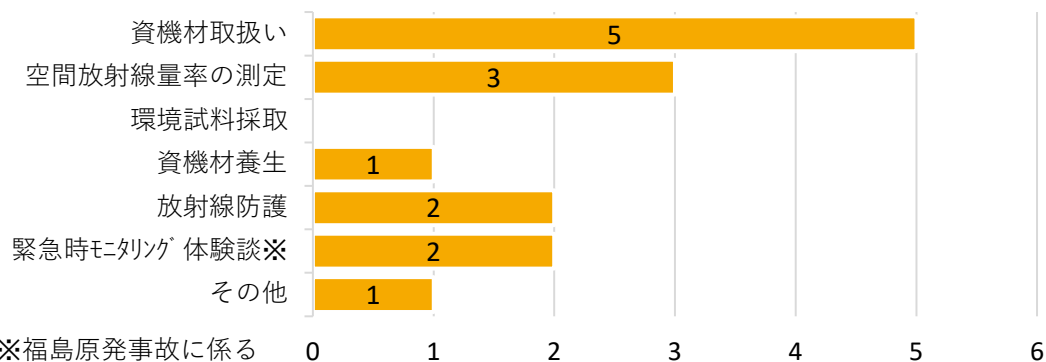
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ 非常に役に立った；わからないところを繰り返し見られる、時間が自由

6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください（複数回答可）。

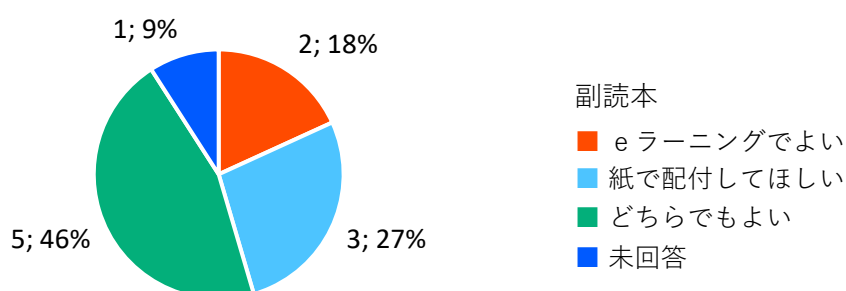
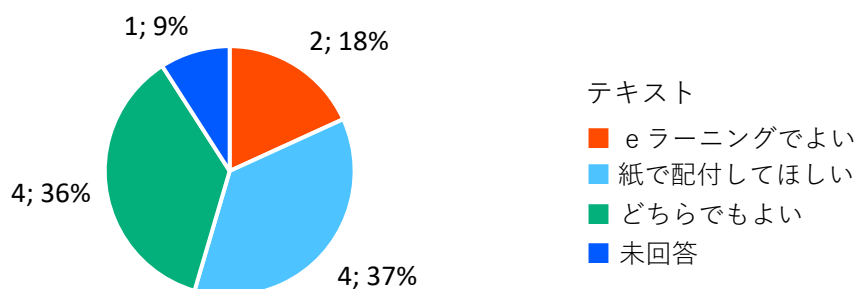


その他の意見

- ・ なし

7) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。

※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。

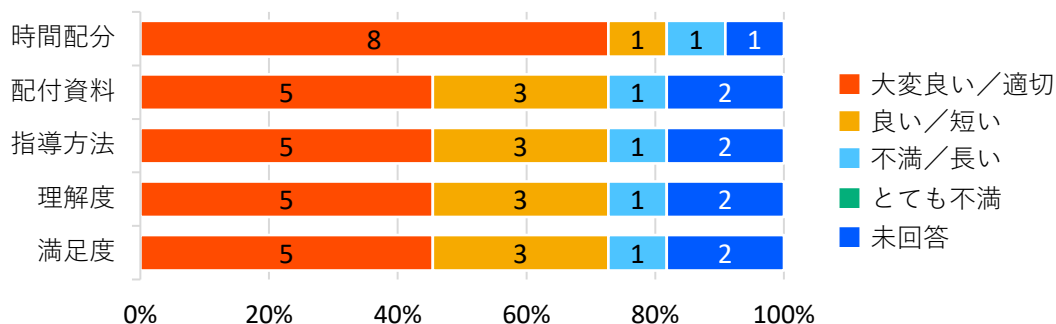


自由記述

- ・ [テキスト]紙で配付してほしい/[副読本]紙で配付してほしい；後日、職場でフィードバックしやすい

3. 各プログラムの評価について

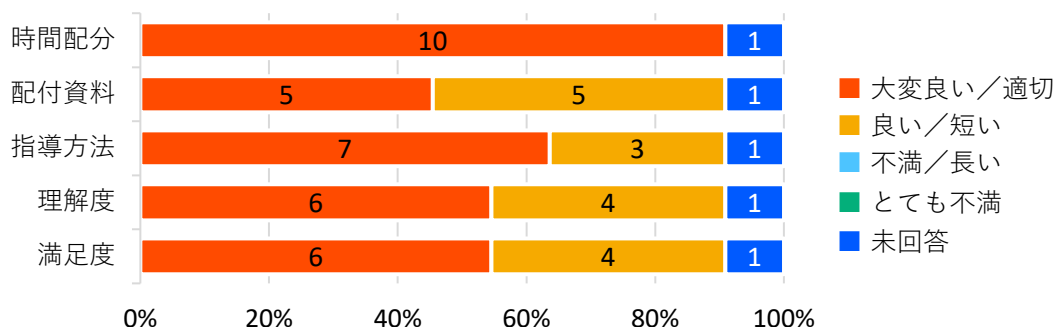
1) 講義 道府県M緊急時モニタリング計画等について



自由記述

・ なし

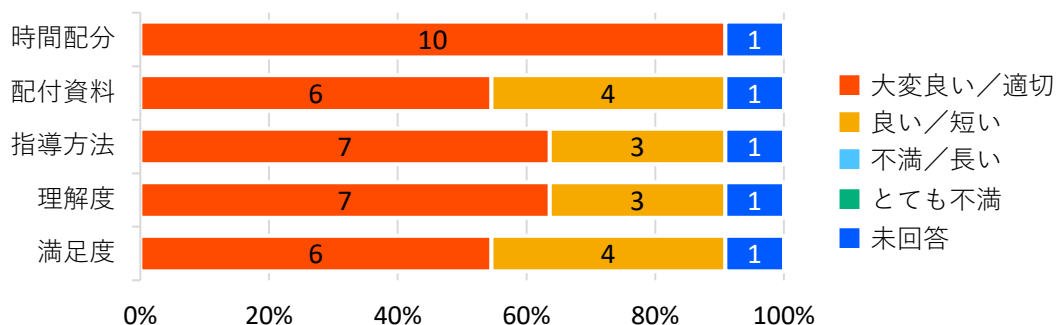
2) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

・ なし

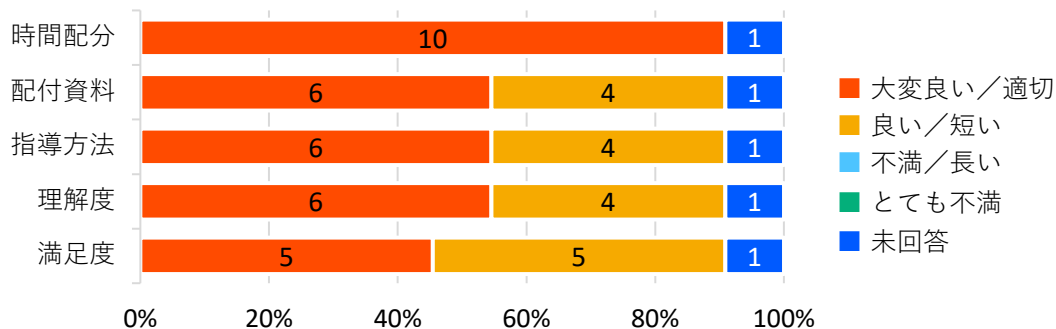
3) 実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

・ 実際に使用できて、良い経験になった。

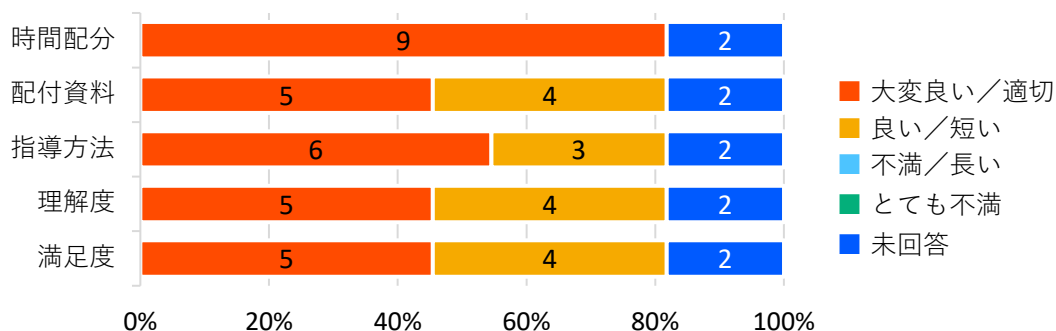
4) 実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ なし

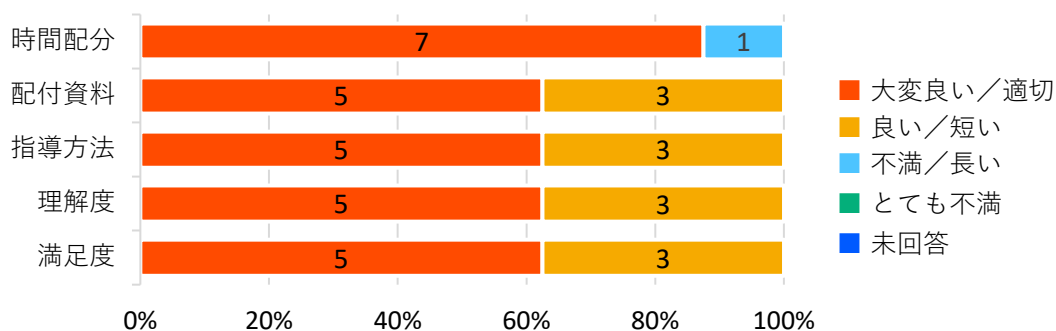
5) 実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ なし

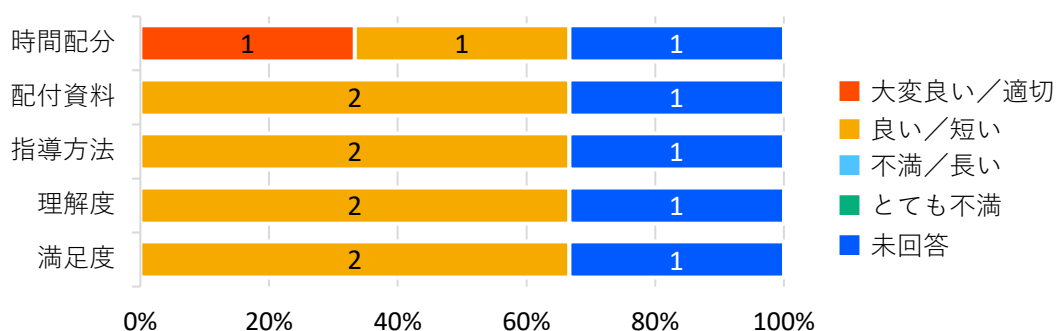
6-1) 演習 緊急時モニタリング活動 (8名受講)



自由記述

- ・ 演習の振返りは必要ないと思います。

6-2) 演習 EMC図上演習 (3名受講)



自由記述

- ・ EMCの訓練を充実したいです。

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ スタッフの方が整然と準備・撤収してくださったので、研修に集中できて感謝します。
- ・ 予定の時間に終了しないと、業務に影響が出る。
- ・ 実際に資機材の数値が上がるのが良い経験になった。また非常にわかりやすい講義で頭に入ってきやすかった。ありがとうございました。
- ・ 講師の方々の親切・丁寧な説明が良かったです。

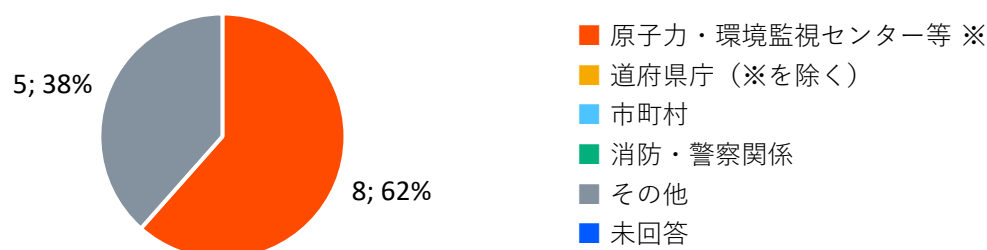
道府県N 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 13 名

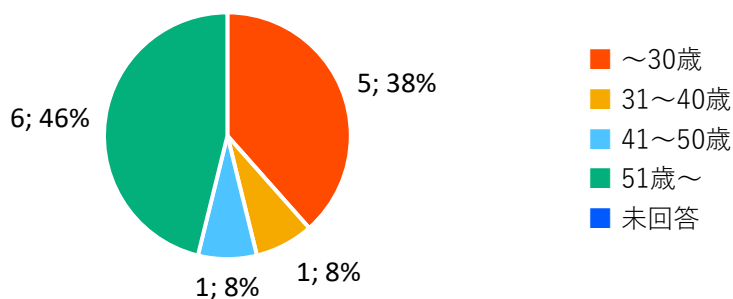
受講者数 : 13 名

1. 受講者自身について

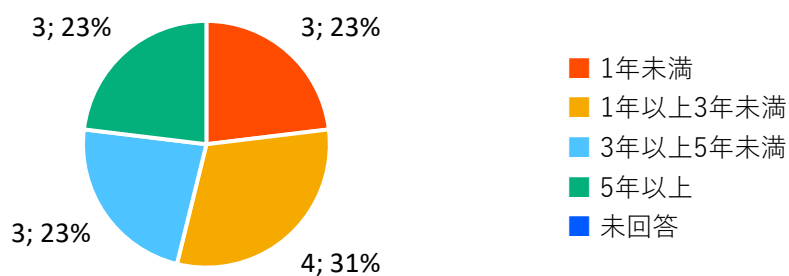
1) 所属



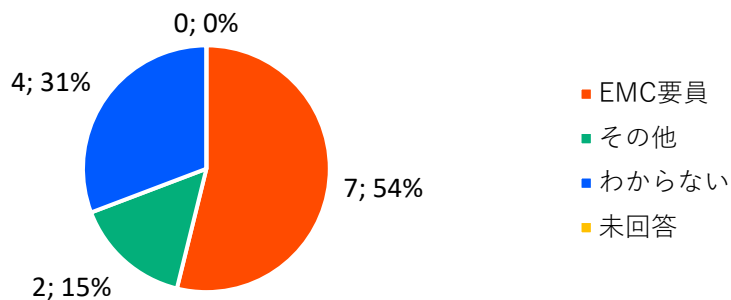
2) 年齢



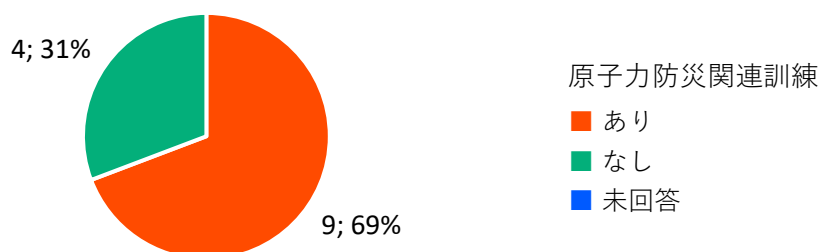
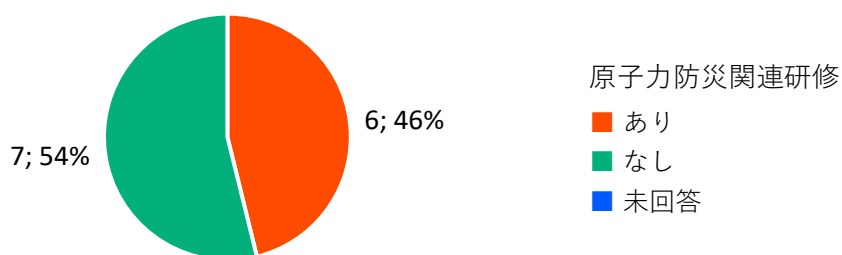
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



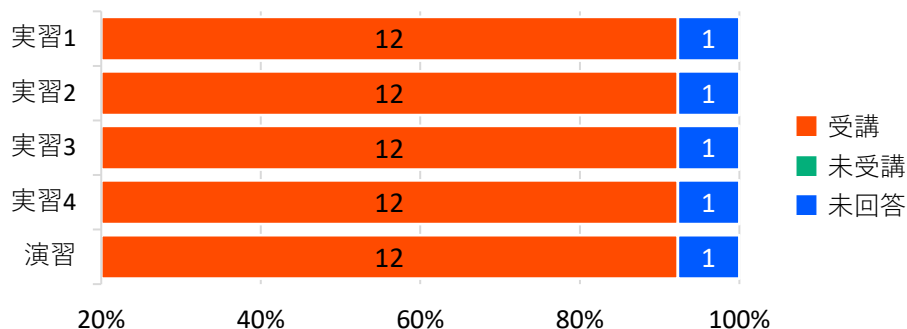
4) 原子力災害発生時の役割



5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

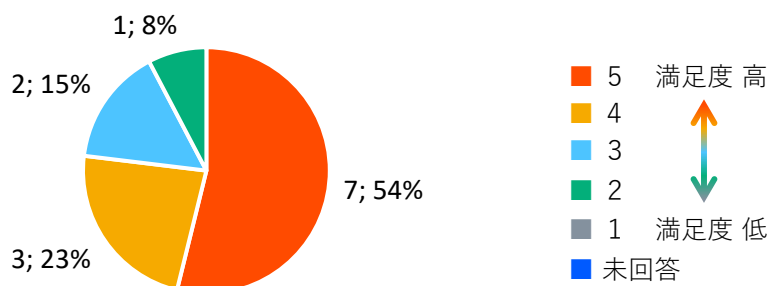


6) 受講プログラム



2. 本講座を受講しての所感等について

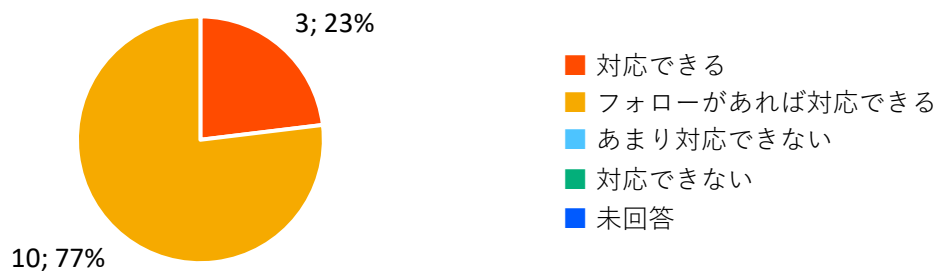
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；資料がわかりやすく、演習が多かった点がとても良かった。
- ・ 満足度5；講義・演習を通して受けたことで理解が深められた。
- ・ 満足度4；実技があり、理解しやすかった。
- ・ 満足度3；普段は防災担当として訓練の企画・運営です。基礎的な学習ができた。

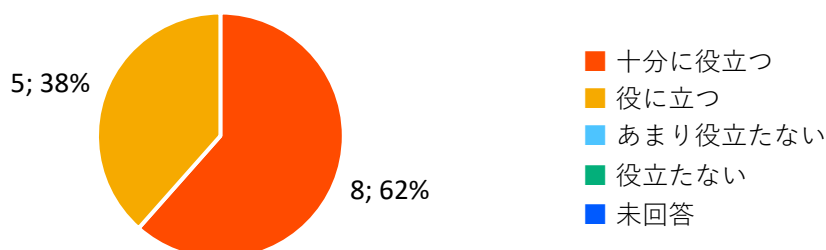
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ フォローがあれば対応できる；抜けている部分があるため自信がない
- ・ フォローがあれば対応できる；本番は少し心配です。

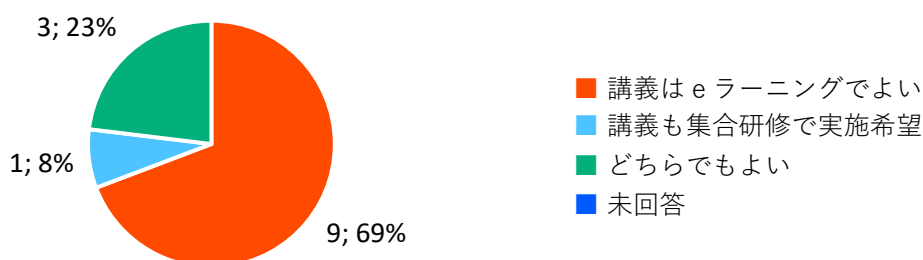
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ なし

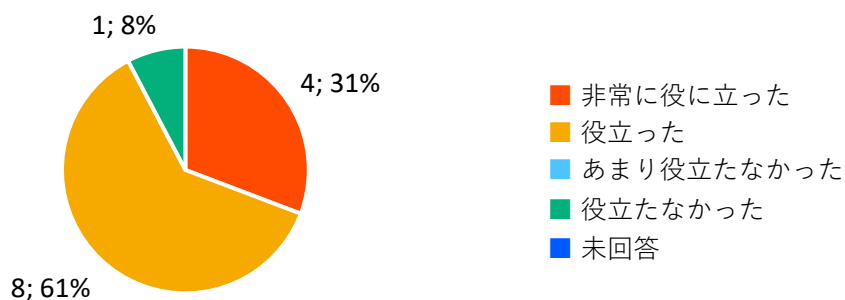
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ 講義はeラーニングでよい；スケジュールの自由がきく

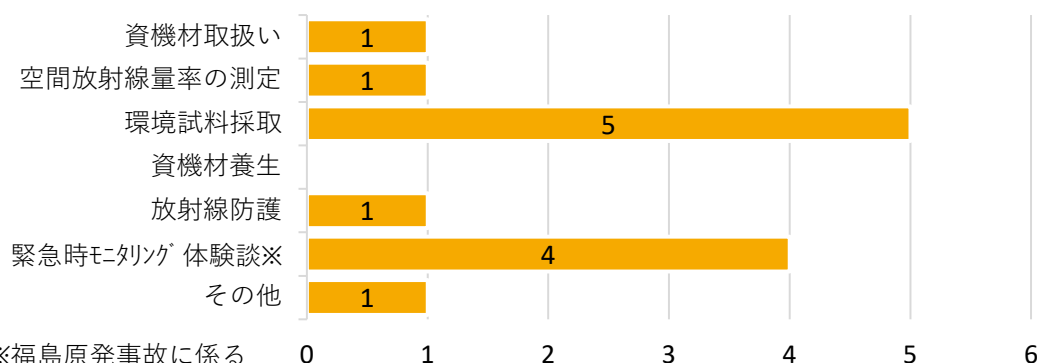
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ 非常に役に立った；分かりやすかったです。

6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください（複数回答可）。

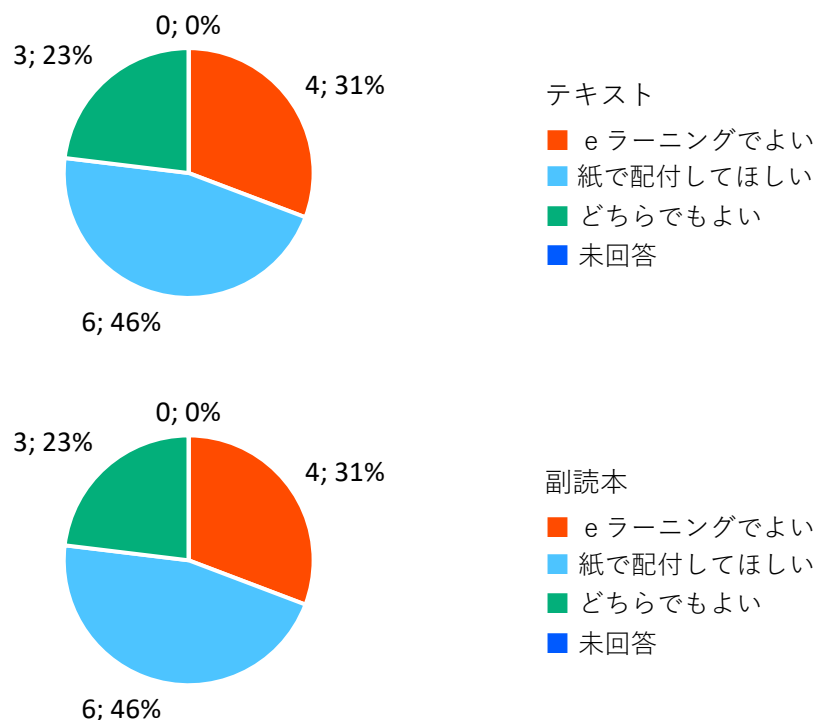


その他の意見

- ・ なし

7) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。

※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。

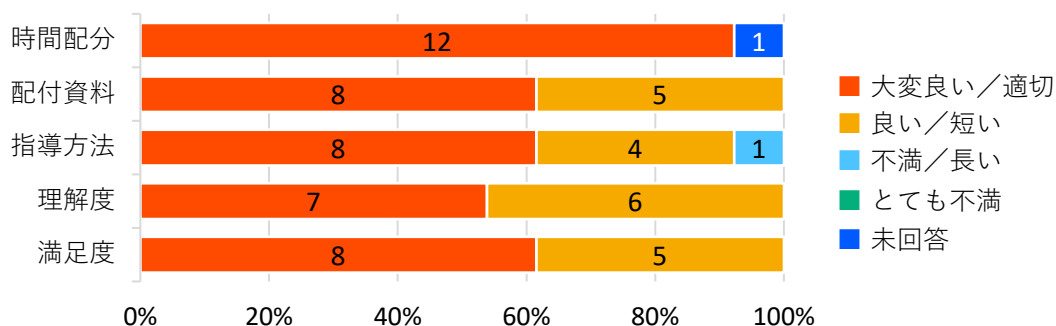


自由記述

- ・ [テキスト]eラーニングでよい/[副読本]eラーニングでよい；アーカイブが見ればなお良い。
- ・ [テキスト]紙で配布してほしい/[副読本]紙で配布してほしい；いつでも手に取って見れるのは紙である
- ・ [テキスト]紙で配布してほしい/[副読本]紙で配布してほしい；昭和生まれだから

3. 各プログラムの評価について

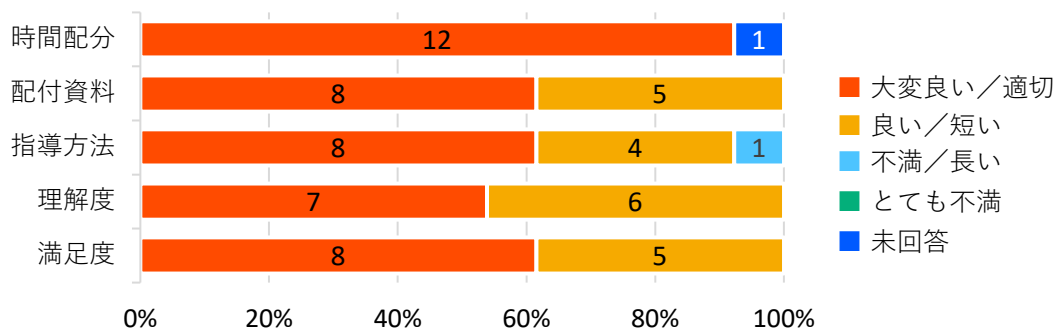
1) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ 分かりやすかったです。
- ・ 声が小さい

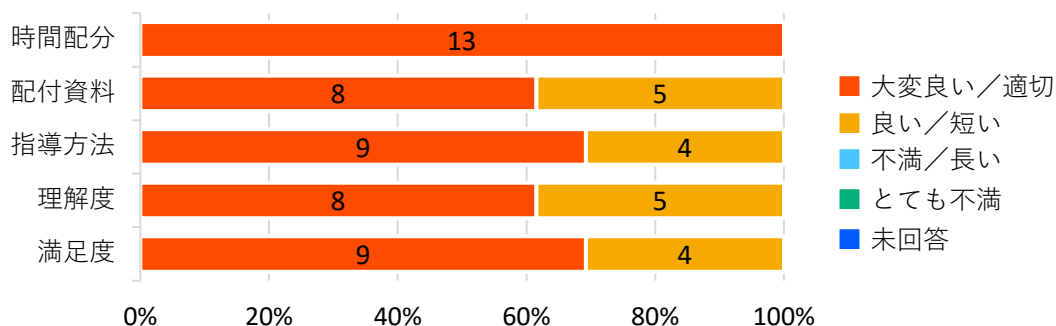
2) 実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ 資料はすごく良かったです。
- ・ 声が小さい

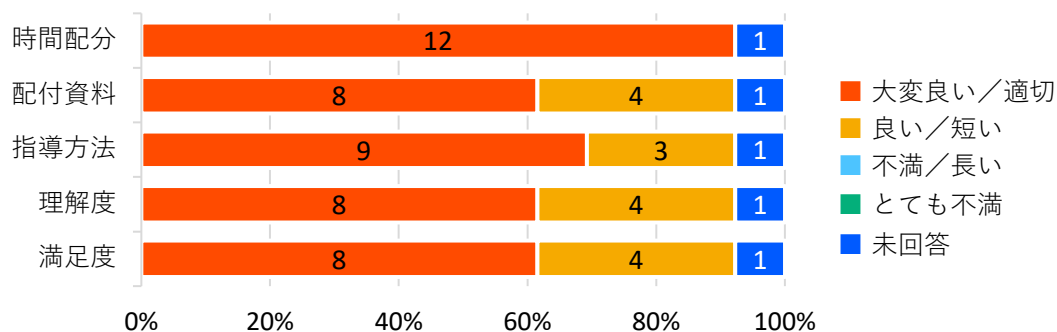
3) 実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 講師が良かったから

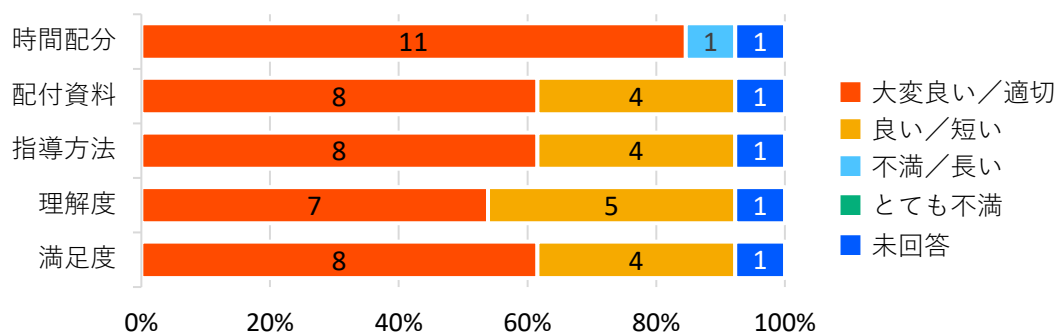
4) 実習4 環境試料の採取



自由記述

・ なし

5) 演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

・ なし

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ 日常業務は事務方なので、基礎的学習ができて良かったと思います。機会があれば、参加したいと思います。
- ・ 用語、基準への理解が向上した。
- ・ ありがとうございました。大変勉強になりました。
- ・ 大変勉強になりました。
- ・ 緊急時を想定した業務をしたことがなかったので、大変勉強になりました。
- ・ 研修時間が長すぎる。範囲も広く1日では物足りない部分もあるので、2日にするか、1日ならもっとテーマを絞っても良かったのでは。

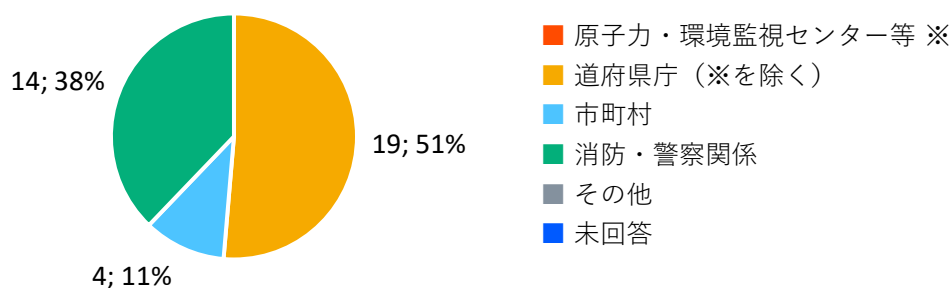
道府県0 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 37 名

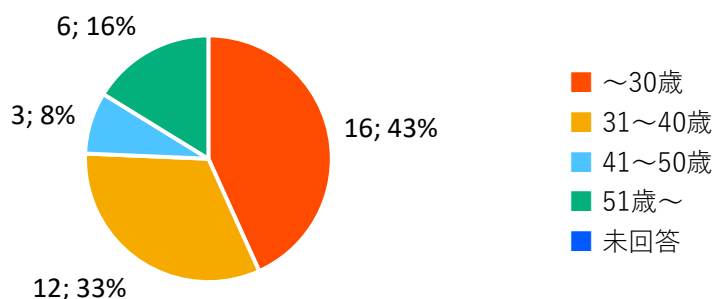
受講者数 : 39 名

1. 受講者自身について

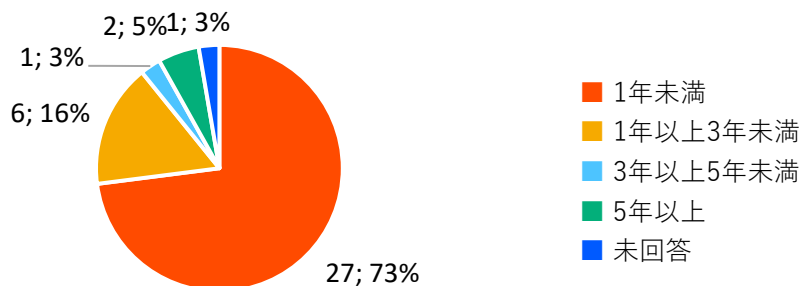
1) 所属



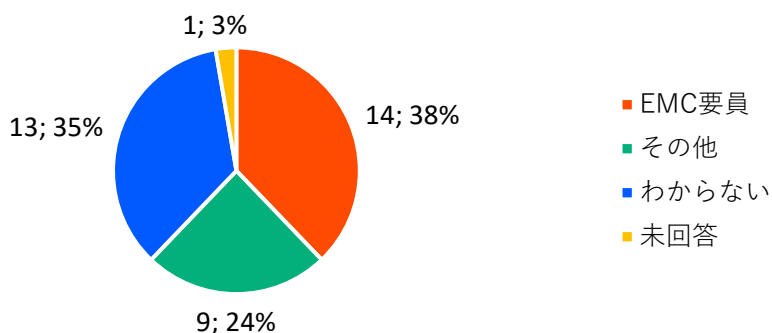
2) 年齢



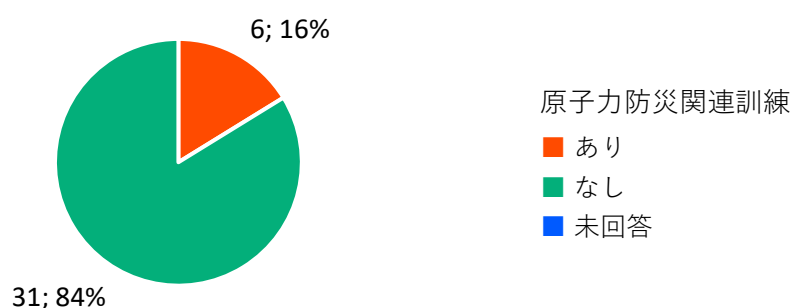
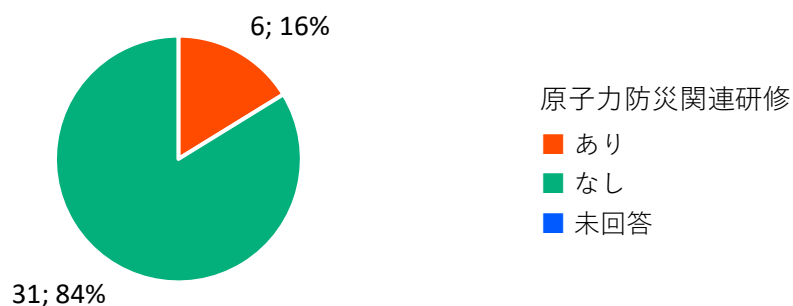
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



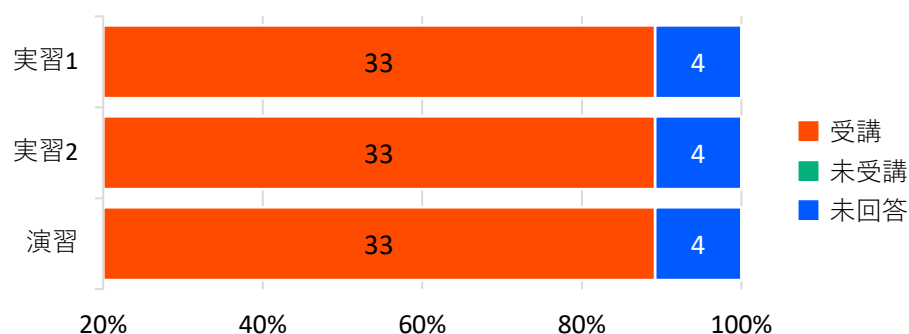
4) 原子力災害発生時の役割



5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

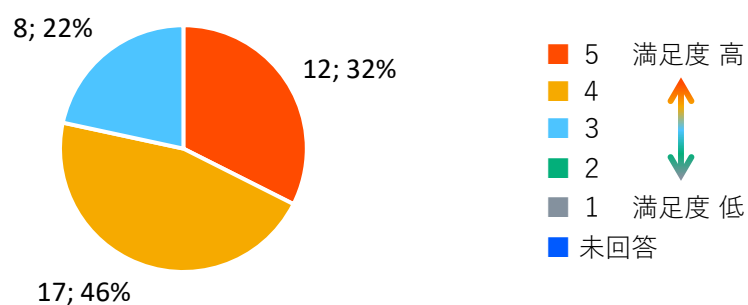


6) 受講プログラム



2. 本講座を受講しての所感等について

1) 満足度

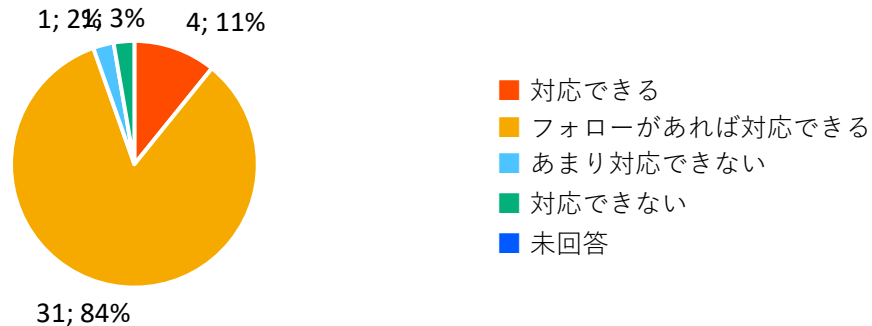


自由記述

- ・ 満足度5；放射線について今まで勉強していなかったが、勉強する機会ができた。
- ・ 満足度4；基礎的な知識から丁寧に説明してくださったので、分かりやすかったです。
- ・ 満足度4；実際に測定できたこと
- ・ 満足度4；普段の訓練よりも詳しい内容を知ることができた

- ・ 満足度4；演習によって学びが深まった。
- ・ 満足度4；モニタリングの知識や機器の取扱いについて理解できた。
- ・ 満足度3；やるべき事が少しでもわかったから。
- ・ 満足度3；若干テンポが早めで、少しついていけなかった（記録等）
- ・ 満足度3；機器の取扱いについては理解できたが、実務とリンクできない。（どのような場面で消防は使うのか等）

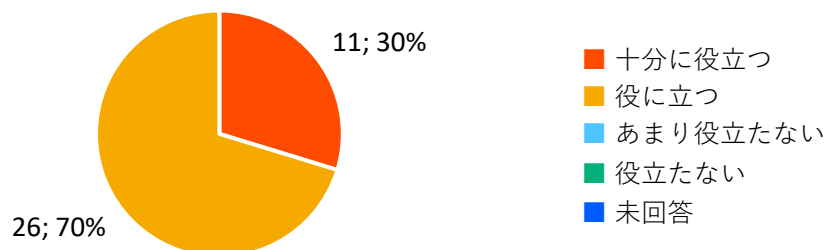
2）本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ 対応できる；演習で実際に機器を用いて行うことができた。
- ・ フォローがあれば対応できる；まだまだ勉強不足だと感じた。
- ・ フォローがあれば対応できる；資機材に慣れていないから。
- ・ フォローがあれば対応できる；継続的な研修が必要と思う。
- ・ フォローがあれば対応できる；難しい言葉などがあったためそれを理解できるか分からないから
- ・ フォローがあれば対応できる；まだ経験不足と思われるため
- ・ フォローがあれば対応できる；理解はできたが、有事に1人のみの判断で動くのには不安がある
- ・ フォローがあれば対応できる；知識のバックグラウンドが不足しているため
- ・ フォローがあれば対応できる；今はできるかもしれないが、時間が経った場合、自信を持って対応できないだろうと思うため。
- ・ フォローがあれば対応できる；どのような手順が実災害では不明な点があるため。
- ・ あまり対応できない；自信がない、訓練が必要

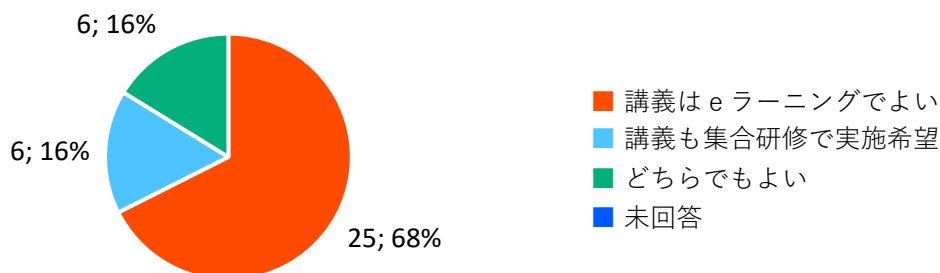
3）本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ なし

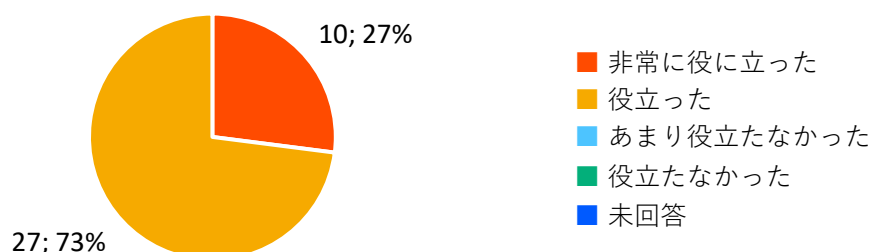
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ 講義はeラーニングでよい；実技に時間を割くため
- ・ 講義はeラーニングでよい；2～3回、見た方がよい内容だった。
- ・ 講義はeラーニングでよい；自由に受講できる
- ・ 講義はeラーニングでよい；効率的であるため
- ・ 講義はeラーニングでよい；移動が大変
- ・ 講義はeラーニングでよい；普段の業務の合間に学習できるから

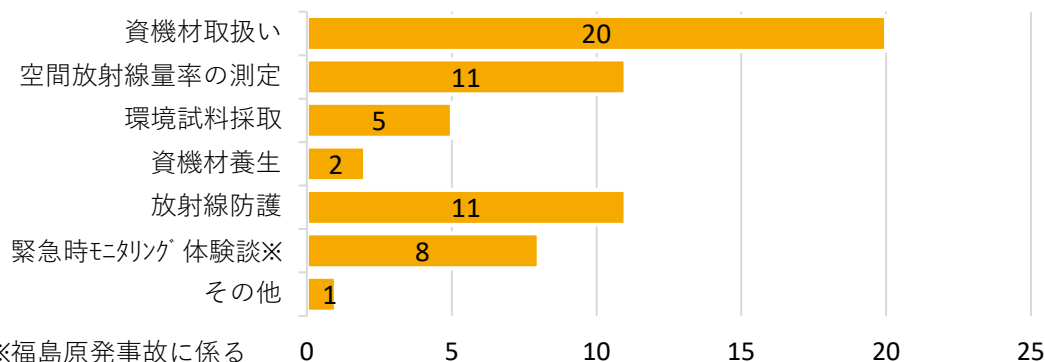
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ 非常に役に立った；ふりかえりができる
- ・ 役立った；事前に受講できたため

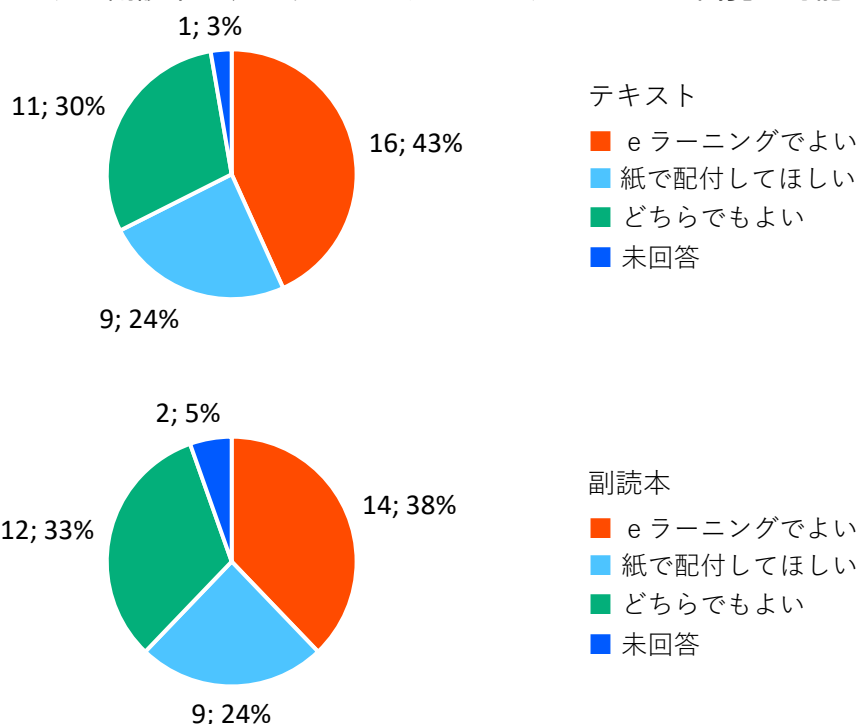
6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください（複数回答可）。



その他の意見

- ・ 現状でよい

- 7) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。
※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。

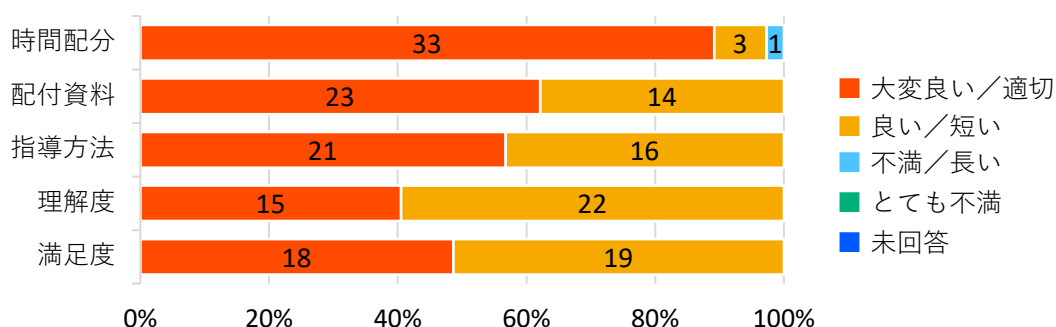


自由記述

- ・ [テキスト]どちらでもよい/[副読本]どちらでもよい；テキストや副読本の配付をいただけるのであれば印刷しないので、教えてほしかった。
- ・ [テキスト]eラーニングでよい/[副読本]紙で配付してほしい；デジタル媒体がないときに見たいので
- ・ [テキスト]eラーニングでよい/[副読本]eラーニングでよい；紙を減らすため
- ・ [テキスト]紙で配付してほしい/[副読本]紙で配付してほしい；すぐ見ることができるため
- ・ [テキスト]eラーニングでよい/[副読本]eラーニングでよい；スライドは紙で配付してほしいが、テキスト、副読本はeラーニングでよい
- ・ [テキスト]eラーニングでよい/[副読本]eラーニングでよい；必要に応じて対応できるから
- ・ [テキスト]eラーニングでよい/[副読本]eラーニングでよい；eラーニングだと映像でわかるから

3. 各プログラムの評価について

1) 実習1 放射線の性質確認

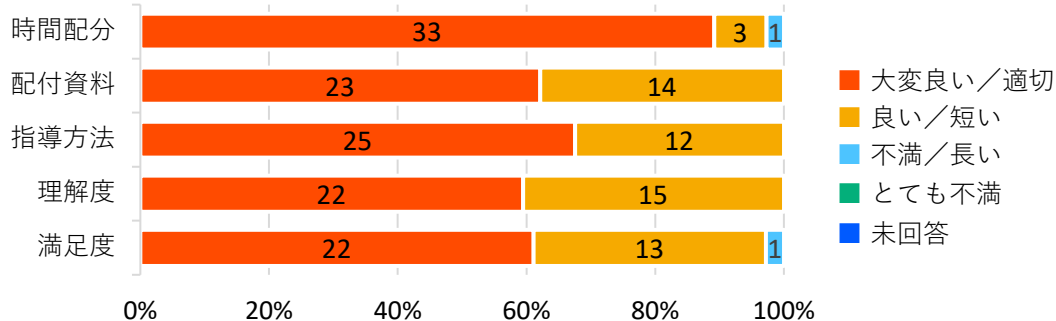


自由記述

- ・ 機材説明の際、説明がスムーズでない時があったため、事前に機材の確認をした方が良かったと思った。

- ・ e-ラーニングに加えて、より詳しく説明を聞きたいのもっと長く時間がほしい。
- ・ 少し慌ただしかった
- ・ 十分理解することができた
- ・ 実習内容が洗練されていて重要なポイントが分かり易い
- ・ 馴染みがない分野であるが、放射線についての理解が深まった。
- ・ 説明等とても分かりやすかった
- ・ 理解しやすい内容だった。

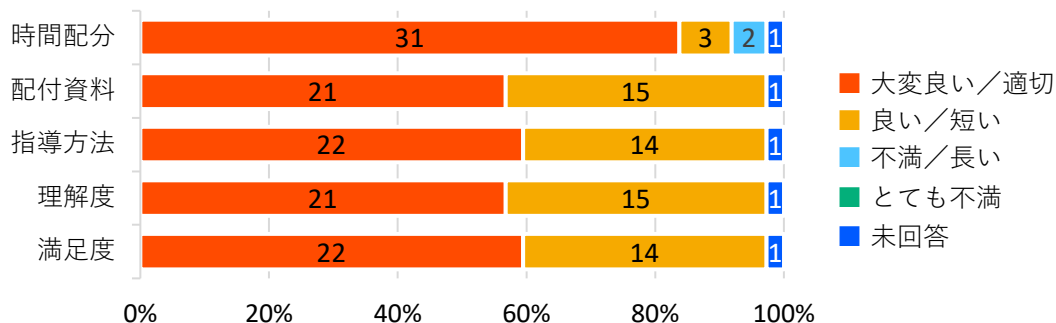
2) 実習2 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ サーベイメータ等で実際に行うことによって、測定について深く理解することができた。
- ・ 機器の使用方法が理解できた。
- ・ わかりやすかった
- ・ 非常に勉強になった
- ・ 模擬的に測定できると理解が深まる
- ・ 実技を交えてで理解が深まった。
- ・ 実技等で大変ためになった
- ・ 内容は良かった。機器があるとさらに良い。

3) 演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 身体汚染を防ぐために、サーベイメータで測定方法どおりにすることや、手袋を汚染していない部分を触らずにはずすことの大切さを学びました。
- ・ 実際、現場でできるかはまだ不安
- ・ わかりやすかった
- ・ 初めてモニタリングに関する演習を経験でき良かった。
- ・ 実習と重複するので空間線量測定実習はいらないと思う
- ・ 実際の想定の実験が出来たのがよかった。

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ とても勉強になった。ありがとうございました。
- ・ 実際に遮へいや測定機器を操作でき、非常に勉強になりました。
- ・ 簡易除染の重要さを感じました。
- ・ なかなか体験することのない分野の研修で、大変役に立ちました。

- ・ モニタリングの全体の流れを知ることができて良かったです。機器も実際の触れたため参考になりました。

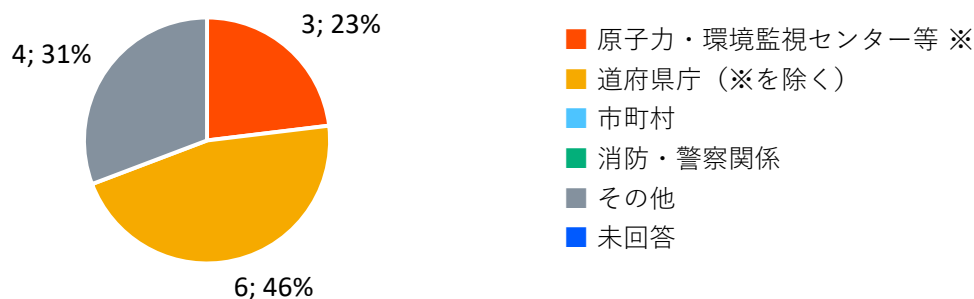
道府県P 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 13 名

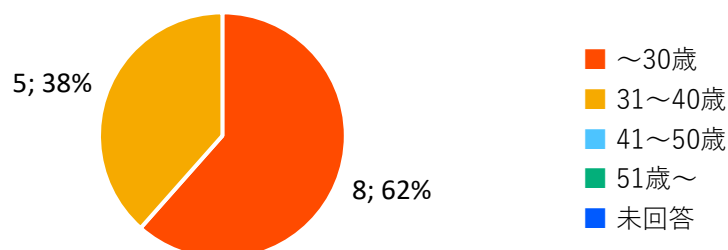
受講者数 : 13 名

1. 受講者自身について

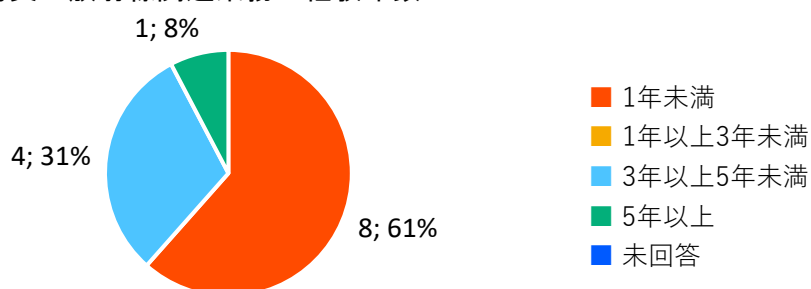
1) 所属



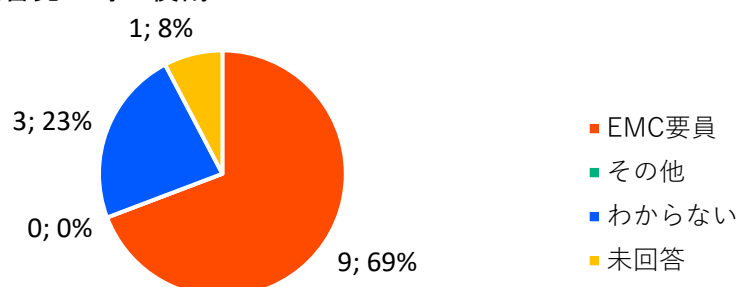
2) 年齢



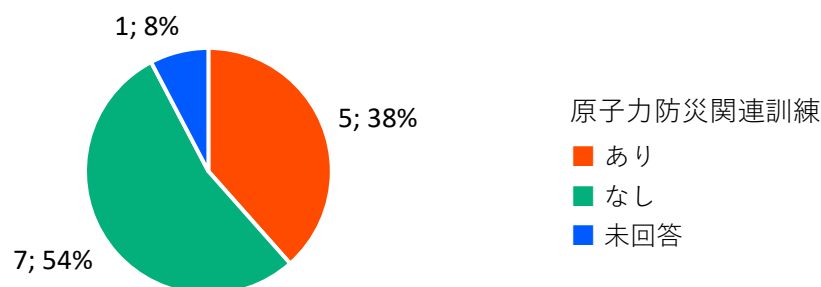
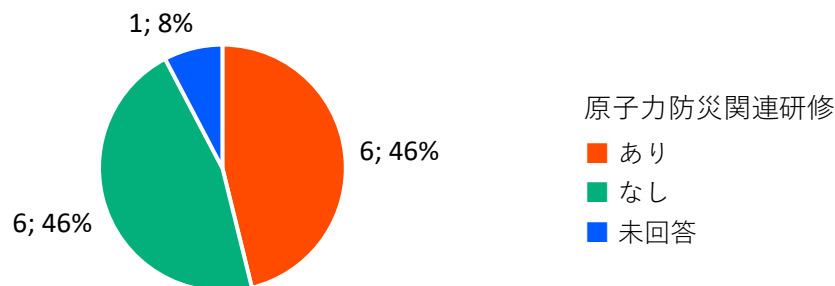
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



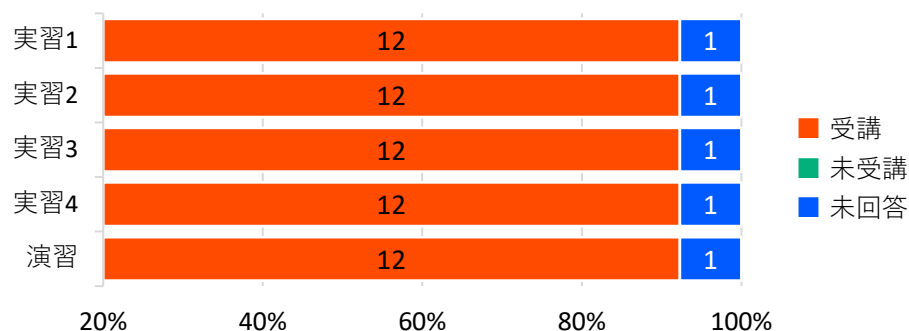
4) 原子力災害発生時の役割



5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

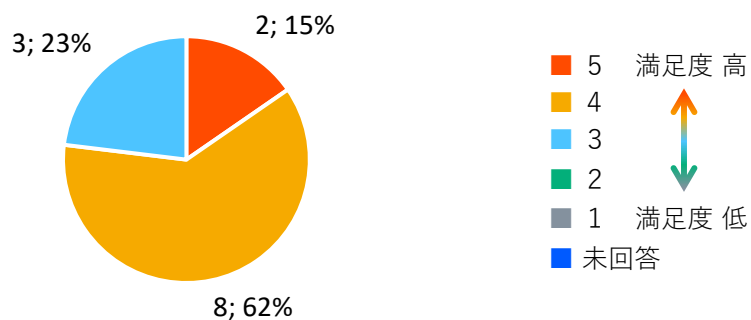


6) 受講プログラム



2. 本講座を受講しての所感等について

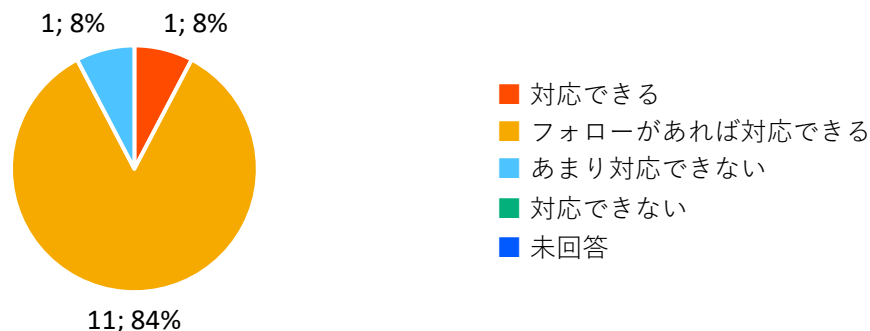
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度3: わかるところとわからないところ、どちらともあった。
- ・ 満足度5: 演習メインで理解しやすかったため
- ・ 満足度3: 知識が不十分な状態での参加になってしまったため、内容について分からない箇所があったから

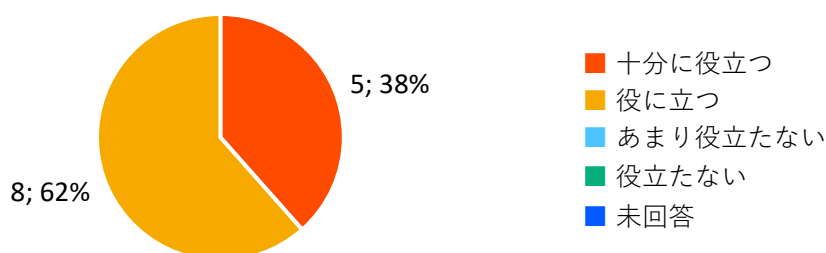
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ フォローがあれば対応できる；自分でもできそうなところがあった。
- ・ フォローがあれば対応できる；一度目の研修で理解が完璧ではないから
- ・ フォローがあれば対応できる；十分な理解には及んでいないため。
- ・ あまり対応できない；初めてで不安な点が多々ある

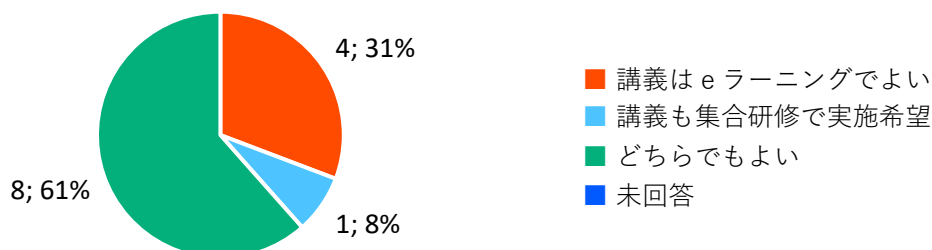
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ 十分に役に立つ；測定器の使用手順や試料採取手順を知ることができたから
- ・ 役に立つ；万が一の時に使えそうなのがあった。
- ・ 役に立つ；あまりないことだと思うが良い経験になった。
- ・ 役に立つ；実技は他では難しいため

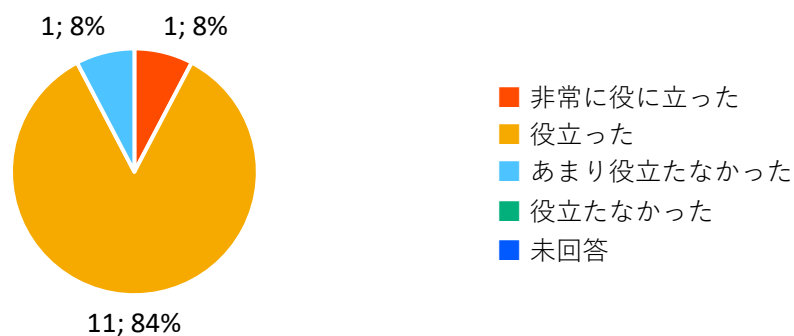
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ 講義はeラーニングでよい；インプットは個人のペースで進められ、時間を効率的に使用した方がよいから
- ・ 講義はeラーニングでよい；時間短縮になったため
- ・ どちらでもよい；eラーニングだけでは、質問してすぐ知りたい人もいます。
- ・ どちらでもよい；eラーニングより集合の方がわかりやすいが、eラーニングは手軽なので、座学は比較できないと思うから

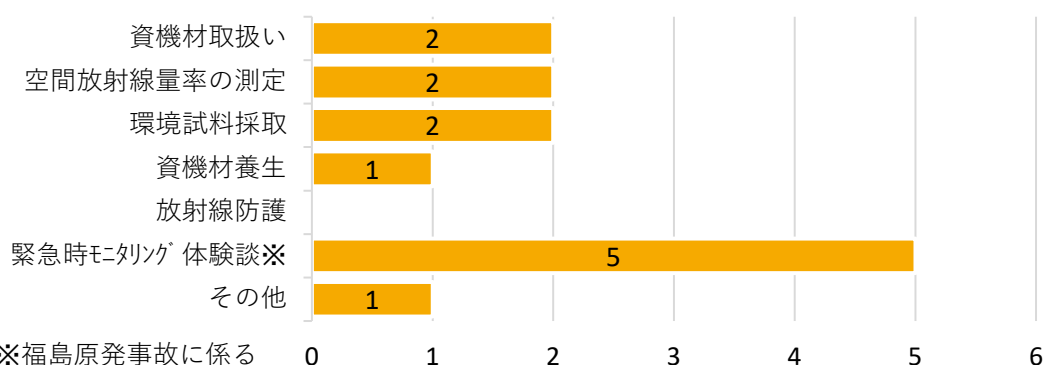
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ 非常に役に立った；基本知識の理解に役立ったため
- ・ 役に立った；事前に学習することができた。
- ・ 役に立った；組織図などその場で言われても困るから

6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください（複数回答可）。

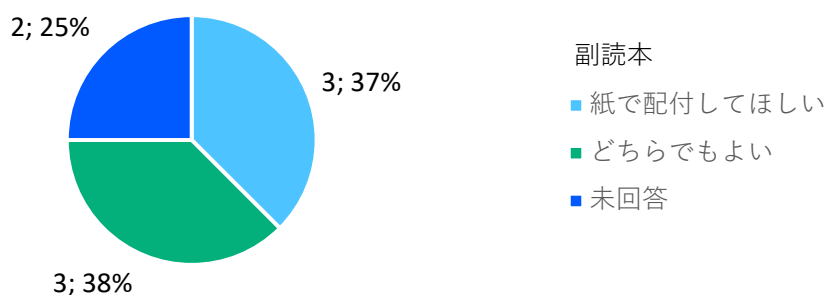
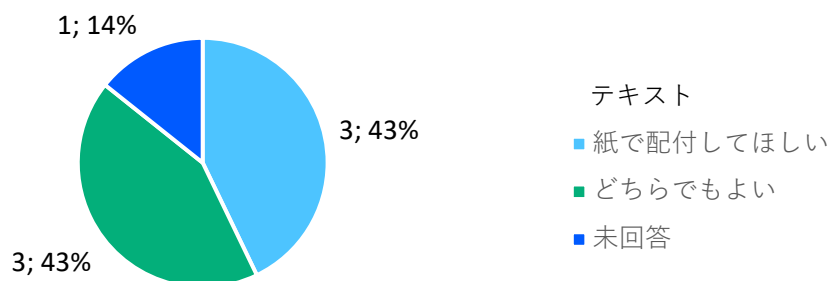


その他の意見

- ・ なし

7) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。

※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。

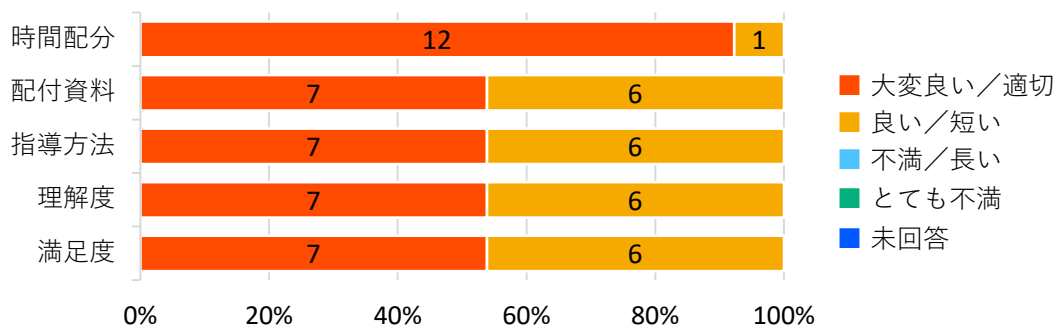


自由記述

- ・ [テキスト]eラーニングでよい/[副読本]eラーニングでよい；いつでも学習できるため
- ・ [テキスト]eラーニングでよい/[副読本]eラーニングでよい；一回見たら次からは探しやすい媒体であってくれた方がありがたい。
- ・ [テキスト]紙で配付してほしい/[副読本]eラーニングでよい；副読本については必要であれば、必要なところのみ印刷すると思いますので、紙での配付は不要と思いました。

3. 各プログラムの評価について

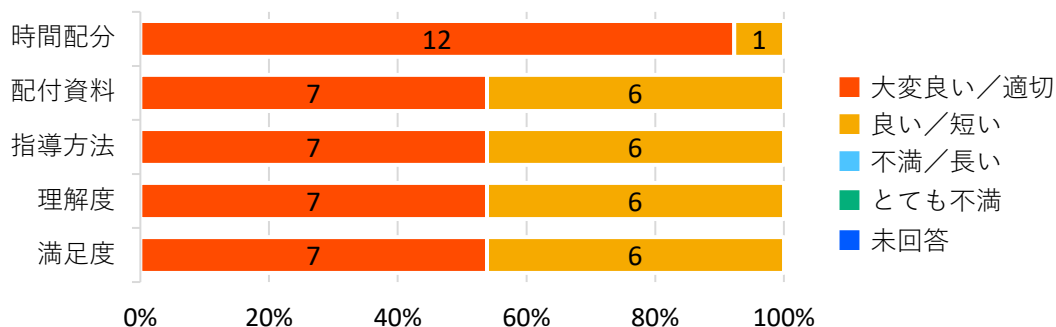
1) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ とても分かりやすく、はじめての人にとってはとてもいいと思う。

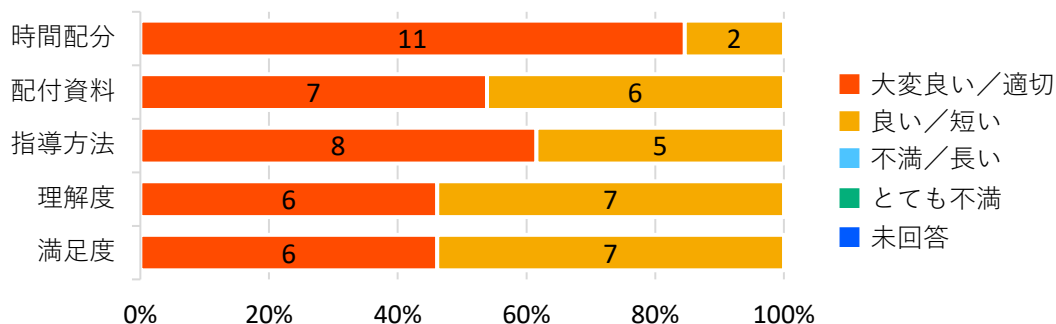
2) 実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ とても分かりやすく、はじめての人にとってはとてもいいと思う。
- ・ 外に置きっぱなしにした資材は、後で除染しないといけないと思うが、どうしているんだろうと思った。

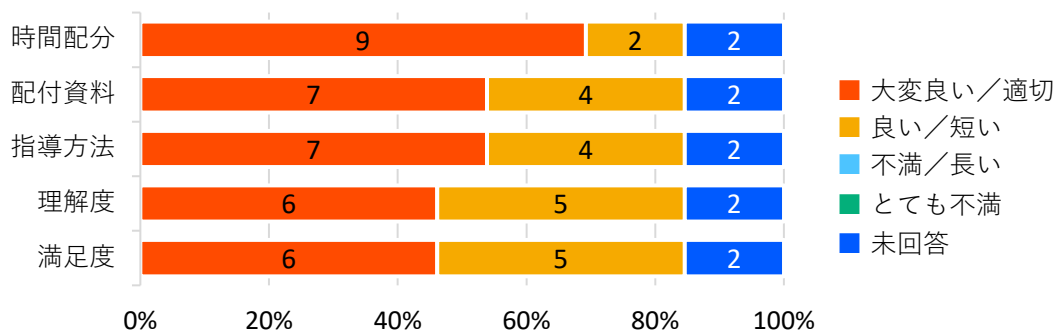
3) 実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ コード類の接続等、実際の設置を経験したい
- ・ とても分かりやすく、はじめての人にとってはとてもいいと思う。
- ・ 電気が通っているところを想定して置いているのかなと思った。

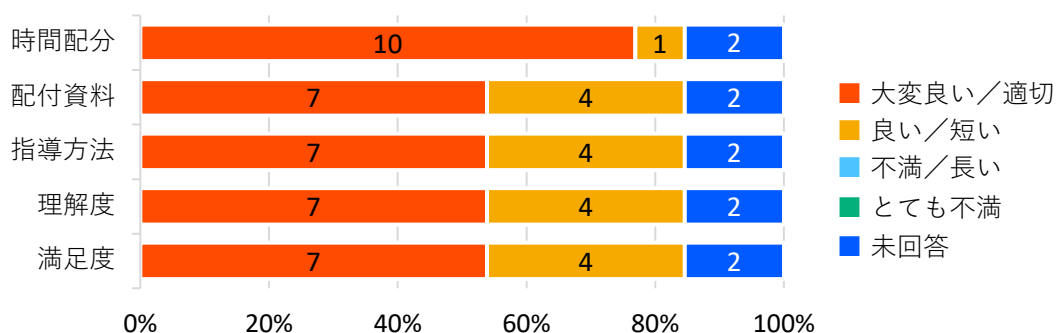
4) 実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ ホットとコールドをしっかりと経験したかった

5) 演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 全体のまとめ演習として有意義だった。
- ・ 実際にやってみることができたのがよかった。

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ 理解度が深まった。
- ・ 座学だけよりも断然勉強になった。班にいた方がプロの人だったこともあり、とてもよくわかった。
- ・ もっと勉強しようと思いました。

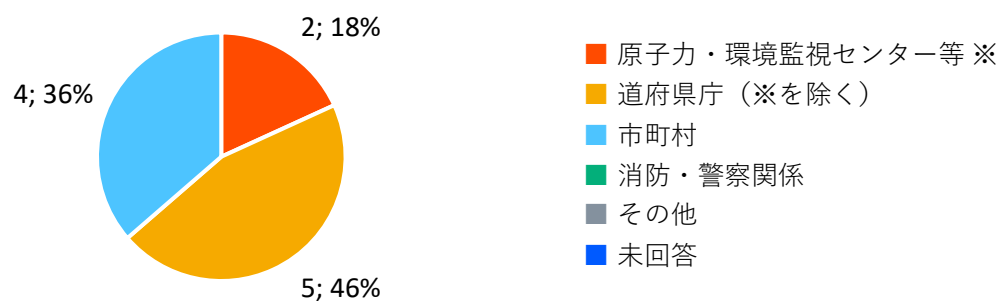
道府県Q 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 11 名

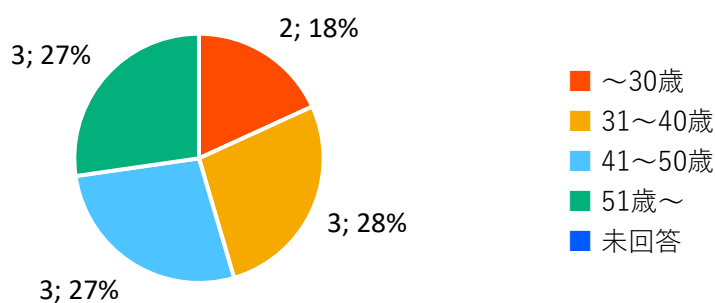
受講者数 : 11 名

1. 受講者自身について

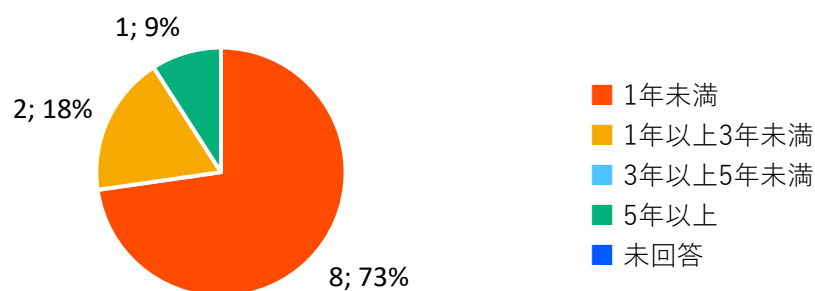
1) 所属



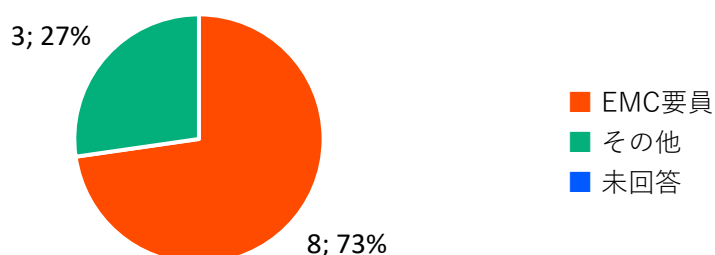
2) 年齢



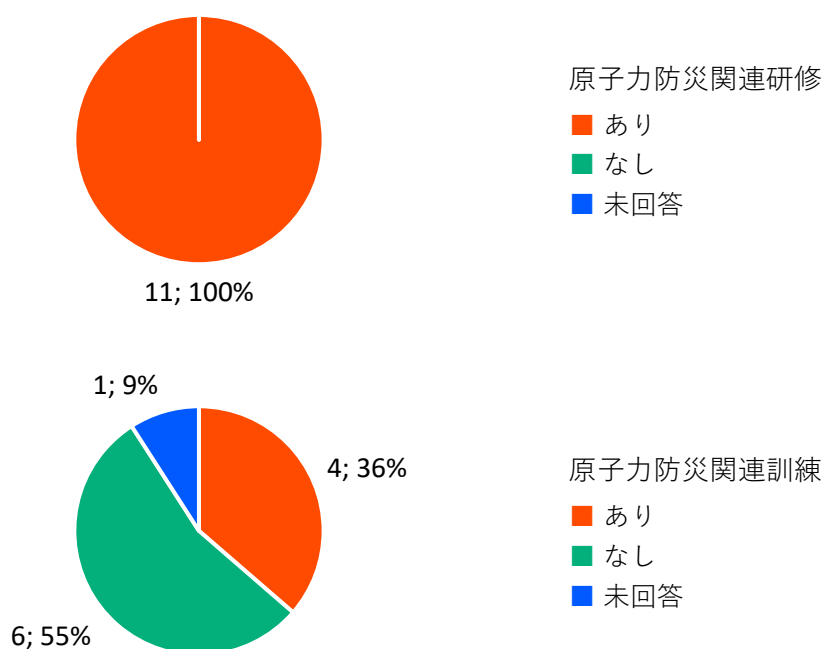
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



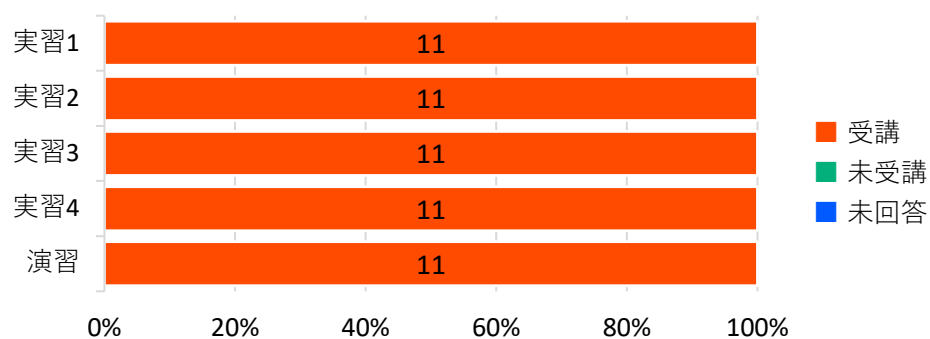
4) 原子力災害発生時の役割



5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

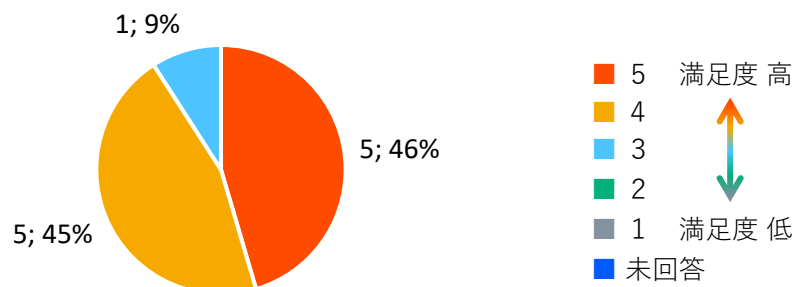


6) 受講プログラム



2. 本講座を受講しての所感等について

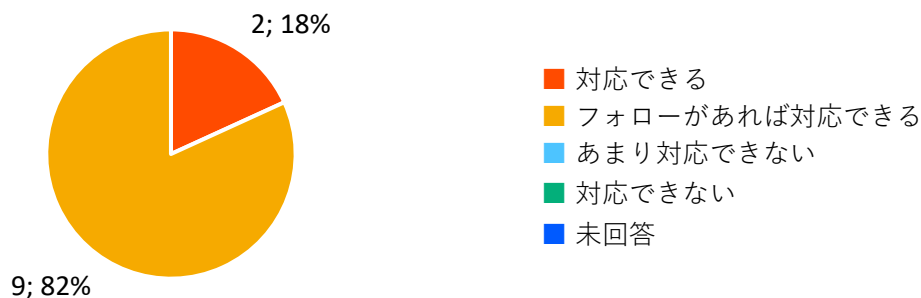
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；モニタリングの概要を理解できた。
- ・ 満足度5；役立つ内容だった。

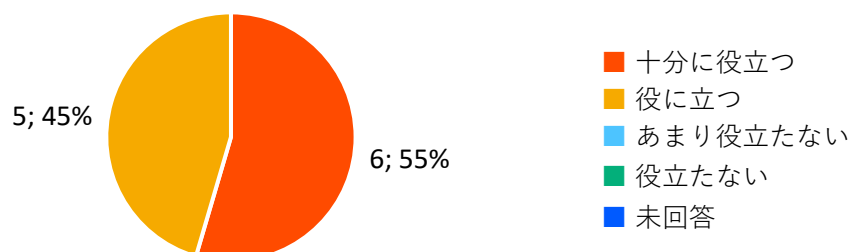
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ フォローがあれば対応できる；フォローしてもらいながら何とか進められそう。

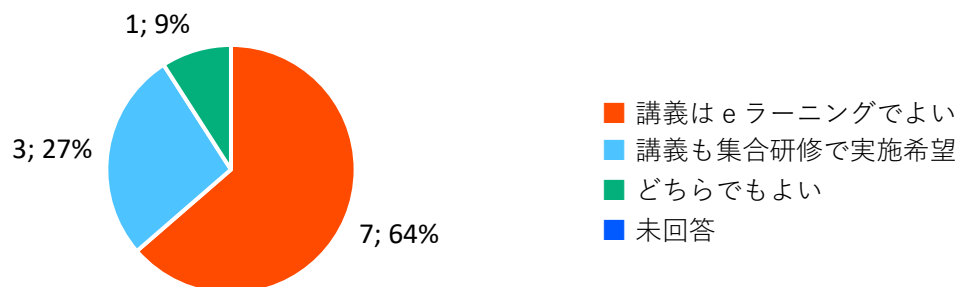
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ 役に立つ；知識を身につけ整理することができた。

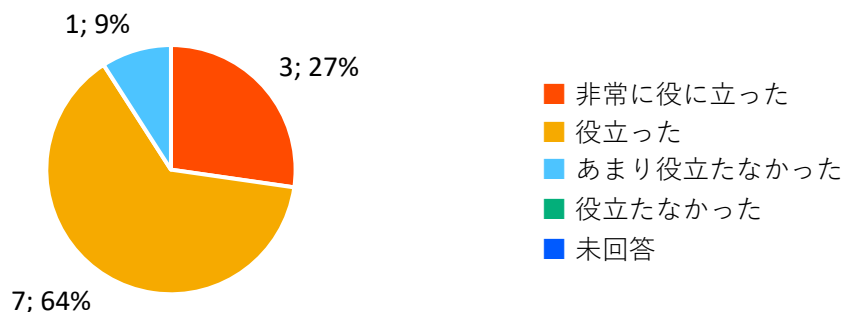
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ 講義はeラーニングでよい；効率的
- ・ 講義はeラーニングでよい；自分の都合の良い時間に受講できるので。
- ・ 講義はeラーニングでよい；合理的である。集合型は実習よりがよい。

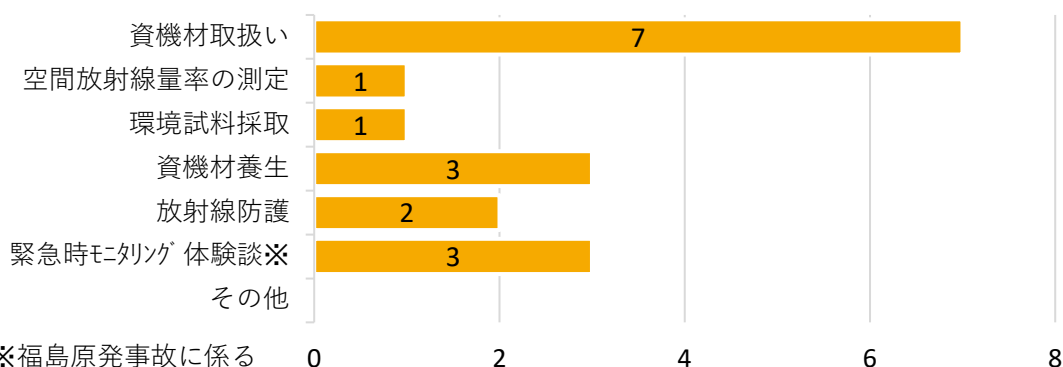
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ 非常に役に立った；分からなかったところは繰り返し見られるので。
- ・ 役立った；用語説明や重要ポイントの理解が実習の前提だから。

6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください（複数回答可）。

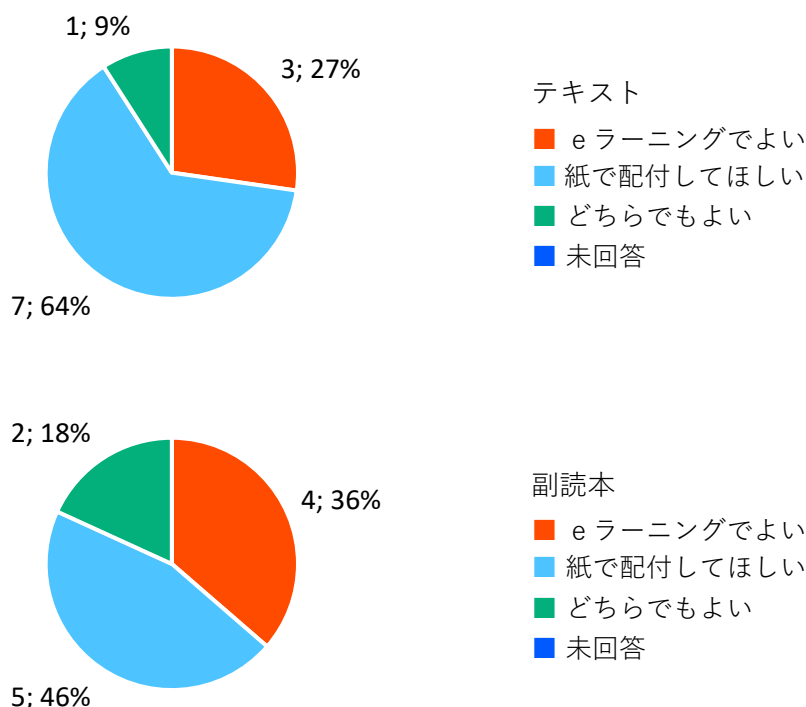


その他の意見

- ・ なし

7) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。

※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。

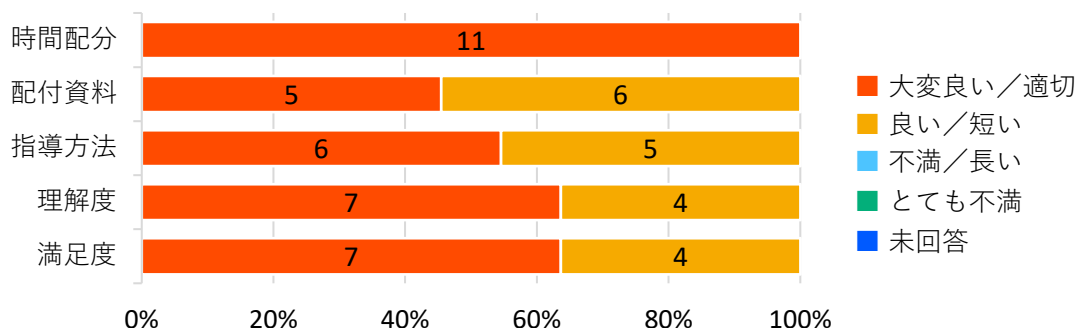


自由記述

- ・ [テキスト] eラーニングでよい/[副読本] eラーニングでよい；紙であると紛失した際に確認ができなくなるが、データであれば複数端末に保存することができるため。
- ・ [テキスト] eラーニングでよい/[副読本] eラーニングでよい；紙は極力少ない方がよい。
- ・ [テキスト] 紙で配付してほしい/[副読本] eラーニングでよい；紙のほうが見やすい。
- ・ [テキスト] 紙で配付してほしい/[副読本] 紙で配付してほしい；職場の他職員と共有しやすい、確認しやすいから。
- ・ [テキスト] 紙で配付してほしい/[副読本] 紙で配付してほしい；他の職員にも確認するため。

3. 各プログラムの評価について

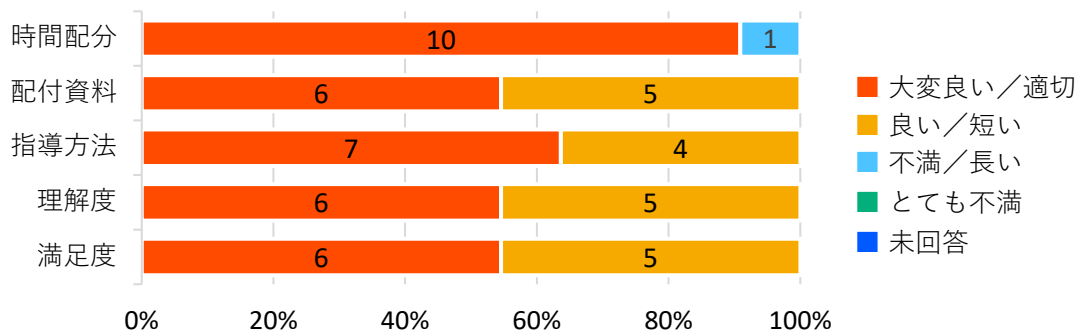
1) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ なし

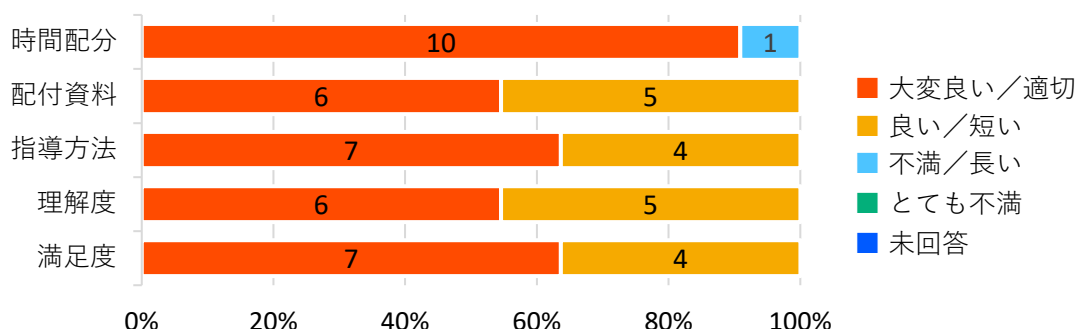
2) 実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ 実習と座学の配分がちょうどよかった。

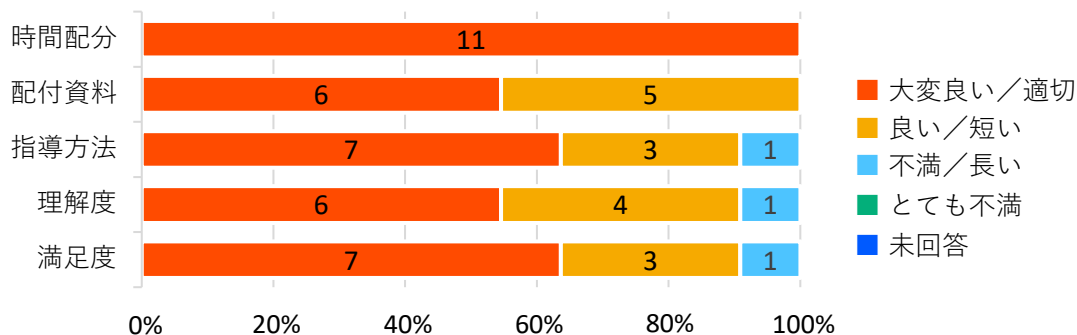
3) 実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 実習と座学の配分がちょうどよかった。

4) 実習4 環境試料の採取

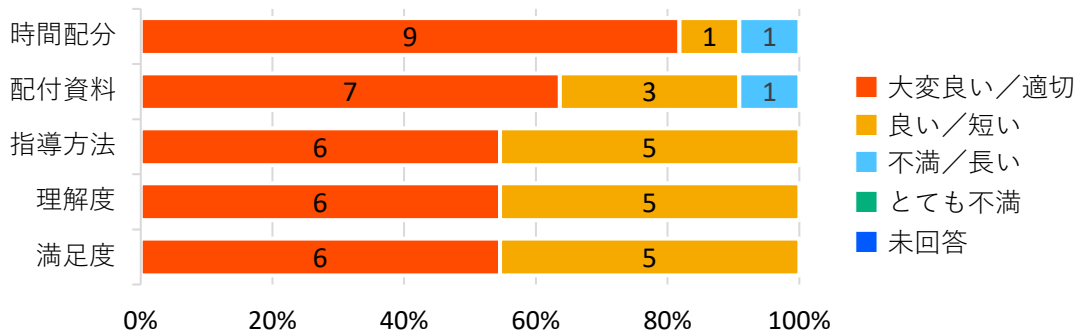


0% 20% 40% 60% 80% 100%

自由記述

- ・もう少し時間をかけて説明してほしい。
- ・実習と座学の配分がちょうどよかった。

5) 演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・演習なので、指導方法を評価するのは難しいです。
- ・実習と座学の配分がちょうどよかった。

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・丁寧に教えていただきありがとうございました。
- ・手袋の着脱の説明は試料採取の実習の前にすると効果的だと思う。
- ・実習を経験することで、足りないことや準備の大切さがわかりました。
- ・昨年度も参加させていただいて理解が大変深まりました。
- ・紙でいただいた資料や資機材の取り扱い方法については、可能であればデータ等でも提供いただけると嬉しいです。
- ・講義→実習の組立てがよくできていると思います。

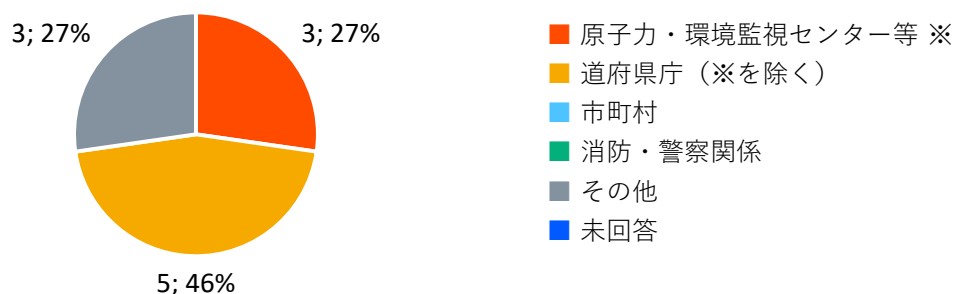
道府県R 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 11 名

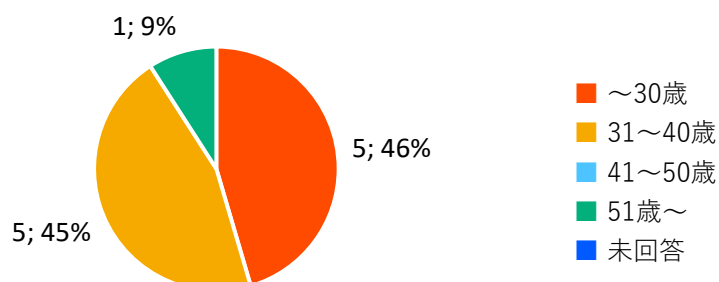
受講者数 : 11 名

1. 受講者自身について

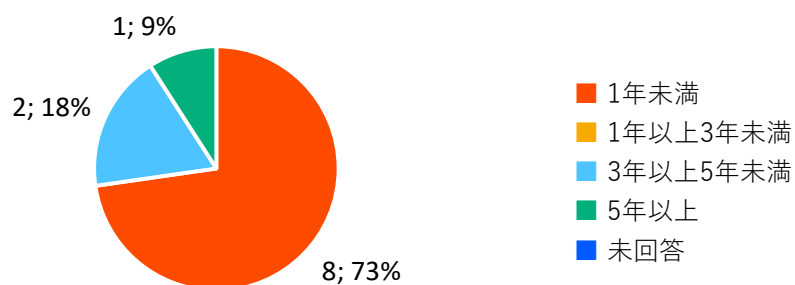
1) 所属



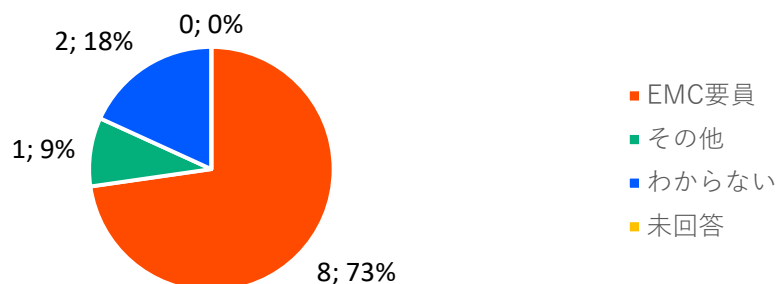
2) 年齢



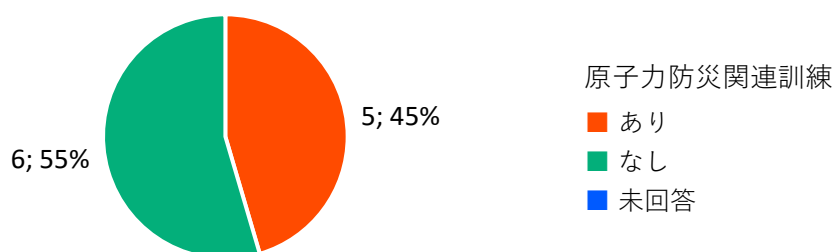
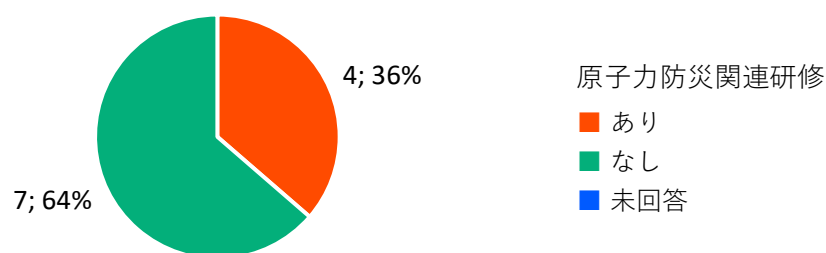
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



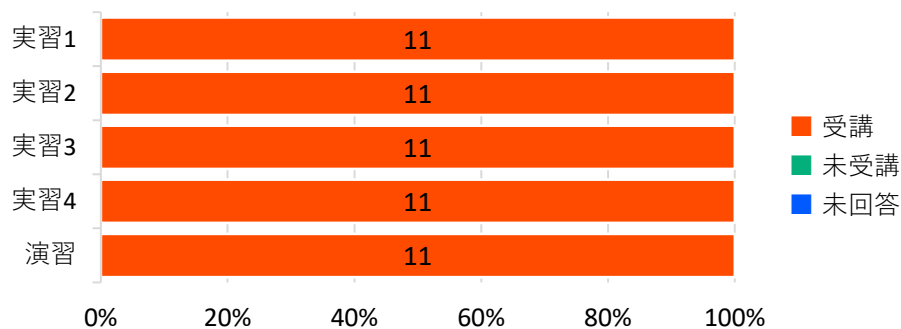
4) 原子力災害発生時の役割



5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

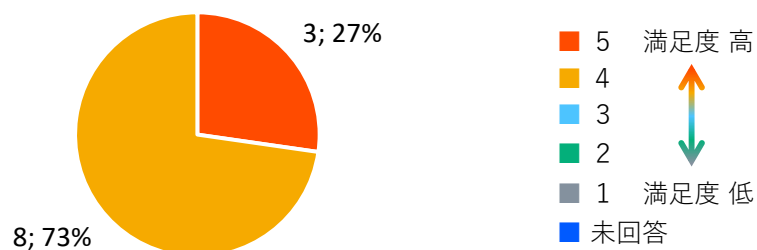


6) 受講プログラム



2. 本講座を受講しての所感等について

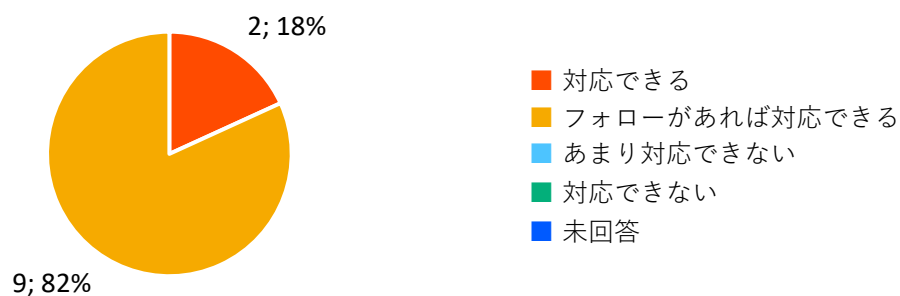
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度4；実際に手を動かし、体験できたこと。
- ・ 満足度4；非常に身になる講座だった。
- ・ 満足度4；何回か本講座を受けているが、参加の度に色々と発見・気づきがあった。

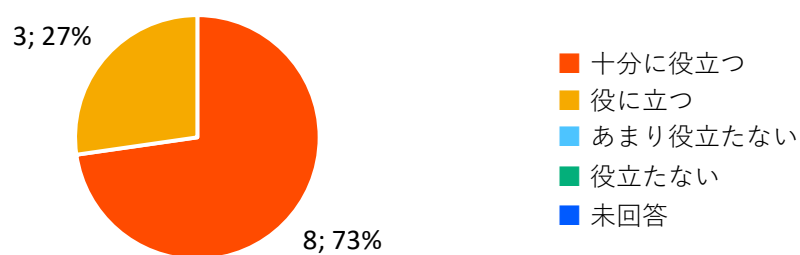
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ フォローがあれば対応できる；経験を積むことが必要

3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。

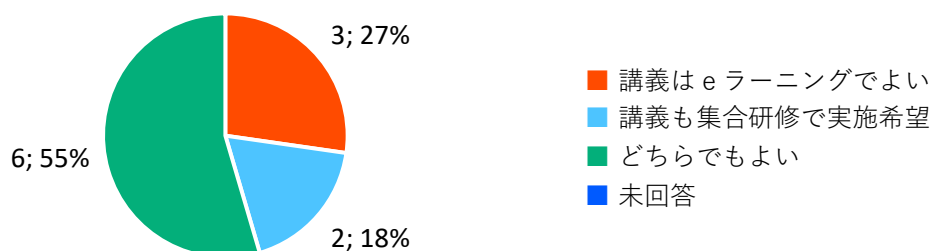


自由記述

- ・ なし

4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。

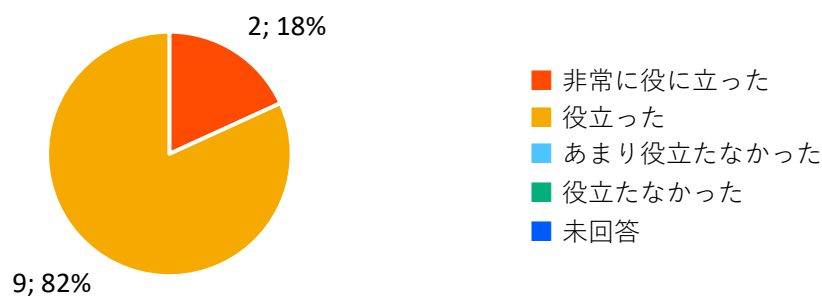
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ 講義も集合研修で実施してほしい；まとまった時間を取りやすい。
- ・ 講義も集合研修で実施してほしい；eラーニング受講の時間がなかなか取れない。

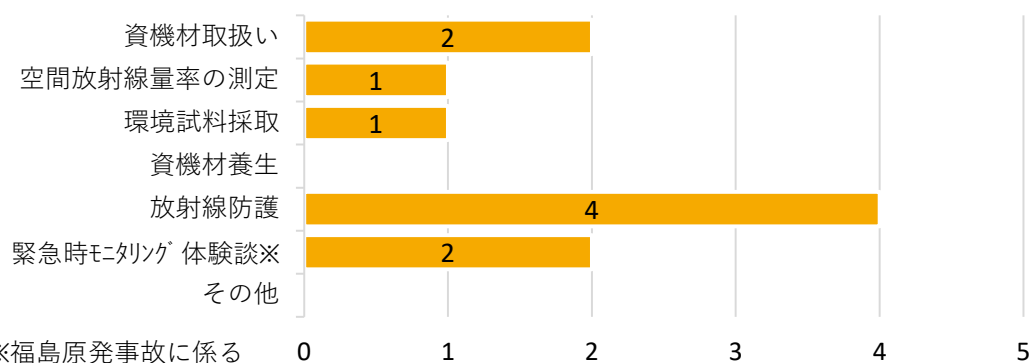
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ なし

6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください（複数回答可）。

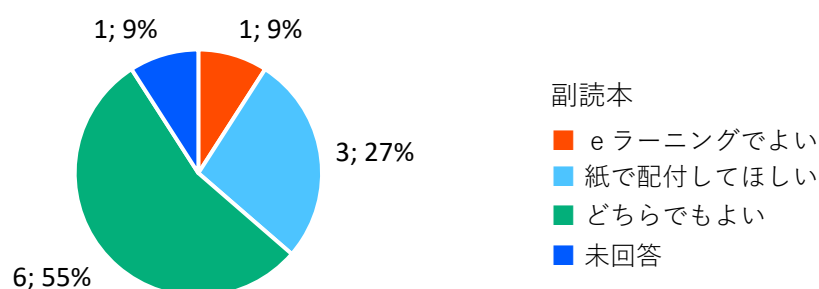
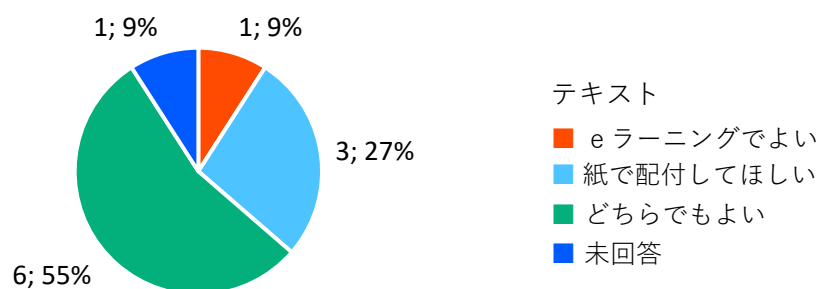


その他の意見

- ・ なし

7) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。

※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。

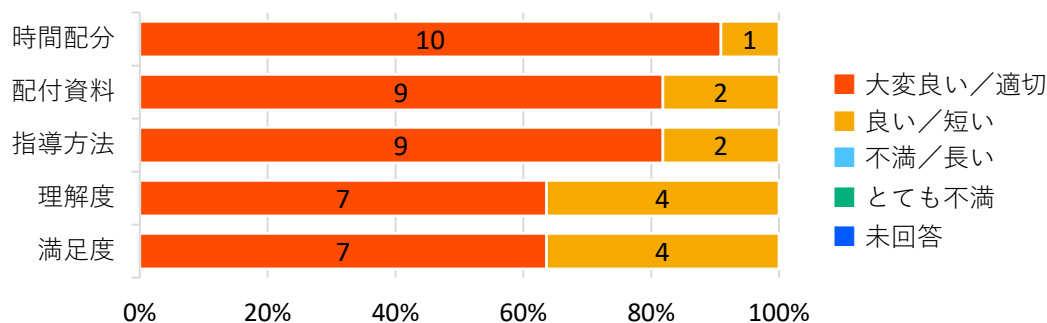


自由記述

- ・ [テキスト]紙で配付してほしい/[副読本]紙で配付してほしい；書込みができる。

3. 各プログラムの評価について

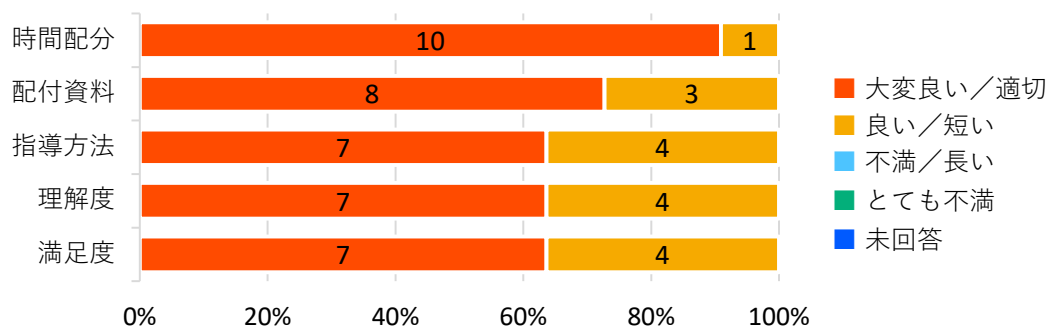
1) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

・ なし

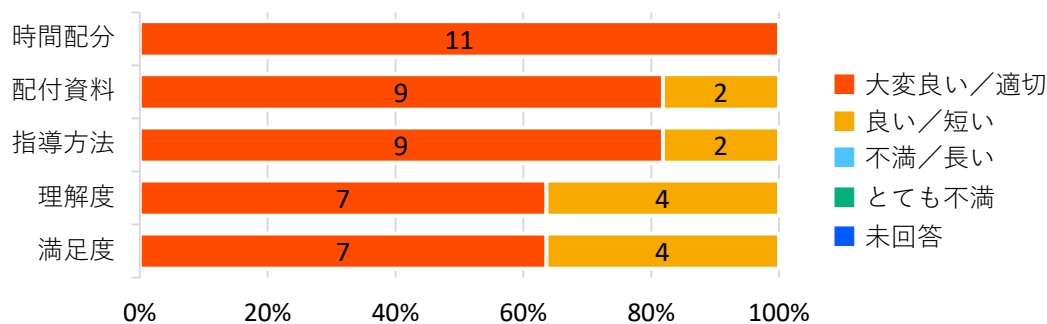
2) 実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

・ なし

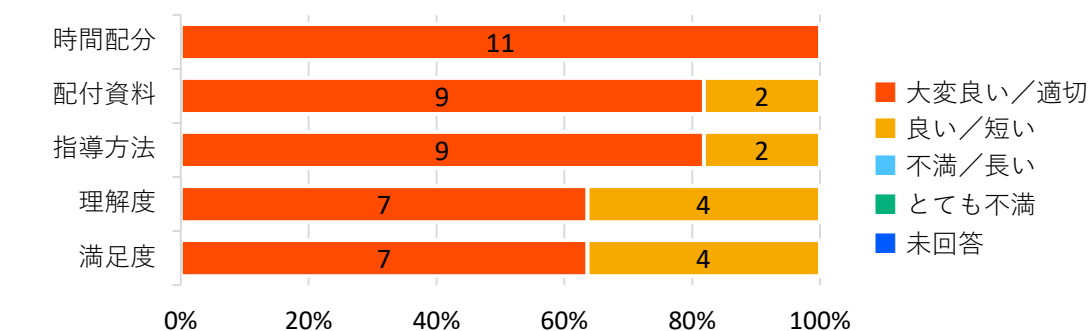
3) 実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

・ なし

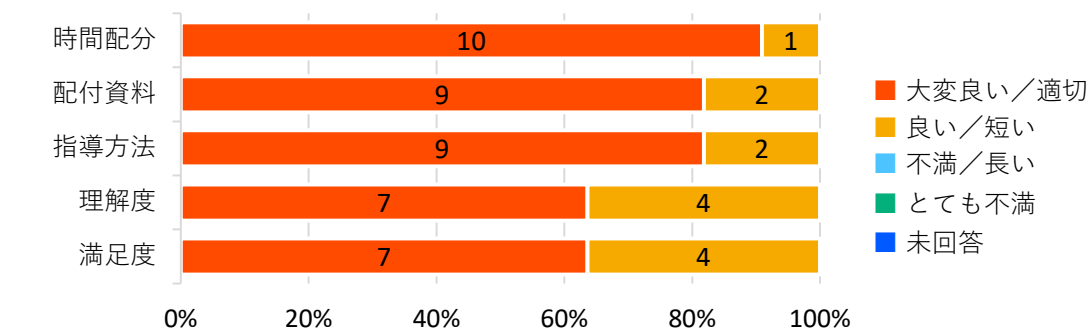
4) 実習4 環境試料の採取



自由記述

・ なし

5) 演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

・ なし

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ 機材や道具を見ること自体が初めてだったので、それぞれ何の役割か、何のための者かの説明をもう少しスピードを落として説明いただけたらありがたかった。

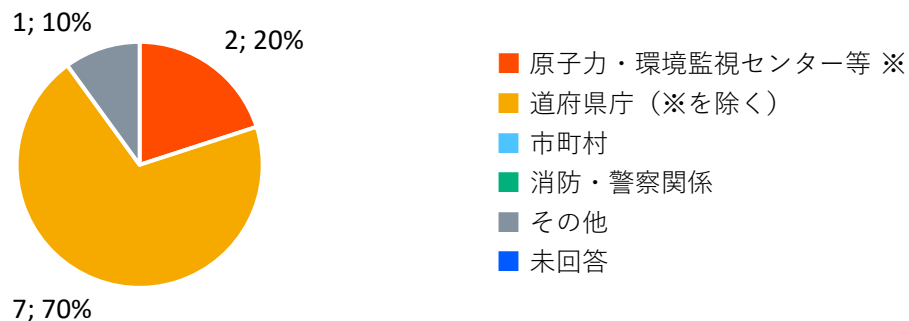
道府県S 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 10 名

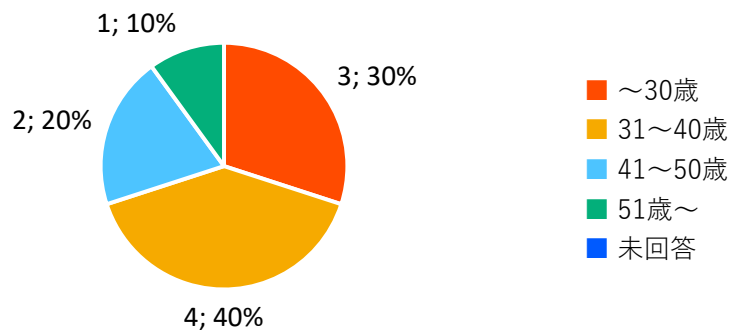
受講者数 : 11 名

1. 受講者自身について

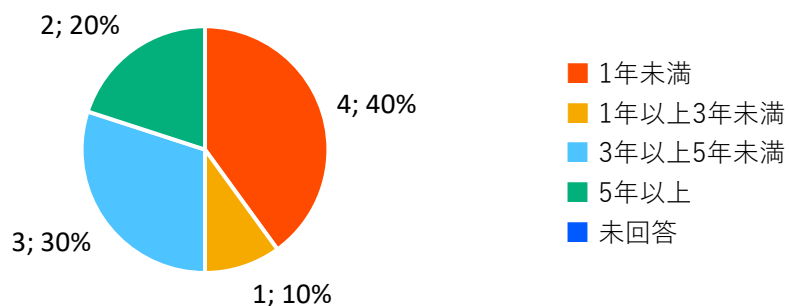
1) 所属



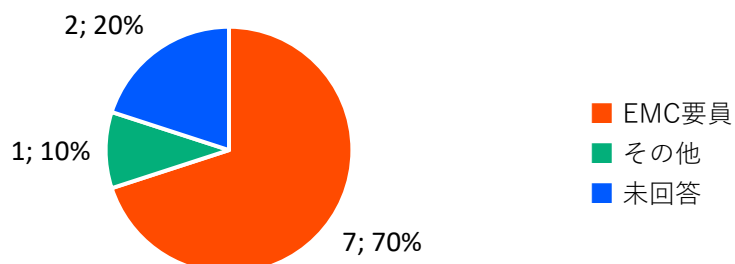
2) 年齢



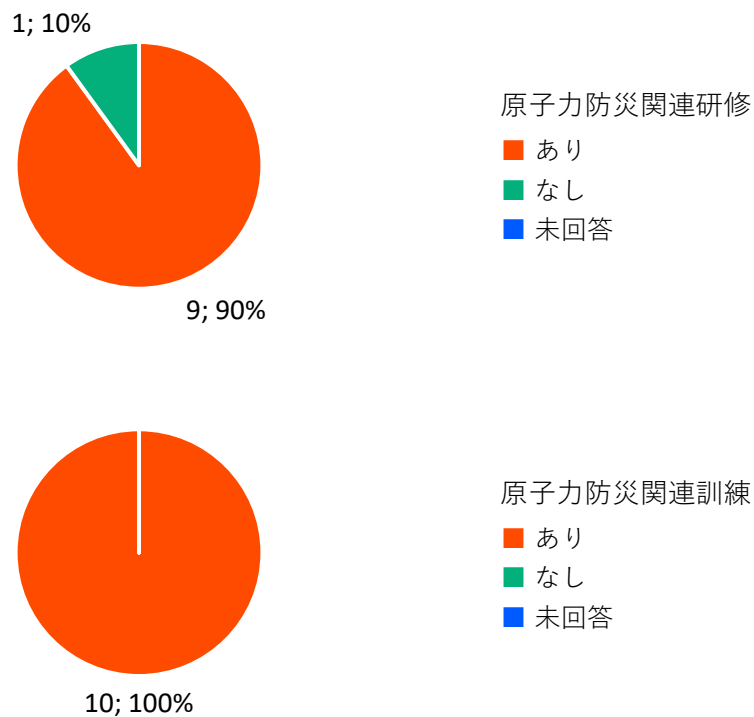
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



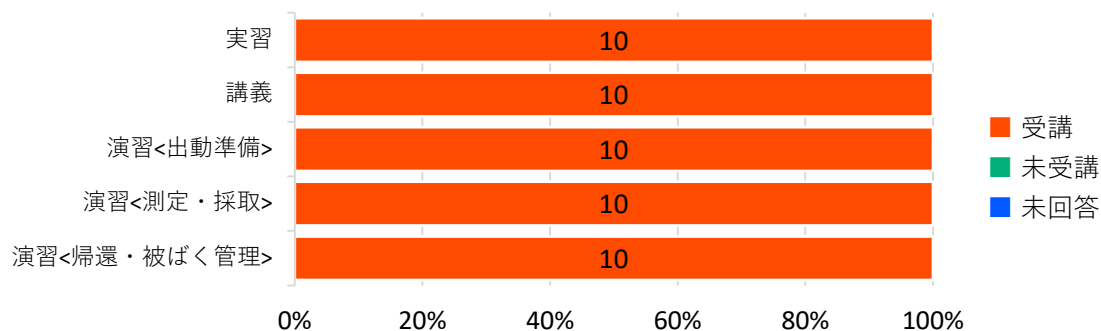
4) 原子力災害発生時の役割



5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

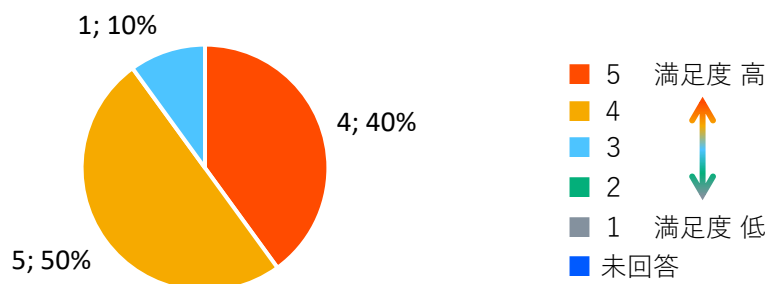


6) 受講プログラム



2. 本講座を受講しての所感等について

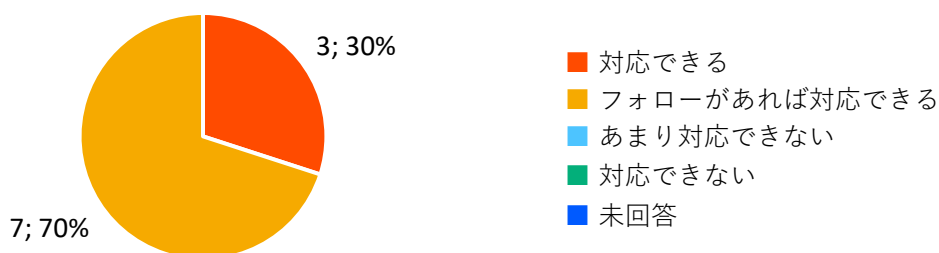
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；実習形式でわかりやすかった。
- ・ 満足度5；走行サーベイと可搬型モニタリングポストを実際に操作できてよかった。
- ・ 満足度4；緊急時モニタリングについて概要が理解できた。
- ・ 満足度4；機器の取扱いには慣れたが、不具合には対応できないと思った。

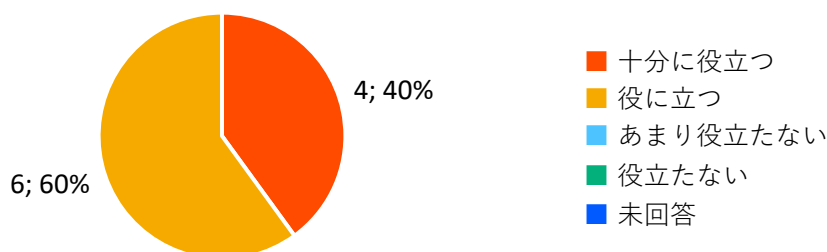
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ 対応できる；測定や放射線管理上の重要な点を把握できたため。
- ・ フォローがあれば対応できる；もう少し訓練が必要（頭では理解できても、実際の行動は別）。
- ・ フォローがあれば対応できる；未経験な部分が多いため。
- ・ フォローがあれば対応できる；何となく不安。
- ・ フォローがあれば対応できる；完璧ではないが、ある程度は対応できると思う。

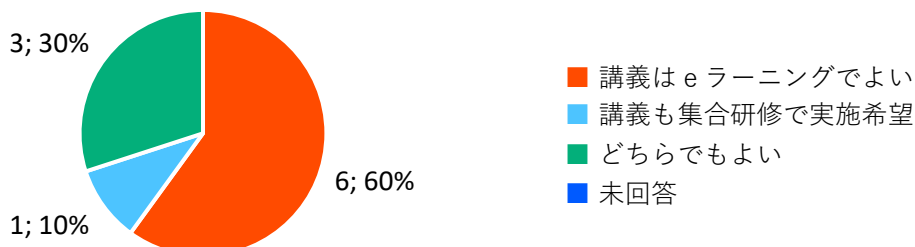
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ 十分に役に立つ；実動のイメージが掴めた。
- ・ 役に立つ；有事の際に役に立つと思う。

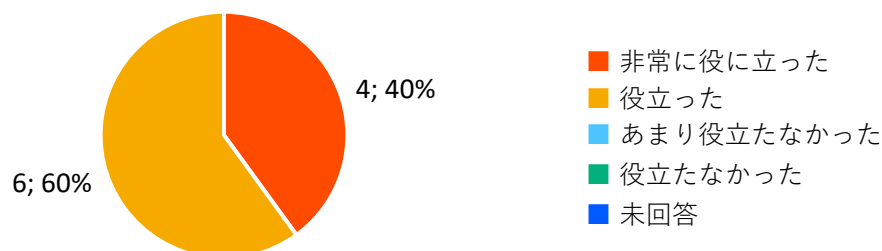
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ 講義はeラーニングでよい；自分で都合の良い時間でできる。
- ・ 講義はeラーニングでよい；隙間時間で受講でき、繰り返し視聴もできるため。
- ・ 講義はeラーニングでよい；自分のタイミングで受講できるから。
- ・ 講義はeラーニングでよい；自分の都合で受講できるので。

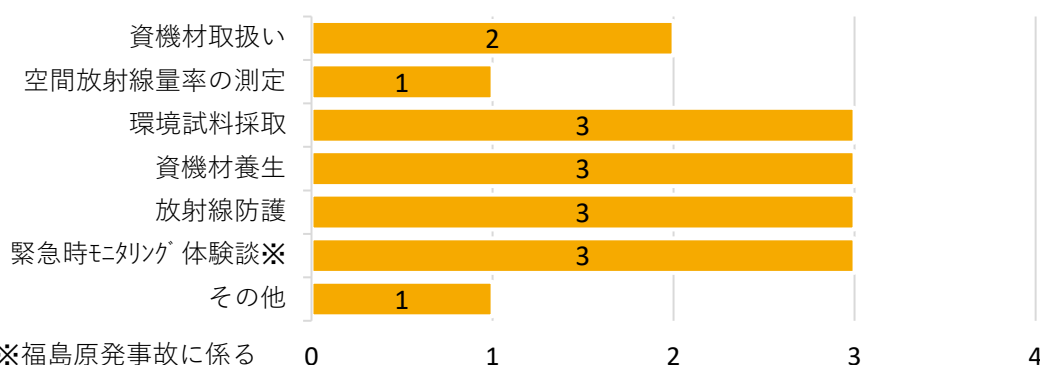
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ 非常に役に立った；基礎的なことを理解した上で臨めたから。
- ・ 役立った；eラーニングに本日の基礎的講座を含めることで理解が深まった。
- ・ 役立った；専門用語を理解することができ、実習で役に立った。
- ・ 役立った；eラーニングで見た内容が実際にできてよかった。
- ・ 役立った；詳細な内容までは覚えていないが、導入としては良かったと思う。

6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください（複数回答可）。

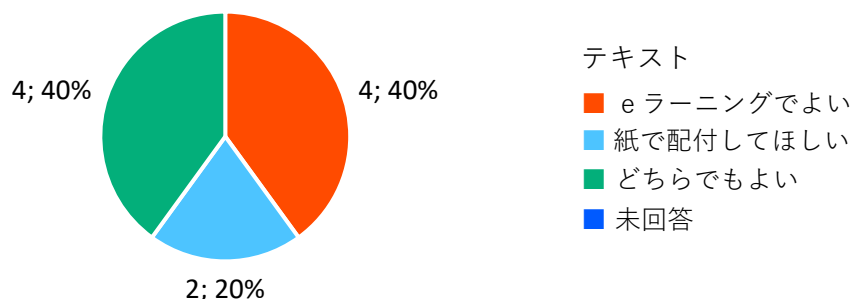


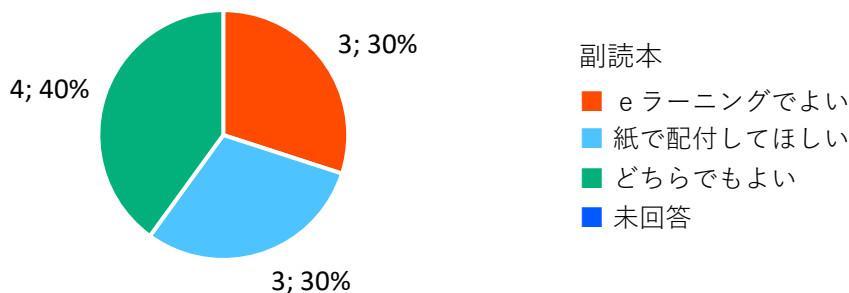
その他の意見

- ・ わからない

7) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。

※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。



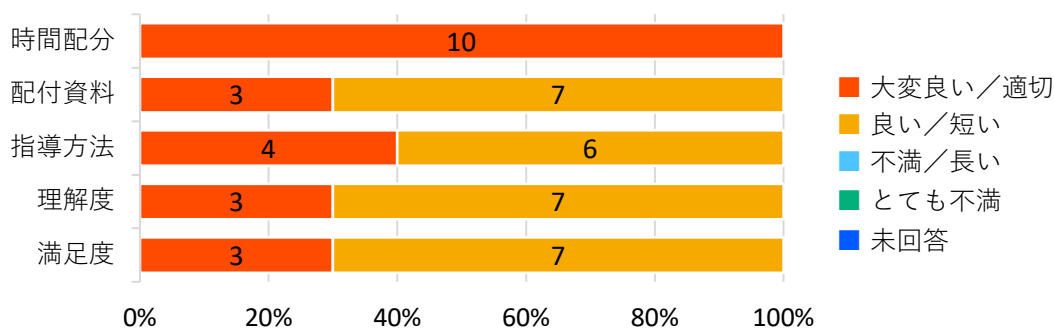


自由記述

- ・ [テキスト] eラーニングでよい/[副読本]紙で配付してほしい；副読本については手引きのような使い方ができるため、何かのときすぐ使える状態がよい。
- ・ [テキスト]紙で配付してほしい/[副読本]紙で配付してほしい；見返すときに必要だから。
- ・ [テキスト]紙で配付してほしい/[副読本]紙で配付してほしい；紙の方が見やすい。
- ・ [テキスト]どちらでもよい/[副読本]どちらでもよい；PC持ち込み可であれば、eラーニングでよいと思う。

3. 各プログラムの評価について

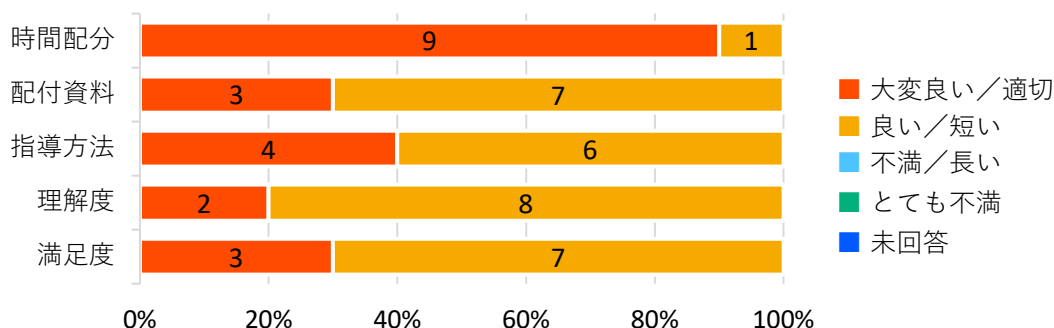
1) 実習 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ なし

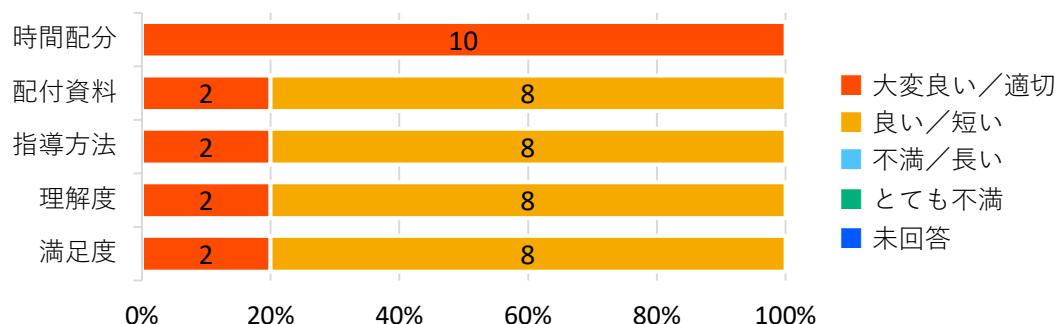
2) 講義 環境試料（飲料水・土壌）の採取



自由記述

- ・ 初めて受講できたが、良く理解できた。
- ・ 実際にやってみて、何となくつかむことができたため。
- ・ 汚染させないように気を付けようと思った。
- ・ 動画は分かりやすくよかった。
- ・ 土壌サンプリングも動画がよかった。

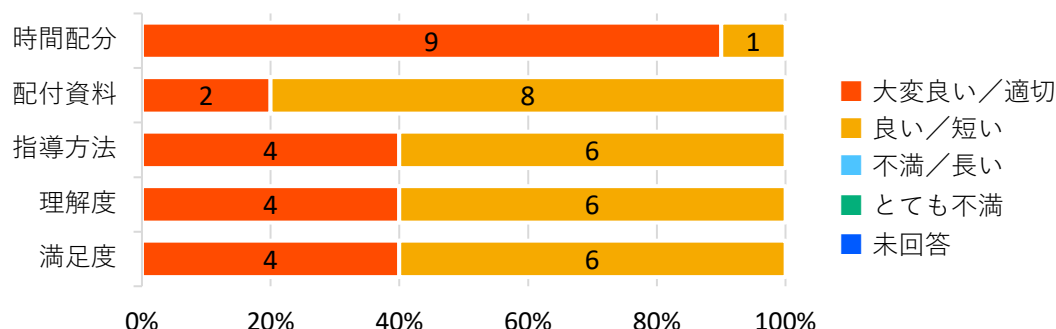
3) 演習 緊急時モニタリング活動＜出動準備＞



自由記述

- ・ 初めて受講できたが、良く理解できた。
- ・ チェックリストがあってわかりやすかった。
- ・ 実動をイメージして準備にフィードバックできるようになると、なおよいと思う。
- ・ 分かりやすかった。
- ・ 除染も実習でイメージしやすかった。

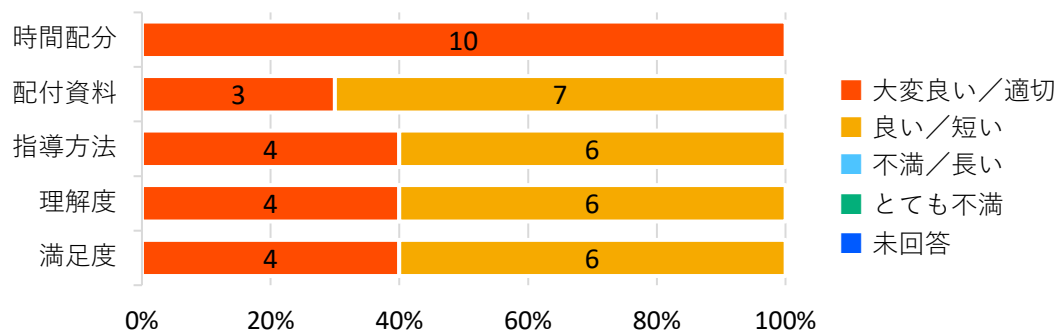
4) 演習 緊急時モニタリング活動＜測定・採取＞



自由記述

- ・ 初めて受講できたが、良く理解できた。
- ・ 測定・採取の流れを何となくつかむことができた。
- ・ ダストモニタ、ヨウ素サンプラの構造をもっとしっかり把握したかった。
- ・ 試料採取のイメージが掴めた。
- ・ 実際に演習をしてみて、細かい点に気づけた。
- ・ 土壌サンプリングの際の汚染防止が難しかった。

5) 演習 緊急時モニタリング活動＜帰還・被ばく管理＞



自由記述

- ・ 初めて受講できたが、良く理解できた。
- ・ 被ばく管理ができていた。
- ・ 脱装が重要であることを、もう少し強調してもよいかなと思う。
- ・ 分かりやすかった。

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ 本日の講座を受講する前にeラーニングを受講したため、よく理解できたと思う。
- ・ 講義内容は良く理解できたが、実際に実習すると、体で理解できていないことが良く分かった。くり返しの訓練が必要と思う。

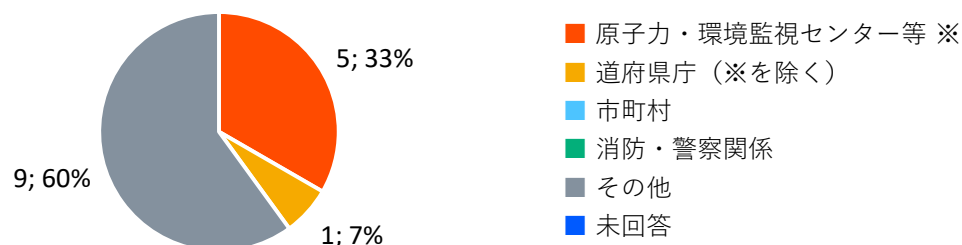
道府県T 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 15 名

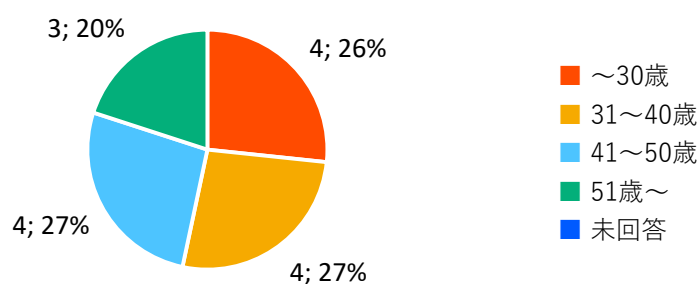
受講者数 : 15 名

1. 受講者自身について

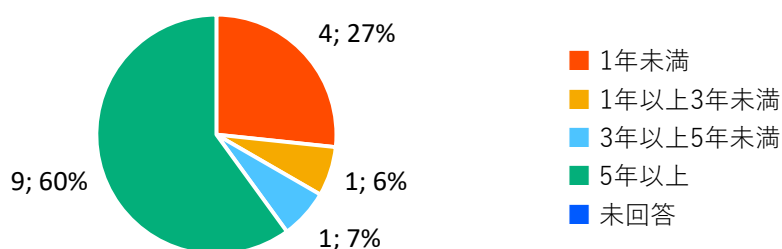
1) 所属



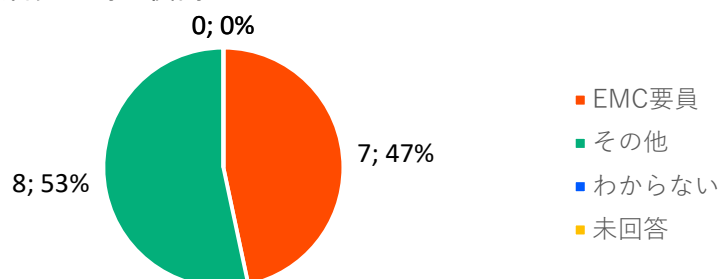
2) 年齢



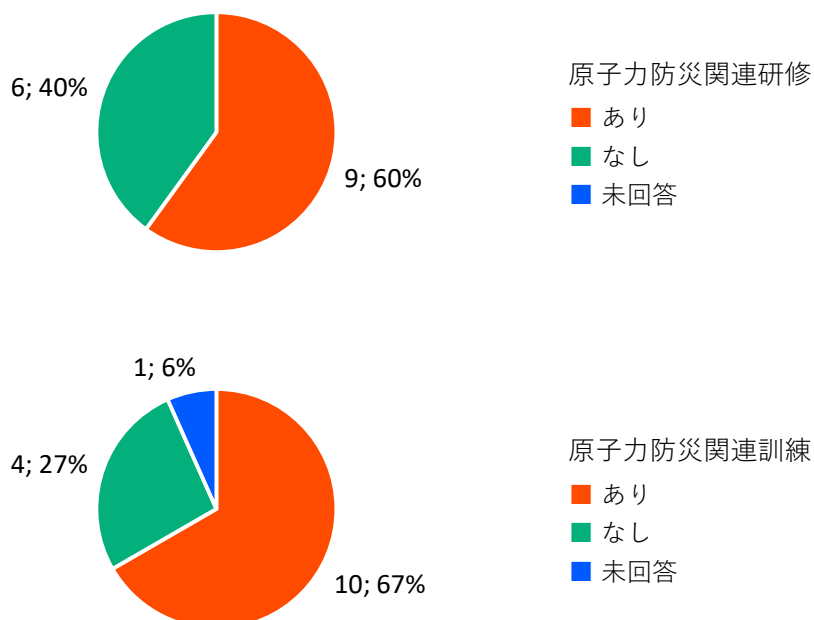
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



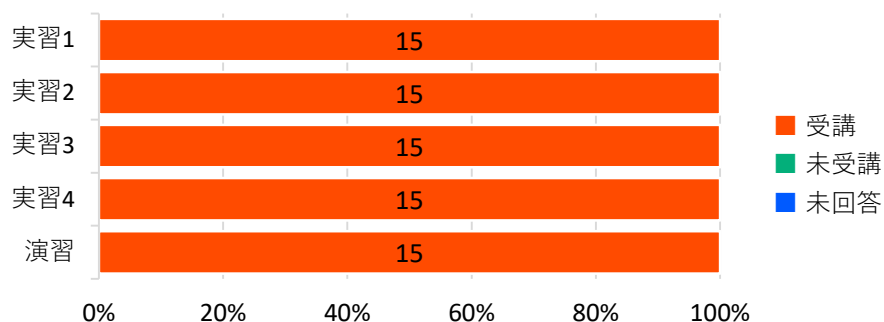
4) 原子力災害発生時の役割



5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

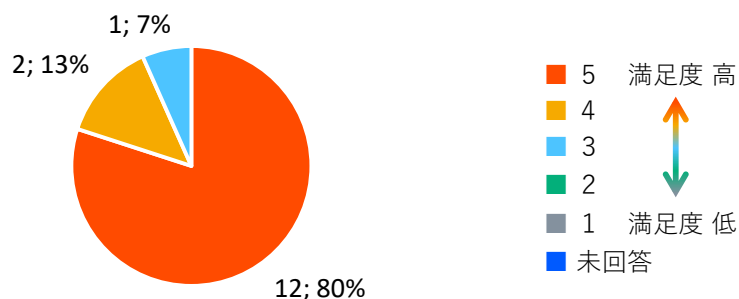


6) 受講プログラム



2. 本講座を受講しての所感等について

1) 満足度

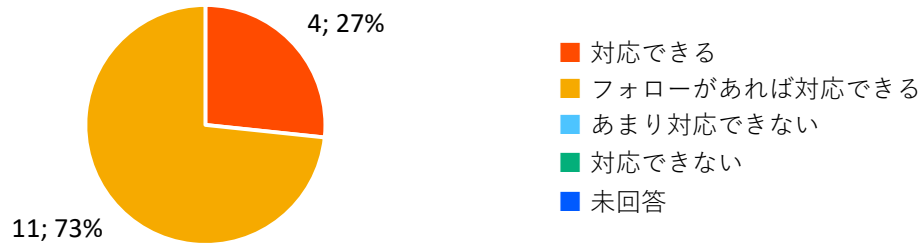


自由記述

- ・ 満足度5；放射線管理業務の経験が浅い中で、放射線に関する基礎知識から実際のモニタリング業務の流れを教えてもらったことは、今後業務に携わる上でとても良い経験となった。
- ・ 満足度5；当該業務に関する個々の理解度を増すことができた。
- ・ 満足度5；机上の講義のみではなく、実作業を体感できたため。

- ・ 満足度4；普段あまり経験することのできない緊急時モニタリング活動について学ぶことができ、大変貴重な経験をする事ができた。

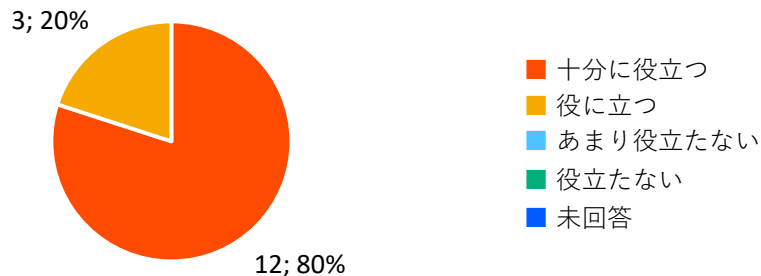
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ フォローがあれば対応できる；講師の方や班員の方に助けられて、緊急時モニタリングの流れを感じることができたが、自分だけで対応するには経験が不足していると感じる。
- ・ フォローがあれば対応できる；完全に対応できる自信はないが、複数名で行動するため、対応はできる。

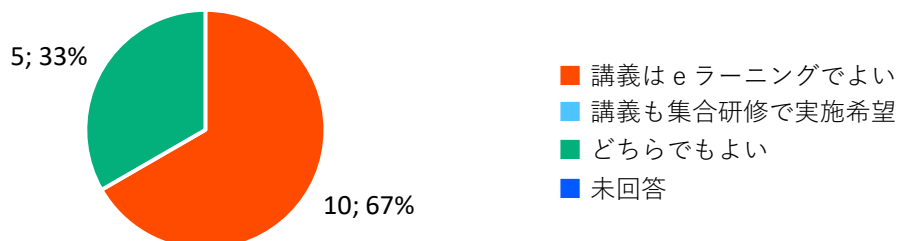
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ 十分に役に立つ；今後、組織として原子力防災を強化していく過程で、重要な情報であるため。
- ・ 十分に役に立つ；プロの方に教育いただくことで、知見やノウハウ等を吸収することができた。

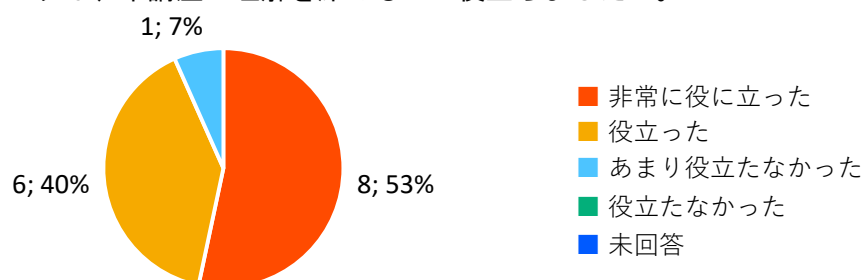
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ 講義はeラーニングでよい；ゆっくりと自分のペースで聞けるeラーニングは業務の空き時間に進められるため、ありがたかった。
- ・ 講義はeラーニングでよい；空き時間に自由に学ぶことができるため。
- ・ どちらでもよい；eラーニングで学んだことを講義で反復することがより身に付くと思われる。

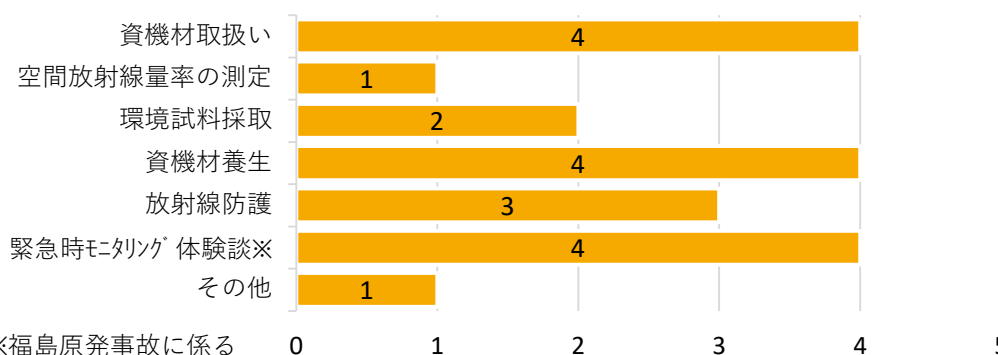
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ 非常に役に立った；防護措置の基本対応について、特に「緊急時モニタリングの流れ」の章がとても参考になった。
- ・ 非常に役に立った；反復する形となり、理解速度が増したと思う。
- ・ 役立った；内容は充実していると思うが、逆に分量が多くて、全て受講するのは難しかった。概要版のようなものがあれば受講しやすいと感じた。
- ・ 役立った；とても聞きやすく分かりやすい内容であった。
- ・ あまり役立たなかった；講座数が多く、実習と直接の関係が弱いものはいらないので。

6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください（複数回答可）。

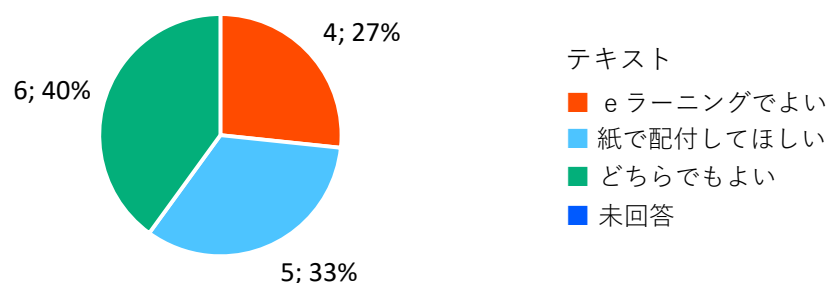


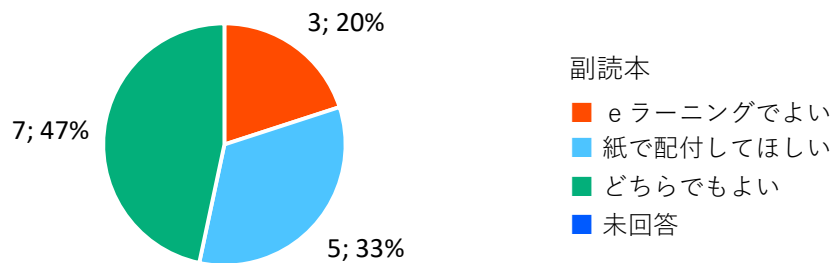
その他の意見

- ・ なし

7) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。

※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。



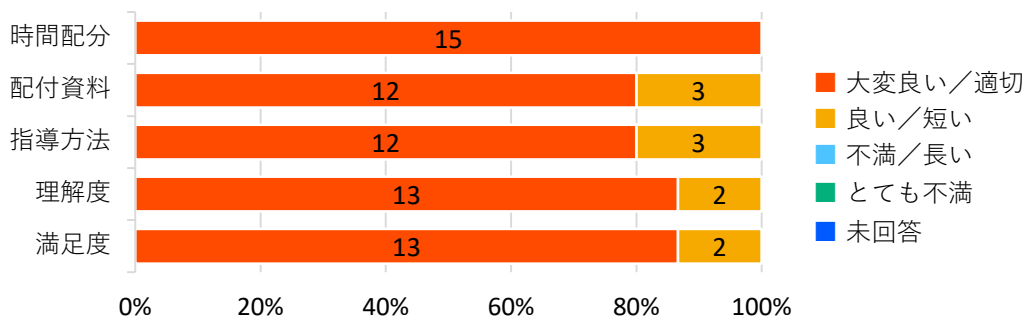


自由記述

- ・ [テキスト]どちらでもよい/[副読本]紙で配付してほしい；すぐに見れるから
- ・ [テキスト]紙で配付してほしい/[副読本]eラーニングでよい；実習テキストのように、当日に確認する頻度が高いものは、手元に紙で置いておくのが適当と思われる。
- ・ [テキスト]どちらでもよい/[副読本]どちらでもよい；今回の講座・講習がとてもわかりやすくよかった。
- ・ [テキスト]紙で配付してほしい/[副読本]紙で配付してほしい；学習・プレゼンにはeラーニングのスライドが適当だが、内容の確認のためには紙媒体が効果的だから

3. 各プログラムの評価について

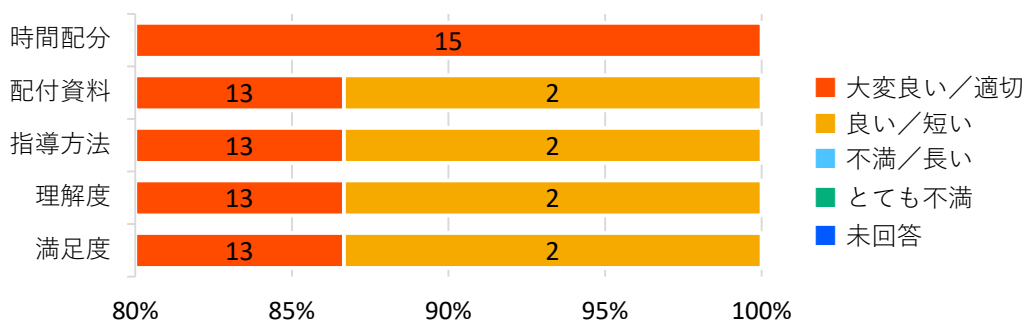
1) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ 丁寧で良かった。

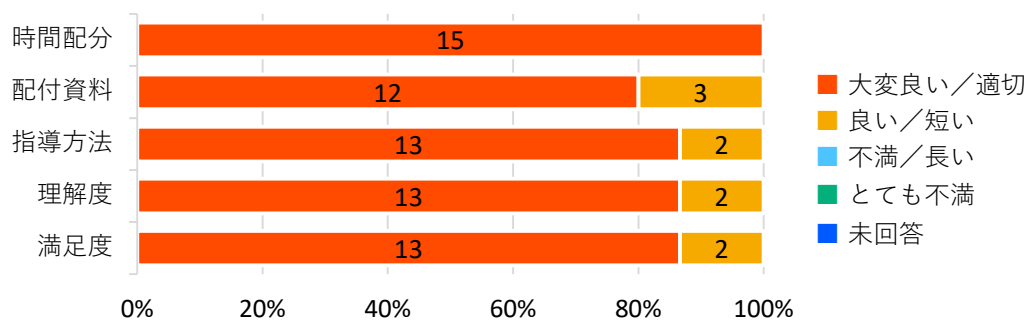
2) 実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ 電源入・切ケーブル接続について、個々に行った方がよいと思う。

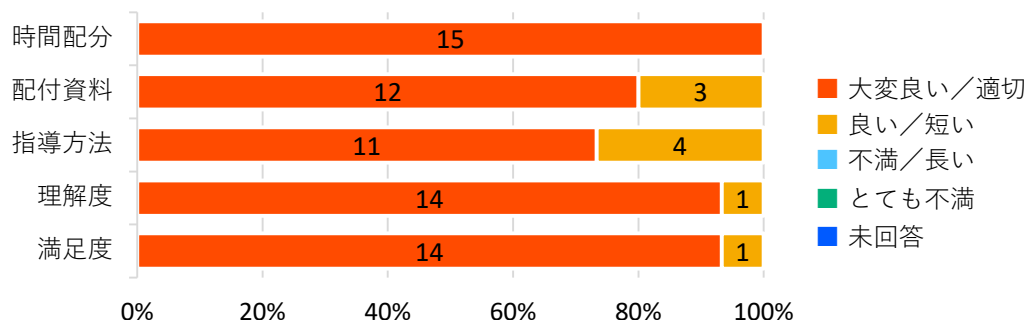
3) 実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 実習4と別の場所で行ってほしかった。

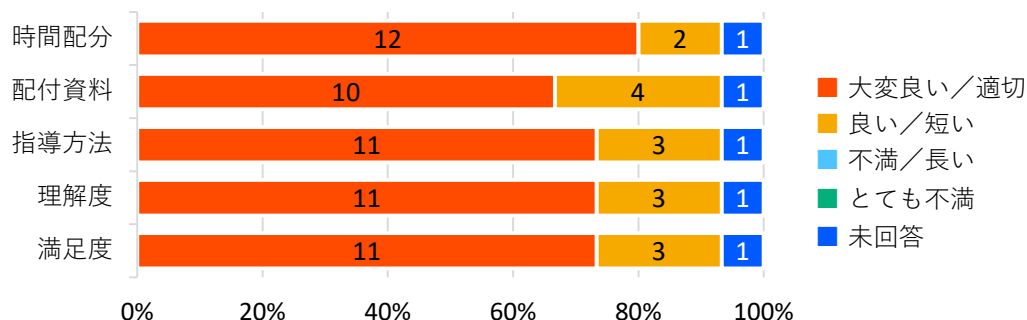
4) 実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ 土壌採取は全員が実習できた方が良い。
- ・ 実習3と別の場所で行ってほしかった。

5) 演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 慣れることと体力が大事だなと思いました。
- ・ 非常に実践的な内容であったため、実際の動きを確認するという点で勉強になった。
- ・ coldは2人いても良かった。
- ・ 役割を固定した方が理解度が高まると感じた。
- ・ テーブルがモニターとのことだったが、実際は資機材準備の場も兼ねており、最初戸惑ってしまった。

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ 開催いただき、ありがとうございます。
- ・ 緊急時モニタリングの実習を行うことがないので、大変良い経験ができました。
- ・ とても貴重な経験をさせていただきました。本当にありがとうございます。今後の自分の業務に生かしたいと思います。
- ・ 10年前の知識と違うと感じたところもあるので、最新の講習を受講することは大変良いと思われる。

- ・ 原子力防災の基本対応の教材として、eラーニングは大変良くできているので、組織内で積極的に活用していきたい（個別に登録しての受講を促したい）。

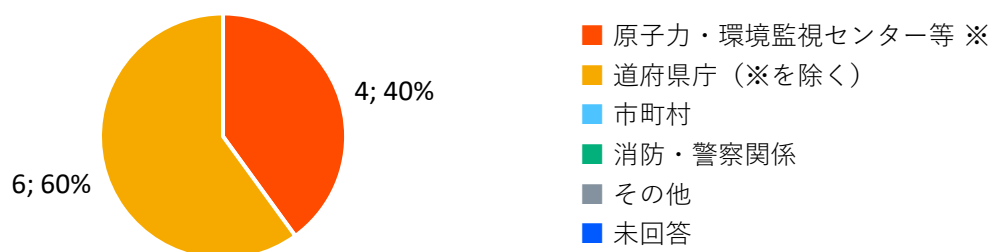
道府県V 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 10 名

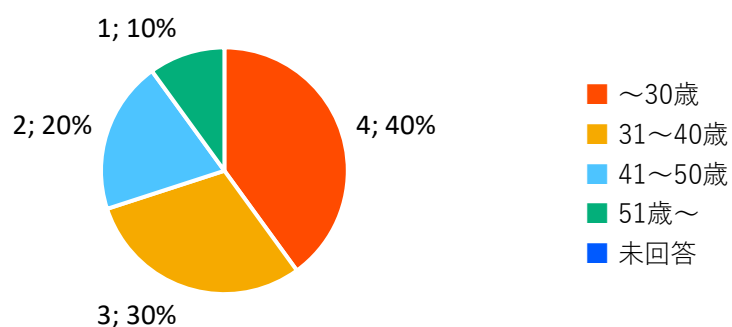
受講者数 : 11 名

1. 受講者自身について

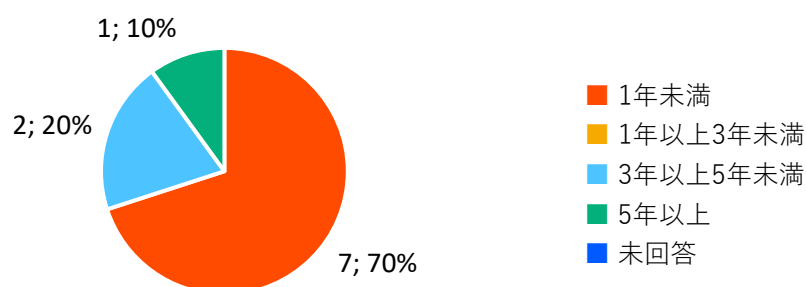
1) 所属



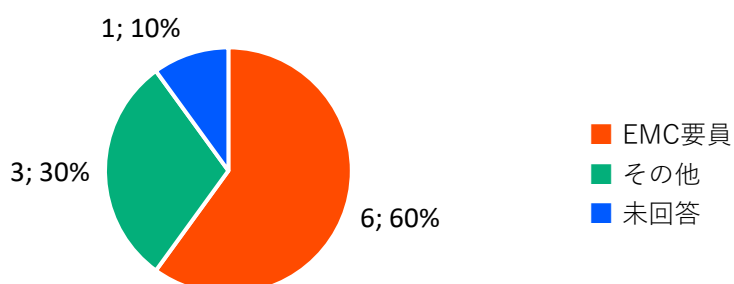
2) 年齢



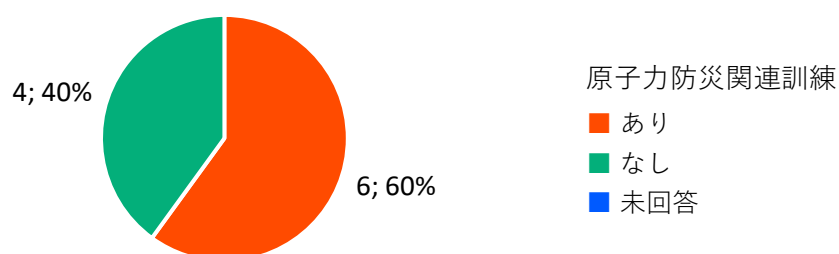
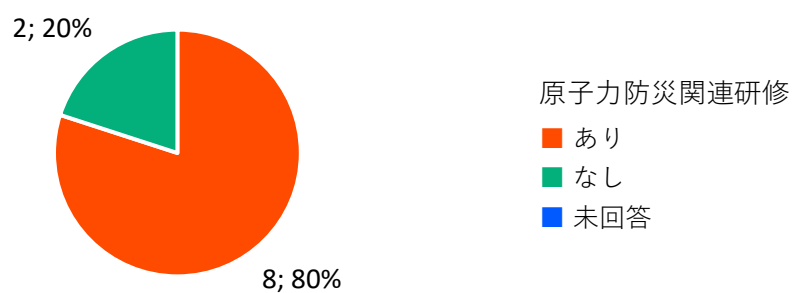
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



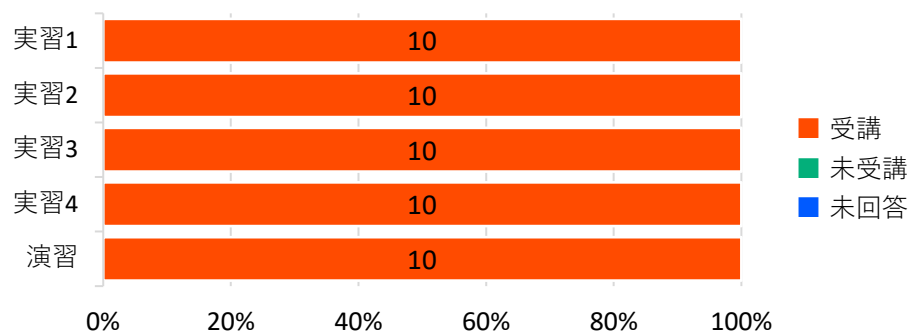
4) 原子力災害発生時の役割



5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

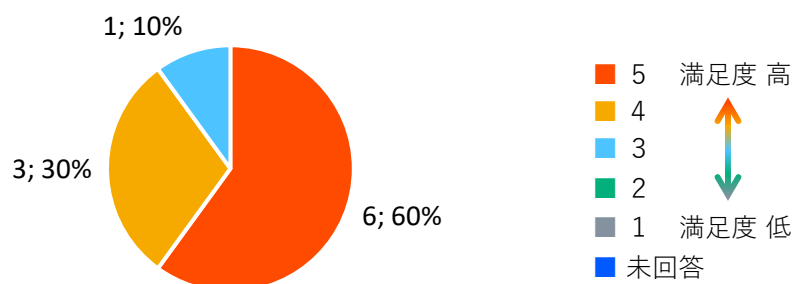


6) 受講プログラム



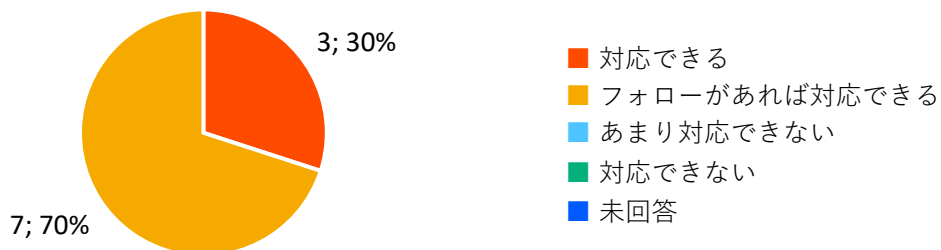
2. 本講座を受講しての所感等について

1) 満足度



自由記述
・ なし

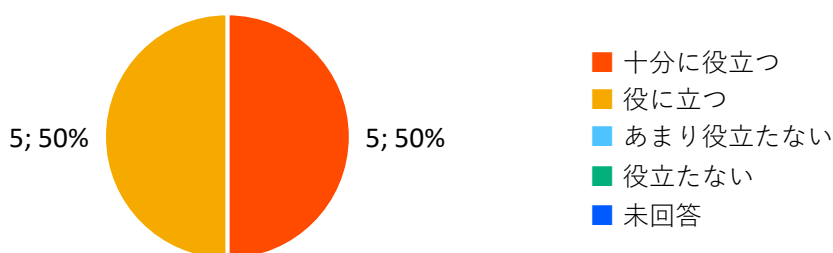
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ フォローがあれば対応できる；実際の試料採取や測定を体験できたから。

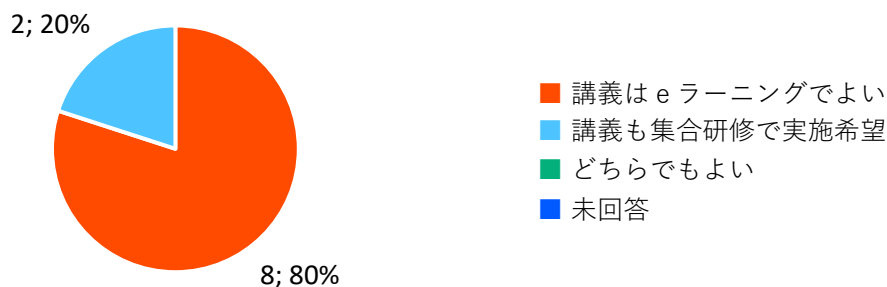
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ なし

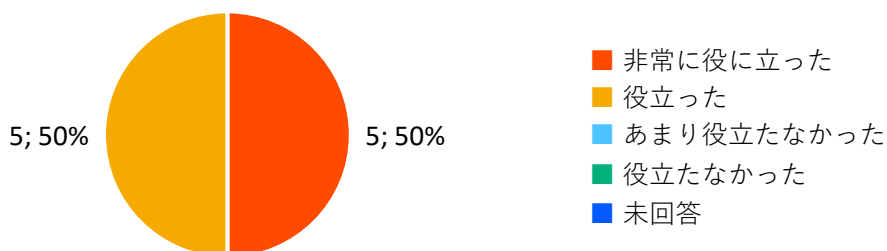
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ 講義はeラーニングでよい；見直しが容易だから。

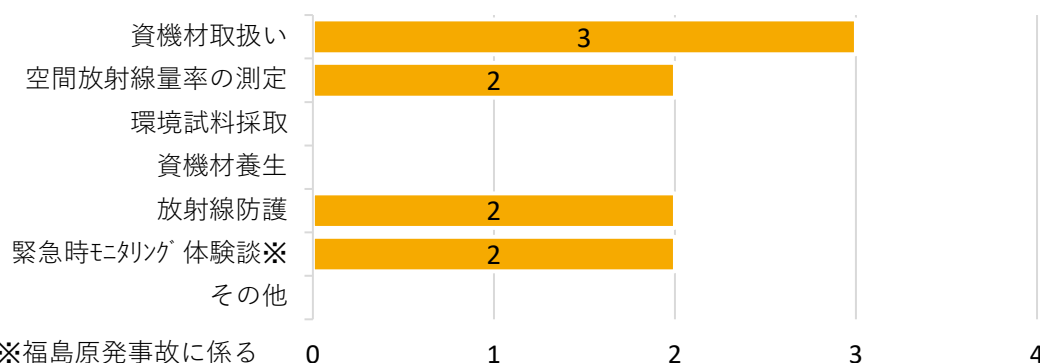
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ なし

6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください(複数回答可)。

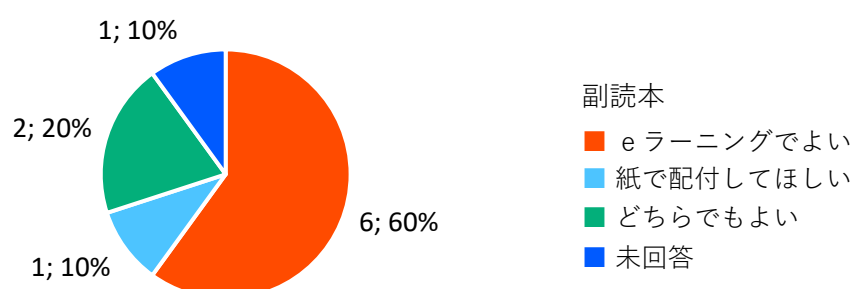
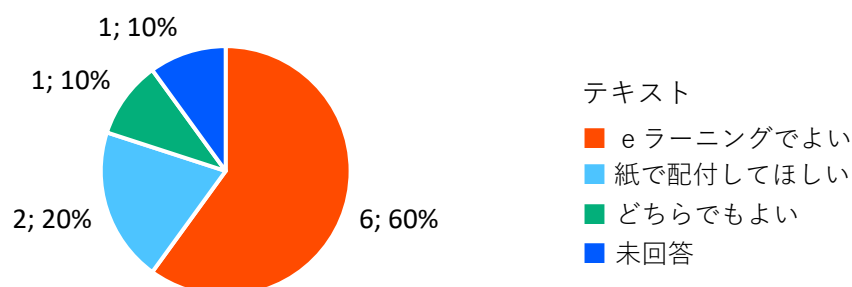


その他の意見

- ・ なし

7) DX(デジタルトランスフォーメーション)推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。

※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。

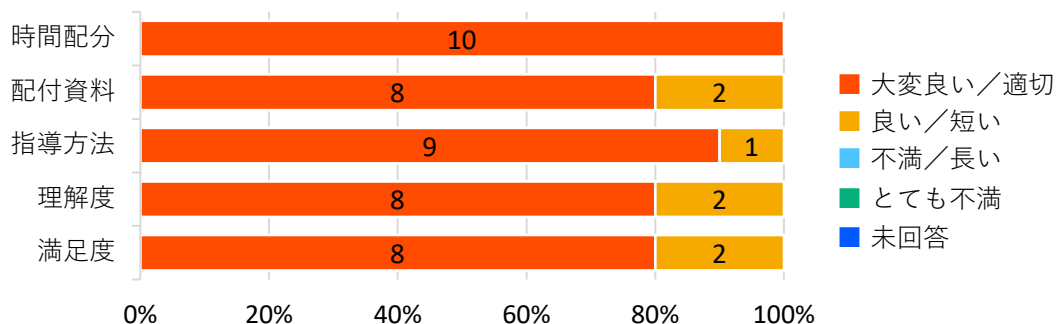


自由記述

- ・ [テキスト] eラーニングでよい/[副読本] eラーニングでよい; 実習では手元の資料をあまり見なかったから。後日確認するためなら、eラーニングで資料があれば十分。
- ・ [テキスト] 紙で配付してほしい/[副読本] どちらでもよい; 紙テキストは机で保管し手もとに置いておきたい。

3. 各プログラムの評価について

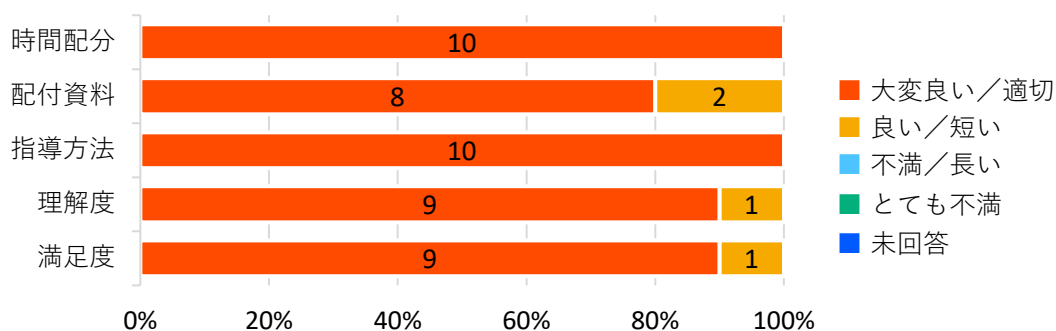
1) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

・ なし

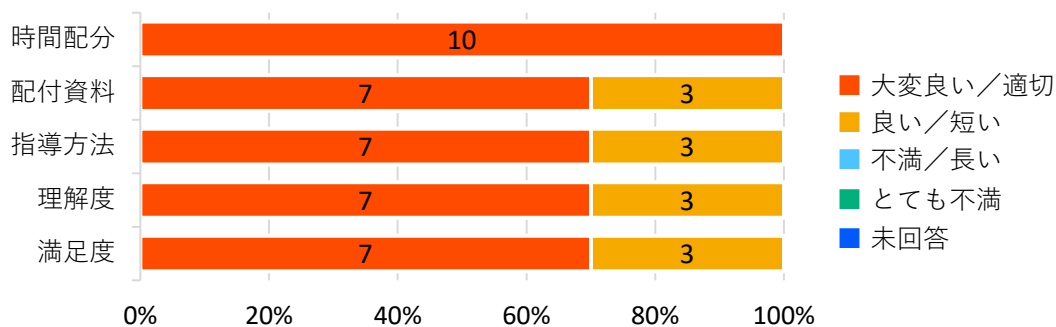
2) 実習2 空間放射線量率の測定



自由記述

・ なし

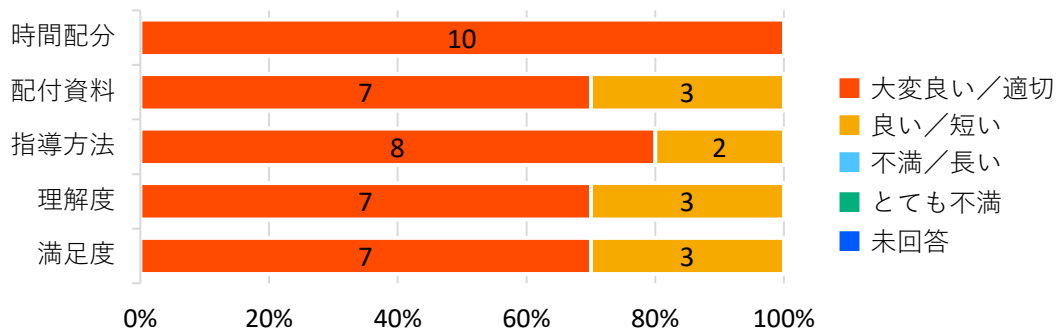
3) 実習3 環境試料の採取



自由記述

・ なし

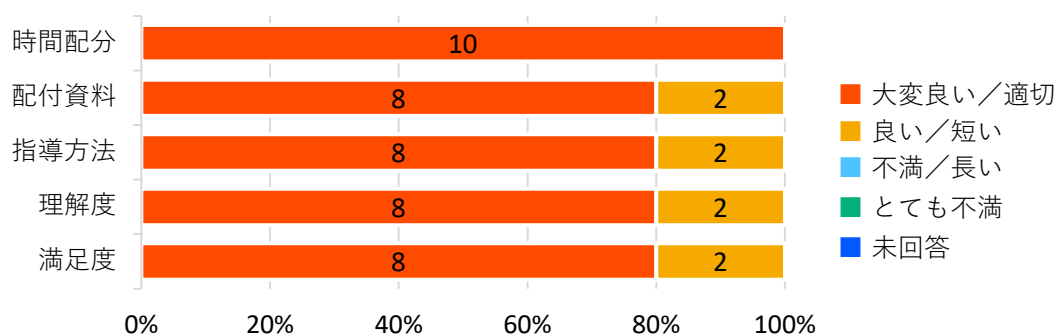
4) 実習4 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ なし

5) 演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ なし

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ 集合時間が早く、始業前に職場を出発することとなった。可能であれば、県南からの参集を考慮の上、開始時間を設定いただきたい。
- ・ 試料採取や測定が体験でき、とても良かった。
- ・ 演習を通じて準備段階から経験することができ、とても参考になりました。
- ・ 環境試料の採取方法や除染方法等について学ぶことができました。
- ・ 知らない事がたくさんありましたが、とてもいい勉強になりました。
- ・ 質疑の時間を各演習毎に設けてほしい。

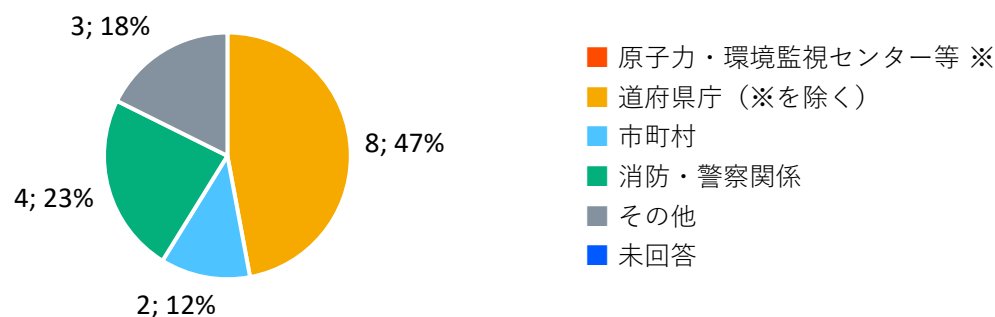
道府県W 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 17 名

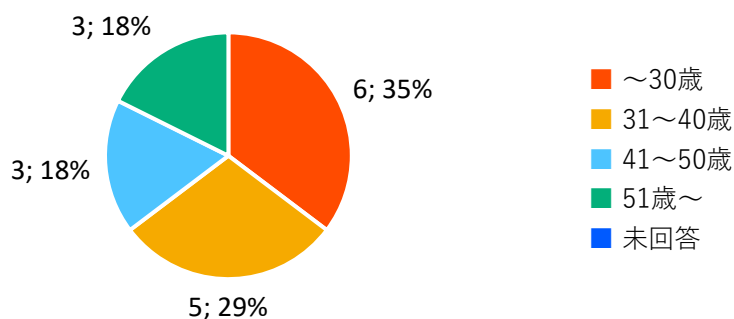
受講者数 : 17 名

1. 受講者自身について

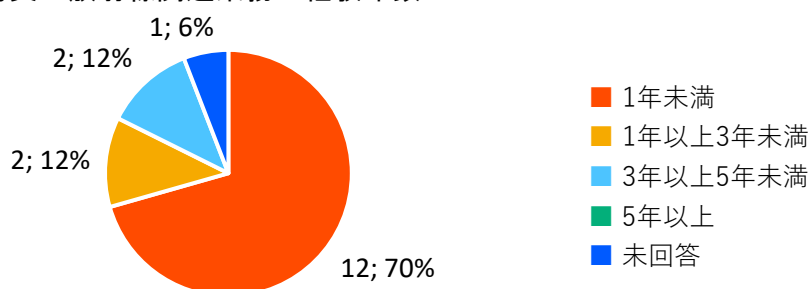
1) 所属



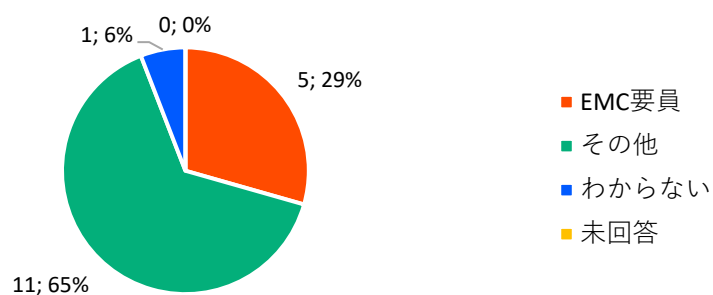
2) 年齢



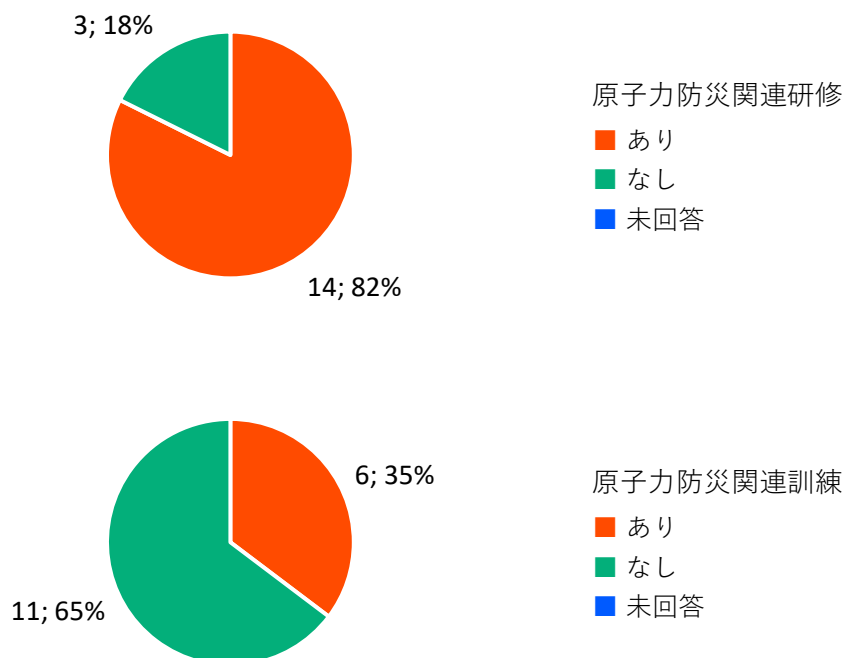
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



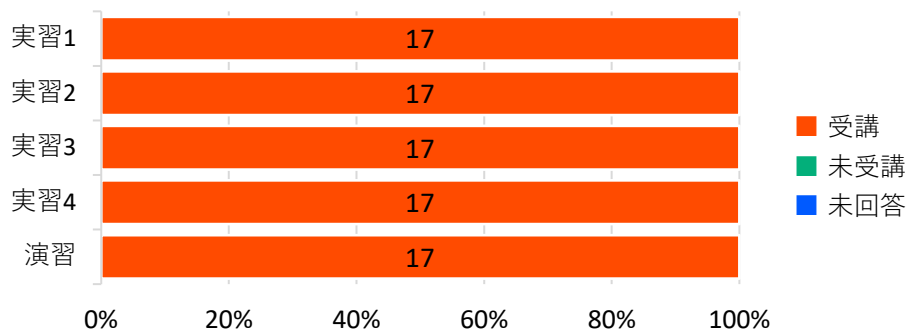
4) 原子力災害発生時の役割



5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

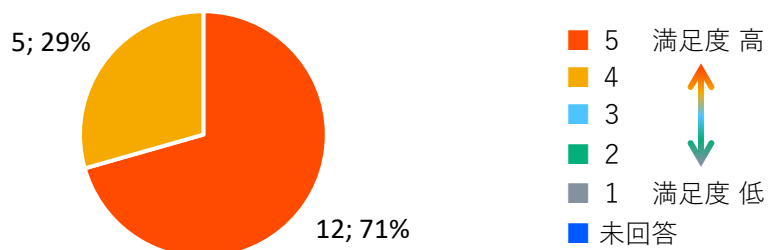


6) 受講プログラム



2. 本講座を受講しての所感等について

1) 満足度

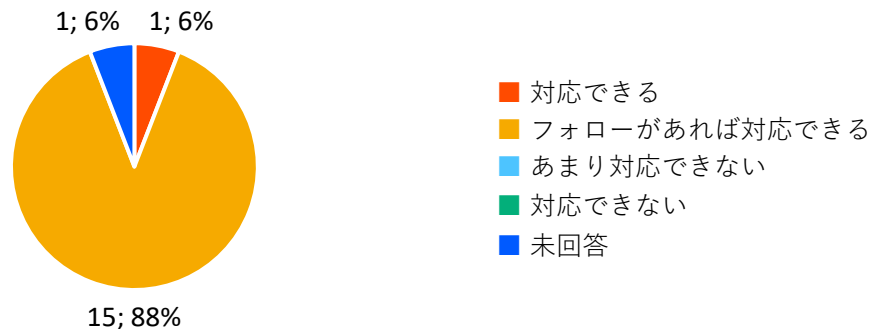


自由記述

- ・ 満足度5；実際に体験できて良い経験となったため。
- ・ 満足度5；基礎を1から学ぶことができたので、初学者でも参加しやすかった。
- ・ 満足度5；様々な実習を通じて、実際に体を動かして学べたため。
- ・ 満足度5；入庁間もないため、有意義であった。
- ・ 満足度5；実技中心のため。

- ・ 満足度4；採取方法などについて演習形式で体験できたため。
- ・ 満足度4；会場まで来た意義は十分あった。
- ・ 満足度4；非常に実践的だった。

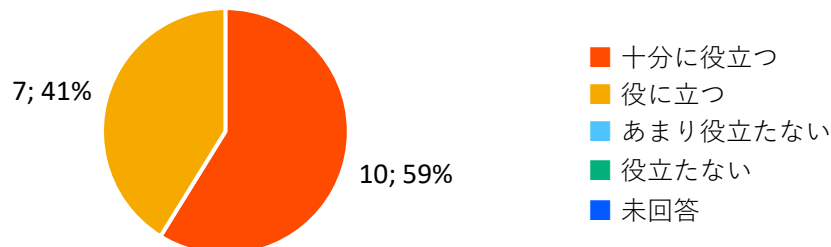
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ フォローがあれば対応できる；まだ、汚染されている場所だというイメージを持って作業できていないため。
- ・ フォローがあれば対応できる；すべてのやり方を覚えたわけでないため。
- ・ 未回答；職責上EMC要員出ないため、該当なし。
- ・ フォローがあれば対応できる；かなり理解できた。
- ・ フォローがあれば対応できる；まだ不安はあるが、フォローがあれば可能である。
- ・ フォローがあれば対応できる；知識不足。

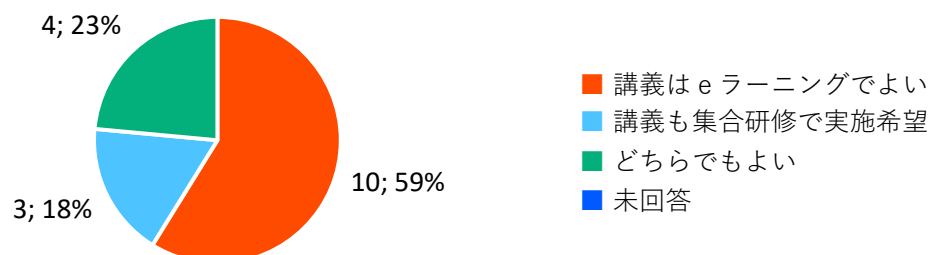
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ 十分に役に立つ；サーベイメータの使い方等を体験でき、使用方法を理解できたため。
- ・ 十分に役に立つ；7年間の原子力防災関連知識のブランクを復旧できた。
- ・ 十分に役に立つ；実災害時でも動けるようになるレベルの実習だった。
- ・ 十分に役に立つ；今後の業務に役立つ。

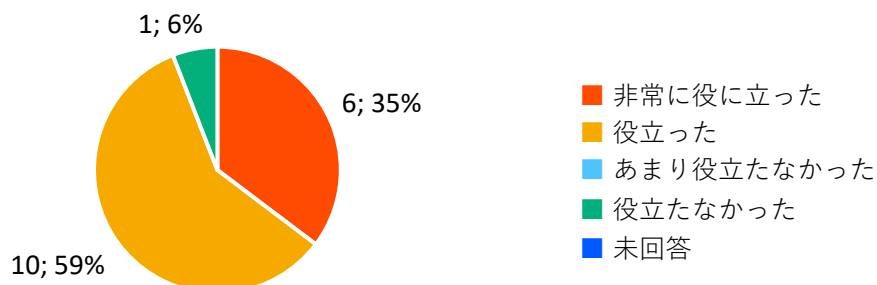
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ 講義はeラーニングでよい；自席ですきま時間に学べるため。
- ・ 講義はeラーニングでよい；時間の節約、効率化のため。
- ・ 講義はeラーニングでよい；自分のペースで学習できる。
- ・ 講義はeラーニングでよい；くり返し確認できる。
- ・ 講義はeラーニングでよい；業務都合に応じて選択できるため。

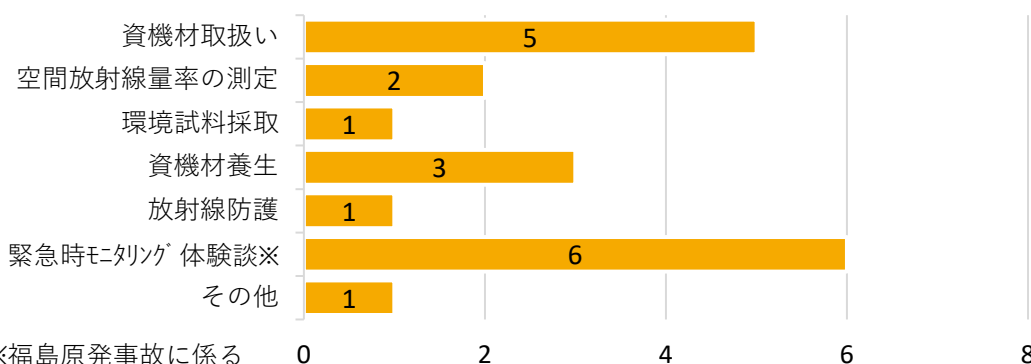
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ 非常に役に立った；事前に何をするか、知ることができたため。
- ・ 非常に役に立った；導入として十分役立つ。
- ・ 役立った；テストが良かった。
- ・ 役立たなかった；実際に体験してみないと身につかないから。

6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください（複数回答可）。



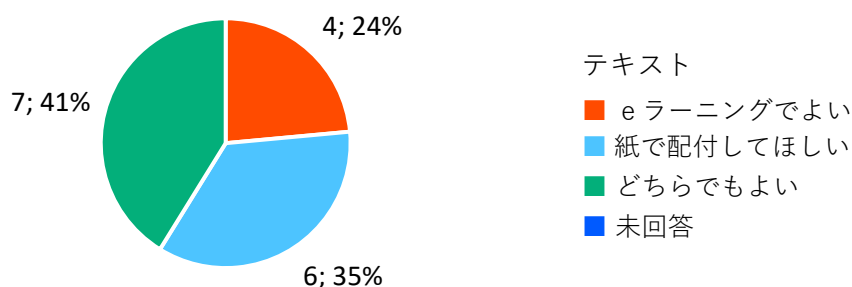
※福島原発事故に係る

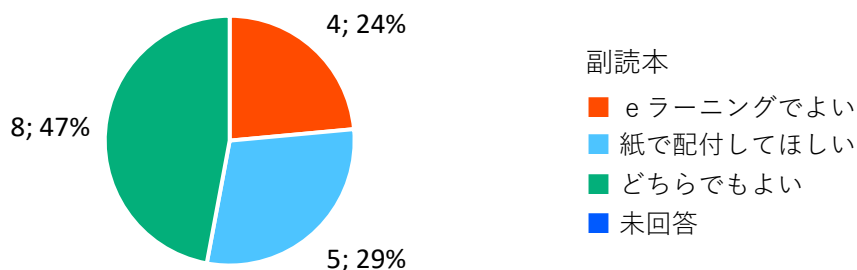
その他の意見

- ・ 単位をもっと詳しく扱ってほしい。

7) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。

※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。



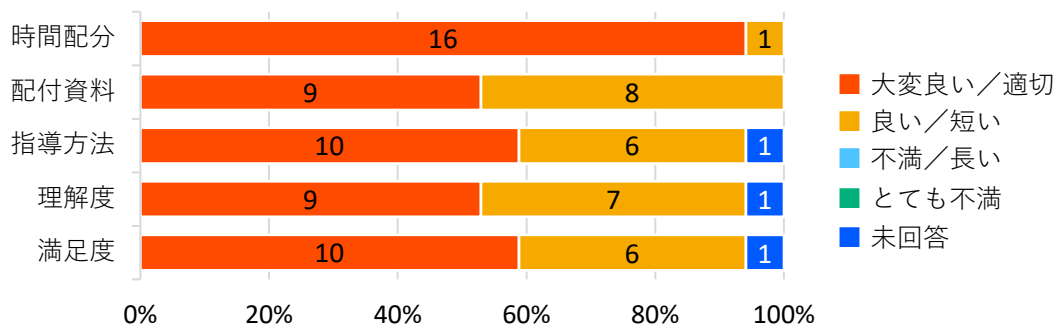


自由記述

- ・ [テキスト] eラーニングでよい/[副読本] eラーニングでよい；ダウンロードデータなら長期間保存しやすいため。
- ・ [テキスト] eラーニングでよい/[副読本] eラーニングでよい；紙を節約したほうが良い。
- ・ [テキスト] eラーニングでよい/[副読本] eラーニングでよい；紙はあまり見返すことがなく、荷物になるため。
- ・ [テキスト] どちらでもよい/[副読本] どちらでもよい；後から、または事前に、印刷が可能であれば、どちらでもよい。

3. 各プログラムの評価について

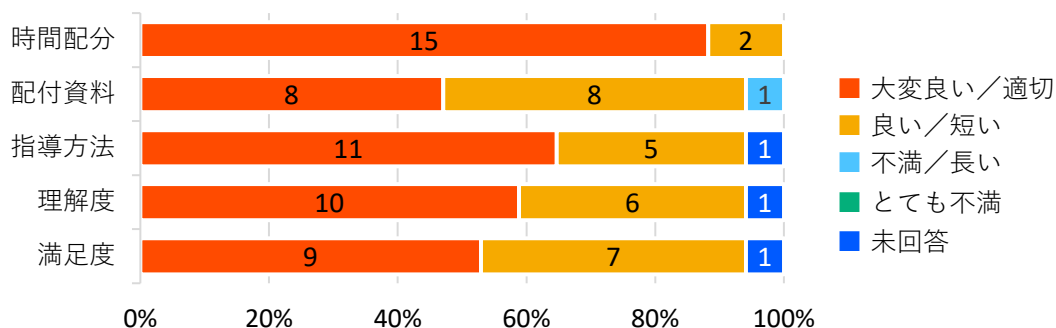
1) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ なし

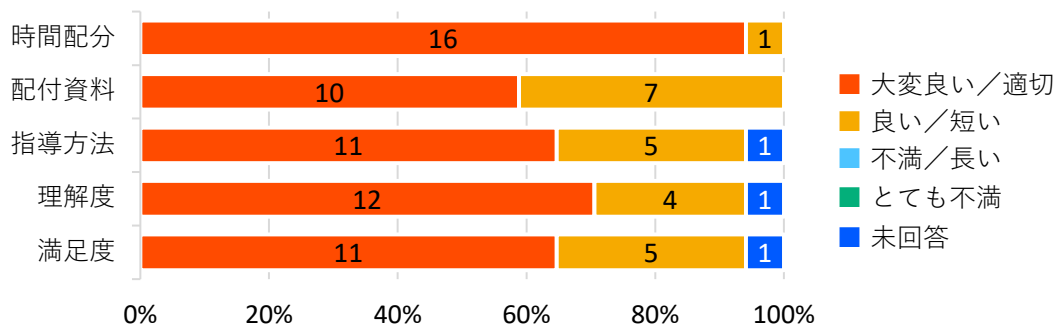
2) 実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ モニタリングポストを始めて確認できた。
- ・ eラーニングの事前学習で補完できたが、配付資料の可搬MPの情報は過少である。
- ・ 非常に勉強になった。
- ・ もう少し時間をかけて取扱要領をレクチャーしてほしい。理解度が高まる。

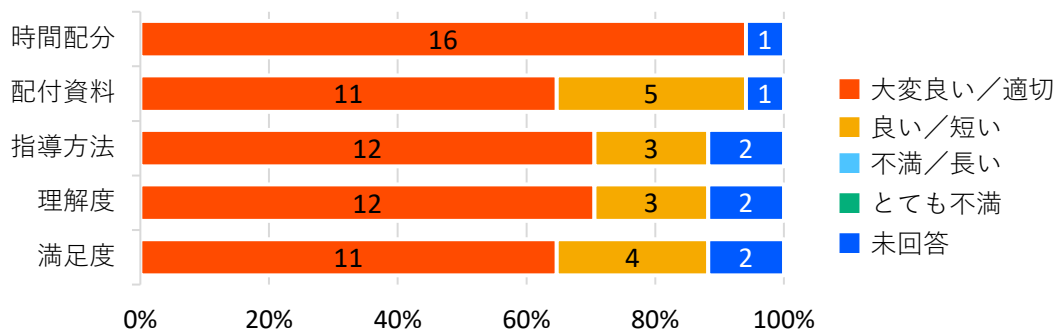
3) 実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 5回以上測定する際、2回目以降の時間が10秒か30秒かわからなかった（時定数が10秒の場合）。
- ・ 実施会場の広さからは測定点が近いのは仕方なかったか。
- ・ 単位についてもう少し知りたかった。
- ・ わかりやすい。

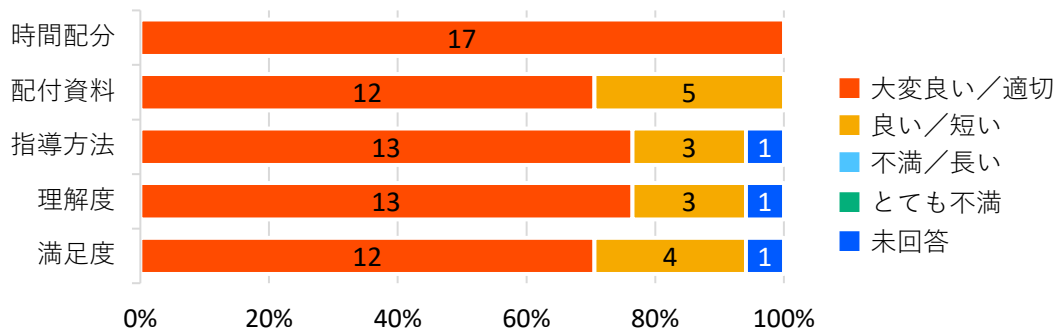
4) 実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ 集じんろ紙や活性炭カートリッジについて、理解度テストに記載があり気になっていたの、どういうものか知ることができてよかった。
- ・ 大分大学の先生が専門で意外だった。
- ・ 採取する土壌の量がアメリカに比べ少量で足りるようで良い。
- ・ 動画があったのでわかりやすかった。
- ・ あらかじめの準備の大切さを理解した。

5) 演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 班員と協力してスムーズに作業を進められ、資機材やサンプル回収時の注意点を理解できた。
- ・ 実災害時を想定した演習で、本日の中で一番良かった。
- ・ 紫外線で汚染を体感する項目は、イメージアップにとっても良かった。
- ・ 全体的に休憩時間が短く、慌ただしい感があった。
- ・ わかりやすい。

4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ ネット検索で見つかるが、ERC、OFC、EMC等の略号にも元の英語を付記したほうが良い。
- ・ 有意義な時間をありがとうございました。
- ・ 実技が多かったのでやりやすかった。
- ・ 今後、上席に向けて、理解と認識ができた。
- ・ お腹がゆるいので、トイレの数、時間が多いと助かります。

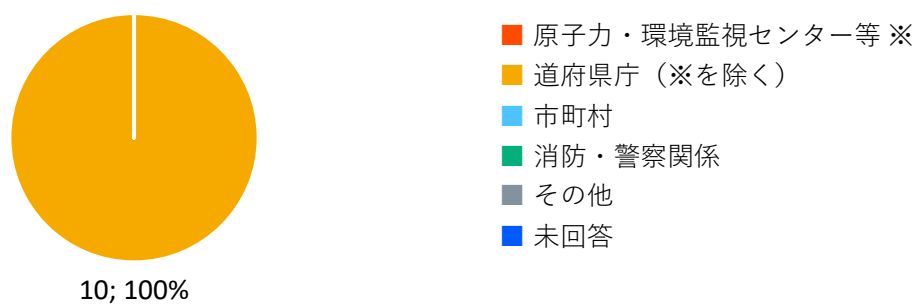
道府県X 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 10 名

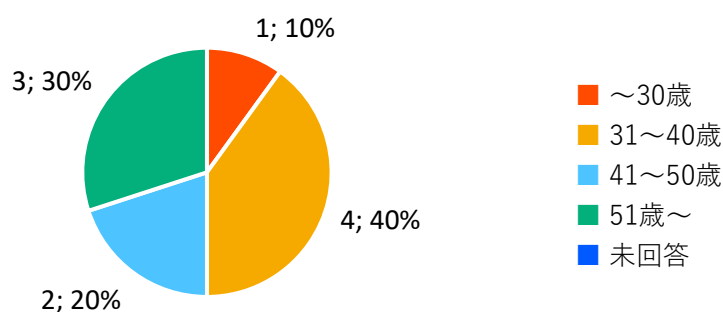
受講者数 : 10 名

1. 受講者自身について

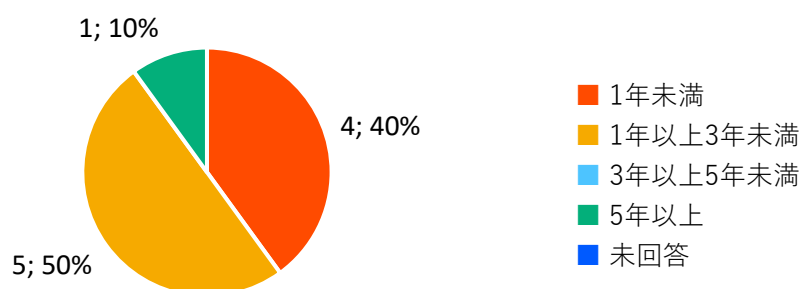
1) 所属



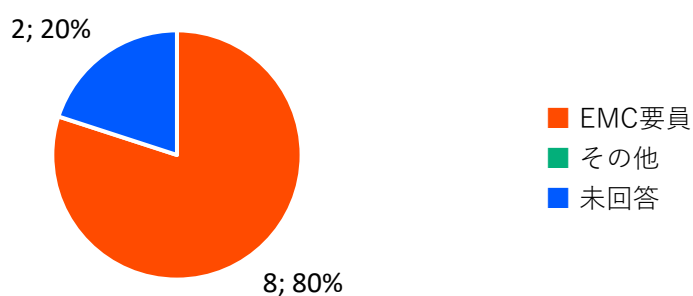
2) 年齢



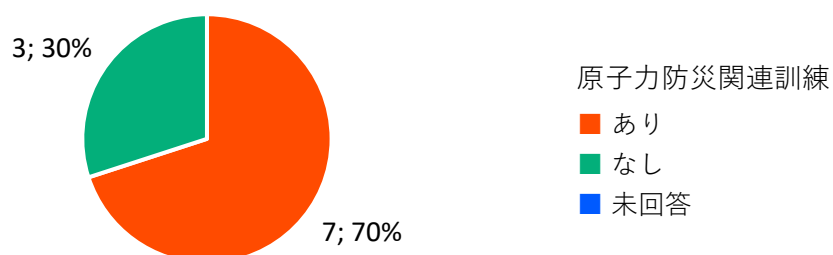
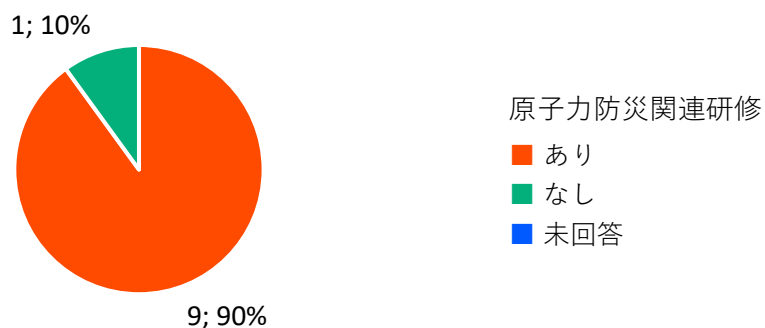
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



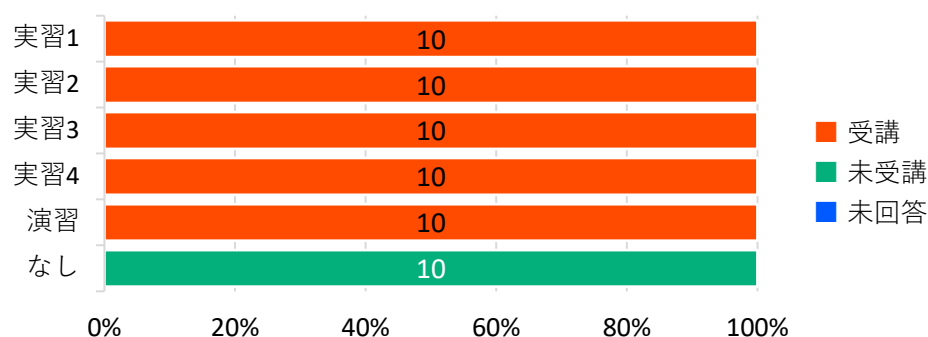
4) 原子力災害発生時の役割



5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

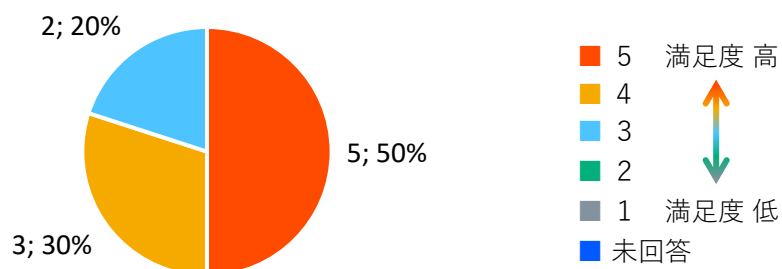


6) 受講プログラム



2. 本講座を受講しての所感等について

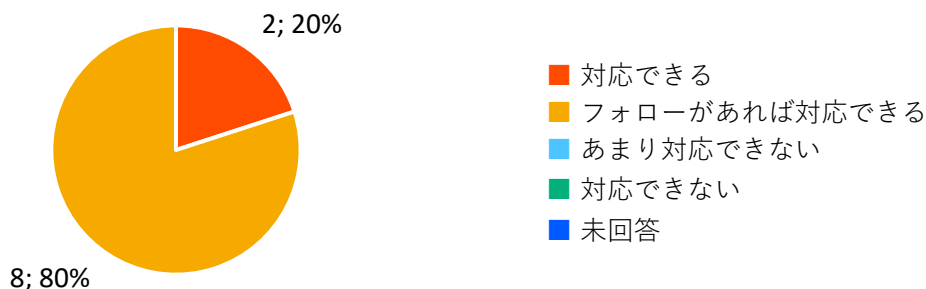
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；演習が現場でのイメージを持ちながら行動をすることができた。
- ・ 満足度4；大変勉強になった。

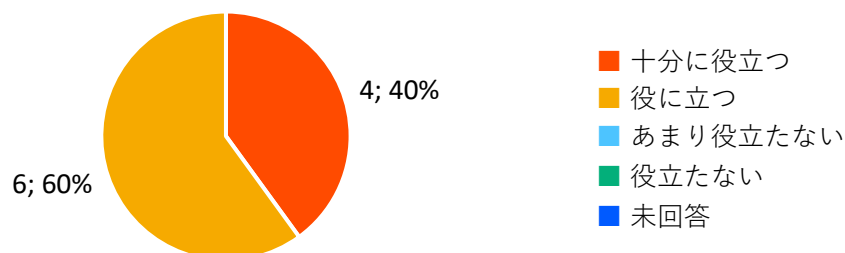
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ フォローがあれば対応できる；まだ経験が不十分。
- ・ フォローがあれば対応できる；くり返し体験する必要があると思った。
- ・ フォローがあれば対応できる；まだ、現場で実践できる自信が十分でない。

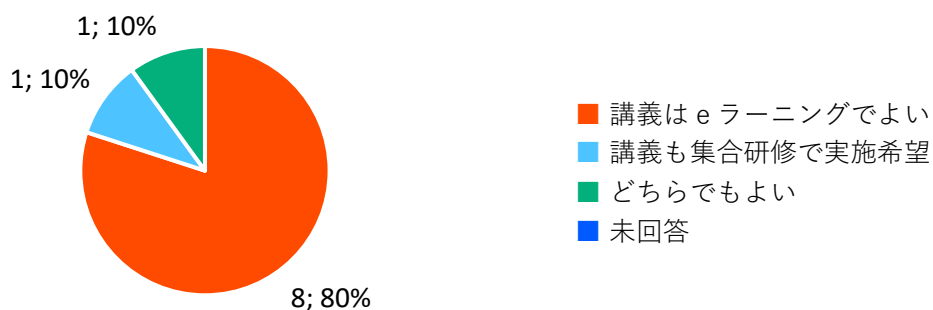
3) 本講座は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ なし

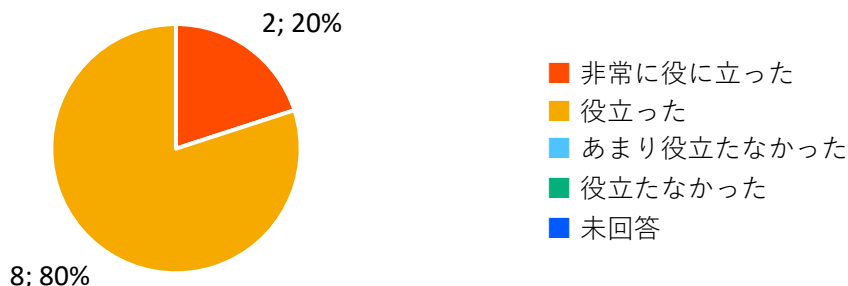
4) 受講者の利便性と習熟度別受講の観点から、講義にeラーニングを導入しています。
eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ なし

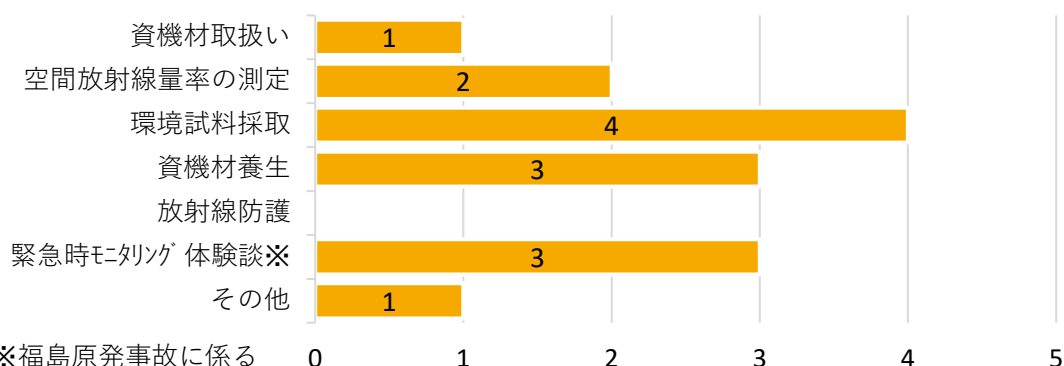
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・ 役立った；業務中は難しい。

6) eラーニング拡充してほしいコンテンツを教えてください（複数回答可）。

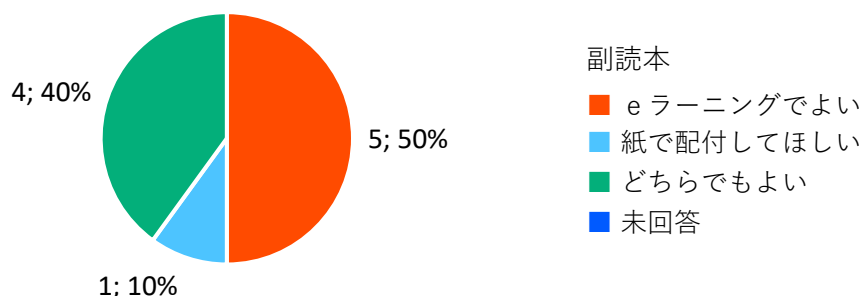
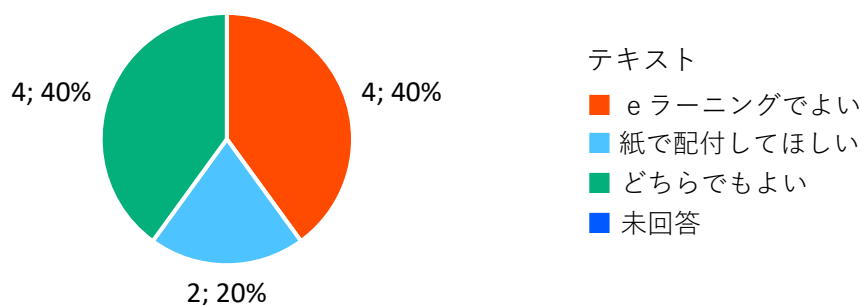


その他の意見

- ・ 試料運搬、受け渡し

7) DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。

※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。

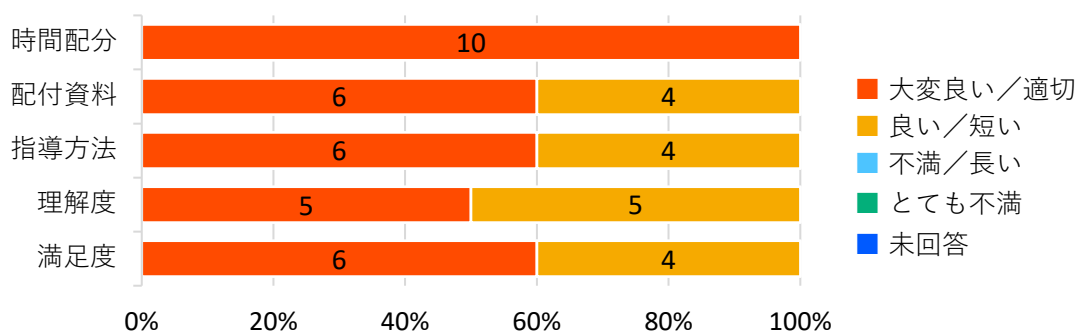


自由記述

- ・ [テキスト] eラーニングでよい/[副読本] eラーニングでよい；事前にダウンロードして電子で読んでおきたい。
- ・ [テキスト] 紙で配付してほしい/[副読本] eラーニングでよい；実際の災害時に備えて1部紙で持っておきたい。

3. 各プログラムの評価について

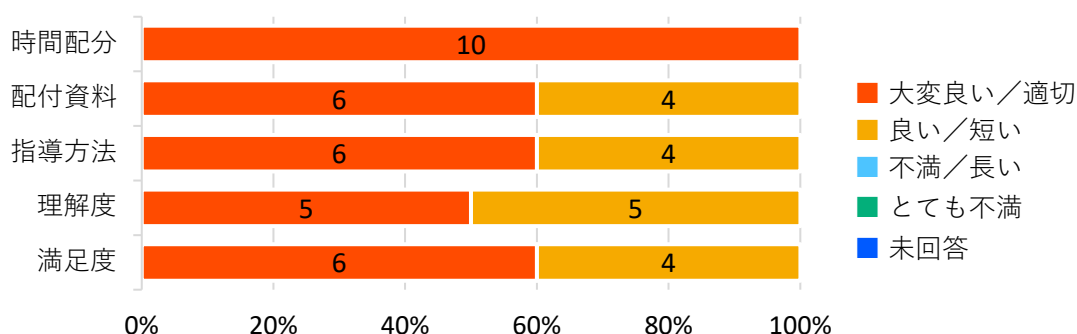
1) 実習1 放射線の性質確認



自由記述

・ なし

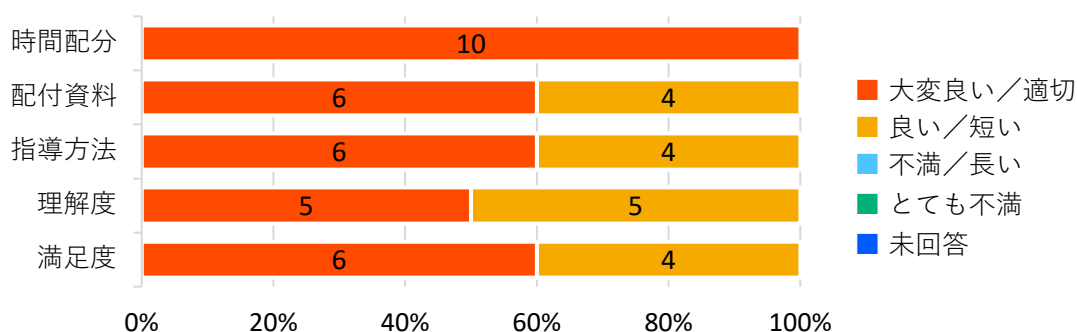
2) 実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

・ なし

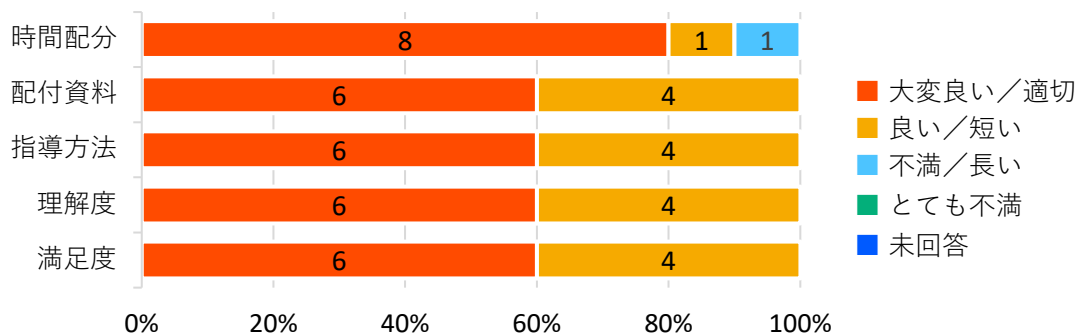
3) 実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

・ なし

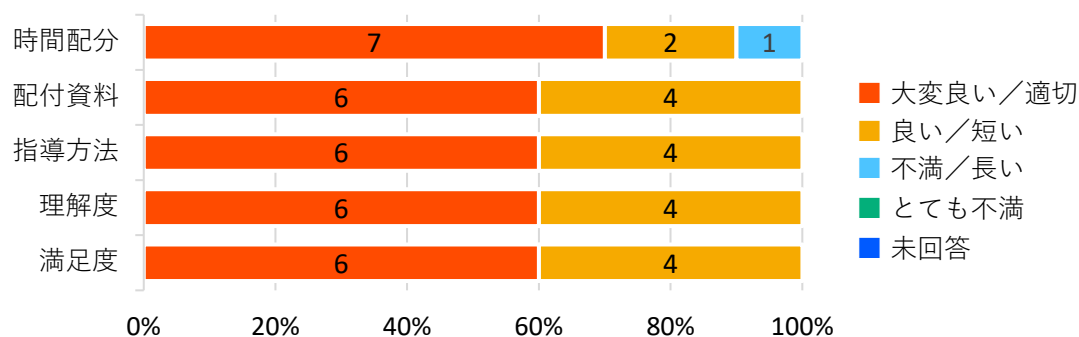
4) 実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ なし

5) 演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 時間を取って、外で実施したらよいと思った。
- ・ 実習1～4のまとめとして演習できたのが良かった。
- ・ 意識して行動できた。
- ・ それぞれの機器の使い方が周りから助けてもらいながらだったので、まだあいまいな理解のところがある。

4. 講座全般に関する意見・要望

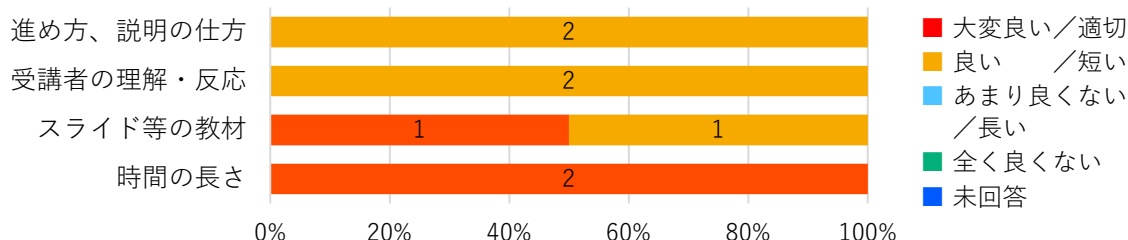
- ・ 限られた時間の中で効率的に充実した内容で実施していただいた。
- ・ 実習、演習に多く時間をさいていただいているので、大変理解しやすい。
- ・ 座学だけでは気づけない点があるので、非常に有益だったと感じる。
- ・ 参考資料のモニタリング機材取扱いガイドブックも参考になるので大変助かる。
- ・ お昼を12時頃からにしてほしい。
- ・ 話し声がこもっていて、たまに何を言っているのかわからなかったなので、マイクをずっと使ってほしい。
- ・ 専門の方にアドバイスいただける貴重な機会のため、ぜひ毎年開講いただきたい。

道府県A 講師アンケート集計結果

回答者数 : 2 名

1. プログラムについて

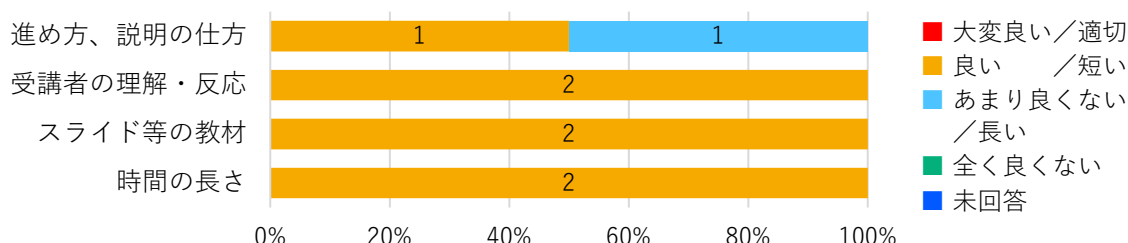
実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ 時間を少しでも短縮しようと考えていたが、やはり1時間は必要でした。 α 線の測定のデモは少し早口だったような気がします。
線量計の装着向きを反対（LCD面を外側）にしている方が2名いたのわかりました。これは説明がまずかったのかと反省です。
- ・ GM管を割った後にGM管の中を見せる際に破損したマイカが机にこぼれた。机を拭くことになり事務局にご迷惑おかけしました。次回以降注意します。距離特性を見せるのに、全員の計算終了後に実施しが、その間線源を出したままとした。被ばくを考えると計算終了前に実施すべきであった。
- ・ γ 線、 β 線、 α 線の透過率に係わる実技を見て感じたんですが。 α 線は紙で止まる、 γ 線は鉄、鉛等の金属でないと減速しない！この話を聴くと皆さん、どういった印象を持たれるのでしょうか？おそらく、 α 線は紙で止まるから γ 線に比べて安全？問題ない？と思う方もいるのでは？
外部被ばくの影響に関する観点ではそうかもしれませんが。
- ・ 物との相互作用で放射線が減速するという観点でもう少し説明を加えられても良いのでは？例えば、 α 線は密度の小さい紙との相互作用で短時間にエネルギーを失い減速、停止する、すなわち、物との相互作用が大きく、相手に対するダメージが大きい。これは内部被ばくで、身体に取り込んで、組織に沈着した場合に身体に対する負荷が大きいことを意味します。等

実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い

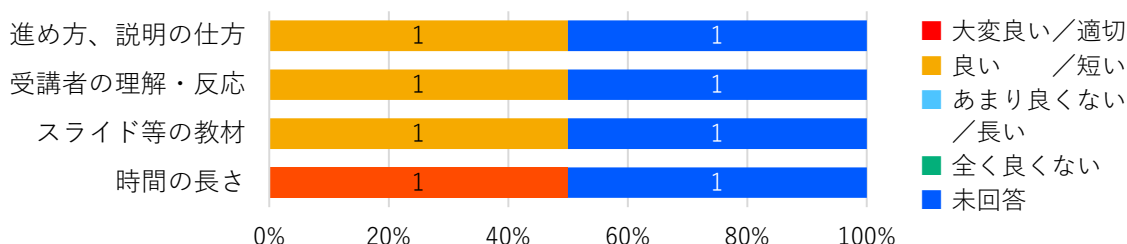


自由記述

- ・ 装置が新しいものだったため、詳細を把握できていなかったと思う。特にバッテリー充電時間、取り換え方法等不明点があり、確信を持った回答ができていなかった。総重量100kgを超える装置なのでどのように車に乗せるか道府県担当者に確認しておけばよかった。

- ・ スライドの内容は問題ないが、やはり写真は使用する装置にしたほうが良いと考える。動作するまで5分以上待つ時間があるため、先に動作させてから説明を行うなど話す順序を考えてみたが、充電方法説明を含めると時間が短かった。

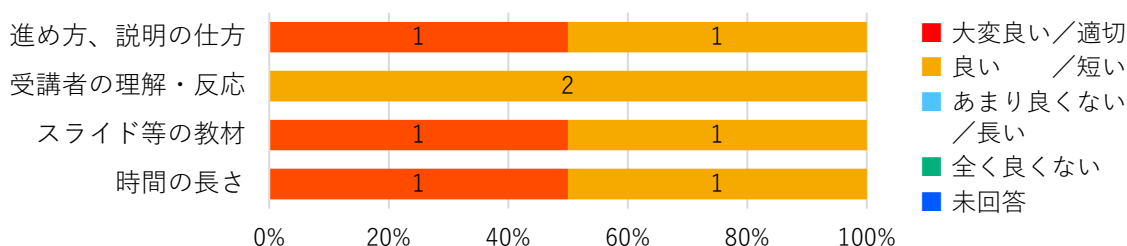
実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 場所が離れており、移動の時間で数分とられていたようです。もう少しコンパクトな配置にすればよかったかと思います。

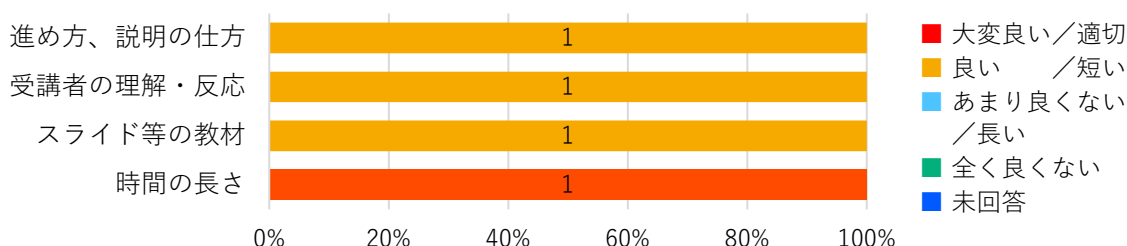
実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ 手の除染実習は良かったと思います。
土壌採取、可搬型モニタリングポストは外で実施したが、建物の2Fと外のため、移動に時間がかかった。1Fのプレゼンルームに資材等を準備するのが良いかもしれない。スタッフも扉の開け閉めで待機しているのは大変そうでした。
- ・ 忘れ物をする版があり、取りに帰っていくため、時間がかかった班があった。講師が各班についているとそれはなかったと考える。但し、これも経験と考えればこの方法は良かったと考える。
受講者は資機材を最小限に使用するよう考えていたところがあり、ビニール袋や手袋等は多めに持っていくよう何度も言った方がよい。
- ・ 汚染検査で白衣の4箇所が汚染となるようにした。(白衣2枚重ね) 4班同時に測定ができ、時間短縮にもなり、良かったと思う。今後は4箇所に対応するのが良いと思います。

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ なし

2-1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ なし

2-2. 受講者からの質問とその回答

- ・ 【質問】可搬型モニタリングポストのバッテリー充電時間は何時間か。
- ・ 【回答】半日程度と回答。（合っているかは？）
- ・ 【質問】可搬型モニタリングポストのバッテリーは3つあるが、1つでも動作可能か？また、動作中にバッテリーは外せるか。
- ・ 【回答】回答できませんでした。
- ・ 【質問】NaIサーベイが故障した場合には電離箱で測定するのか？
- ・ 【回答】通常は正・副2台を持っていくので1台故障した場合には副を使用すると回答。その際には連絡班に連絡を入れることも回答しています。
- ・ 【質問】国の保有しているモニタリング資機材の位置づけに関する質問
- ・ 【回答】自治体の保有している資機材のバックアップである旨回答。

3. その他の気づき事項

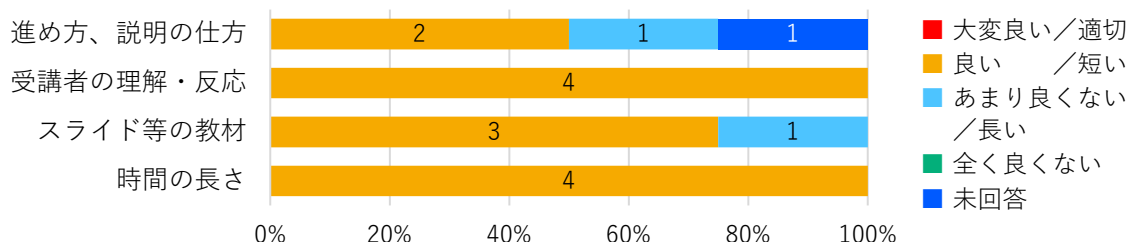
- ・ 新規製品の際には前日に担当者と打ち合わせを実施し、仕様確認をするのが良い。
- ・ 全体を通して時間的制約が結構厳しい印象を受けました。
タイムキーパーを配置して講師に残り時間の提示をされていましたが、終了時間が迫ってくると慌ただしくなってくる感じでした。（自分もそう）
決められた時間内に所定の講義内容を効率的に行うため、説明の仕方や現場対応の方法等を再考されてもいいのでは？場合によっては講義項目を少し減らして余裕を持たせるとか？

道府県B 講師アンケート集計結果

回答者数 : 4 名

1. プログラムについて

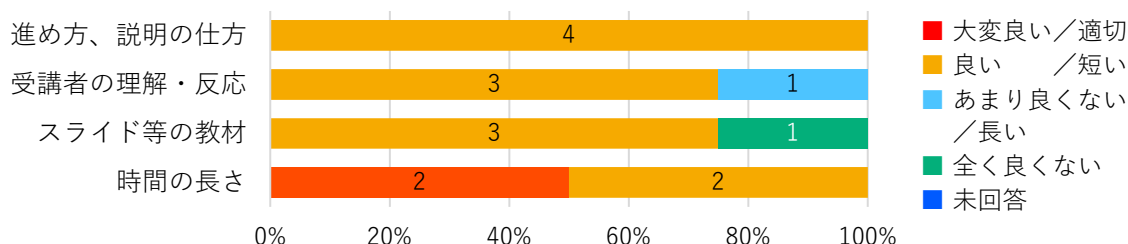
実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ スライド：経験者が少ないことや講義の時間が短くなっていることを考慮し、内容を精査し、枚数を少なくする必要がある。
- ・ 時間が短いため、各講師、スタッフが各班に積極的に関わる必要がある。
- ・ 最初の講義だけに受講者も積極的であった（集中力が高かった）。
- ・ 設定に手間取ったが、受講中に変更しないで良いように事前に確認しておけないか。バタバタしていて時間足らずだったのではないか。
- ・ 富士電機のサーベイメータの使用に不慣れで時間を要した。
- ・ 機材：測定条件の設定が複雑で使いづらいこともあり、講師、受講者ともに使い方に慣れるのに時間を要した。緊急時の対応では使い勝手の良さが求められる。

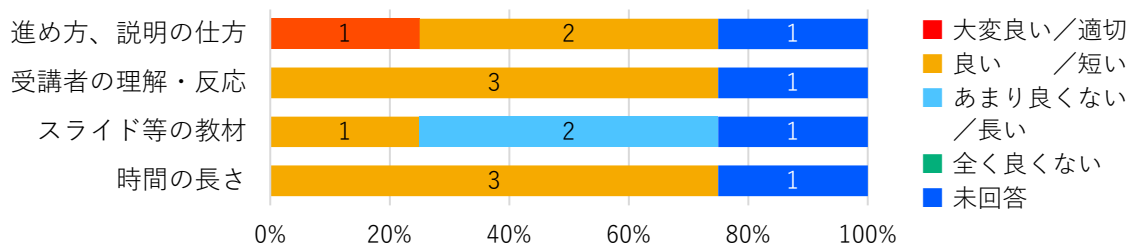
実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ 運搬状態からのバラシ、結線から実習したいところ。

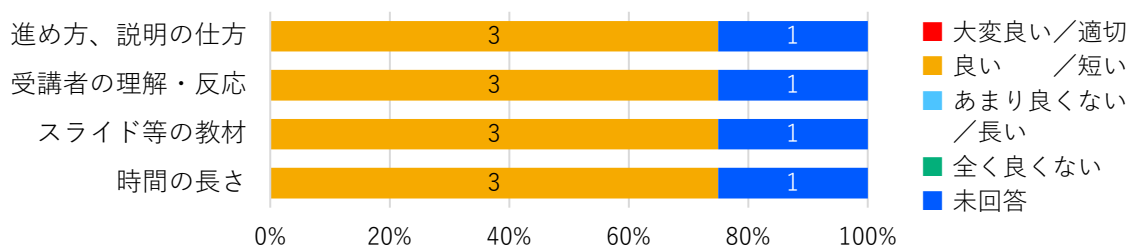
実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 受講者の発災地と測定地点（汚染地点）の位置関係の理解が難しいように感じた。
- ・ 講師の説明が分かりやすい。
- ・ 測定の実習はもう少しスペースを大きく取って（会議室全体を使うとか）できないですか？
- ・ 実習は全体的に時間が押し気味？

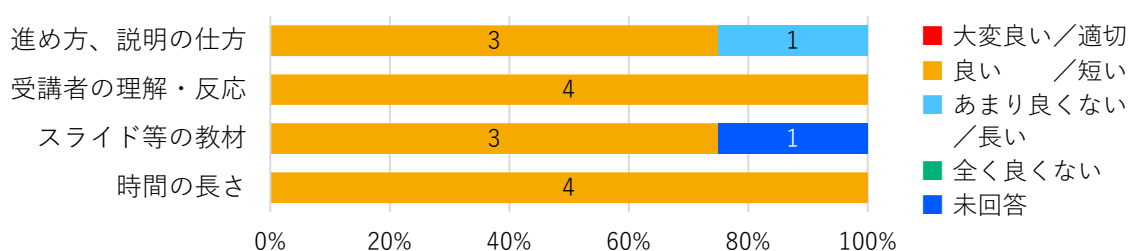
実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ 蛍光塗料を用いた汚染の実演は効果的である。実際の現場では除染後にサーベイメータで確認することを習慣づけて欲しい。
- ・ 今回は時間がぎゅうぎゅう感あり。説明が早くなったり、端折ると伝わらないこともあるので、もう少し余裕が欲しいです。

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 各班によって進行度が異なる。班分けの問題かも。
- ・ 全体的に時間が押している印象あり。時間に合わせて内容のトーン（広さ、深さ）を変えて欲しい。

2-1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ なし

2-2. 受講者からの質問とその回答

- ・ なし

3. その他の気づき事項

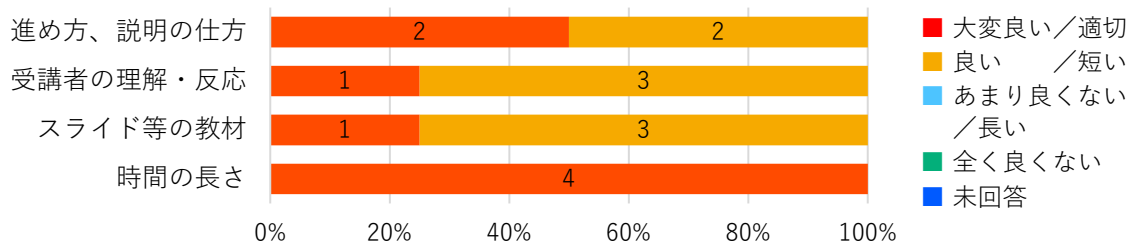
- ・ 10時～16時では短いので、方法を変更した方が良いかも。
- ・ イントロのp.2の図に加え、地域の図があるとよりイメージしやすいと感じた。

道府県C 講師アンケート集計結果

回答者数 : 4 名

1. プログラムについて

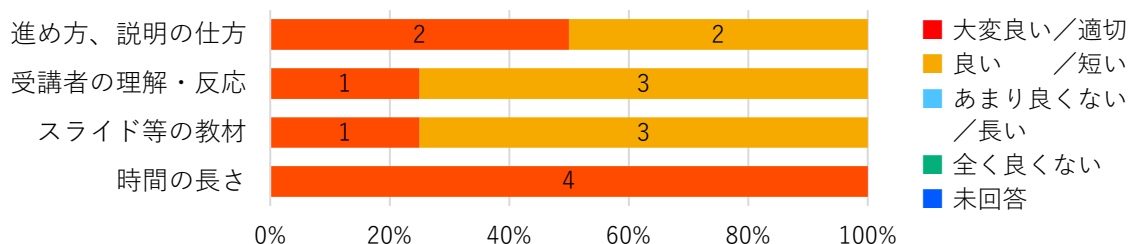
実習1 放射線の性質確認



自由記述

・ なし

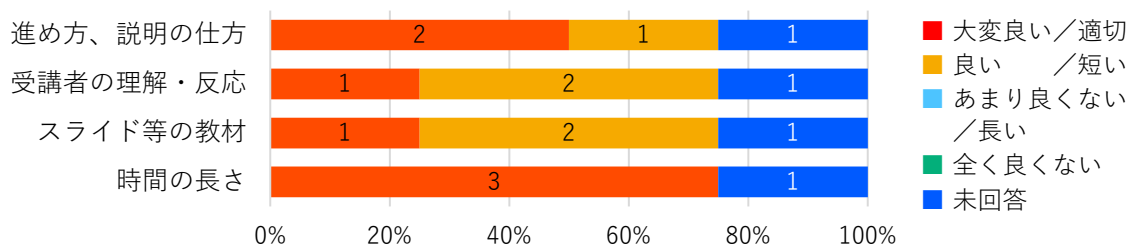
実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

・ なし

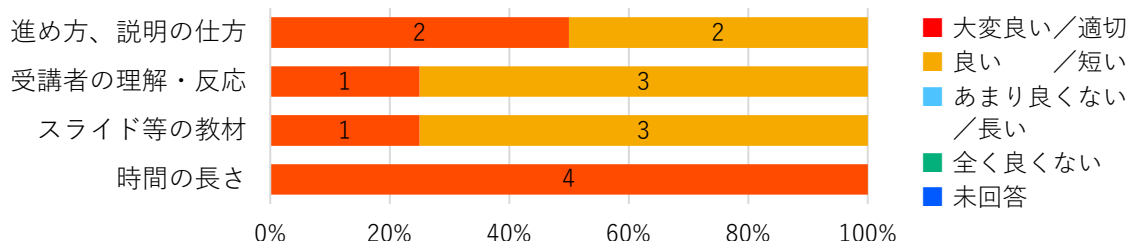
実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

・ なし

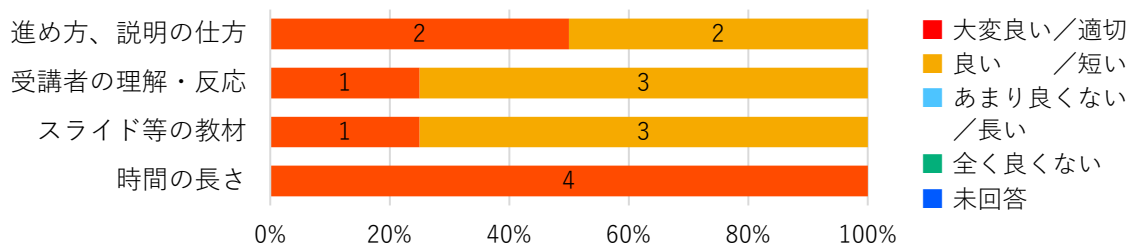
実習4 環境試料の採取



自由記述

・ 土の採取には時間がかかるので、もう少し手順良くやりたい

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 防護服の着装スライドと実際が異なるのか説明不足
長靴使用せず。服装の変化とシューズカバー等

2-1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ 汚染のイメージ
- ・ 手順のイメージが必要
- ・ 受講者より屋外でマスクをつけて実施したかったと希望あり
- ・ 内原防はオフサイトの防災活動におけるマスクは、サージカルマスクで良いとしているので基礎講座では、半面マスクの使用方法的説明（実技）をして、モニタリング演習ではサージカルマスク装着でやってもらうことでも良いのではないかな？

2-2. 受講者からの質問とその回答

- ・ 【質問】可搬型MPの操作をするときはゴム手袋を二重にした方が良いかな？
- ・ 【回答】屋外に設置しているが、実際には外カバーを被せているので内側は汚染されにくい状態ではあるが、汚染の可能性はあるので、安全側に考えて、ゴム手袋は二重にした方が無難だと思う、（カバーを外す時に汚染する可能性がある）

3. その他の気づき事項

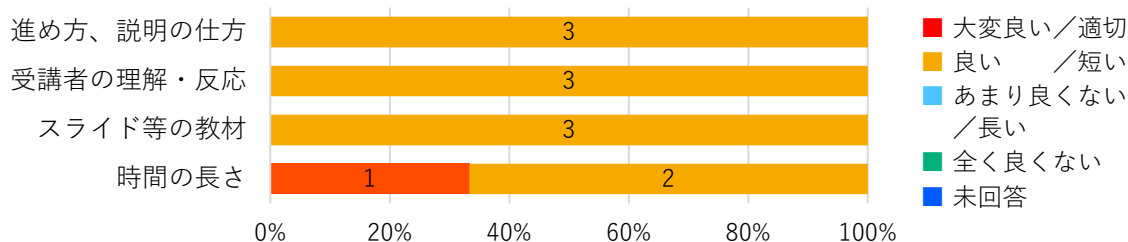
- ・ 道府県Cとの相談になりますが、実際の緊急時モニタリングにおいて、大気モニタのろ紙回収、ヨウ素サンプラのカートリッジ回収を他所から参集する要員にやってもらうのであれば、その訓練をしておかないとならないと思います。（訓練でやっていない事は実災害でもできないので。）

道府県D 講師アンケート集計結果

回答者数 : 3 名

1. プログラムについて

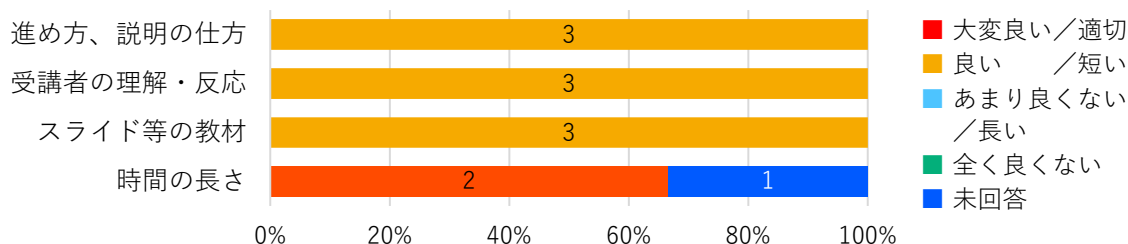
実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ なし

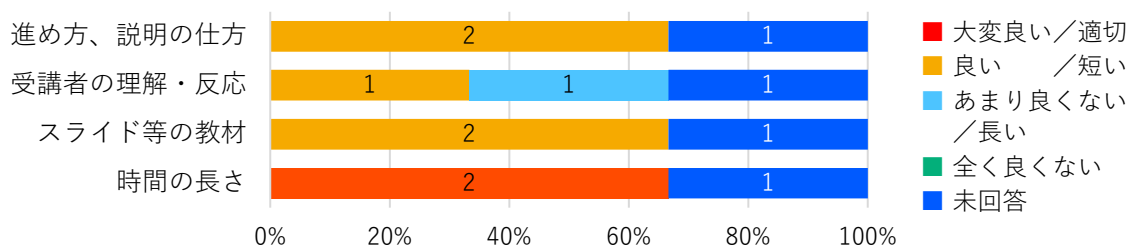
実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ 道府県D緊急時モニタリング実施資料 Ⅲ参考資料編の可搬型モニタリングポストの改訂が必要

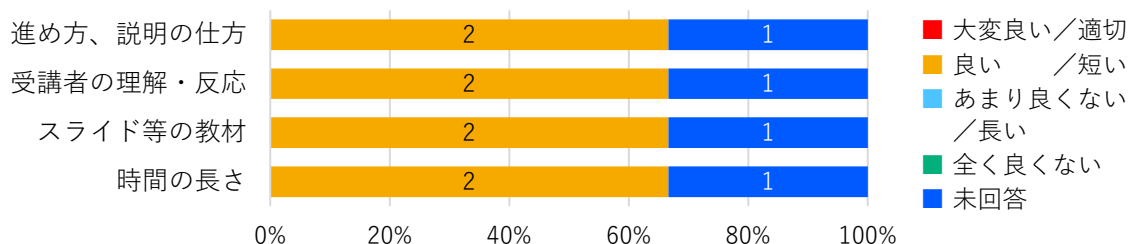
実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ なし

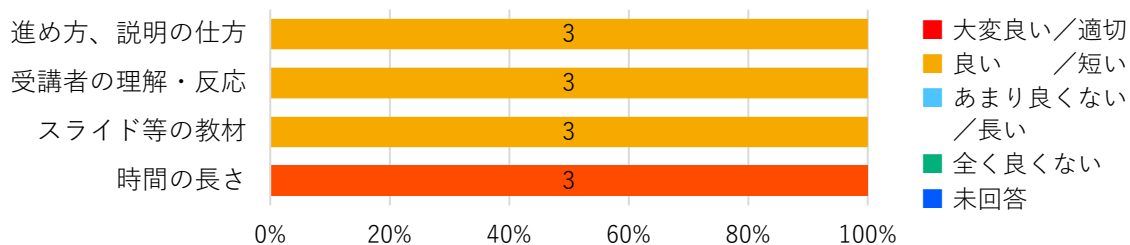
実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ メニューが多くなってしまった。

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 講師が班につくのではなく、テーマ毎につくのも一案ではないか。
- ・ スムーズに回り、早く終わったが、大気で待ち時間が発生した

2－1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ なし

2－2. 受講者からの質問とその回答

- ・ なし

3. その他の気づき事項

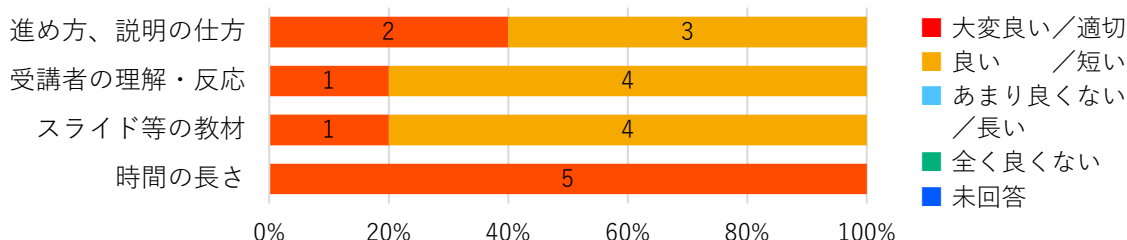
- ・ 次年度も実施されるのであれば、可搬型MP×2、ラミセス端末×2があれば、より効果的な学習（設置場所、データの確認）ができるのではないのでしょうか。

道府県E 講師アンケート集計結果

回答者数 : 5 名

1. プログラムについて

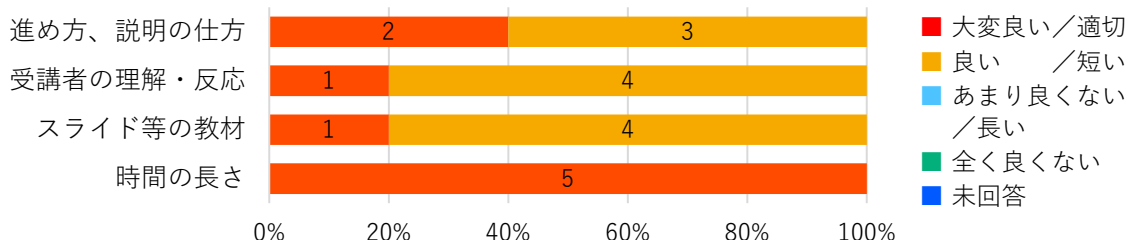
実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ 講師の方の説明が非常にテンポも良く分かりやすかった。
- ・ 放射線の性質確認、1時間OKです。

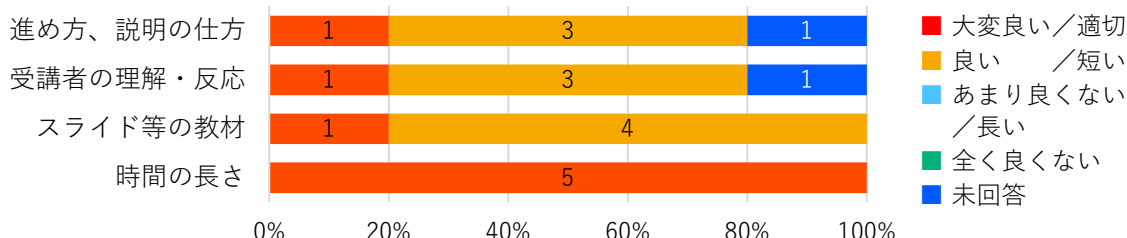
実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ 様々な測定器の構造単位について詳しく説明があり、理解しやすかった。
- ・ 可搬型モニタリングポストと走行サーベイを屋外で実施し、位置情報の取得ができたので、OKです。
- ・ 講義がとにかく分かりやすかったです。印象に残りました。
- ・ 1点だけ。「K」なので「ゼロ3つ追加」だと16.8が168000となってしまっている方がいらっしまったので、1000倍とか 10^3 とかの表現をした方が伝わる参加者のレベル感でした。

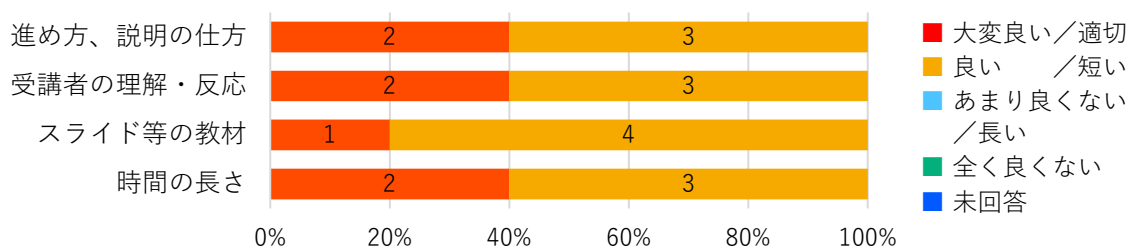
実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 受講生の自主性を重視して、口出しを最小限に留めていたため、1班の進行は他と比して若干遅れ気味に思えた。
- ・ 経験の浅いメンバーが集まっており、もう少し見本を見せる等の対応をすべきと言う点が反省点であった。
- ・ 班数が少ない時は少し時間は短縮できるかも。各アドバイザーの関与が必要。

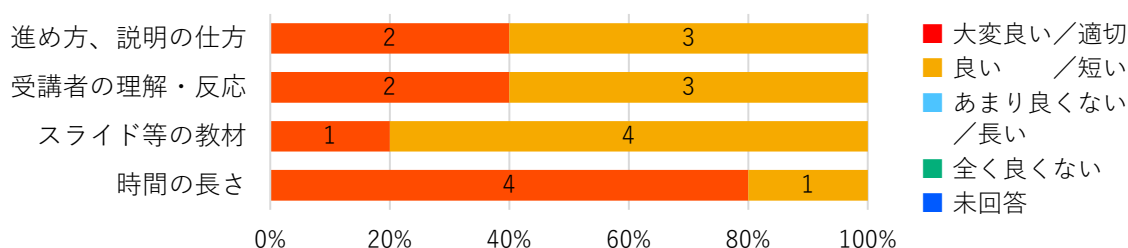
実習4 環境試料の採取



自由記述

- 汚染除去の手法について視覚的に把握出来るツールを使用した実習は非常に優れた研修手法であると認識した。

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- 元々経験の少ない参加者が多く、最初は遠慮し合って連携も動きも悪く時間がかかっている面も多々見られたが、演習に進むにつれて互いの遠慮が少なくなり、指摘・改善し合うことにより作業効率が格段にアップしてきた。

2-1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- 参加者へ、机上での説明のみを行うよりも、一旦、見本を見せてから作業を進めさせる方が、より習熟度が上がると期待される。
- 汚染拡大の見える化（手袋の脱着）は環境試料の中で行った方が良い。

2-2. 受講者からの質問とその回答

- なし

3. その他の気づき事項

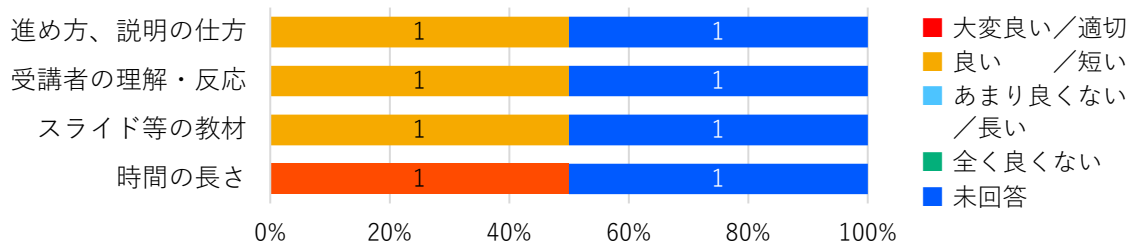
- 資機材の中身（NaI、電離箱）をよく理解できるように見せていた点は素晴らしいと思いました。

道府県F 講師アンケート集計結果

回答者数 : 2 名

1. プログラムについて

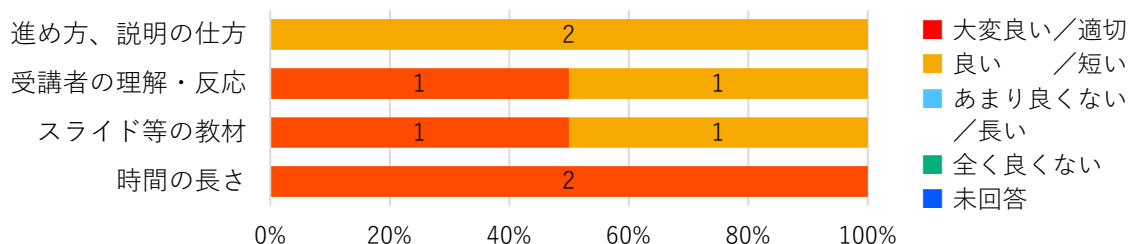
講義（道府県） 道府県Fの緊急時モニタリング体制



自由記述

- ・ なし

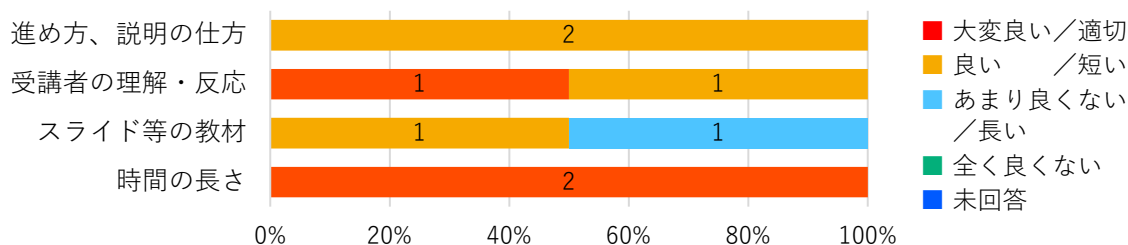
実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ 今回は場所の関係でスライドを映さずに講義したが、何とか講義はできたと思う。
- ・ GMサーベイメータの単位説明の漏れがあった。
- ・ 距離による被ばく提言については、線源を出したままで約10cm→約20cmに離すことで1/4（距離の二乗の反比例）を確認できてよかった。

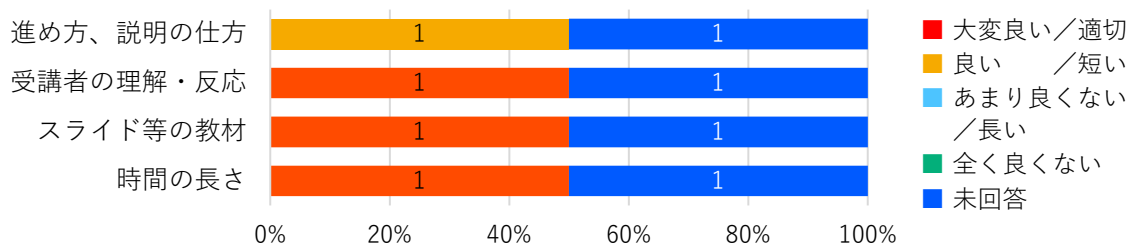
実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ 道府県Fは松浦電工社のKURAMAを使用した可搬型MPであった。スライドはアロカ製の写真だったので、次回に変更したほうが良い。
- ・ GPSで時計を設定したあと、測定を開始するため、外に出してから電源を入れて約5分間待った。よって、建物の外で実習することが必須である。今年は晴れていたが、雨の時はどうするか今後検討が必要である。
- ・ 可搬型モニタリングポストはGPSが取れないと測定器が稼働しないタイプだったため、注意が必要。

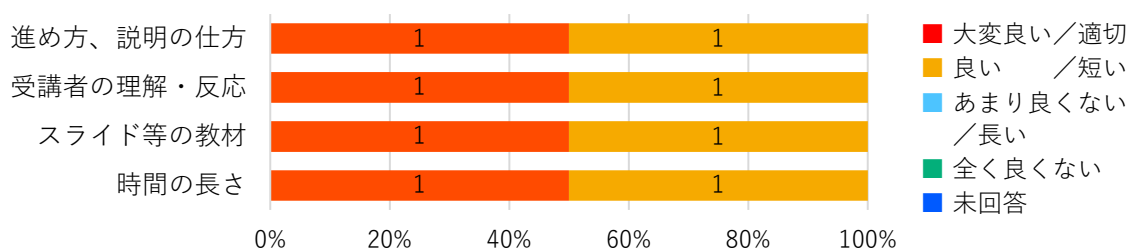
実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 1班が人数2名のため、事務局1名が記録係として入ってもらうことで実習はスムーズにできたと思う。人数は3名以上必要である。
- ・ ここでもスライドは使用しなかったが、実際に講師が測定方法を見せるので、特に大きな問題はなかった。

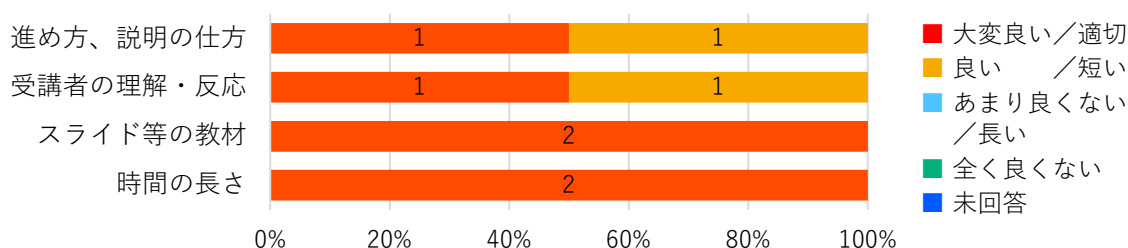
実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ 水、大気、土壌の順で説明がされたが、最後の土壌では時間が不足し、受講者が土壌採取することができなかった。1班（5名）だったが、どこに時間が取られたかはよくわからない。今回水の採取方法が県のマニュアルとビデオで異なり、これの説明を入れたため、また、土壌採取の場所が外で離れており、移動時間がかかったためと考えられる。
- ・ スライドを使用せず、資料を基に説明を行ったが、問題なく進めることができた。

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ リーダーがしっかり指示を出しており、班としてよかったと思う。
- ・ 原子力規制庁の方々は経験年数もあり、てきぱきと動いていたのでスムーズだったのだと思う。

2-1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ なし

2-2. 受講者からの質問とその回答

- ・ 【質問】実習1で規制庁の方から電子線量計の検出器は何かと質問があった。
- ・ 【回答】シリコン半導体であると回答済み。講義では説明が漏れていたかと思うので、今後使用検出器を明確にするようにする。

3. その他の気づき事項

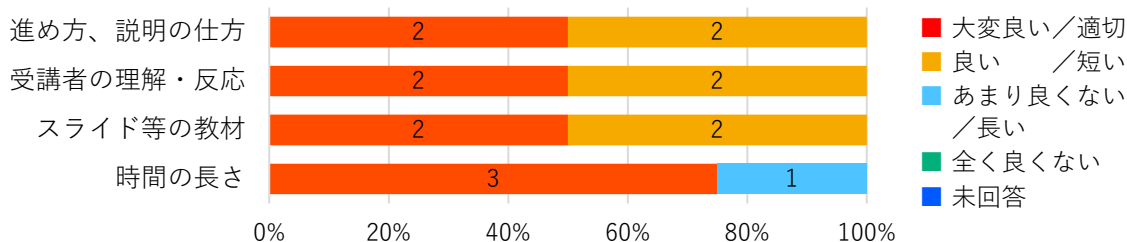
- ・ 汚染の見える化、簡易除染については非常に良かったと思う。今後もこの内容は続けて行ければと思う。
- ・ 手の汚染検査については、受講者が体験できてよかったと思う。
- ・ 女性の方で、午後から作業服を脱いだため、腹部のポケットがなく、ズボンのお尻ポケットに個人線量計を入れている方がいた。指摘し、ベルトに挟むようお願いした。これから暑くなると上着を脱いだ時にポケットがなくなり、同様のことが発生すると思う。
- ・ また、市町村職員の方で胸ポケットがないポロシャツを着ていたため、首から線量計を下げていた。今後受講者にポケットのある者を着用するようにお願いできないか検討ください。

道府県G 講師アンケート集計結果

回答者数 : 4 名

1. プログラムについて

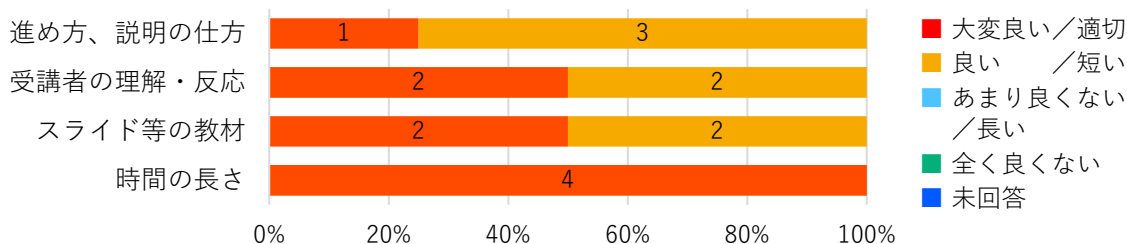
e ラーニングの復習



自由記述

- ・ e ラーニングはポイントだけ、押さえてほしいポイントをコンパクトにできないかと感じた。

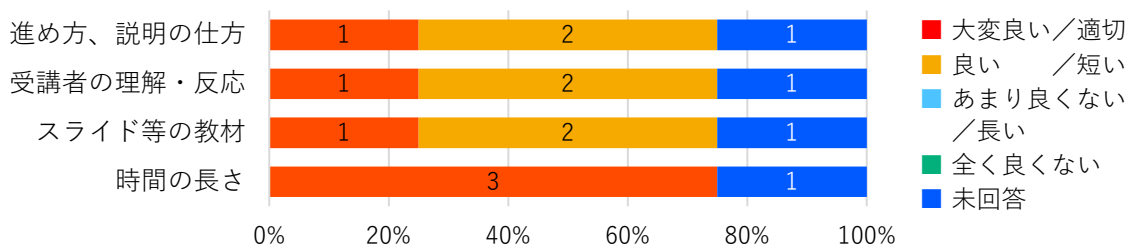
実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ 測定器が原安協より新しくタッチパネル式・直読式・多機能なので、便利に使える機能の説明もどこかに入れたと感じた。実習1以外でも良いと思う。

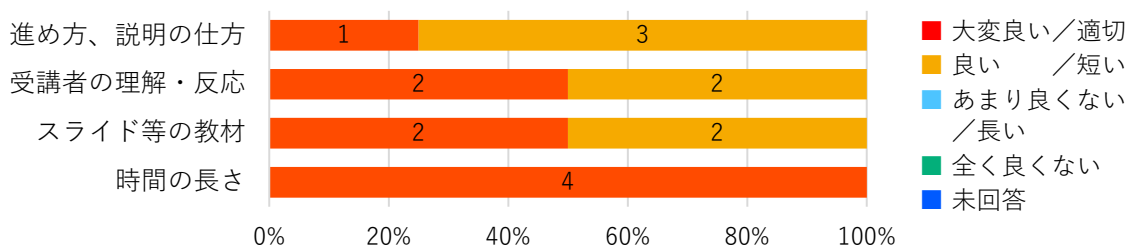
実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ なし

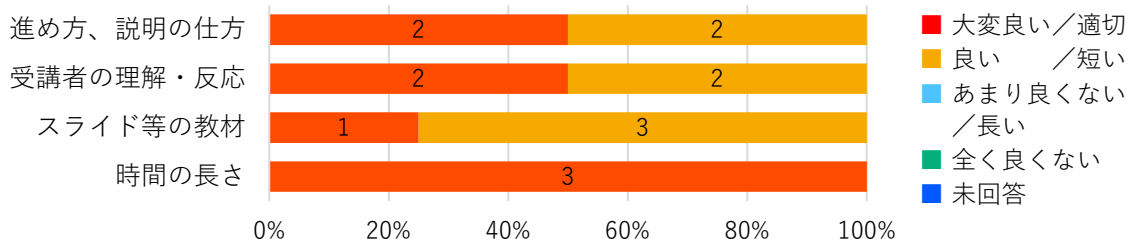
実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 可搬型MP：今までは組立完了後から説明していたが、今回は受講者に実際に組み立てていただいたのは理解がしやすかったのではないかと考える。
- ・ 空間線量率：⑥の測定ポイントは $0.5\mu\text{Sv/h}$ よりも下がる傾向であった。線源の設置の際には確認が必要かもしれない。

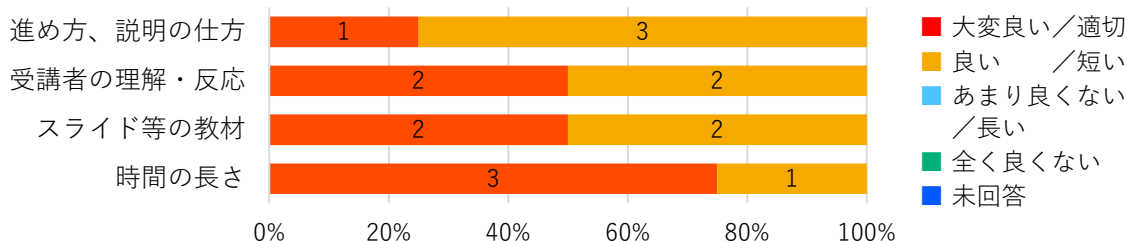
実習 4 環境試料の採取



自由記述

- ・ 外の駐車場の中だったため、かなり暑い場所であった。できれば室内で実施したい。
- ・ 道府県Gでは散水栓からホースで水を出して取水していた。ビデオはしょうがないが、スライドに図などを入れておくと良かったのではないかと（現場説明でも問題はなかった）。
- ・ 実習場所が離れていたため、移動中の時間活用等の工夫が必要と感じた。
- ・ スタッフのサポートで時間内に終了することができた。
- ・ 前日準備の際にダストサンプラーの流量計に不調があり、道府県担当者に交換いただいた。

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 9月実施にしては屋外での活動が暑すぎた。
- ・ 大気、水、土壌はすべて外だったため、机（2階）との移動距離があり、時間がかかった。また、外はかなり暑く、講師の方々も大変だった。1班では水と土壌を一気に実施していたが、これはどうなのか。
- ・ 防護服脱衣の際にタイベックスーツを脱ぐ前に防じんマスクを外すように言ってしまった。途中で逆であることを説明したが、今後注意する。
- ・ 時間がなく振り返りが5分となり、ほとんどできなかった。15分は取れるようにしたい。
- ・ 半面マスクの着用で眼鏡との緩衝が気になった。
- ・ 今回3種類のサーベイメータが新しかったため、搬送時にタッチパネル式スイッチに振れてしまい設定等が変化しないよう注意が必要と感じた。
- ・ 活動中の汚染防止を意識した行動をお願いした。

2-1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ 環境試料を採取・分析する目的についても併せて説明したほうが良いと感じた。
- ・ GeIによる分析も、どのように測定するのか、概要でも説明があると良いと感じた。

- ・ 可搬型MPは組立から実施してもらうのが良い。時間としても10～15分程度で完了するので問題はないと考える。

2－2. 受講者からの質問とその回答

- ・ 【質問】タイベックスーツは防御力があるわけではないのに何で白く、着用する必要があるのか。
- ・ 【回答】ただの汚れ防止用で、白いのは汚れが目立つため。

3. その他の気づき事項

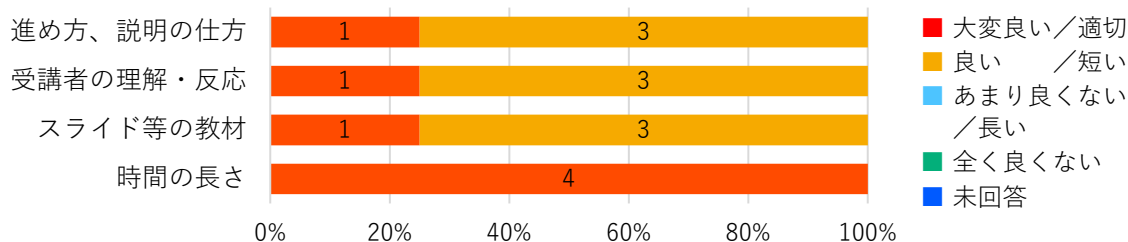
- ・ 班分けをうまく振り分けて、ムダなく活動できていたので、いい時間の使い方だった。
- ・ 9月にしては気温が高すぎるので、屋外活動の是非はある（受講者が倒れたらまずい）。
- ・ 気温が高く、防護装備を着用し訓練できる工夫の必要性を痛感した。
- ・ クールベスト、フードマスクなどの活用等が必要ではないかと感じた。

道府県H 講師アンケート集計結果

回答者数 : 4 名

1. プログラムについて

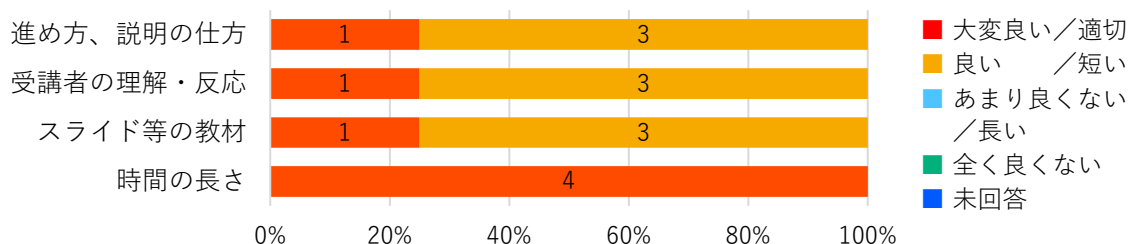
実習1 放射線の性質確認



自由記述

・ なし

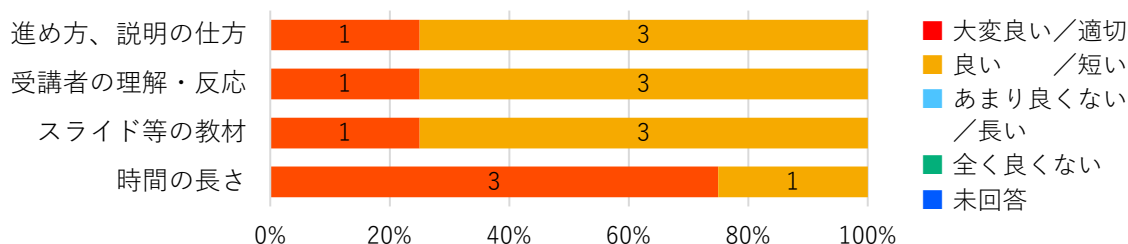
実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

・ サーベイメータの養生もここでしてもらえばよいのでは？

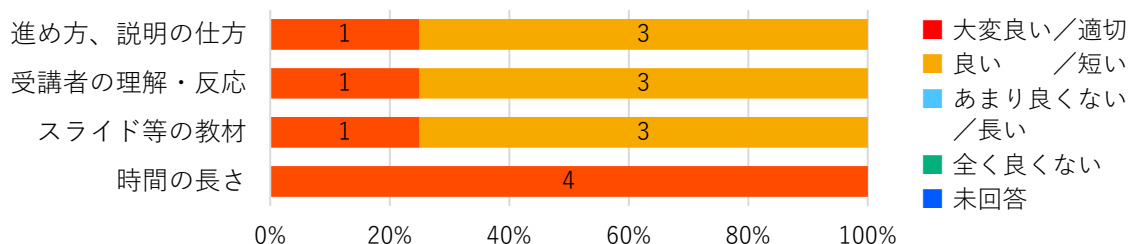
実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

・ 今回会場の関係で、特例で3方向、近接0.5m、1m、2mで実施。時間短縮できた。ちょっと狭いかな？

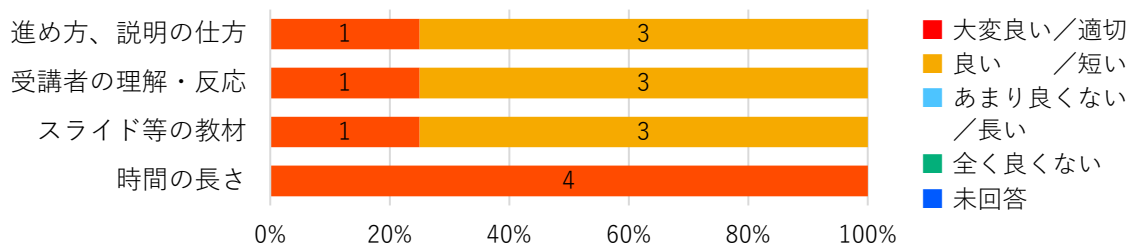
実習4 環境試料の採取



自由記述

・ なし

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ なし

2－1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ 単位等 (Sv、Gy) の話は不要か？

2－2. 受講者からの質問とその回答

- ・ 【質問】飲料水のサンプリングだが、一旦施設のタンクに給水され、そこから配水している場合、どうするのが適切であるか？

3. その他の気づき事項

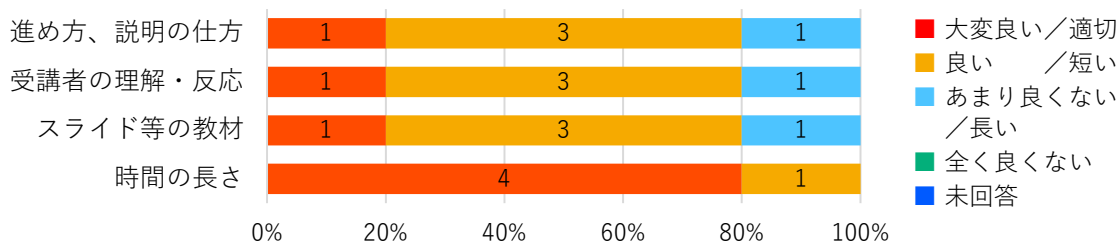
- ・ なし

道府県I 講師アンケート集計結果

回答者数 : 5 名

1. プログラムについて

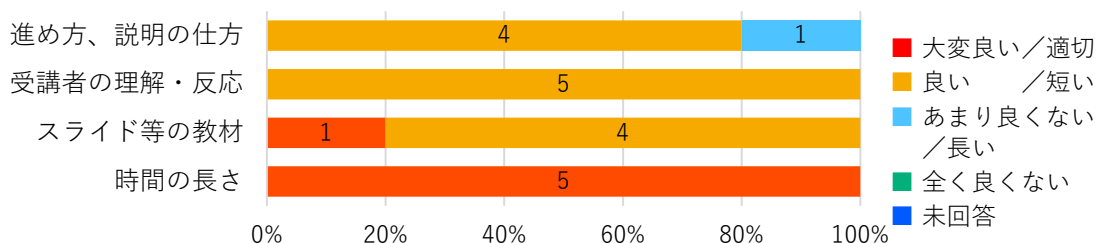
e ラーニングの復習



自由記述

- ・もう少し整理したい。

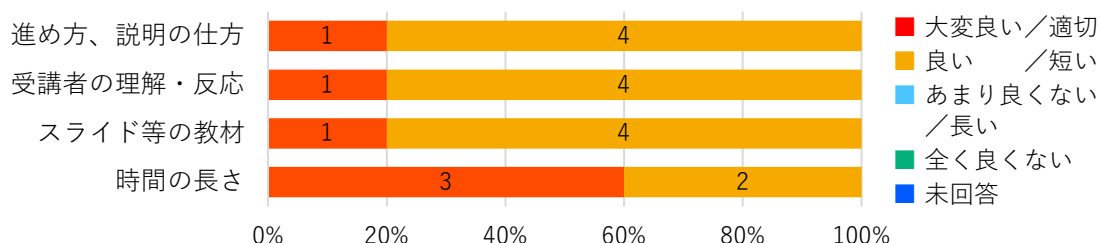
実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・担当しました。NaI使用した時に距離と線量の確認をしたかったのですが忘れてしまい、GM使用時に思い出して、確認してもらいました。
- ・スライドページ47の距離による減衰の確認をP25へ移動した方がよい
- ・実習による理解がよいと考えられる。

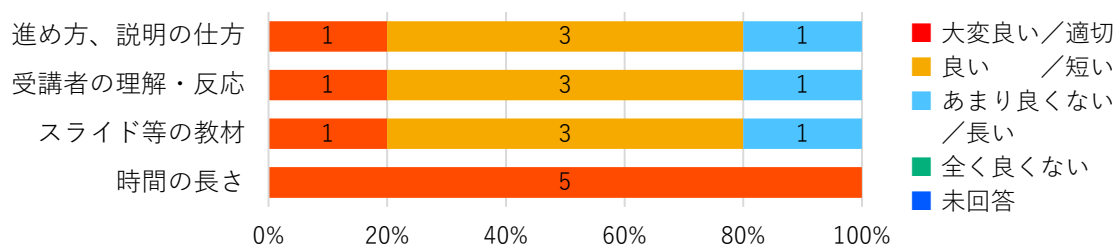
実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・「取説」カード（可搬MP用）も見せればOK
- ・可搬型MPだけの説明で、できれば他の内容もあった方がよいのではと考える。

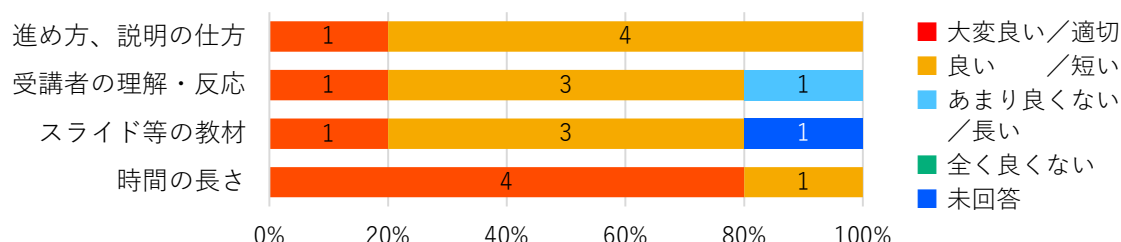
実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 資料順の再考を検討したい。

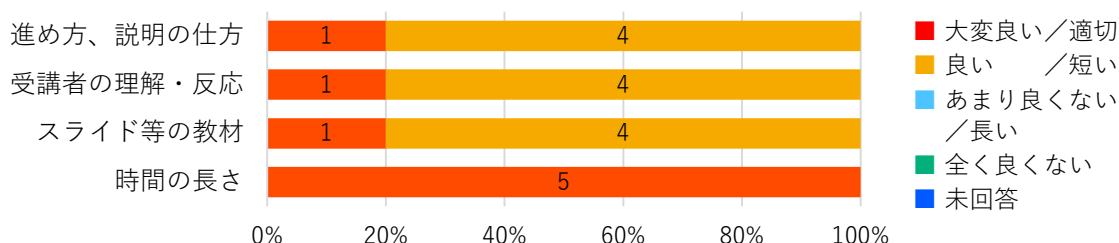
実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ 環境試料採取のプログラムはやはり必要である。
- ・ どういう場面の作業か、理解が不十分と感じた。

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 一通りの活動が行われており良好。
- ・ 簡易除染は視覚効果があり良好である。
- ・ 汚染検査の記録用紙がなかったので、つけたほうがよい。
- ・ 時間的余裕があり十分であった。

2-1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ 演習（屋外モニタリング）時、カメラ等もポリ袋に入れてもよいのでは？
- ・ 各サーベイメータの推奨時定数がガイドブックに詳しく記載されている。各機材で大きな違いは内容なので、覚えておくとうい。

2-2. 受講者からの質問とその回答

- ・ なし

3. その他の気づき事項

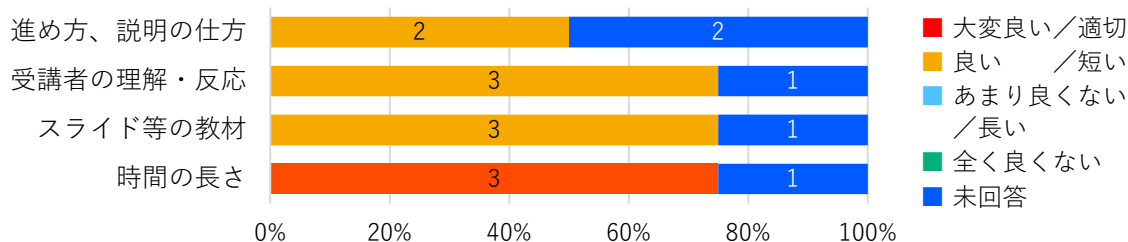
- ・ 大変くだらないことですが、この地域ではショベル（シャベル）はスコップという。ショベルは足を使って土を掘る大きいタイプのものを言うことが多い。でも分かりはすると思う。
- ・ 最低でもこのくらいのカリキュラムが必要と思料。道府県0の訓練は短すぎる。
- ・ 説明不足な点が多々あり、準備不足を感じた。

道府県J 講師アンケート集計結果

回答者数 : 4 名

1. プログラムについて

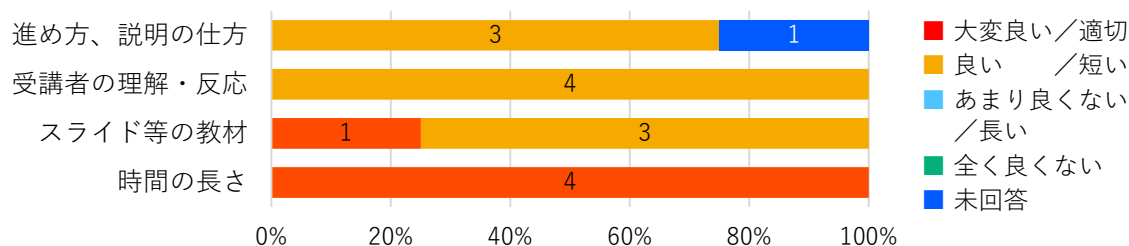
● ラーニングの復習



自由記述

- ・ なし

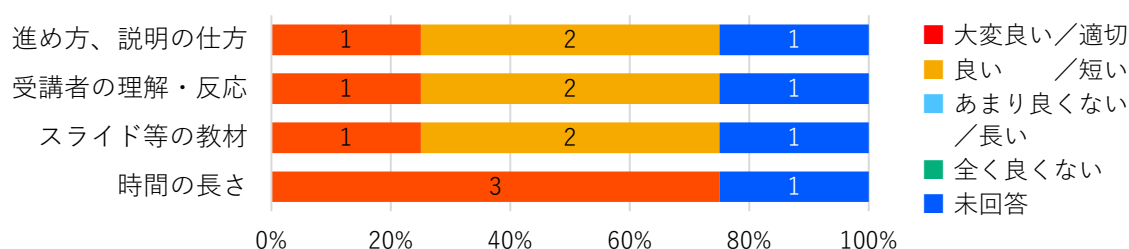
実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ 相変わらず時間が切迫して申し訳ありません。
タイムテーブル内で進行していただきましたので助かりました。

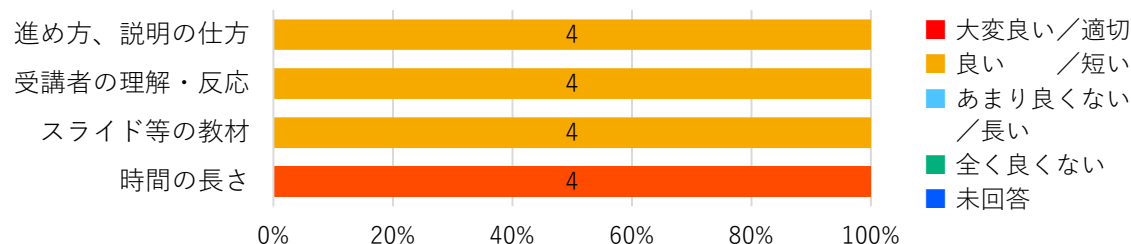
実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ ラミセスを大画面で見た方がよい
- ・ 測定地点へ行く前にBGを測定するようお伝えするのを忘れておりました。
- ・ ※タブレットのに入ったバック内の乾電池の容量小があった。

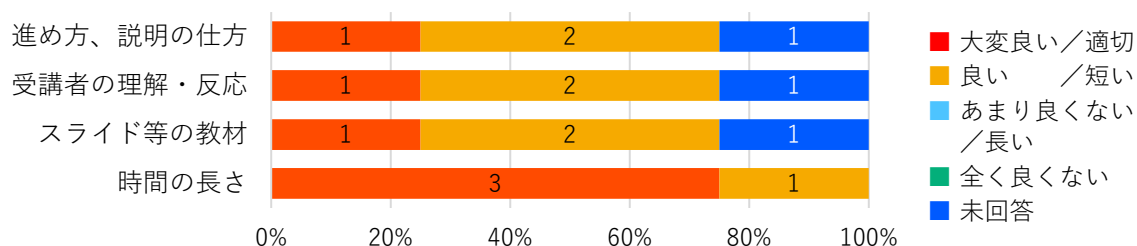
実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ ラミセスの説明が詳しく良かった。

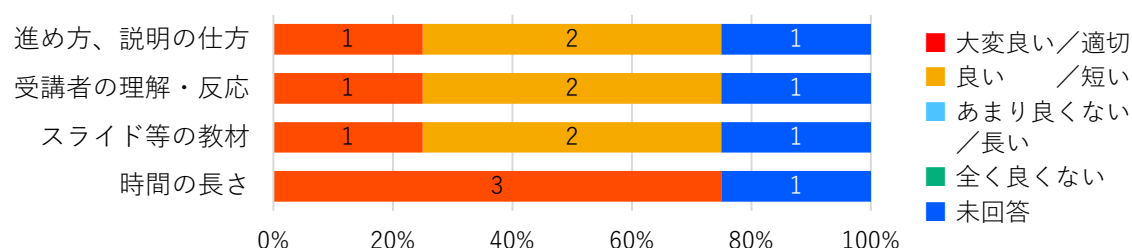
実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ 午後でも良かった
- ・ 手袋の着脱方法をやる時間を入れるとスムーズに行く
- ・ 今回は3名の班が主だったので人員が4名であればという意見が出たが、中村上席いわくおそらく2名とのことで、より煩雑であるだろうことが分かった。

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ グループによって時間が異なるので、遅い所は積極的に講師がかかわる
- ・ 資機材確認は複数（ダブルチェック）点検が必要
- ・ 小物は予備をプラスアルファ
- ・ 汚染拡大の見える化及び簡易除染は教育効果が高いと思う。

2-1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ 養生をまず行うことを認識させる必要あり
- ・ 道府県Jに「準PAZ」あり（離島）
- ・ 緊急時モニタリング活動は汚染地区に出動するということを認識させる必要がある。
- ・ 防護具の着脱については手本として見本を見せた方がよいと思う

2-2. 受講者からの質問とその回答

- ・ なし

3. その他の気づき事項

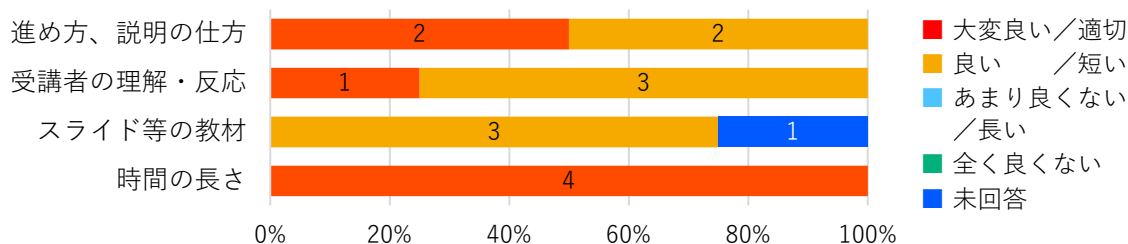
- ・ 演習で資料を収める内袋（つまり2重にする）を迷う方がいたので、できれば実習4の時に説明するのが良い。

道府県K 講師アンケート集計結果

回答者数 : 4 名

1. プログラムについて

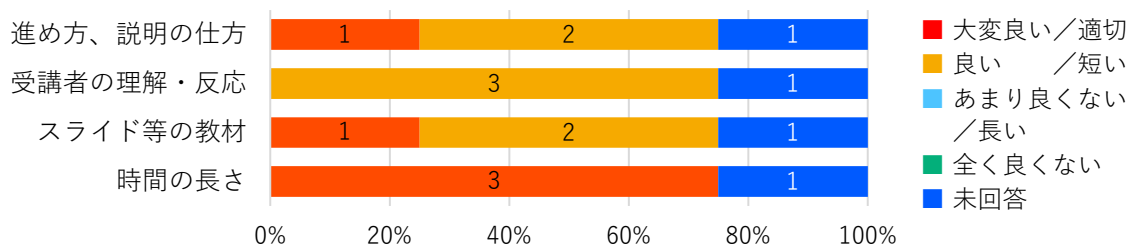
講義 道府県Kの体制について



自由記述

- ・ 初級の人にはやや分かりにくい点もあったような気がする。

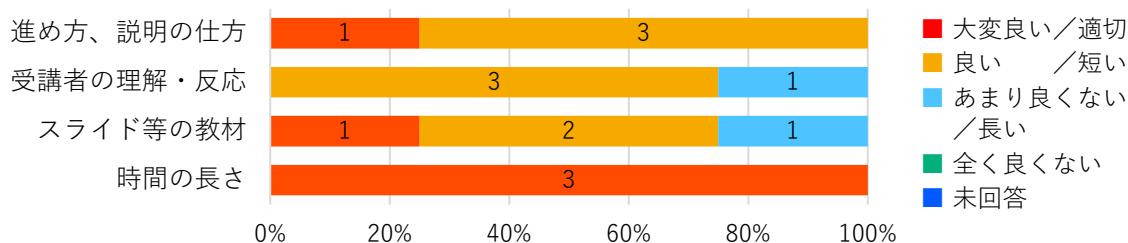
実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ 実習の際に受講者が作業中に、講師が先に説明を進めてしまった場面があった。進み具合を確認してから説明をしたほうが良かったと思う。
- ・ 装置の説明をスライドでするのみで、実験時に初めて操作をさせる流れだったが、スライド説明をしながら操作する方が良かったと考える。
- ・ あくまでも初歩的な内容であることも理解させる。

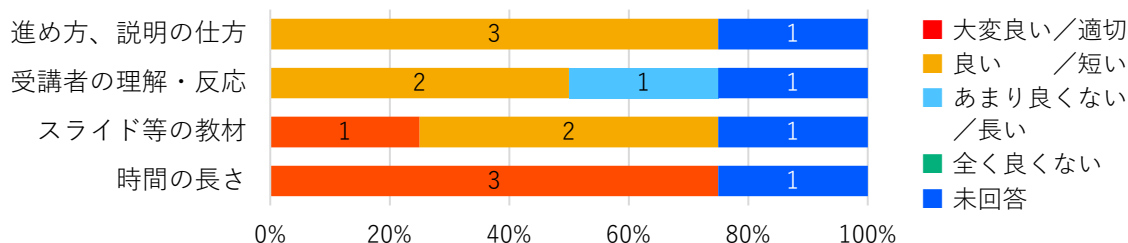
実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ スライドはアロカ製の可搬型MPであったが、実際には富士電機製のものであり、検出器等の構成も異なっていた。持ち運ぶにも重く実際にどのように使用しているか、担当者に事前に確認をしておいた方が良かった。また、取説を見せていただいた方が良かったと反省している。
- ・ 教材も教え方も良いが、初めての受講者は全部分からないと思う。

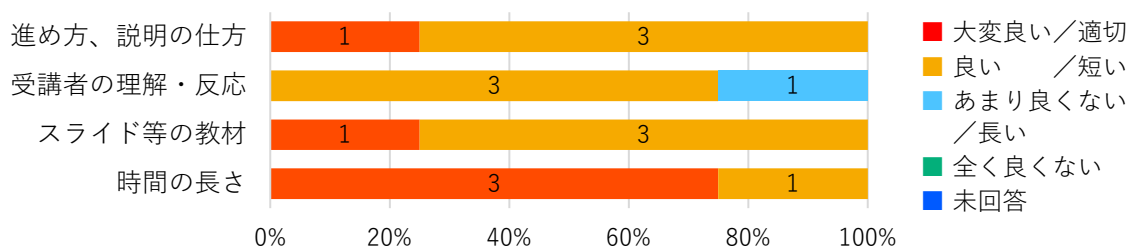
実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 実習4担当のため、見ておりませんのでコメントなしです。
- ・ 初級レベルとしては良いと思うが、初めての受講者にはとまどう面もあった。

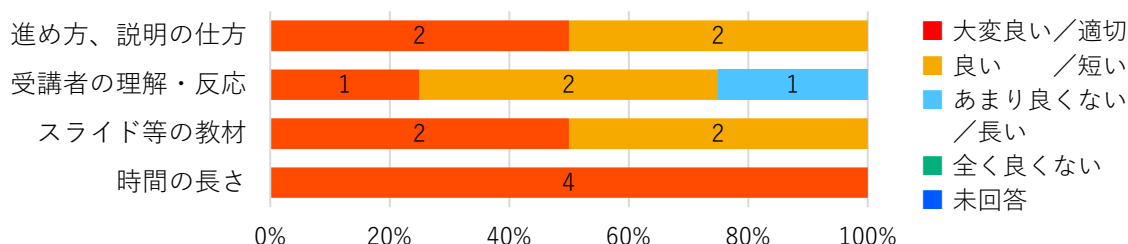
実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ 道府県Kの機材がスライドと異なっていたので、次回は同じ装置でスライドとしたい。道府県Kのマニュアルがあれば確認したほうが良かったと反省する。午後の演習では各班ともスムーズに試料採取ができており、理解ができていたと思う。
- ・ 初級レベルとしては良いと思うが、初めての受講者にはとまどう面もあった。

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 今回は防護服着用しての作業ではあったが、各班ともに順調に作業を行っており、スムーズであった。
- ・ ダストサンプラーでは、線源を配置したためシンチと電離箱で2度空間線量率を測定したこともあり、次の班が待つ時間があった。次回は2式用意したほうがもっとスムーズに流れたと思う。(1式で良いと言ったのは加藤ですね。)
- ・ 経験のない・少ない受講者もいたが、担当した班の方は皆、熱心に学んでおられました。一回だけでなく今後も受講していただければと思います。
- ・ 初級レベルとしては良いと思うが、初めての受講者にはとまどう面もあった。

2-1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ モニタリング活動で事前の準備が重要です。採取した資料を入れるビニール袋への必要な記載事項等は準備時に記載するようにさせたので、その分スムーズにいったと思う。但し、記載事項の記載漏れもあったので、テキストに写真で用意するとわかりやすいと思う。
- ・ 忘れ物をする班がいくつかあった。備品確認については注意を促したい。
- ・ 脱衣と被ばく管理もスライドがあると良い。

- ・ リーダーは常に声かけをするように。
- ・ どんな時も自分の放射線環境を把握すること。
- ・ 自分の被ばく線量を常にサーチしておくこと。

2-2. 受講者からの質問とその回答

- ・ 【質問】屋外での蛇口からの水の採取の際に空間線量率を測定する必要があるのか。
- ・ 【回答】現場の状況がどのような環境であるか確認する必要がある。現場ですぐにわかるのは空間線量率のみである。
- ・ 【質問】土壌の採取の際に周辺の空間線量率に違いがある場合にはどこで採取するのか。
- ・ 【回答】大きく異なる場合にはホットスポット等も考えられるが、状況を連絡班に問い合わせ、指示を確認する。

3. その他の気づき事項

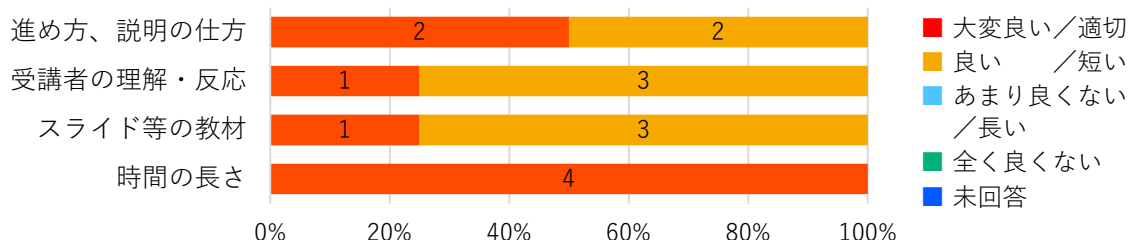
- ・ 今回は5班（18名）だったが、部屋が少し狭かったようです。隣の部屋と一緒にできたので、今後は人数によっては部屋を大きくした方が良いです。

道府県L 講師アンケート集計結果

回答者数 : 4 名

1. プログラムについて

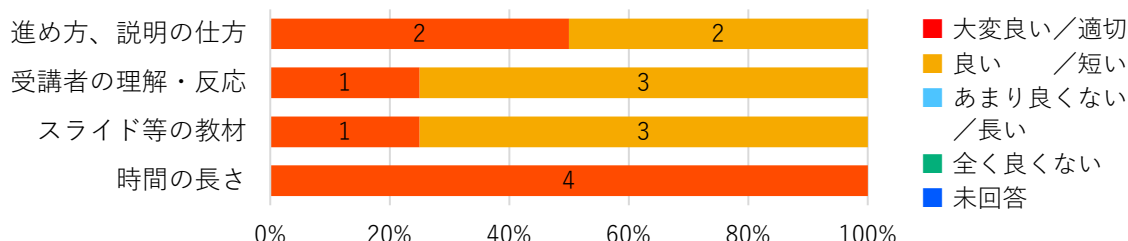
実習1 放射線の性質確認



自由記述

- 講師の説明は講習受講者は初見の資器材であったとしても充分理解できる具体性のあるものであった。随所に「例え」が多用されていることで分かり易さが増していた。受講者は納得できたタイミングでうなずいており、理解されている様子がうかがえた。資料に蛍光ペンでマーキングする姿が印象的であった。

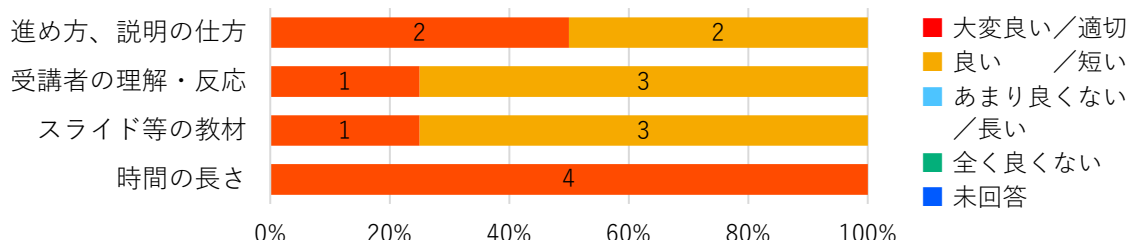
実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- 実物の無い中での説明であり、厳しい状況下ではあったが、分かり易く説明されていた。「取り外し」等の操作はさすがに写真ではイメージの限界があるため、一部映像化する等、更なる教育効果の向上は余地があると思った。ところどころ、講習、講義のサポートを周りのスタッフが行っていたが良い連携でした。

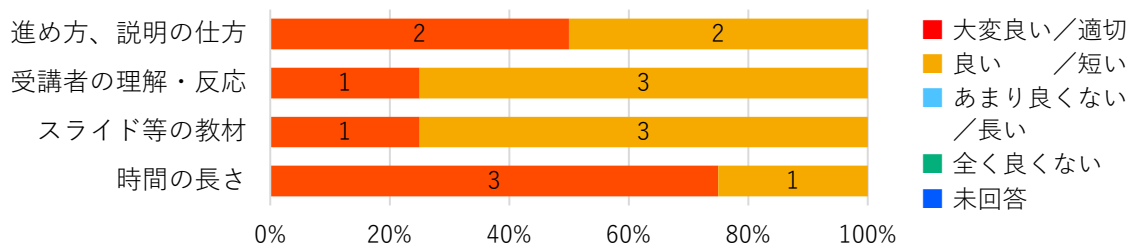
実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- 具体的な測定要領と注意すべき点は受講者の関心が特に高まった内容であったと感じた。受講者はチームとしての活動、かつ交代しながら各役割の体験をした。また、講義中の着意事項を守って行動した。測定時の写真撮影について、撮った写真の講評（良いもの、悪いもの）をすれば、どんな写真を何のために撮るのが、より理解できると思われる。（意味不明な接写になっていたところもあり。）

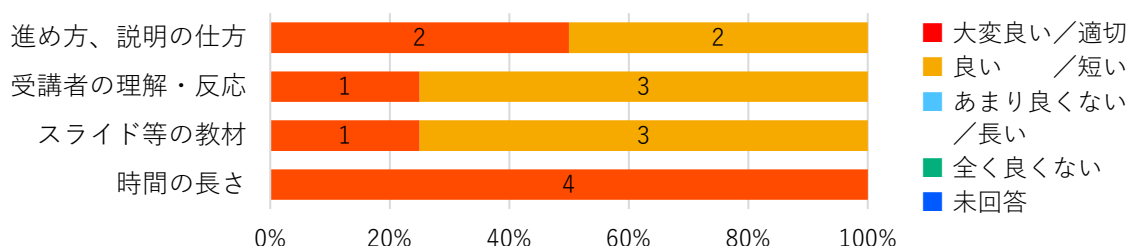
実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ 飲料水の採取ビデオは聞き取りが困難であった。ただし、字幕の存在は補完となっていた。土壌の採取は実演しながらの体験となったほか、着意事項を聞きながらであったため、理解が容易であったと思われる。

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 可搬型MP+ラミセスがあり、屋外で実施したことで、効果的な実習ができた。
- ・ 班長を中心としたチーム、班活動させることで活性化していた。受講者は殆ど助言を必要とせず、指示書に沿った試料採取を的確に行った。

2－1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ NaIサーベイメータの基本は5回の平均として例外を作らないことを基本とするのか、1回の計測であったとしても目的に応じて良しとするのか、の頭揃え。

2－2. 受講者からの質問とその回答

- ・ 【質問】採取する人と補助する人は分けた方が良いのか？
- ・ 【回答】分けた方が良い。汚染を広げないため。

3. その他の気づき事項

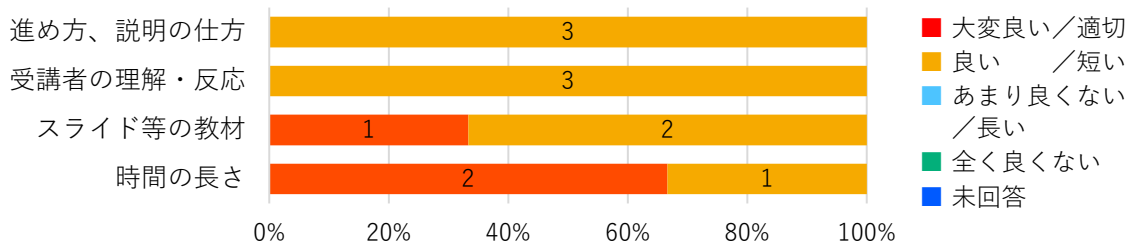
- ・ 説明中に、ケータイが鳴動してしまいました。マナーモードにすべきだった。
- ・ 本講習への参加者数が昨年と比べ、増えていることを確認致しました。（私も知識の再確認ができました。）お疲れ様でした。ありがとうございました。

道府県M 講師アンケート集計結果

回答者数 : 3 名

1. プログラムについて

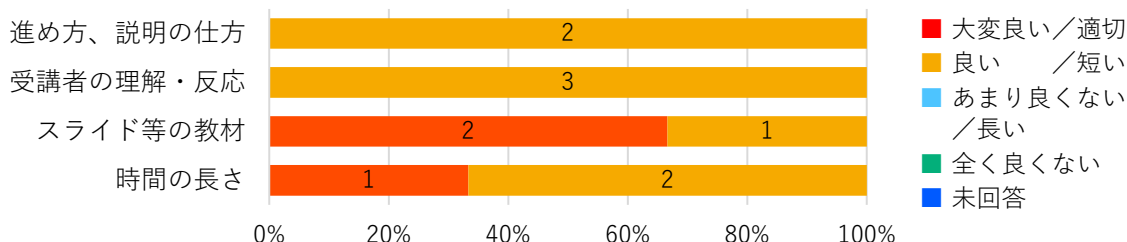
講義 道府県M緊急時モニタリング計画等について



自由記述

- 放射線測定器の名称の言い間違い（“NaI”）があり、特に初めての方は混乱したのではないか？

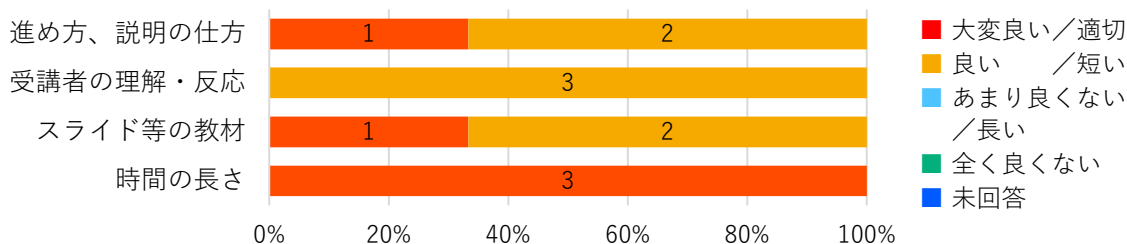
実習1 放射線の性質確認



自由記述

- 講義・実習の時間はもう少し余裕があった方が良い。

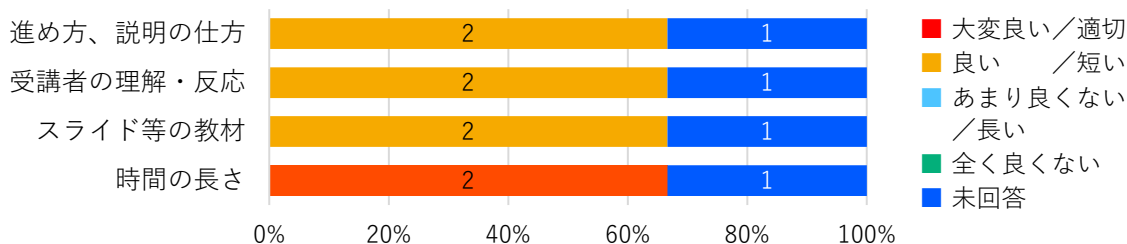
実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- 可搬MPによりGPS取得データ転送ができたこと
- 確認のためHPを使用した、ラミセス等があればなお良い

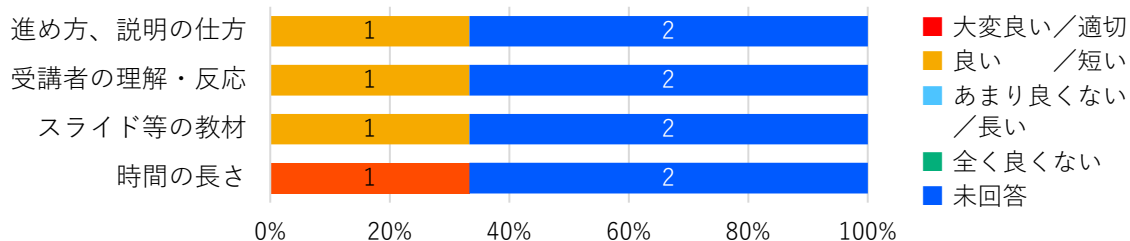
実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- なし

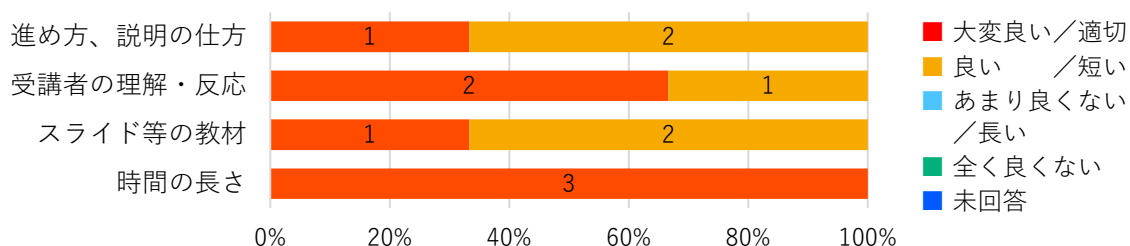
実習 4 環境試料の採取



自由記述

- ・ なし

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 汚染除去のデモンストレーションはわかりやすくよかった。

2-1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ なし

2-2. 受講者からの質問とその回答

- ・ 【質問】実験風景の写真を撮ってよいか？との質問がありました。

3. その他の気づき事項

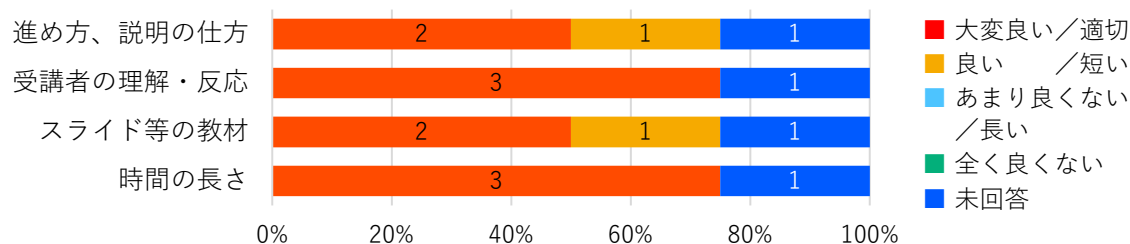
- ・ 事業者として本講座の開催、大変感謝申し上げます。

道府県N 講師アンケート集計結果

回答者数 : 4 名

1. プログラムについて

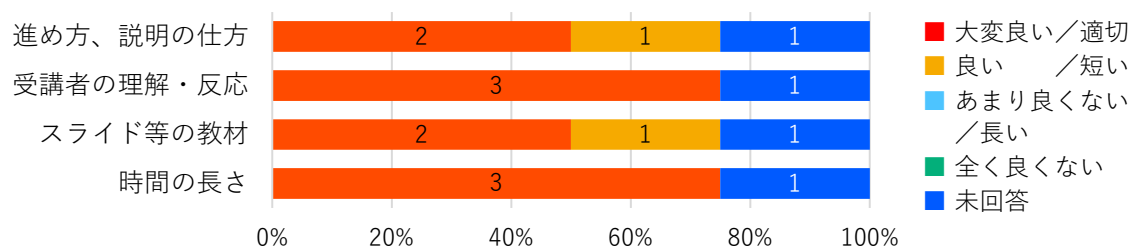
実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ なし

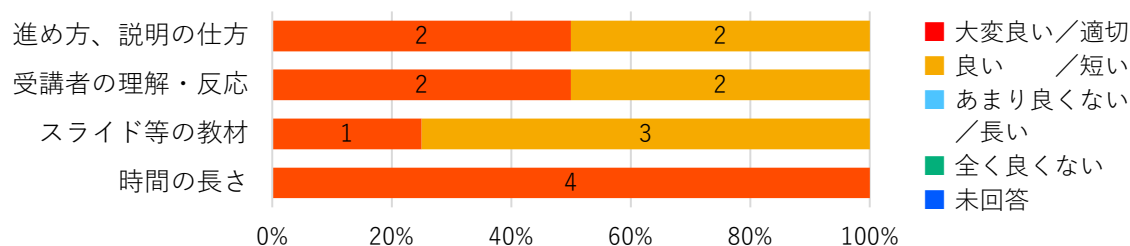
実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ 新しい機材の情報（電源のスイッチのこと）を書いてあるとよいと思いました。

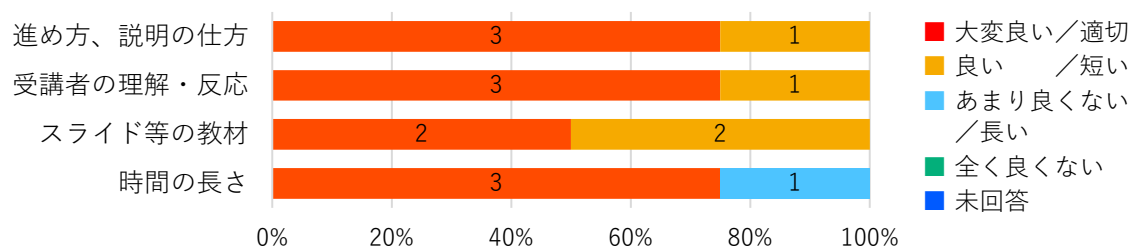
実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ なし

実習4 環境試料の採取

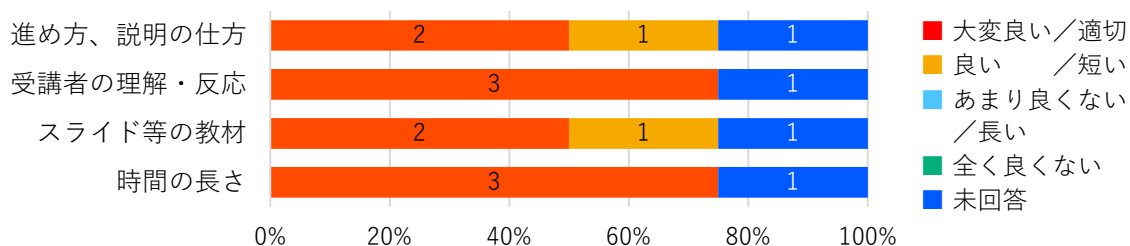


自由記述

- ・ 初めて担当された講師の説明・対応ぶりがすばらしかった。
- ・ 非常に丁寧に説明されていたので、理解は深まったのではないのでしょうか。

- ・ 使ったサンプルの説明があると良いと思います。

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ なし

2-1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ なし

2-2. 受講者からの質問とその回答

- ・ なし

3. その他の気づき事項

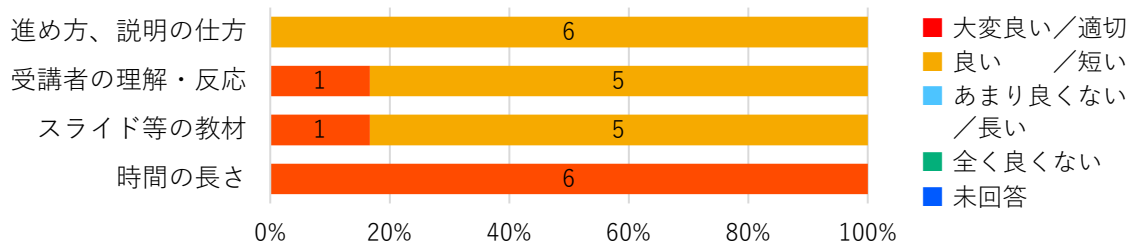
- ・ 少ない講師陣でも、講座もしっかりできるものですね。

道府県0 講師アンケート集計結果

回答者数 : 6 名

1. プログラムについて

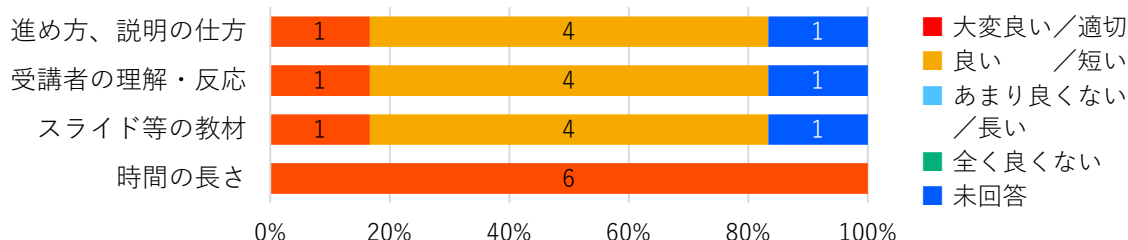
実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ 予定55分のところ60分にしていた。早々に判断して下さいありがとうございます。ガンマ線、ベータ線に対する遮へい効果のグラフが非常に有用です。

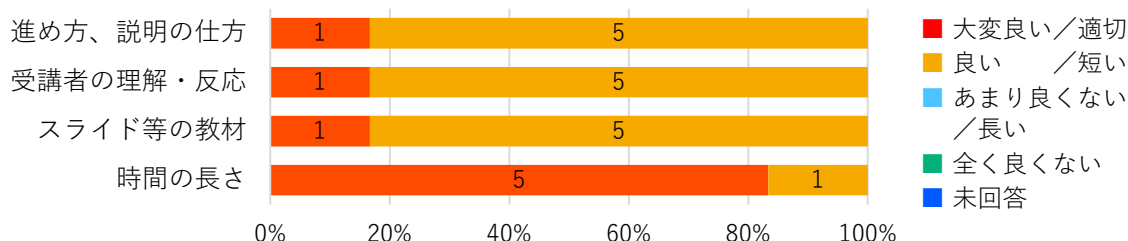
実習2 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 同じ距離のpointは1つにしたので時間短縮になった
- ・ 測定位置を工夫しており良かった。実効中心、距離の説明が分かりやすく大変よく伝わったと思う。

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ タイベックスーツの着脱があった方が良いと思う。
- ・ 受講者が多いためやや駆け足になっている。仕方なし？
- ・ 2グループの同時進行のタイミングを決めておくとうい
- ・ 急きょ廊下にもう1か所測定ポイントを設けておられ大変スムーズに進んだと思う。
- ・ 時間が若干短いと感じた。

2-1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ 除染のやり方は基本「ふき取り」
※水の使用は汚染水の処理の問題の方が大きいため
- ・ TCの設定について（機器によって異なるので）統一しておく

2－2. 受講者からの質問とその回答

- ・ 【質問】 除染法は通常の食器用洗剤でも可能か？
- ・ 【回答】 可能だが汚染水が残るため可能な限りふき取り
- ・ 【質問】 時定数の考え方で、線量が全く分からない時は？
- ・ 【回答】 ひとまず時定数10にしておきスタートする。

3. その他の気づき事項

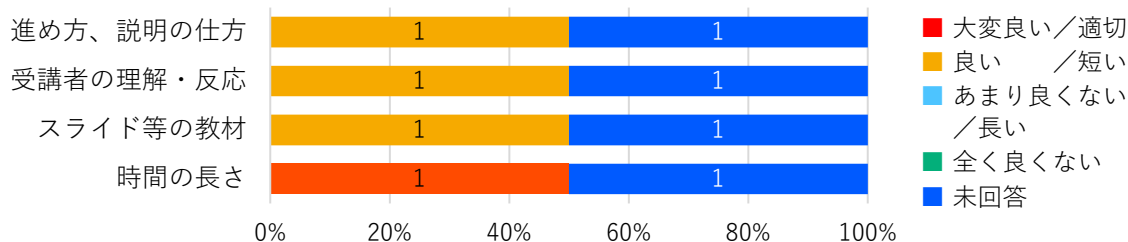
- ・ 4、5班の演習順が同一でしたので、測定以外是一緒に行動するようにして、少し時間を節約しました。
- ・ 時定数の変更とか、なぜ変更するとか説明と理解が足りない様だった。
研修参加者のレベルに応じた配慮を感じる。
細かい点で追加説明が必要と感じた。

道府県P 講師アンケート集計結果

回答者数 : 2 名

1. プログラムについて

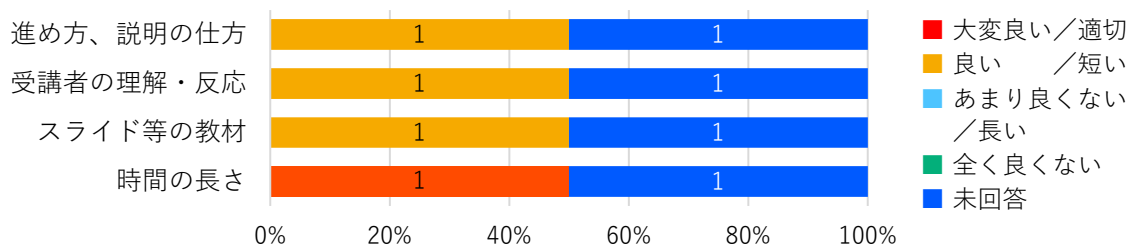
実習1 放射線の性質確認



自由記述

・ なし

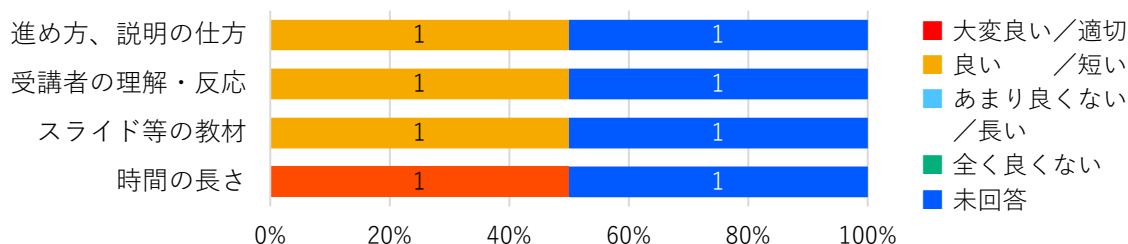
実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

・ なし

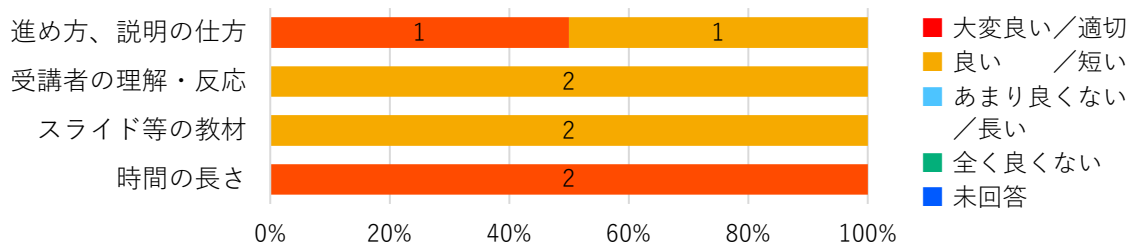
実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

・ なし

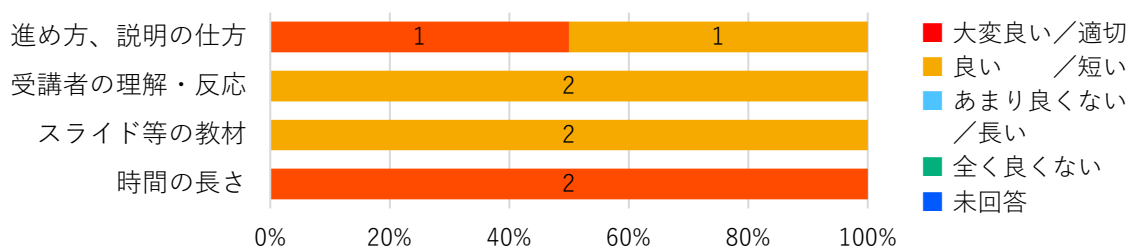
実習4 環境試料の採取



自由記述

・ なし

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 場所が狭かったため、線量率測定を簡略化したのは良かったのではないかと。

2－1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ 可搬型MPはバッテリーの重さも体感してもらった点は良かった。
- ・ 可搬型MPの説明は、所有する県等からして頂く方が、講師の負担が少ないのでよい。

2－2. 受講者からの質問とその回答

- ・ なし

3. その他の気づき事項

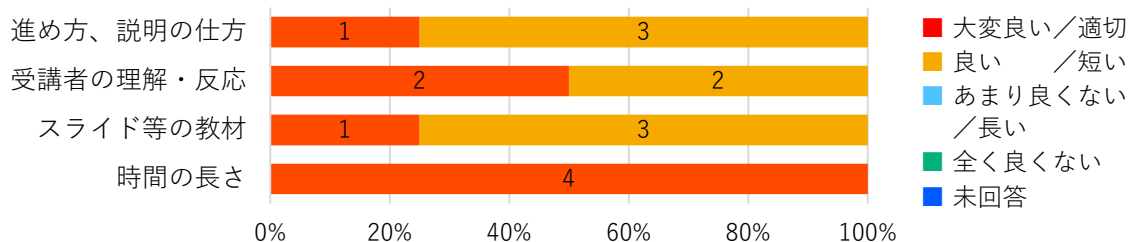
- ・ なし

道府県Q 講師アンケート集計結果

回答者数 : 4 名

1. プログラムについて

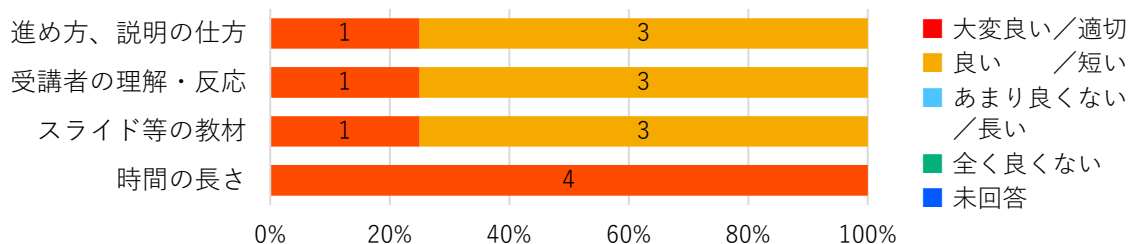
実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ 大変テンポよく説明されていたのが印象的でした。受講者も積極的で、最初に目的、目標を明確にされてたのが良かったと感じました。

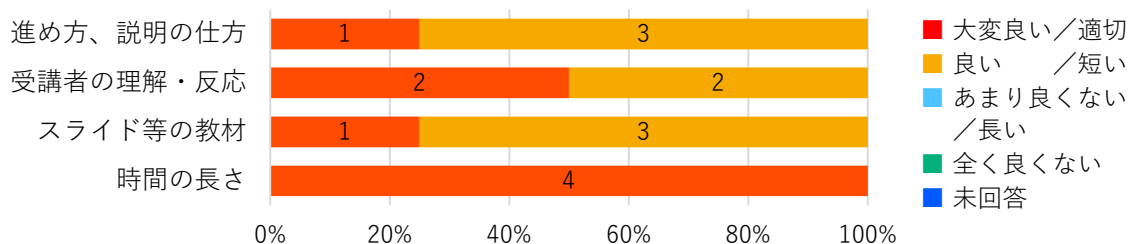
実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ 暑くない場所に設置して欲しかったなあ。

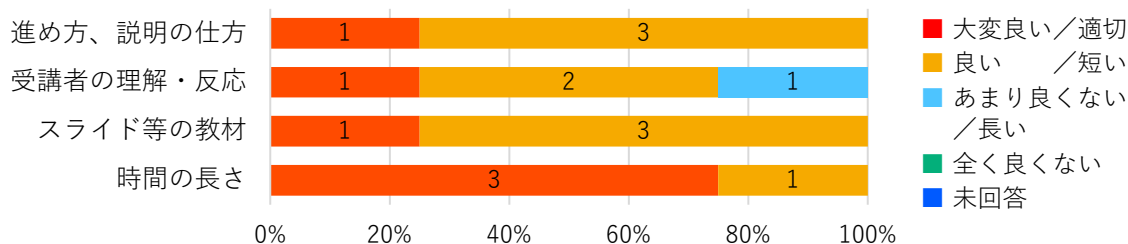
実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 混雑する測定班をうまくさばいていたと思います。この実習はもう少しエリアを広くとったらいいのにと毎回感じます。

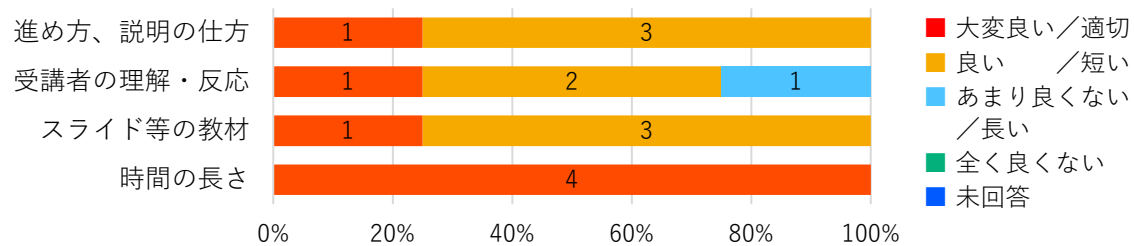
実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ 手袋の交換、工具の除染などのレク中に少し疑問に感じる箇所があった。屋外活動における試料コンタミ防止、工具使いまわしの汚染拡大防止はもっとシビアに説明した方が良かったと感じた。

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 測定項目（空間線量率測定）を省略して、他の測定に含めたため適切な時間内で終了できた。
- ・ もう少し詳細な手順書があった方がいいと思う。

2－1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ なし

2－2. 受講者からの質問とその回答

- ・ なし

3. その他の気づき事項

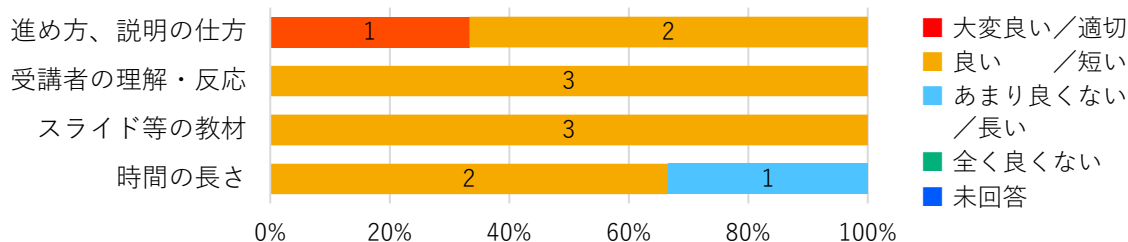
- ・ 毎回このアンケートいる？年々暑くなっているので屋外の活動をできるだけ少なくする様な工夫をして欲しい。

道府県R 講師アンケート集計結果

回答者数 : 3 名

1. プログラムについて

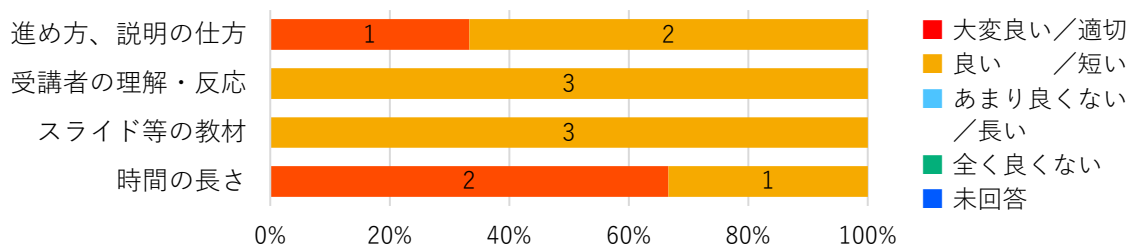
実習1 放射線の性質確認



自由記述

・ なし

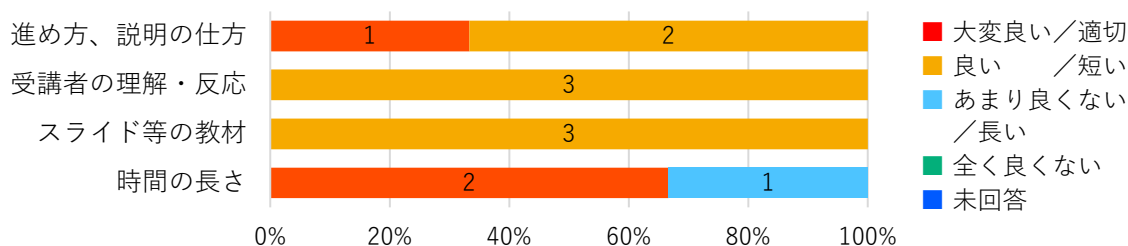
実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

・ Acrobatのライセンス切れのため、資料（PDF）を表示できなかった。

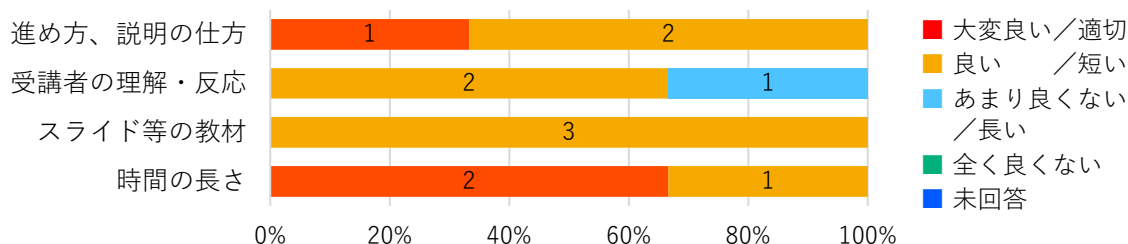
実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

・ なし

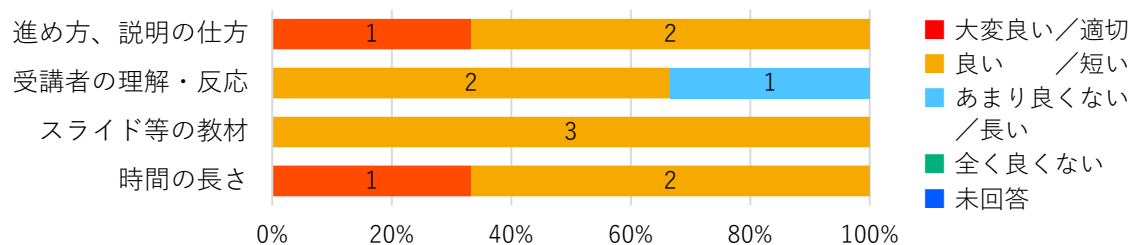
実習4 環境試料の採取



自由記述

・ なし

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ なし

2－1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ なし

2－2. 受講者からの質問とその回答

- ・ 【質問】 あり
- ・ 【回答】 色々、都度回答

3. その他の気づき事項

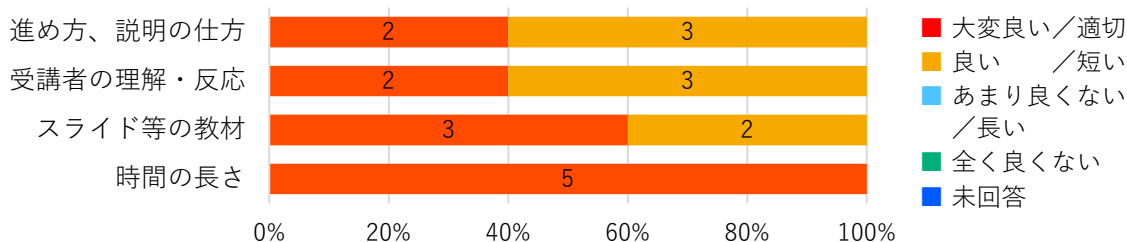
- ・ なし

道府県S 講師アンケート集計結果

回答者数 : 5 名

1. プログラムについて

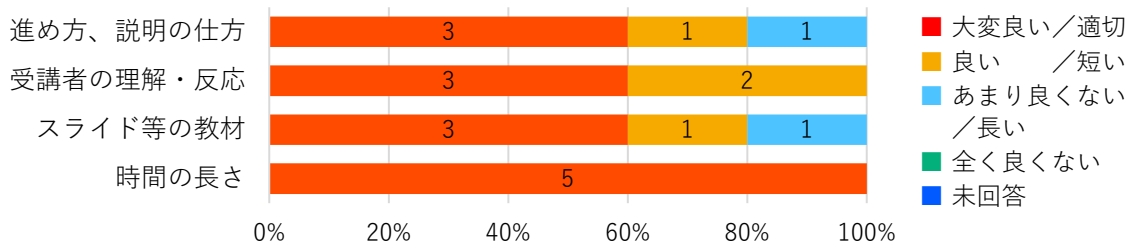
実習 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ 資機材の数が多く、受講者も大変だったのではないかと思います。
- ・ 大気モニタ・ヨウ素サンプラは、特に現物がなくわかりにくいだろとうと感じた。

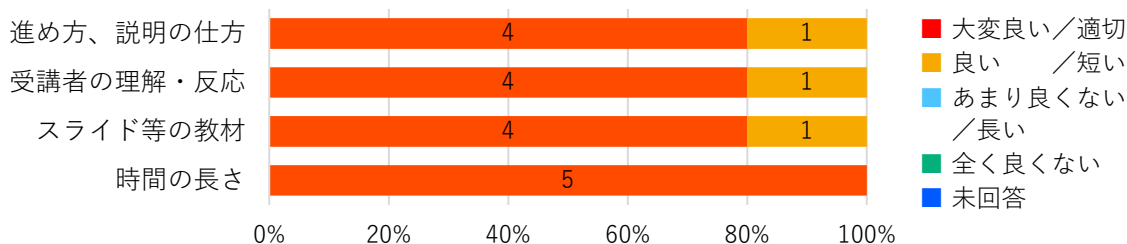
講義 環境試料（飲料水・土壌）の採取



自由記述

- ・ 教材と資機材に違いがあるので、教材は参考資料として説明。
- ・ （道府県Sの）資機材にブラシなどが無い。

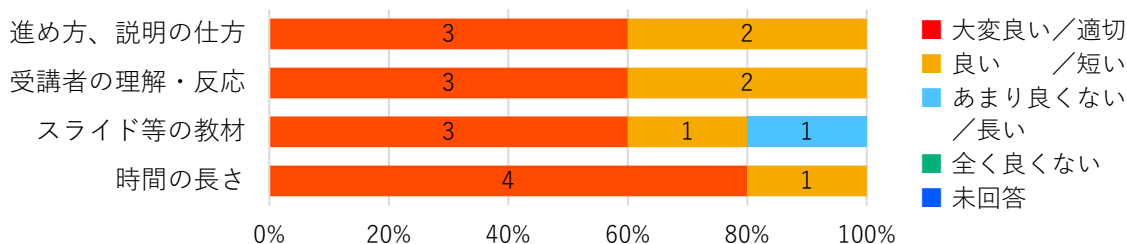
演習 緊急時モニタリング活動＜出動準備＞



自由記述

- ・ なし

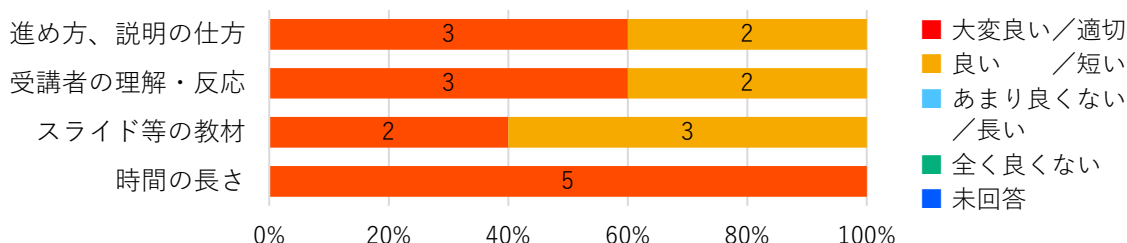
演習 緊急時モニタリング活動＜測定・採取＞



自由記述

- ・ 土壌採取については、ローテーションで全員が一通り体験できるようにした方が良いのでは（色々ルールがあるので）。
- ・ 雨が降るかどうか、少し省略した説明だった。
- ・ 大気モニタは実際にろ紙回収ができると良かった。
- ・ ヨウ素サンプラのカートリッジ作成・組み立てができて良かった。
- ・ 可搬型ポストは、データ伝送までできたのは良かった。

演習 緊急時モニタリング活動＜帰還・被ばく管理＞



自由記述

- ・ 防護服の着脱作業を実施したのは良かったと思う。
- ・ 実際に使用する施設を使ったことで、良い訓練だったと思う。

2-1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ ガイドブックP64～P65の規制事務所の富士電機製簡易型MPは、全国で廃棄となったので、次回から削除してはどうか。
- ・ また、富士電機の可搬MPが納入済みなので、そちらに資料を更新してはどうか。
- ・ 試料（土）採取容器の外側についての土壌処理について。
- ・ 可能ならデータ伝送を行いたい。
- ・ 指示書が複数枚になっているときは、その理由を説明した方が理解が深まる。

2-2. 受講者からの質問とその回答

- ・ なし

3. その他の気づき事項

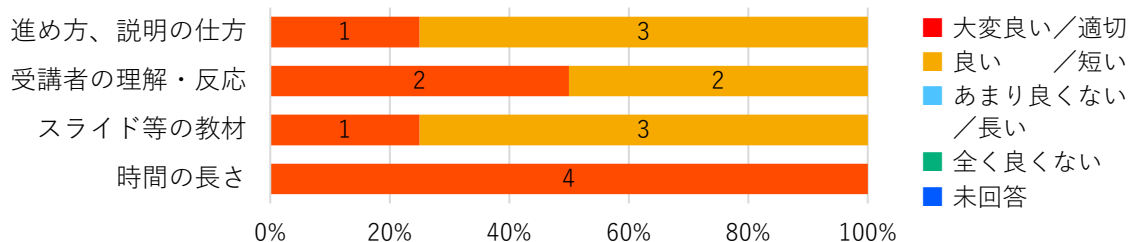
- ・ モニ技術基礎講座として、初めての試みを多く採用し、参加者にとって大変充実し、有意義な研修であったと思う
 - － 走行モニタリング実走（ラジプロブ操作含む）
 - － 大気モニタ（ろ紙交換要領含む）
 - － ヨウ素サンプラ（カートリッジ回収含む）
 - － 可搬MP設置、作動
- ・ 昨年度より内容がブラッシュアップされ、より実用的な講座となり有意義であった。
- ・ 次年度もより現場作業に沿った内容で実施して頂きたい。

道府県T 講師アンケート集計結果

回答者数 : 4 名

1. プログラムについて

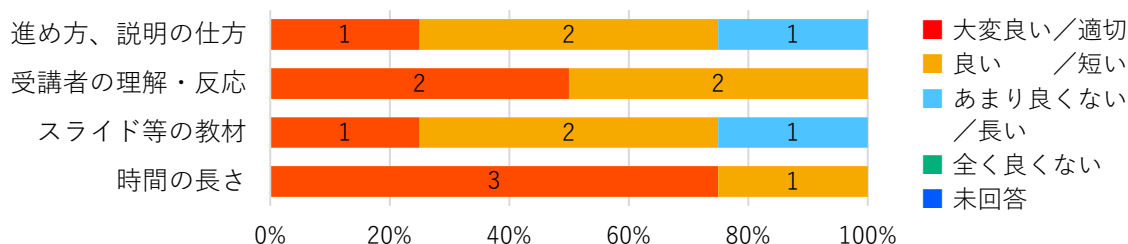
実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ 経験者が多く、サーベイや個人線量計の取り扱いは問題なく進んだ。

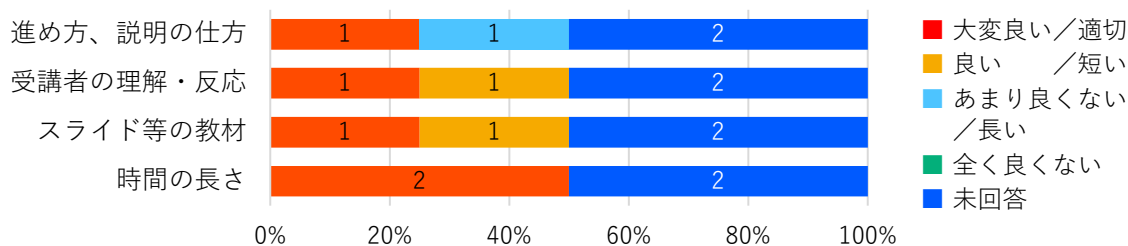
実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ 必要なことにはもれなく言及しており、参加者も理解している様子であった。
- ・ αと中性子の両方の設置であったが、問題なく進んだ。

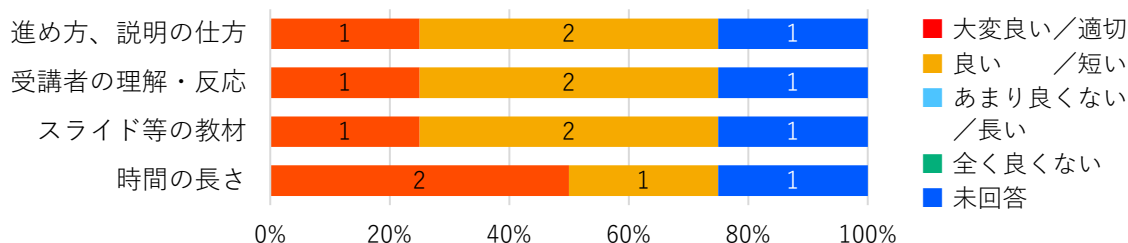
実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 3と4は別室が望ましい。参加者が多いため、同時並行をせざるを得ないのは理解。
- ・ 講師が度々線源と測定点の間に入った。測定点より内側に入らないよう徹底する。

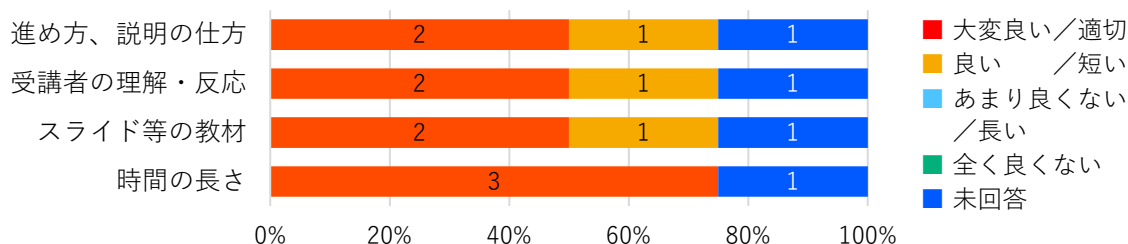
実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ 水のスライド、土壌、大気の採取を行ったか。道府県Tのマニュアルに従い、コンテナ内の土をU8容器で採取した。
- ・ 水の採取に際しては道府県Tのマニュアルでは共洗いが記述されていないので、行うこともあったと説明した。

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 屋外活動でのモニタリングの大方の種別が盛り込まれており、充実した内容の企画であった。受講者は真剣に取り組んでおり、良好な研修となった。
- ・ 模擬汚染を用いた手袋の脱装、除染は普通なかなか経験できない実習であり、有意義だった。
- ・ 経験者が多く、活動自体はスムーズに進めたが、帰還時の脱装等については、多分初めての方が多いのか、脱衣手順に戸惑う方が見られた。

2-1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ なし

2-2. 受講者からの質問とその回答

- ・ なし

3. その他の気づき事項

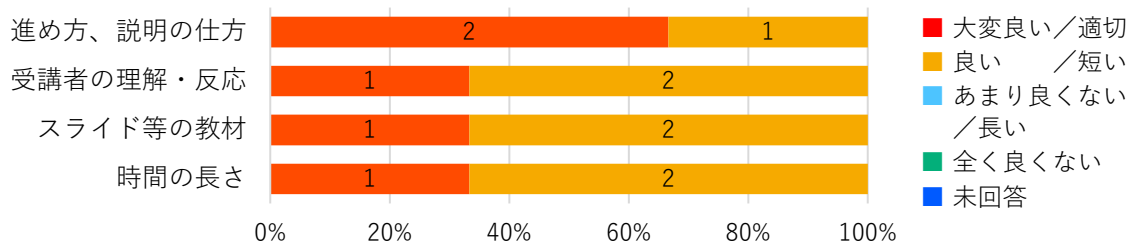
- ・ 4班構成のため、実習3と実習4を並行して、2回実施したが、大会議室のみの使用に限られていたため、講師も小声で輻輳しないように気を付けていたので、やりづらかったのでは？せめて別の部屋でやりたかった。
- ・ 汚染の見える化、簡易除染は良かったと思います。
- ・ 実際の活動では車内外の出入りがあり、シューズカバーの取り扱いやドライバーによる写真撮影等があるので、実際の車の乗り降りについて活動できれば良いと思いました。

道府県V 講師アンケート集計結果

回答者数 : 3 名

1. プログラムについて

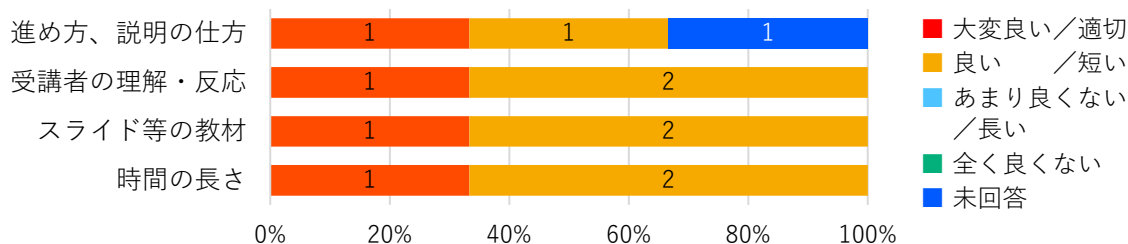
実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ 短い時間でうまくまとめていたと思います。しかし、実習1は基礎なのでもう少し時間があつた方がよい。

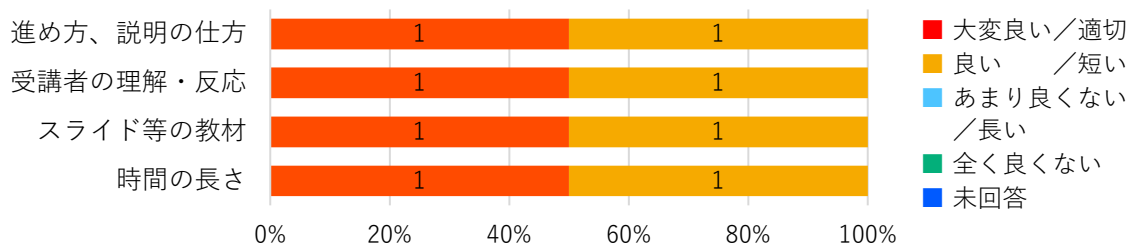
実習2 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ なし

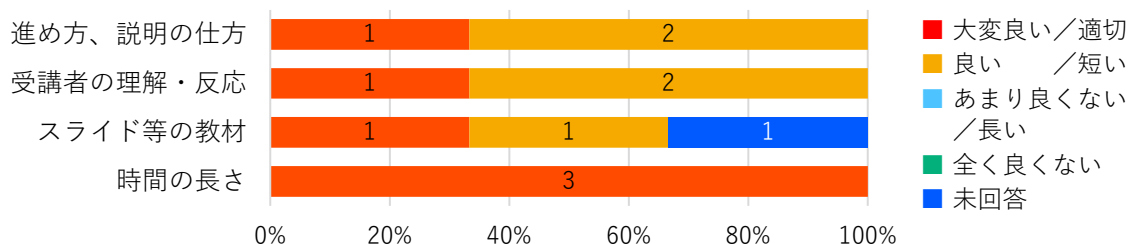
実習3 環境試料の採取



自由記述

- ・ 時間をオーバーしてしまいました。

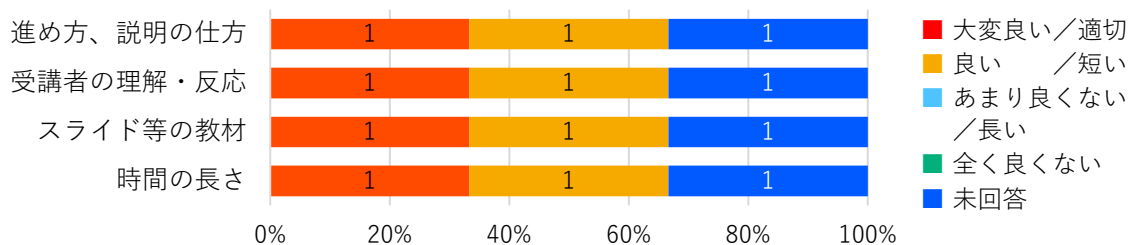
実習4 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ なし

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ なし

2－1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ なし

2－2. 受講者からの質問とその回答

- ・ 【質問】 演習でのサーベイメータ（空間）のタイミングは？
- ・ 【回答】 「やってるときいつでもいいよ」と回答

3. その他の気づき事項

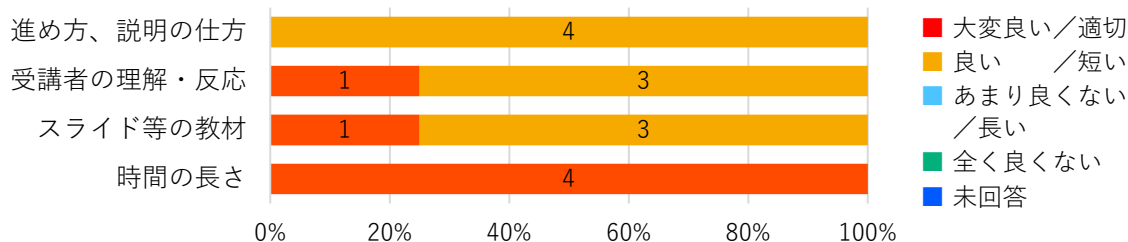
- ・ 道府県Vは全体的に時間が短いので時間を増やすことも必要と感じました。

道府県W 講師アンケート集計結果

回答者数 : 4 名

1. プログラムについて

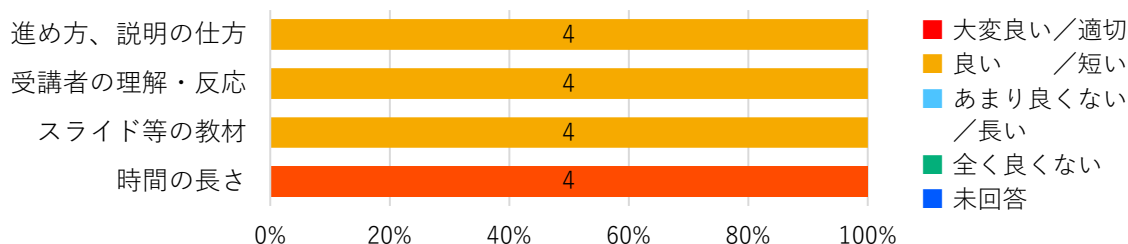
実習1 放射線の性質確認



自由記述

・ なし

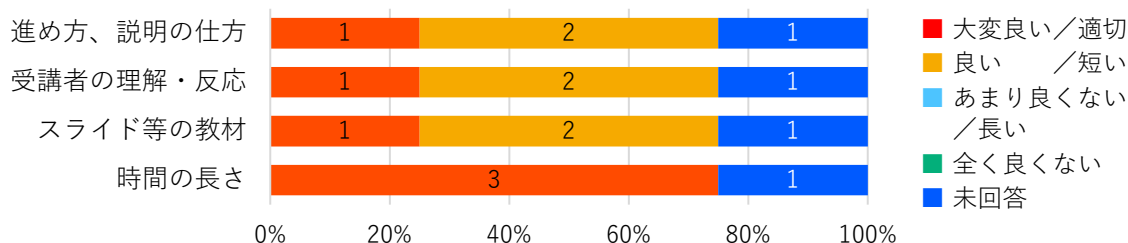
実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ 装置は一台しかないので実際に操作することはできない。また、屋内のため、設置方法についても理解できたかは不明であった。但し、衛星携帯はないタイプのため、設置向きは考慮する必要はなかった。
- ・ ラミセスについては見せるだけで操作しないため、理解できたかは不明。昼休憩時に触れるように置いておけば良いと考える。

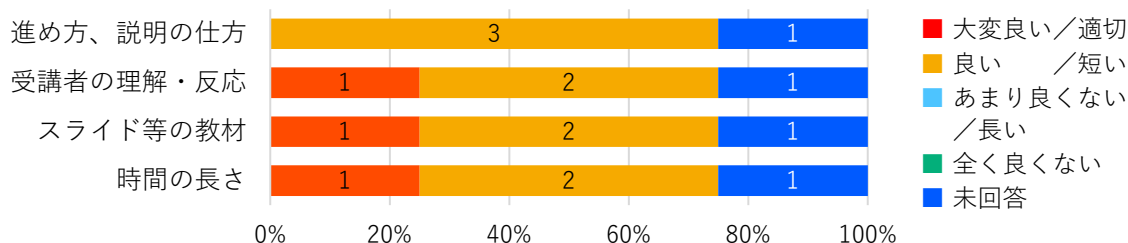
実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

・ なし

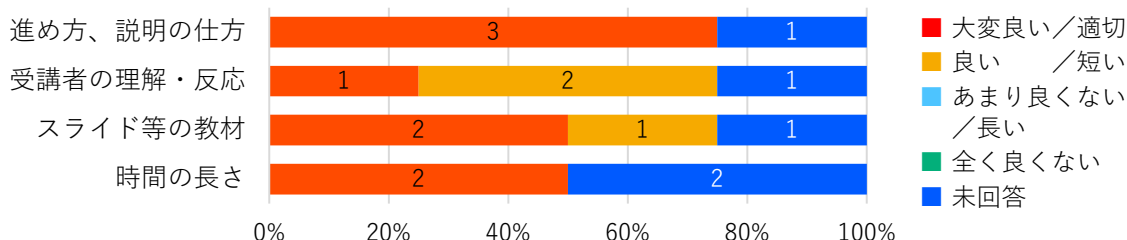
実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ 大気活性炭カートリッジ用のホルダーを県が所有していない。
- ・ 土壌採取の前に汚染の見える化と簡易除染を実施した。
- ・ 水の採取（ビデオ）、土壌採取、空気中ダスト採取と3種類あり、実際に講習者が実習するには時間が短かったようだ。水については午後の班で実習3の後で視聴することも実施した。

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 時間内にスムーズに実施できた。
- ・ 班内の協力もできていたようだった（班長が良くまとめていた）。
- ・ 実習1、2、3、4を理解しているかの確認として、適切と感じた。
- ・ 空気中ダスト採取では実機はろ紙のみだったが、説明ではろ紙＋活性炭カートリッジで行った。道府県Wでは実際にこの対応で問題はなかったのか疑問はある。

2-1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ 除染方法
- ・ 個人被ばく線量計の指示が読み取りづらい。注意ください。
- ・ ダストサンプラーはろ紙のみであった。説明では活性炭カートリッジも必要であり、通常はろ紙＋活性炭カートリッジ（ヨウ素集塵用）とした。今後もこの方法で実施するか要検討。

2-2. 受講者からの質問とその回答

- ・ 【質問】U-8容器と採土器で、採取した土壌を混合する場合としない場合で、濃度が変わるのではないかと。
- ・ 【回答】効率等の計算で補正すると回答した。

3. その他の気づき事項

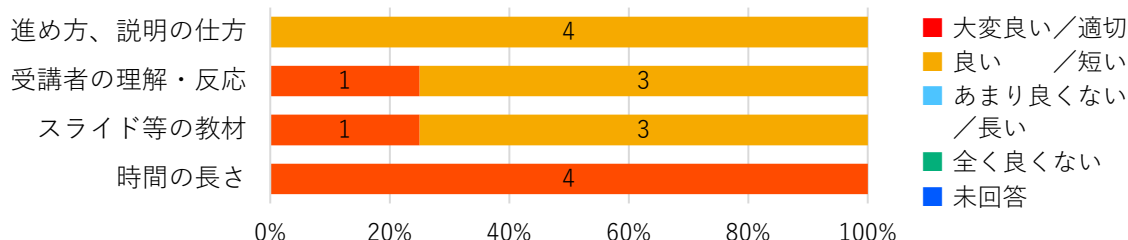
- ・ 各設備、ラミス、ラミセス紹介等、金額も含めて紹介してほしいと主催者側から要望があった。

道府県X 講師アンケート集計結果

回答者数 : 4 名

1. プログラムについて

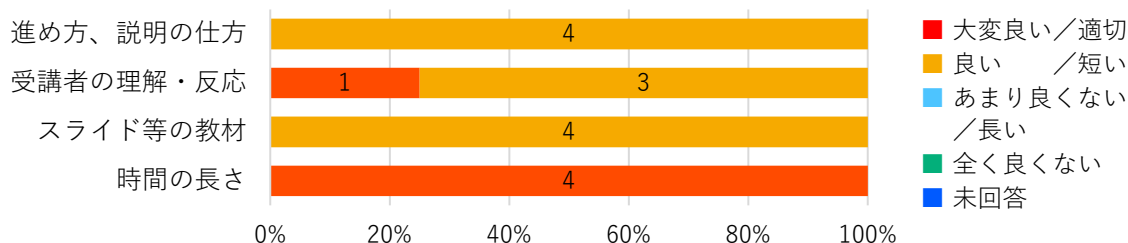
実習1 放射線の性質確認



自由記述

- ・ GM管の破裂実験を忘れてしまい、後で実施するという失敗があった。
- ・ GMサーベイメータが3班のみ旧タイプであった。はやりすべて同じものをそろえたい。
- ・ 毎回（あれば）GM管の破裂テストを行うが、実際に割る機会は少ないので、割れた際に
- ・ どのような音と破片が出るのかを経験するのは良いことと思う。
理解しやすく説明できたと感じた。

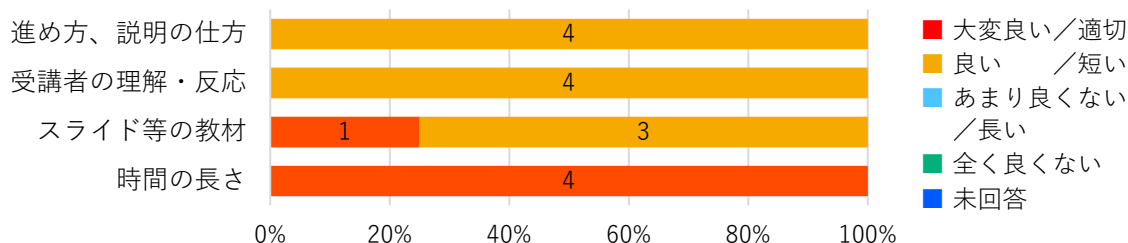
実習2 緊急時モニタリング資機材の取扱い



自由記述

- ・ 可搬型MP：道府県Gと同様に組立を受講者に実施していただいたため、午後の演習で作業は順調にできていたようであった。
- ・ モニタリングカーの養生：かなり細かいところまで養生されていた。ドアパッキンを覆って外のドアまで養生のビニールが出ている部分もあったが、これでよかったのかは不明。
- ・ 今回は可搬型MPの取扱い説明のほかに車の養生を行った。事前に道府県の方が2人で2時間以上かけて養生していただいたが、養生するのは大変なことだと理解いただくには、多少でも実際に養生を受講者の方にしていただく時間があればよいと思った。
- ・ 車両への環境試料の積み込みについても実演することができ、理解いただけたと思う。
- ・ 可搬型モニタリングポストの説明では、結線をもっと工夫できればと感じた。道府県Gでは、結線部を同じ色で表示していた。
- ・ 車両内の養生では、汚染が発生したときの撤去・交換時の汚染拡大防止等難しいと感じた。

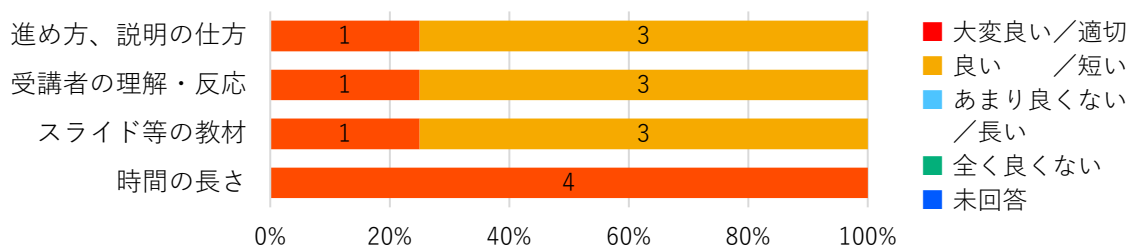
実習3 空間放射線量率の測定



自由記述

- ・ 3班で同時に実施するため、測定ポイントの順番の説明がなかったので指摘をした。
- ・ 検出器の持ち方で、シンチレータ部分を手で覆うような受講者がいた。持ち方を指導する必要がある。また、注意事項としてスライドに記載するのも良いと思う。
- ・ 測定者の周辺に同じ班の人が集まっていたが、できるだけ測定者の後ろにいるように指導した。
- ・ 班ごとに測定実施手順の説明、測定結果の事務局測定地の照合での注意点など、説明をもっと工夫する。

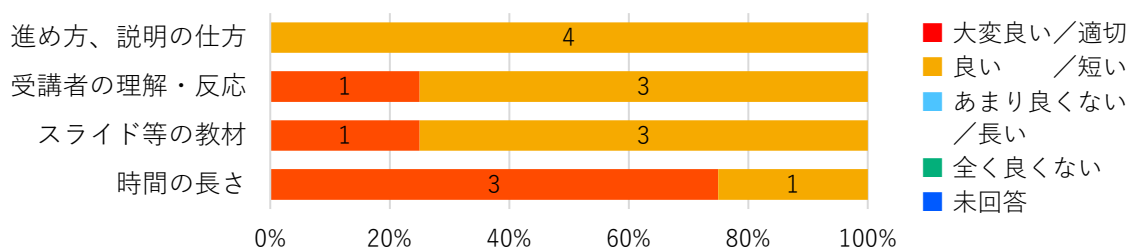
実習4 環境試料の採取



自由記述

- ・ 大気サンプラのスライドに記載のローボリュームサンプラは柴田科学製であるが、ほとんどの道府県はアロカ社製のタイマー付きダストサンプラを使用しているので、時間があれば、スライドを差替えたほうが良いと思った。
- ・ 採取作業での汚染防止の注意点などの説明、実演など事前準備の重要性など、非常に参考になった。

演習 緊急時モニタリング活動



自由記述

- ・ 9月でまだまだ暑い上、雨もぱらついていたので、活動を会議室内ですべてできたのはいい調整だった。
- ・ 道府県Xは車の養生等意識が高いので、他にもおすすめオプションなどあれば紹介すると喜びそう。
- ・ 追加で分析班への試料提出作業があったが、演習は無事に終了した。しかし、時間がなく道府県Gと同様に振返りの時間が5分となってしまった。

- ・ 汚染の見える化は興味を持っていただいた。ただ、今回使用した綿手袋はスモスの白手袋で白くするために蛍光染料が含まれているので、UVランプで反応してしまい、模擬汚染が見えにくかった。以前に使用していた手首にゴムの入ったベージュ色の方が模擬汚染を見やすいと思う。
- ・ ある班では環境試料採取のカゴに養生テープに「土壌」「水」「防護資材」等と書いて貼り付けて、どのカゴは何に使用するか一目でわかる工夫をしていた。
- ・ 廃棄物用途再利用品（シャベル）を入れる袋は両方とも透明で区別しにくいですが、マジックで大きく「汚染物」「再利用品」と袋に書いて工夫されていた。汚染物を再利用するシャベルの袋に入れた班もあったため、工夫が目立っていた。色付きの袋を使用すれば一目である。
- ・ 実習で使用したサーベイメータがタッチパネル式のため、かごに他の物と一緒に入れた場合に設定が変わったりする場面があった。

2-1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ 発災地の方向が各地点で書いていないところもあったので、目印があった方が良い。
- ・ 今までにはなかったが、NaI(Tl)シンチサーベイの検出器を持つ際に、シンチレータ部分に係るところを持つ受講者がいた。持ち方についても指導をする必要がある、実習1で指導することもある。

2-2. 受講者からの質問とその回答

- ・ 【質問1】モニタリング車の窓を半透明ビニールで養生してもよいのか。
- ・ 【回答1】半透明のエポキシシートなどで養生すると視界が遮られるため、窓部分は透明なシートで養生を行う。
- ・ 【質問2】帰還後の車の汚染検査の方法。
- ・ 【回答2】直接法では時間がかかるのでスミア法（ウエスやペーパータオルで車体表面をふき取り、そのタオルをGMサーベイで汚染検査する方法）を実演した。また、車両の一番汚染されやすい場所は、タイヤ以外では車のフロントであると回答し、タイヤの除染は水を使用するが、水を回収できる場所で行い、使用後の水は専用の処理施設がなければ保管する必要があると回答した。
- ・ 【質問3】車内汚染防止の養生説明で、受講者からハンドルの養生について聞かれた。
- ・ 【回答3】養生シートだと滑る可能性があり注意が必要で、できたら市販のハンドルカバーを活用する、ドライバー専任の要員を配置することを話した。

3. その他の気づき事項

- ・ なし

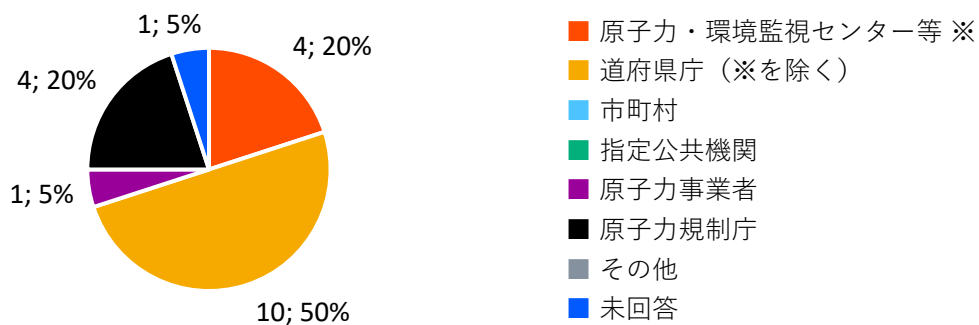
道府県A 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 20 名

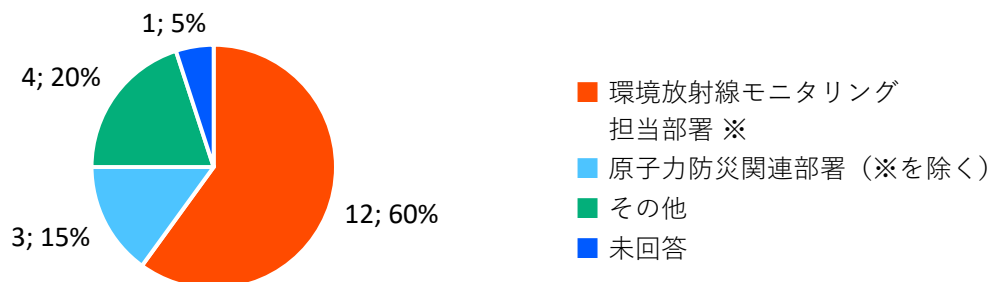
受講者数 : 20 名

1. 受講者自身について

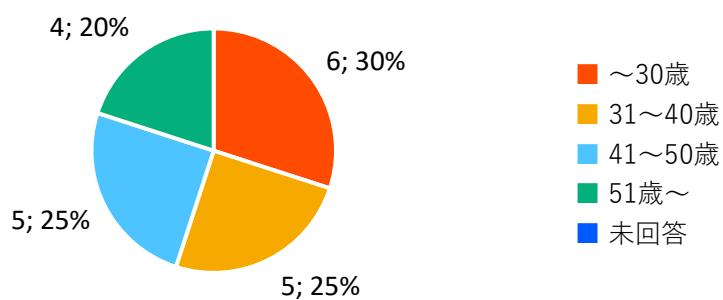
1) 所属



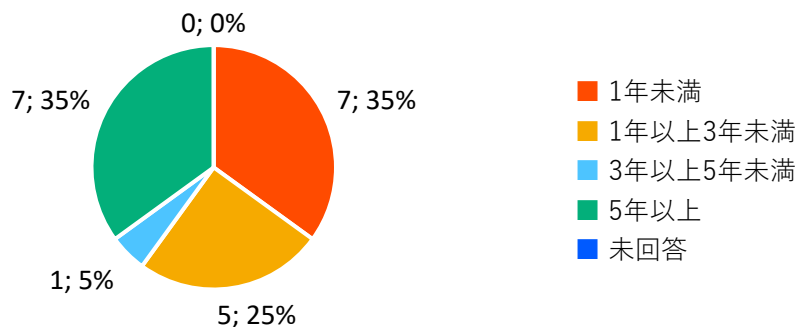
2) 所属部署の属性



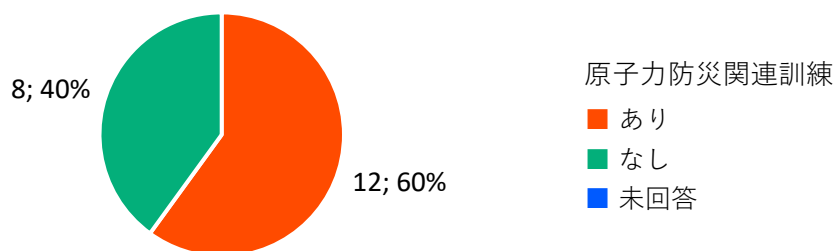
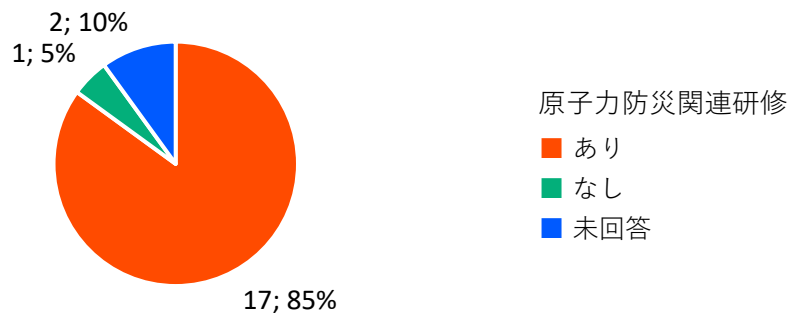
3) 年齢



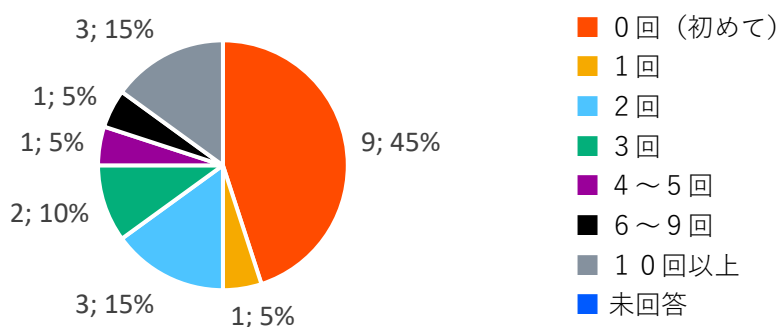
4) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



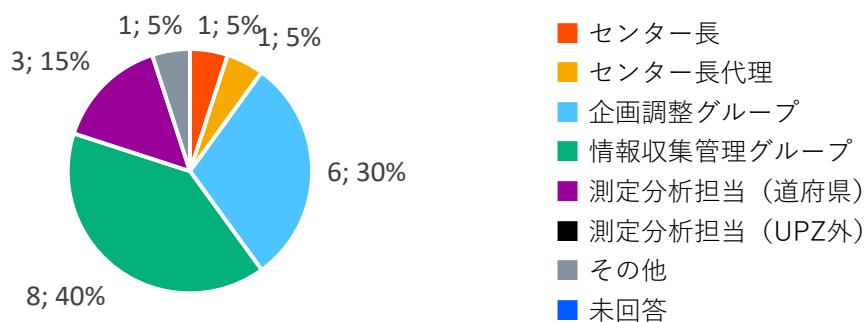
5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験



6) EMC活動訓練参加回数

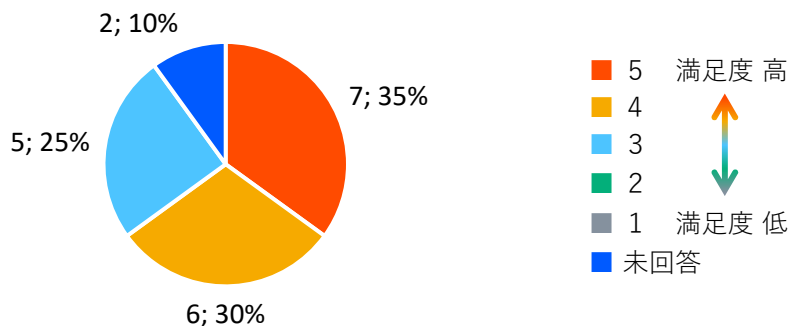


7) 机上訓練での役割



2. 本講座を受講しての所感等について

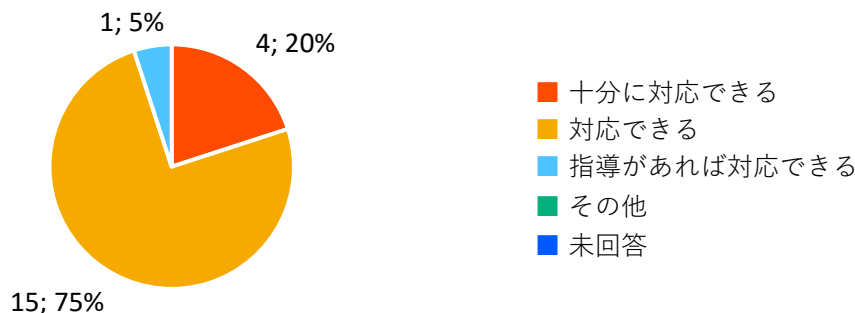
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；初めての参加で2日間の訓練があり、時間が経つにつれて容量が理解できるようになっていった。
- ・ 満足度5；具体的な業務をこなし、チームとして活動できたから。
- ・ 満足度5；全体的な流れを理解することができた。
- ・ 満足度5；イレギュラーな事態が適宜発生するので緊張感をもって臨めた。
- ・ 満足度5；難しいシナリオでレベルの高い訓練であったから。
- ・ 満足度5；流れを理解できた。
- ・ 満足度5；いろいろな要素を詰め込んだ、他県にはない内容だった。
- ・ 満足度4；流れをつかめたから。
- ・ 満足度4；警戒事態（AL）の道府県職員のOFC参集タイミングが本訓練どおりなのかよくわからなかった（道府県職員の一次参集場所は研究センター？）。
- ・ 満足度4；今年度はプレイヤーとしてではなく、コントローラーとして参加したことで、EMC全体の活動の内容をしっかりと理解することができた。
- ・ 満足度3；前年度はベテランぞろいだったが、今回は初参加者が多く、訓練開始当初はうまく機能していなかったが、徐々に各自役割の把握ができてきたのがよかった。

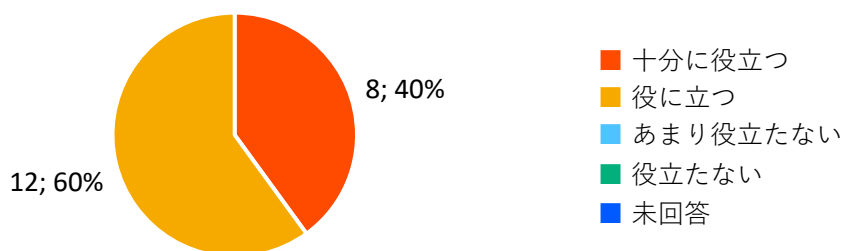
2) 本訓練を受講してEMC活動に対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ 対応できる；毎年数回EMC活動訓練に参加しているので。
- ・ フォローがあれば対応できる；グループで担当を決めながら行動したため、NISS送信の対応や分析結果の判断についてみているだけになってしまった（自分1人で対応することはないと思うが）。
- ・ フォローがあれば対応できる；指示書作成を独力でできる状態には至っていない。
- ・ フォローがあれば対応できる；今回やった担当業務以外あやふやだから。
- ・ フォローがあれば対応できる；普段はまったく違う部署にいるため基礎知識がなく、本当に最低限のことであれば対応できる。
- ・ フォローがあれば対応できる；状況によると思う。
- ・ フォローがあれば対応できる；活動は皆が協力して、役割をしっかりと果たすことでスムーズに流れることが分かった。
- ・ あまり対応できない；今回担当した文書の管理であればできるが、その他の業務は難しい。

3) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。

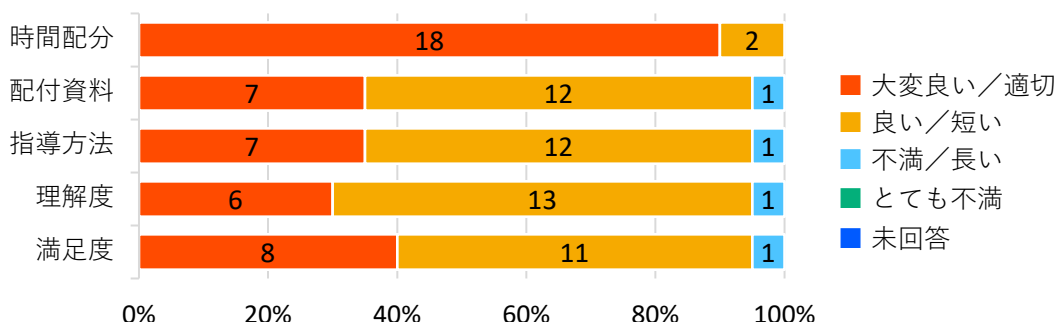


自由記述

- ・十分に役に立つ；最初はRAMISやNISSの使用・動き方など難しいと思っていたが、グループの方に教えてもらいながら参加でき、理解につながり、十分役立つ訓練だった。
- ・十分に役に立つ；シナリオの練度が高く、内容が盛りだくさんだった。
- ・役に立つ；初めての訓練だったのでEMC活動の流れやどのようにしてモニタリングの指示が行われるのか（道路状況からルートを決める等）がわかった。
- ・役に立つ；近いうちは災害時直接かかわることは無いと思うが、自身の所属上、近い将来可能性は多少あるため。
- ・役に立つ；スピード感を持った対応の訓練となった。
- ・役に立つ；訓練本番にも役立てたい。

3. 各プログラムの評価について

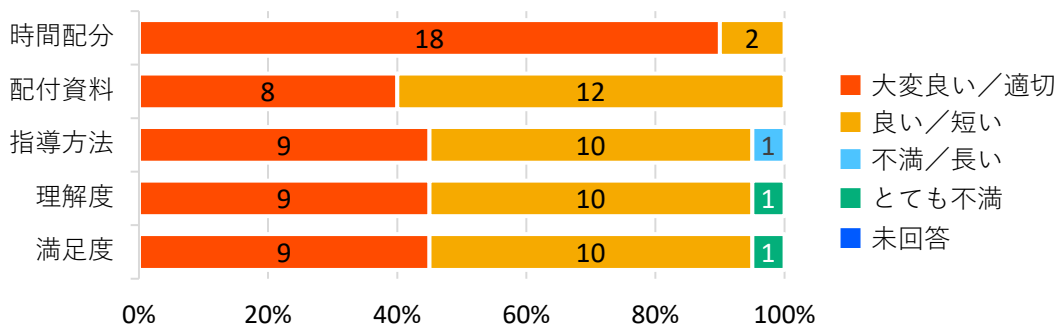
1) 講義 緊急時モニタリングセンター（EMC）の概要



自由記述

- ・経験者も多く、システムも高度でありわかりやすかった。
- ・訓練に充てる時間が必要なため、他県より座学を圧縮した。
- ・全体的にわかりやすかった。

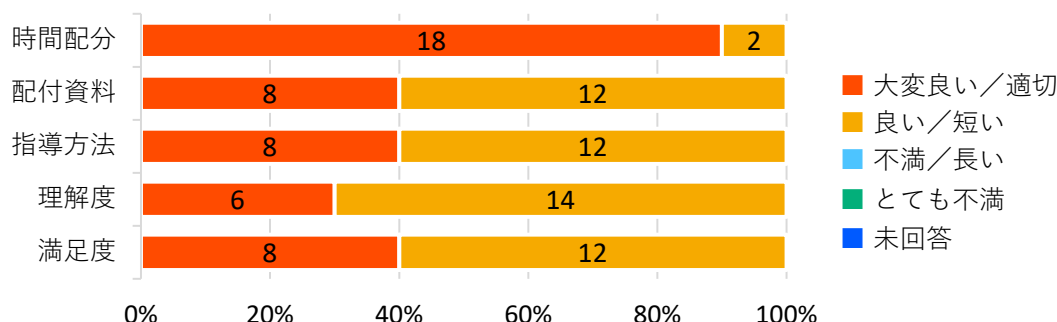
2) 操作実習 EMC設置機器（PC等）、RAMISの操作方法



自由記述

- ・実際に使用しながら操作を学べてよかったが、訓練時に混乱してわからなくなってしまった。
- ・レジュメがあり、見返して実践できた。
- ・RAMISは初めて使用したが、わかりやすかった。
- ・コピー機は全員使うのもっと説明がほしかった。
- ・全体的にわかりやすかった。
- ・休憩がない。集中力が途切れないか心配。

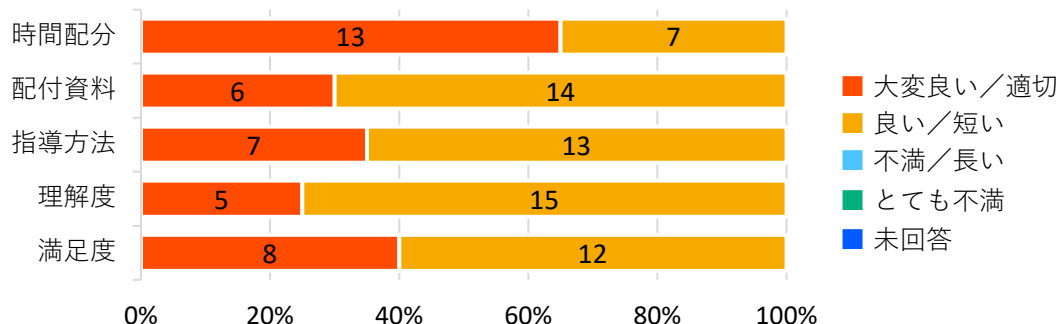
3) 操作実習 クロノロギーシステム (NISS) の操作方法、EMC情報の流れ



自由記述

- ・訓練時はあまり使用しなかったが、少しだけ時間差があると耳にした。電話の方が速いとも聞いた。
- ・感覚的に使いやすく、操作する上で困りごとはなかった。
- ・全体的にわかりやすかった。

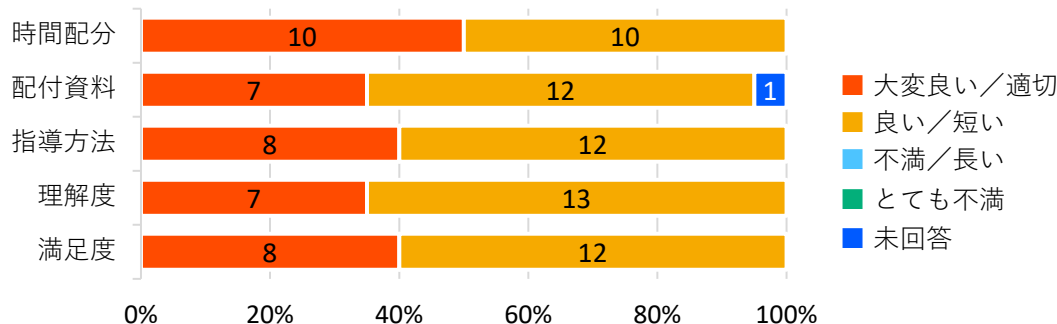
4) 机上訓練 ステップ1 施設敷地緊急事態 (SE) の活動



自由記述

- ・ALでSEの対応 (ERCへの連絡) していたので、対応を常に整理していきたい。
- ・自体進展が早すぎて、落ち着いて対応する余裕がなかった。
- ・実施計画を出すタイミングが以前より多くなり、煩雑な印象。
- ・全体的にわかりやすかった。
- ・時間に比べ、行う行動が多すぎるように感じる。

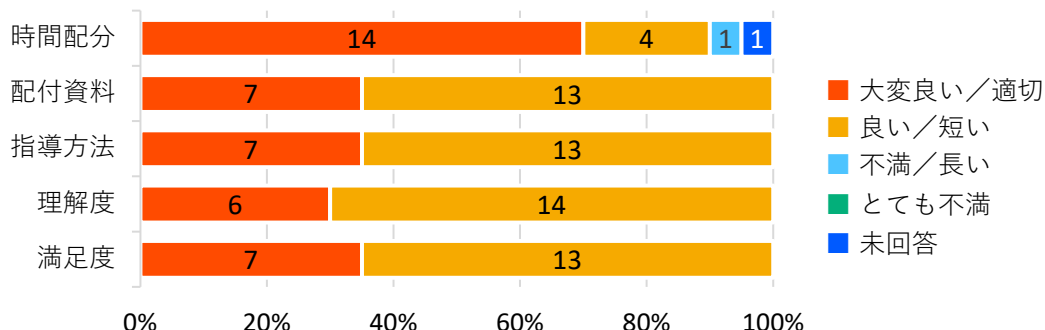
5) 机上訓練 ステップ2 全面緊急事態 (GE) 放射性物質放出前～放出中の活動



自由記述

- ・ 矢継ぎ早に事態が推移するので、状況把握に追われた。
- ・ 能登半島地震要素を詰め込み、かなり忙しい内容。
- ・ 全体的にわかりやすかった。
- ・ 行動の内容が多すぎる。

6) 机上訓練 ステップ3 全面緊急事態 (GE) 放射性物質沈着後の活動

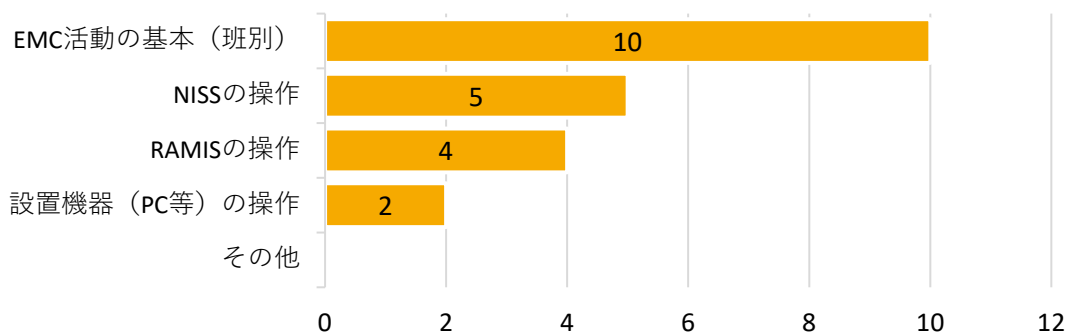


自由記述

- ・ シナリオ上仕方ないが、緊モニ実施計画第5版に基づく指示書作成までは企画調整Grが、それ以降は情報収集管理Grが忙しい状況であった（タスクバランスの問題）。
- ・ モニタリングルートに迂回路しか対応できるルートがなく、時間が足りない印象。
- ・ 全体的にわかりやすかった。
- ・ 人員の配置に無理がある。人数が足りない。

4. eラーニングについて

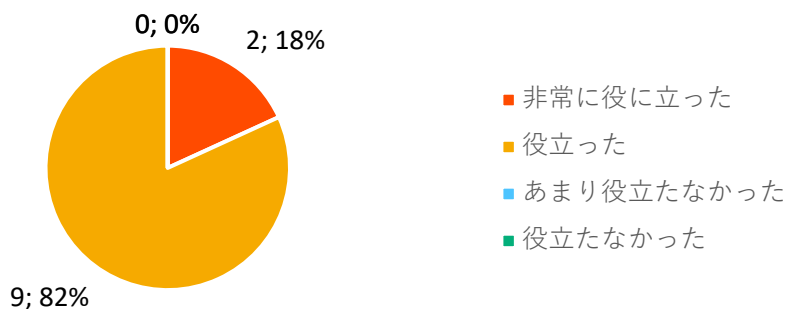
1) EMC活動訓練について、拡充してほしいコンテンツを教えてください。



その他の意見

- ・ なし

2) eラーニングは、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。

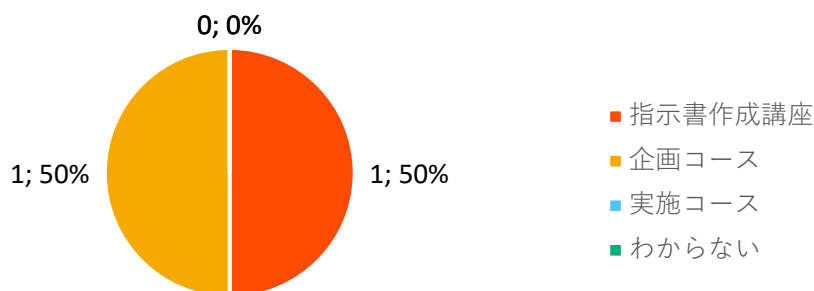


自由記述

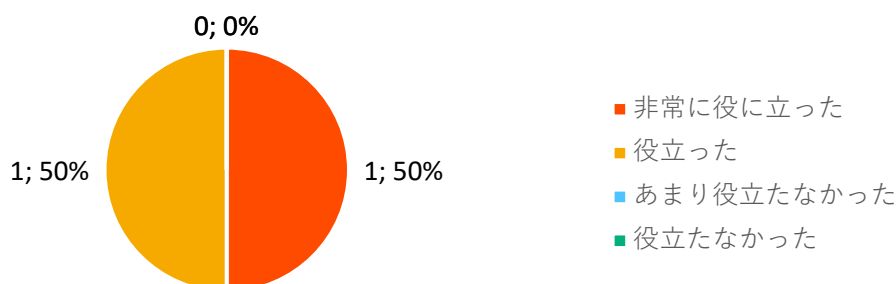
- ・ 役立った；電話の使い方などの説明が飛ばされたので、事前に確認できたから。

5. 実践演習（オンライングループワーク）について

1) どのコースを受講されましたか。



2) 実践演習は、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



受講コース別の回答

受講講座	非常に役に立った	役立った	あまり役立たなかった	役立たなかった	回答数合計
指示書作成講座	1	0	0	0	1
企画コース	0	1	0	0	1
実施コース	0	0	0	0	0
わからない	0	0	0	0	0

自由記述

- なし

6. 訓練全般に関する意見・要望

- ・ 道府県Aさんの準備物すばらしい。
- ・ PCなど必要。
- ・ 実際の流れに沿って活動し、理解を深めることができた。
- ・ 道府県側からの希望で行ったシナリオだったが、かなり無理のある状況もあったので、打合せが大切だと感じた。
- ・ 訓練に対するものではないが、OFCも立ち上がっている状況では、複合機への移動が大変になると思われる。
- ・ 講習は全部オンラインにして、すべて実習にしたほうがよいのではないかと。
- ・ せっかくの機会なので、情報班の業務を一通り実施したかった。
- ・ 2日間の訓練を通じてスキルアップできたと感じる有意義な訓練であった。
- ・ 2日目は決裁文書がおざなりになっていた。
- ・ 決裁を受けてからNISSに登録する等、きっちり実施してほしい。
- ・ 能登半島地震オマージュでかなり難しいシナリオだった。他県ではおすすめしない。
- ・ OFC内においてEMCスペースが広く確保されており、道府県として必要な機材、地図が配備されていた。

- ・ できる人に業務が集中する傾向があり、属人的になりがちである。人事異動などによる要員の交代もあるため、ソウノ厚さを確保する大切さを感じた。
- ・ eラーニングを受講していない方が多いと聞いているため、未経験者は受講必須とした方がよい。
- ・ EMCのがいようの説明の時、S E、A Lの用語がしばしば出てきたが、資料2には載っていない。用語解説に入れるか、試料中に記入しておくと思う。いきなり口頭で出てくるとわからないのではないかな。
- ・ 訓練を通じてG E、S E、A Lの言葉が出てきたが、その説明がなかったように思う。

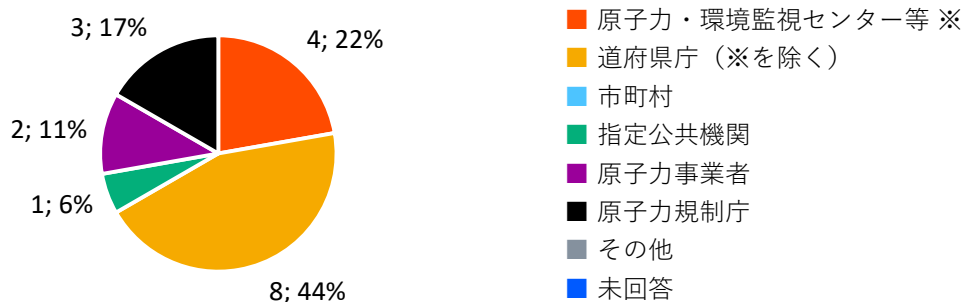
道府県B机上訓練 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 18 名

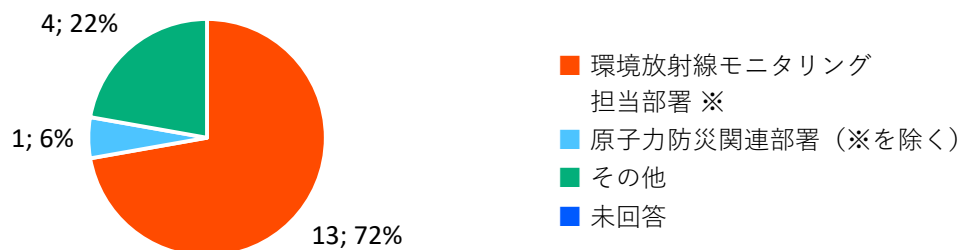
受講者数 : 19 名

1. 受講者自身について

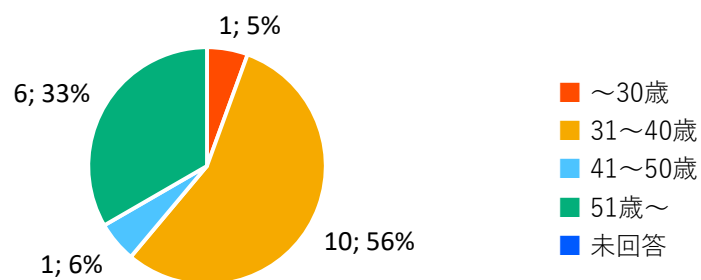
1) 所属



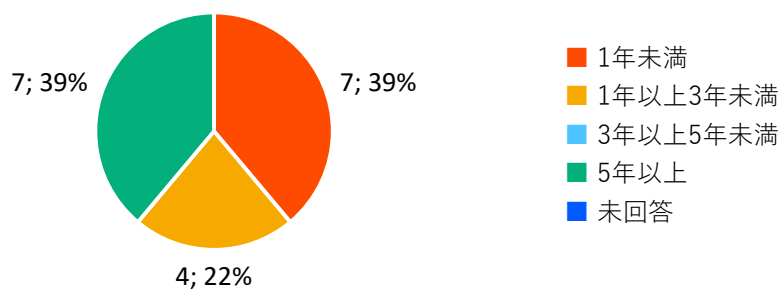
2) 所属部署の属性



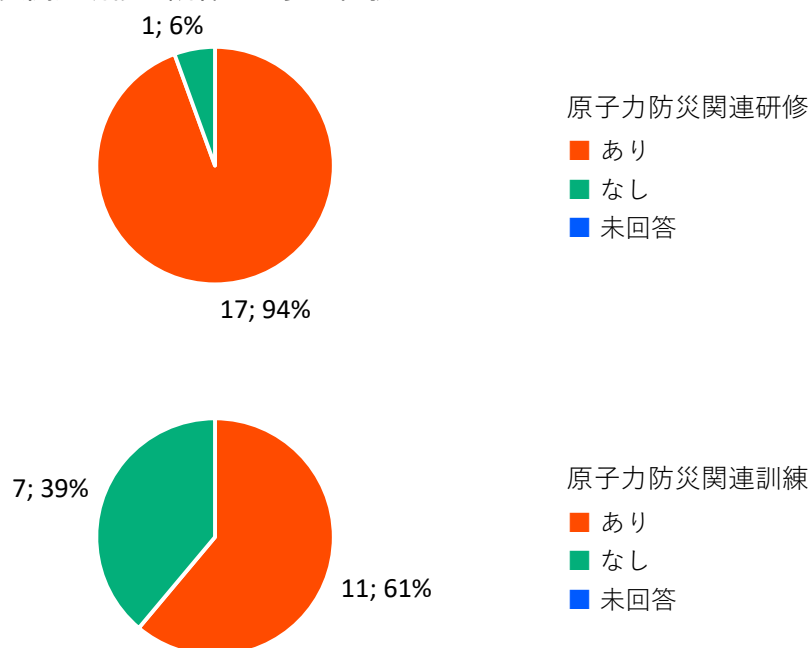
3) 年齢



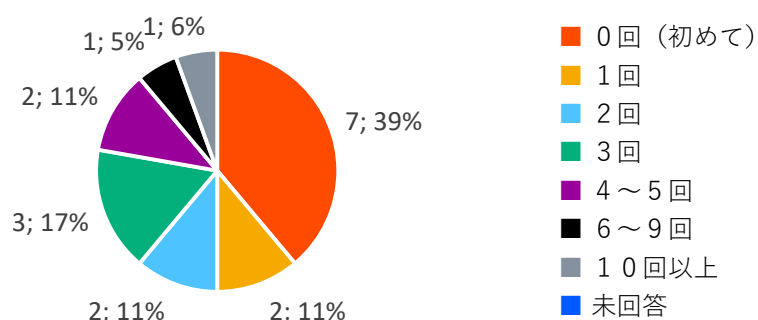
4) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



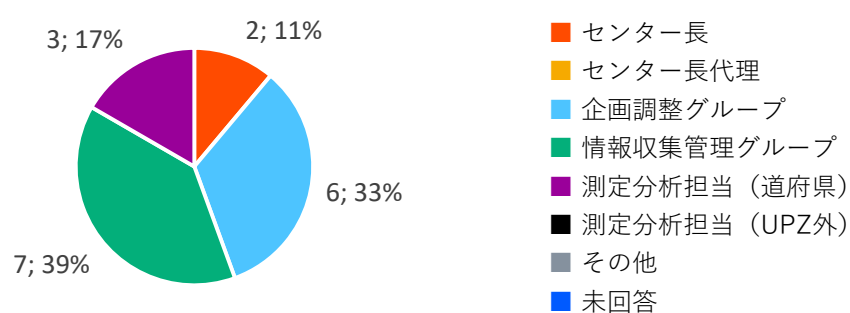
5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験



6) EMC活動訓練参加回数

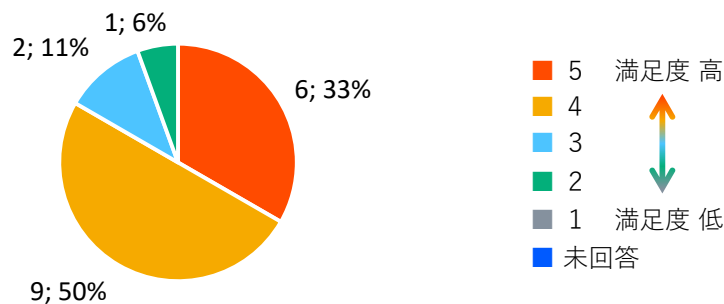


7) 机上訓練での役割



2. 本講座を受講しての所感等について

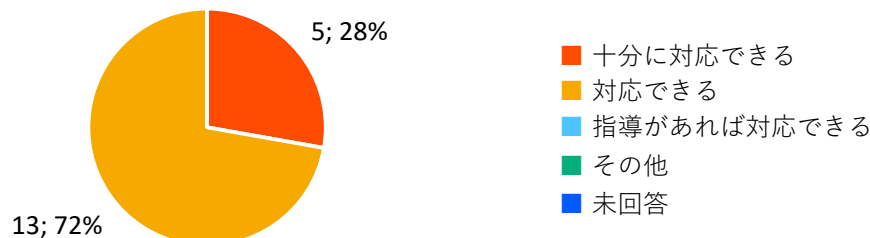
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；本番を想定した動きを確認できた。
- ・ 満足度5；緊張感をもって動くことができた。
- ・ 満足度5；座学であまりイメージできない計画書、指示書、NISS操作などにふれることができた。
- ・ 満足度4；企画調整グループで訓練することで全体の流れを把握することができた。
- ・ 満足度4；訓練経験が少ない人が集まって活動すると混乱することがよくわかった。
- ・ 満足度4；EMCが立上るまでの流れや自分の役割について理解できた。
- ・ 満足度4；シナリオがわからない中で、自分の役割を見つけて動くことの大切さを学べた。
- ・ 満足度4；指示書作成等、初めての作業が多かったがとても満足できた。
- ・ 満足度4；実際の対応における大まかな流れを確認することができた。
- ・ 満足度3；県の初心者育成を第一にしていたが、訓練シナリオはもっと追加しても問題なかったと思う。

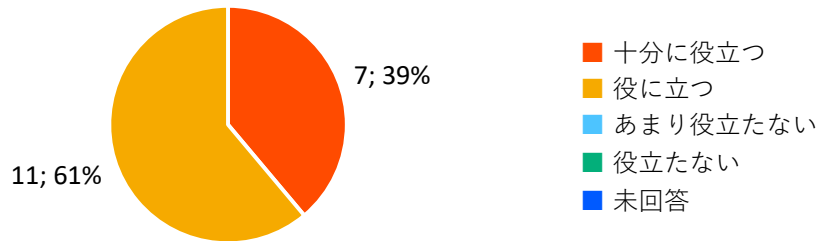
2) 本訓練を受講してEMC活動に対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ フォローがあれば対応できる；グループ長が全体をよく把握し、今後の予測ができる方のフォローがあれば、何とか対応できるかなと思った。
- ・ フォローがあれば対応できる；本訓練を繰り返し参加したことで、内容も理解でき、対応できるようになったと思う。
- ・ フォローがあれば対応できる；知識が足りない部分がある。
- ・ フォローがあれば対応できる；訓練で想定されていない事象が発生する可能性があるが、それぞれがフォローしあえば対応できる。
- ・ フォローがあれば対応できる；全ての対応を理解できたわけではないが、マニュアルやフォローがあれば対応可能。
- ・ フォローがあれば対応できる；機器の操作等を忘れやすい。

3) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。

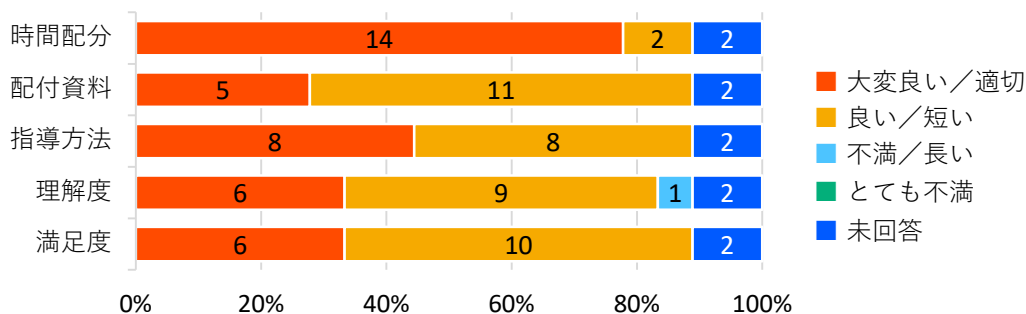


自由記述

- ・十分に役に立つ；全く知識がなかったため、非常に役立つ内容であった。
- ・十分に役に立つ；役に立つ内容であった。
- ・役に立つ；普段からモニタリングポストの知識を知っておくともしものときに共有できると思った。
- ・役に立つ；OILや事態の進展に関連する用語を知っておきたいと思った。
- ・役に立つ；対応の仕方がわかり、スキルは向上したと思う。
- ・役に立つ；原子力災害が発生した際の動きについて理解できた。
- ・役に立つ；色々と内容を再確認できてよかった。

3. 各プログラムの評価について

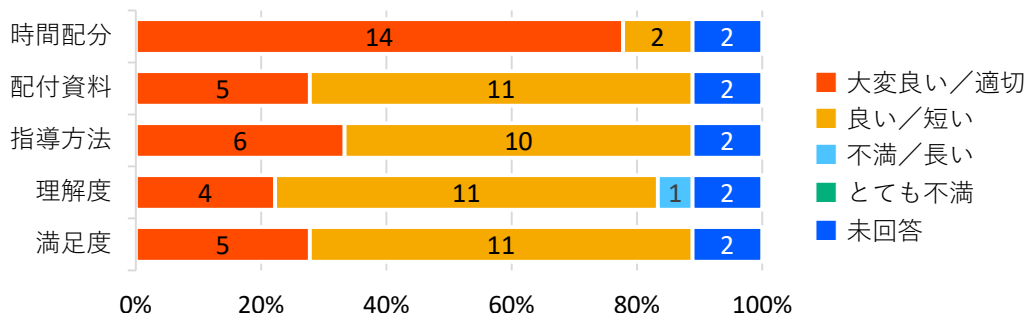
1) 操作実習 EMC設置機器（PC等）、RAMISの操作方法



自由記述

- ・資料を見ながら使用できた。
- ・普段使用しない機器のため、操作方法がわかり、ためになった。
- ・実際に操作を繰り返さないと難しい。
- ・実際に操作することで理解できた。
- ・一部PCで多少タイムラグがあり、それを待つ時間があった。
- ・親切に教えてもらえた。

2) 操作実習 クロノロジーシステム（NISS）の操作方法、EMC情報の流れ

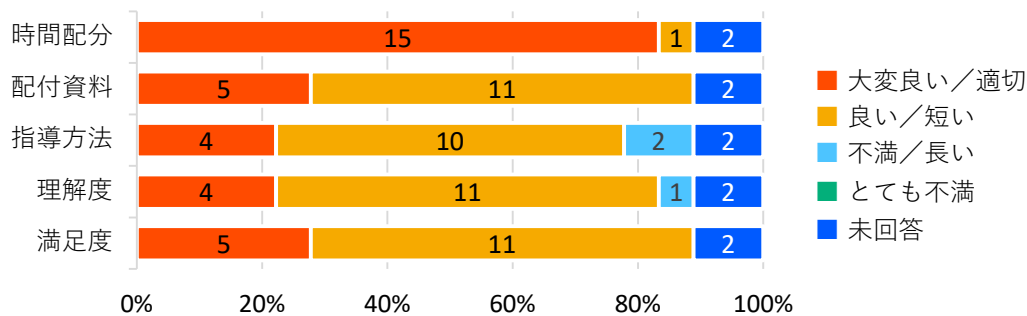


自由記述

- ・クロノロジーシステムを使って初めて理解できた。
- ・普段使用しない機器のため、操作方法がわかり、ためになった。
- ・実際に操作を繰り返さないと難しい。

- ・実際に操作することで理解できた。
- ・クロノロジーシステムに送信する一連の流れを実際に行ったほうがよかった。
- ・フローチャートが追加してほしいところがあった。
- ・親切に教えてもらった。

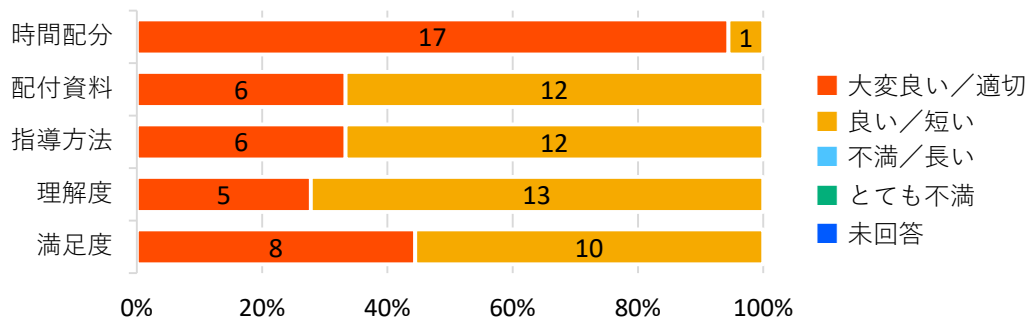
3) 机上訓練 ステップ1 施設敷地緊急事態 (SE) の活動



自由記述

- ・突然始まるので戸惑った。
- ・指示書の作成で時間がかかり、次の指示書が遅れてしまった。
- ・測定分析担当に相談しながら指示書作成を行ったので、任時間短縮につながった。
- ・対応に不慣れなうちに、次の段階へ進んでいた。
- ・全体の流れを理解していないと混乱することがわかった。
- ・手探りではあったが、やらなければならない役割が理解できた。
- ・全体のスケジュール上、やむを得ないが時間が短い。
- ・指示書が遅かった。
- ・十分に理解することができた。
- ・対応がわかりやすかった。

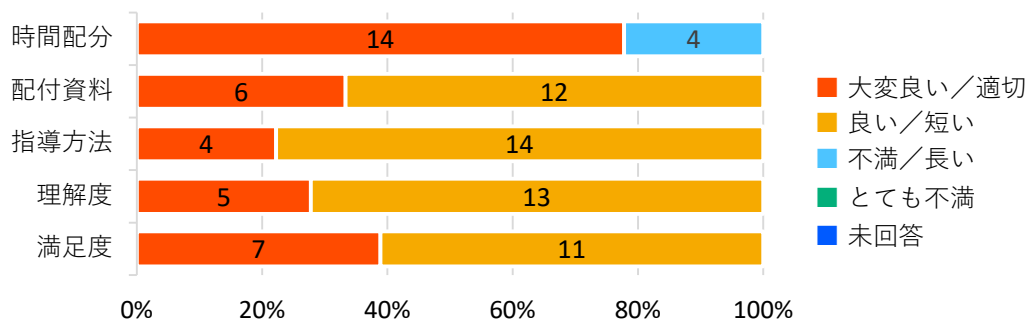
4) 机上訓練 ステップ2 全面緊急事態 (GE) 放射性物質放出前～放出中の活動



自由記述

- ・どんどん線量が上昇するので戸惑った。
- ・ステップ1での指示書作成に時間がかかったが、1日目の反省を踏まえて行ったので、時間短縮につながった。
- ・流れに慣れてきたため活動できた。
- ・手探りではあったが、やらなければならない役割が理解できた。
- ・情報収集管理グループのところには、情報伝達ルートのフロー図があるとよい。
- ・自ら動けばもっとよかったが、概ね対処できた。
- ・対応がわかりやすかった。

5) 机上訓練 ステップ3 全面緊急事態 (GE) 放射性物質沈着後の活動

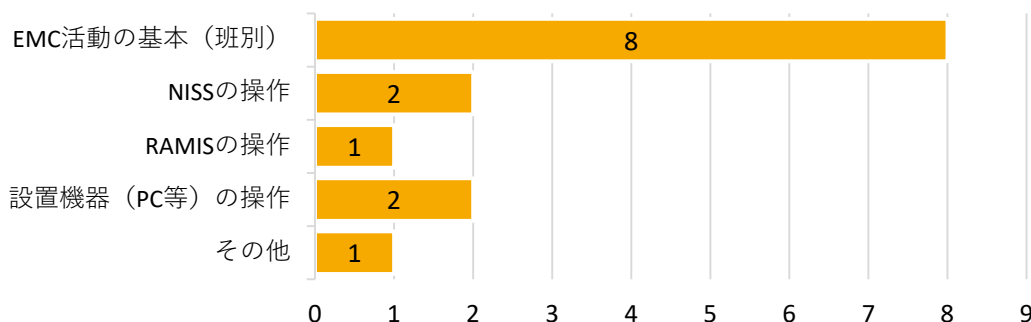


自由記述

- ・ 同じ担当間やグループ間で確認しながら活動できた。
- ・ ステップ1での指示書作成に時間がかかったが、1日目の反省を踏まえて行ったので、時間短縮につながった。
- ・ 先読みして動くことができた。
- ・ 後半に作業がなくなった。
- ・ 沈着後、待ち時間が非常に長かったため、急にモニタリングポストの数値が上がるなど、対応が求められるようなことが起きてもよいと思う。
- ・ 対応がスムーズに行えた。
- ・ 役割がしっかり把握できてよかった。

4. eラーニングについて

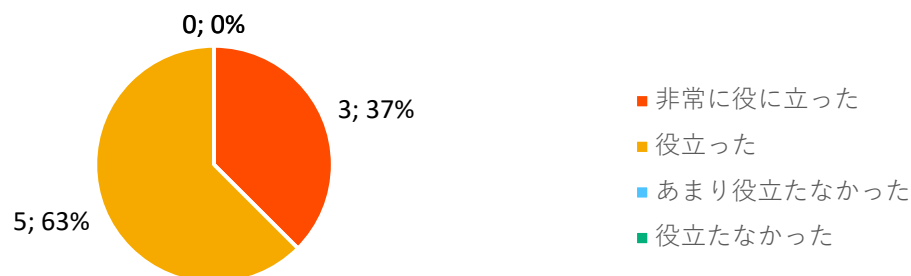
1) EMC活動訓練について、拡充してほしいコンテンツを教えてください。



その他の意見

- ・ 全体の流れ

2) eラーニングは、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

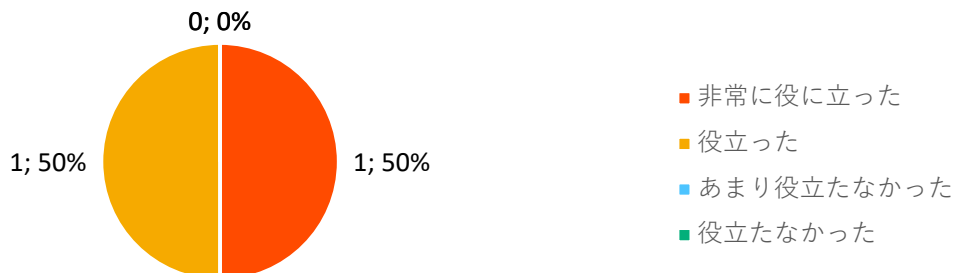
- ・ なし

5. 実践演習（オンライングループワーク）について

1) どのコースを受講されましたか。



2) 実践演習は、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



受講コース別の回答

受講講座	非常に役に立った	役立った	あまり役立たなかった	役立たなかった	回答数合計
指示書作成講座	1	1	0	0	2
企画コース	0	0	0	0	0
実施コース	0	0	0	0	0
わからない	0	0	0	0	0

自由記述

- ・ なし

6. 訓練全般に関する意見・要望

- ・ 訓練に参加して、ようやくほんやりとわかってきた。講義を聞いてもイメージが湧かない部分が多かったので、本番形式の訓練に参加できてよかった。
- ・ 人員、機材等のリソース配分を最適化することが、指示書作成のポイントとなるが、講義において、そのような最適化に関する考え方を判断する内容があれば、よりよいものとなると思われた。
- ・ 実動訓練と机上訓練を同じタイミングで実施するのであれば、想定は整えておくべき。EMC運営要領を想定した人数でないと対応できない活動なので、足りないのであれば、国の動員を依頼する等のシナリオが変わるため、はっきりさせておくべき。
- ・ 参加人数が多かったため、もっと内容を難しくしてもよかったのではないかな。
- ・ 警戒事態の県の体制のときに何をすべきなのかよくわからなかった。
- ・ 情報収集管理グループ側は館内放送が聞き取れない場合があった。改善したほうがよい。
- ・ GE以降の状況付与がもう少しあってもよい。
- ・ eラーニングの受講状況もまとめていただければと思います。
- ・ 訓練への参加について、職員の意識を変えていき、参加者が少ない状況を改善する必要がある。参加を促す方法があればと思う。
- ・ 何回か訓練に参加しているが、様々な人と訓練ができると新鮮に感じる。

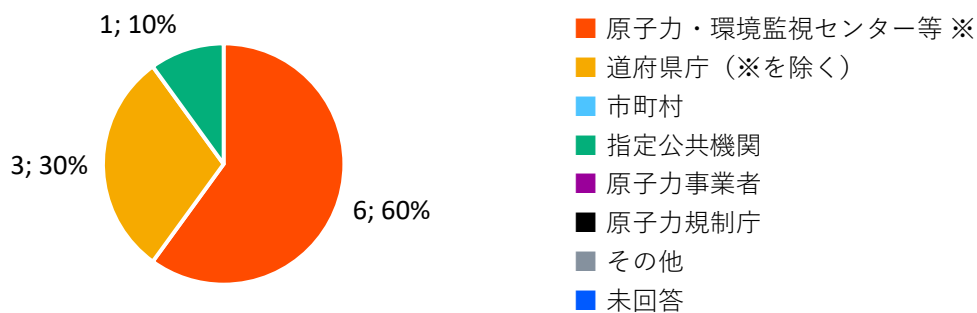
道府県B実動訓練 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 10 名

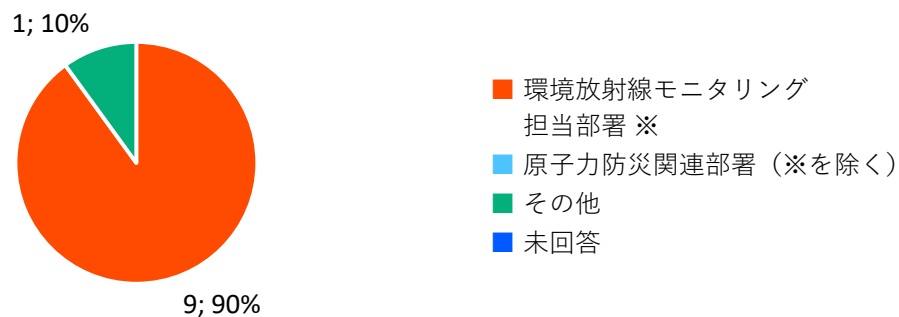
受講者数 : 11 名

1. 受講者自身について

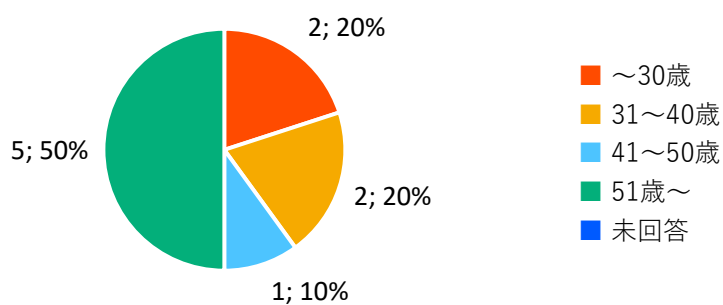
1) 所属



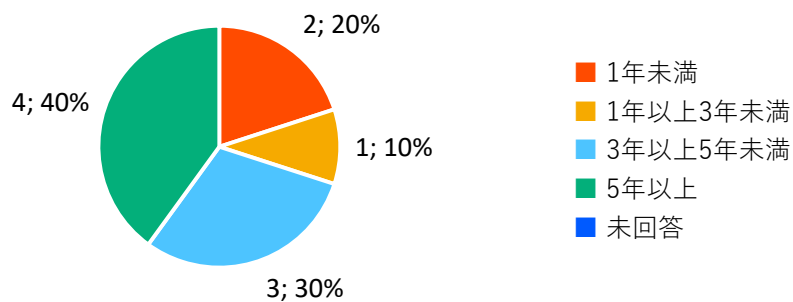
2) 所属部署の属性



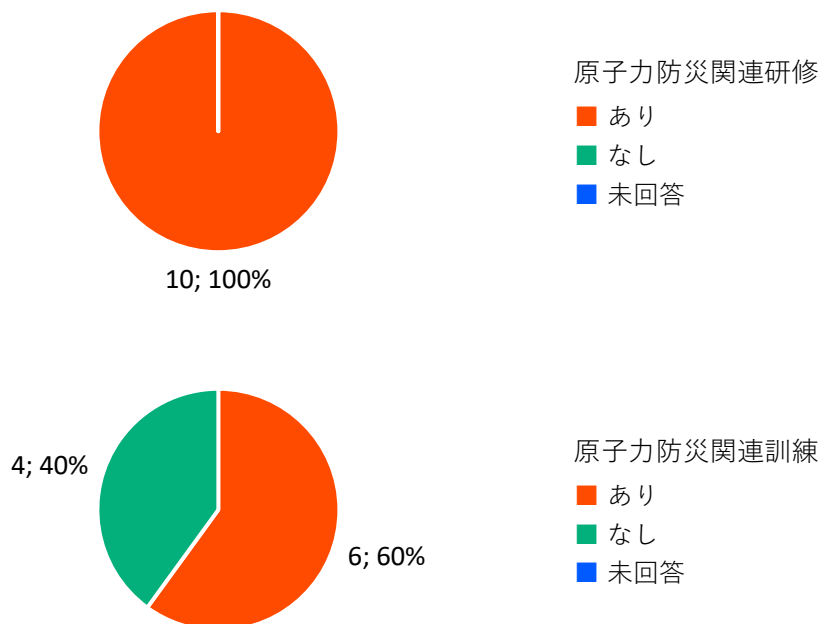
3) 年齢



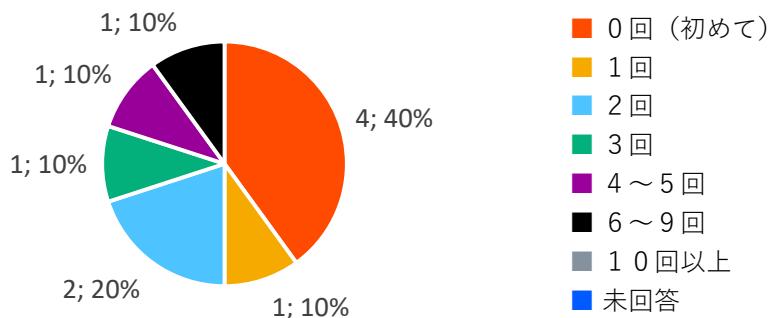
4) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



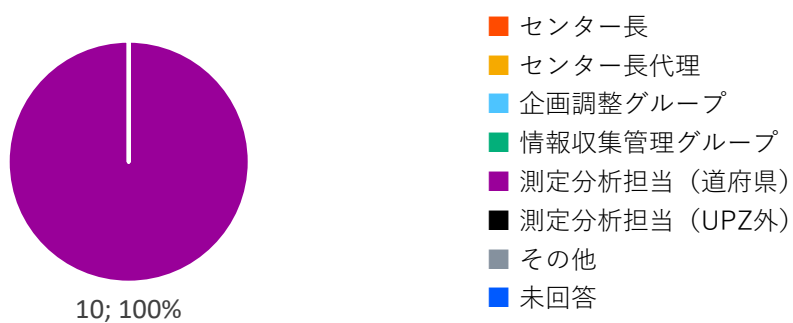
5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験



6) EMC活動訓練参加回数

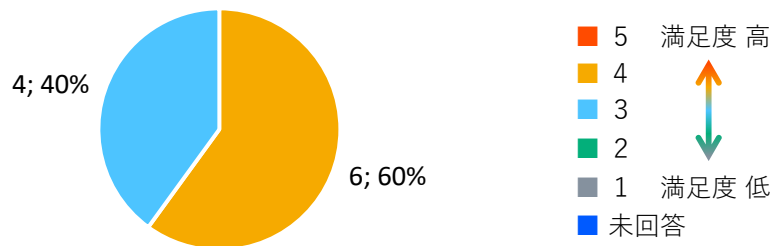


7) 本訓練での役割



2. 本講座を受講しての所感等について

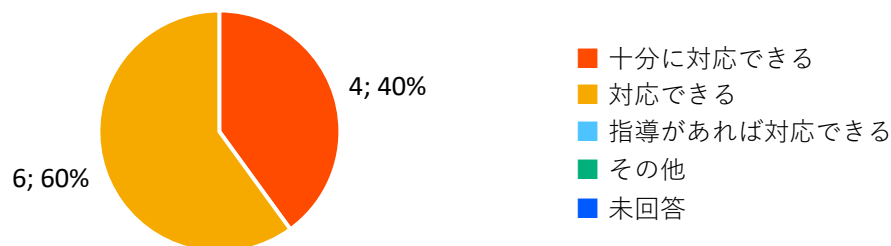
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度4；以前よりも多くを学べた。
- ・ 満足度3；あくまで訓練であり、実践とは異なる。
- ・ 満足度3；測定分析担当の総括と実動班が連動していなかったため、その確認ができなかった。
- ・ 満足度3；よかった。

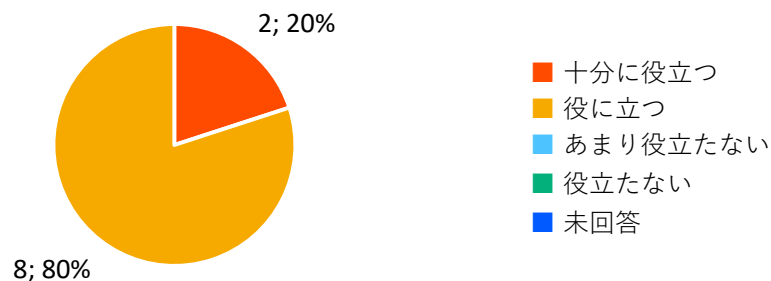
2) 本訓練を受講してEMC活動に対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ 対応できる；数回参加して、対応できるようになってきたと感じた。
- ・ フォローがあれば対応できる；車両の養生はフォローがあれば対応できる。
- ・ フォローがあれば対応できる；1人ではまだ不十分だと思う。
- ・ フォローがあれば対応できる；まだ、十分に対応できるとは思わない。
- ・ フォローがあれば対応できる；地理等、慣れた人のフォローがあれば、十分に対応できるのではないかと感じた。

3) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。

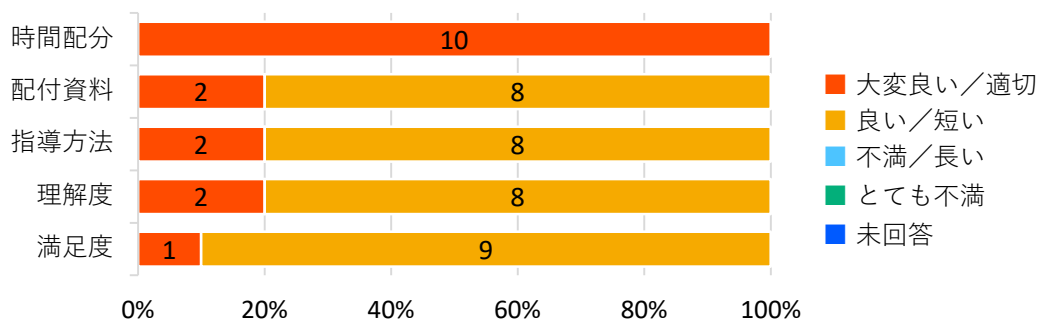


自由記述

- ・ 十分に役に立つ；実際に動くとうまくいかないことや戸惑うこともあったが、それを教訓として、次に生かすことが訓練の意義だと思う。
- ・ 役に立つ；事故の進展に対応する知識が増えた。
- ・ 役に立つ；色々と内容を再確認できてよかった。

3. 各プログラムの評価について

1) 実動訓練

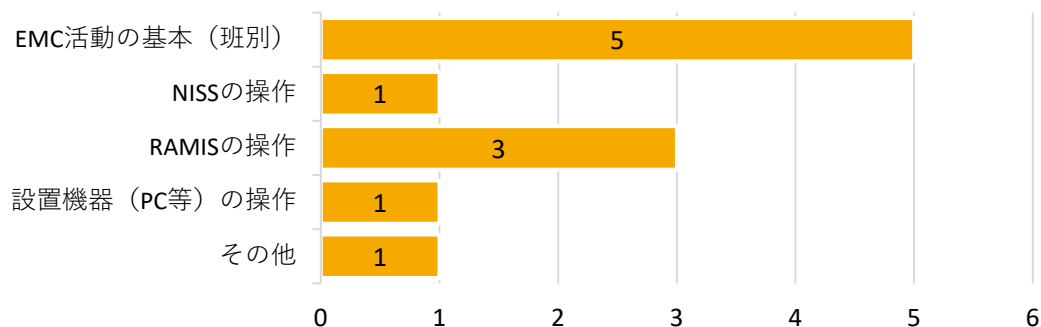


自由記述

- ・ よく理解できた。

4. eラーニングについて

1) EMC活動訓練について、拡充してほしいコンテンツを教えてください。



その他の意見

- ・ ラミセス

2) eラーニングは、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。

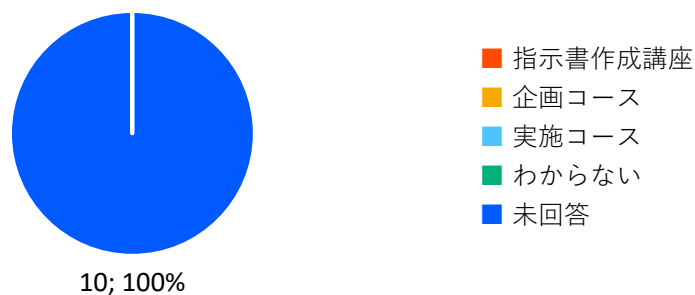


自由記述

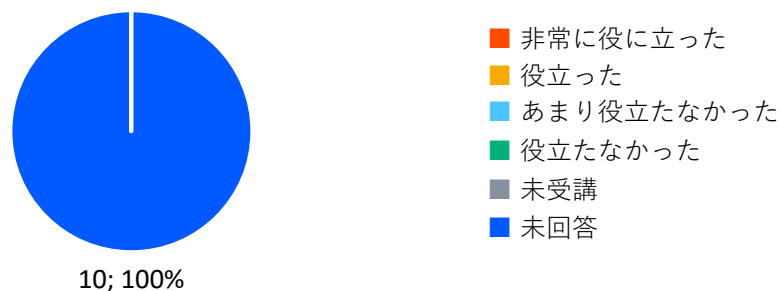
- ・ なし

5. 実践演習（オンライングループワーク）について

1) どのコースを受講されましたか。



2) 実践演習は、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



受講コース別の回答

受講講座	非常に役に立った	役立った	あまり役立たなかった	役立たなかった	回答数合計
指示書作成講座	0	0	0	0	0
企画コース	0	0	0	0	0
実施コース	0	0	0	0	0
わからない	0	0	0	0	0

自由記述

- なし

6. 訓練全般に関する意見・要望

- ・ 机上演習と連動した訓練ができるとよい。
- ・ 今後も継続的な訓練の実施をお願いします。
- ・ 毎年実施して身につけていくのがよいと思う。
- ・ 資機材の確認等ができてよかった。
- ・ 実動訓練においては、ヒヤリハットがいくつかあったため、事前に注意点等を確認して活動したほうがよかった。
- ・ 冒頭に訓練目的をしっかりと周知すれば、身につくよい訓練になると思う。

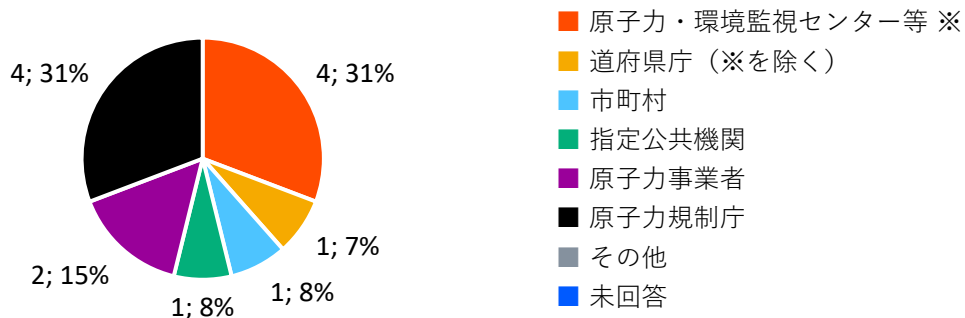
道府県C机上訓練 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 13 名

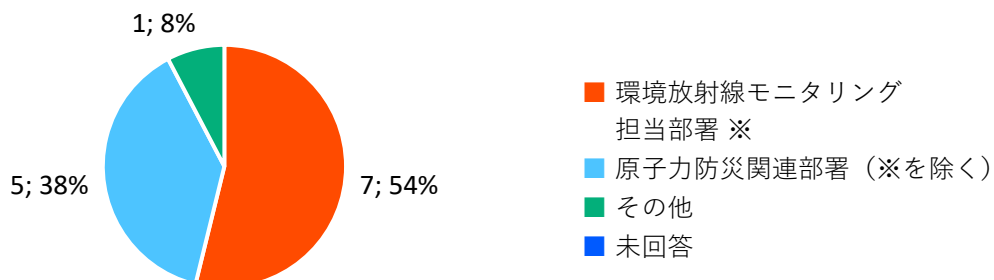
受講者数 : 15 名

1. 受講者自身について

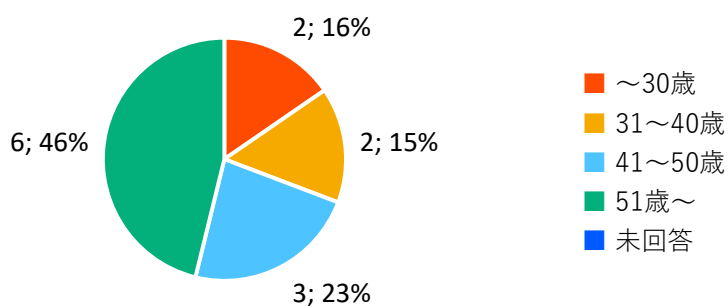
1) 所属



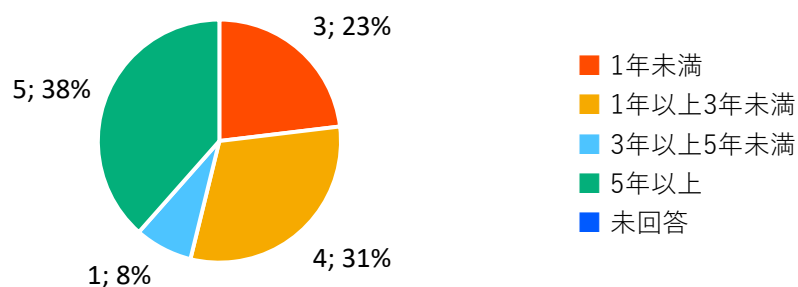
2) 所属部署の属性



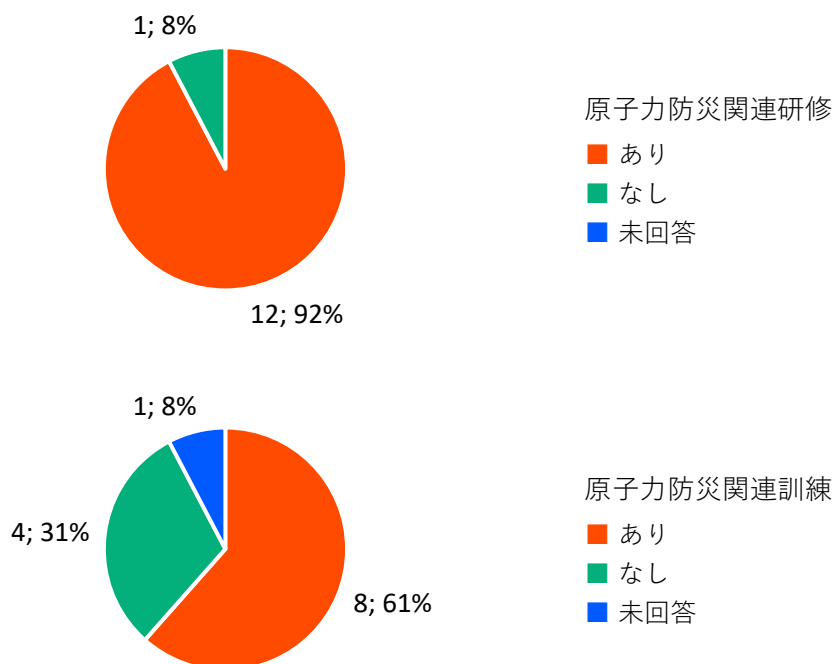
3) 年齢



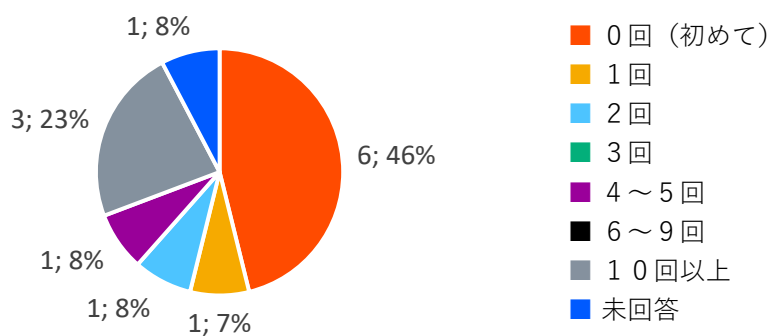
4) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



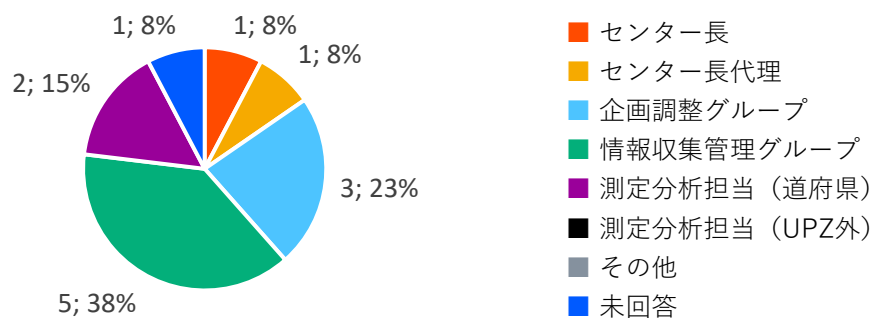
5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験



6) EMC活動訓練参加回数

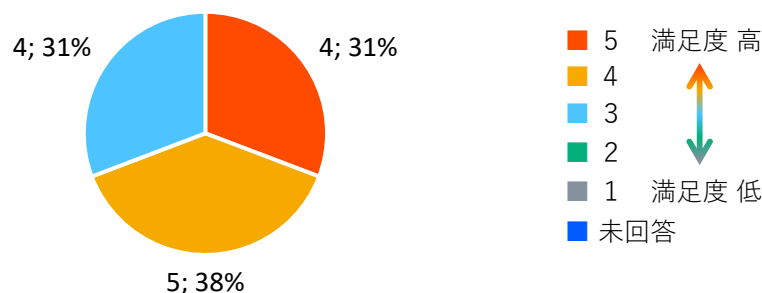


7) 机上訓練での役割



2. 本講座を受講しての所感等について

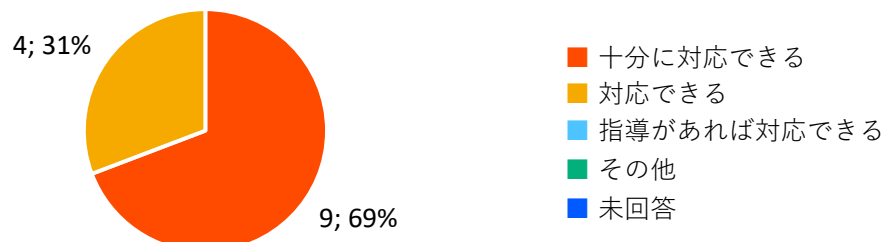
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；はじめてEMCの活動について実際の流れを学ことができました。
- ・ 満足度5；システムの使用方法等の机上教育の後に実動訓練を受講しているためEMCの活動を理解することができたため。
- ・ 満足度5；機器の操作や関係部署との連携について学ぶいい機会であったため。
- ・ 満足度4；小人数ゆえ動きがよく見えた。
- ・ 満足度4；何が求められるかという部分についてしっかりと学ことができた。
- ・ 満足度3；参加要員が少なすぎて、本来EMC要員ではない人にも訓練に参加してもらったが、要員用の訓練なので、本来要員の人に訓練に参加してもらいたかった。
- ・ 満足度3；非常に勉強になった。何分のスペース不足のため、充実感を感じるに至らなかった。
- ・ 満足度3；参加人数が少ない。訓練効果が低い。

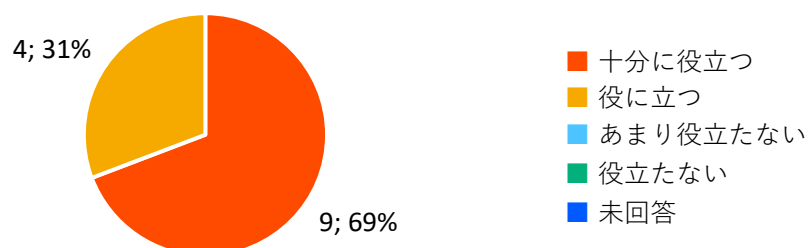
2) 本訓練を受講してEMC活動に対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ 対応できる；上記と同じ
- ・ 対応できる；事態の進展に伴う一連の流れを理解できたため。
- ・ フォローがあれば対応できる；色々な役割を体験してみたいです。
- ・ フォローがあれば対応できる；おおむねの流れ等について学ことができたため、大体必要なことなどを知っており、対応できると考える。
- ・ フォローがあれば対応できる；経験不足、機会を増やす。

3) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。

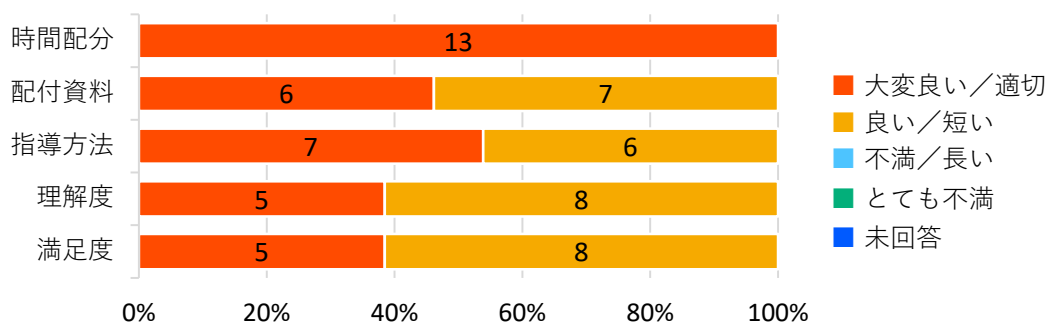


自由記述

- ・十分に役に立つ；業務上必要な知識を習得することができたため。
- ・十分に役に立つ；小人数の場合の対応など
- ・役に立つ；自分の役割はプラントチーム又は事業者ブース対応になるかEMCの活動を理解することができたため。
- ・役に立つ；本来、取り組みできる業務とは異なるため、とても勉強になった。

3. 各プログラムの評価について

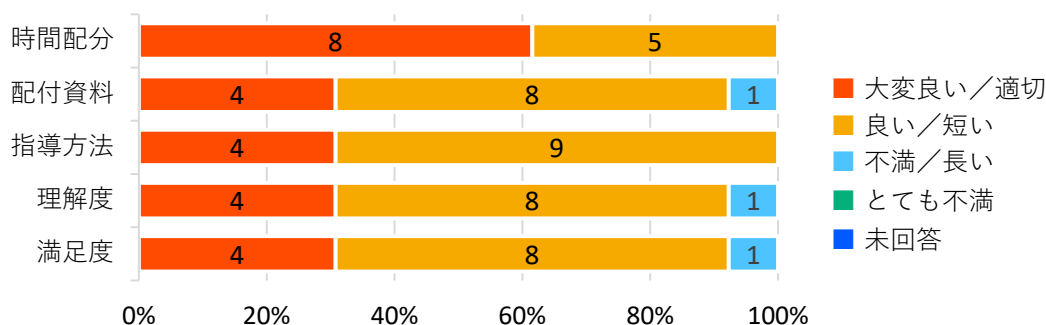
1) 講義 緊急時モニタリングセンター（EMC）の概要



自由記述

- ・要点が絞り込まれていてわかりやすかった。
- ・読み返しても勉強できる資料が特によかった。

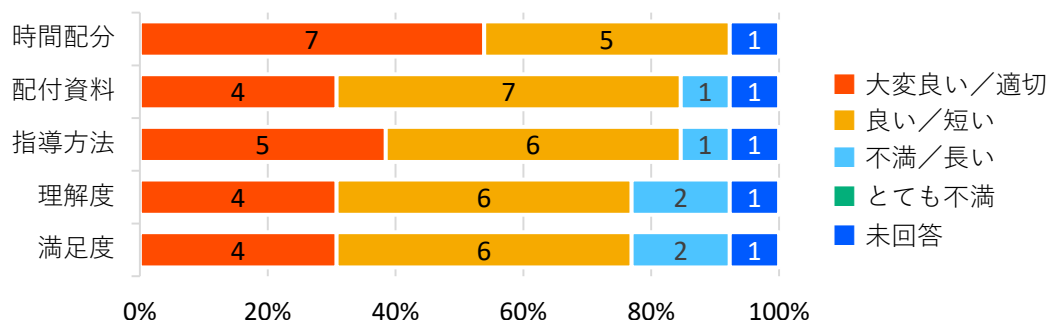
2) 操作実習 EMC設置機器（PC等）、RAMISの操作方法



自由記述

- ・RAMISの各操作ボタンの解説があれば効果的に活用できたと思われる。
- ・機器操作に迷っていると遅れてしまうため、もう少し時間があると良いと感じた。
- ・シンプルに記載されているため、とても分かりやすかった。

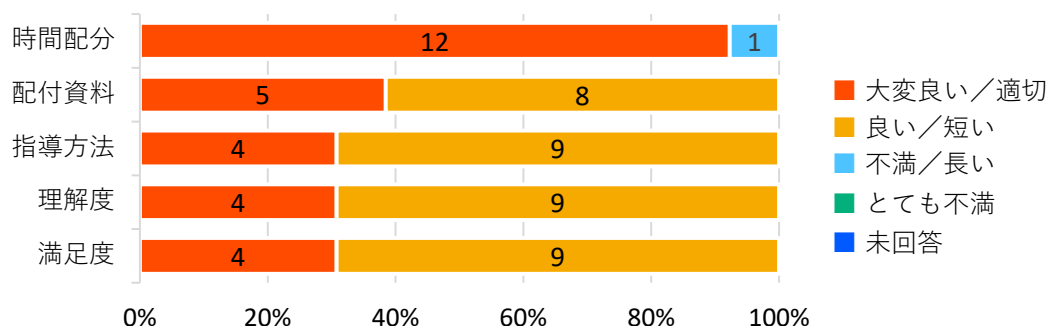
3) 操作実習 クロノロギーシステム（NISS）の操作方法、EMC情報の流れ



自由記述

- ・ ファイル保存場所などについてももう少し詳しく教えてほしいと感じた。
- ・ とても分かりやすかった。

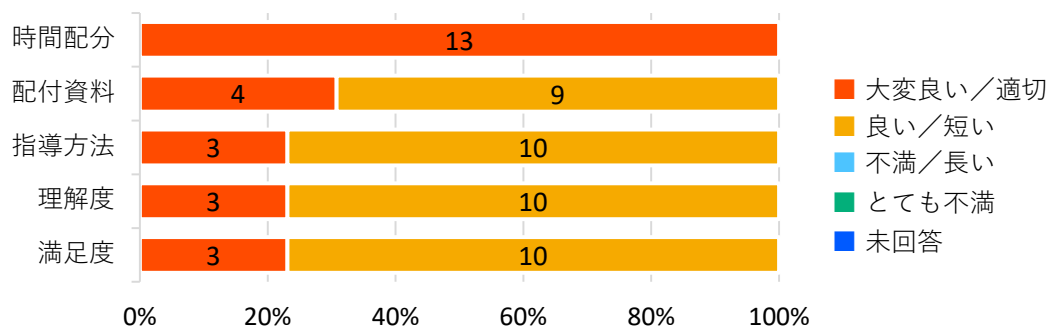
4) 机上訓練 ステップ1 施設敷地緊急事態（SE）の活動



自由記述

- ・ とても勉強になった。

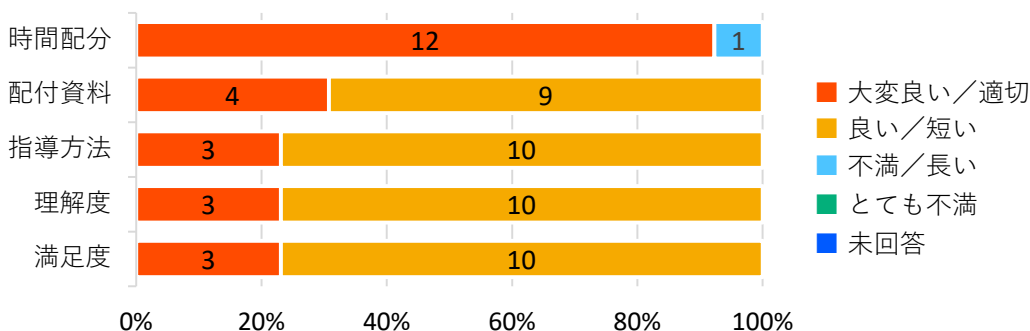
5) 机上訓練 ステップ2 全面緊急事態（GE）放射性物質放出前～放出中の活動



自由記述

- ・ 一連の流れについて理解しやすかった。
- ・ 勉強するのに適切な量の事務であった。

6) 机上訓練 ステップ3 全面緊急事態（GE）放射性物質沈着後の活動

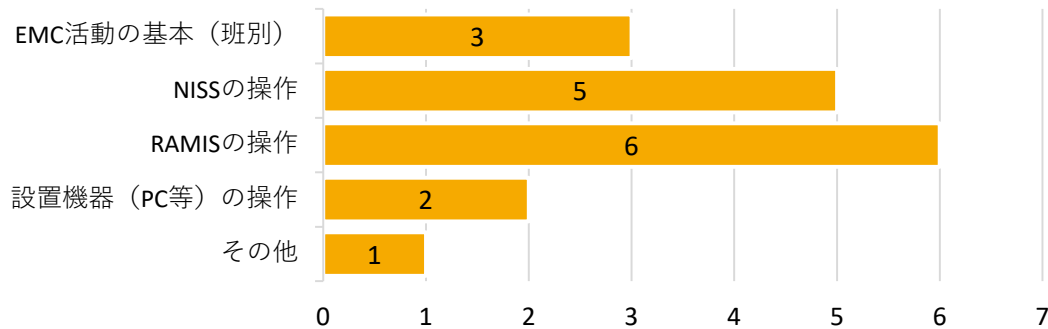


自由記述

- ・ 企画にタスクが集中しすぎて情報Grを利きにしていた。訓練内容に分析結果を評価等いれると良い。
- ・ 情報量が多い場合には全体を理解する余裕が無くなると感じた。
- ・ 情報共有に関しては良好に行えた
- ・ 初期よりも求められる業務が段々と増えてきたことで、ほどよく忙しさを感じながら取り組めた。

4. eラーニングについて

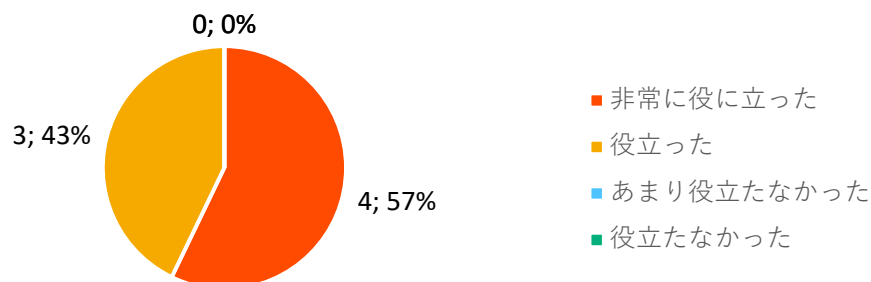
1) EMC活動訓練について、拡充してほしいコンテンツを教えてください。



その他の意見

- ・ 特になし

2) eラーニングは、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。

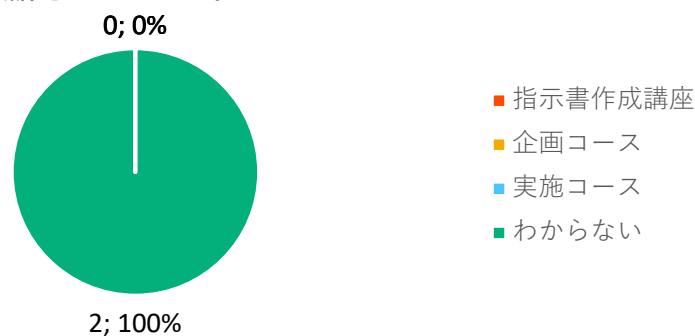


自由記述

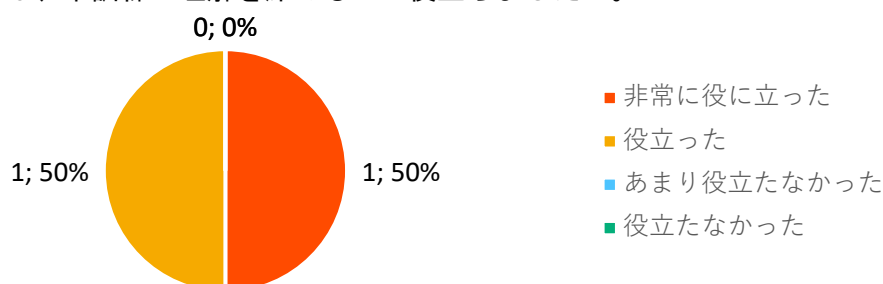
- ・ なし

5. 実践演習（オンライングループワーク）について

1) どのコースを受講されましたか。



2) 実践演習は、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



受講コース別の回答

受講講座	非常に役に立った	役立った	あまり役立たなかった	役立たなかった	回答数合計
指示書作成講座	0	0	0	0	0
企画コース	0	0	0	0	0
実施コース	0	0	0	0	0
わからない	0	0	0	0	0

自由記述

- なし

6. 訓練全般に関する意見・要望

- 事務局には最後にタネアカシをしてもらえると理解が深まると思います。
- 訓練のための訓練にならないようにわりと人材がそろっていて人数が少ないといった場合でも警戒自体から自治体の能力をあげるための訓練はプロデュースしておいた方が急な地震、津波でも対応できる。
- せっくなので、他の道府県のベースデータでも使って回収後データの検証もいれてあげた方が力量を高められる。自治体さんのメイキング力。
- EMCの活動を大変よく理解できました。ありがとうございました。
- 参加人数に対してシナリオが過大と感じた。事務局が一部プレイヤーに参加しても良かったのではないかな。

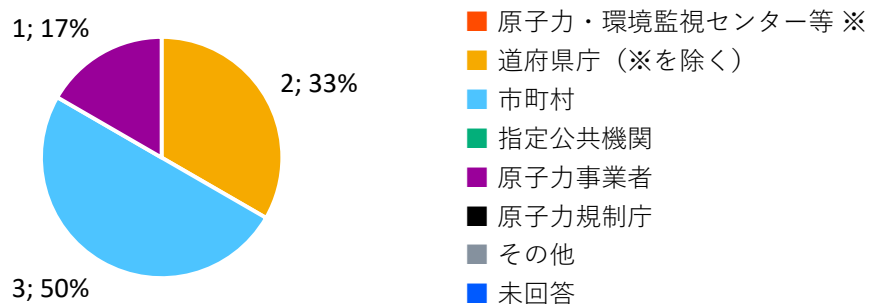
道府県C実動訓練（測定採取班） 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 6 名

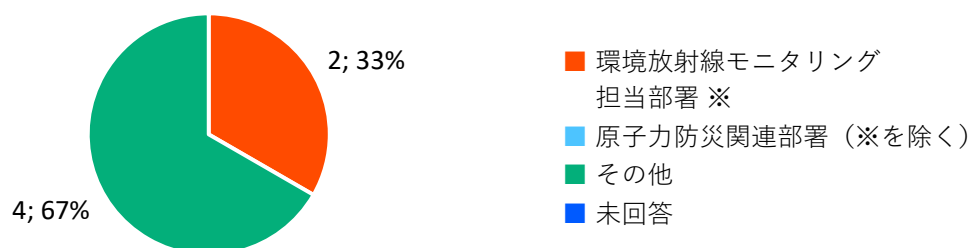
受講者数 : 7 名

1. 受講者自身について

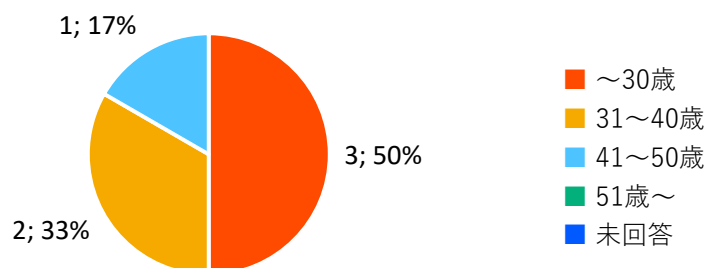
1) 所属



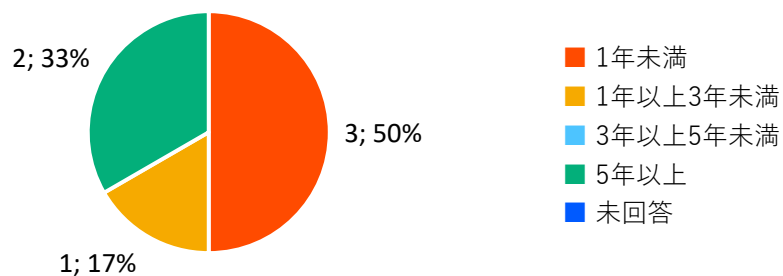
2) 所属部署の属性



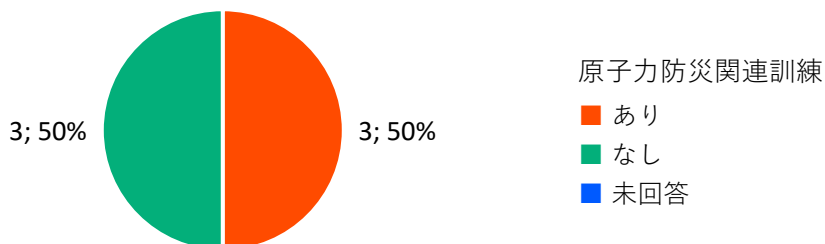
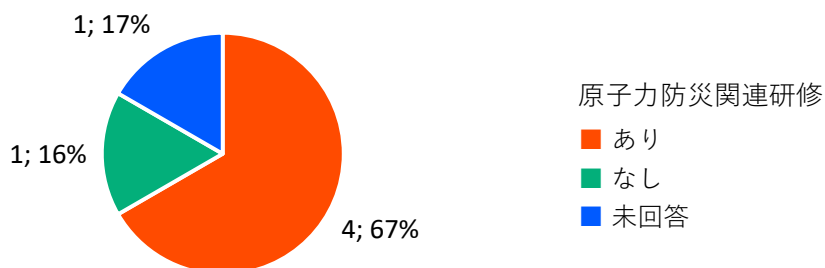
3) 年齢



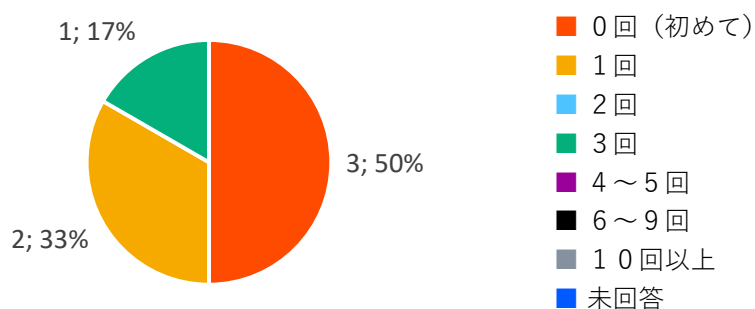
4) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



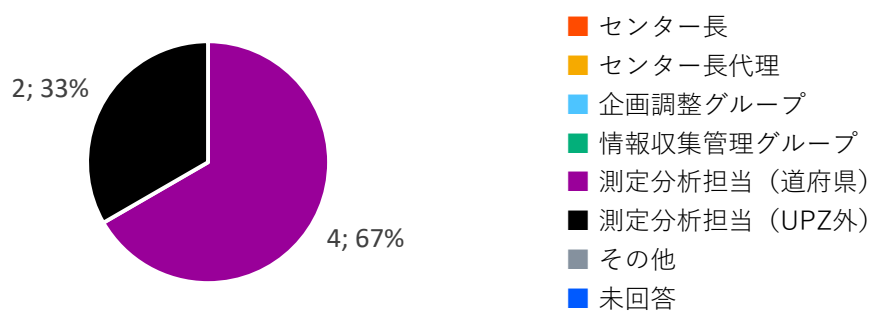
5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験



6) EMC活動訓練参加回数

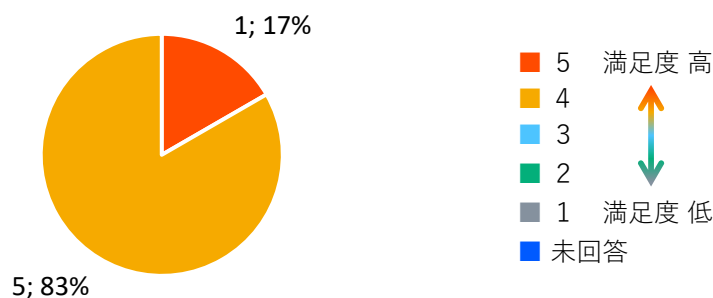


7) 机上訓練での役割



2. 本講座を受講しての所感等について

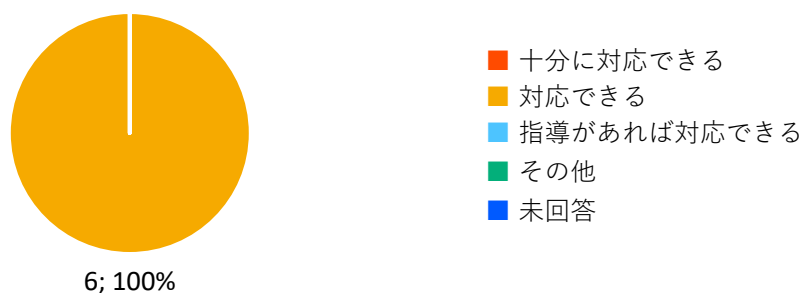
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；ENC活動で実際に行う作業を体験することができ、発災時の自らの役割がどのようなものか、イメージをつかむことができた。
- ・ 満足度4；モニタリング指示書が実際に入ってから訓練していくのも良いと思う。
- ・ 満足度4；何度か受講させていただいているが、水採取は今まで実施したことがなくいい経験になった。
- ・ 満足度4；少数の班で行うことで1人1人がやるべきことが良く把握できた。

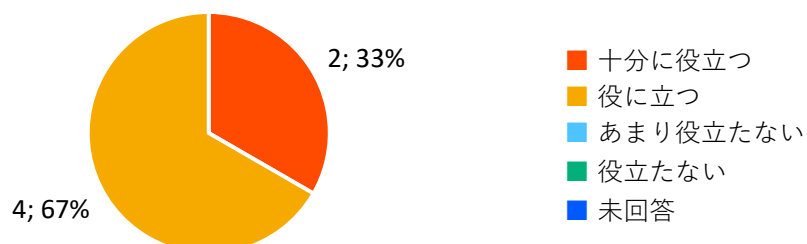
2) 本訓練を受講してEMC活動に対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ フォローがあれば対応できる；1年ぶりに訓練に参加したので忘れていたことも多かった。
- ・ フォローがあれば対応できる；手順などがわからなくなった場合はフォローがあると良い。
- ・ フォローがあれば対応できる；ホット、コールドの概念等の汚染対策に関して経験が不足していたため、フォローがあればより確実な対応を行えると思う。
- ・ フォローがあれば対応できる；可搬MPの設置は手順が多いことからフォローいただきながら実施する形でしたが、その他項目については、うまく実施できた。
- ・ フォローがあれば対応できる；手探り状態での活動が大半なのでサポートが不可欠。

3) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。

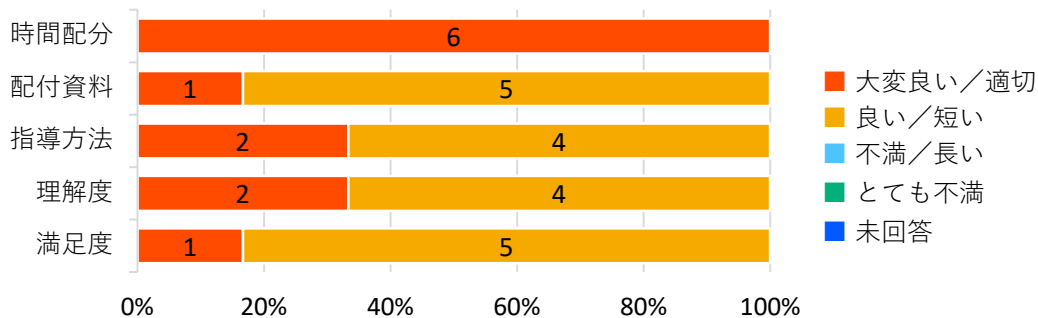


自由記述

- ・十分に役に立つ；実際に活動に近い活動を行い、実践的なスキルを身につけることができ、実務上の注意点を認識することができた。
- ・役に立つ；何度か受講させていただいているものの忘れていた部分もあり反復練習は大事と感じた。
- ・役に立つ；今後の大きな訓練の際に活用できそう。

3. 各プログラムの評価について

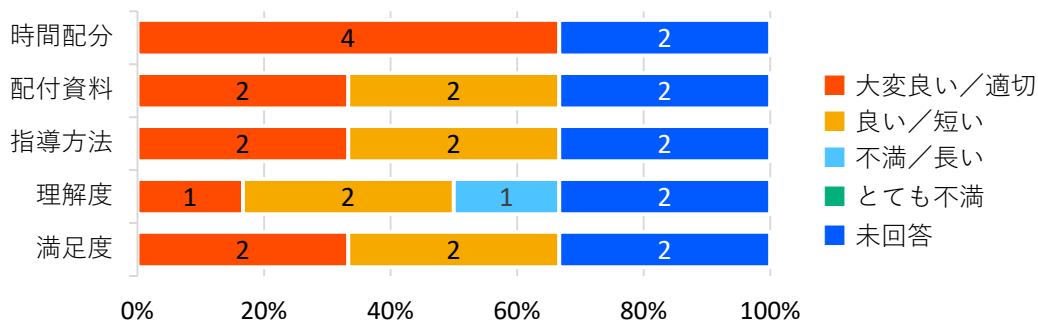
1) 講義 緊急時モニタリングセンター（EMC）の概要



自由記述

- ・わかりやすい資料と説明で良いと思います。
- ・時間配分が適切だったためか2班共ほぼ同時に完了していた。
- ・資料が分かりやすく久しぶりの教育だったが理解できた。
- ・他のグループ研修の声が聞こえてあまり頭に入らなかった。

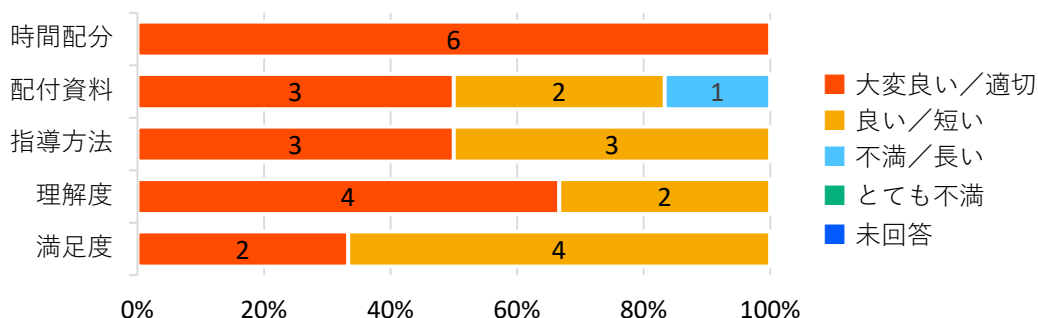
2) 講義 モニタリング情報共有システム（ラミセス）説明



自由記述

- ・教育に加え、実技も行うことで理解が深まった。
- ・うまく活用できるかわからないが、簡単なイメージができた。

3) 実動訓練 演習

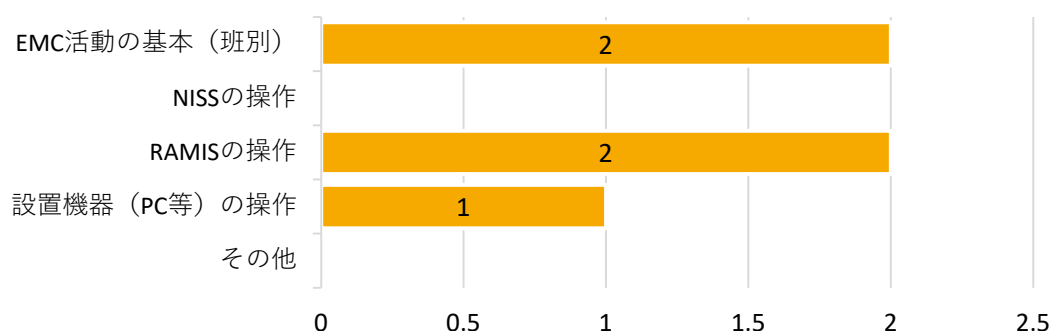


自由記述

- ・ 2回目の訓練参加だったので良い反復練習になったし、前回やらなかった訓練が出来たのも良かった。注意点をもっと資料に書いても良いかと思った（地面に直接置かないなど）。
- ・ 汚染しているところなど意識して行動できていなかった。
- ・ もう少し緊張感があると良い。
- ・ 研修等で先に概要を把握していたため、本訓練で復習することができより実感を持って習得することができた。
- ・ 今回、水採取を初めて実施しましたが、汚染に対する対策についてどのタイミングで、どう実施するのか学べた。
- ・ 現場への持ち物に不足があった。事前の確認があれば良かったと思う。
- ・ 実際に外で行うのが初めてだったので、リアルな体験ができた。

4. eラーニングについて

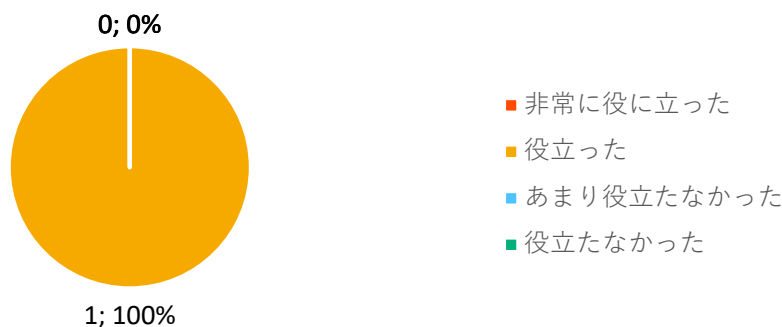
1) EMC活動訓練について、拡充してほしいコンテンツを教えてください。



その他の意見

- ・ なし

2) eラーニングは、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。

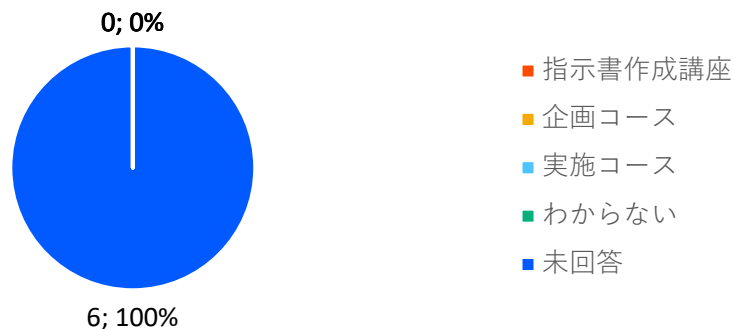


自由記述

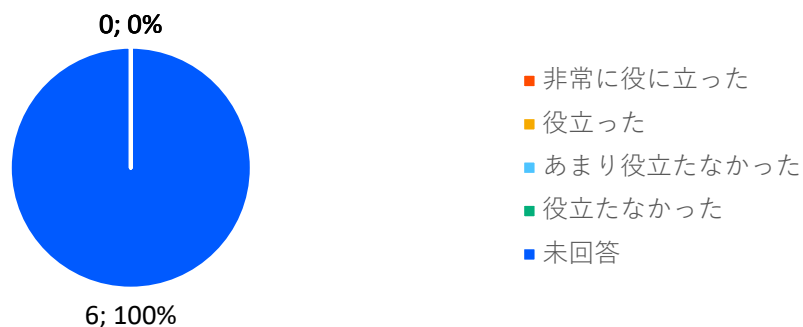
- ・ なし

5. 実践演習（オンライングループワーク）について

1) どのコースを受講されましたか。



2) 実践演習は、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



受講コース別の回答

受講講座	非常に役に立った	役立った	あまり役立たなかった	役立たなかった	回答数合計
指示書作成講座	0	0	0	0	0
企画コース	0	0	0	0	0
実施コース	0	0	0	0	0
わからない	0	0	0	0	0

自由記述

- ・ なし

6. 訓練全般に関する意見・要望

- ・ 防護服の練習もできて良かった。実習で得た経験を活かしていきたいです。
- ・ 可搬型にはマニュアルをラミネートしたものを初めから設置した方が良いのでは。
- ・ 土壌採取の際に道具の準備がなっていないので、事前準備が必要と感じた。
- ・ 測定器の校正が取れていないものがあったため、事前準備が必要と感じた。
- ・ 汚染に触れていないための注意点などマニュアルがあるといいと思う。
- ・ サポートのスタッフが多くて助かった。
- ・ 班の人数が少ない方が色々なものを触れたりするのでよかった。

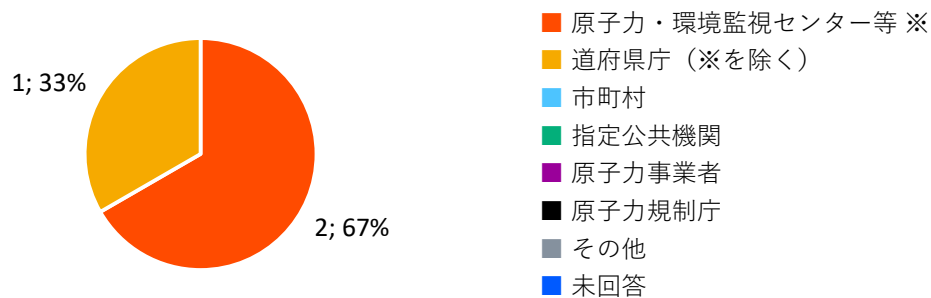
道府県C実動訓練（分析班） 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 3 名

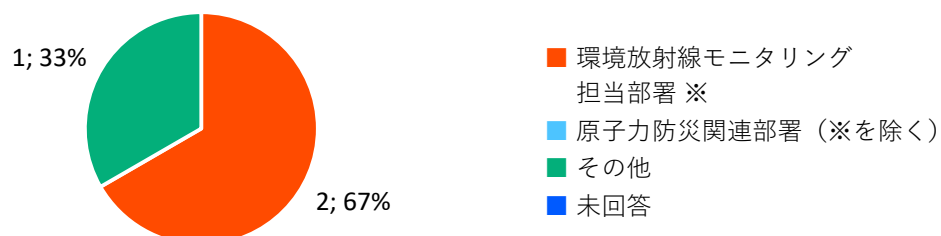
受講者数 : 3 名

1. 受講者自身について

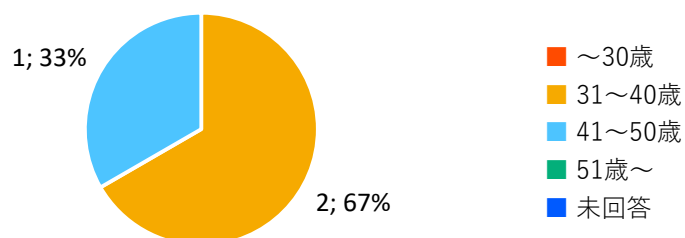
1) 所属



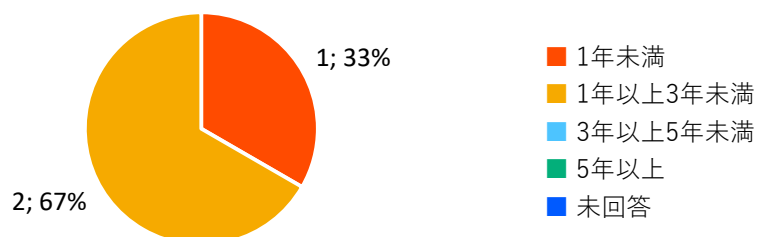
2) 所属部署の属性



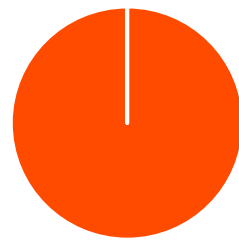
3) 年齢



4) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



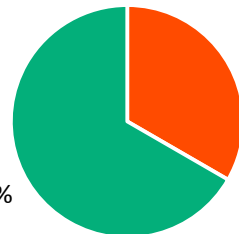
5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験



原子力防災関連研修

あり
なし
未回答

3; 100%

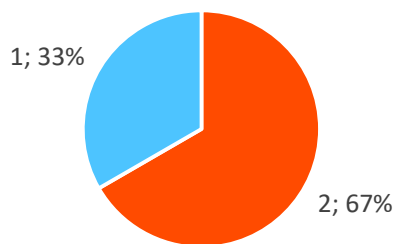


原子力防災関連訓練

あり
なし
未回答

2; 67%

6) EMC活動訓練参加回数



0回（初めて）
1回
2回
3回
4～5回
6～9回
10回以上
未回答

1; 33%

2; 67%

7) 机上訓練での役割

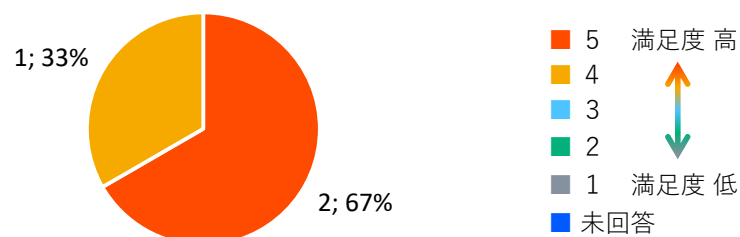


センター長
センター長代理
企画調整グループ
情報収集管理グループ
測定分析担当（道府県）
測定分析担当（UPZ外）
その他
未回答

3; 100%

2. 本講座を受講しての所感等について

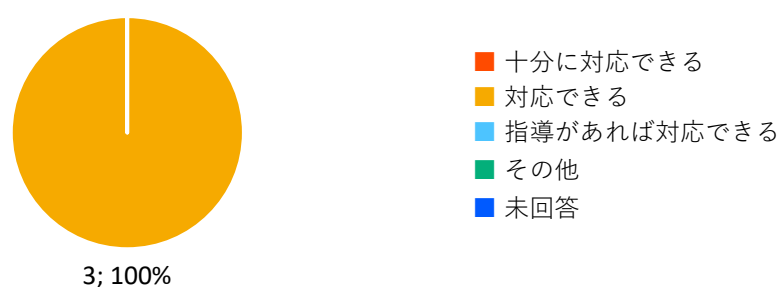
1) 満足度



自由記述

- 満足度5；養生など実際にすることで本番へのイメージが湧いた

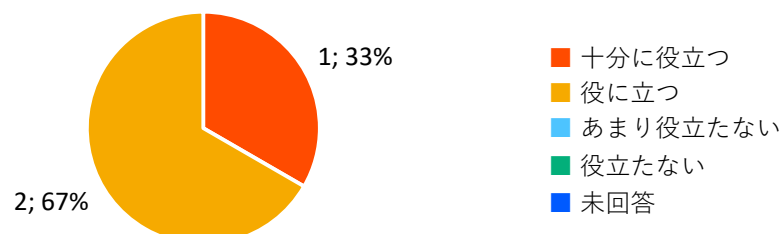
2) 本訓練を受講してEMC活動に対応できるようになりましたか。



自由記述

- フォローがあれば対応できる；システム、電話の名称の理解が及ばないので、1人で対応は難しいと思います。

3) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。

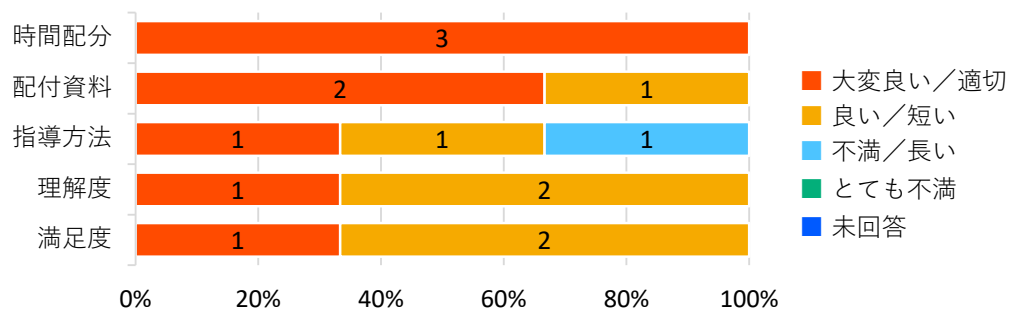


自由記述

- 十分に役に立つ；養生など実際にしてみたことで、本番へのイメージが湧いた。

3. 各プログラムの評価について

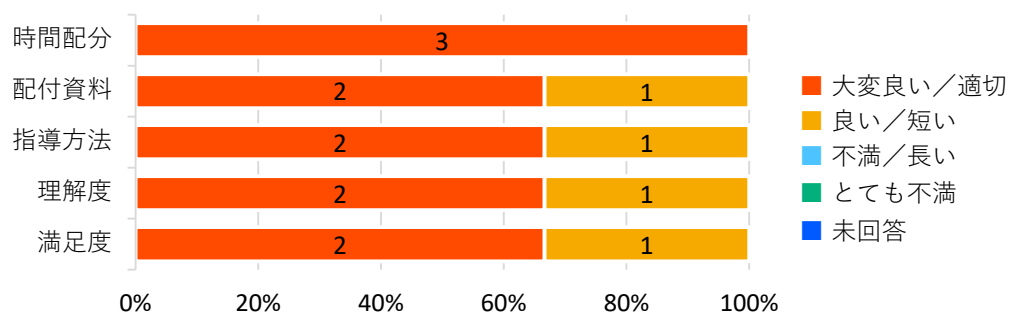
1) 講義 緊急時モニタリングセンター（EMC）の概要



自由記述

- ・ RAMISの講義ではマイクの距離が一定でなかったためか、音声のとぎれたり音量が変化し聞き取りにくかった。

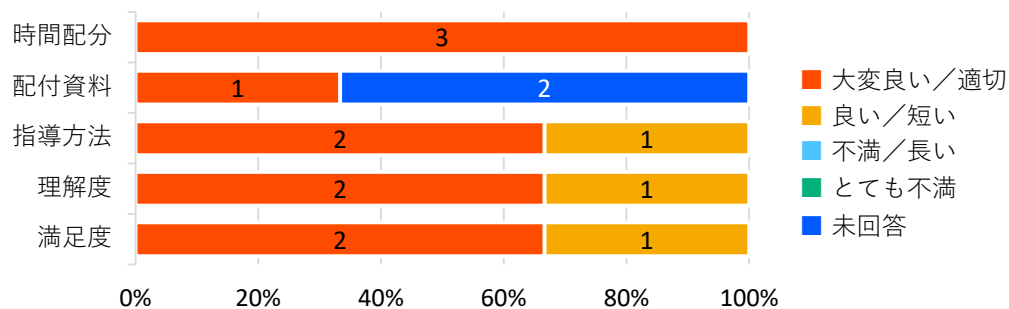
2) 実習 施設の養生



自由記述

- ・ 実際に手を動かし作業したのはよい体験だった。

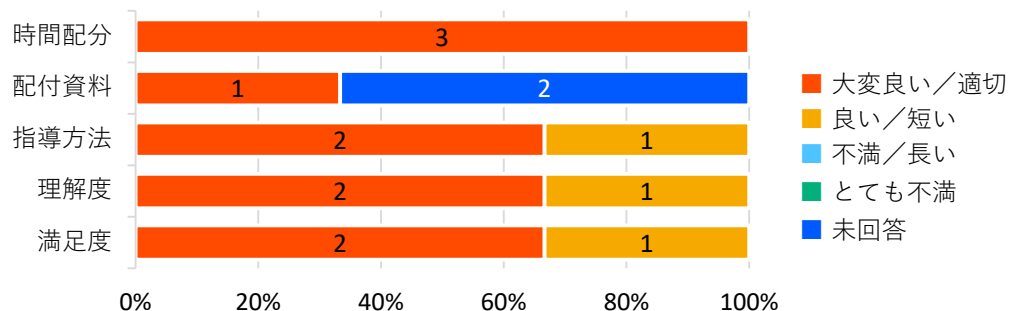
3) 講義 試料前処理の概要説明



自由記述

- ・ なし

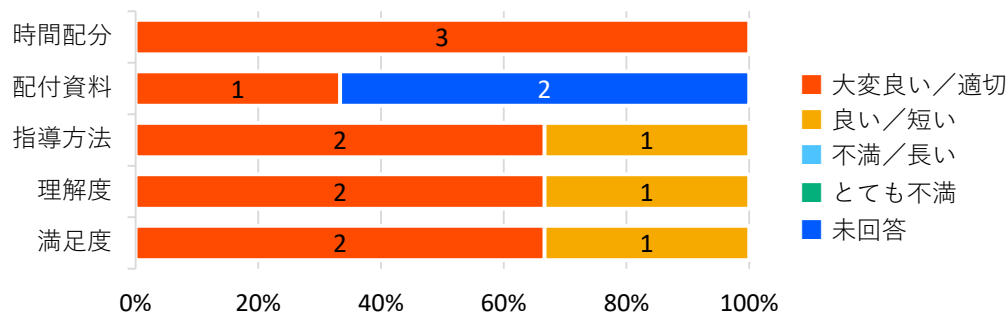
4) 講義 ゲルマニウム（Ge）半導体検出器の概要説明



自由記述

- ・ なし

5) 訓練 分析結果のRAMIS登録訓練

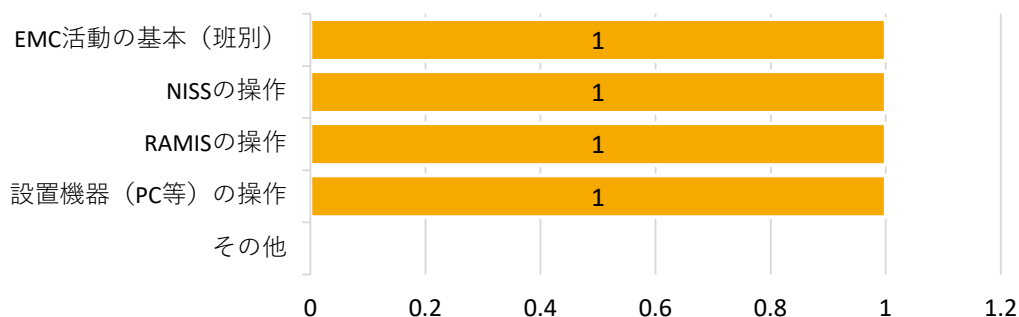


自由記述

- ・ 資料があると良いと思った。
- ・ 訓練がないとさわる機会がないので今回体験できよかった。
- ・ OFCから登録の指示があって対応した。
- ・ 緊急対応を模した対応ができた。

4. eラーニングについて

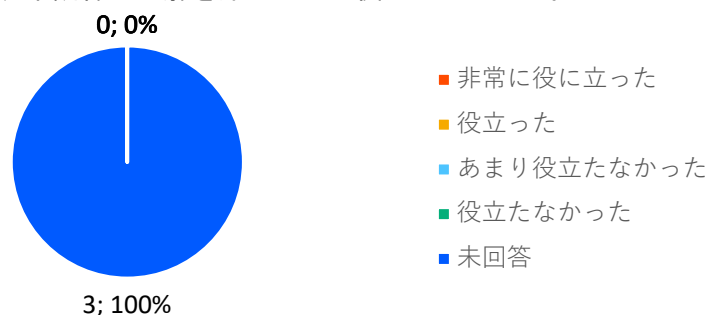
1) EMC活動訓練について、拡充してほしいコンテンツを教えてください。



その他の意見

- ・ なし

2) eラーニングは、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。

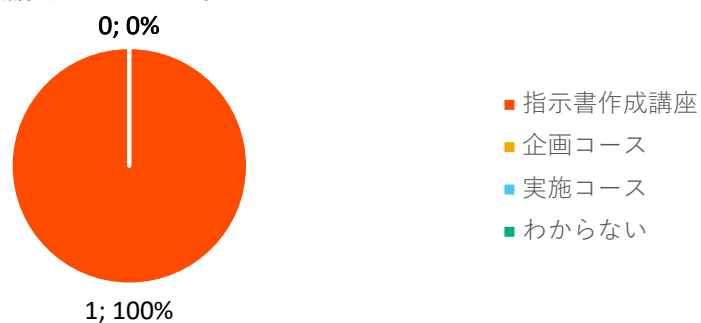


自由記述

- ・ なし

5. 実践演習（オンライングループワーク）について

1) どのコースを受講されましたか。



2) 実践演習は、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



受講コース別の回答

受講講座	非常に役に立った	役立った	あまり役立たなかった	役立たなかった	回答数合計
指示書作成講座	1	0	0	0	1
企画コース	0	0	0	0	0
実施コース	0	0	0	0	0
わからない	0	0	0	0	0

自由記述

- ・ なし

6. 訓練全般に関する意見・要望

- ・ 2日間に渡ってご対応いただきありがとうございます。課題がたくさん見つけることができました。

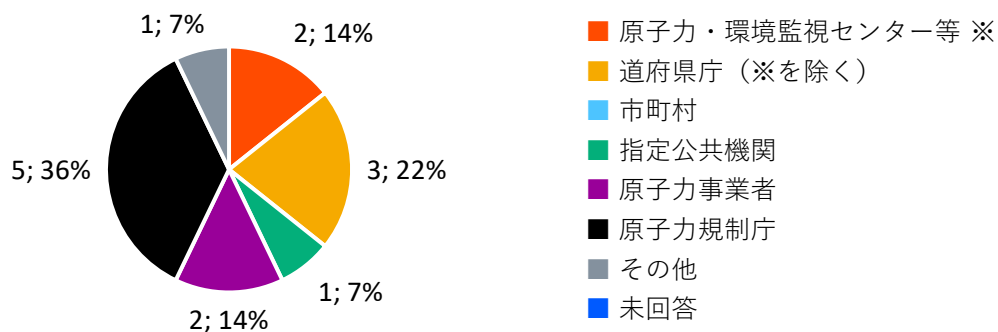
道府県D 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 14 名

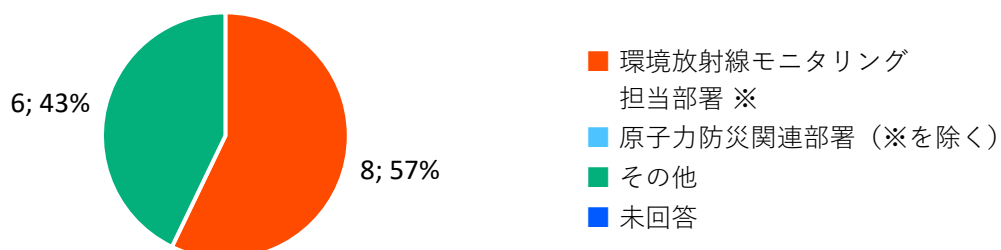
受講者数 : 14 名

1. 受講者自身について

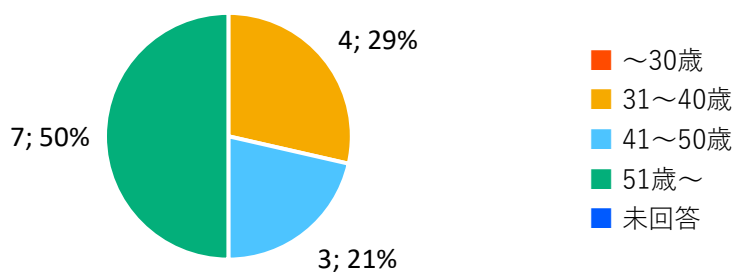
1) 所属



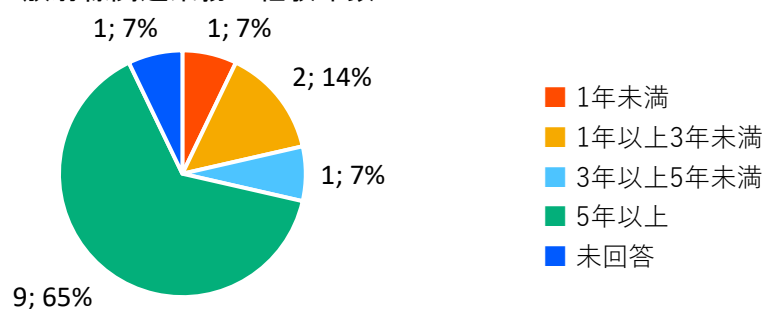
2) 所属部署の属性



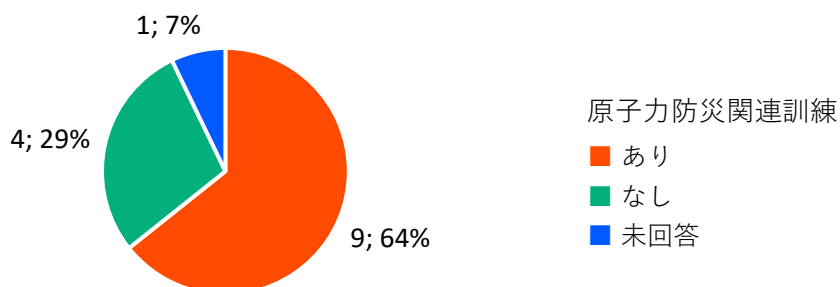
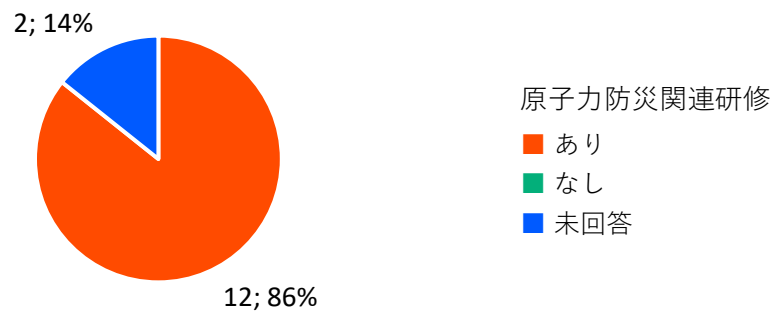
3) 年齢



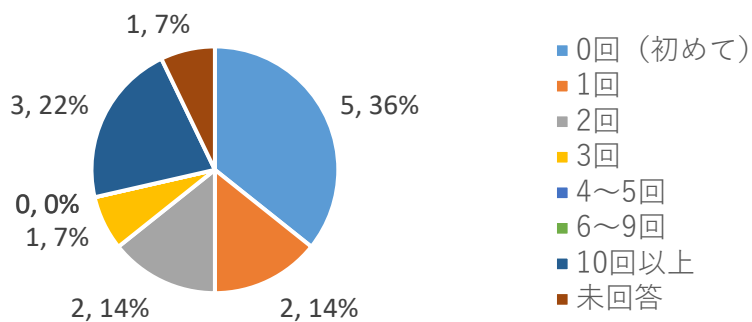
4) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



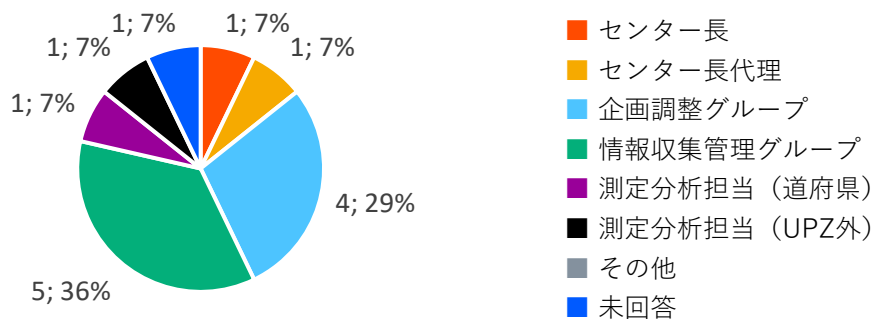
5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験



6) EMC活動訓練参加回数

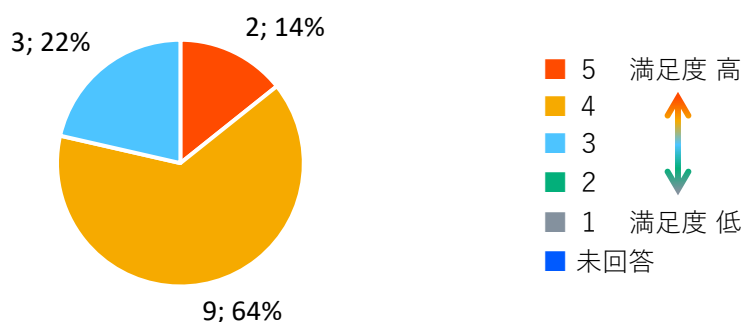


7) 机上訓練での役割



2. 本講座を受講しての所感等について

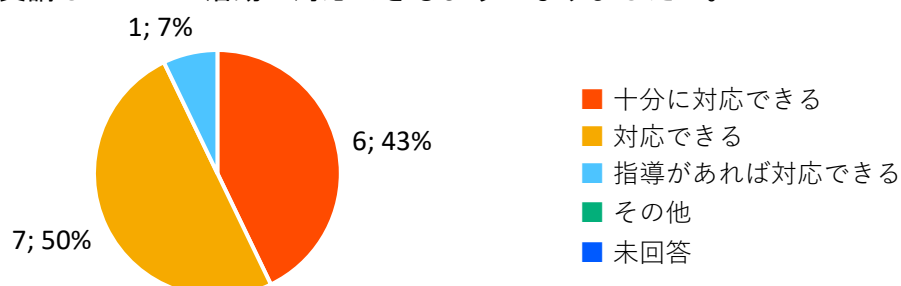
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；詰め込みすぎくらいの内容だった。
- ・ 満足度4；初めて情報収集管理グループを経験でき、活動も理解することができた。
- ・ 満足度4；人数が少なかった分、役割が多く、あっという間に訓練が終了した感じがあった。
- ・ 満足度4；全体の流れがわかって良かった。
- ・ 満足度4；机上訓練が多くて良い。
- ・ 満足度3；初日の停電情報については、優先順位は高くない（サブ電源は3日は持つことになっているので、すぐに対応する必要はない）ので、即座に対応する必要はないのではないか。
- ・ 満足度3；停電規模の大小や2日目になっても停電が継続しているか等の条件で、対応パターンは変わると思う。
- ・ 満足度3；人数が少ないのに内容が多い。

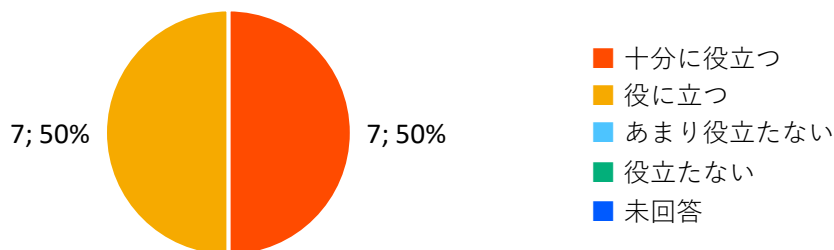
2) 本訓練を受講してEMC活動に対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ 対応できる；少人数で乗り越えた。
- ・ フォローがあれば対応できる；情報の送付先リストなどがあれば対応できる。今回の訓練では資料があったため対応できたが、本番の際に資料がない状態では、フォローがないと対応が難しいと感じた。
- ・ フォローがあれば対応できる；機器の操作はフォローが必要。
- ・ フォローがあれば対応できる；手元に資料があれば。
- ・ フォローがあれば対応できる；実際に行う具体的な作業を理解することができた。
- ・ フォローがあれば対応できる；多種の役割があるため。

3) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。

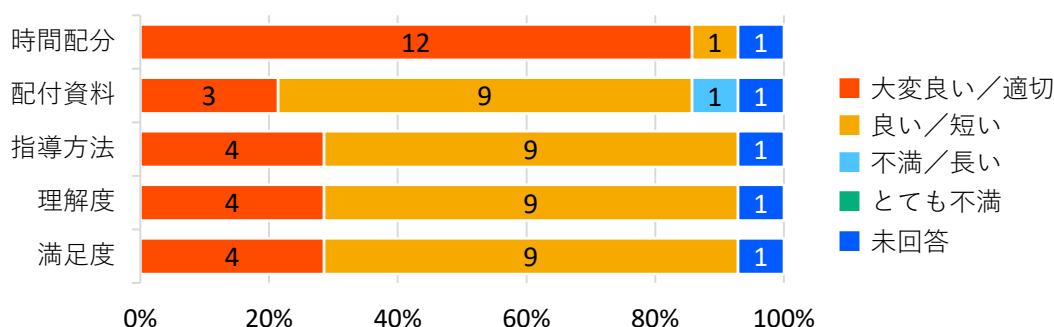


自由記述

- ・十分に役に立つ；国が整備する危機管理システムに触れたことで、自組織内で使用する危機管理システムの回収する際の参考になるため。
- ・十分に役に立つ；実際に手や頭を動かすことで身につく。
- ・十分に役に立つ；これまでにない付与情報への対応が必要だった。
- ・役に立つ；机上訓練で臨機応変に対応する能力が身につく。

3. 各プログラムの評価について

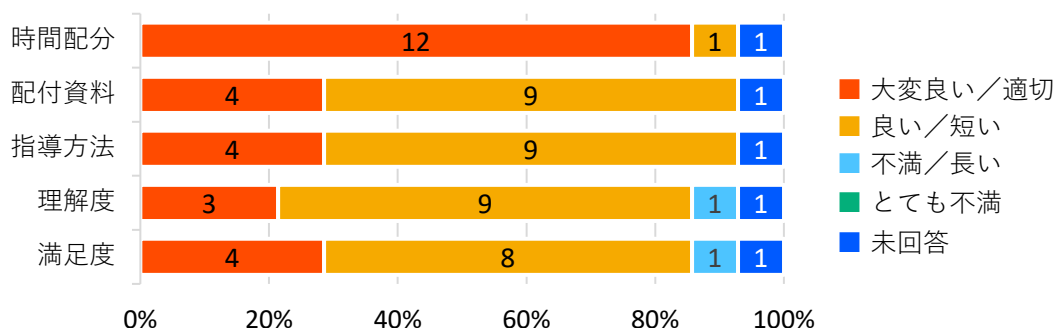
1) 操作実習 EMC設置機器（PC等）、RAMISの操作方法



自由記述

- ・複数回受講している要因にはわかる内容であったと思うので、初めて受講する要員、経験の浅い要員の感想をよく聞いて、改善して欲しい。
- ・机上訓練で実際に使用するので、あれくらいの内容でよい。

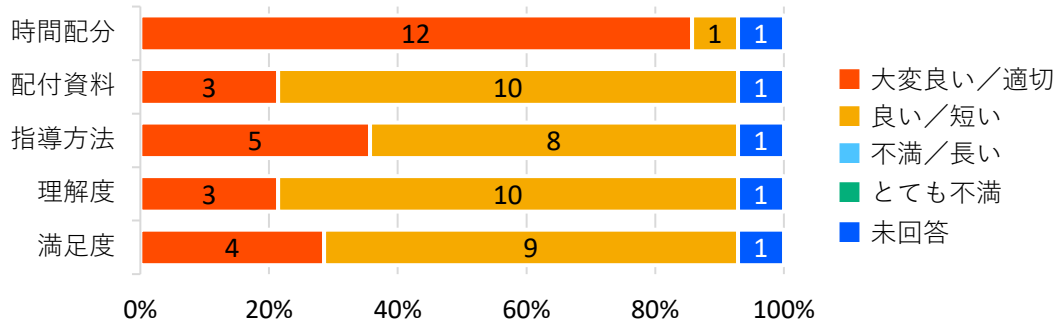
2) 操作実習 クロノロジーシステム（NISS）の操作方法、EMC情報の流れ



自由記述

- ・実操作時間が割と長くて良かったと思う。
- ・EMC情報の流れは、シート・パウチ化されると実際の活動に使いやすくて良い。
- ・机上訓練で実際に操作するのに必須。ないと対応厳しい。

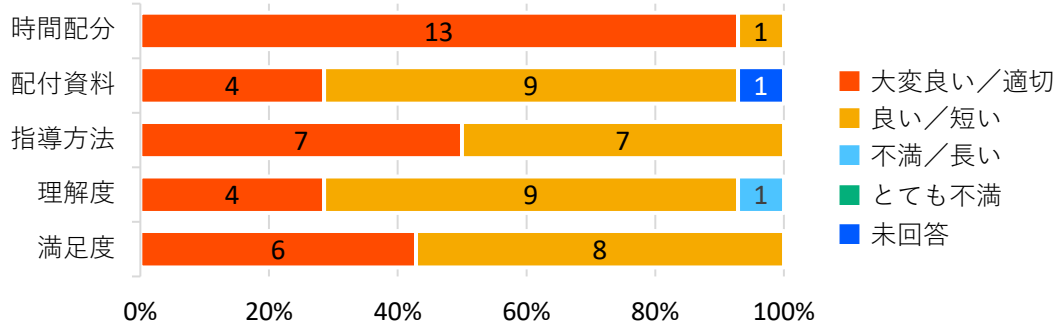
3) 机上訓練 ステップ1 施設敷地緊急事態 (SE) の活動



自由記述

- ・ 初動の活動は、要員の意思統一が不十分であったため、混乱が生じた。
- ・ 人員が少なく、常時NISSにはりつきであったため、非常に疲れた。1時間以上経過したあたりで、集中力が低下していることを自覚した。
- ・ 情報の流通経路が一覧表になっていると作業しやすいと感じた。
- ・ 内容に不満はないが、初期情報の印刷・掲示が間に合わない。スタート前の準備にもう少し時間がほしい。

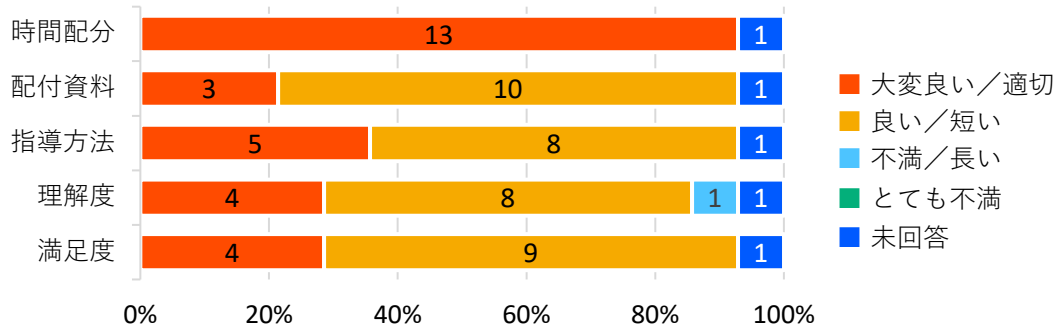
4) 机上訓練 ステップ2 全面緊急事態 (GE) 放射性物質放出前～放出中の活動



自由記述

- ・ 断水エリアの調査は、シナリオの意図がつかめなかった。
- ・ RAMIS担当として欠測確認や定時報作成に取り組んだ。実際に触るシステムを良く理解できた。

5) 机上訓練 ステップ3 全面緊急事態 (GE) 放射性物質沈着後の活動

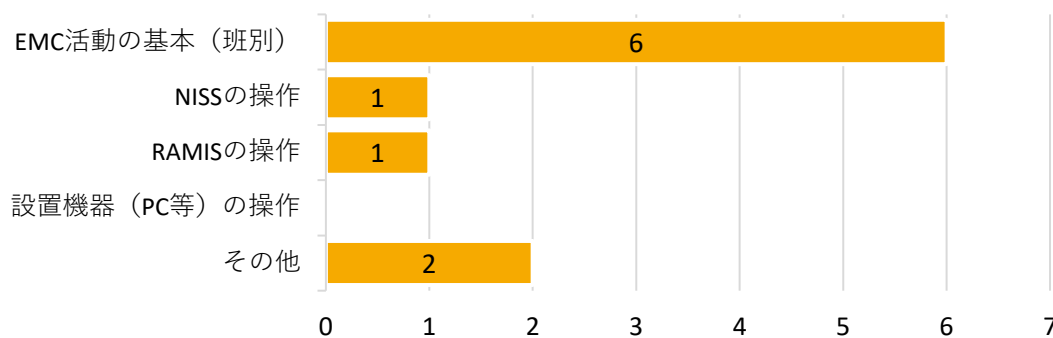


自由記述

- ・ ヨウ素剤輸送に関する連絡があったが、意図がつかめなかった。
- ・ 国際支援について、ERC放射線班へ回答したが、レスポンスがなかった。
- ・ 地震による欠測が入るなど、工夫されていて良かった。

4. eラーニングについて

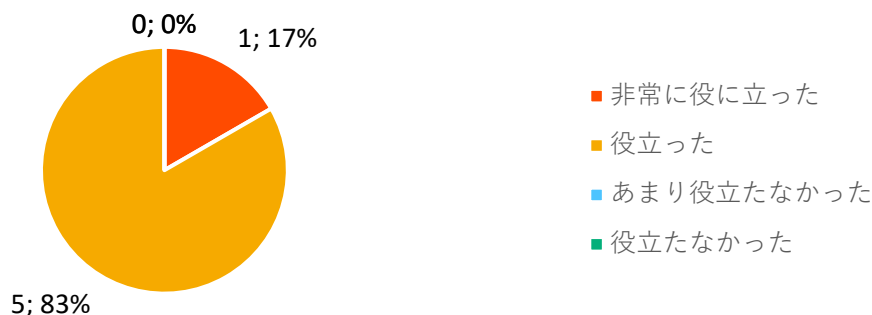
1) EMC活動訓練について、拡充してほしいコンテンツを教えてください。



その他の意見

- ・ EMCの使命をよりわかりやすく。
- ・ 特になし。

2) eラーニングは、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。

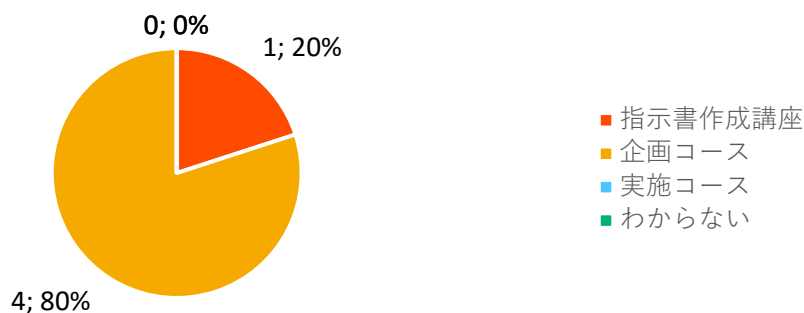


自由記述

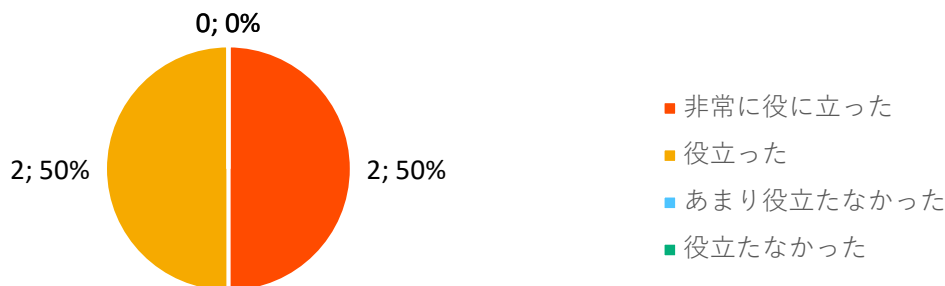
- ・ 未回答；EMCの活動の目的や内容をもっと要員に刺さるようにできないか。
- ・ 役立った；福島対応における対談は、現場の苦労がわかる良いコンテンツであった。
- ・ 役立った；放射線関連業務に普段は従事していないので、学習としてみておくべきだと思う。
- ・ 役立った；事前に学習することで、当日の理解が深まった。

5. 実践演習（オンライングループワーク）について

1) どのコースを受講されましたか。



2) 実践演習は、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



受講コース別の回答

受講講座	非常に役に立った	役立った	あまり役立たなかった	役立たなかった	回答数合計
指示書作成講座	1	0	0	0	1
企画コース	2	1	0	0	3
実施コース	0	0	0	0	0
わからない	0	1	0	0	1

自由記述

- ・ 未回答；国側（上席）でも意志統一が必要と感じた。【受講コース：企画コース】

6. 訓練全般に関する意見・要望

- ・ センター長目線では、EMCの参集人員の表（役割分担、氏名等を記入するもの）と、測定分析担当のホワイトボードと同じリソース（人、資機材）の状況一覧をEMCにも掲示してもらえると良かった。
- ・ 断水地区の飲料水の話があったが、もやもやした。EMCに何をさせたかったのか、EMCはどう動くべきなのかわからない。おそらくEMC単独で動く話ではなくて、住民安全班とかが別に何らかのアクションをしているはずであるのに、その情報がないところが違和感の元だと思う。
- ・ 内容が盛りだくさんな訓練であった。あまり詰め込みすぎると記憶に残る部分が薄くなる気もするが、かといって暇な時間ができるのも困るので難しい話である。
- ・ 本来、ERC放射線班の要員であるが、現場のEMCの活動が良くわかった。
- ・ 自治体（監視センター）の要員が少ない感がある。
- ・ 密度の濃い訓練だった。
- ・ フェーズの切り代わりのバタバタに対応できるよう、今後も訓練に参加していきたい。
- ・ EMC全体としてのミッションは何なのか、モニタリングをする上で欠かせないことは何か、についてのイメージがわきにくい。何か工夫を（私は複数回参加しているので全体がつかめているが、最初の人にはわかりにくいと思う）。
- ・ クロノロジーシステムがシステムエラーで落ち、再起動となることがあった。
- ・ クロノロジー、モニタリングシステム両方について、ウィンドウの図を（誤って）押しても、「閉じてよいですか？」の確認をするように（すぐに閉じないように）してほしい。
- ・ イレギュラーな事象もあり、色々と考えながらの訓練で良い経験となった。
- ・ 今回、訓練参加者が少なく、本来訓練を受けるべき人が参加しなくてよいのか（初めてEMC担当となった人、また参加したことのない人は必須とするなど、もう少し参加者が増えるように検討してほしい）。
- ・ 机上訓練のやるべき内容に対して、参加人数が少ない。もう少し人数がいた方がうまく業務が回ると思う。
- ・ 机上訓練中には休憩がないので、トイレや水分補給について、どうすべきかアナウンスがほしい。人数が少ないと、それらの休憩も困難。
- ・ 電子ファイルの位置等がわかるとやりやすい。
- ・ さすがに内容を詰め込みすぎでは（内容と人数バランス）。

- ・ EMCでの訓練は初めてだったので、大変勉強になった。
- ・ システム関係の操作について理解が深まったので、機会があれば今後も訓練に参加したい。

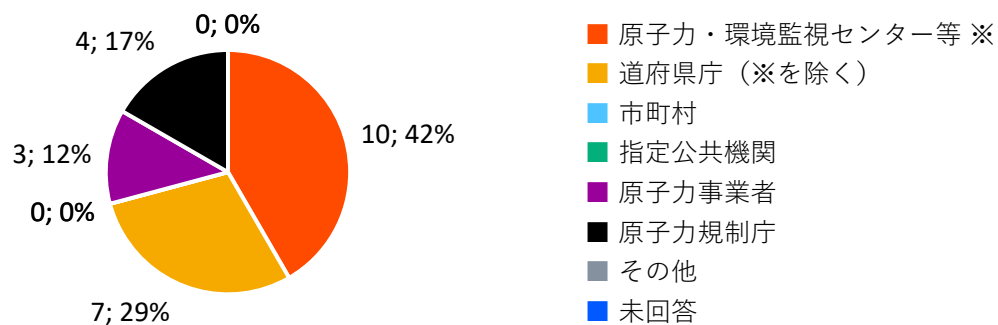
道府県E 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 24 名

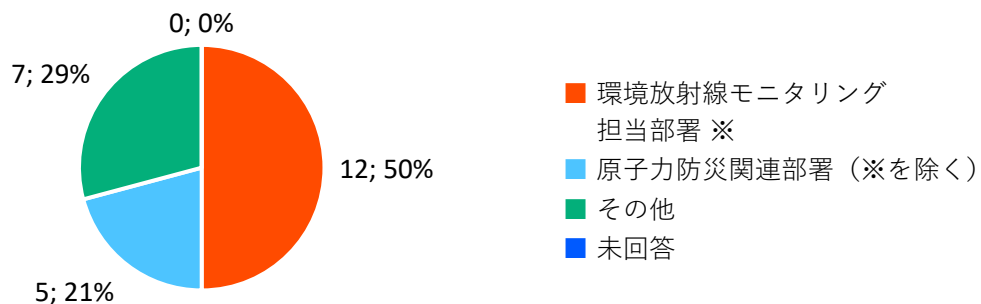
受講者数 : 24 名

1. 受講者自身について

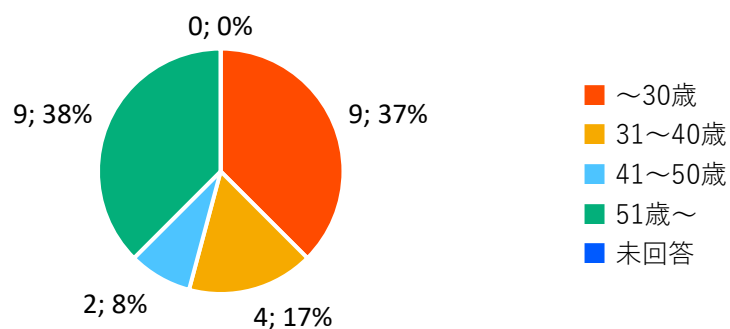
1) 所属



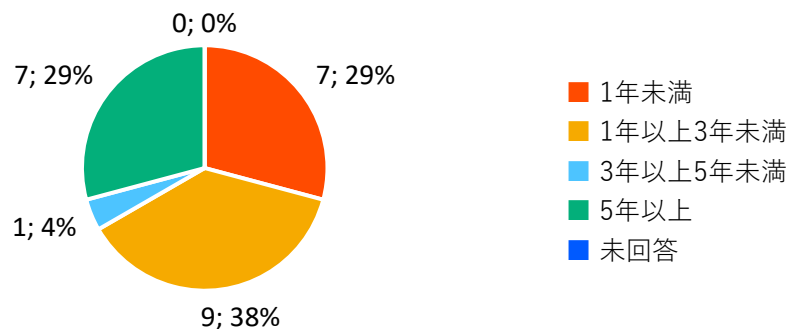
2) 所属部署の属性



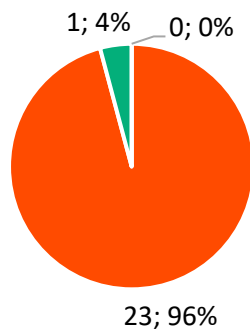
3) 年齢



4) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数

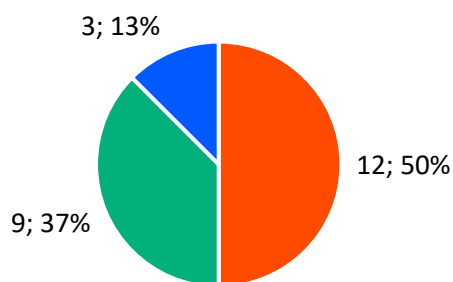


5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験



原子力防災関連研修

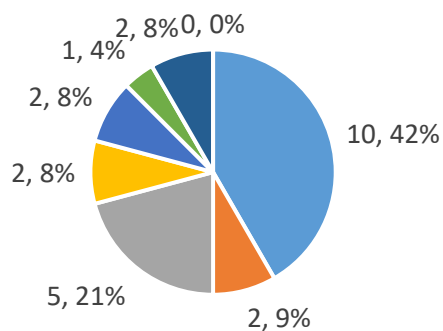
あり
なし
未回答



原子力防災関連訓練

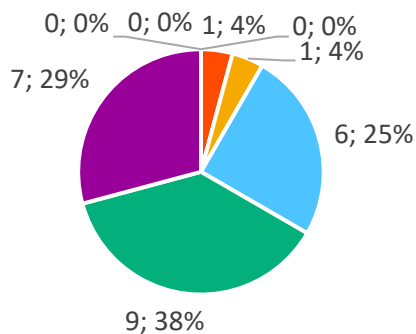
あり
なし
未回答

6) EMC活動訓練参加回数



0回 (初めて)
1回
2回
3回
4~5回
6~9回
10回以上
未回答

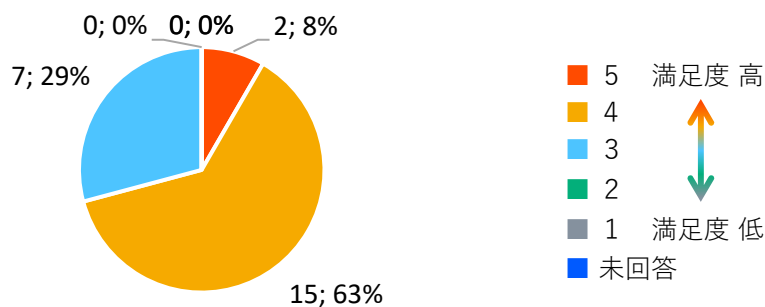
7) 机上訓練での役割



センター長
センター長代理
企画調整グループ
情報収集管理グループ
測定分析担当 (道府県)
測定分析担当 (UPZ外)
その他
未回答

2. 本講座を受講しての所感等について

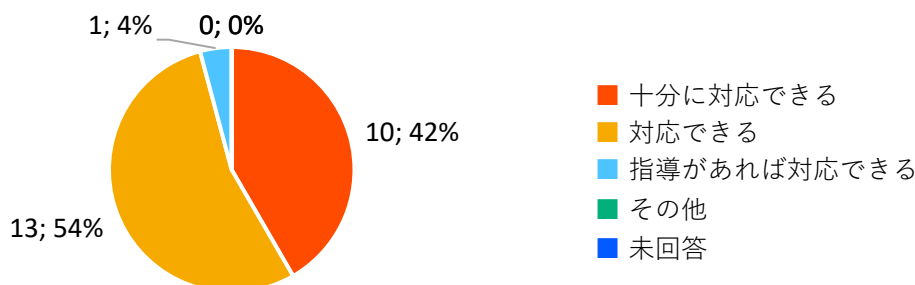
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；情報の流れを確認できたため
- ・ 満足度5；企画調整グループの業務の流れがよくわかった。
- ・ 満足度4；全体の流れをおおまかに理解できたため
- ・ 満足度4；経験をつめて良かった。
- ・ 満足度4；測定分析グループとしての動きを確認できた。
- ・ 満足度4；初めての参加でしたが、理解を深めることができました。
- ・ 満足度4；ハード的にもっと作業しやすい環境を作れると思う。
- ・ 満足度4；初めての訓練参加だったので、初めての内容を理解するのが難しかったので、実際の動き、流れが理解できたと思った。
- ・ 満足度4；過去に道が実施した訓練に参加したことはあったが、今回の訓練はそれよりもだいぶ実践的であった。
- ・ 満足度4；全体の流れについて理解できた部分が多かった。
- ・ 満足度4；同じグループで何度も訓練を受けていますが、役割が変わるとまた新しい視点で訓練ができたのでよかった。
- ・ 満足度4；昨年度の訓練に比較して、状況付与が様々に付与され、より实际的になったと思う。
- ・ 満足度4；初めての参加で全体の流れや担当の業務を理解できた。
- ・ 満足度4；充実した訓練だった。
- ・ 満足度3；全体の流れがわかった。
- ・ 満足度3；訓練の必要な事案がないことが一番満足

2) 本訓練を受講してEMC活動に対応できるようになりましたか。

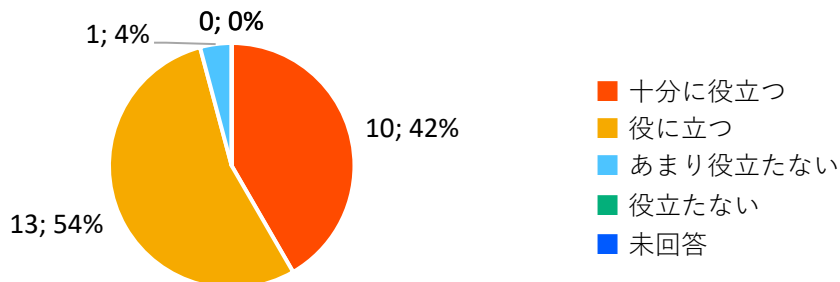


自由記述

- ・ 対応できる；初めは何をすれば、何をするのかさえわかっていなかったが、流れが理解できたことで少しは対応できるようになった。
- ・ 対応できる；グループ内の役割が、実際に行うことで理解することができた。
- ・ フォローがあれば対応できる；今回の訓練についても経験者のフォローでなんとか乗り切れたため。
- ・ フォローがあれば対応できる；今回訓練したから対応できたが、ぶっつけ本番は厳しい。
- ・ フォローがあれば対応できる；指示書の作り方をもう一度整理したい。

- ・ フォローがあれば対応できる；2日間を通し、基本的な役割を学ぶことができた。
- ・ フォローがあれば対応できる；経験者の方のフォローしてもらいながらやっていたので、一人の時は難しいと思う。
- ・ フォローがあれば対応できる；マニュアル等の理解が浅いため、大まかな作業の理解は進んだ。
- ・ あまり対応できない；本訓練では周りにフォローして頂いた場面が多く、フォローして頂いてなおスムーズに対応できない場面が多かったです。本番は緊張してさらに苦戦しそうです。

3) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。

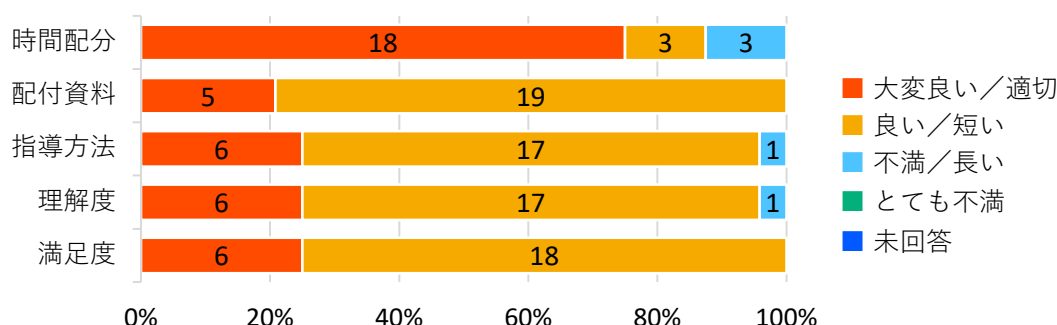


自由記述

- ・ 十分に役に立つ；緊急時の対応をする機会は、なかったので役立った。
- ・ 十分に役に立つ；初めての方に、専門用語を教えることができた。
- ・ 十分に役に立つ；有事のスケジュールを学ぶことができた。
- ・ 役に立つ；ある程度の知識が身につく。
- ・ 役に立つ；理解ができた。
- ・ 役に立つ；初めて学ぶことばかりであったので、知識やスキルをしっかりと理解して復習もしたいと思った。
- ・ 役に立つ；担当した役割について理解を深められた。
- ・ 役に立つ；訓練してみて緊モニへの理解が深まった。

3. 各プログラムの評価について

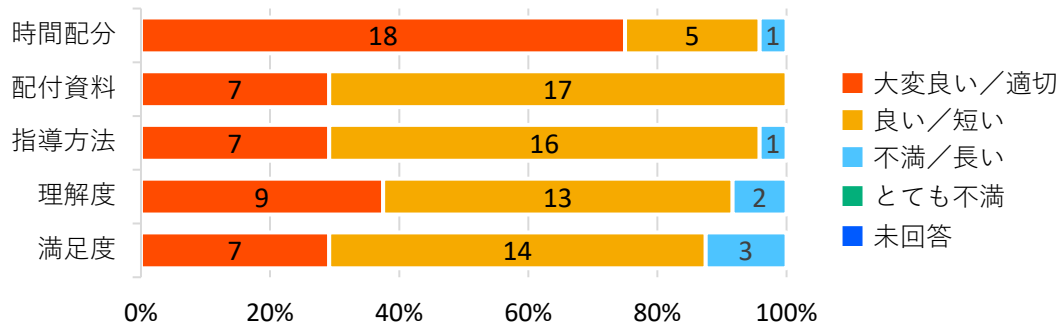
1) 講義 EMCの活動について



自由記述

- ・ 良い。
- ・ 訓練の内容にない事柄の資料があればいいと思う、
- ・ 参集状況（訓練前）の確認を改善できればいいと思う。
- ・ 配付された資料がみやすかったです。
- ・ EMC活動の概要がわかった。
- ・ 座学は可能な限り減らし、実践を増やした方がよい。

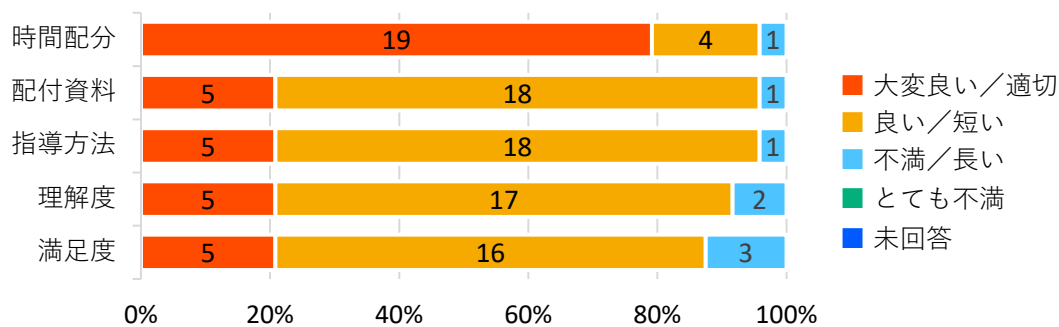
2) 操作実習 EMC設置機器（PC等）、RAMISの操作方法



自由記述

- ・ もっと操作方法をわかりやすくしてくれれば良い。
- ・ 初めて使うのでもう少し実習の時間が欲しかった。
- ・ 配付資料のページ番号が小さかったので、もう少し大きくして頂けると助かります。
- ・ 放射線班付近の席で説明を聞いていたのですが説明に使用していたモニターの画面が見にくかったです。
- ・ 実習時間がやや少ないように感じた。初めての人には少々難しいのでは？

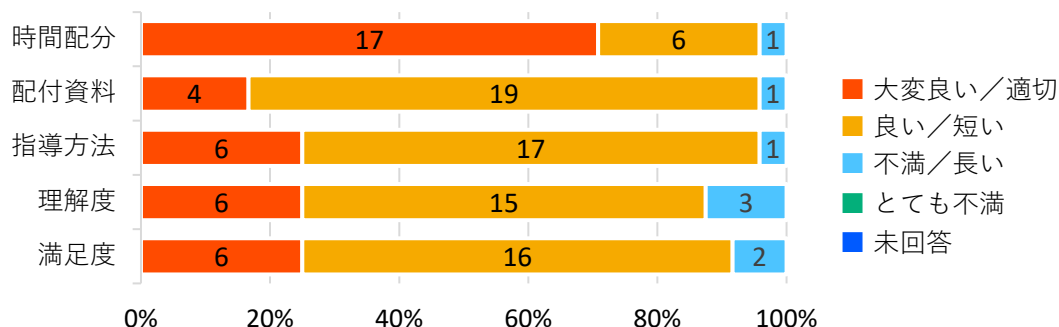
3) 操作実習 クロノロジーシステム（NISS）の操作方法、EMC情報の流れ



自由記述

- ・ 初めて使うのでもう少し実習の時間が欲しかった。
- ・ 配付資料のページ番号が小さかったので、もう少し大きくして頂けると助かります。
- ・ 放射線班付近の席で説明を聞いていたのですが説明に使用していたモニターの画面が見にくかったです。
- ・ 資料でクロノロジー/メールのクロノロなのか、NISSという意味のクロノロなのか、わからない部分があったので、修正してほしい。
- ・ 簡潔に必要な情報が伝えられていたと思う。

4) 机上訓練 ステップ1 施設敷地緊急事態（SE）の活動

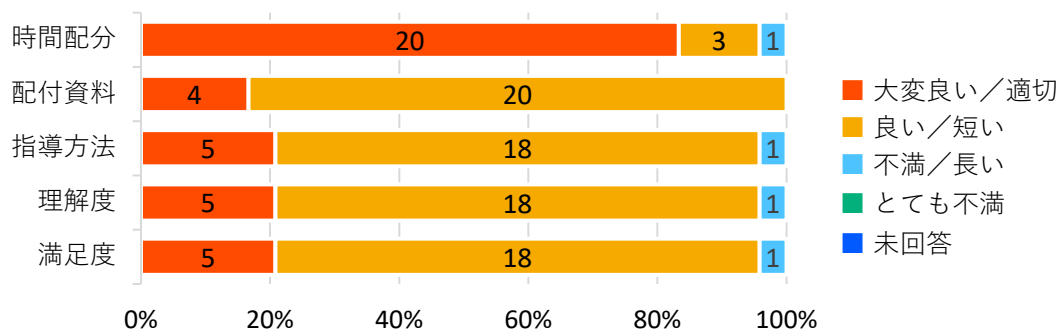


自由記述

- ・ 予習必須と感じた。
- ・ 最初なので、情報の共有がうまくできなかった。

- ・ 付与情報の把握などに手間取った。
- ・ 過去の訓練から1年近く経っていたため、全体の流れについて忘れていることが多く、戸惑うことが多かった。
- ・ 事前付与情報があったが、その情報の報告・共有が訓練開始時点でされているのか、不明瞭であった。N I S Sにのっている＝処理済み（共有済み）とは限らないので、どこまで終わっているかわかりやすくできればよい。（印刷してホワイトボードに貼ってあるものは共有・報告済みなど）
- ・ 時間配分が短いというのは、訓練開始前のグループに与えられた訓練準備時間のことで、状況開始までに終了していること（ボードの記入）などが十分できずに訓練が始まってしまった。
- ・ 担当以外の部分に不安が残る。
- ・ 事前に任務付与の重要性を強調しておく。

5) 机上訓練 ステップ2 全面緊急事態（GE）放射性物質放出前～放出中の活動

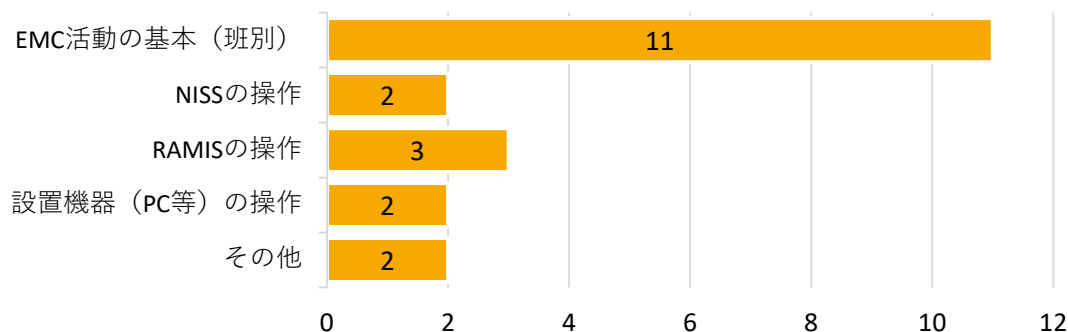


自由記述

- ・ 事前の知識のない人間がこの講義だけで内容を把握するのは難しいと感じるため。
- ・ 前日でできていなかった部分が改善され、比較的スムーズに訓練を進められた。

4. eラーニングについて

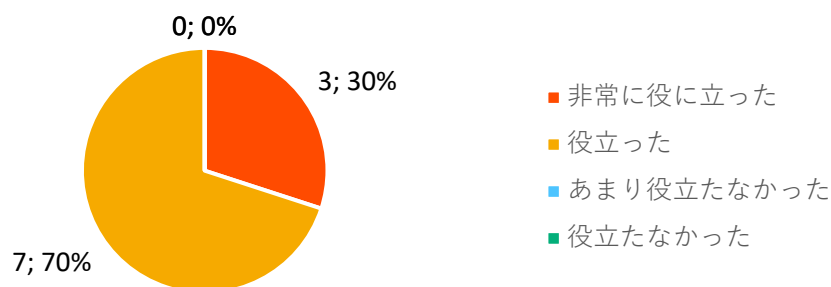
1) EMC活動訓練について、拡充してほしいコンテンツを教えてください。



自由記述

- ・ REDMINE操作方法

2) eラーニングは、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。

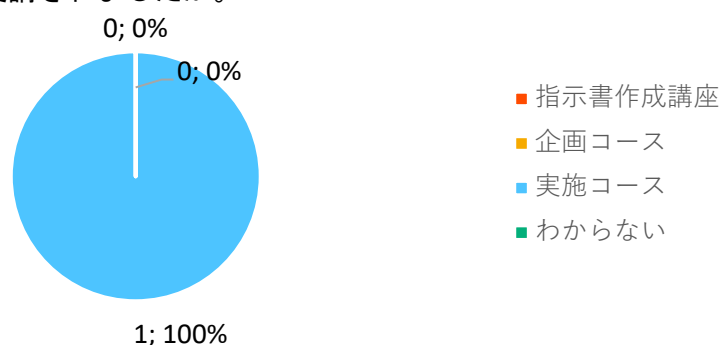


自由記述

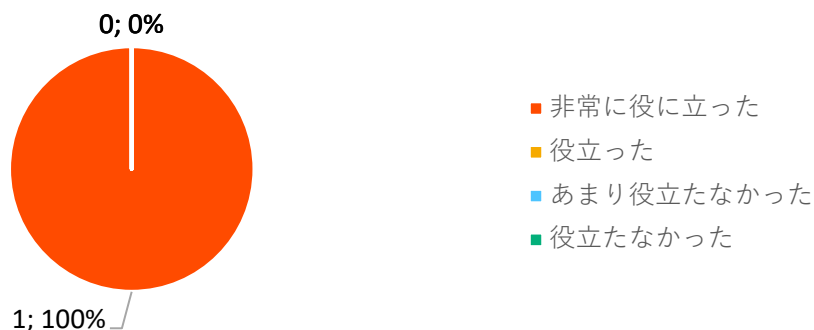
・ なし

5. 実践演習（オンライングループワーク）について

1) どのコースを受講されましたか。



2) 実践演習は、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



受講コース別の回答

受講講座	非常に役に立った	役に立った	あまり役に立たなかった	役に立たなかった	回答数合計
指示書作成講座	0	0	0	0	0
企画コース	0	0	0	0	0
実施コース	1	0	0	0	1
わからない	0	0	0	0	0

自由記述

・ なし

6. 訓練全般に関する意見・要望

- ・ 班の中での業務分担について、前年度の記録等を事前に配付してほしい。また1班に最低でも2台、クロノロ等に接続できるPCを配置願う。
- ・ 1日で良いのでは？
- ・ 用語が一度では覚えづらいので、卓上にラミネートしたペーパー等を置いたらいいと思った。（個人の資料だと開くのに時間がかかるため）
- ・ 用語について、突然出てくる用語に理解が追いつかない。（OFC放射線班、コーディネーター、プレイヤー他）
- ・ 他のグループのPCが少ないのが課題（電子上のやりとりがうまくいかない原因になる）
- ・ 初めて参加したので内容を理解するのが難しかった。
- ・ 1日目と2日目でグループ内の役割を変更して、グループ内の様々な業務を体験することにより、他の業務の理解に役立った。また他の業務との連携もスムーズにできるようになったと思う。
- ・ それなりに気が利く要員の集まりであった。
- ・ 地方自治体の考えているスキームが規制庁側とずれているものがあった。そこを是正できる形でお願いしたい。
- ・ PCの台数が足りていないと感じます。

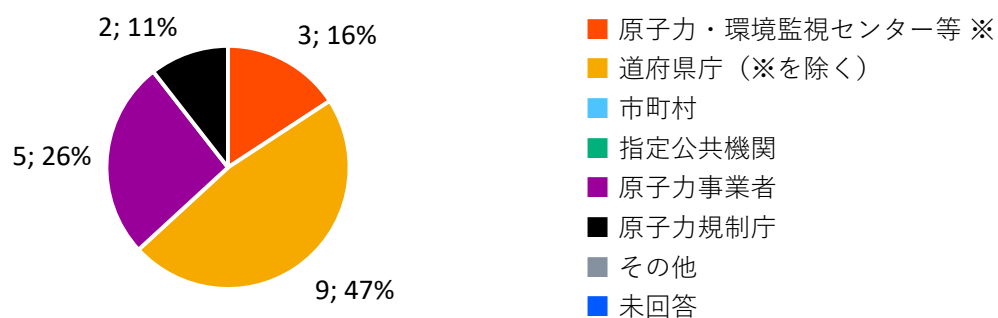
道府県F 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 19 名

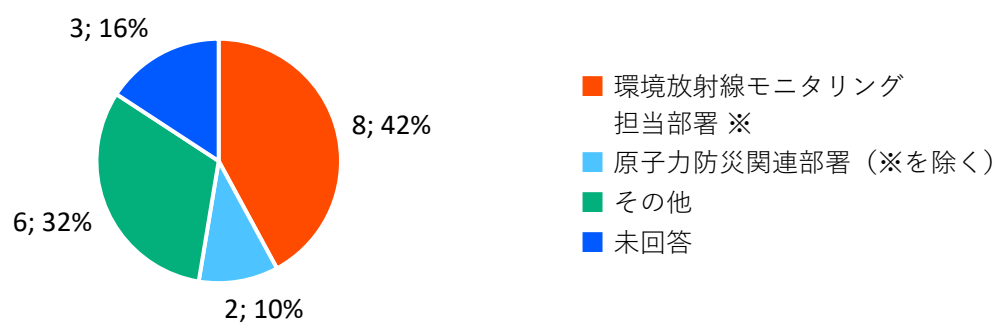
受講者数 : 19 名

1. 受講者自身について

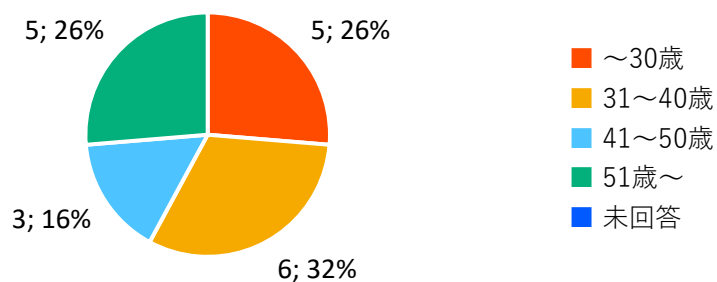
1) 所属



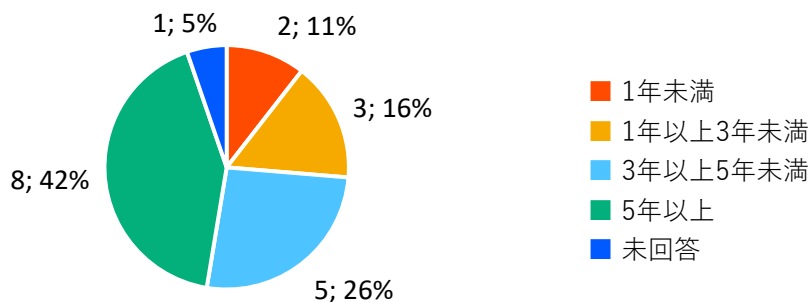
2) 所属部署の属性



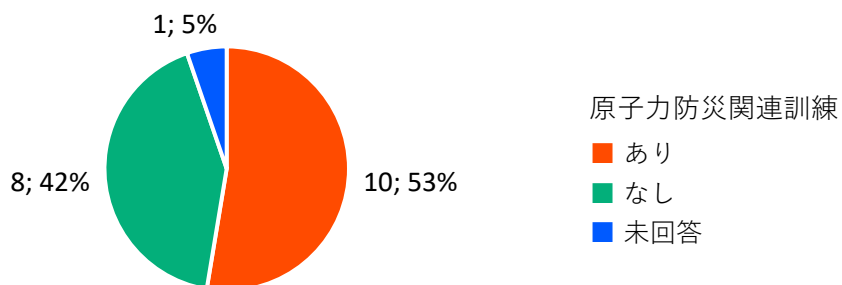
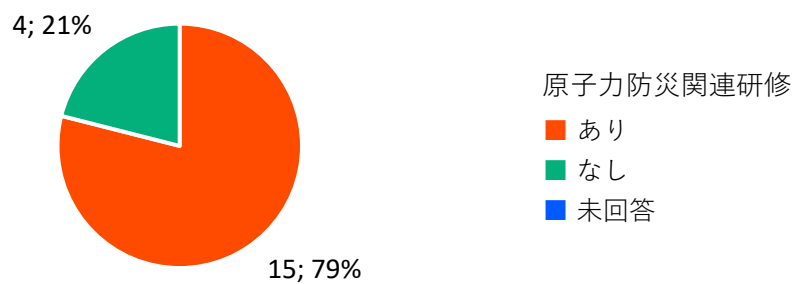
3) 年齢



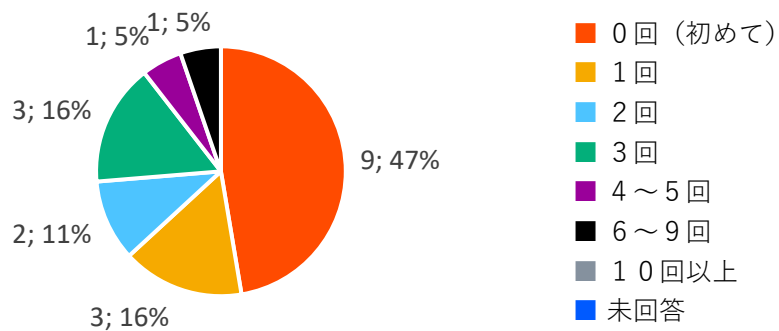
4) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



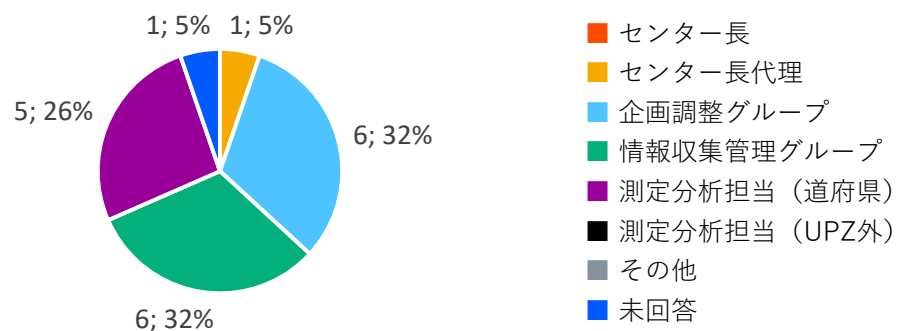
5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験



6) EMC活動訓練参加回数

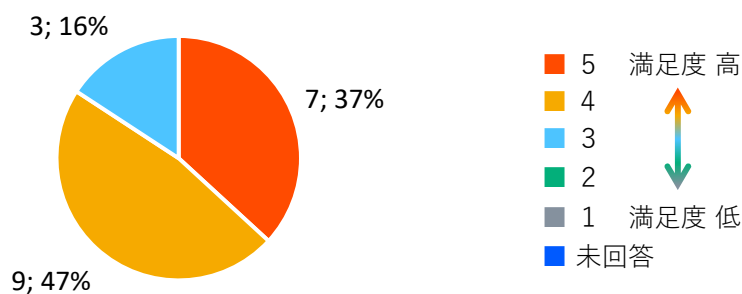


7) 机上訓練での役割



2. 本講座を受講しての所感等について

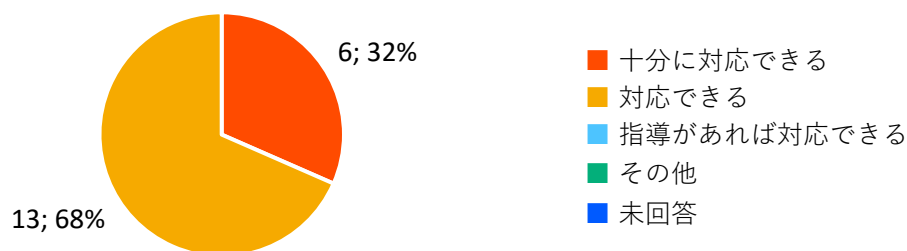
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；事前に教育資料が配布され、理解しやすかった。
- ・ 満足度4；課題がはっきりしてよかった。
- ・ 満足度4；勉強になった。
- ・ 満足度4；実際の緊急時モニタリング対応の流れについて、測定分析要員としての対応を通じて学ぶことができた。
- ・ 満足度4；勉強になったものの時間不足であった。
- ・ 満足度3；EMCの対応を肌で感じることができ、今後の対応等を知ることができた。
- ・ 満足度3；測定分析担当として、指示書待ちになっていた。
- ・ 満足度3；不満がないため。
- ・ 満足度3；内容が多く、十分理解できない状況。

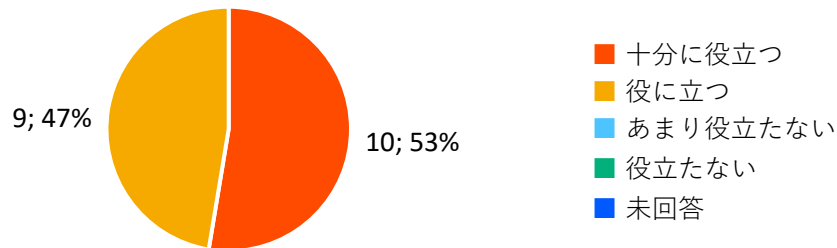
2) 本訓練を受講してEMC活動に対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ 対応できる；何をすべきかは、しっかり理解できた。
- ・ 対応できる；担当したGrであれば可能。
- ・ フォローがあれば対応できる；指示書受領後の対応のフォローがあれば、EMC活動を実施できる。
- ・ フォローがあれば対応できる；対応の流れは理解できたが、実際の現地測定・採取要員との連絡が、地理的知識などについてはフォローが必要と感じた。
- ・ フォローがあれば対応できる；定時報の担当であれば可。

3) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。

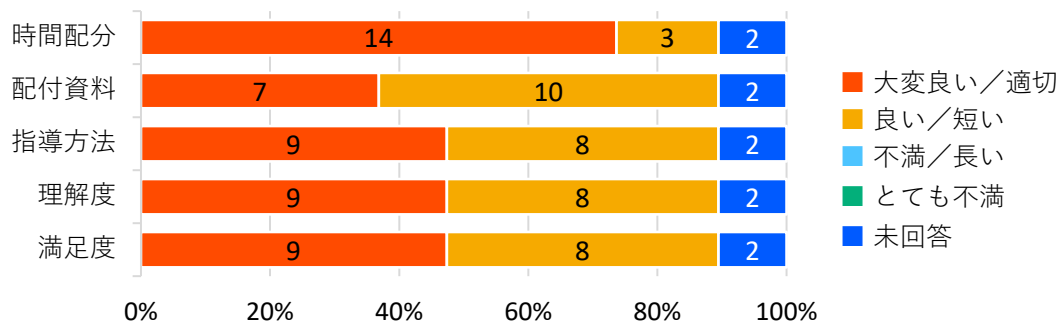


自由記述

- ・十分に役に立つ；ラミスは全社で使えるため。
- ・十分に役に立つ；eラーニングも含め、実線対応したことで、かなり役に立った。
- ・十分に役に立つ；今後の訓練に役立てたい。
- ・十分に役に立つ；勉強になった。
- ・役に立つ；EMCに関して訓練初参加であったが、対応内容について学ぶことができたとともに、自身の他訓練参加時には今回の内容を踏まえた視点を持つことができると感じた。

3. 各プログラムの評価について

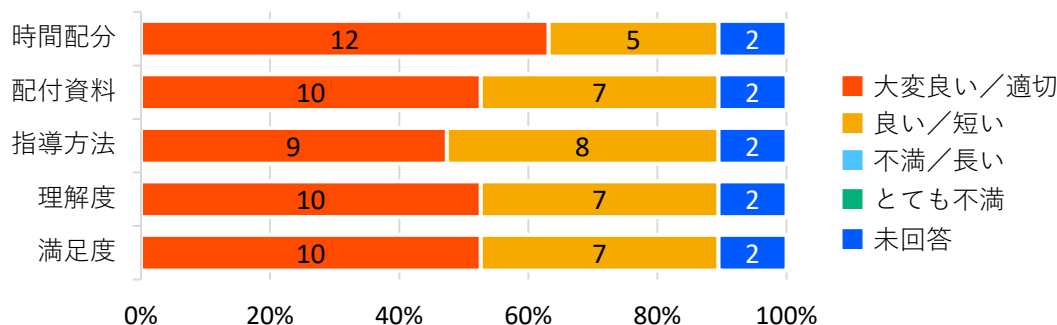
1) 机上訓練ガイダンス



自由記述

- ・事前学習があったため、スムーズに理解した。
- ・早くてついていけない。

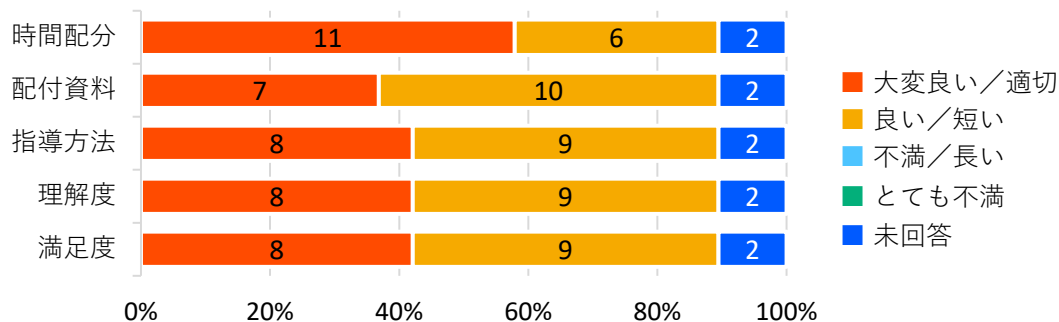
2) 設置機器操作実習、役割分担の確認



自由記述

- ・資料もわかりやすく、説明も良かった。

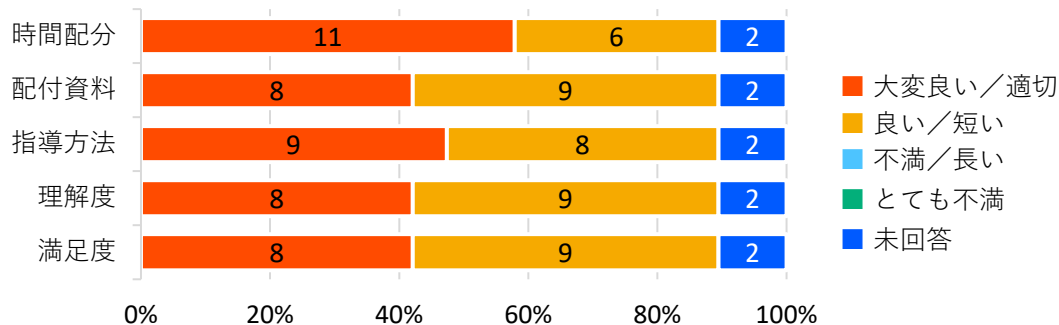
3) 机上訓練 ステップ2 全面緊急事態（GE）放射性物質放出前～放出中の活動



自由記述

- ・ もう少し時間的余裕があった方が、企画班に余裕が生まれてくると思った。

4) 机上訓練 ステップ3 全面緊急事態（GE）放射性物質沈着後の活動

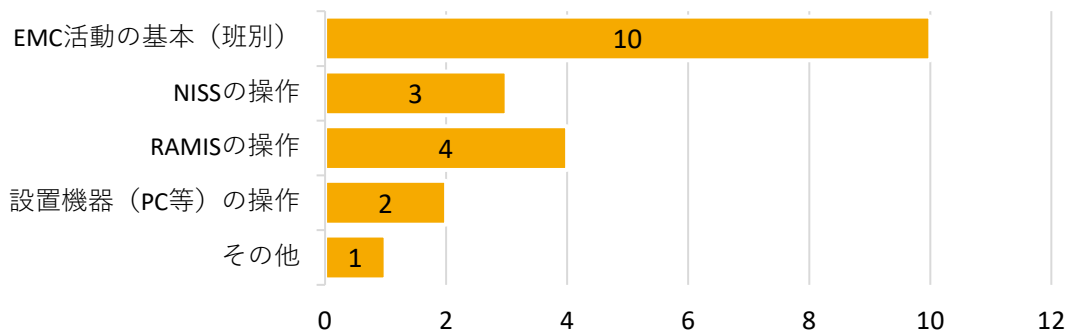


自由記述

- ・ 測定分析Grとして実際のことを想定し、対応を考えることができた。
- ・ 時間が少し短いと感じた。

4. eラーニングについて

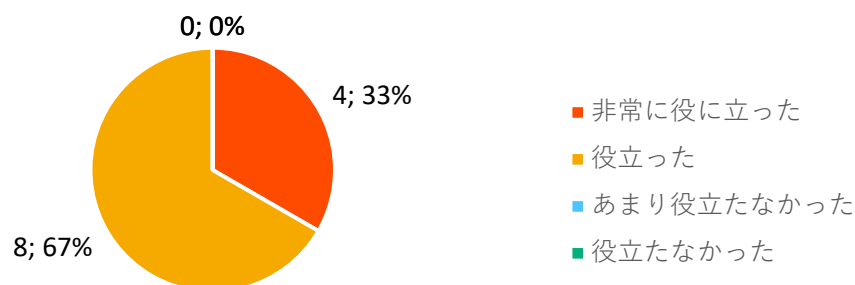
1) EMC活動訓練について、拡充してほしいコンテンツを教えてください。



その他の意見

- ・ 特になし。

2) eラーニングは、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。

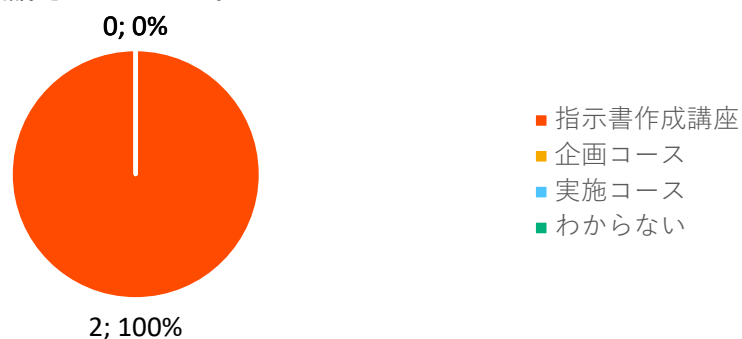


自由記述

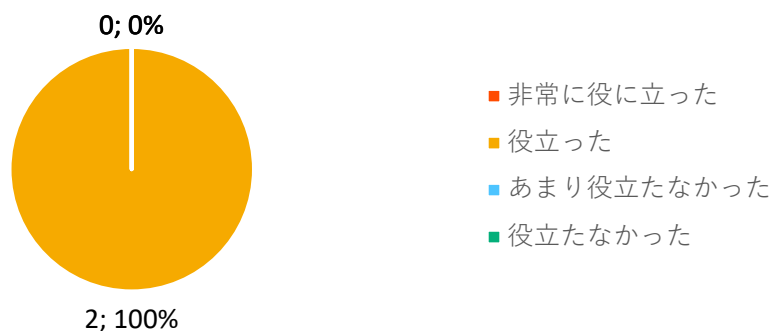
- ・ 非常に役に立った；動画により理解が深まった。
- ・ 役立った；事前に見ることができて理解しやすかった。

5. 実践演習（オンライングループワーク）について

1) どのコースを受講されましたか。



2) 実践演習は、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



受講コース別の回答

受講講座	非常に役に立った	役立った	あまり役立たなかった	役立たなかった	回答数合計
指示書作成講座	0	2	0	0	2
企画コース	0	0	0	0	0
実施コース	0	0	0	0	0
わからない	0	0	0	0	0

自由記述

- ・ 役立った；走行サーベイのルート決定にいかされた。【受講コース：指示書作成講座】

6. 訓練全般に関する意見・要望

- ・ 今回はGr内の役割分担等に関する説明時間が予定より短くなってしまったため、訓練開始時は迷いもあったが、経験者が2名いたので何とか終わった感があった。
- ・ 1日限りの訓練では、燃え尽きるに至らず。
- ・ 3時間半（GE主体）の訓練では、情報G員にとっても楽しかったという印象を持たれてしまったのが残念。また次回以降、盛りだくさんの訓練を期待する。
- ・ 規制庁監視情報課RAMIS訓練モードのMP名称が実モードと異なる。
MP名称変更時に実モードだけを更新したのみ。

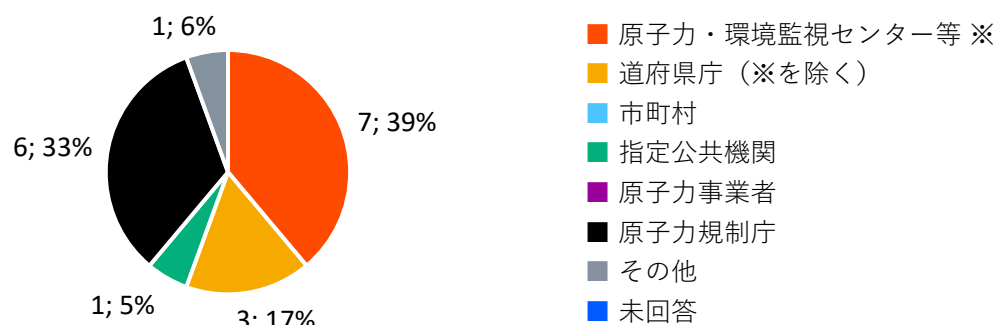
道府県G 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 18 名

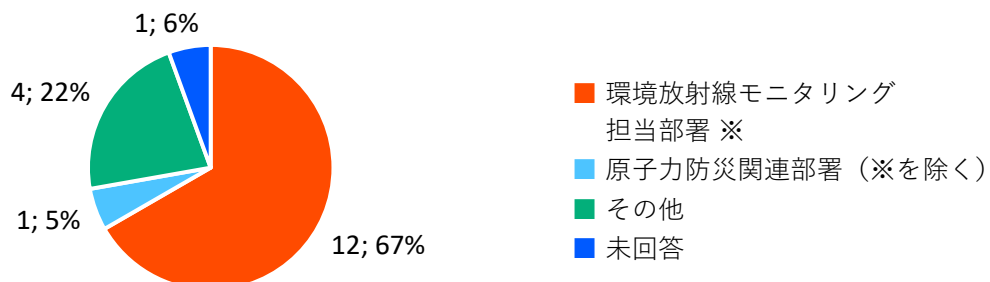
受講者数 : 18 名

1. 受講者自身について

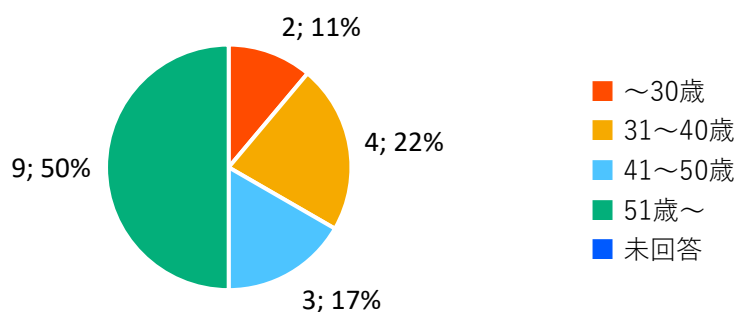
1) 所属



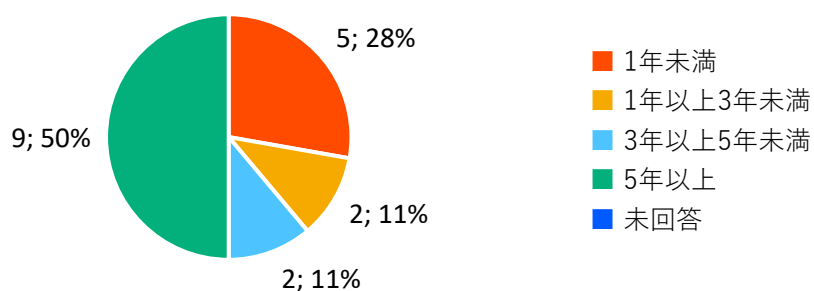
2) 所属部署の属性



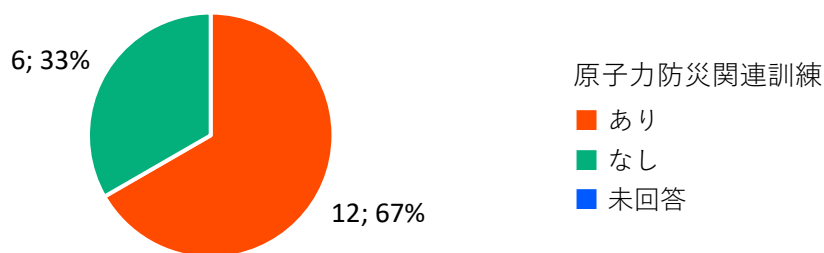
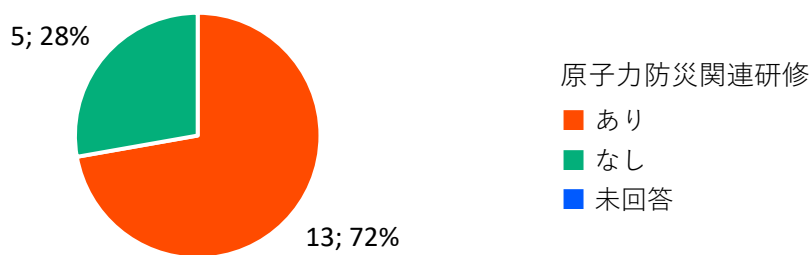
3) 年齢



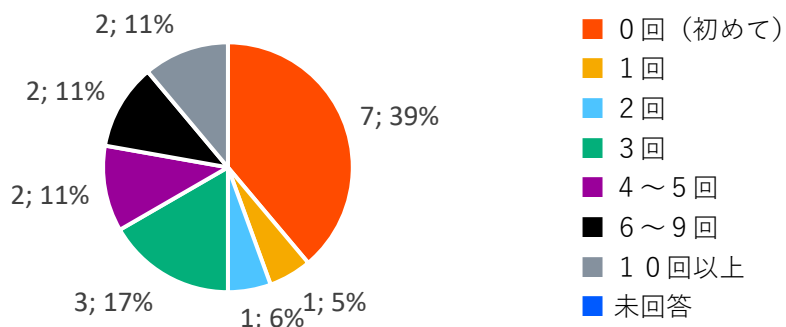
4) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



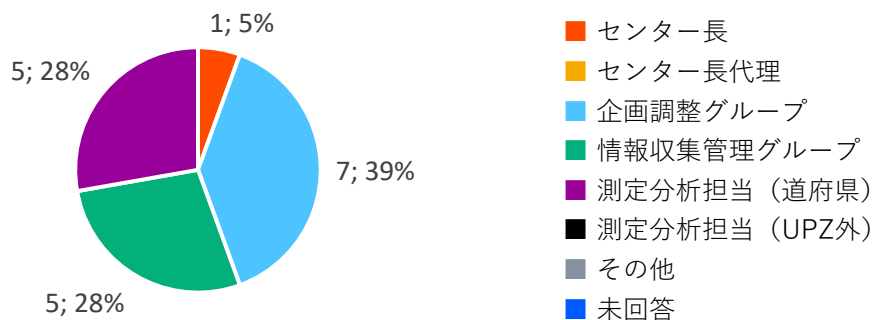
5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験



6) EMC活動訓練参加回数

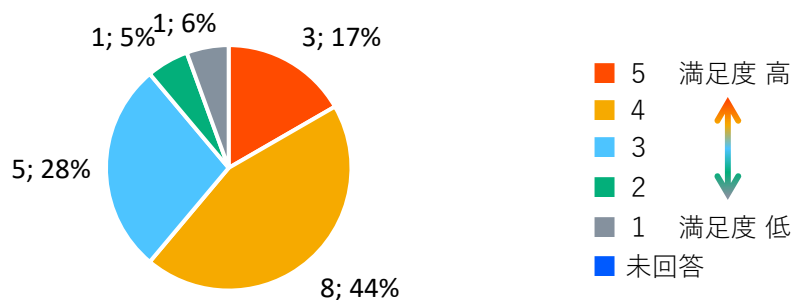


7) 机上訓練での役割



2. 本講座を受講しての所感等について

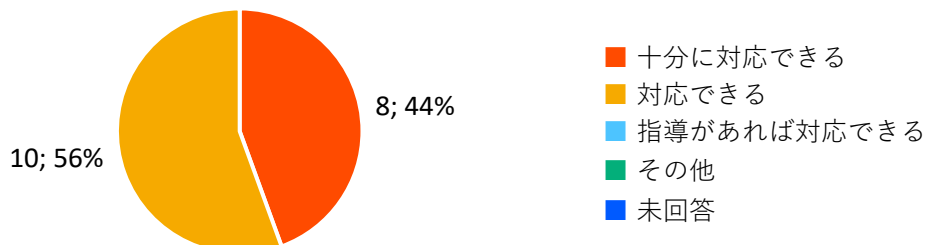
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；2年ぶりの参加だったので、色々思い出すことができたため。
- ・ 満足度5；全体を通して、円滑に進めていくことができ、手順などを確認することができた。
- ・ 満足度4；初めての参加だったが、EMC訓練の概要が分かったので良かった。EMC活動の不安が大分減りました。
- ・ 満足度4；初心者が多い訓練であったので、基本動作の着実な習得に務め実施できた。
- ・ 満足度3；基本的な内容だったので、基礎を確認しながら行うことができた。
- ・ 満足度3；EMC活動の流れを理解するのに役立った。
- ・ 満足度3；訓練の役割や意義的には大満足だが、自分の力不足があったため。
- ・ 満足度1；参加者が少なく、全体的に規制庁の方々が主導的に動く訓練となってしまった。申し訳ありませんでした。

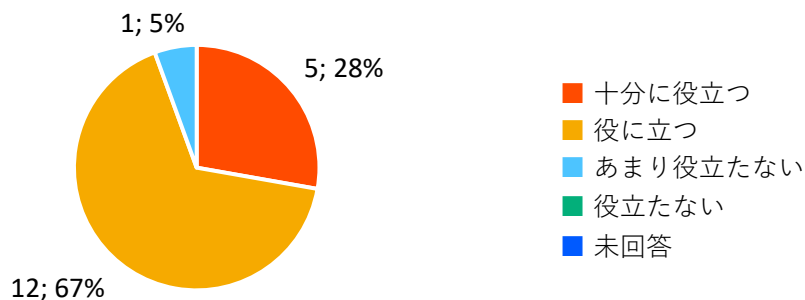
2) 本訓練を受講してEMC活動に対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ 対応できる；一連の流れを再確認できたため。
- ・ 対応できる；不足している必要な能力は把握していたので、強化して対応出来るようにしたい。
- ・ 対応できる；今回のメンバーは十分対応できる。
- ・ フォローがあれば対応できる；初参加であったため回数が要
- ・ フォローがあれば対応できる；まだ不十分なこともあるが、流れがわかったので何とか対応できると思う。
- ・ フォローがあれば対応できる；指示やフォローがないとまだ対応が難しいと感じた。
- ・ フォローがあれば対応できる；今回は規制庁からの参加が多かったので、原子力事業所と道府県窓口の自治体で構成された時に不安がある。

3) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。

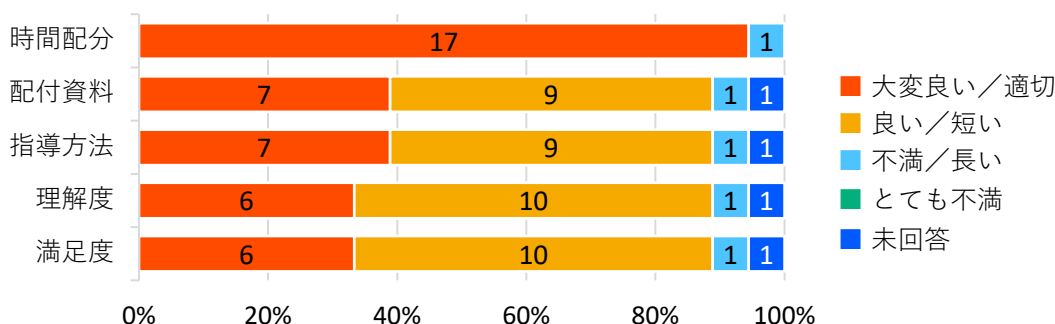


自由記述

- ・役に立つ；現在の状況に知識をアップデートできたため
- ・役に立つ；色々アドバイスを受けながら行えたので良かった。
- ・役に立つ；クロノロでのやりとりと電話対応等を、本番さながら対応することができた。
- ・役に立つ；実習を行うことでEMC活動への理解が深まった。

3. 各プログラムの評価について

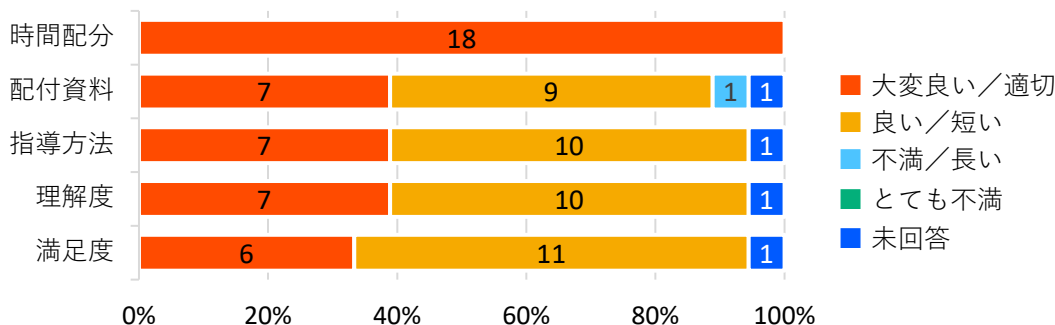
1) 講義 EMCの概要



自由記述

- ・初参加で右も左もわからなかったが、一つ一つ説明して頂き、よく理解することができた。特にEMCの役割が明確に理解できた。

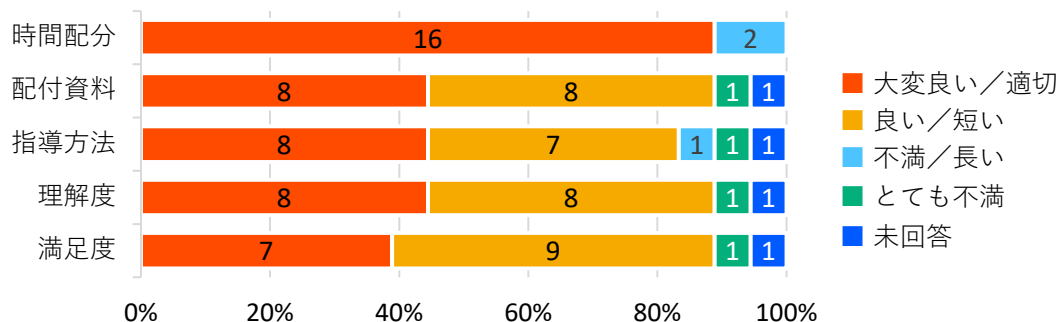
2) 操作実習 EMC設置機器（PC等）、RAMISの操作方法



自由記述

- ・ラミスの機能をもっと紹介してほしい。
- ・紙での資料と実際の操作を並行して説明いただき、とてもわかりやすかったです。
- ・まあまあわかった。

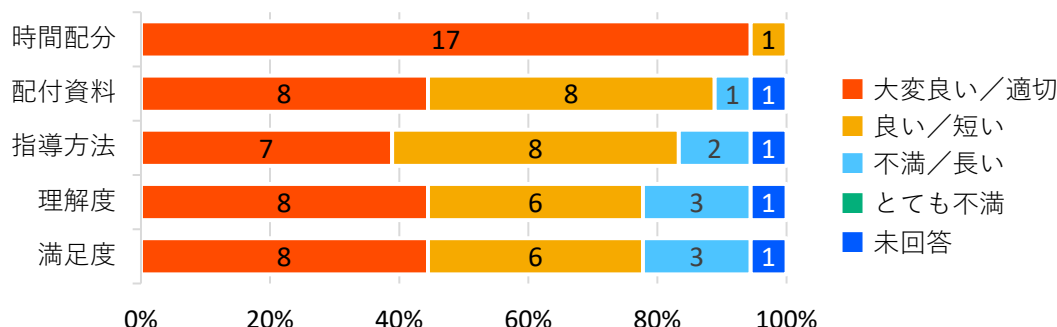
3) 操作実習 クロノロギーシステム（NISS）の操作方法、EMC情報の流れ



自由記述

- ・ クロノロで極力タイプしない方法（文例や過去の文の活用）
- ・ 机上訓練の際に、NISS、EMCの情報の流れの図など、大変参考になった。
- ・ 実習時間があつた方がよい。

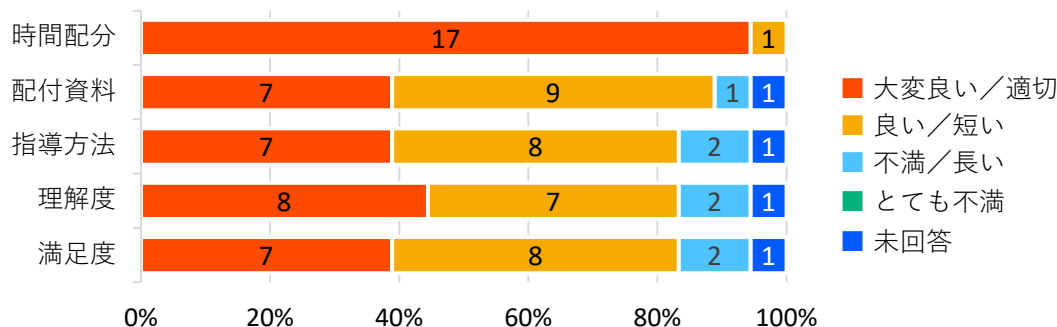
4) 机上訓練 ステップ1 施設敷地緊急事態（SE）の活動



自由記述

- ・ 当初指示内容がわからなかった。
- ・ 規制庁関係者の指示がないと当初動けなかった。
- ・ RAMISの定時報を担当したが、Grリーダーが一つ一つ教えてくださり、円滑に進めることができた。
- ・ ベーシックな計画で特に驚きはなかったが、測定分析担当とのやりとりがなぜかたくさん発生して、指示書のタスクが延びていた。

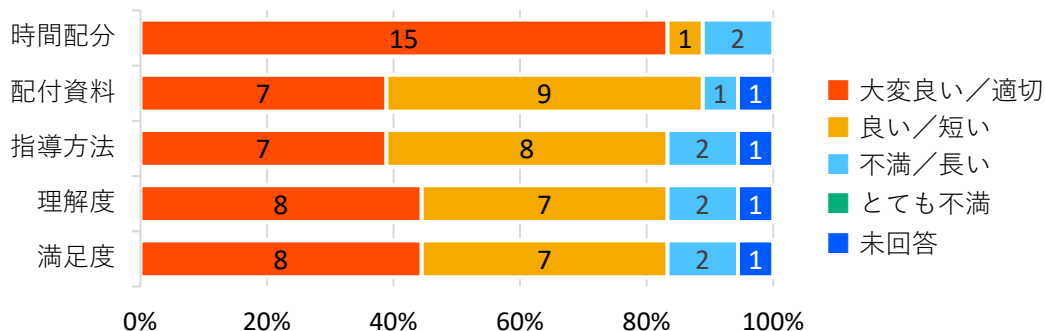
5) 机上訓練 ステップ2 全面緊急事態（GE）放射性物質放出前～放出中の活動



自由記述

- ・ 情報Grだけでなく、企画Grの活動も合わせて、対応を体感することができた。
- ・ 測定分析担当に安定ヨウ素剤の取扱いにこだわりがある方がいて、色々考えることがあつたので、良い気づきとなった。

6) 机上訓練 ステップ3 全面緊急事態（GE）放射性物質沈着後の活動

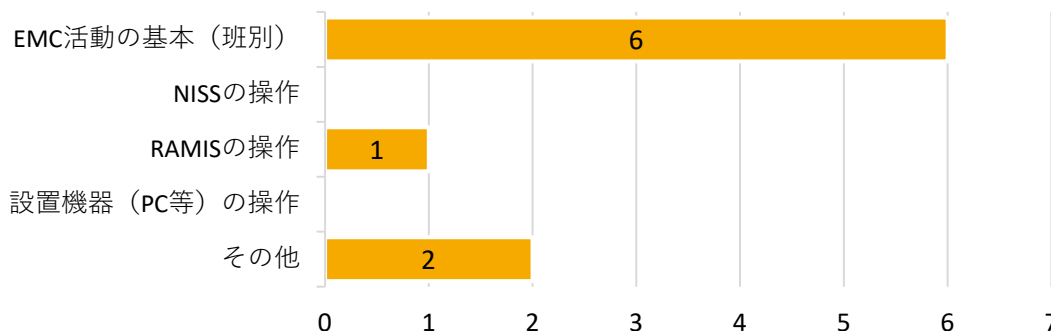


自由記述

- ・ 訓練を通して、EMCの活動内容について理解できた。
- ・ ステップ1～3を経て慣れてきたが、複数回訓練することで認識が深まる。
- ・ TV会議を活用して活動できた。
- ・ 企画Grの指示書作成を見ていてとても参考になった。特に走行サーベイのルート決めに関わる話し合いは、とても複雑で、大変勉強になった。
- ・ 以前には見られなかった走行帰還ルート地図を作成していたので、走行ルートの検討はしやすかった。
- ・ 毎度指示書作成後、時間に余裕ができる。分析結果の評価まで入れることができたと思われる。

4. eラーニングについて

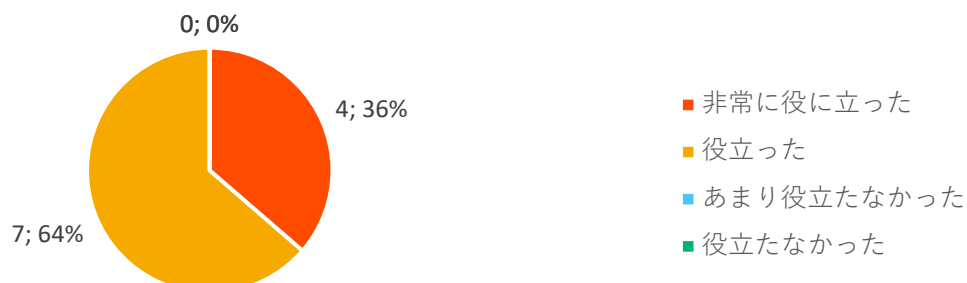
1) EMC活動訓練について、拡充してほしいコンテンツを教えてください。



その他の意見

- ・ 緊急時モニタリングの流れ
- ・ 訓練

2) eラーニングは、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。

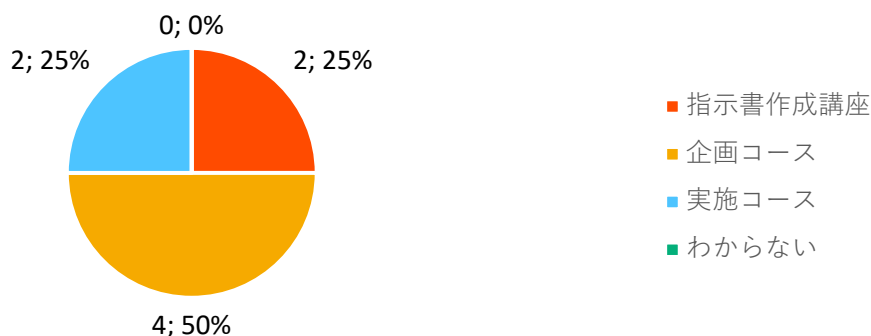


自由記述

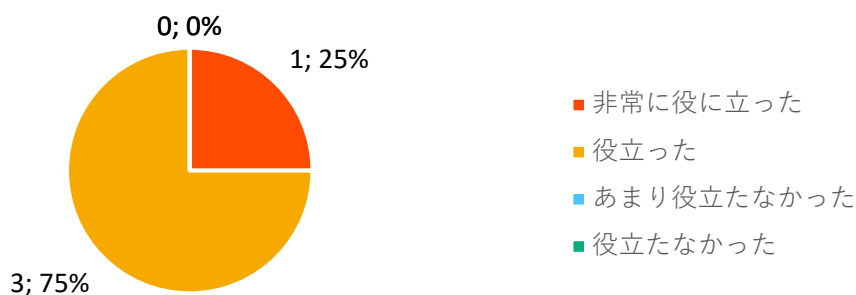
- ・ 非常に役に立った；NISSやRAMIS、電話などの操作を事前に学ぶことで、円滑に訓練に参加することができた。
- ・ 役立った；初見であるため役立った。

5. 実践演習（オンライングループワーク）について

1) どのコースを受講されましたか。



2) 実践演習は、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



受講コース別の回答

受講講座	非常に役に立った	役立った	あまり役立たなかった	役立たなかった	回答数合計
指示書作成講座	1	1	0	0	2
企画コース	1	3	0	0	4
実施コース	1	1	0	0	2
わからない	0	0	0	0	0

自由記述

- ・ なし

6. 訓練全般に関する意見・要望

- ・ 2日間という短い時間なので、各事象での対応事項等、実際のものから省略された部分もあるかと思います。全体を把握するには複数回訓練に参加するのが良いのではと感じたところです。併せて、数回参加することを想定した、数年スケールでの訓練想定の設定、計画があるといいかなと感じたところです。
- ・ EMCレイアウトを見直す。狭く足元の不安がある。プリンター設置位置見直し。
- ・ 地図情報の電子化、手書き感覚でラインを書き込めるようなツールがほしい。
- ・ グラフィックツールがほしい。ペイント、フォトショップを入れてください。
- ・ 道府県Gの要員が少な目で、初めて参加という方が多く見られたので、負荷が偏る印象だった。自治体の要員レベル向上のためあえて質問形式で、次に何をすべきか、どういうツールがあればもっとうまくタスクをこなせるか、検討してもらうよう心掛けた。
- ・ 指示書作成経験者もあり、上席もたくさん参加していたので、もう少し警戒事態に自治体と担当上席のみで対応する体制を取って、事態別に何をすべきか自分で考える訓練にした方が良かったのではないかな。

- ・ 自分の役割が理解でき、不足していることに気づけました。測定分析での役割が出来るようになったら、企画調整Gr等、他のグループの活動も経験してみたいと思います。
- ・ 測定結果のRAMISへの入力や承認の手順、妥当性評価についても訓練に取り入れてもらいたい。
- ・ 規模が小さいし内容も不十分。物足りない。
- ・ いくら訓練しても、3.11の保安院のように逃げたらおしまいですよ。

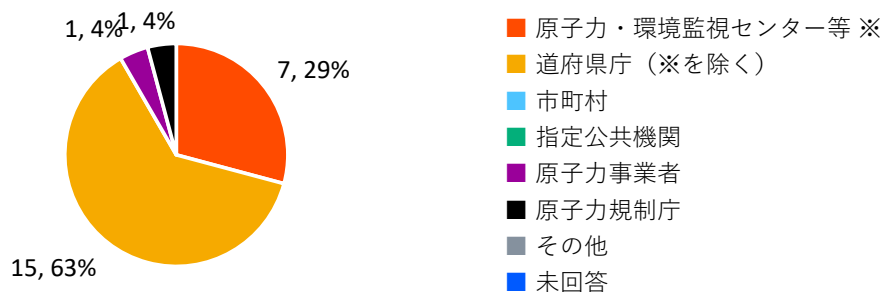
道府県H机上訓練 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 24 名

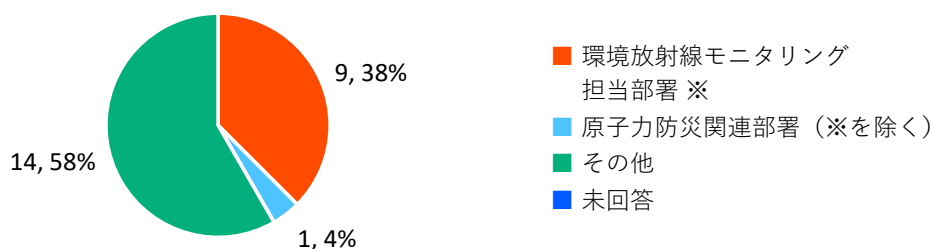
受講者数 : 30 名

1. 受講者自身について

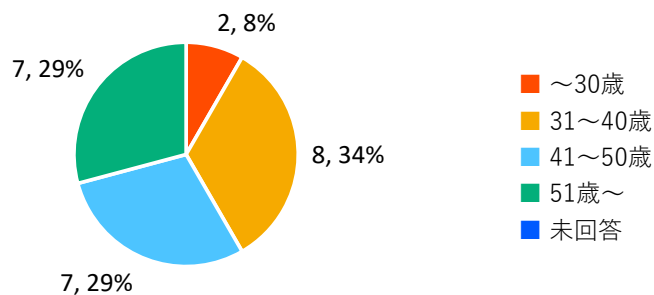
1) 所属



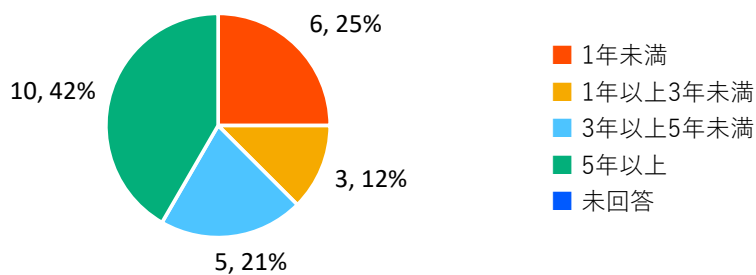
2) 所属部署の属性



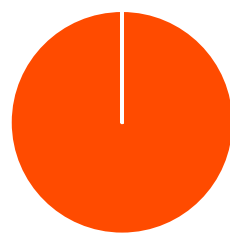
3) 年齢



4) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数

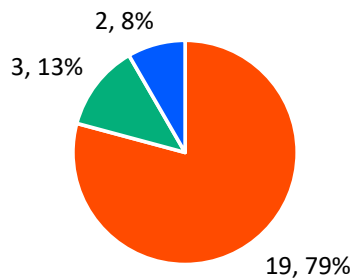


5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験



原子力防災関連研修

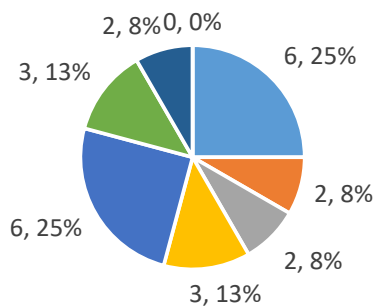
あり
なし
未回答



原子力防災関連訓練

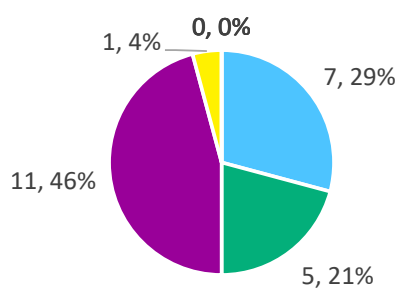
あり
なし
未回答

6) 本EMC活動訓練参加回数



0回 (初めて)
1回
2回
3回
4～5回
6～9回
10回以上
未回答

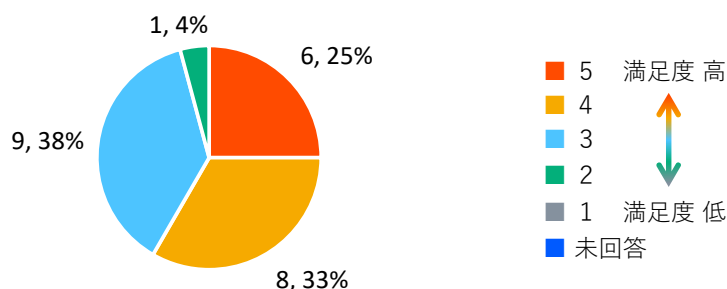
7) 机上訓練での役割



センター長
センター長代理
企画調整Gr
情報収集管理Gr
測定分析担当 (道府県)
測定分析担当 (UPZ外)
その他
未回答

2. 本講座を受講しての所感等について

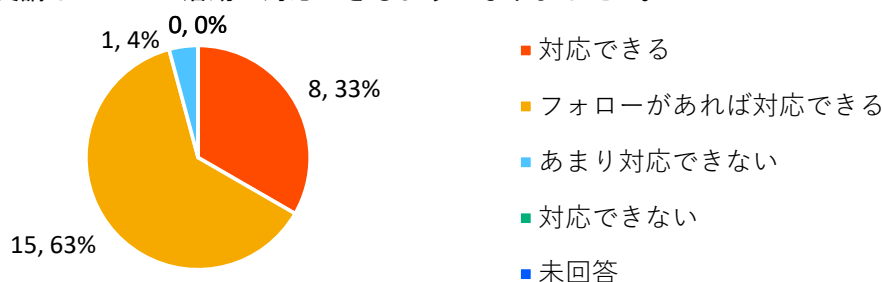
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；要員の方とうまく連携して対応することができた。
- ・ 満足度5；一連の流れを訓練を通じて体験することができた。
- ・ 満足度5；EMC活動訓練は初めて参加しましたが、なんとなくの流れをつかめたため。
- ・ 満足度4；昨年度より難易度を少し上げての実施となったが、大きなトラブルもなく進めることができたのではないかと思います。
- ・ 満足度4；初めて参加させていただいたが、EMCの状況がよくわかりました。
- ・ 満足度4；EMC内での情報の流れを理解し、自らの役割を確認するとともに、クロノロジーやラミスの操作が確認できた。また訓練を通じて課題を見つけることができた。
- ・ 満足度4；各フェーズでの対応を経験することができた。
- ・ 満足度4；模擬データがあることにより、EMCの活動をよりリアルに体験することができた。
- ・ 満足度4；訓練開始時にはうろろととまどうことが多かったが、後半は流れが分かってスムーズに動くことができるようになった。
- ・ 満足度3；おおむねの流れを経験できたのでよかったと思いました。
- ・ 満足度3；知識不足な面があり、理解できていない面があったため。
- ・ 満足度3；災害の進行を体験し、理解が進んだ。
- ・ 満足度3；1日目は事態の進展についていけず、よく理解できないまま終わってしまった。NISSで来る連絡の文書の内容が飲み込めないままだったが、情報の伝達がとどこおらないよう、印刷・配付で精いっぱいだった。
- ・ 満足度3；昨年よりスムーズに対応できているように感じた。

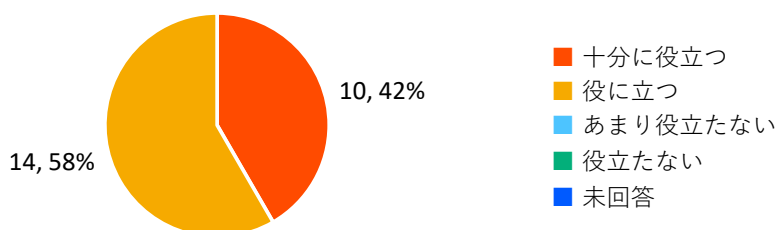
2) 本訓練を受講してEMC活動に対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ 対応できる；複数回参加しており、対応できている
- ・ 対応できる；訓練に参加したことで、自分の役割や作業の内容を理解することができた。
- ・ 対応できる；自分の担当は対応できるが、別の担当になった場合に対応できるかはわからない。
- ・ 対応できる；組織として改善すべき点はいくつかあるが、一定の対応は可能と思う。
- ・ 対応できる；自身の役割について、改めて確認することができた。
- ・ フォローがあれば対応できる；多様な状況が考えられるのでフォローが必要
- ・ フォローがあれば対応できる；慣れてきたらよいが、初めに何をするのか説明をしていただけたらできると思います。
- ・ フォローがあれば対応できる；経験者が多く参加しており、その方々に大変フォローして頂き対応できたような気がしました。
- ・ フォローがあれば対応できる；普段原子力関係の仕事ではないため、判断が必要な部分ではフォローがほしい。
- ・ フォローがあれば対応できる；おおむねの流れは経験することができたので、ある程度スムーズにEMC活動に対応できると思いました。
- ・ フォローがあれば対応できる；周りの経験豊富な方に助けてもらいながら実施できたため。
- ・ フォローがあれば対応できる；モニタリングの内容や必要性を完全には理解できていない。
- ・ あまり対応できない；参加人数の都合で本来の担当班とは違うため、担当の細かな部分の対応がわからないため。

3) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。

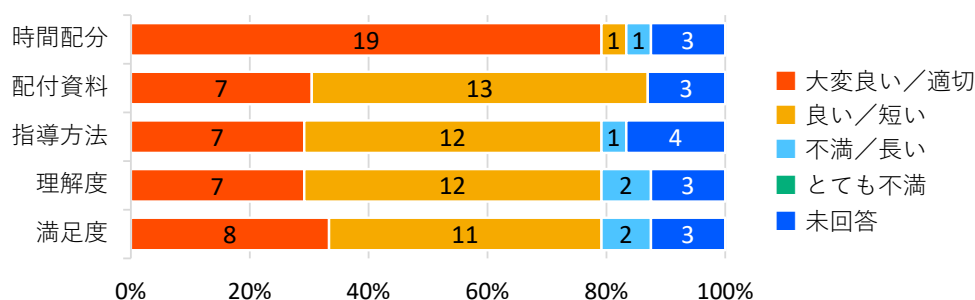


自由記述

- ・ 十分に役に立つ；事故が起きた際にどのようなことをすべきか把握することができた。
- ・ 十分に役に立つ；不意のトラブル等にも対応できる程度の知識は得られたのではないかなと思う。
- ・ 十分に役に立つ；何回か参加しているが、都度復習になり、習熟していると感じた。
- ・ 十分に役に立つ；色々な県特有の状況が体験できた。
- ・ 十分に役に立つ；今まで機動モニタリングチームとして試料採取やモニタリング車は担当したことがありましたが、指示書がどのように作られているのか知りませんでしたので、大まかな流れを知ることができてよかったです。
- ・ 十分に役に立つ；各ステップの動きや、機器の使用を体験できたことは、実際に緊急時には非常に役立つものだと感じた。
- ・ 役に立つ；緊急時の対応などに今回の経験を活かすことが出来るように思いました。
- ・ 役に立つ；普段経験していない業務のため、今後学んでいきたいと考える。
- ・ 役に立つ；実動することは経験になる。
- ・ 役に立つ；新たな気付きにつながったと思った。
- ・ 役に立つ；定期的に受講することで基本を維持し、改善点も確認できる。
- ・ 役に立つ；RAMISの操作を確認できた。

3. 各プログラムの評価について

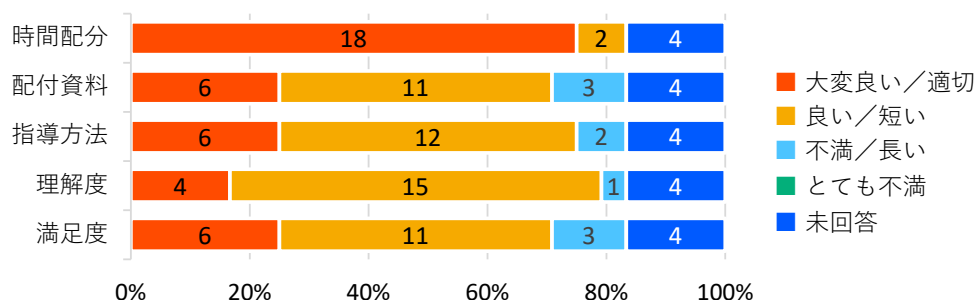
1) 操作実習 EMC設置機器（PC等）、RAMISの操作方法



自由記述

- ・ 複数回参加していることで、慣れてきて理解度が年々増している。
- ・ 資料が分かりやすい。
- ・ おおむね感覚的に機器を使用することができたため。
- ・ 実機操作
- ・ 訓練までに内容を理解し、活用できた
- ・ 説明が簡潔でよかった。
- ・ RAMISの操作については、自分でいろいろ試しながら使用して、慣れていく必要がある。
- ・ 端末がないので操作は行っていない
- ・ よかったです。
- ・ とてもわかりやすい説明だった。

2) 操作実習 クロノロジーシステム（NISS）の操作方法、EMC情報の流れ

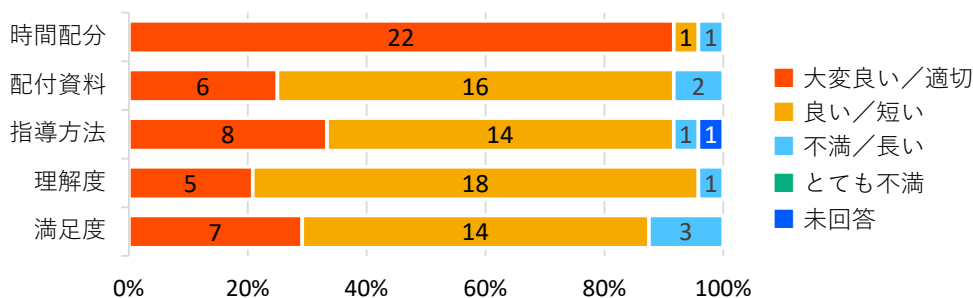


自由記述

- ・ 複数回参加していることで、慣れてきて理解度が年々増している。
- ・ 資料がわかりやすい。
- ・ おおむね感覚的に機器を使用することができたため。

- ・ 訓練までに内容を理解し、活用できた
- ・ EMC運営における情報の流れをもう少し丁寧に説明して欲しかった。情報伝達の流れを
- ・ 理解していないと混乱すると思う。
- ・ 流れがいまいち、多いので覚えるのが大変。
- ・ 新規に作成するときにカテゴリのデフォルトが「クロノロジー」であったり、送り先を改めて設定しなければならないので、送信ミスが起こる可能性がある。
- ・ 端末がないので操作は行っていない
- ・ よかったです。
- ・ 一部資料を見ただけではわかりにくい（実際にさわらないとわからない）。
- ・ 説明が早くて追いつけない部分があった。

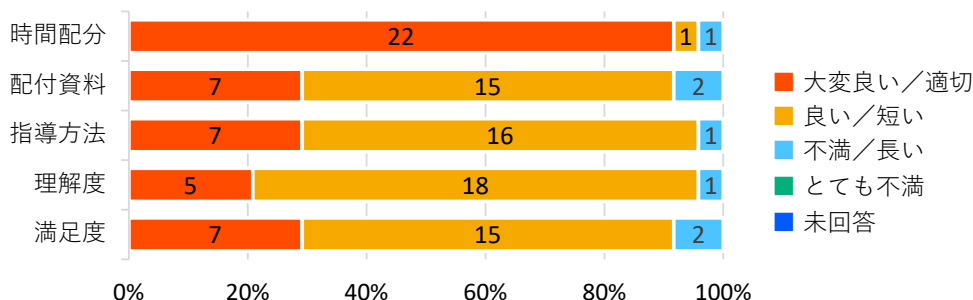
3) 机上訓練 ステップ1 施設敷地緊急事態（SE）の活動



自由記述

- ・ 複数回参加していることで、慣れてきて理解度が年々増している。
- ・ 資料がわかりやすい。
- ・ NISSの使用方法に手間取ったところはありません。それ以外はおおむね流れを学ぶことができました。
- ・ モニタリングとしては準備段階であり、悩むことは少なかった。
- ・ 役割を理解することができた。
- ・ SE宣言が明確に分からなかったような気がする。
- ・ 測定分析担当内での情報共有のルール化が出来ていなかったり、役割分担が決まっていなかったため、少し慌ただしかった。
- ・ 付与情報量に対して時間が短く、共有処理などが追いつかなかった。
- ・ 実践的でよかったです。
- ・ 状況の進みの早さに追いつけなかった。
- ・ 測定分析担当内の情報収集チームだったが、人手が足りずにばたつき、情報の聞き漏れがあった。

4) 机上訓練 ステップ2 全面緊急事態（GE）放射性物質放出前～放出中の活動

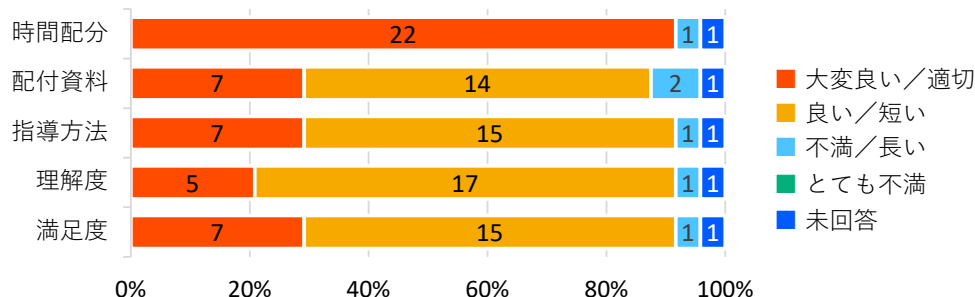


自由記述

- ・ 複数回参加していることで、慣れてきて理解度が年々増している。
- ・ 資料がわかりやすい。
- ・ OFCからの指示を受け、EMCがどのように動くかを理解、体験することができました。
- ・ SEからGEへ移行した状況がよくわからなかったです。「見える化」してもいいかもしれません。
- ・ 前回よりも理解して、行動できるようになっていると感じたため。
- ・ 放出中、放出後のモニタリング内容を理解し、優先度を考えた指示出しが必要であった。

- ・ 役割を理解することができた。
- ・ プラント情報が少し足りない。
- ・ 初日は短い時間に色々詰め込みすぎな気がしました。
- ・ これまでの訓練にはなかった停電による非常用発電機への給油対応や、断水による飲料水採取の確認依頼など、実際に想定されるシナリオが入っていて、訓練内容が充実した。
- ・ ラミスの欠測表示について見落としてしまった。仕様改善を検討した方が良い。
- ・ 実践的で良かったです。
- ・ 2日目は増員し、スムーズに進むようになった。

5) 机上訓練 ステップ3 全面緊急事態（GE）放射性物質沈着後の活動

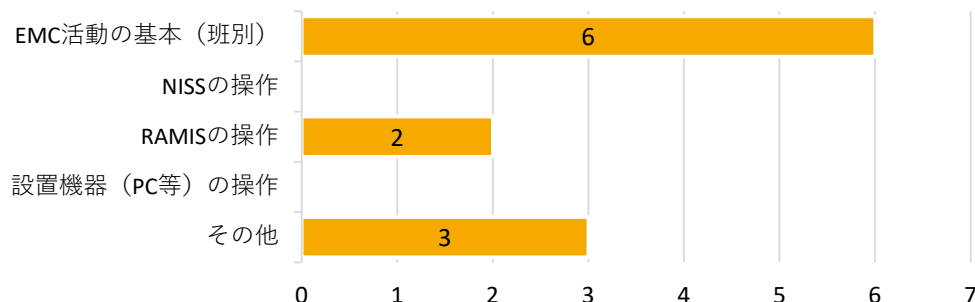


自由記述

- ・ 複数回参加していることで、慣れてきて理解度が年々増している。
- ・ 資料がわかりやすい。
- ・ OFCからの指示を受け、EMCがどのように動くかを理解、体験することができました。
- ・ 道府県HIはOFCとEMCが物理的に離れた場所にあるので、両方で情報の認識をいかに正確にするかが課題のように思いました。
- ・ 指示書の作成に時間を要してしまったので、試料採取について学習しようと思います。
- ・ 実際の動きを想定した訓練となっているのうに考えたため
- ・ 放出後の測定項目の目的、優先度を理解し、指示を出すことが必要と感じた。
- ・ 役割を理解することができた。
- ・ ほぼ想定内の放出状況。
- ・ EMCで指示書作成にあたり、企画調整Grと測定分析担当間で実施項目を確認して進めることができた。
- ・ 沈着と活動可能とする判断について、どういうプロセスで行うのか、そのあたりの事を国側で検討し、訓練にも反映できたらと思う。（そのプロセスではモニタリングとしてこういった情報提供をするのか。出動する場合も、時間との兼ね合いで、多少グレーでも走行サーベイは開始するなど考えられる。）
- ・ 実践的で良かったです。
- ・ 役割の動きに慣れてきて、よりスムーズに動けるようになったが、事態が変わってそれまでに来たことのない情報が来た時に、判断に戸惑うことがあった。

4. eラーニングについて

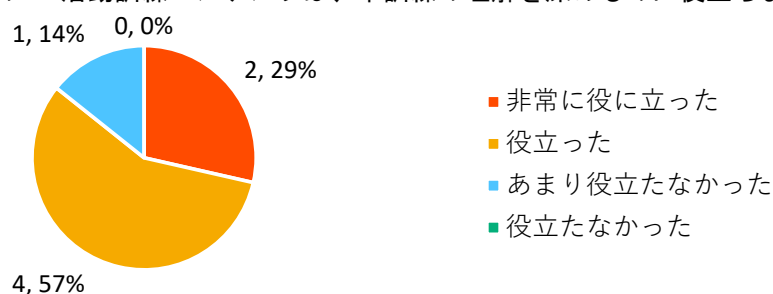
1) 拡充してほしいeラーニングコンテンツを選んでください。



その他の意見

- ・ モニタリング項目の目的、必要性、優先度について
- ・ 参集してやるべきこと
- ・ 特になし

2) eラーニングのEMC活動訓練コンテンツは、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。

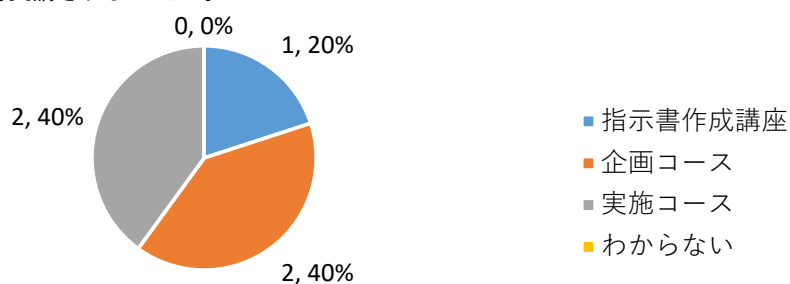


自由記述

- ・ 非常に役に立った；普段の研修では実施しないこともあり、動き方について改めて確認することができた。
- ・ 非常に役に立った；訓練前も流れを把握できてよかったです。
- ・ あまり役立たなかった；資料を読み上げるだけでは十分伝わらない。

5. 実践演習（オンライングループワーク）について

1) どの講座を受講されましたか。



2) 実践演習は本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。

受講講座	非常に役に立った	役立った	あまり役立たなかった	役立たなかった	回答数合計
指示書作成講座	1	0	0	0	1
企画コース	1	1	0	0	2
実施コース	1	1	0	0	2
わからない	0	0	0	0	0

自由記述

- ・ 非常に役に立った；将来的に自分が担当することになった場合を想定しながら受講した。今後の業務において考え方等とても参考になった。【受講コース：指示書作成講座／企画コース／実施コース】
- ・ 役立った；具体的な状況を例にしてモニタリング活動を検討することができたため、勉強になりました。【受講コース：企画コース】
- ・ 役立った；未受講分を受講したい。協会の資料は分かりやすい。【受講コース：実施コース】

6. 訓練全般に関する意見・要望

- ・ 長年対応しているが、人員が変わった時にスムーズに対応できるか不安である。ただし総括連絡班3名のうち1名は経験豊富な方がいれば、コミュニケーションをとることでもうまくなるかなと思う。
- ・ 要員の力量の等級を決めておくことも、一つの手段と考えます。
- ・ 総括連絡班にノートPCが2台あるが、ラミス映写用として大きめのモニタがあると（追加1台）、作業がやりやすくなるように感じました。
- ・ 実動訓練において時間配分をもう少し考えて計画できるとよかったのではないかと考えている。今後はもう少し遠くの地点を選定して実施することを検討したい。
- ・ 各グループ、担当ごとに正確に情報伝達することが重要であり、課題であると思いました。
- ・ 認識のずれをなくすために、事前に指示書の内容についてすりあわせするとより丁寧な対応ができるのではないかと思います。
- ・ 採取班との連携が研修内容に含まれる場合は、今回よりも手間取るだろうと思いました。
- ・ 機器取扱いへの習熟に特化した研修があっても良いかも。（実機を触らないと習熟できないが、実動訓練だと操作習熟に特化できない。）
- ・ EMC立上以降について訓練が主眼かとは思いますが、EMC前の初動について、流れの整理、それに応じた訓練を行うことが必要ではないかと思います。初動は重要かと。参考になりました。ありがとうございました。
- ・ EMC測定分析（道府県H）と以前はモニターでリアルタイムでやりとり出来ていたが、今は出来ず、詳細なやりとりが出来なかった。
- ・ 測定分析はもっと現場で判断する必要があると思う。EMC側ももっと積極的に、迅速に判断すべきだったと思う。
- ・ 地震の時は通行止めだけでなく、渋滞も想定される。そういった情報付与もあってもよい。
- ・ 事態が進行した時、交代要員が担当していることもなる。交代要員も含めて、訓練が必要にあるのではないか。
- ・ 実践的な内容で、EMCの活動に関する知識の習得、業務への理解が深まった。
- ・ やはり経験者が多いということで、スムーズな運営ができた。
- ・ 訓練は複数参加した方がよいということが分かる。
- ・ プラント進展情報が少ないような気がした。
- ・ 大型モニターがあると良い。
- ・ PCの反応が少し遅い
- ・ 訓練日程について、本来業務の都合上、1日しか参加できない要員がいたので、月末～月初めの日程は外してほしい。
- ・ 今回、測定分析担当内でNISSの操作を担当したが、受信時の作業（閲覧、ダウンロード、印刷）、送信時の作業（メール入力、送信ファイルの編集）の2つを同時にするのが難しいタイミングが多かった。送信作業中に受信した情報を見逃しそうになったこともあるので、できればNISS用のPCが2台ほしかった。

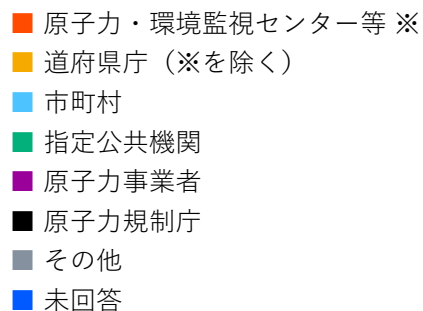
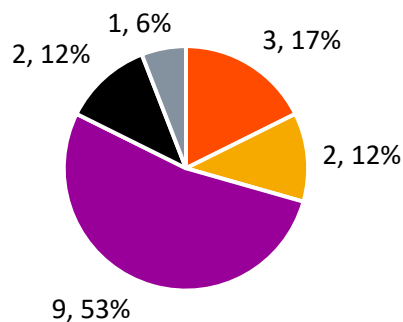
道府県H実動訓練 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 17 名

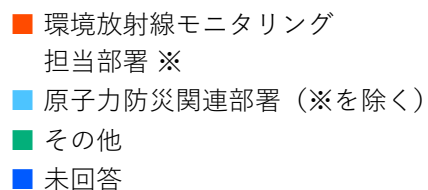
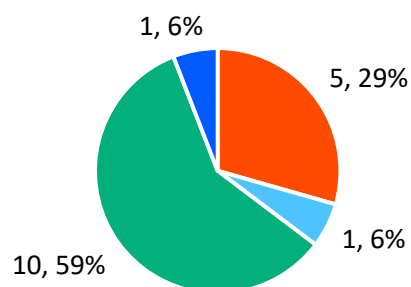
受講者数 : 21 名

1. 受講者自身について

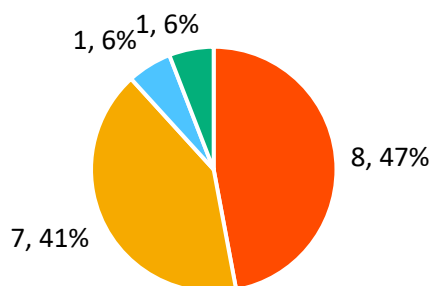
1) 所属



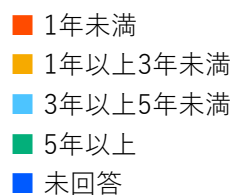
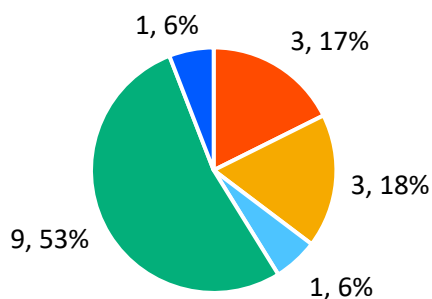
2) 所属部署の属性



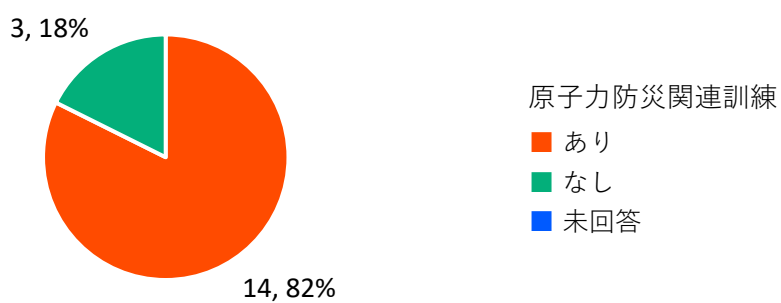
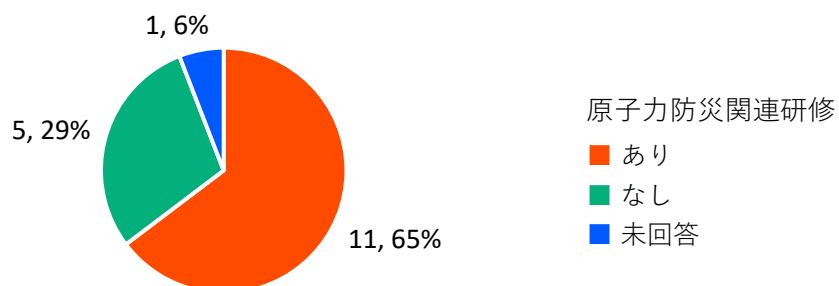
3) 年齢



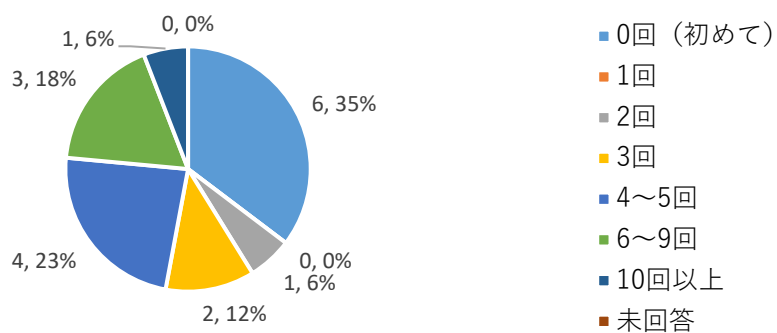
4) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



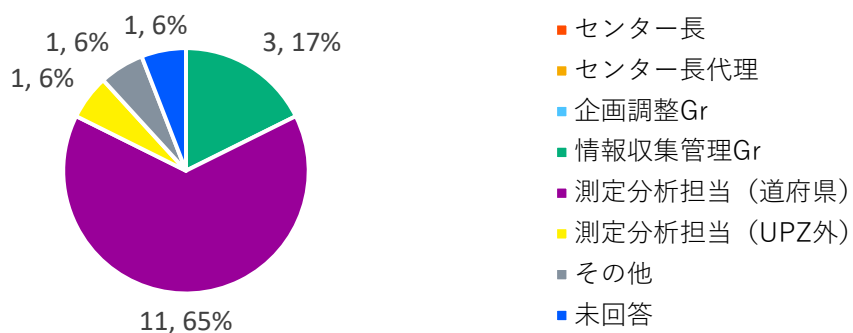
5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験



6) 本EMC活動訓練参加回数

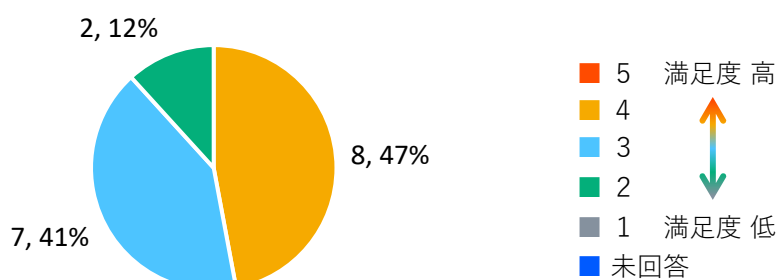


7) 机上訓練での役割



2. 本講座を受講しての所感等について

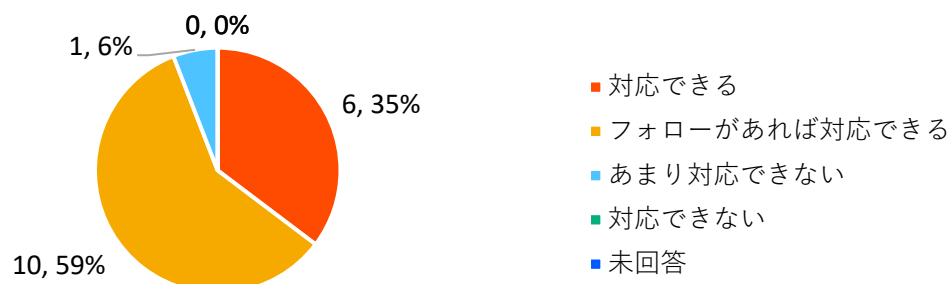
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度4；特にトラブルなく訓練できたため
- ・ 満足度4；多くの課題が見つかったため、有意義であった。
- ・ 満足度4；課題点も多く見つかった。緊急時の対応がある程度わかった。
- ・ 満足度4；実際に現場作業を経験できてよかった。
- ・ 満足度4；これまでEMC研修を受講していたが、訓練は初めてだったので、経験を積むことができた。
- ・ 満足度3；良い感じで協力でき行動できた。
- ・ 満足度2；あまり中身がなかった。

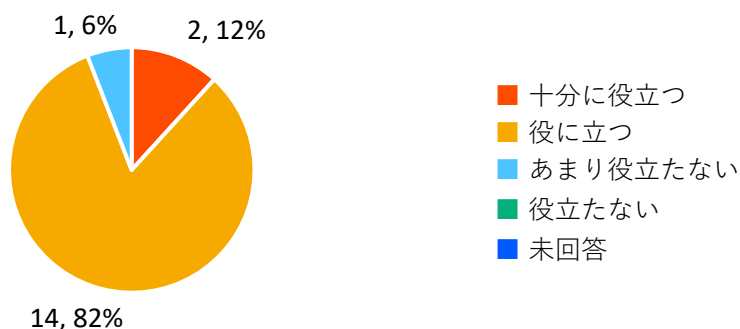
2) 本訓練を受講してEMC活動に対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ 対応できる；マニュアル等あるため
- ・ フォローがあれば対応できる；汚染に対するある程度の経験が必要と考える。
- ・ フォローがあれば対応できる；まだまだ認識の甘い部分があるため、フォローがあるとありがたい。
- ・ フォローがあれば対応できる；手順書通りなら対応できるが、マニュアルにない対応は難しいかもしれない。
- ・ フォローがあれば対応できる；継続して参加し習得したい
- ・ あまり対応できない；もう少し習熟が必要。

3) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。

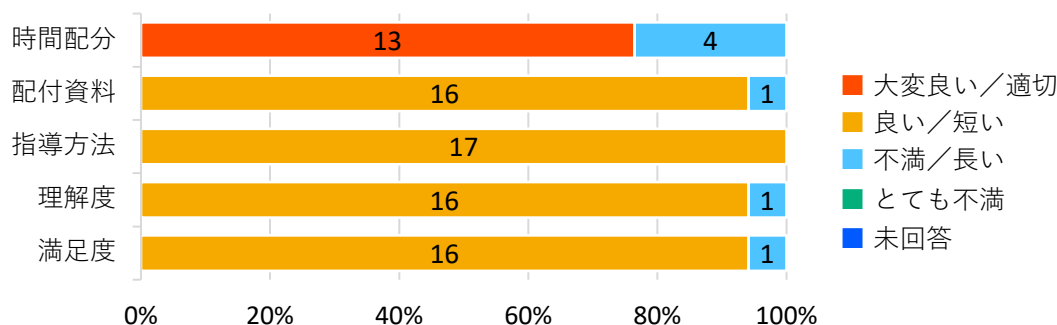


自由記述

- ・十分に役に立つ；継続しないと身につかないと思うので、今後も続けて参加し力量を向上させたい。
- ・役に立つ；普段より行っている
- ・役に立つ；実際に体を動かすことで、イメージが湧きやすくなった。

3. 各プログラムの評価について

1) 実動訓練

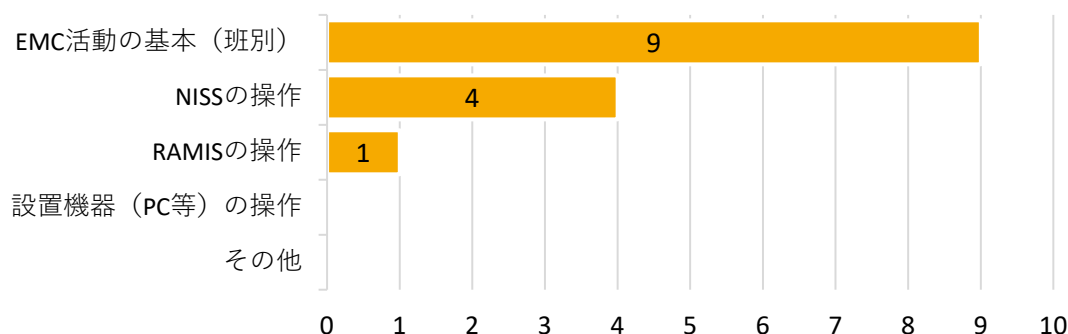


自由記述

- ・隣県の地図が道府県Hのものと矛盾なく繋がりがあるようになると有難いと思われる。
- ・分析からすると試料がないと何もできないので、もう少し遅くてもいいと思う。
- ・前処理の方法等丁寧に指導していただけたため。
- ・他グループとの連動があるとより良い訓練になると感じました。
- ・午前中は時間がタイトだったので、少しせわしかったと思う。午後は逆に時間に余裕があった。
- ・手順の再確認という位置づけであればよかったと思う。
- ・あまり習熟できていない人にとっては各作業方法があいまいだった。
- ・あくまで緊急時を想定した訓練だが、継続して体で覚えることで、有事の際にも落ち着いて行動できると思います。
- ・配付資料に則ってスムーズに作業を行えた。

4. eラーニングについて

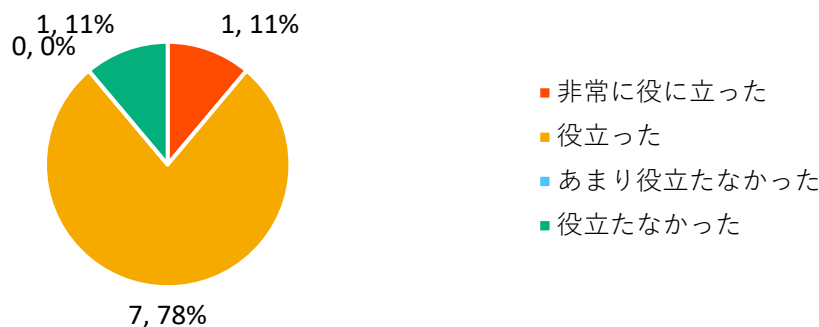
1) 拡充してほしいeラーニングコンテンツを選んでください。



その他の意見

- ・なし

2) eラーニングは、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。

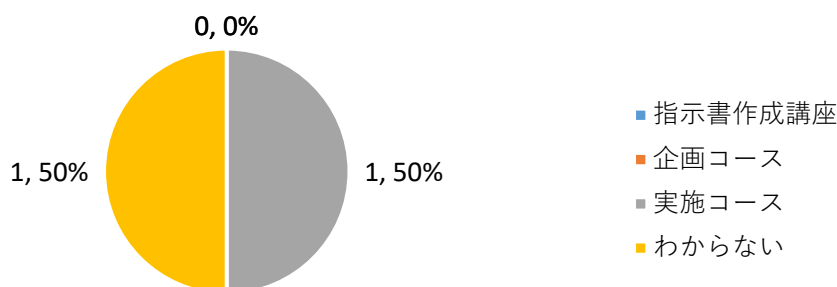


自由記述

・ なし

5. 実践演習（オンライングループワーク）について

1) どの講座を受講されましたか。



2) 実践演習は本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。

受講講座	非常に役に立った	役立った	あまり役立たなかった	役立たなかった	回答数合計
指示書作成講座	0	0	0	0	0
企画コース	0	0	0	0	0
実施コース	0	1	0	0	1
わからない	0	1	0	0	1

自由記述

・ なし

6. 訓練全般に関する意見・要望

- ・ 立地県と隣接県がある場合には、立地県によるPAZ、UPZを含めた地図等を作成する方がよいと思われた（EMCが立地県にあることがほとんどのため）。
- ・ 私は自主訓練をしていましたが、いろいろ気付きがあって良かったです。次は県主催の訓練なので、本訓練の経験を活かしたい。
- ・ 本訓練に参加するのが初めてであったが、経験者も多くサポートを受けながら訓練を終えることができた。
- ・ 手順書もしっかりとしていたが、何回か訓練を受けないとスムーズに作業ができないと感じた。
- ・ 実際に防護服を着て建物付近で活動してみる。

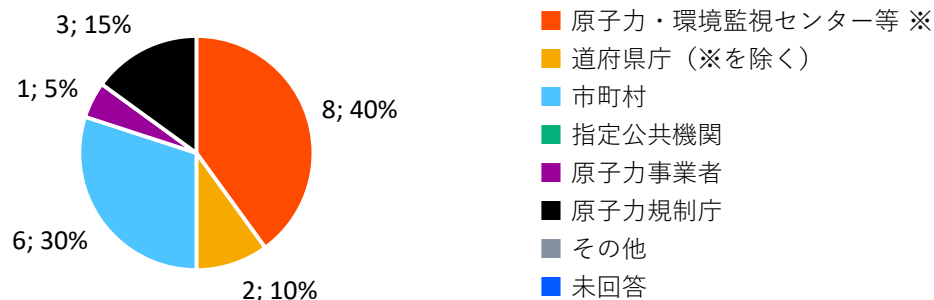
道府県I 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 20 名

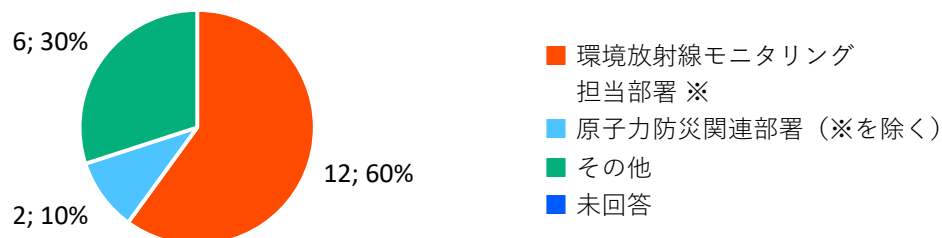
受講者数 : 21 名

1. 受講者自身について

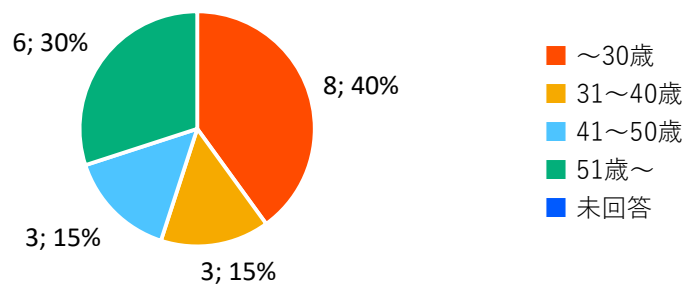
1) 所属



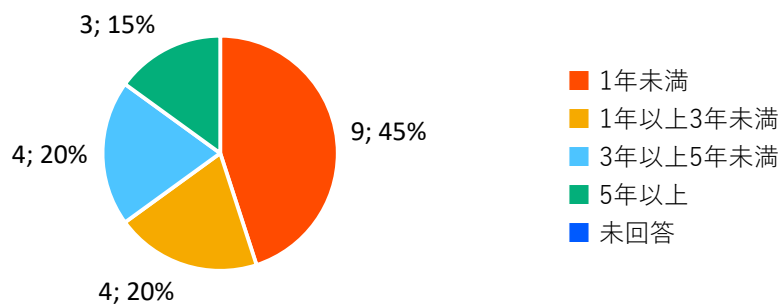
2) 所属部署の属性



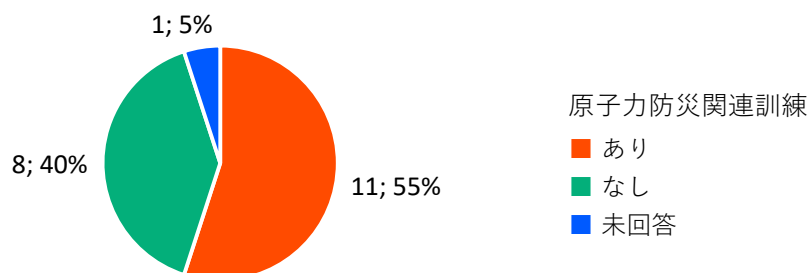
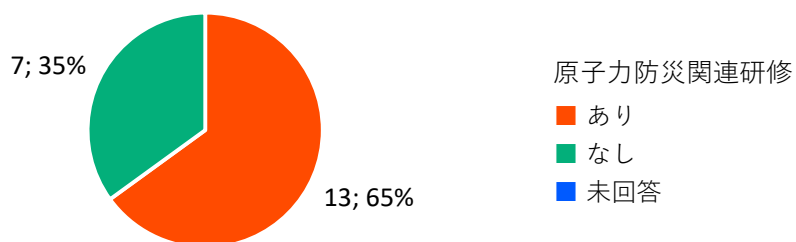
3) 年齢



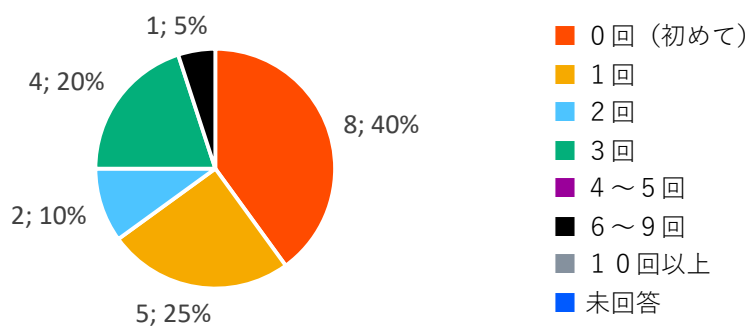
4) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



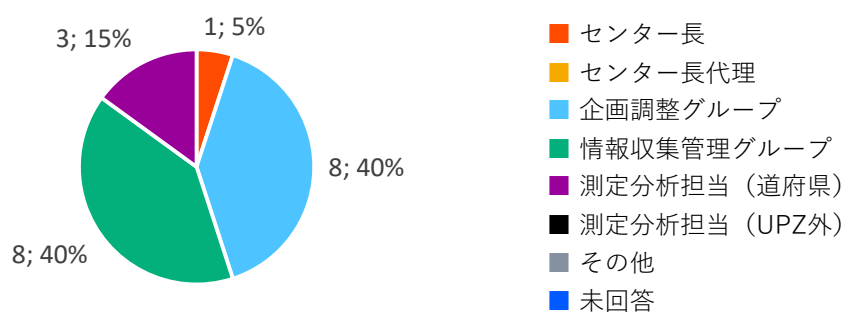
5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験



6) EMC活動訓練参加回数

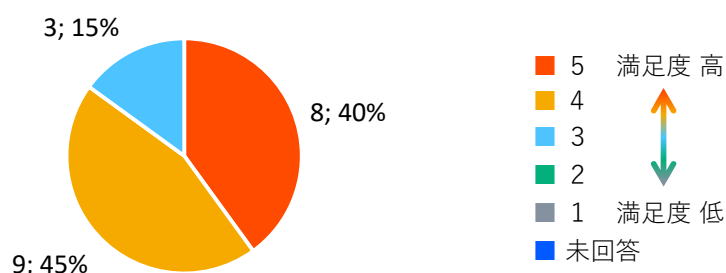


7) 机上訓練での役割



2. 本講座を受講しての所感等について

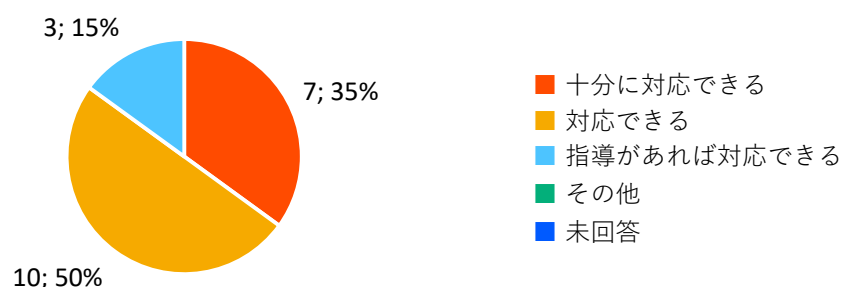
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；本番を想定した訓練で緊張感もあり、身になった。2日間通し、同じGrの中でも違う業務にあたり、知識・技能の習得ができた。
- ・ 満足度5；EMC活動訓練の理解がより深まった。
- ・ 満足度5；訓練目的を達成できた。特に具体的に業務の流れをよく理解できた。
- ・ 満足度5；貴重な経験が得られた。
- ・ 満足度5；理解度を深めることが出来たため、訓練内容を的確に実施出来た。
- ・ 満足度5；別の訓練でクロノロは利用していたが、RAMISを新しく触り、使用方法について理解を深めた。また、測定分析の大まかな流れについて把握ができた。
- ・ 満足度4；当初は職務内容等、全くわからない状況でしたが、配属部署のイメージをつける程度はできました。
- ・ 満足度4；知識スキルが向上したと感じた。
- ・ 満足度4；機器が少ない中でトラブルなく作業できた。
- ・ 満足度4；流れの再確認ができた。いくつかの課題を見つけることができた。
- ・ 満足度4；EMCの活動を復習し、実際に模擬できた。
- ・ 満足度4；災害時の流れを確認することができた。
- ・ 満足度3；モニタリング要員についてどのようなものかが分かった。
- ・ 満足度3；モニタリング要員として流れを理解することができたから。

2) 本訓練を受講してEMC活動に対応できるようになりましたか。

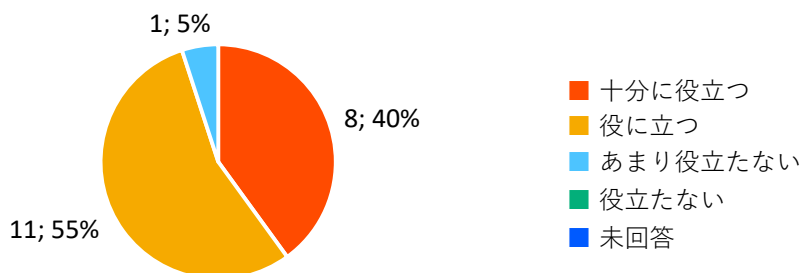


自由記述

- ・ 対応できる；自分が担当したものについては、今回理解も深まったため、対応がよりできるかと考える。
- ・ 対応できる；訓練は初めてであったが、周りの方々のフォローがあり対応できた。このような体制であればしっかり活動できると思う。
- ・ 対応できる；流れを理解できたため。
- ・ 対応できる；理解度が深まったため。
- ・ 対応できる；状況にもよるが、大方、対応できると思う。
- ・ フォローがあれば対応できる；情報量が密になると、つねに他の要員、グループ長との意見交換が必要。

- ・ フォローがあれば対応できる；あくまでも訓練での動き方であるため、実際はわからない。係ごと詳細なマニュアルがあると、初めてでもできるかもしれない。
- ・ フォローがあれば対応できる；分からないことも、聞くことで理解できたから。
- ・ フォローがあれば対応できる；不安はあるが、ある程度はできると感じられた。
- ・ フォローがあれば対応できる；専門用語などがあり、分からないこともあるため、フォローをしてもらいながら活動できると思った。
- ・ フォローがあれば対応できる；今回は市町の要員がいいたため、指示を出した前提で進めるため実際にその指示を出したり報告があると今回みたいにスムーズに進まないと思う。
- ・ あまり対応できない；全体の流れ等もつかめておらず、実際の活動はまだまだ不安です。
- ・ あまり対応できない；情報収集管理グループ以外の内容は把握できなかった。

3) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。

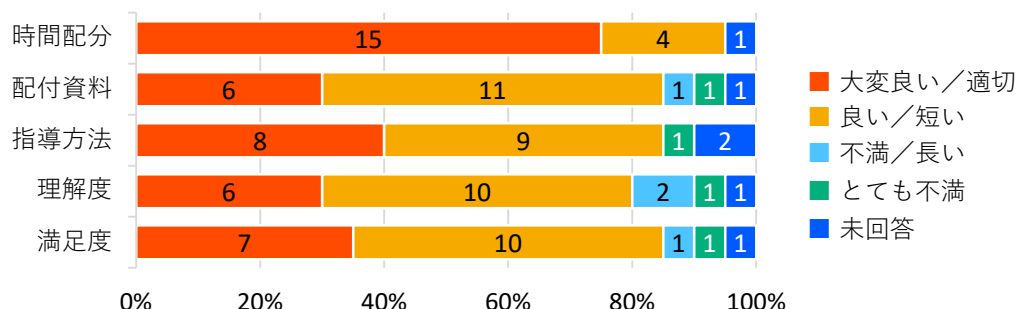


自由記述

- ・ 十分に役に立つ；まだ担当したことのない役割であったので大変良い経験となった。
- ・ 十分に役に立つ；いざEMCに参加しようと思ったときに訓練を行ってなければ絶対に出来ないと思う。訓練への参加は必須にした方がいい。
- ・ 十分に役に立つ；実際に実践することで理解が深まった。
- ・ 十分に役に立つ；環境モニタリングの経験があったが、本訓練をうけ、知識向上につながったと感じます。
- ・ 十分に役に立つ；訓練を通じて、今後の資機材管理における課題を見つけられた。
- ・ 十分に役に立つ；現在、原子力防災係としてモニタリング要員ではありませんが参加し、最低限の知識は身につけ、今後の担当者に答えられるようになったと考える。
- ・ 役に立つ；情報Gの仕事について理解できた。
- ・ 役に立つ；向上したと感じた。
- ・ 役に立つ；NISSの使い方を復習できたため。
- ・ 役に立つ；指示書を実際に作成する等経験した。
- ・ 役に立つ；モニタリング要員の役割について理解を深めることができた。
- ・ 役に立つ；災害時の流れ等を再認識することができた。

3. 各プログラムの評価について

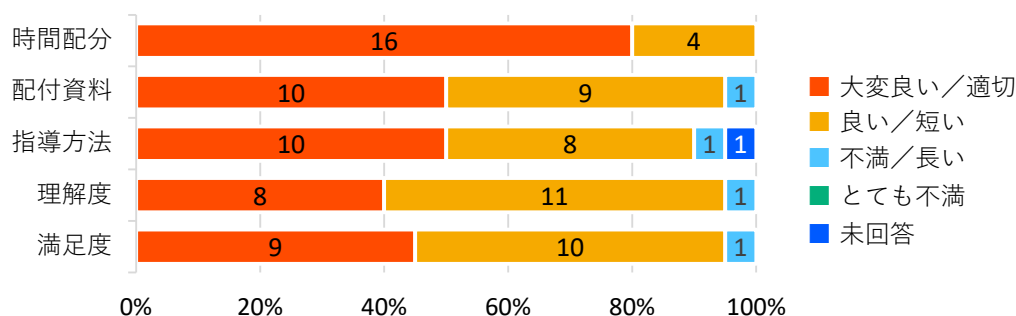
1) 講義 道府県Iの緊急時モニタリング要領について



自由記述

- ・ 要領の説明は適切であったが、体制表の説明がほしい。
- ・ 緊急時モニタリングについて全体のことが分かりました。
- ・ 理解については、求められているものには至っていない気がします。
- ・ 理解できた。
- ・ 過去に環境モニタリングの業務を行っていたのもあるかもしれないが、簡潔な説明で非常によく理解できた。
- ・ 概要の説明は十分できていたため。
- ・ 端的な説明だった。
- ・ モニタリング要領について理解を深めることができた。
- ・ モニタリング要員の系統図（情報について）がわかりやすくまとめられていた。実施事項についてまとめてあり最低限必要な情報が分かる。

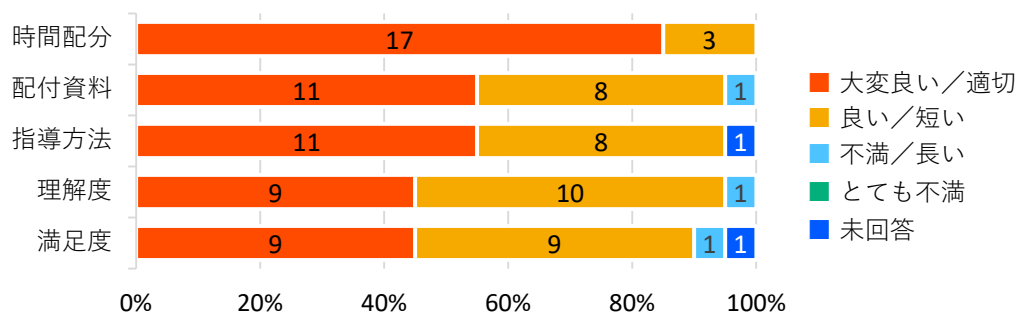
2) 操作実習 EMC設置機器（PC等）、RAMISの操作方法



自由記述

- ・ マニュアルのようになっていた。
- ・ 実際に操作ができたので分かりやすかったです。
- ・ 簡単な操作を覚えた。
- ・ もう少し時間をかけた方がよい。
- ・ 実機を使用しながらの説明だったので、操作方法について理解しやすかった。
- ・ 十分理解できたため。
- ・ 電話機やビデオ通話システムの説明はもう少し短くても良かった。
- ・ もう少し触る時間があると良い。
- ・ 耳慣れない言葉がたくさんあり、しっかり聴きとれるよう、マイクで話すときはマスクを取った方がよい。
- ・ 口頭だけの説明だけでなく、実際に操作しながら学ぶことができてよかった。
- ・ RAMISの操作方法について一通り把握できた。確認したい地点とグラフの見方、表の見方についてわかりやすく教えていただいた。

3) 操作実習 クロノロジーシステム（NISS）の操作方法、EMC情報の流れ

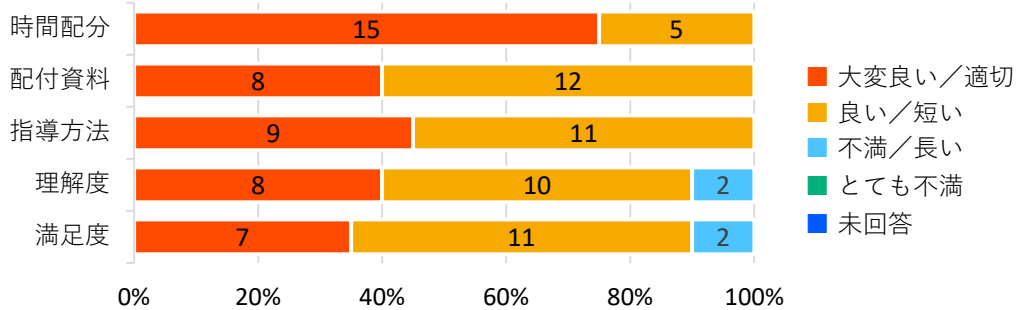


自由記述

- ・ マニュアルのようになっていた。
- ・ クロノロジーシステムについては、実際に操作ができたので分かりやすかったです。未読が表示される点が分かりやすいと思いました。
- ・ 簡単な操作を覚えることができた。

- ・ 実機を使用しながらの説明だったので、操作方法について理解しやすかった。
- ・ 十分理解できたため。
- ・ もう少し触る時間があると良い。
- ・ クロノロジーシステムの操作について理解を深めることができた。
- ・ 以前もクロノロを使用した事があったため、更に理解を深める事ができた。

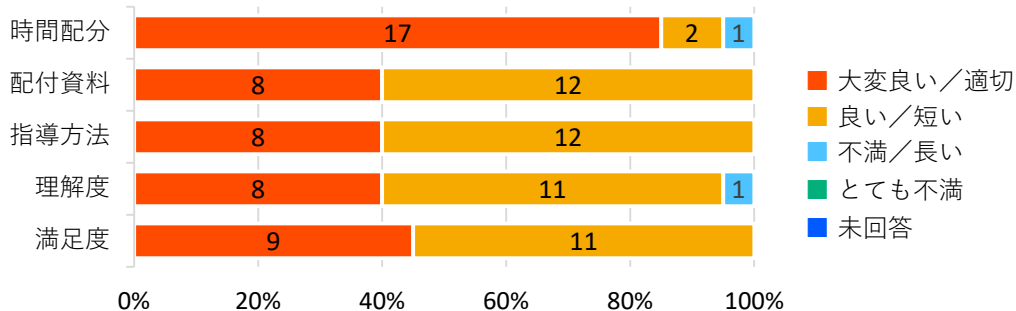
4) 机上訓練 ステップ1 警戒事態 (AL)～施設敷地緊急事態 (SE) の活動



自由記述

- ・ モニタリングすることは少なかったが定時報告などしっかりできた。
- ・ 知識をもとに動くことができた。
- ・ 分からないことが多く、いろいろと教えていただいた。
- ・ 訓練内容としては良く、目標である業務の理解はできた。ただ、確かに参集はバラバラになると思うので、また次回はそのようなことを想定した訓練をしてもよいかもしれない。
- ・ 十分理解できたため。
- ・ ALステップの期間が短いため、振返りはいらないのではと思った。
- ・ 始めは分からないことも多かったが、少しずつ対応ができるようになってきた。
- ・ 実際には市町のモニタリング要員とのやりとりが発生するため、完璧に理解できたとは言えないが一通りの流れについて理解できた。
- ・ EMC立ち上げ前の対応が難しかった。時間も短く大変であった。

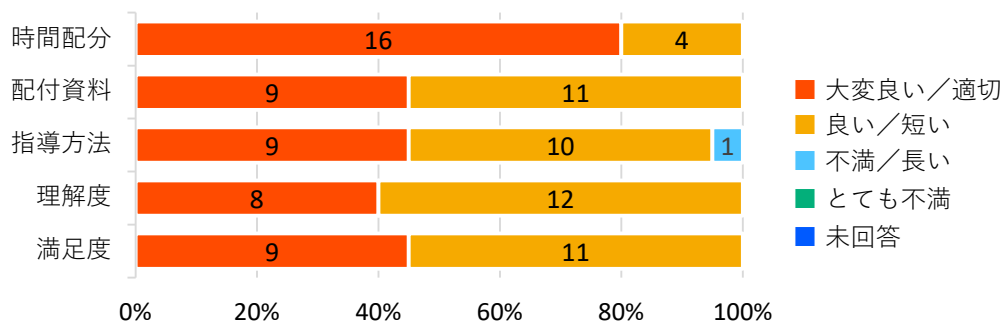
5) 机上訓練 ステップ2 全面緊急事態 (GE) 放射性物質放出前～放出中の活動



自由記述

- ・ 線量の増加に反応し、しっかりと対応できた。
- ・ 前日の反省を活かすことができた。
- ・ 多くのことを教えていただいた。
- ・ 訓練2日目ということもあり、よりフォローしながらすすめることができた。
- ・ GE全体を通して、課題を見つけながら実施することが出来た。
- ・ 一連の流れを把握することができた。
- ・ ステップ1と同様ではあるが少しずつ自身が考えて必要資料を印刷したりと行動ができた。

6) 机上訓練 ステップ3 全面緊急事態（GE）放射性物質沈着後の活動

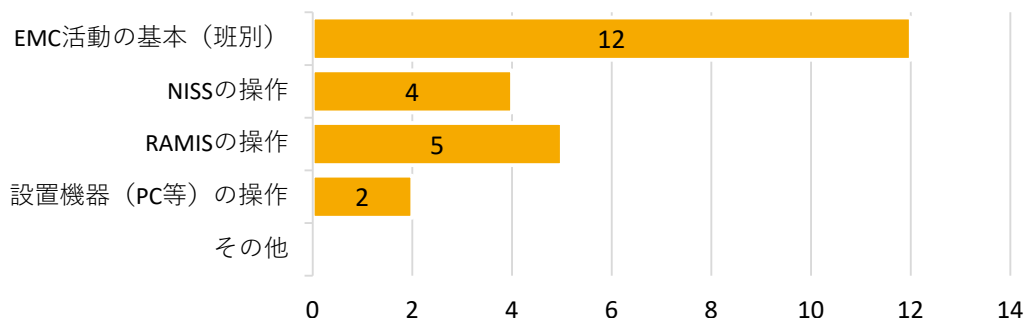


自由記述

- ・メールの確認、打出等、指示を聞きながらできた。
- ・マグネットがどの場所かということの確認しにくい場所があった。
- ・多くのことを教えていただいた。
- ・訓練2日目ということもあり、よりフォローしながらすすめることができた。
- ・走行サービルの作成などに時間を要したが問題はないため。
- ・インフラ不足を感じた。短時間で成果を得るのは大変であった。
- ・時間がたつにつれ、自分の役割も理解できたため、操作や指示も適切に対応できた。
- ・4.5と同様ではあるが電話対応についても積極的に対応することができた。

4. eラーニングについて

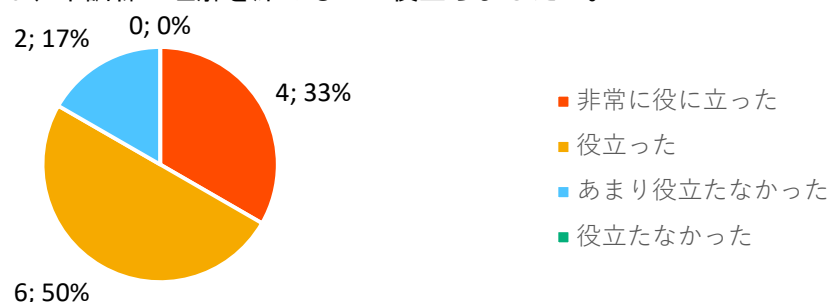
1) EMC活動訓練について、拡充してほしいコンテンツを教えてください。



その他の意見

- ・なし

2) eラーニングは、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



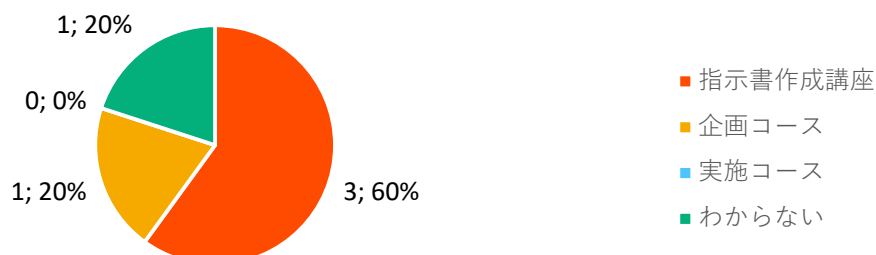
自由記述

- ・非常に役に立った；各用語等の意味について理解することができた。
- ・非常に役に立った；機器について説明のコンテンツがあったが実際に触ってみることでより理解が深まった。
- ・役立った；役立ったが、eラーニングのみの受講では、訓練は難しいように感じた。あまり役立たなかった；用語とかの説明はもう少し充実させてほしい。訓練の流れや各班の業務についての詳細もほしい。

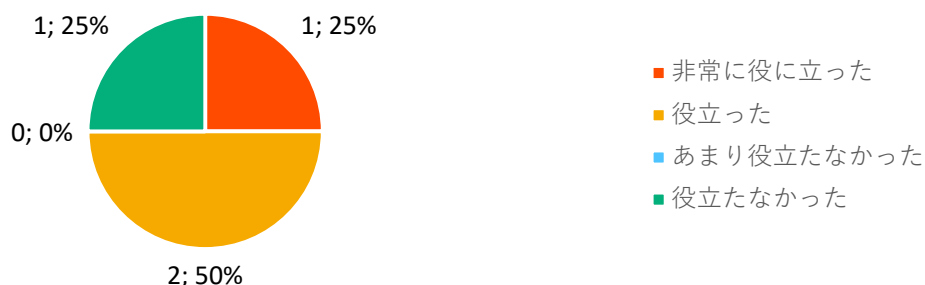
- ・あまり役立たなかった；eラーニングだけで操作などについて説明を受けても、実際に操作していないため覚えにくいから。

5. 実践演習（オンライングループワーク）について

1) どのコースを受講されましたか。



2) 実践演習は、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



受講コース別の回答

受講講座	非常に役に立った	役立った	あまり役立たなかった	役立たなかった	回答数合計
指示書作成講座	1	2	0	0	3
企画コース	0	1	0	0	1
実施コース	0	0	0	0	0
わからない	0	0	0	0	0

自由記述

- ・役立った；指示書作成か企画のどちらかに出席したが、役立つ内容であった。【受講コース：指示書作成講座／企画コース】

6. 訓練全般に関する意見・要望

- ・県も3年で異動があるため、年度当初の訓練を希望する。
- ・各班ごとのマニュアルがほしい。
- ・参加させていただき非常に勉強になりました。またよろしくお願いします。
- ・意見・要望について必ず監視情報課に伝達いただきたい。

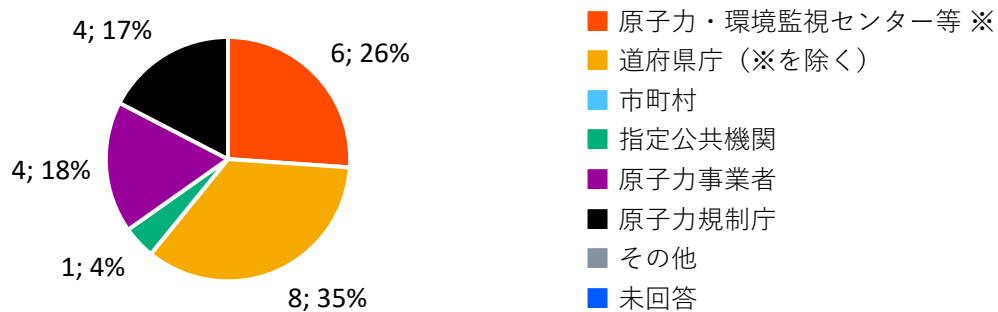
道府県J 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 23 名

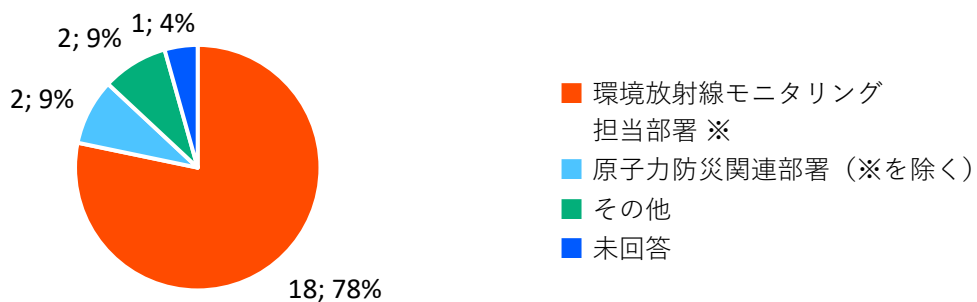
受講者数 : 23 名

1. 受講者自身について

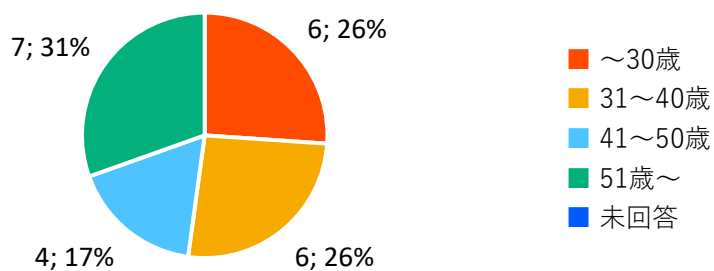
1) 所属



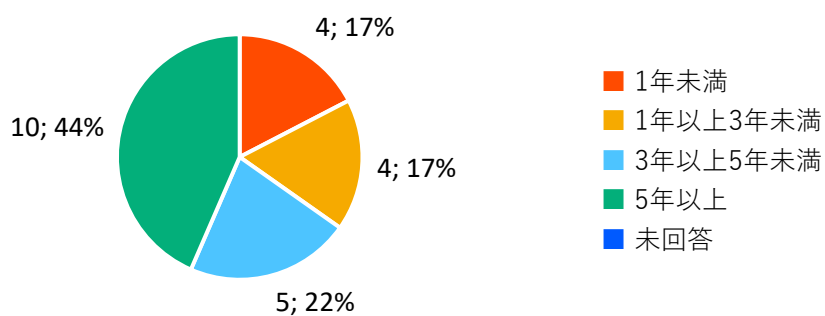
2) 所属部署の属性



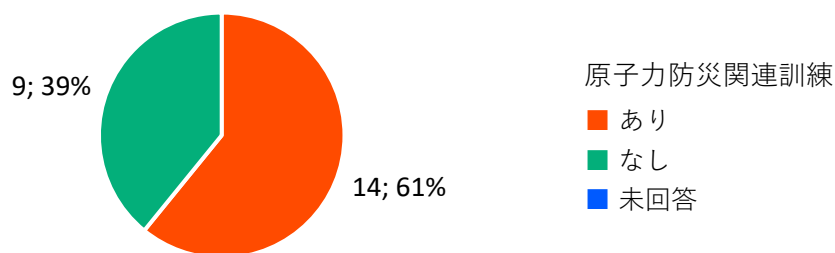
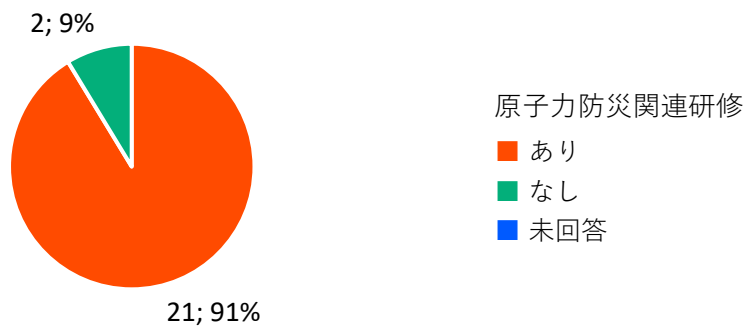
3) 年齢



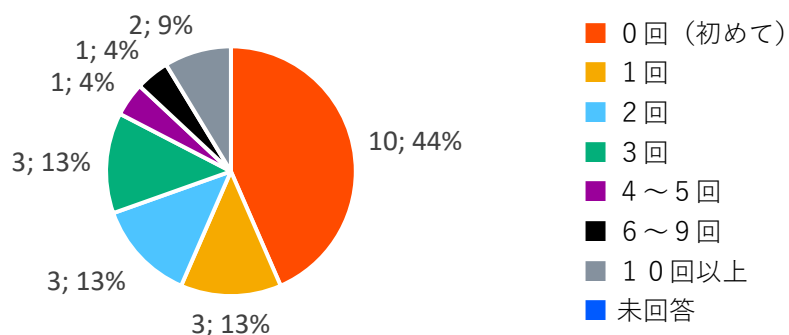
4) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



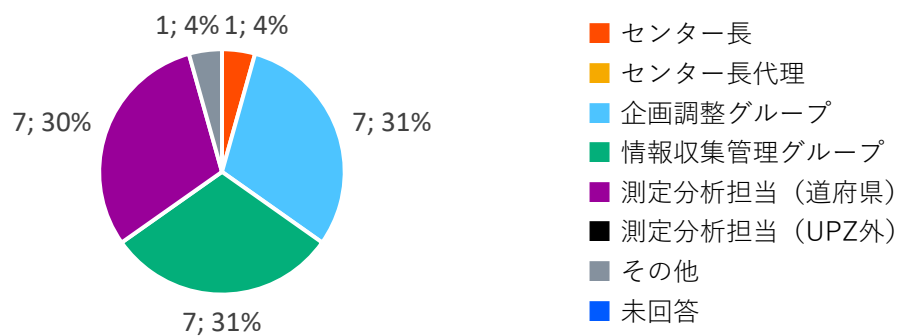
5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験



6) EMC活動訓練参加回数

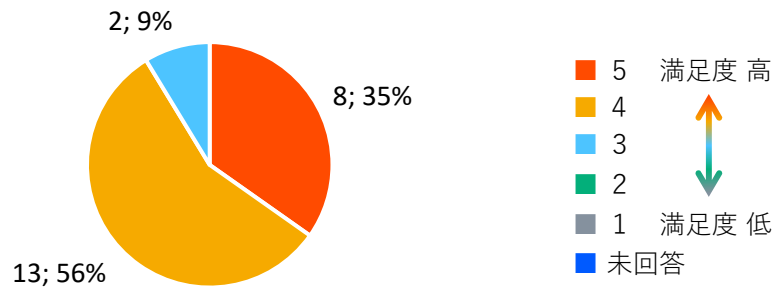


7) 机上訓練での役割



2. 本講座を受講しての所感等について

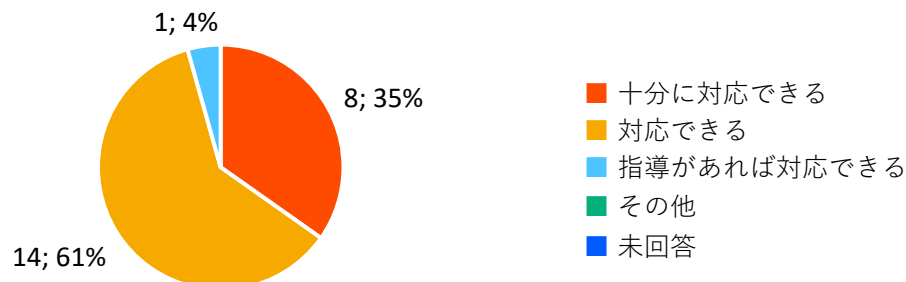
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；実機を操作したことで、理解促進に繋がった。
- ・ 満足度5；例年になく、ハードで厳しい条件での訓練であったため。
- ・ 満足度5；EMCの現場を意識した動きを学ぶことができた。特に放出と放出後は被ばくを考えた動きに注意を払う必要性を感じることができた。
- ・ 満足度5；実際的な訓練の経験は乏しいので、とても有益でした。
- ・ 満足度5；参加して3年目ですが、毎回、スキルアップしている感じがします。
- ・ 満足度5；他地域の訓練状況が確認できたため
- ・ 満足度5；モニタリングに関する理解が十分出来ていない項目について再認識できたため。
- ・ 満足度4；はじめての訓練で得るものが大変多かった。発電所や国の連携方法が確認できた。
- ・ 満足度4；初めての参加だったため、全体的な流れを体験出来て良かった。
- ・ 満足度4；EMC訓練に初めて参加し、基本事項から細かく学ぶことができた。一方で、今回課題となった部分もあり、今後の訓練や実際の対応の際に、落ち着いて対応できるよう復習したい。
- ・ 満足度4；当日の動きについて理解できた。
- ・ 満足度4；全体として対応の流れの概略を把握することができた。
- ・ 満足度4；見学者として全体を俯瞰して見ることができ、全体の流れがよくわかった。
- ・ 満足度4；めぐるましい展開であったため十分に検討対応ができない部分もあったが、内容が濃かった。
- ・ 満足度4；昨年度より事象がさまざま変わったため。
- ・ 満足度4；多くの課題を見つけることができたため。
- ・ 満足度4；事故が起きた想定でのRAMIS表示を確認しながらの訓練はとても有意義だった。
- ・ 満足度3；総じて一連の流れの確認ができた。
- ・ 満足度3；コントローラーのアドバイスありきの訓練になっていた。

2) 本訓練を受講してEMC活動に対応できるようになりましたか。

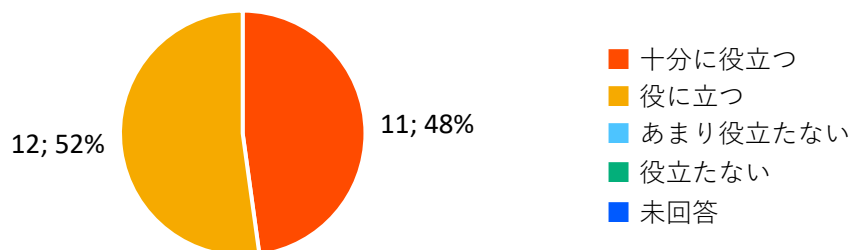


自由記述

- ・ 対応できる；RAMISやクロノロを使用することができるようになった。
- ・ 対応できる；毎年参加することで、知識の再確認、呼び起こしができる。

- ・ 対応できる；基本的な流れや機器操作を再確認できたため。
- ・ フォローがあれば対応できる；今回は、原本管理をメインに企画調整Gの活動に参加し、全体の活動を把握できた。その他のポジションはフォローが必要。
- ・ フォローがあれば対応できる；あくまでRAMISの担当ができる程度であり、EMC活動において即戦力とはならない。
- ・ フォローがあれば対応できる；手順通り行うことができた部分、突発的な事象に悩んだ部分等があった。
- ・ フォローがあれば対応できる；企画調整グループの対応はできると思うが、情報収集管理グループだとサポートが必要。
- ・ フォローがあれば対応できる；経験の長い人のフォローがあれば、対応できると思う。
- ・ フォローがあれば対応できる；マニュアルだけでは理解できないところも理解できた。一方まだすべてが完ぺきではなく、普段原子力関連業務をやっていないのでサポートしてもらう必要があると感じた。
- ・ フォローがあれば対応できる；マニュアルを見ても臨機応変な対応はなかなか難しいが、今回は疑問点を聞きやすい体制にあったので、フォローがあればなんとかできないこともないかと思う。
- ・ フォローがあれば対応できる；見学だったため、直接の作業はできていないが、NISSやRAMISをいじることで、使い方のイメージはついたため。
- ・ フォローがあれば対応できる；地理的に複雑であるため、道路状況などを鑑み対応することは難度が高いと思われる。
- ・ フォローがあれば対応できる；対応できない場面もあったため。
- ・ フォローがあれば対応できる；コントローラーのアドバイスありきの訓練になっていた。
- ・ フォローがあれば対応できる；今回はコントローラーのアドバイスに頼る部分が大きかったため、単独では時間を要すると思う。
- ・ あまり対応できない；兼務している役割があり、通しでの訓練が出来ていないため。

3) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



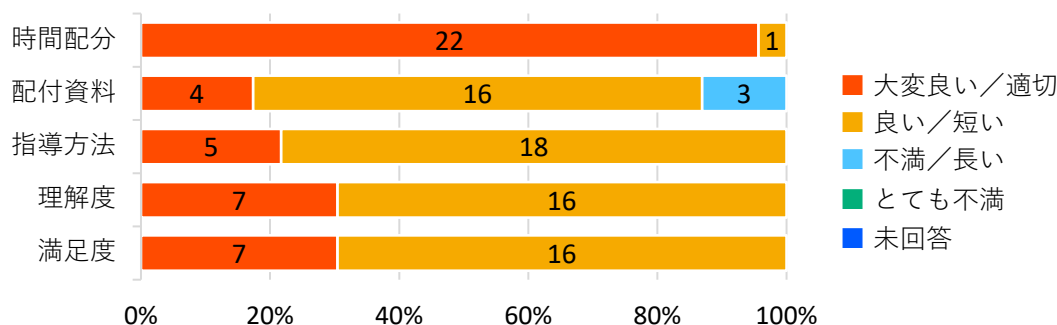
自由記述

- ・ 十分に役に立つ；原子力災害時の自治体の動きを把握することができていた。
- ・ 十分に役に立つ；今後の緊急時対応を意識したカリキュラムとなっていた。
- ・ 十分に役に立つ；今回立ち上げ準備から参加するのが初めてだったので、初動のバタバタを経験できたのでよかった。
- ・ 十分に役に立つ；全体の流れが把握できたこと、実際に各場面でどのような対応が必要か把握できたため。
- ・ 十分に役に立つ；平常時から把握しておくべき内容について、気づきがあったため。
- ・ 十分に役に立つ；昨年度より事象がさまざま変わったため。
- ・ 役に立つ；発電所以外の活動を体験でき、今後の業務に活かせる内容であった。
- ・ 役に立つ；EMC活動がどのように流れていくか体感できたので、有意義だった。
- ・ 役に立つ；他県、他サイトでの訓練に初めて参加することが出来、実りある訓練となった。
- ・ 役に立つ；改めて知識の確認ができた。

- ・役に立つ；テキスト内容だけでは実感できない部分が、実際にやることで理解が進んだと思う。
- ・役に立つ；県で行われる訓練に活かしていきたいと思う。
- ・役に立つ；ラミス、ラミセスの操作を習得できた。
- ・役に立つ；システムの使い方を学べた。

3. 各プログラムの評価について

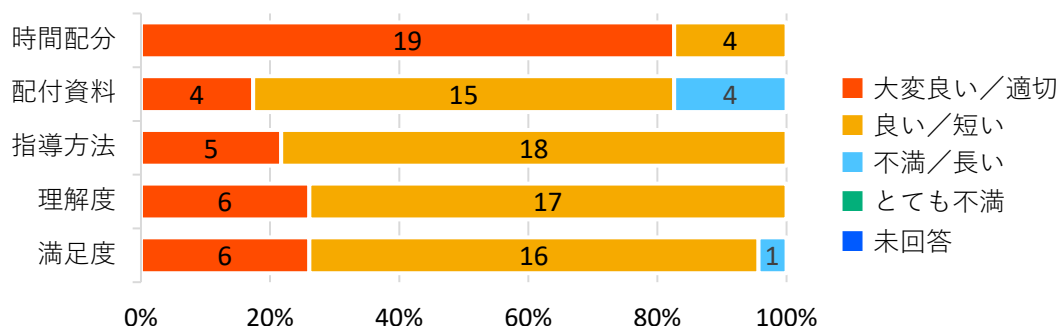
1) 操作実習 EMC設置機器（PC等）、RAMISの操作方法



自由記述

- ・2日間で対応することができ、RAMIS、NISSの使用方法を理解できた。
- ・ペアとなった方が、すでにRAMISを扱った人だったため問題なかった。
- ・所見の場合、配付資料はわかりにくい。ビデオにすべき。
- ・実際に機器に触れ学ぶことが出来た。
- ・説明時間はもう少しあった方がよかった。
- ・今回初めて操作を行ったが、テキストだけではわかり肉部分の理解に役立った。
- ・実際に触ってみなければ使えるようにならないので、説明時間は問題ないと思った。
- ・特に不足項目等はなかった。
- ・配付資料の到着が遅い。
- ・eラーニングを受講していたため、スムーズにできた。

2) 操作実習 クロノロジーシステム（NISS）の操作方法、EMC情報の流れ

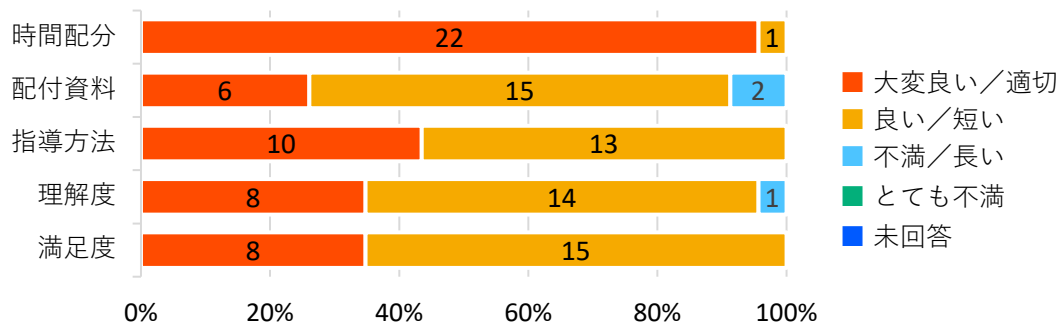


自由記述

- ・2日間で対応することができ、RAMIS、NISSの使用方法を理解できた。
- ・資料はわかりにくい。操作説明は動画にすべき。
- ・実際に機器に触れながら学ぶことができた。
- ・資料の情報の流れは各班務の具体的な対応内容、作業手順を詳しく説明してほしい。（特に初参加者に対して）
- ・過去に参加・操作経験があれば理解しやすかったが、初めて参加した人には時間が足りなかったのではないかと感じた。
- ・操作経験があったので、問題なく操作できたが、経験のない方は序盤は操作説明が少なかったのもあり、少し難しそうだった。
- ・NISSはある程度触らないと理解できないので説明を細かくする必要はないが、練習として1人1回はメールを送付するのをやっても良いのではないかと感じた。
- ・今回初めて操作を行ったが、テキストだけではわかり肉部分の理解に役立った。

- ・実際に触ってみなければ使えるようにならないので、説明時間は問題ないと思った。
- ・特に不足項目等はなかった。
- ・配付資料の到着が遅い。
- ・eラーニングを受講していたため、スムーズにできた。

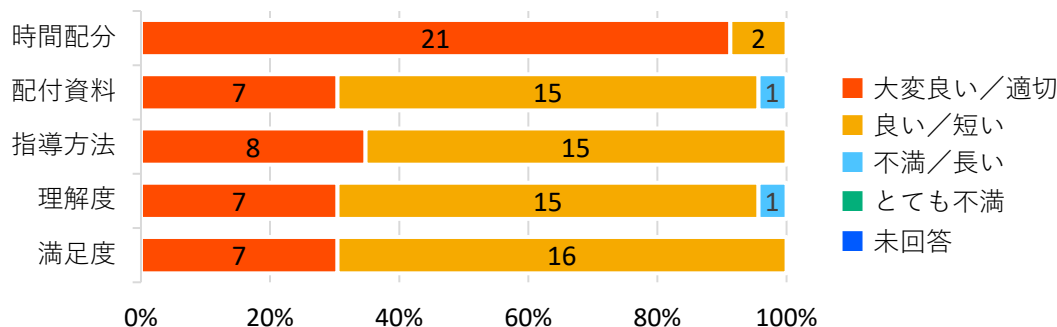
3) 机上訓練 ステップ1 施設敷地緊急事態（SE）の活動



自由記述

- ・SEの際に各チームが行うことを理解できた。
- ・連携する組織が見えてこない。関連する班をすべて（現地部隊も含めて）リスト化してほしい。また、どこどこが通信するのも図表化してほしい。
- ・演習が間に合わず、指示書を出すことができなかったため。
- ・基本的な流れについて理解が進んだ。
- ・緊急時に備えて、平常時から把握すべき情報に気づけたため。
- ・配付資料の到着が遅い。
- ・コントローラーに助けられた部分が多い。次回はより迅速にできればと思う。

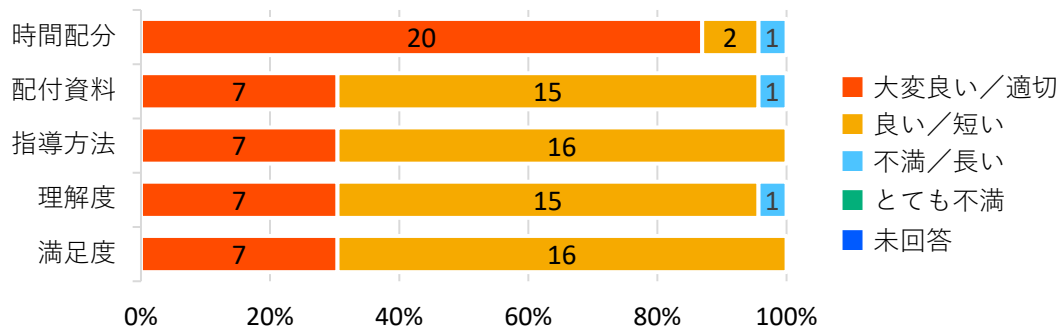
4) 机上訓練 ステップ2 全面緊急事態（GE）放射性物質放出前～放出中の活動



自由記述

- ・放出時の対応について、明確な指示がありよかった。
- ・自身の持ち分は遂行できた。次回は別の班もやっておきたい。
- ・演習が間に合わず、指示書を出すことができなかったため。
- ・放出中は実施できることが限られるので、放出停止後に向けた方針の検討を行うとよいと思った。
- ・基本的な流れについて理解が進んだ。
- ・汚染可搬MPの回収指示がやや早すぎた。
- ・指示書作成時の留意点（放出中は活動しない）に気づけたため。
- ・配付資料の到着が遅い。
- ・コントローラーに助けられた部分が多い。次回はより迅速にできればと思う。

5) 机上訓練 ステップ3 全面緊急事態 (GE) 放射性物質沈着後の活動

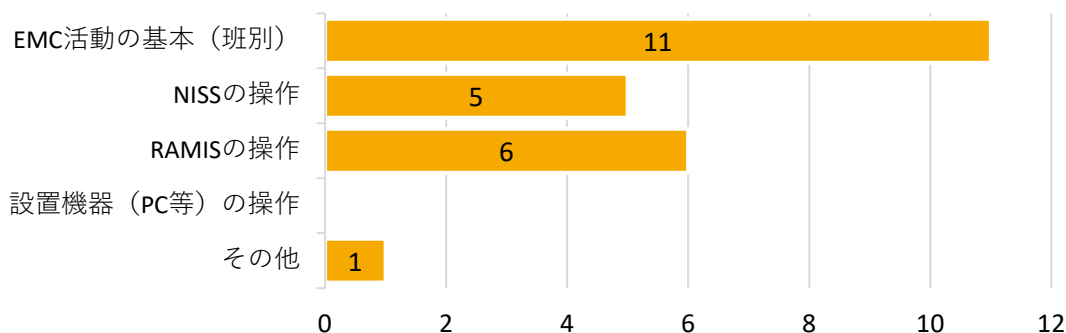


自由記述

- ・ 沈着中の動きについて、適宜情報共有されておりよかった。
- ・ 特になし。地震発生後の現地との連絡が少しスムーズではなかった。
- ・ 演習が間に合わず、指示書を出すことができなかったため。
- ・ 放出後のモニタリングの動きを理解することができた。
- ・ 基本的な流れについて理解が進んだ。
- ・ 指示書作成時の課題に気づきがあったため。
- ・ 配付資料の到着が遅い。
- ・ コントローラーに助けられた部分が多い。次回はより迅速にできればと思う。

4. eラーニングについて

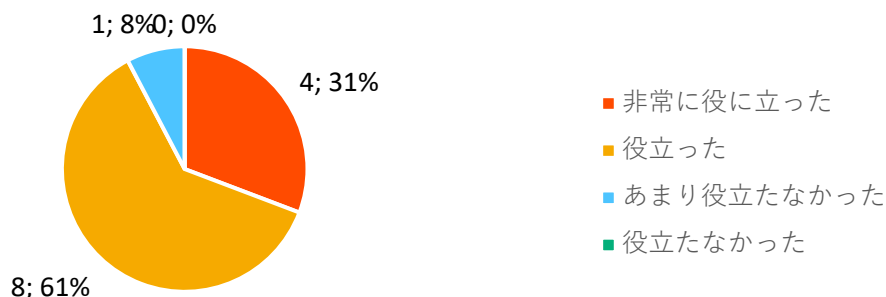
1) EMC活動訓練について、拡充してほしいコンテンツを教えてください。



その他の意見

- ・ 現地での活動 (分析回収班など)

2) eラーニングは、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



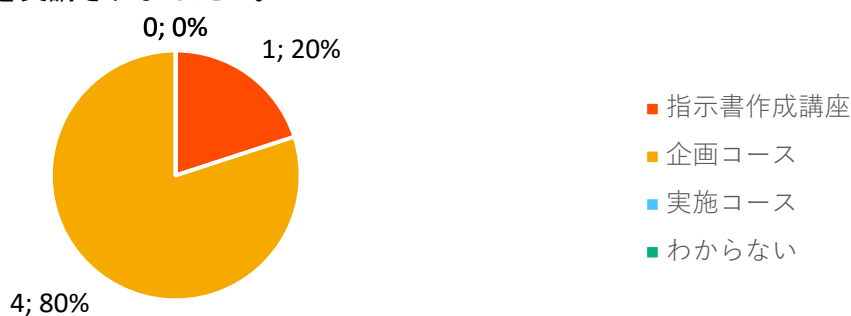
自由記述

- ・ 非常に役に立った；eラーニング単独では不安もあったが、訓練を終えてみると、予習としてとても役に立った。
- ・ 役立った；人数規模や役割分担について、より詳細に記載してほしい。
- ・ 役立った；放射線の基礎は、空気カーマなど着任直後ではよくわからない、むしろ不要なコンテンツもあった。レベル別に分けた方がよい。

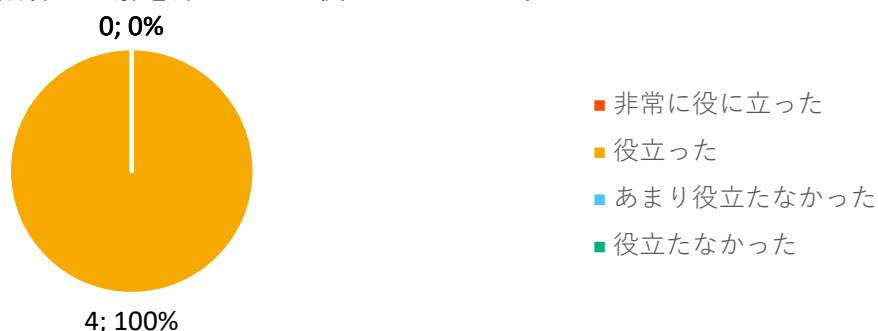
- ・ 役立った；eラーニングの内容で事前にやったところを実際に操作することで、理解に役立った。
- ・ あまり役立たなかった；分量が多いわりに、本訓練と同じ内容である。事前学習とは基礎的な学習であってしかるべき。もう少し内容をセーブしてほしい。解説ビデオがよいかもしれない。

5. 実践演習（オンライングループワーク）について

1) どのコースを受講されましたか。



2) 実践演習は、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



受講コース別の回答

受講講座	非常に役に立った	役立った	あまり役立たなかった	役立たなかった	回答数合計
指示書作成講座	0	0	0	0	0
企画コース	0	3	0	0	3
実施コース	0	0	0	0	0
わからない	0	0	0	0	0

自由記述

- ・ 役立った；以前受講した内容では臨機応変な対応までは行っていなかったもので、今回の訓練で理解がより深まった。【受講コース：指示書作成講座】
- ・ 役立った；実際は測定分析班として活動するものの、EMC活動の流れがよくわかった。【受講コース：企画コース】

6. 訓練全般に関する意見・要望

- ・ 次年度も同様に訓練していただきたい。
- ・ 事前学習資料が用意されている点は非常に良いと思います。ただし内容が、訓練本番で用いる内容と同じなので、経験が浅いとよくわからないと感じます。
- ・ 大まかなフロー（どんな組織がいつ立ち上がって、どのように指揮系統が整備されるか等）がわかるようにしてほしいと思います。
- ・ 事故発生からの時系列に沿ってストーリーを作り、ビデオ等にして事前学習資料に入れてほしい。

- ・ EMCと放射線班とのリンクした訓練も実施していいのではないか。
- ・ 事前にどの班に属するかわからなかった。（当日に発表した方がよりリアル感も出るかもしれないが。）
- ・ 貴重な時間を頂きありがとうございました。今後の糧にし、しっかり復習したいと思います。
- ・ 測定分析担当に放出状況の情報が入っていなかった。見落としかもしれないが、放出見込みなどはプラント班からもクロノロ情報で提供されるはずなので、実際と同じようなインプットに近づけた方がよい。
- ・ 訓練時間は1日にしてもらえるとありがたいです。（2日は長いので）
- ・ モニタの字が小さい（老眼にはづらい）
- ・ 今回のシナリオが能登半島地震を想定したものになっていた。今後も新たな場面設定や、臨機応変な対応が訓練できるものになると良いと思う。
- ・ RAMISで同一地点のマークの重なりが使いづらく改善が必要。
- ・ 可搬MPに備考（どこに置いているか等）の追記が、システムでできればと思った。
- ・ 長期になった場合、ホワイトボードのクロノロなどは、写真に撮って印刷するなどが必要かと思う。タブレット機器（複合機に接続可能）があればいいなと感じた。
- ・ NISSで、アカウントを予め明確にする必要があると感じる。また、対応が必要なものについて、対応済みのチェック機能があればいいなと思う。
- ・ 状況設定において「被ばく線量限度」の国からの指示について→関係自治体独自設定と異なる場合、協議が必要と思料する。
- ・ 今後もシナリオを充実させながら訓練の実施を継続していただきたい。
- ・ NISSでメールのがしがあるため、メール振り分け機能をつけてほしいです。
- ・ NISSやクロノロが重いかもしれませんが、wordなどのファイルを開くのが重く、おそいので、改善して頂けるとスムーズにできます。
- ・ 県で実施している訓練との連携ができればと思います。

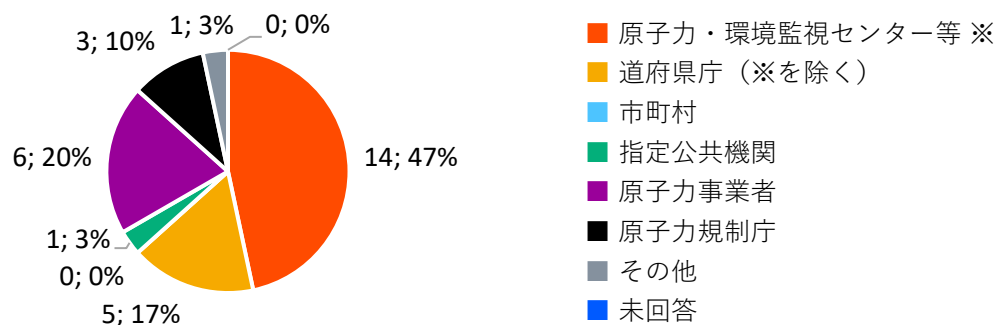
道府県K 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 30 名

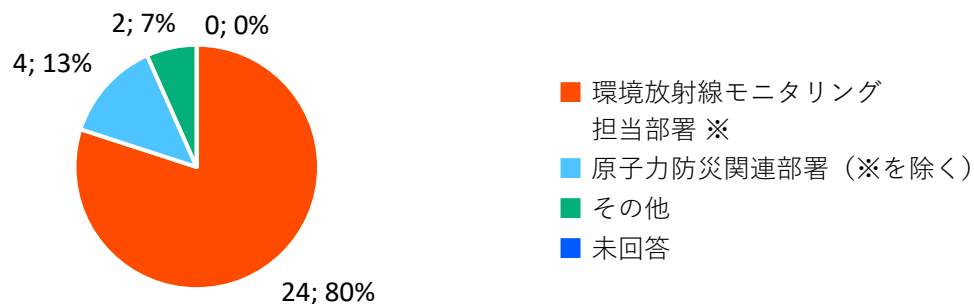
受講者数 : 35 名

1. 受講者自身について

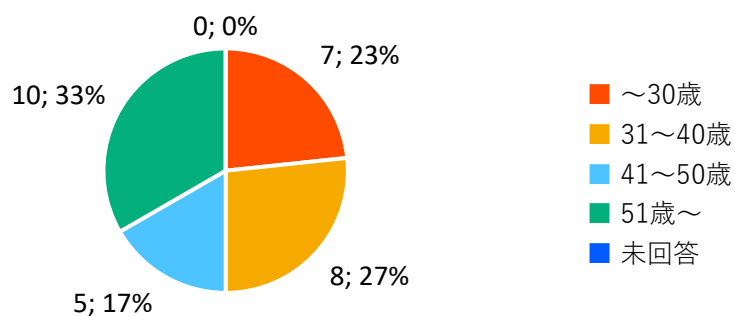
1) 所属



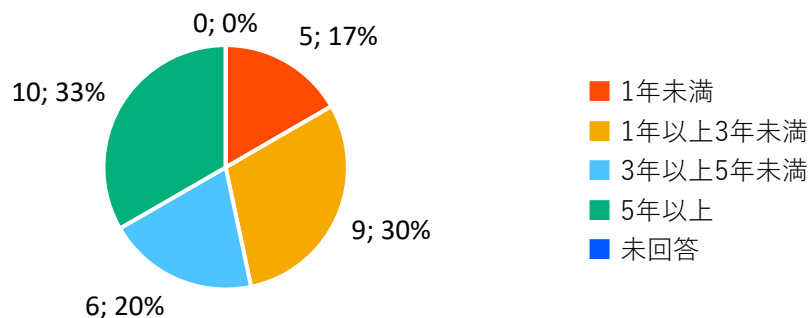
2) 所属部署の属性



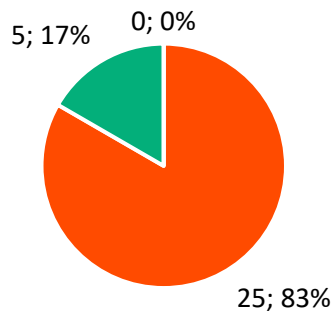
3) 年齢



4) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数

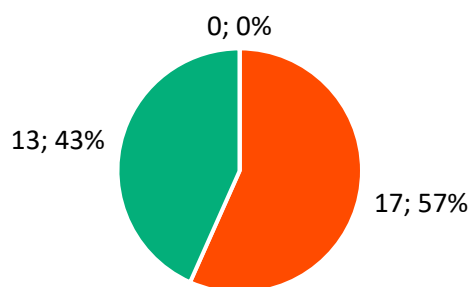


5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験



原子力防災関連研修

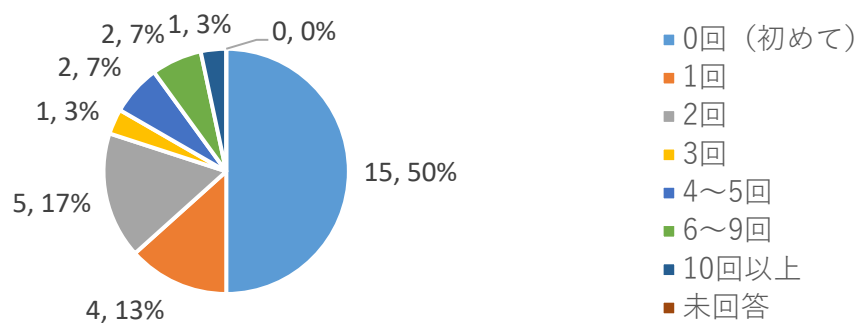
あり
なし
未回答



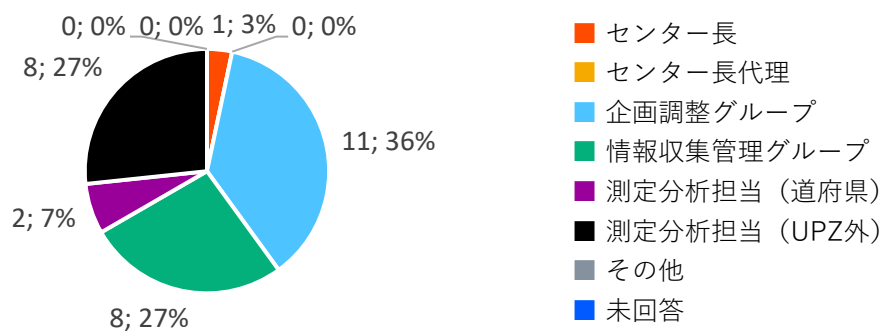
原子力防災関連訓練

あり
なし
未回答

6) EMC活動訓練参加回数

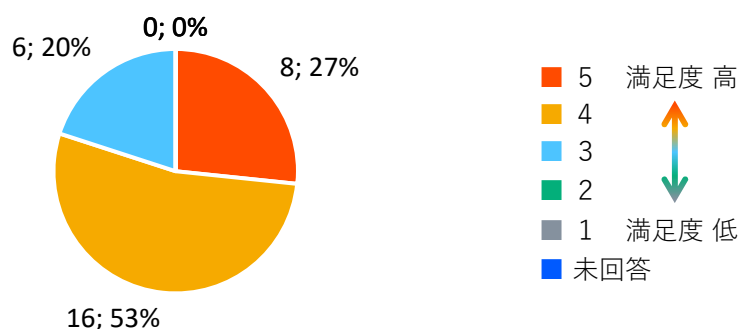


7) 机上訓練での役割



2. 本講座を受講しての所感等について

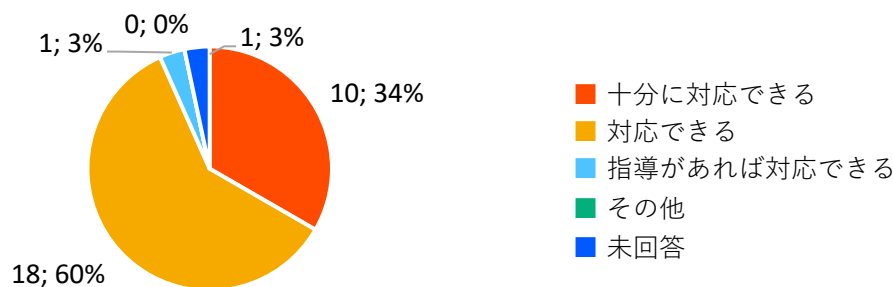
1) 満足度



自由記述

- 満足度5；プレイヤーとしての初参加
- 満足度5；実際の資機材を用いた訓練は非常に参考になった。
- 満足度5；全体の流れを把握できた。
- 満足度5；分析担当へ指示が出されるまでの流れを確認できた。
- 満足度5；機材の使用方法が分かった。
- 満足度5；原子力災害発生時の動きを予習することができた。
- 満足度5；原子力防災におけるOFCの役割は理解することができ、非常に有意義だった。
- 満足度5；初めて体験することが多く、たくさんの学びがありました。
- 満足度4；EMCの具体的な業務内容がイメージできるようになった（ERC要員として）。
- 満足度4；クロノロジーの文例集作成等はERCにおいても有用と考えられる。
- 満足度4；概ねスムーズに対応できた。
- 満足度4；初めて企画調整Grとして参加し、EMCの全体像を見ることができて良かった。
- 満足度4；EMCでの活動が具体的に理解できた。
- 満足度4；システム操作、情報集約の正確性など実対応することにより、どこに注意すべきか学ぶことができた。
- 満足度4；初回でしたが、大まかに流れをつかむことができた。
- 満足度4；問題点が分かった。対策して改善していきたい。
- 満足度4；本番を想定した訓練を実施いただき、自分たちにどのような準備が不足しているのか具体的にイメージできたため。
- 満足度3；全体の流れをつかむことはできたが、実際はどこまでEMCを開いているのかは分からなかった。
- 満足度3；2日目は指示書がなかなか来ず、何もできない時間があつた。
- 満足度3；各グループの役割を改めて認識できた。

2) 本訓練を受講してEMC活動に対応できるようになりましたか。

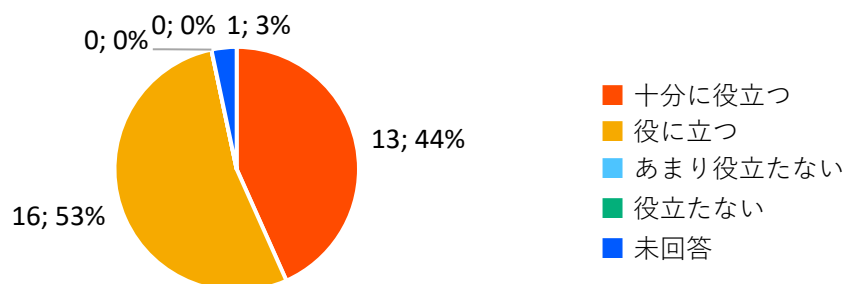


自由記述

- 対応できる；まだまだですが。
- 対応できる；立ち上げから自分の役割を実際に手を動かすことができたため。

- ・ 対応できる；1年以内であれば対応できる。期間が空くと忘れてしまう。
- ・ フォローがあれば対応できる；情報の発信という役割はこなせたと思う。ただ、応用や他の役割はまだ勉強が必要と感じた。
- ・ フォローがあれば対応できる；概ねの流れはつかめた感がありますが、どこまで身に付くか心配です。
- ・ フォローがあれば対応できる；情報収集管理グループなら対応できるが、それ以外は難しい。
- ・ フォローがあれば対応できる；NISSシステムの入力方法は完璧ではないが覚えられたので、フォローがあればできると思います。
- ・ フォローがあれば対応できる；企画調整Grは今回のみしか経験がないため、繰り返し参加して慣れていきたい。
- ・ フォローがあれば対応できる；経験が浅いため、各関係機関と連携・協力して対応したい。
- ・ フォローがあれば対応できる；指示書の内容など、指示内容があやふやで処理しきれない場合は一人で対応できない。
- ・ あまり対応できない；本訓練はスキルアップに非常に役立ったと感じているが、本訓練の中ですら浮足立ったことが何度もあり、実際の発災時はもっと不測の事態が起こる可能性があり、それらに対応できるようにするためには、今後もスキルアップが必要と感じた。
- ・ 未回答；EMC要員ではない。

3) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。

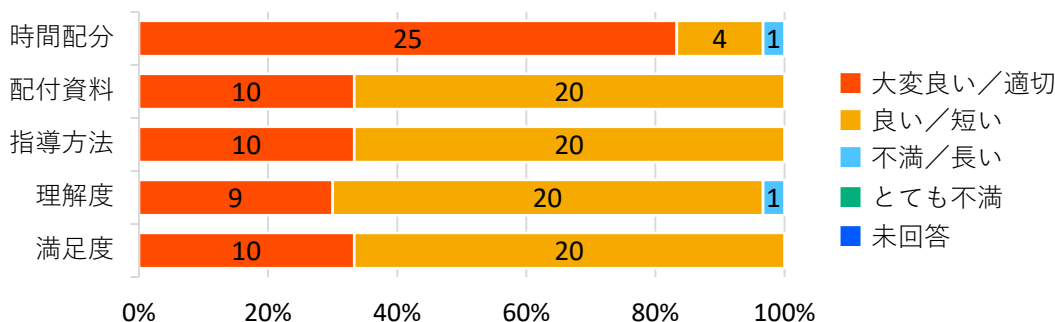


自由記述

- ・ 十分に役に立つ；放射性物質の放出～沈着までの時系列、線量の上昇について知識を得られた。
- ・ 十分に役に立つ；多くの気づきがあります。
- ・ 十分に役に立つ；RAMISを使用できたこと。
- ・ 十分に役に立つ；道府県内の体制に活用できる課題が多くあった。
- ・ 十分に役に立つ；実際に経験することができて大変有意義だった。
- ・ 十分に役に立つ；作業手順や内容が具体的に理解できた。
- ・ 十分に役に立つ；初めての訓練だったが、様々なことが知れて、非常に役に立つと思う。
- ・ 十分に役に立つ；本訓練はスキルアップに非常に役立ったと感じているが、本訓練の中ですら浮足立ったことが何度もあり、実際の発災時はもっと不測の事態が起こる可能性があり、それらに対応できるようにするためには、今後もスキルアップが必要と感じた。
- ・ 役に立つ；大量の書類についてクリップボードを利用し、分かりやすく情報共有する方法は役立つと思います。情報の発信方法や班ごとの役割分担の大切さを再認識できた。
- ・ 役に立つ；現在の業務と同じため。
- ・ 役に立つ；概ねの流れはつかめた感がありますが、どこまで身に付くか心配です。
- ・ 未回答；EMCの具体的な業務内容がイメージできるようになった（ERC要員として）。
- ・ 未回答；クロノロジーの文例集作成等はERCにおいても有用と考えられる。

3. 各プログラムの評価について

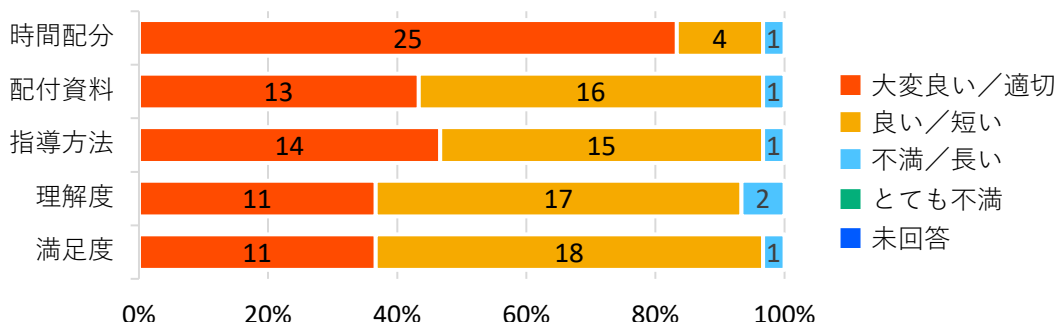
1) 操作実習 EMC設置機器（PC等）、RAMISの操作方法



自由記述

- ・ 復習になった。
- ・ ある程度、必要な情報はまとまっていた。RAMISの仕様に不満はある。
- ・ 初めてシステムの操作を行いました、何となく理解できました。RAMISだけはまだ操作する自信はありません。
- ・ 一度経験していれば、概ね対応できる。
- ・ 特に問題なし
- ・ RAMISでの分析結果入力に関する研修を希望
- ・ 機械は最終的には実際に自分の手で操作しないと使い方を覚えられないが、操作方法の説明をいただくことで、全体像やイメージをつかむのに非常に役立ったため、本システムの入口をくぐりやすくなった。
- ・ 特に不足は感じませんでした。

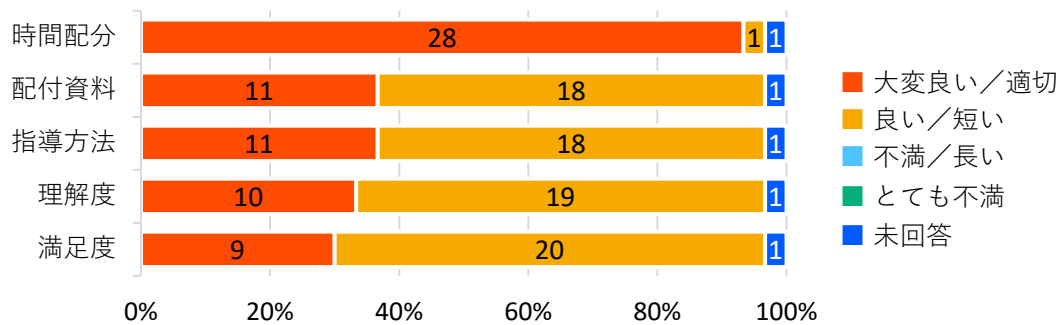
2) 操作実習 クロノロジーシステム（NISS）の操作方法、EMC情報の流れ



自由記述

- ・ 復習になった。
- ・ NISSを扱う際の注意点は理解できた。
- ・ NISSの操作について理解できた。
- ・ 一度経験していれば、概ね対応できる。
- ・ 内容は詳しく、適切
- ・ パソコンの変換が意味不明な場合がある。
- ・ 機械は最終的には実際に自分の手で操作しないと使い方を覚えられないが、操作方法の説明をいただくことで、全体像やイメージをつかむのに非常に役立ったため、本システムの入口をくぐりやすくなった。
- ・ NISSの操作は動画や資料で見ていたものの、「ぶっつけ本番」な気分でした。メールと似ているので、何となく使えましたが、送信先設定などは不明確なものがあります。

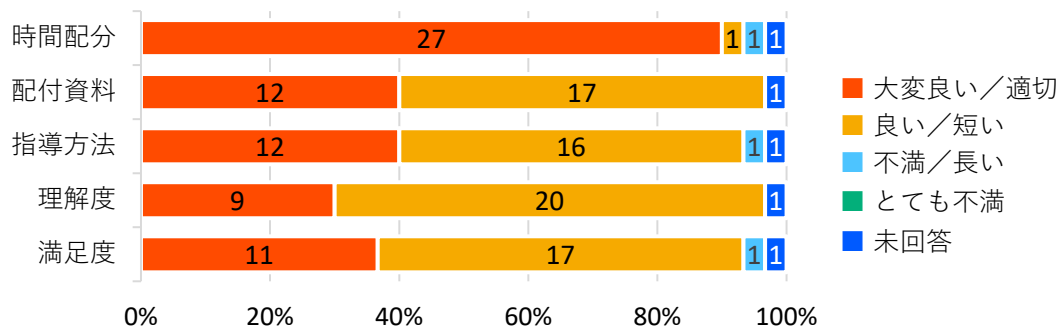
3) 机上訓練 ステップ1 施設敷地緊急事態（SE）の活動



自由記述

- ・ 指示書の作成等に係る具体的な業務内容が理解できた。
- ・ 最初の課題なので、スタンダードなもので良かった。
- ・ 情報共有を行うことができた。
- ・ 支障なく対応できた。
- ・ 補助は手間取ったが、情報伝達がスムーズに進むように習熟できました。
- ・ 仕事がきてからが駆け足で時間が足りないように感じた。
- ・ 特に不足は感じませんでした。
- ・ NISSの操作は動画や資料で見ていたものの、「ぶっつけ本番」な気分でした。メールと似ているので、何となく使えましたが、送信先設定などは不明確なものがあります。

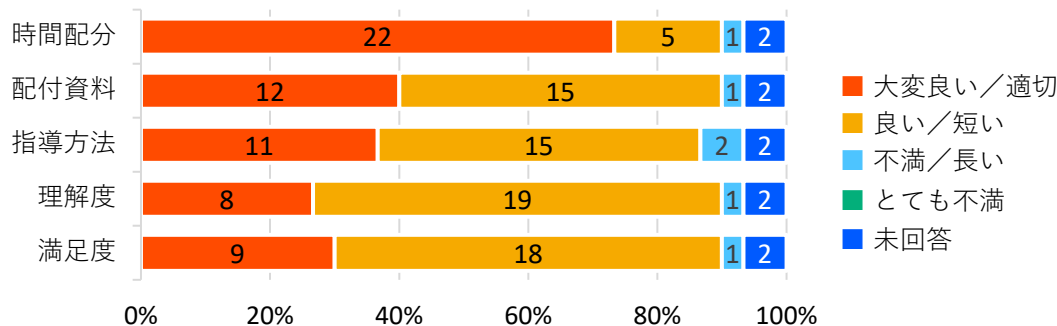
4) 机上訓練 ステップ2 全面緊急事態（GE）放射性物質放出前～放出中の活動



自由記述

- ・ 指示書の作成等に係る具体的な業務内容が理解できた。
- ・ プラントの進展が早すぎる。先のスケジュールが予測できないので、場当たり対応になる。
- ・ 情報共有を行うことができた。
- ・ 支障なく対応できた。
- ・ ERCで実施計画を変えたことは、クロノロでも書いてほしい。
- ・ ジョブローテーション等を行い、全体の習熟度が底上げされたが、作業効率は一定以上に上がらなかった（慣れたら替わる的な）。
- ・ 仕事がきてからが駆け足で時間が足りないように感じた。
- ・ 特に不足は感じませんでした。
- ・ NISSの操作は動画や資料で見ていたものの、「ぶっつけ本番」な気分でした。メールと似ているので、何となく使えましたが、送信先設定などは不明確なものがあります。

5) 机上訓練 ステップ3 全面緊急事態 (GE) 放射性物質沈着後の活動

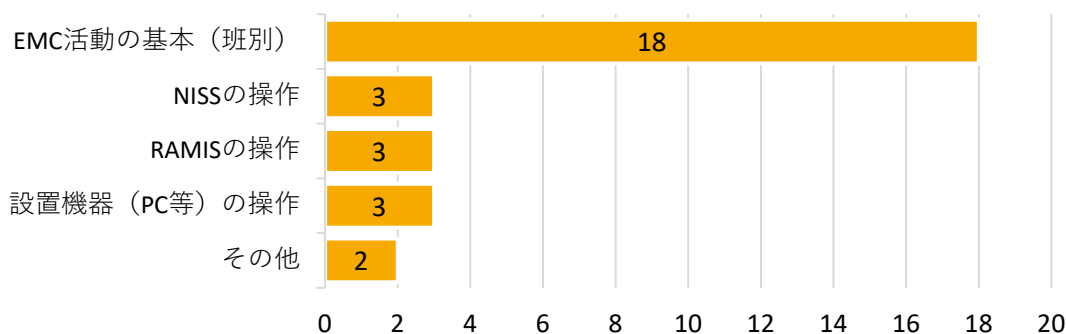


自由記述

- ・ 考慮すべき課題が多く、十分検討しながらというわけにはいかなかった。
- ・ 適切に対応できた。
- ・ 支障なく対応できた。
- ・ もう少しじっくり議論したかったです。
- ・ 活動を効率よく回す意識に欠けていた。ERCからのリクエストが急すぎるようにも感じた。この臨場感を出すのも良いが、あくまで訓練研修なので、参加者の習熟度を上げることを第一に考えるべきでは？
- ・ 時間の足りなさを感じた。シナリオ上の問題があり、測定分析側と本部側で共有されておらず、混乱した。
- ・ 走行サーベイのルート設定について、どうすべきか「答え合わせ」がなかった (20 μ S/h 超の地点やその先に行くか否か)

4. eラーニングについて

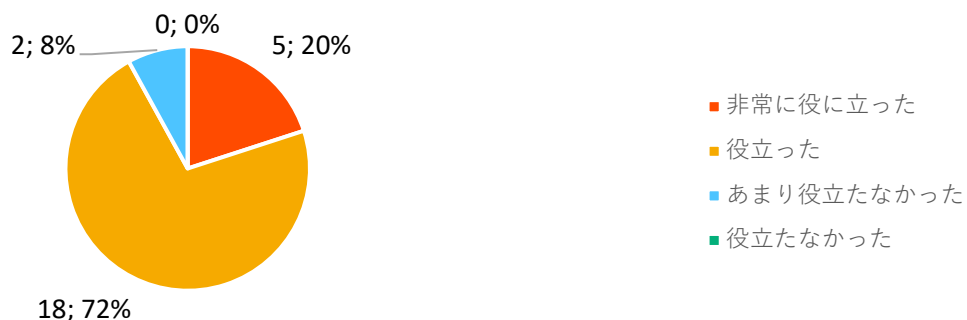
1) EMC活動訓練について、拡充してほしいコンテンツを教えてください。



その他の意見

- ・ 原発や事故の仕組み

2) eラーニングは、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



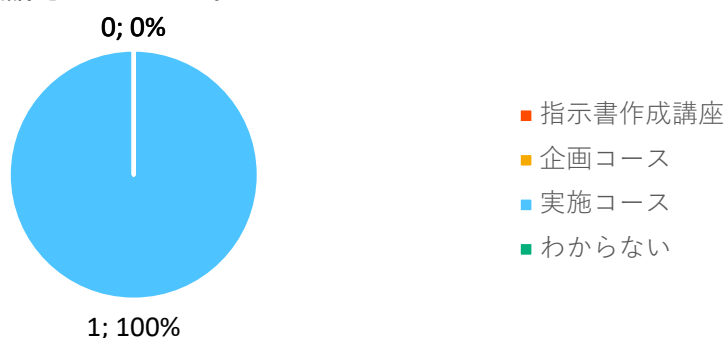
自由記述

- ・ 役立った；訓練前に業務内容がイメージできるようになった。
- ・ 役立った；ある程度イメージを持つことができた。
- ・ 役立った；全体の流れを把握できた。

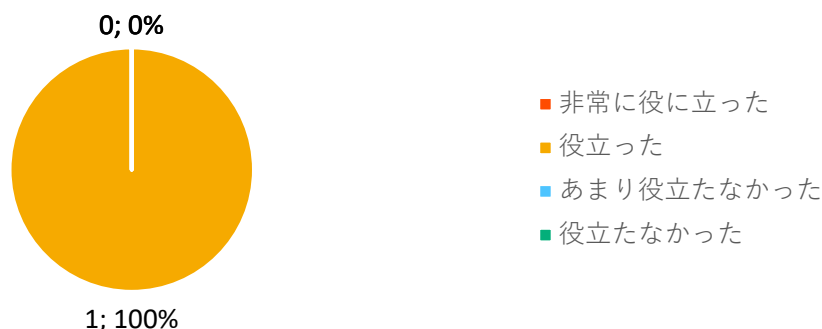
- ・ 役立った；操作に関しては実際やってみないと分からない。
- ・ 役立った；機器操作において役立ったが、具体的な機能班の役割も知りたかった。
- ・ 役立った；eラーニングは自分の好きなタイミングで受講できるため、非常にありがたいです。
- ・ あまり役立たなかった；活動そのものの判断とか検討事項が何かなど整理してもらえると助かる。
- ・ あまり役立たなかった；表面的な内容で、具体的にどういった活動をするかは伝わりづらかった。
- ・ 未回答；情報集約の際、資機材、車両、班構成などをリストアップ（エクセル表にして）して、集約すると良いと思った。

5. 実践演習（オンライングループワーク）について

1) どのコースを受講されましたか。



2) 実践演習は、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



受講コース別の回答

受講講座	非常に役に立った	役立った	あまり役立たなかった	役立たなかった	回答数合計
指示書作成講座	0	0	0	0	0
企画コース	0	0	0	0	0
実施コース	0	1	0	0	1
わからない	0	0	0	0	0
未回答	0	0	0	0	0

自由記述

- ・ なし

6. 訓練全般に関する意見・要望

- ・ プラントの情報をもう少し伝えてもらわないと計画を立てられないことがある。
- ・ 電子線量計の欠測について24.5hは長すぎないか。
- ・ 定時報のグラフの色が判別しづらい似た色がある。
- ・ 定時報で大気モニタの数値がデフォルトで出て来ない。

- ・ グラフ表示設定で絞り込みを行う際に、同じ名前の局が複数出てくる。また「県」「事業者」「電子線量計」等で別のグラフになってしまい、同じグラフに表示できない。
- ・ 設定で「測定日時」を一度でも変更すると、以降は自動設定をしてくれない。自動設定
- ・ 別のEMC訓練にも参加させていただきたいと思いました。
- ・ 定期的（年1回）に実施したい。
- ・ 私は実践演習（オンライングループワーク）を受講できませんでしたか、同じ課員が受講し、大変役に立ちました。
- ・ 自分にとってハイレベルのものであったが、非常に有意義であった。
- ・ 様々な課題が浮き彫りとなった。各人の習熟度の高い当地域において必ずしも他地域よりも効率的な活動ができなかったことは要反省事項と考えられる。
- ・ 訓練参加者は事前情報なしのブラインドで参加すべき。中途半端に事前情報を持っていたため、活動が制限された（分かっている仕込みに言及できない）。
- ・ 測定分析（道府県K・隣接県）から集約する情報をエクセルなどでフォーマットを作っておいた方がよい。情報集約グループの要員が少ないと感じた。
- ・ 仕方のないことかもしれませんが、PC・プリンターが重い。班員の人数が少ない。全体として有意義であった。
- ・ モニタなどを増設してほしい。
- ・ 情報発信のためのテンプレートを充実してほしい。
- ・ PC端末が足りないため増やしていきたい。
- ・ 指示がない時の状況が分からないため、チャットで簡単に記載してほしい（現在指示書の修正中等）
- ・ コントローラーから付与された情報（固定局電源復旧）を基にEMC側に回答した結果、EMCから根拠を問われた。コントローラーからの情報付与の際に根拠も合わせて示してほしかった。
- ・ NISSの入力にあたっては、プレビューで表示される3行で概要がつかめるように、といったコツ・お作法があるとのことですが、いざ入力する段になると忘れてしまいます。入力画面に留意点を表示出来たら良い。
- ・ 放射線に α ・ β ・ γ があって、 α 線はHe原子核～といった話は高校で習いますが、原子力発電の仕組みやいわゆる「放射能漏れ」はどのような経路で生じるかといったことを学ぶ機会がありませんので、eラーニングに含めてほしいです。

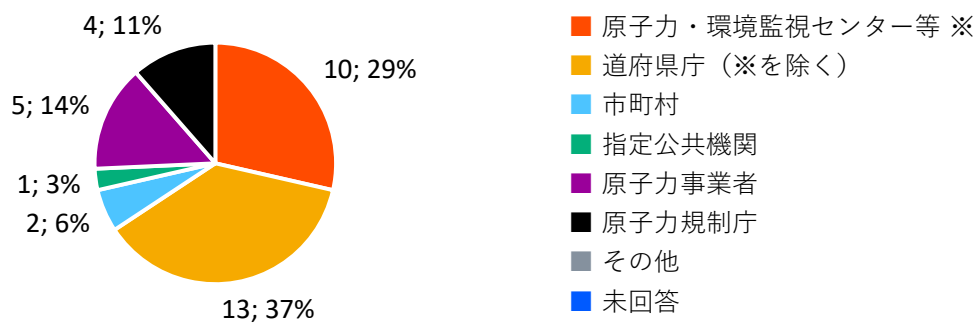
道府県L 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 35 名

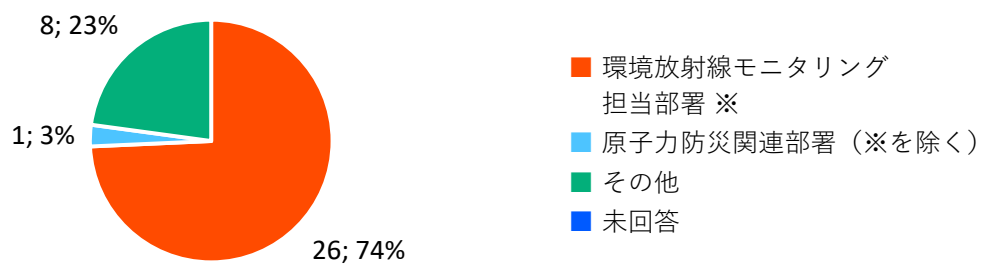
受講者数 : 39 名

1. 受講者自身について

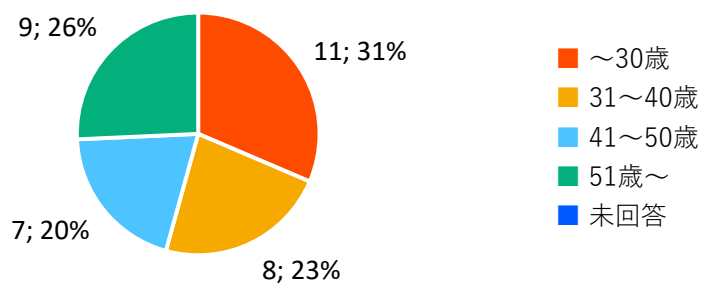
1) 所属



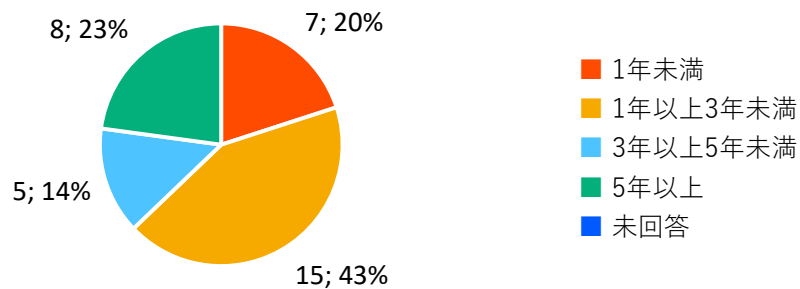
2) 所属部署の属性



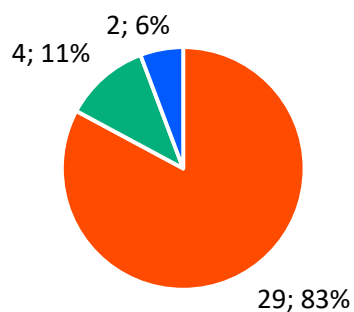
3) 年齢



4) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数

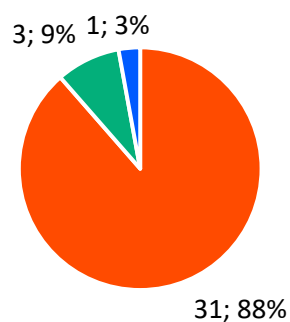


5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験



原子力防災関連研修

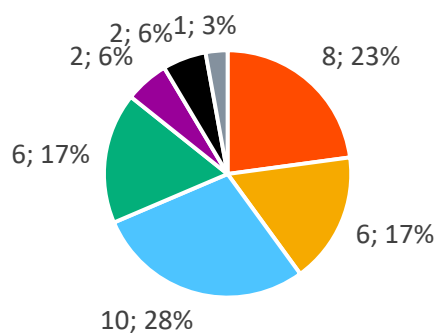
- あり
- なし
- 未回答



原子力防災関連訓練

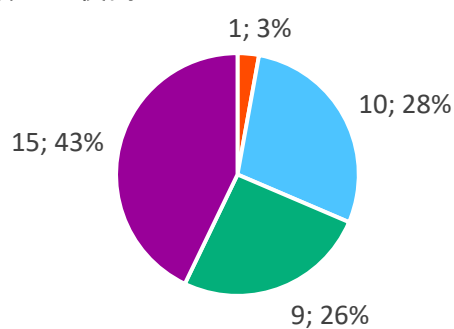
- あり
- なし
- 未回答

6) EMC活動訓練参加回数



- 0回 (初めて)
- 1回
- 2回
- 3回
- 4～5回
- 6～9回
- 10回以上
- 未回答

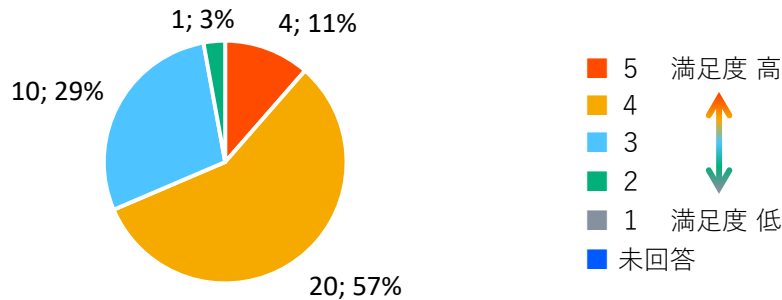
7) 机上訓練での役割



- センター長
- センター長代理
- 企画調整グループ
- 情報収集管理グループ
- 測定分析担当 (道府県)
- 測定分析担当 (UPZ外)
- その他
- 未回答

2. 本講座を受講しての所感等について

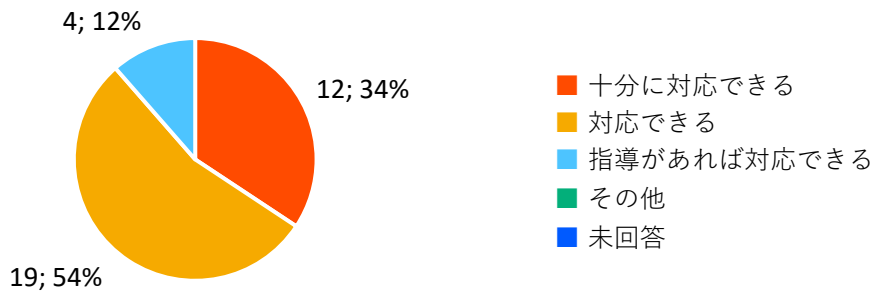
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；放射線放出前・放出中・放出後にすべきことが整理できてとてもよかった。
- ・ 満足度5；全体の動きが見えていなかったのですが、各グループの役割と情報伝達ルートがよく分かりました。何回か受講できたら、より実際動くときに迷いなく動くことができると感じました。
- ・ 満足度4；大変であったが理解を深めることができ、大変ありがたかった。
- ・ 満足度4；実際の動きを大まかに体験することができ、良い点悪い点を把握することができた。
- ・ 満足度4；適度な負荷で、分かっているつもりだったが、実際は理解が足りていなかったところをあぶり出せた。
- ・ 満足度4；班員の経験が浅く不安が多かったが、適宜講師からアドバイスを頂き、充実したものになりました。
- ・ 満足度4；前回あまり使用できなかったNISSについて、利用方法も良く理解できた。
- ・ 満足度4；いろいろな対応をもとめられるよいシナリオ訓練に参加できた。
- ・ 満足度4；自分のGの役割の把握・習熟ができたから。
- ・ 満足度4；企画調整Grでの参加は初めてだったが、ある程度こなすことができた。
- ・ 満足度4；参加者のモチベーションが高く、能率的に行動できている点は良かった。実施要領等の文書の整備も出来ており、訓練中に活用出来ていた。
- ・ 満足度4；事象の展開に沿って、各々対応ができていたと思う。
- ・ 満足度4；現在の計画の穴を把握することができた。
- ・ 満足度4；EMC訓練は少ないので昨年の内容の復習ができた。
- ・ 満足度4；これまでの訓練に含まれていなかった予想外の事象が含まれており、今後の対応を検討するきっかけになった。
- ・ 満足度4；訓練に少しずつ慣れて適切に対応できるようになったため。
- ・ 満足度4；様々な意見を共有しながら活動することができた。
- ・ 満足度3；全体的に実際に起こりうる事案などを一通り経験することができた。
- ・ 満足度3；全体の流れを知ることができた。
- ・ 満足度3；現メンバーでの実効性が確認できた。
- ・ 満足度3；自身の役割について明確に理解できたから。
- ・ 満足度3；訓練によって、具体的に何をすればよいか大まかなことはわかったが、いざ災害となったとき、対応できるか不安。
- ・ 満足度3；全体の雰囲気や課題など、体制の状況が分かった。
- ・ 満足度3；EMC活動の大まかな流れが理解できたから。
- ・ 満足度2；雰囲気をつかむことができた。
- ・ 満足度2；分からない事柄について経験の多い職員に尋ねることができた。

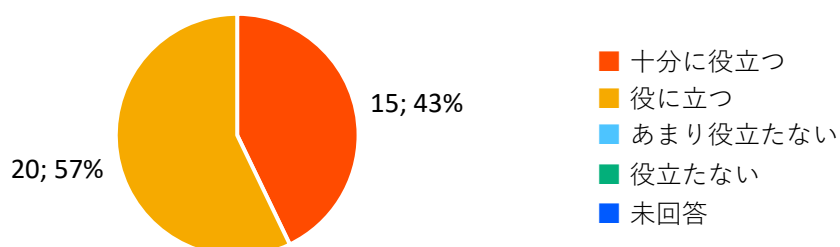
2) 本訓練を受講してEMC活動に対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ 対応できる；やるべきことの大体の理解が出来たと感じたため。
- ・ 対応できる；正直やってみないと分からないところもありますが、基本はおさえることができました。
- ・ 対応できる；情報収集管理グループであれば本訓練に参加したのでできる。
- ・ 対応できる；2回ほど訓練をうけた。
- ・ 対応できる；実践形式で訓練することで、実際の対応の流れを理解することができたため。
- ・ 対応できる；何度も訓練を繰り返すことで対応ができるようになったと思う。
- ・ フォローがあれば対応できる；まだフォローが必要だと思うが、訓練の受講前後において対応力は向上したと感じる。
- ・ フォローがあれば対応できる；より理解度をあげるように努めていきたい。
- ・ フォローがあれば対応できる；全体的に実際に起こりうる事案などを一通り経験することができた。
- ・ フォローがあれば対応できる；初めてだったので、完璧とはいきませんでした。
- ・ フォローがあれば対応できる；数年ぶりの参加であったが、対応について思い出すことができた。
- ・ フォローがあれば対応できる；EMC立上げ時、バタつく時の対応が難しいと思った。
- ・ フォローがあれば対応できる；自治体職員に頼る部分が多いので、シナリオ提示型ではなくブラインドで実施し、より対応力を高める工夫が必要と感じた。
- ・ フォローがあれば対応できる；経験年数が浅いので、フォローがあれば対応できると思う。
- ・ フォローがあれば対応できる；訓練の繰り返しにより、年々、対応力がUPできているが、有事の際には、混乱が予想され、適切なフォローが必要。
- ・ あまり対応できない；機器の操作に不慣れな為。
- ・ あまり対応できない；訓練だから準備や心づもりがあるが、本番となるとさらに様々な問題があり、対応できるようにするには、システム（NISS）や通信システムなど改善が必要と感じた。
- ・ あまり対応できない；パソコン対応のやり方があまり理解できていないから。

3) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



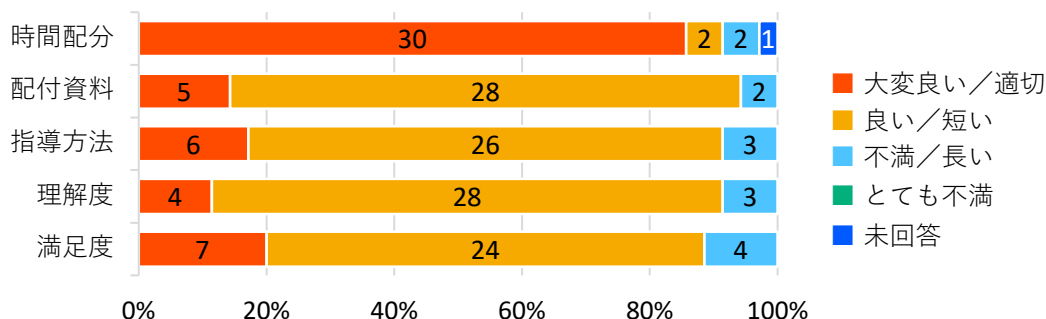
自由記述

- ・ 十分に役に立つ；今まで原子力防災における言葉の定義しか知らない状態だったが、訓練を通して言葉の意見を深く知ることができたため。

- ・十分に役に立つ；正直やってみないと分からないところもあると思いますが、基本はおさえることができました。
- ・十分に役に立つ；ラムスの使い方で知らなかった部分があったので役に立ったです。実際の事故の流れとまではいかないかもしれないが、経験できてよかったです。
- ・十分に役に立つ；モニタリングの注視に協力できた。
- ・十分に役に立つ；実践しながらで有意義なものだったと思います。
- ・十分に役に立つ；実際の活動の時に知っておくべき知識等を学ぶことができたため。
- ・十分に役に立つ；訓練で足りないことを気付くことができるので役立った。
- ・役に立つ；県のモニタリング設備についても少し理解できたから。
- ・役に立つ；勉強になった。
- ・役に立つ；異動先でも対応することがあれば率先して業務を行えるのではないかな。
- ・役に立つ；訓練の繰り返しにより、年々、対応力がUPできているが、有事の際には、混乱が予想され、適切なフォローが必要。
- ・役に立つ；国や県を含めた指示系統が理解できたから。

3. 各プログラムの評価について

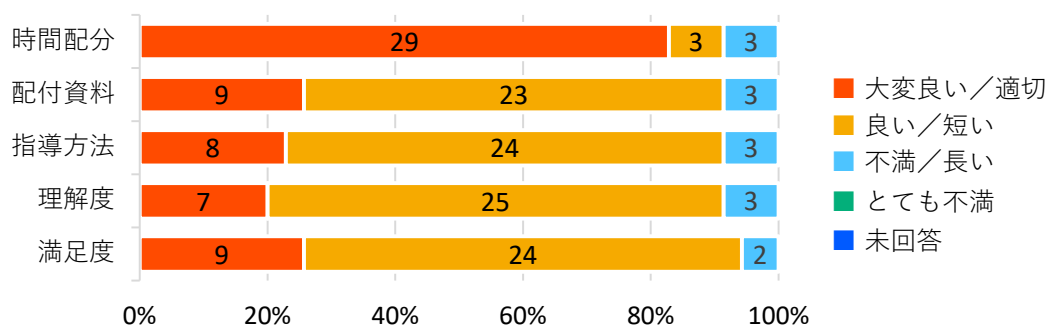
1) 操作実習 EMC設置機器（PC等）、RAMISの操作方法



自由記述

- ・訓練の中で実際に操作していないが、RAMISの役割については理解できた。
- ・マニュアルの説明だけであり、入力の練習などが行えない。
- ・実際に操作すると思い通りにならないことが多かった。ケースごとに操作手順を説明してもらう方がイメージしやすい。
- ・実践するにあたって応用的な部分（システムの使い方）の説明があった方がいいと感じました。
- ・フォルダの説明時、訓練用のフォルダを指示していたが、実際どこに格納しているかの説明も欲しいと思いました。
- ・RAMISの使用方法について、より詳しく。
- ・今回の実習では、全員に各1台PCがあったため、実際に操作ができ、理解が深まった。
- ・特に不満だと思うところが無かったから。
- ・機器等の操作方法を十分理解できた。
- ・理解しやすかった。
- ・RAMISの説明がもう少し長くても良いと思う。
- ・事前のeラーニング受講で理解しやすかった。
- ・非常にわかりやすかった。

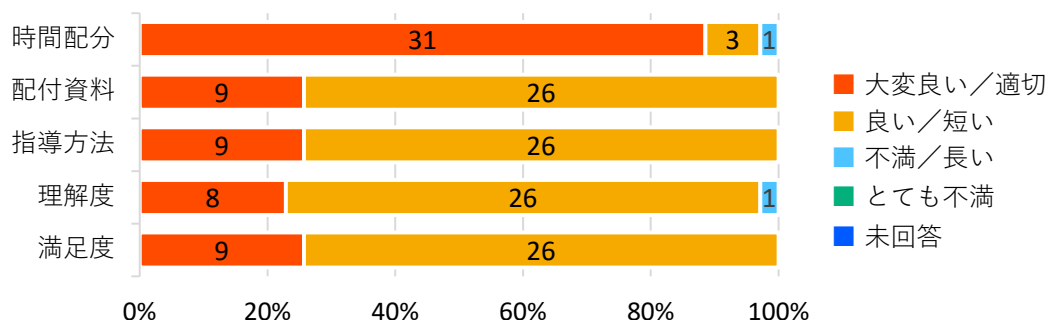
2) 操作実習 クロノロジーシステム（NISS）の操作方法、EMC情報の流れ



自由記述

- ・ NISSについても操作していないが、役割については理解できた。
- ・ 操作性が悪いのが不満。特にあて先を探すのが大変。
- ・ 台数と時間が限られるので、限界があるかと思うが、操作方法の理解のため、実際にシステムを操作する時間がもう少しあればいいと思った。
- ・ 使い心地は満足ではないが、指導で分からないところはなかった。
- ・ 実践するにあたって応用的な部分（システムの使い方）の説明があった方がいいと感じました。
- ・ ラミス同様にID・PWの格納場所を示した方がよいと思いました。
- ・ 説明がかけ足で理解するのがやや難しかった。
- ・ 引用資料に不備があることが講義において明らかとなった。事前のチェックでこの様な漏れのないよう留意してもらいたい。
- ・ 全員が操作し、テストメールまで送信できたことはよかったと思う。
- ・ 特に不満だと思うところが無かったから。
- ・ クロノロジーシステムの使い方を具体的に理解することができた。
- ・ EMC情報の流れが長く感じた。
- ・ 事前のeラーニング受講で理解しやすかった。
- ・ 他県のホワイトボードの使い方紹介が役に立った。

3) 机上訓練 ステップ1 施設敷地緊急事態（SE）の活動

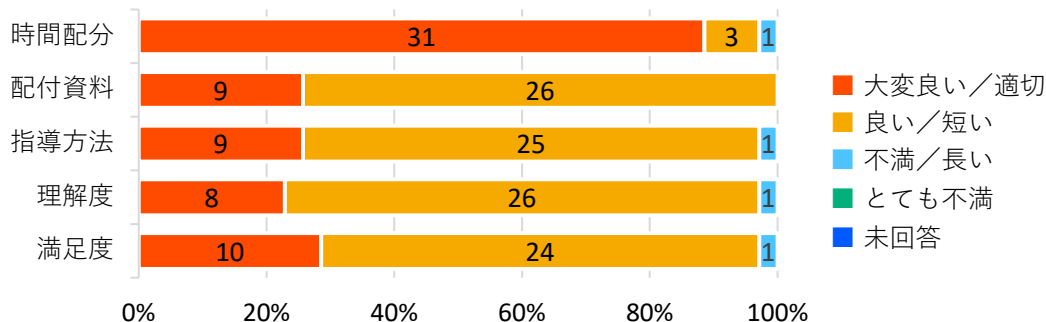


自由記述

- ・ 班員と協力し合い、情報を正確に伝達できた。
- ・ 自身の役割について理解を深めることができた。
- ・ 適度な緊張感だったと思う。
- ・ 参集の立ち上げは実際もっと人数少なくなるとは思いますが、訓練でスムーズにできていたと思いました。
- ・ 小人数の初期対応が非常に工夫で頑張って乗り切った感があった。
- ・ EMC立上げ時の自治体との情報共有に時間がかかった感あり。
- ・ はじめは時間がタイトで圧縮したかたちになっているので、バタバタしてしまっていた。
- ・ 要員の参集時間をずらし、最初動は小人数での対応となった。実際にも想定されることなので、よい経験になった。
- ・ 特に不満だと思うところが無かったから。

- ・ 実際には職員が遅れて到着することも想定に入っていたので、新たな課題の抽出ができた。
- ・ 緊張感のあるタイムラインで活動することができた。

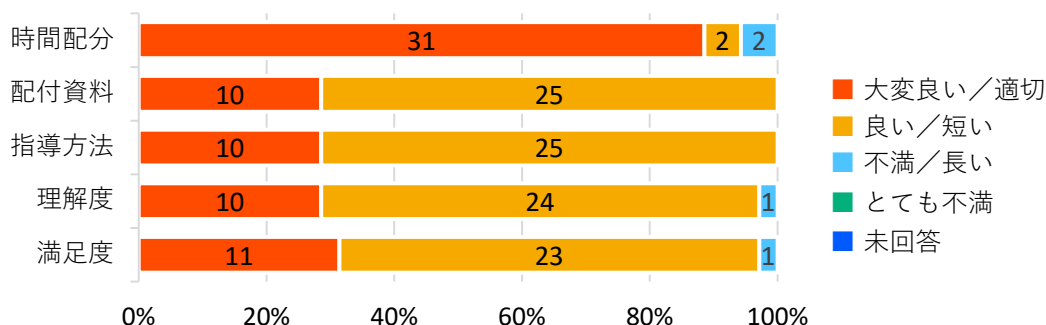
4) 机上訓練 ステップ2 全面緊急事態（GE）放射性物質放出前～放出中の活動



自由記述

- ・ 刻々と変わる状況の中で、声をかけ合いながら訓練を進めることができた。
- ・ 自身の役割について理解を深めることができた。
- ・ 今後の展開を先読みしていくことで、満足度が高まった。
- ・ 情報共有や、議論もスムーズでよかったです。
- ・ 隣接県離島の大気モニタ対策は非常に臨機応変で良好事例だった。反面、電話で伝えた内容が誤解されていたのは残念だった。
- ・ ラミスで空間線量率の上昇も見ながら活動できた。
- ・ 実際の測定分析担当の活動内容が理解できた。

5) 机上訓練 ステップ3 全面緊急事態（GE）放射性物質沈着後の活動

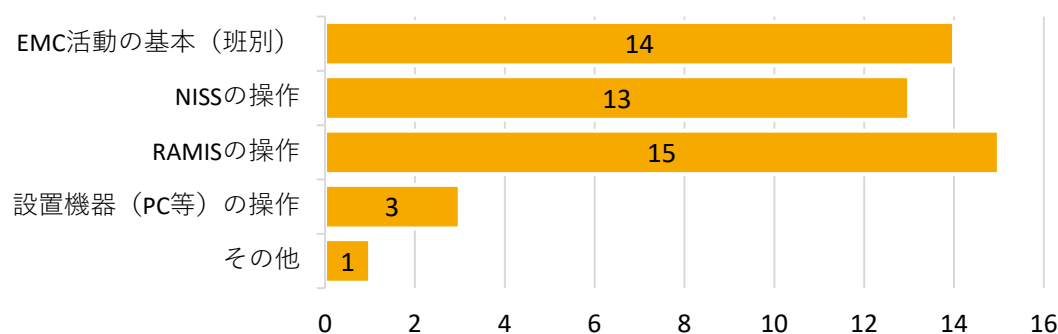


自由記述

- ・ 水・土などについて限られた人員で効率よく分析・採取が実施できるよう配置を工夫できた。
- ・ 大変有意義であった。特に指示書が連続で発出されたのは大変であったが、訓練としては有効であったと思う。
- ・ コントローラーから屋外作業要員の安全管理など指示書以外で気をつけなければならないポイントの指摘が都度あり、勉強になった。
- ・ 測定分析担当のやれることが一気に増え、充実していた。
- ・ 走行ルートの検討で少し時間がかかっていましたが、よく議論していたので、実際にもうまく連携できるのではと思いました。
- ・ 指示書作成中に事態が変わるという状況でどうするか考えることができた。
- ・ 沈着後の走行ルート検討等、優先順位を考えて小分けに指示書を発出したのは良かった。隣接県の指示書が検討できておらず残念だった。
- ・ 訓練の時間が限られているため、仕方がないがやはり時間内に対応が必要な項目が多く、対応が困難であった。
- ・ 特に不満な点が無かったから。
- ・ 指示書の出し方について改めて検討しておくべき事項が分かった。
- ・ 体制作りが出来ていないことも多く、課題が多い。

4. eラーニングについて

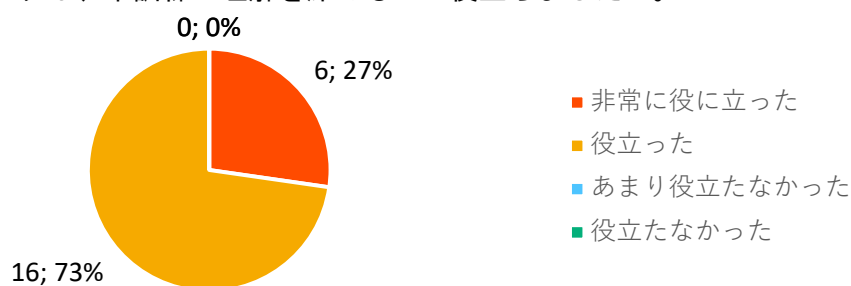
1) EMC活動訓練について、拡充してほしいコンテンツを教えてください。



その他の意見

- ・ 屋外活動の対応（養生等）

2) eラーニングは、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。

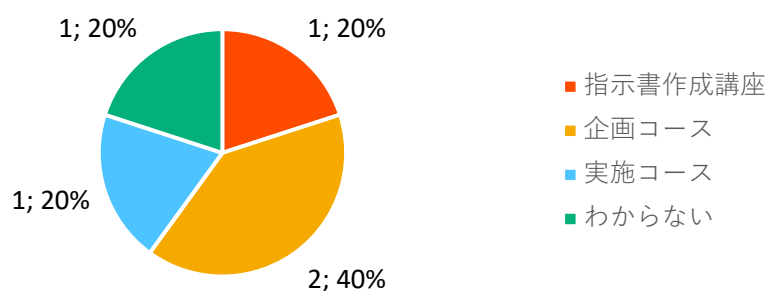


自由記述

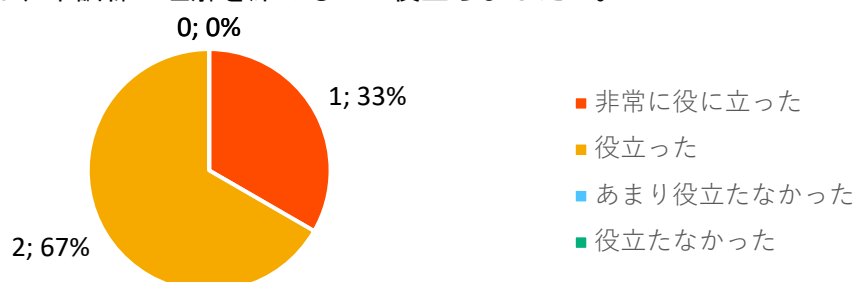
- ・ 非常に役に立った；役割のイメージが事前に確認できてよかったです。
- ・ 役立った；EMC活動について事前に学習することで、スムーズに訓練に参加できた。
- ・ 役立った；活動訓練の実践で、本ラーニングの内容を頭に入れながら活動できた。

5. 実践演習（オンライングループワーク）について

1) どのコースを受講されましたか。



2) 実践演習は、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



受講コース別の回答

受講講座	非常に役に立った	役立った	あまり役立たなかった	役立たなかった	回答数合計
指示書作成講座	1	0	0	0	1
企画コース	1	1	0	0	2
実施コース	1	0	0	0	1
わからない	0	0	0	0	0

自由記述

- ・ 非常に役に立った；異なる自治体職員同士の知見の共有、認識のすり合わせを行えるだけでも十分意義がある。【受講コース：指示書作成講座／企画コース／実施コース】
- ・ 非常に役に立った；国の方針等についてもこの機会に伝えて、全国的な頭そろえが出来ると有難い。【受講コース：指示書作成講座／企画コース／実施コース】

6. 訓練全般に関する意見・要望

- ・ 座学では理解できているようでできていないということを、体と頭を使って訓練してみても改めて感じました。
- ・ このアンケートを電子化していただけないでしょうか？もう少しじっくり回答できると思います。紙も節約できますし。
- ・ 訓練は十分満足していますが、パソコンが2台だと仕事にならない強く感じました。
- ・ 資料によって初日の終了時間が違っており、終了時間ギリギリの報告をどうするか迷いましたので、次回からは整合性を図ってください。
- ・ 昨年、初めてEMC活動訓練に参加しましたが、昨年の経験も活かしつつ、今回NISSについての利用方法を学ぶことができました。
- ・ 実際は測定分析班のため、今回の経験が活きるかは不明ですが、同じ自治体の班員にも共有し、今後の活動に活かせればと思います。
- ・ 使用できなくなった備品は更新して下さい。
- ・ PCを増やして下さい。作業効率が悪すぎる。
- ・ ホワイトボードのマジックの管理をお願いします。
- ・ 今回、隣接県拠点で参加者が多かったが、OFC内に疑似拠点を作成して、全員OFC内で参加してもらう方が研修効率が高いと期待される。
- ・ 規制事務所OBの方が参観者として参観されていたが、少し中に入りすぎで要員に話しかけていた。見学するだけにいただいたほうがいいのかと思います。
- ・ 道府県防災訓練前に実施することで、訓練前の練習ができてよかった。
- ・ 資機材の充実が望まれる。
- ・ 地震発生から原発の電力喪失に至るまでの活動について、一連の流れを理解することができた。

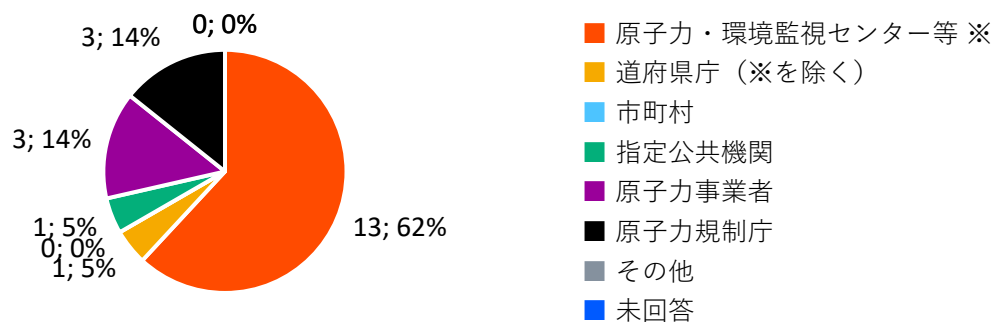
道府県M 受講者アンケート集計結果

回答者数 : 21 名

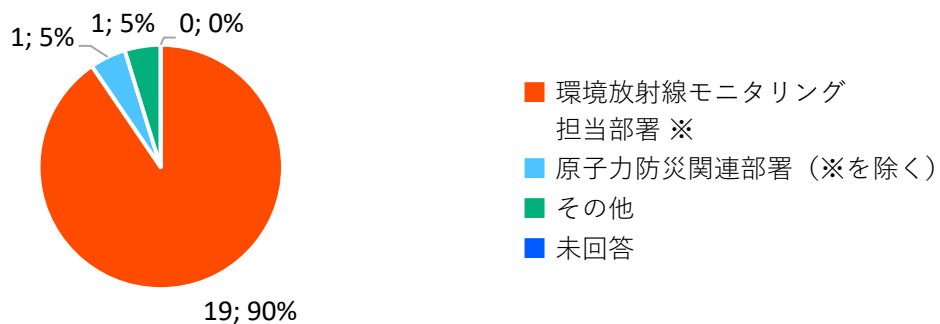
受講者数 : 23 名

1. 受講者自身について

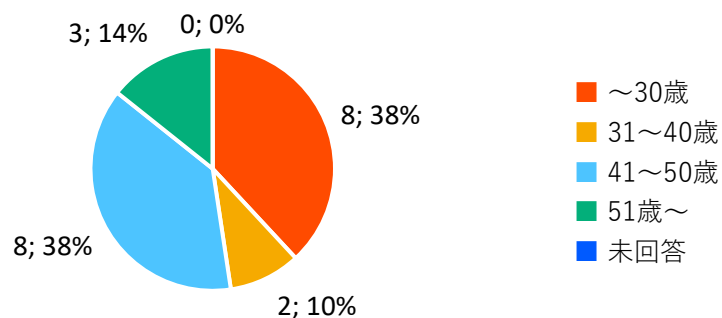
1) 所属



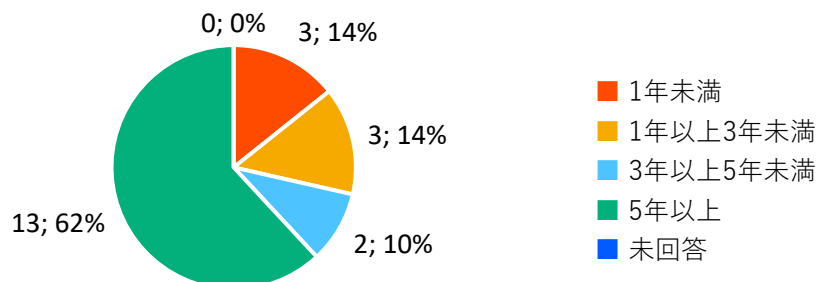
2) 所属部署の属性



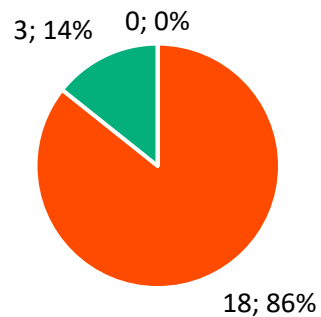
3) 年齢



4) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数

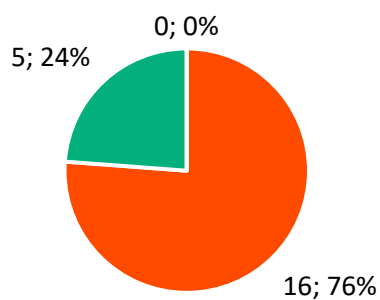


5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験



原子力防災関連研修

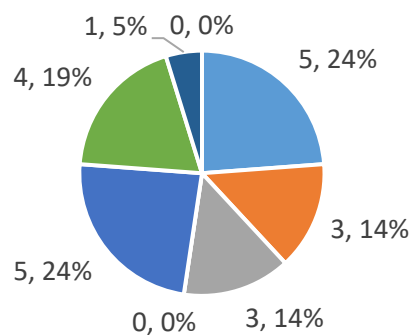
あり
なし
未回答



原子力防災関連訓練

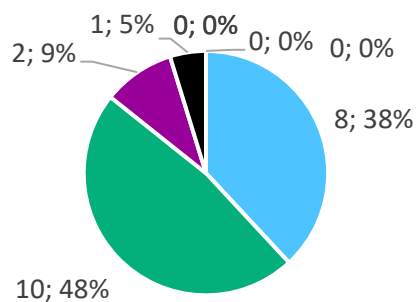
あり
なし
未回答

6) EMC活動訓練参加回数



0回 (初めて)
1回
2回
3回
4～5回
6～9回
10回以上
未回答

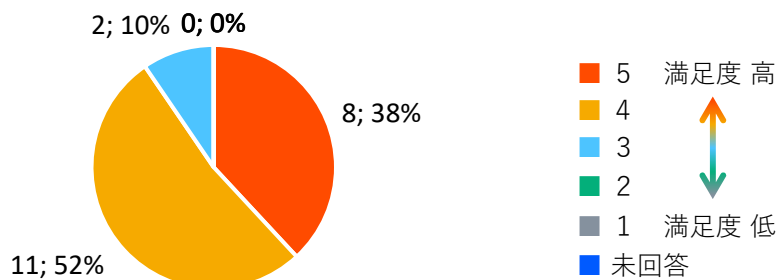
7) 机上訓練での役割



センター長
センター長代理
企画調整グループ
情報収集管理グループ
測定分析担当 (道府県)
測定分析担当 (UPZ外)
その他
未回答

2. 本講座を受講しての所感等について

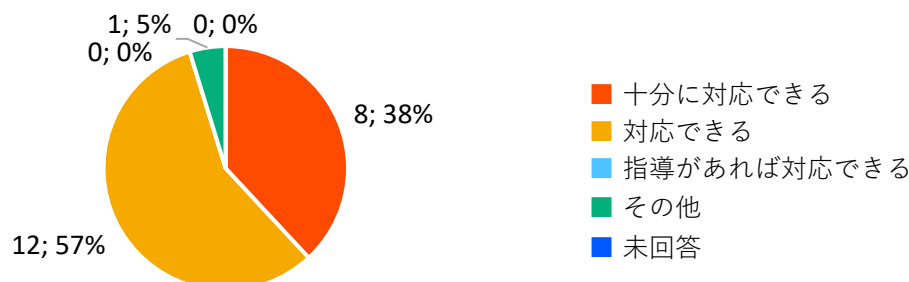
1) 満足度



自由記述

- ・ 満足度5；実際のEMCの流れについて、要員の一人として訓練に参加することによってイメージを詳細につかむことができたから。
- ・ 満足度5；様々なプロセスを知ることができた。
- ・ 満足度5；人事異動などで3、4年ぶりに参加しましたが、最新の運用方法を学んだり、復習する機会として役立ったと感じており、継続的・定期的に受講することも重要だと思いました。
- ・ 満足度4；実動内容を確認することができた。
- ・ 満足度4；NISS、RAMISの操作方法を理解することができた。
- ・ 満足度4；様々な想定が盛り込まれ、色々と考えさせられる訓練であった。
- ・ 満足度4；ただEMC各班の具体的な業務内容や流れなどを学ぶ時間をもう少し（もう半日程度）とっていただきたい。
- ・ 満足度4；臨機応変に対応するトレーニングをして役立った。
- ・ 満足度4；初めての参加であり、EMC活動の流れを知ることができたため。
- ・ 満足度4；真剣に取り組んでできていた。
- ・ 満足度4；自分はOFC放射線班の要員なので、カウンタパートであるEMC情報管理Gが同班に対して何を求めるかを把握するのが目的だったが、だいたい達成できた。
- ・ 満足度4；EMC測定分析担当として実施業務の概要を把握できた。
- ・ 満足度3；初めての参加でしたが、チーム内で連携していたと思う。
- ・ 満足度3；短い時間でしたが、こういった訓練を行うことにより、技術が維持されると感じた。

2) 本訓練を受講してEMC活動に対応できるようになりましたか。

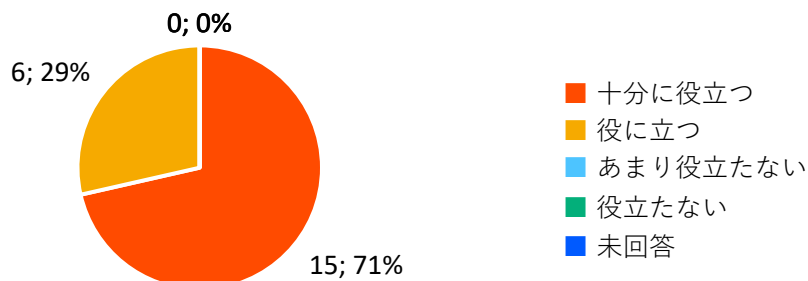


自由記述

- ・ 対応できる；一連の流れを理解できたため。
- ・ フォローがあれば対応できる；繰り返すことで定着させていけると感じた。
- ・ フォローがあれば対応できる；定期的にこういった訓練を行っていくことが大事だと感じた。

- ・ フォローがあれば対応できる；測定分析担当として、原子力センターにて活動していましたが、ビデオ通話によりOFG側の動きもいづらかイメージすることができました。
- ・ フォローがあれば対応できる；まだ参加の回数が少ないので、少し不安がある。
- ・ 対応できない；参加前よりは大幅に知見が増えたものの、指示書の作成など一度の訓練だけでは難しい作業が数多くあると感じた。

3) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。

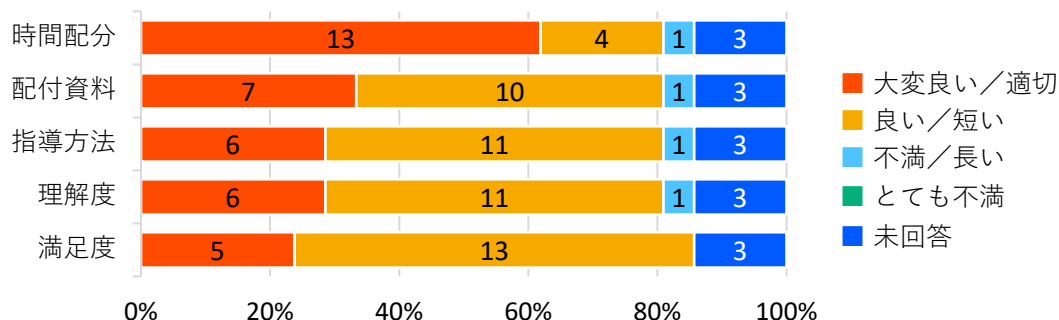


自由記述

- ・ 十分に役に立つ；環境放射線モニタリングに携わる者として、緊急時モニタリングについての理解を深めることは業務に非常に役立つと感じた。
- ・ 十分に役に立つ；普段はERC要員なので、EMCの仕事を知ることによって原子力災害対応への理解が深まった。
- ・ 十分に役に立つ；普段の業務では、あまり味わえない内容だったので、貴重な経験であった。
- ・ 十分に役に立つ；実際に全ての班の動きを把握できたから。
- ・ 十分に役に立つ；測定分析担当での参加が初めてだったため、理解が深まりました。

3. 各プログラムの評価について

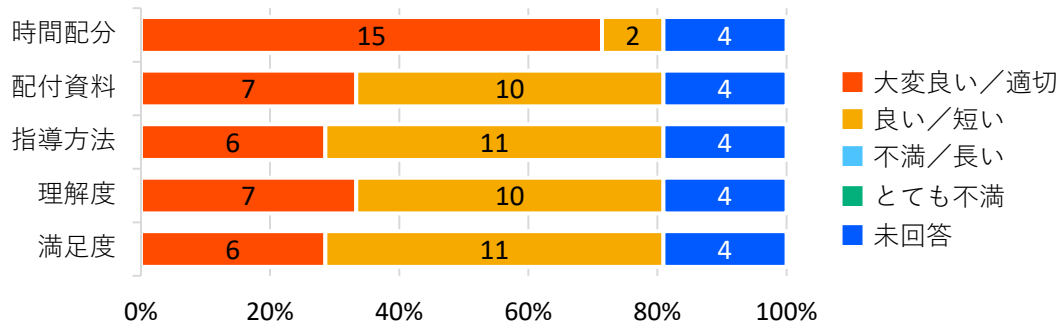
1) 操作実習 EMC設置機器（PC等）、RAMISの操作方法



自由記述

- ・ 機器の基本的な使用方法等についても、訓練から長い期間が空くと、かなり忘れていた部分があるので、もう一度確認できて良かった。
- ・ EMCの具体的な動きに係る座学を充実してはどうか。
- ・ 明確で分かりやすかった。
- ・ 経験者が多かったのが良かったが、軽く実習したかった。
- ・ RAMISにおける測定データの承認手続きがうまく進まなかったもので、実習でも具体的な手順を扱っていただければと思いました。一方で、役割によって閲覧・入力・承認など主に使用する機能は異なるため、個別に指導できるかどうかという難しさもあると思います。

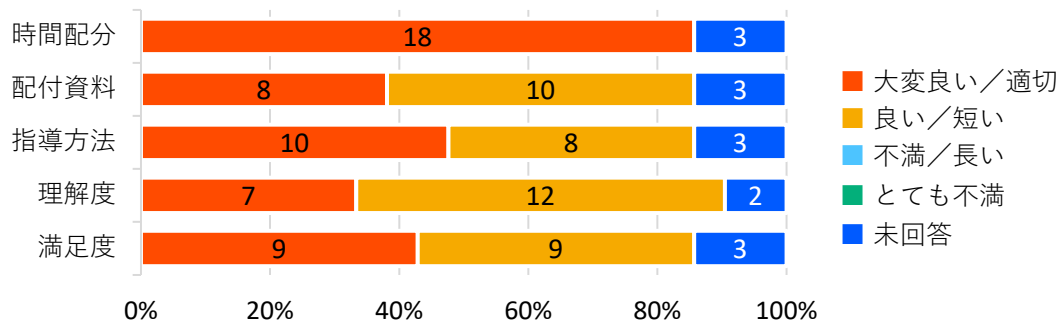
2) 操作実習 クロノロジーシステム（NISS）の操作方法、EMC情報の流れ



自由記述

- ・ いくつか例を示して説明していただけたと、机上訓練にスムーズに入れたと感じた。
- ・ 経験者が多かったのが良かったが、軽く実習したかった。
- ・ RAMISによるデータ共有、妥当性確認の流れも理解を図る必要があると感じました。

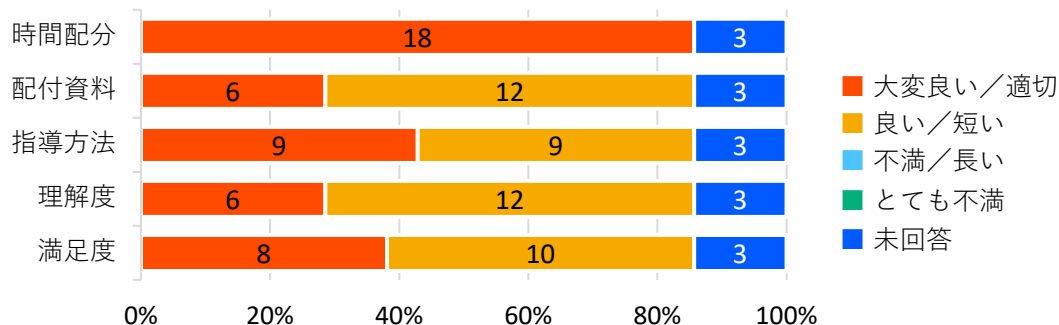
3) 机上訓練 ステップ1 施設敷地緊急事態（SE）の活動



自由記述

- ・ 初動の部分の動きについて、少し混乱する部分があったが、センター長やグループ長の適切な指示により、問題なく対応できたと考える。
- ・ 4)、5) も同じだが、1つの事象や入ってくる情報により、次の作業イメージをすることが大事だと感じた。

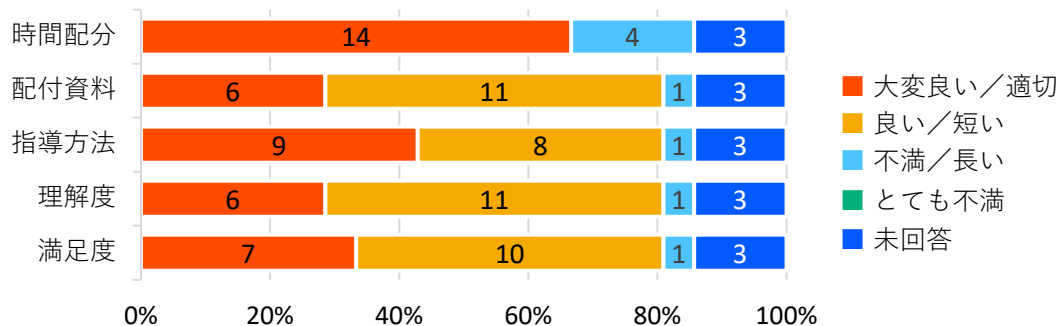
4) 机上訓練 ステップ2 全面緊急事態（GE）放射性物質放出前～放出中の活動



自由記述

- ・ なし

5) 机上訓練 ステップ3 全面緊急事態 (GE) 放射性物質沈着後の活動

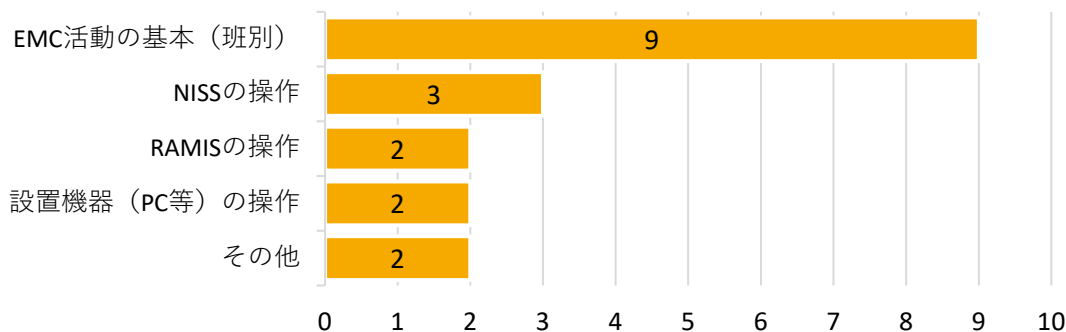


自由記述

- ・ 企画調整グループの指示書作成を担当していたが、走行サーベイ結果を受けて、UPZ外のモニタリングで指示書を作成等したが、全体的にやることが少なくなった
- ・ モニタリングチームの活動状況をEMCで把握するのが難しかったため、積極的に情報を取りに行く姿勢が必要だと感じた。
- ・ 付与情報が少なく、あまり動きがない。
- ・ 疑わしい測定結果が届いたりして、充実した訓練でした。

4. eラーニングについて

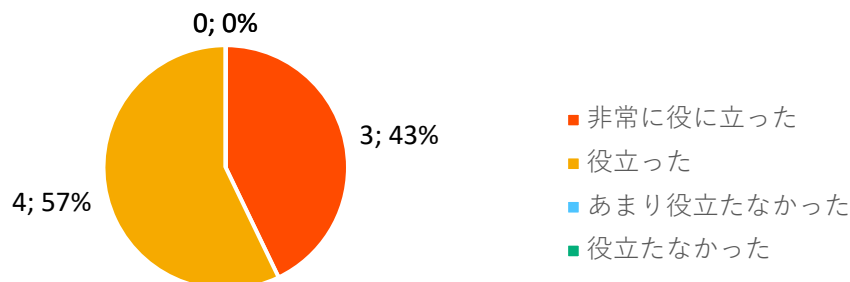
1) EMC活動訓練について、拡充してほしいコンテンツを教えてください。



その他の意見

- ・ 役割や業務の流れ
- ・ EMC活動の基本 (各班別) で1時間で実際の時系列を模擬した動きを勉強したい

2) eラーニングは、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



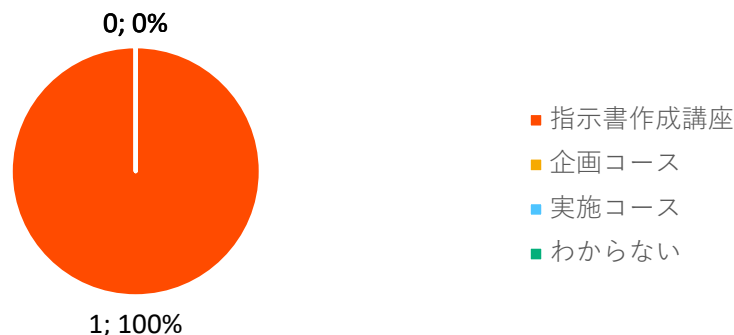
自由記述

- ・ 十分に役に立つ；環境放射線モニタリングに携わる者として、緊急時モニタリングについての理解を深めることは業務に非常に役立つと感じた。
- ・ 十分に役に立つ；普段はERC要員なので、EMCの仕事を知ることによって原子力災害対応への理解が深まった。
- ・ 十分に役に立つ；普段の業務では、あまり味わえない内容だったので、貴重な経験であった。

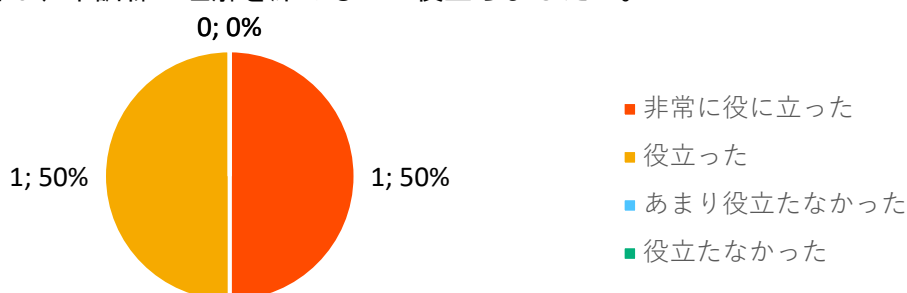
- ・十分に役に立つ；実際に全ての班の動きを把握できたから。
- ・十分に役に立つ；測定分析担当での参加が初めてだったため、理解が深まりました。

5. 実践演習（オンライングループワーク）について

1) どのコースを受講されましたか。



2) 実践演習は、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



受講コース別の回答

受講講座	非常に役に立った	役立った	あまり役立たなかった	役立たなかった	回答数合計
指示書作成講座	0	1	0	0	1
企画コース	0	0	0	0	0
実施コース	0	0	0	0	0
わからない	0	0	0	0	0

自由記述

- ・ なし

6. 訓練全般に関する意見・要望

- ・ 机上訓練は大変実践的な内容で役立った。班別の具体的な業務内容についても説明があればより良いと思った。
- ・ 役割分担を明確にし、様々なGrを経験できるようにしてほしい。
- ・ 実践的な訓練でしか得られない知識・経験を多く得ることができたと思う。本当にありがとうございました。
- ・ たまに、そもそものマシンにトラブルがあり、若干滞った場面があったので（そのようなトラブルにも対応するという意味でも訓練かもしれませんが）、基本的に不具合がなく、進めば良いと思いました。もう少し、初学者のための説明があると良いと思いました（事前にeラーニング等あるので、そこでフォローできるかもしれませんが）。

- ・ 初参加でしたが、時間が経つにつれて自分の作業が慣れてきた。クロノロで情報を印刷し、印鑑を押印、報告を行ったが、他の人も印刷作業をすることがあり、重複が発生していた。より効率良く情報を報告すべきだった。印刷をするのみに留めておけば良かったと感じた。完全分業とはいかないが、状況に応じてフレキシブルに動けるようにコミュニケーションを取っていききたい。
- ・ 自ら声をあげて、情報をあげていくこと、コミュニケーションを取ること、不明点は不明なままにせず、すぐ聞いて解決すること、以上のことが不足しているため、今日の振り返りを行い、定期的に訓練に参加していききたい。
- ・ 初参加でしたが、時間が経つにつれて自分の作業が慣れてきた。クロノロで情報を印刷し、印鑑を押印、報告を行ったが、他の人も印刷作業をすることがあり、重複が発生していた。より効率良く情報を報告すべきだった。印刷をするのみに留めておけば良かったと感じた。完全分業とはいかないが、状況に応じてフレキシブルに動けるようにコミュニケーションをとっていききたい。
- ・ 環境試料分析結果について訓練のねらいとしていたポイントよりも検出限界の数値に注目が集まる結果となったため、疑義が生じないような訓練用データがあれば、より効率的な訓練となったのではないかと思います。また、コントローラー側としても何かしら軌道修正ができれば良かったと思います。
- ・ 妥当性確認の手順については、測定・分析に関する予備知識の程度が様々な要員が携わるという前提で、今後も実効性を高めていく必要があると感じました。
- ・ 環境試料の測定結果を作成するにあたり、道府県Mでは参考となる事故時のデータを持ち合わせていない。訓練の運営補助的観点から、模擬データの提供があると効果的な訓練となると思う。
- ・ RAMISの仕様には改善を要する点が多い。訓練アンケートから関連指摘を抜粋し、規制庁にフィードバックしていただきたい。
- ・ 入力項目不備に関する警告文は表示されるが、縦に長い表示の上部に出ることからスクロールしないと見れないことが多い。ポップアップウィンドウを出すなどすると良い。線量率の地図表示は自動更新モードが存在するが、トレンドグラフ表示は自動更新されない。
- ・ 地点ごとに経時変化を確認するには、個別のトレンドグラフが必要。個別複数の自動更新されるトレンドを別ウィンドウで表示できる機能があると良い。
- ・ 環境資料の測定結果を入力する際に、報告対象でない核種を毎回外す必要がある。数年前から改善されていない。
- ・ 訓練が開始されてから音声の設定や入力アカウントの制限などに時間を取られ、本来実施すべき内容に取り組みなかった場面が見られたため、機器操作説明の際にフォローしていただきたい。
- ・ 訓練用の事故時のデータ（水、大気、土試料）を準備していただきたい。本県だけでなく、他自治体でも必要になるものと考えられます。

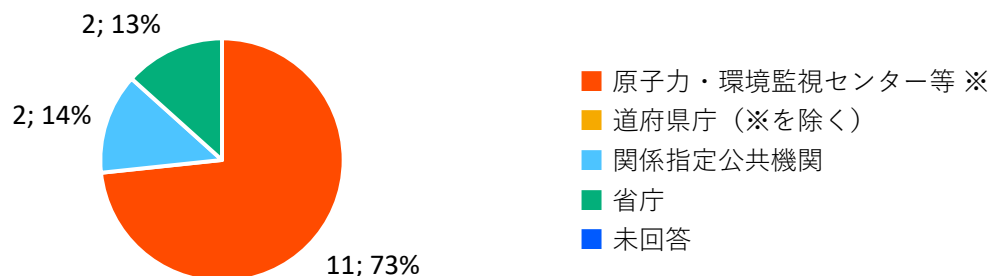
福島参集型講座 受講者アンケート集計結果

実施日 : 2024 年 11 月 27 日 ~ 11 月 28 日

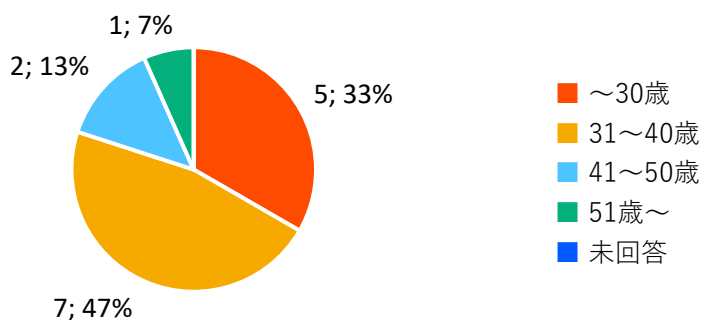
回答者数 : 15 名 受講者数 : 15 名

1. 受講者自身について

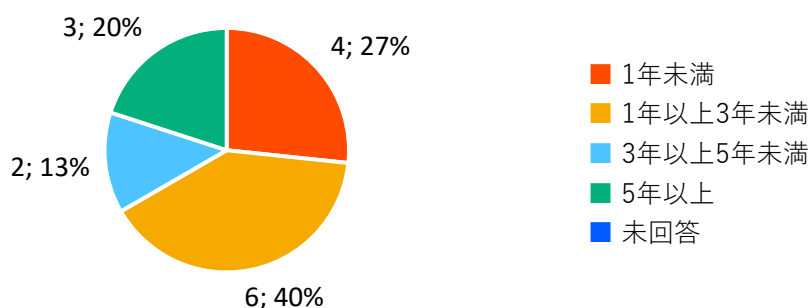
1) 所属



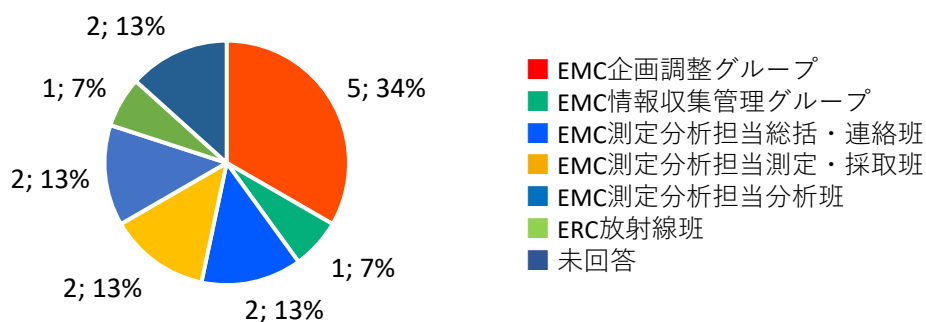
2) 年齢



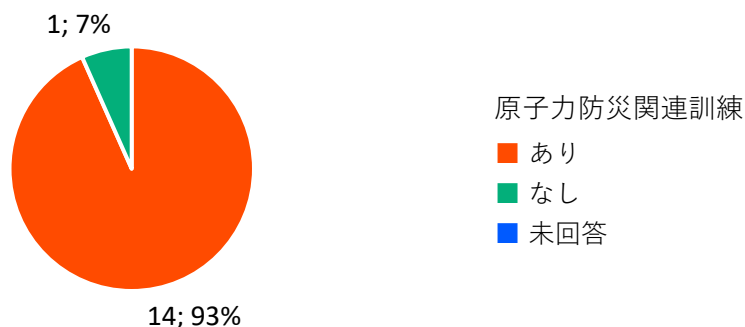
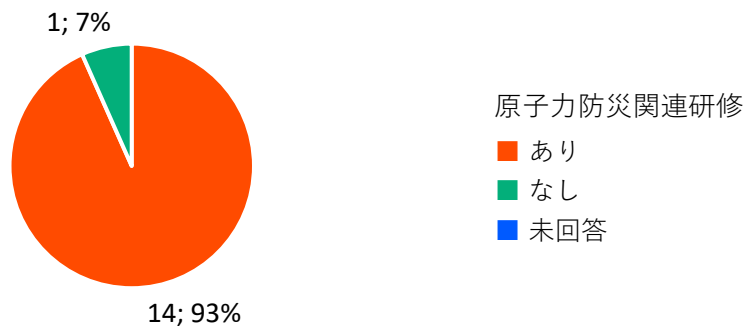
3) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数



4) 原子力災害発生時の役割

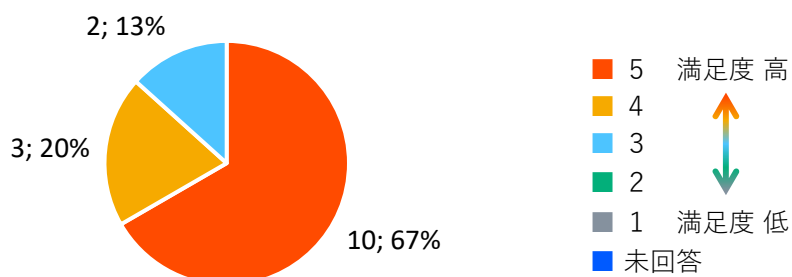


5) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験



2. 本講座を受講しての所感等について

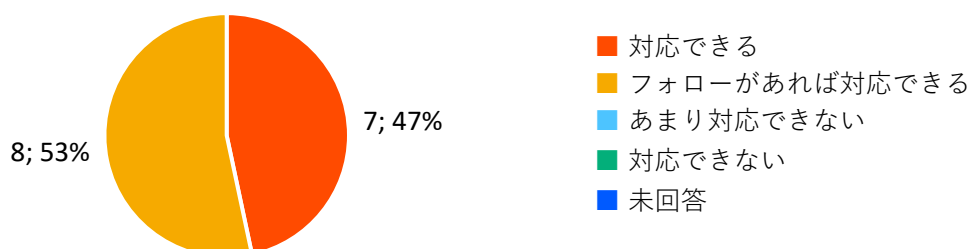
1) 満足度



自由記述

- 満足度5；1 班に1人ずつ講師がつき、詳しく教えて下さったので、間違った動きにリアルタイムで気付くことができて良かったです。
- 満足度5；実際の汚染環境下での実習は大変良い経験となった。

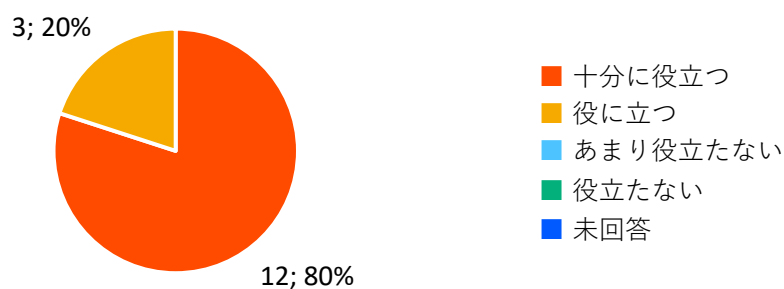
2) 本講座を受講して緊急時モニタリング要員として対応できるようになりましたか。



自由記述

- 十分に対応できる；実際の汚染環境下での実習は大変良い経験となった。

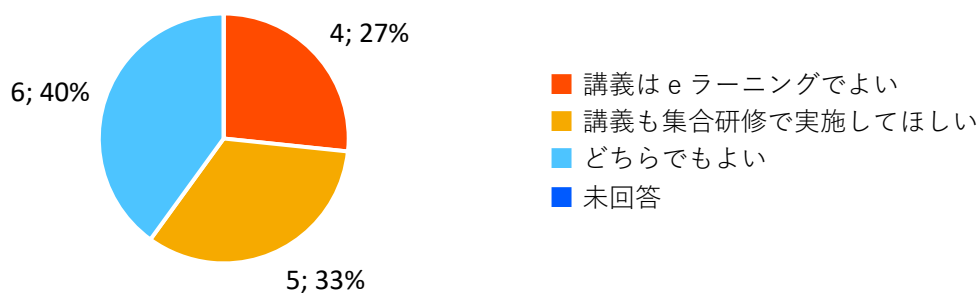
3) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ 十分に役に立つ；実際に汚染が発生する状況を体験できて今後非常に役立つと思いました。
- ・ 十分に役に立つ；線量率のある場所で測定できるのは貴重。
- ・ 十分に役に立つ；自然環境中で電離箱の値が確認できたり、NaIサーベイが「over」を示す様子は衝撃的だった。
- ・ 十分に役に立つ；実際の汚染環境下での実習は大変良い経験となった。

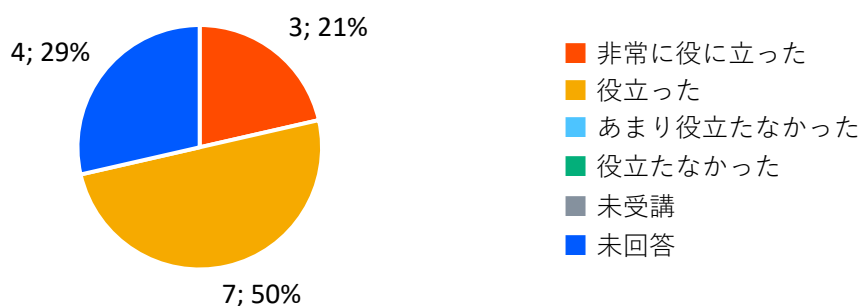
4) eラーニングの導入についてご意見をお聞かせください。



自由記述

- ・ なし

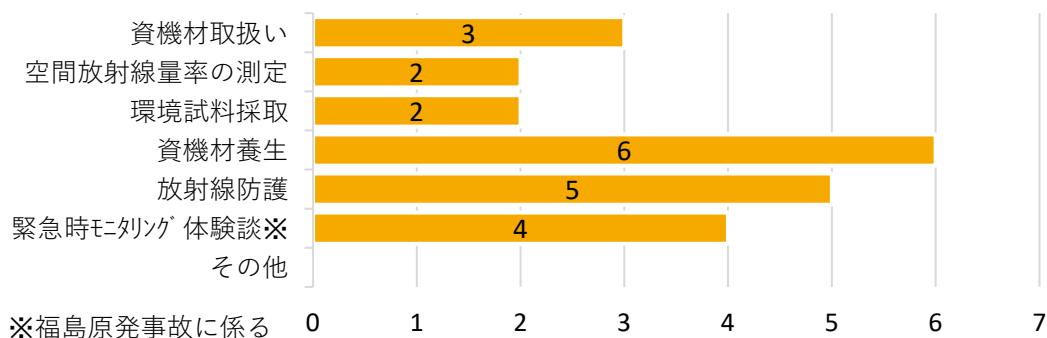
5) eラーニングは、本講座の理解を深めるのに役立ちましたか。



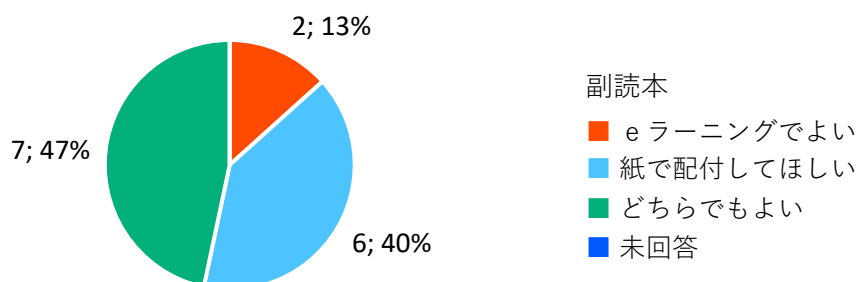
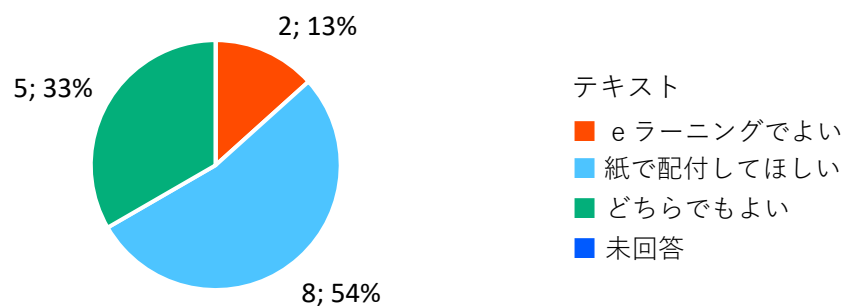
自由記述

- ・ 非常に役に立った；基本的な知識の復習として役立った。

6) 拡充してほしいeラーニングコンテンツを選んでください(複数回答可)。



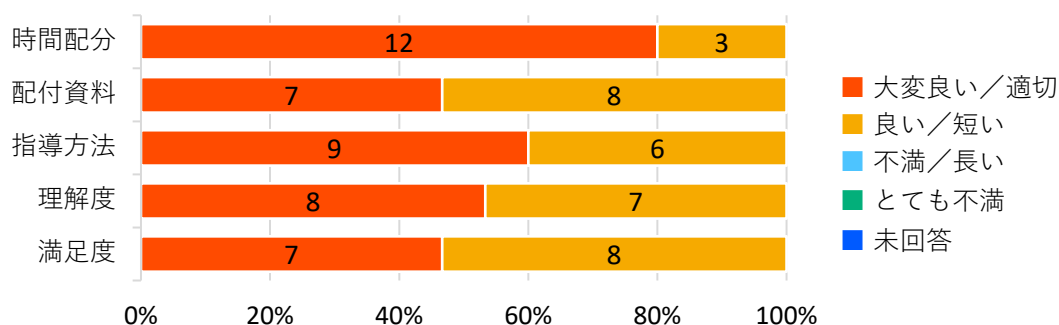
7) DX(デジタルトランスフォーメーション)推進の一環としてペーパーレス化を検討しています。紙媒体で配付した資料について、ご意見をお聞かせください。
※テキスト及び副読本は、eラーニングからダウンロードや閲覧が可能です。



自由記述
・ なし

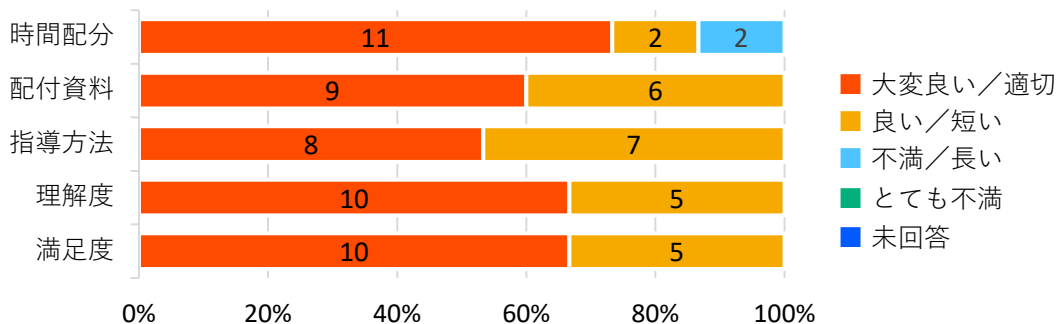
3. 各プログラムの評価について

1) 実習1ガイダンス



自由記述
・ もう少し長くゆっくり聞きたかったです。
・ 時間が短かった。

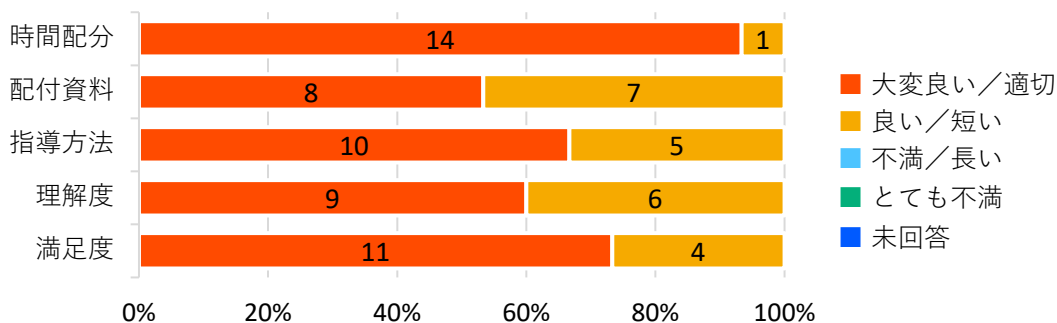
2) 講義 1 福島県のモニタリング体制について



自由記述

- ・ 講義1とセンター見学は省略してガイダンスを長くしてほしい。

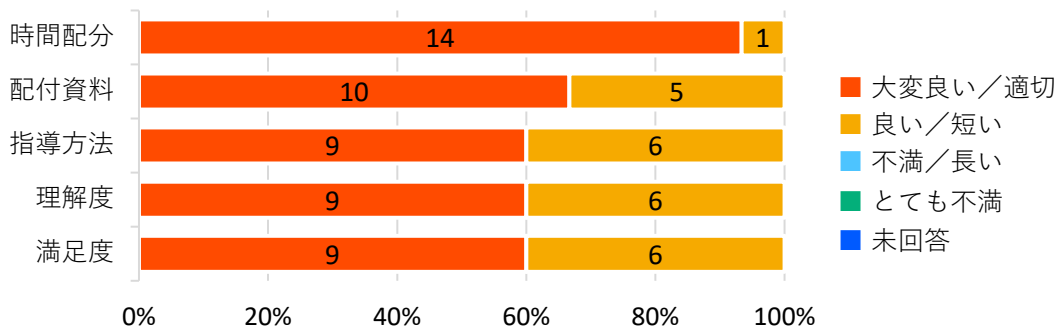
3) 実習 1 放射線環境下での測定①空間放射線量率測定（大熊町山神神社）



自由記述

- ・ 汚染検査はGMを用意して、各班の知識のある人が手伝ってもいいと思う。
- ・ 実際に線量率が高いエリアで活動できていい経験になった。

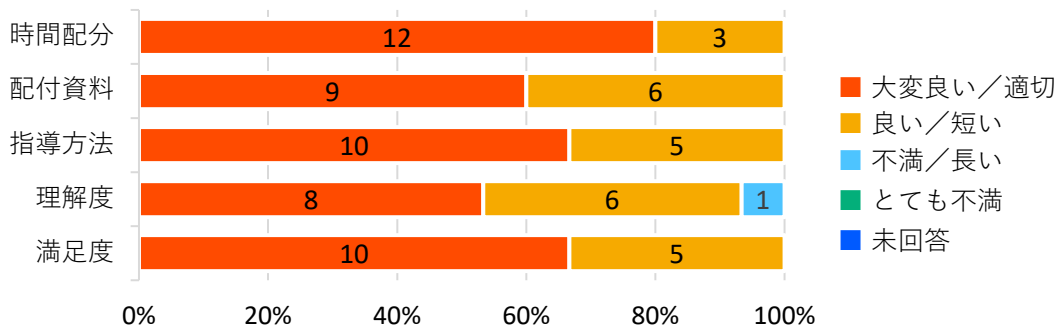
4) 講義 2 福島原発事故後のモニタリング



自由記述

- ・ 面白かった。

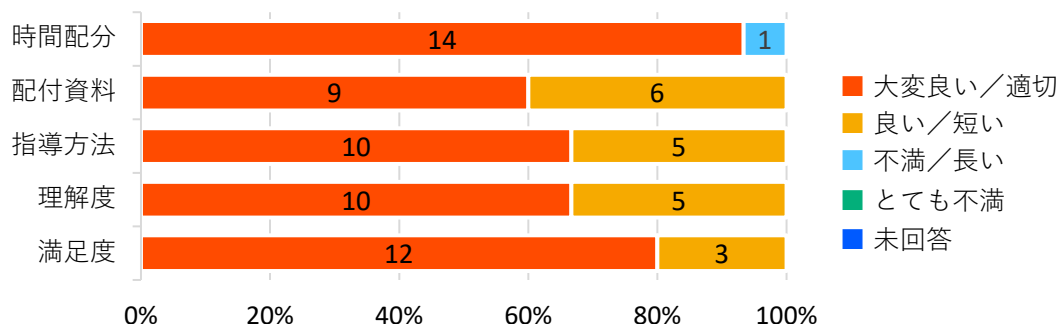
5) 実習 2 ガイダンス



自由記述

- ・ 先にやってほしい。

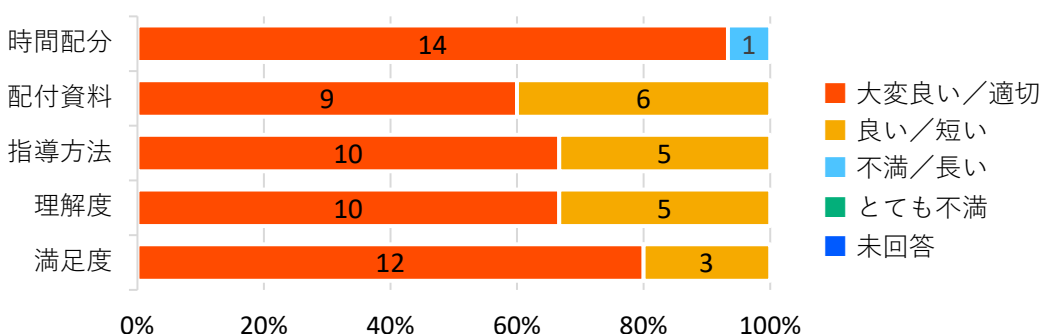
6) 実習2 放射線環境下での測定②土壌採取、松葉採取（旧大熊町立熊町小学校）



自由記述

- ・ 土壌は5か所を4人など全員でやってもいい。
- ・ 時間があれば、試料採取の準備を少し詳しくしてほしい。

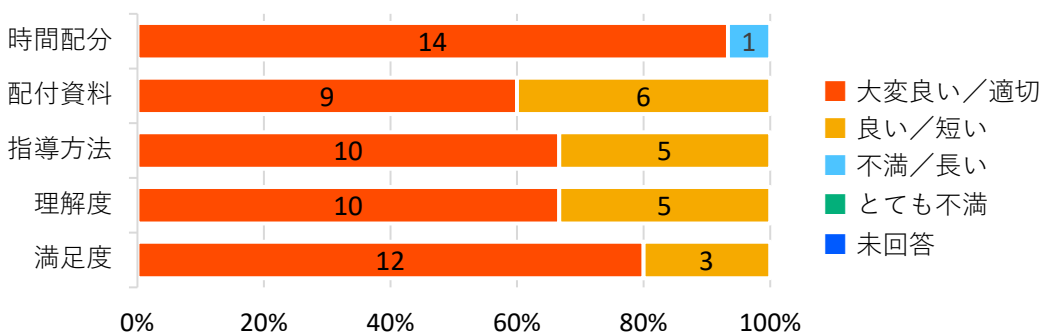
7) 実習3 帰還時の対応



自由記述

- ・ なし

8) 実習4 測定結果報告

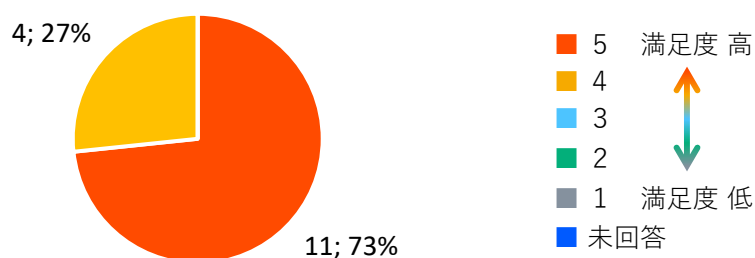


自由記述

- ・ 結果や考察がほぼ全班同じなので省略できる。

4. 野外実習会場の満足度

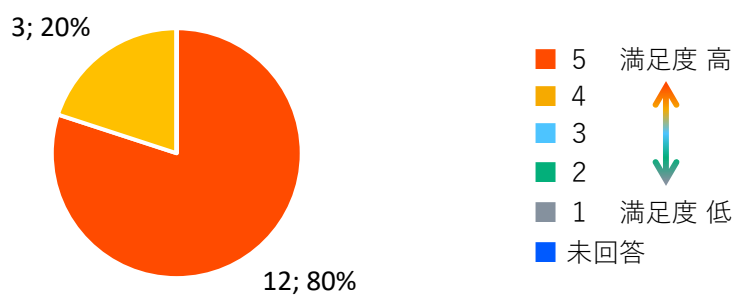
1) 山神神社



自由記述

- ・ 満足度4；汚染検査が慌ただしいので、もう少し時間があるとよい。
- ・ 満足度5；線量率の高いフィールドで測定する経験ができてよかった。

2) 旧大熊町立熊町小学校

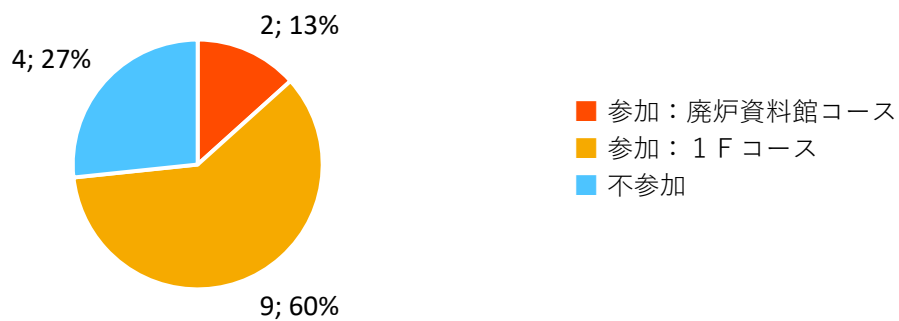


自由記述

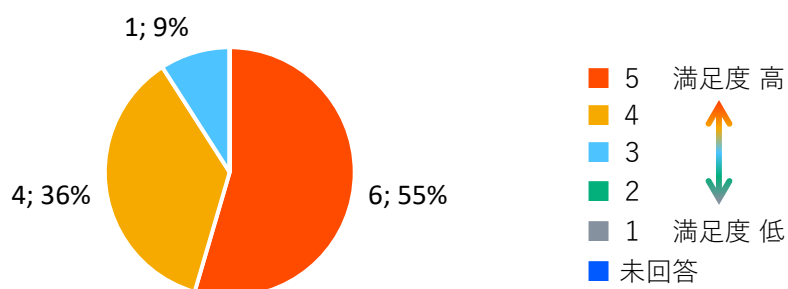
- ・ なし

5. 施設見学について

1) 参加・不参加



2) コース設定の満足度（参加の方）

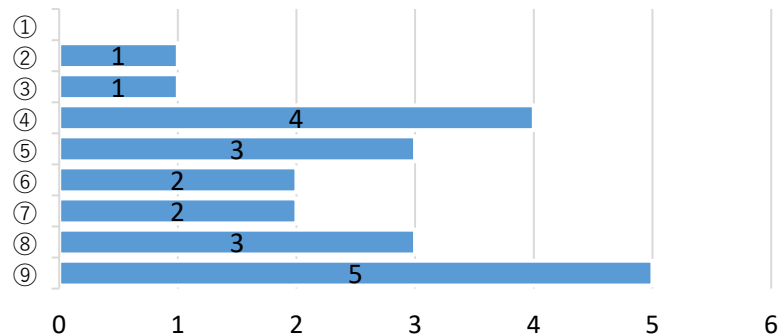


自由記述

- ・ なし

3) 見学したい施設（福島県内）（複数回答可）

- ①福島県環境創造センターコミュタン福島
- ②特定廃棄物埋立情報館リプルンふくしま
- ③日本原子力研究開発機構櫛葉遠隔技術開発センター（NARREC）
- ④日本原子力研究開発機構廃炉環境国際共同研究センター（CLADS）
- ⑤産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所
- ⑥中間貯蔵施設 ⑦Jヴィレッジ ⑧福島ロボットテストフィールド
- ⑨福島第二原子力発電所



その他、理由等

- ・ ⑨福島第二原子力発電所；1Fと比較してみたい
- ・ ④CLADS、⑤産総研、⑥中間貯蔵施設、⑦Jビレッジ、⑧福島ロボットテストフィールド、⑨福島第二原子力発電所；まだ見学したことがないため

6. 訓練全般に関する意見・要望

- ・ 貴重な経験ができました。
- ・ 普段できないモニタリング実習をすることができ、知識を広げることができた。
- ・ とても参考になりました。貴重な経験ができました。
- ・ 汚染検査があわただしいので、もう少しゆったりできるとよいです。
- ・ 防護具等の着脱手順や注意事項は1日目の実習前に教えてほしい。
- ・ 福島県のモニタリング体制、資機材、施設を勉強する機会がほしい。
- ・ 個人線量計とスマホを一緒にすると、どれくらい増えるのか見てみたかった。

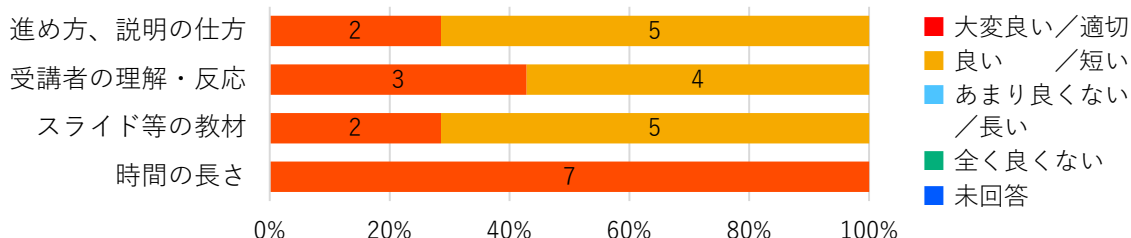
福島参集型講座 講師アンケート集計結果

実施日 : 2024 年 11 月 27 日 ~ 11 月 28 日

回答者数 : 7 名

1. プログラムについて

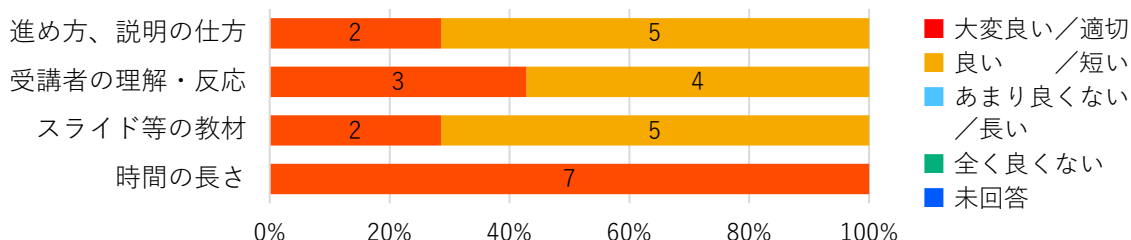
実習1ガイダンス



自由記述

- ・ 受講者は基礎講座を受講した経験者だと思う。説明内容については、すでに理解していると感じた。
- ・ 現在の原子力防災の原点は福島にある。講座の意味をより深く理解して取組むために、本モニタリング講座がなぜこのような形で計画・実施されているのかを伝えることは重要である。

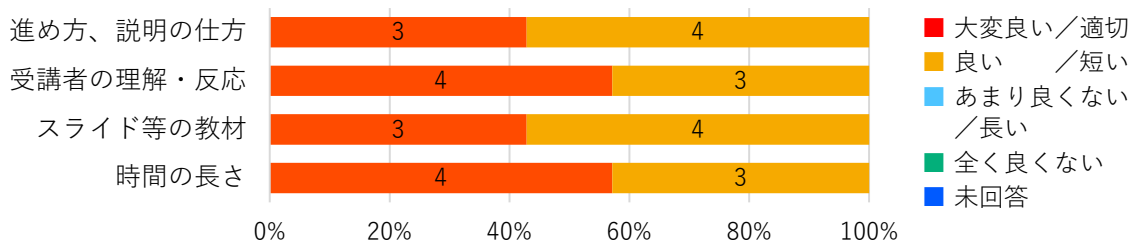
講義1 福島県のモニタリング体制について



自由記述

- ・ 多くの受講者が、熱心に受講し、自分の職場での展開を意識していたと感じた。
- ・ 講義ではモニタリングの現況の紹介もあり現状の理解に役立った。
- ・ 施設紹介では、受講者から放射線モニタリングシステムに対する質問も出されるなど有意義な意見交換があった。
- ・ 環境放射線センター見学では資機材庫を見学し、出勤に際しては必要な資機材をコンテナボックスに収納していると説明があったが、どのような資機材が収納されているかの説明があれば参考になったと思う。

実習1 放射線環境下での測定①－空間放射線量率測定－（山神神社）

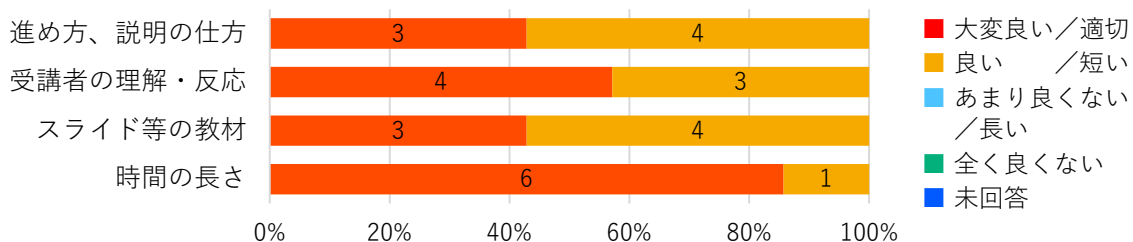


自由記述

- ・ 汚染場所の放射線強度には分布があること、測定地点では1mの高さを確認することの重要性、機器の汚染対策、作業後の汚染検査など、受講者にとって現地での作業はリアルを体験する貴重な経験となった。

- ・ 平均線量率10μSv/hの場所での空間線量率測定では、普段は体験できない場所で緊張感をもって作業ができたと思う。
- ・ A列、B列と各班並行して測定でき、他班が測定方向を遮ることがなかったので、良い方法であった。
- ・ 汚染検査の時間を考慮し、実習作業時間は多少短くしても良い。
- ・ 帰還困難区域の退域時間が迫っていたため、汚染検査が慌ただしかった。
- ・ 測定に熱中するあまり汚染検査の時間に余裕がなくなったので、もう少し時間に余裕をもって実施したほうが全体を理解するうえでより効果的である。
- ・ 汚染検査を行った後に、カゴを忘れる班があり、注意が必要である。
- ・ 余裕をもって対応出来ていたと感じた。
- ・ 実際に指示書で空間線量率測定の指示が出た場合に、どういう測定をすれば良いのかと、自問自答している受講者がいた。

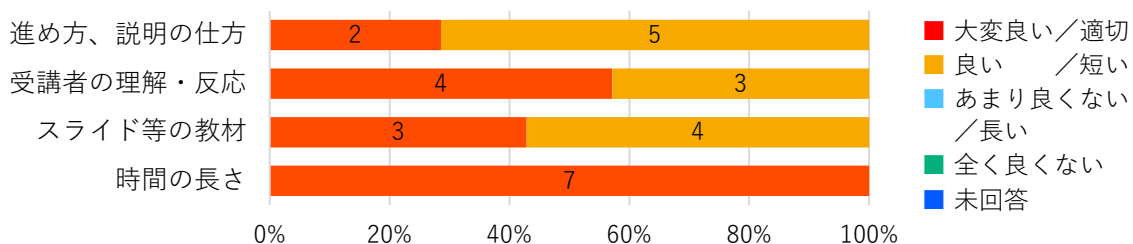
講義2 福島原発事故後のモニタリング



自由記述

- ・ 受講者が事故当時のモニタリングについて話を聞いたのは非常に良いと思う。
- ・ 事故当時の時系列での線量率、放出放射性物質の変化、放出方向の変化と汚染地域と住民の健康管理など、現状をある程度理解できたと思う。
- ・ 事故後の対応は、ほとんどが手探り状態で、混乱もある中そのときにできる最高の対応がなされた。そうした対応を経験する中で何が重要であったか、現在にどう生かされているのか、現在の放射線モニタリングの仕組みを理解するうえで重要な情報であった。
- ・ 今回、分析班の事例として、空間線量率と土壌の放射能濃度、空間線量率と健康影響、帰還困難区域の関係を中心に話したが、効果があったか、皆さんのご意見が聞きたい。
- ・ 可能であれば、熊小で採取した土壌と松葉を川内村事務所のGeで測定した現実味のあるスペクトルと放射能濃度を示したい。
- ・ 時間が足りない。講座の開始時間を早めるなど改善すべきである。

実習2ガイダンス

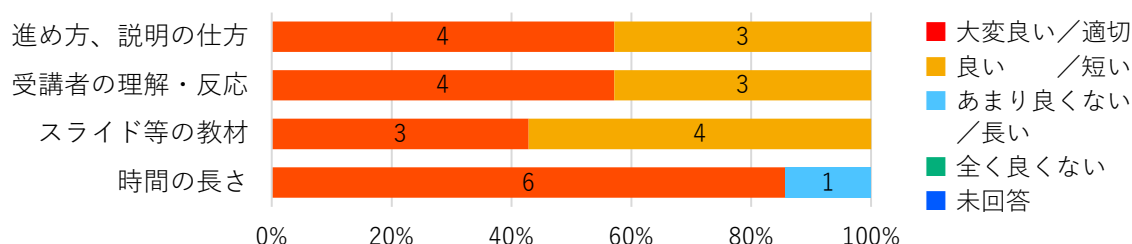


自由記述

- ・ 実習の設定をしっかりと説明し、受講者は理解できていた。
- ・ 現地での放射線測定と試料採取の方法について解り易く説明された。出動準備の段階では、活動内容と放射能汚染に対する十分な理解が前提とされ、受講者には高い目的意識と経験が求められる。野外実習の全体の流れの説明から、人と資機材の汚染防止のための準備活動が講師陣の積極的支援により行われたのは適切であった。
- ・ 再利用資機材の現地及び帰還後の汚染検査について、時間があれば実施したほうがよい。

実習2

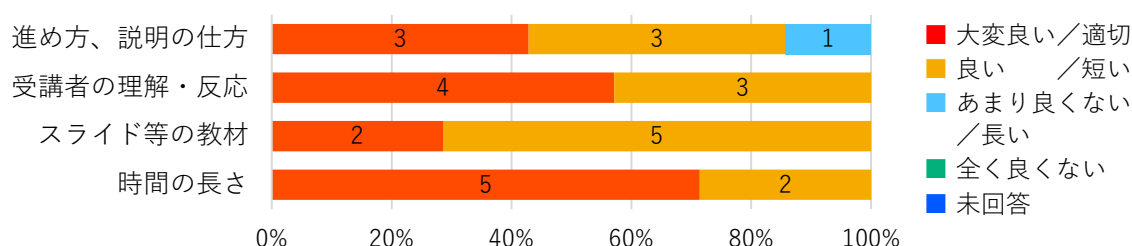
放射線環境下での測定②ー土壌採取、松葉採取ー（旧大熊町立熊町小学校）



自由記述

- ・ 事前の草払いが実施され、受講者の円滑な実習に寄与していた。
- ・ 熊小のフィールドを事前に整備したおかげで成功したと思う。
- ・ 事前に草刈り、測定ポイントの印をつけていたため、スムーズにできた。
- ・ 測定ポイントの目印はわかりやすく良かった。
- ・ 測定ポイントに風船をつけたのは場所が探しやすく大変良いアイデアだった。また、付せんをつけたのも良かった。
- ・ 担当の班は上手く分担を決め、スムーズな作業を進めていた。
- ・ 松葉採取では2年葉がほとんど枯れていが、2年葉がどの位置にあるのかを理解できたと思う。
- ・ 松葉の2年葉が枯れているものが多く、採取する松を探すのに手間取った。
- ・ 松葉採取では、どの部位から採取すべきか、その部位の選定など現場の状況に応じた採取法の説明がなされた。
- ・ 現場活動時間を20分ほど短縮できると思う。
- ・ 担当した班では、土壌採取に不慣れだったため、1回見本を見せた。
- ・ 現場の測定は防護対策と関連しており測定結果の正確性に対する配慮が必要なが示された。
- ・ 校舎周囲の測定ではどのような場所で空間線量率が高い（汚染がある）のかを探索することで、汚染に関する理解が深まったと思う。
- ・ 校舎周囲の地面から5cmの測定では、NaIのオーバースケールを確認することができて良かった。
- ・ 前夜の雨の影響なのか、長靴の底に土がついたままだとB.G.の倍（1.4～1.5kcpm）があった。平均空間線量率5μSv/hでは計算上は5万Bq/kgであるため、10gの土がついても500Bqの汚染である。一部の受講者には長靴の汚染を見てもらったが、採取した土壌についてかなりの汚染が確認できたと思うため、受講者にどの程度の土壌汚染があるのかをGM・NaIで確認してもらえば良かった。
- ・ 線量率測定の際に検出器の近くに人が集まることに注意があり適切であった。
- ・ 土壌採取場所での空間放射線量率測定において、土壌表面を乱さないよう注意があり適切であった。
- ・ 採取領域を設定したら、その中を踏み荒らさないようにする説明が必要であった。
- ・ 土壌採取する人が他の物品（ポリ袋、カゴ）等を無意識で触ることがあったので、その際には注意を促した。
- ・ 土壌採取、松葉採取をもう少し丁寧に行うべき。

実習3 帰還時の対応

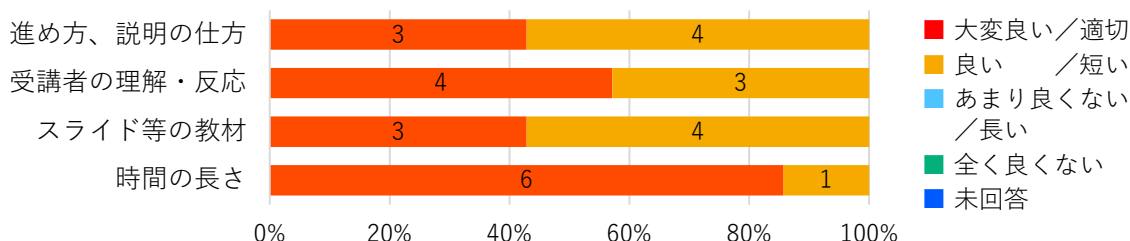


自由記述

- ・ 移動後すぐのこともあり、防護装備品の準備がうまくできなかった。
- ・ 帰還後にBG測定、物品汚染検査を実施したほうが良い。

- ・ 帰還時に測定器が汚染していないかどうかを確認すること、また、B. G. 測定を失念した。

実習4 測定結果報告



自由記述

- ・ GPSと線量計データから各班の線量マップが見られ、各班がどのような場所でどのような空間線量率の場を移動したのかがわかり、空間線量率の実感があつたのではないかと思います。
- ・ GPSと線量計を合わせた報告はとても良かった。各班でどこを測定し、移動場所ごとの空間線量率を色分けして示したことで、どこの場所で線量率が高かったのかを一目瞭然で見ることができた。
- ・ 各班ともよくまとめられていた。班によっては与えられた課題にとどまらず、自ら課題を設定し技術的な事項のみならず、汚染環境の理解に取り組んだことが報告された。各班の報告が他班での取り組みの参考になるものであり有意義な情報交換になった。
- ・ 各地域の代表が受講しているため、もう少し時間を確保し、今回の講座とは異なり、自身の地域ではこうやっているとか、他県にもこれを勧めるとか、意見交換ができればよいと思う。
- ・ 線量測定結果だけでなく、土壌採取、松葉採取についても採取記録の報告を行う方がよい。

2-1. 指導のポイントや講師が共有すべき事項

- ・ 担当の班の受講者は線量計の使い方を忘れていた。教えると思い出していた。実習の前に簡単な説明をした方がよい。活動準備の際に各班の講師が行ってもよいかもしれない。
- ・ カゴの汚染防止用にポリ袋で覆うのは良いアイデアであった。
- ・ カゴにポリ袋をかぶせての養生、1m棒を養生する方法は良かった。他の実習でも取入れた方がよい。
- ・ 実習後の汚染検査では、長靴をはいたままだと地面に近いと、地面からの線量の影響で汚染が分かりづらいことなど、実際に福島でないと経験できないことなど、受講者に体験してもらった方がよい。
- ・ 汚染検査は班ごとの靴履き替えレーンを設け、並列処理及び受講者にも体験させることが必要だと思う。

2-2. 受講者からの質問とその回答

- ・ 【質問】空間測定指示を受けた場合に、高い所を探して測定するのか。
- ・ 【回答】指示書にある場所を正確に測定してください。余裕があれば、併せて、気になる場所、指定場所より空間線量率が高くなりそうな場所があれば補足的に測定してください。

3. その他の気づき事項

- ・ 講義、実習ともに丁寧にまた円滑に実施され、特に指摘する事項はありません。
- ・ 全体を通して、実汚染環境にけるモニタリング技術の習得では、自然環境での汚染の多様性や汚染防止の技術の習得がなされ、また、福島原発事故の現状理解では、津波影響の重大さや復興の現状、東京電力の廃炉への取り組み状況の理解など、マスコミからでは得られない貴重な情報を得ることができた。
- ・ 受講者は全国各地から派遣されており、緊急時モニタリングに対する関心も高いことから講座中のグループ内での意見交換を通してモニタリング関係者の全国ネットワークの形成にも有効に寄与している。

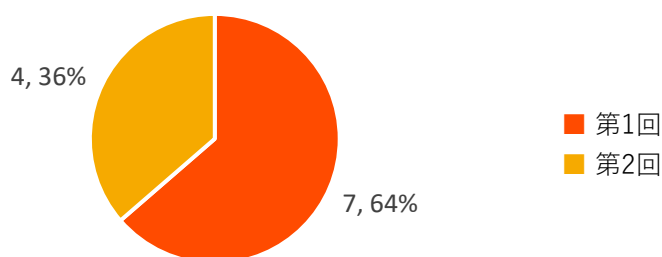
- ・ 移動に時間を要するため、計画に不確定要因を伴わざるを得ないが、休憩時間を確実に入れるなど受講者の意見を取り入れることでより参加しやすく有意義な研修になると思われる。
- ・ 出動時の資機材は、現地に送る前に事務所で土壌採取キットパッケージ化をしてはどうか。そうすれば、緊急時に備えたキット保管の重要性を受講者に説明することができ、現地で準備する手間も省け、積み忘れのリスクが軽減される。
- ・ 時間があれば、サーバイメータもケースに入れておき、出動前に受講者が取出し、電池挿入、BG確認等の動作チェック、養生、帰還後のBGチェック、養生取外し、電池の取外し、サーバイの収納をやらせたい。より実用的だと思う。
- ・ 一方的な形式だけではなく、受講者同士がお互いに意見交換できるようなシチュエーション（例えば、1つの課題を提供し、あなたならどうする、どう考えるなど）を設けることも、モニタリングに関する理解を深める起点になると思う。

実践演習「緊急時モニタリング指示書作成講座」
受講者アンケート集計結果

実施日	:	第1回	2024	年	7	月	3	日
		第2回	2024	年	7	月	4	日

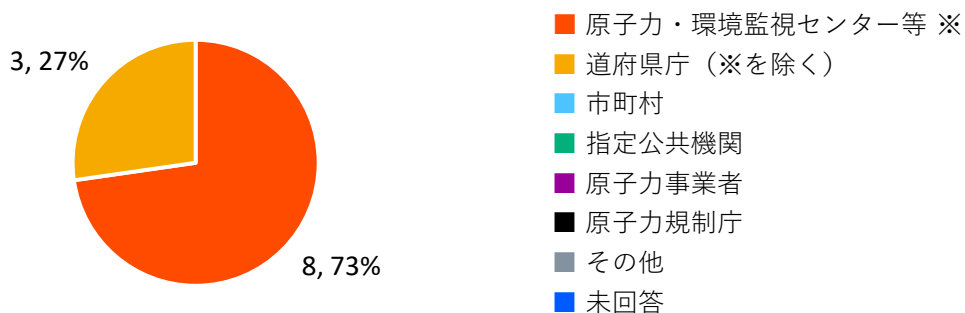
回答者数	:	11	名	受講者数	:	13	名

受講した開催回

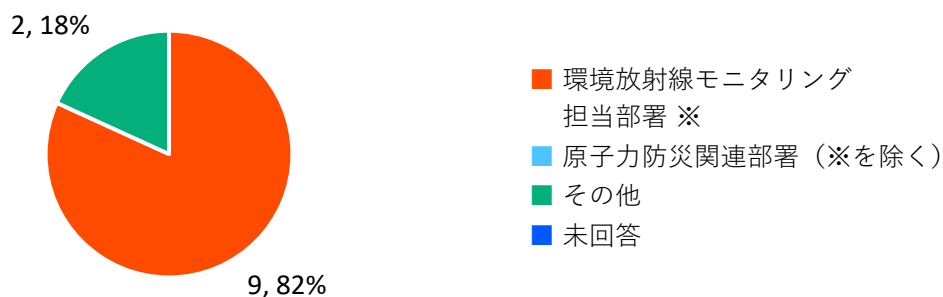


1. 受講者自身及び受講環境について

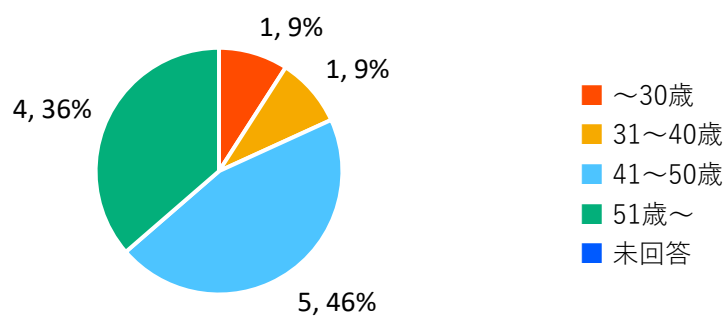
1) 所属



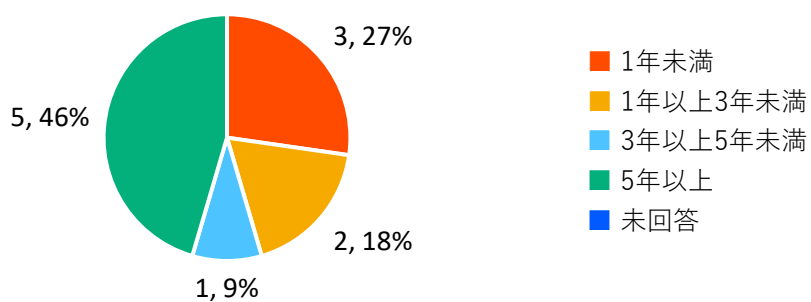
2) 所属部署の属性



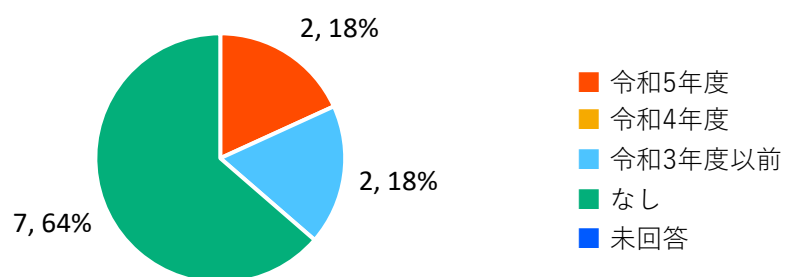
3) 年齢



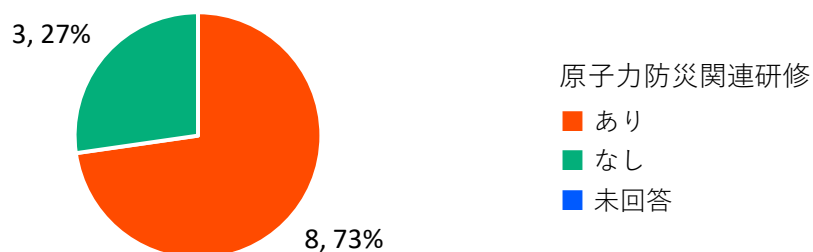
4) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数

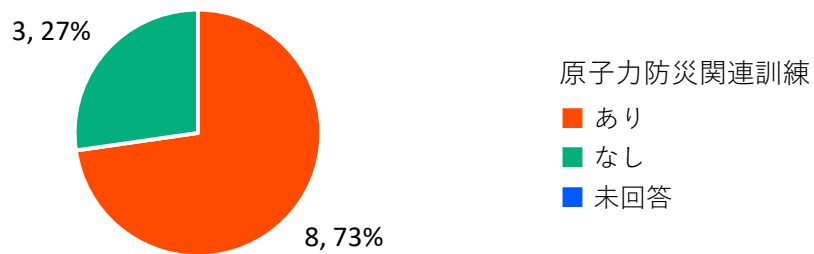


5) モニタリング技術に関する基礎的な講座への参加経験

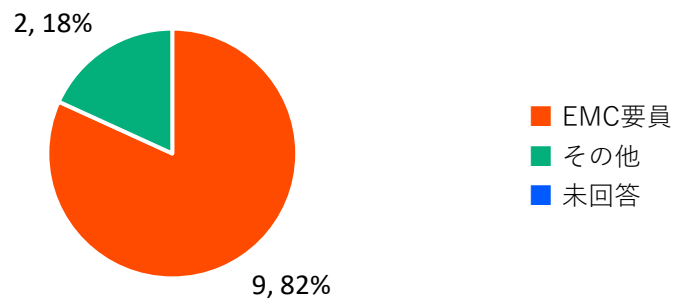


6) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

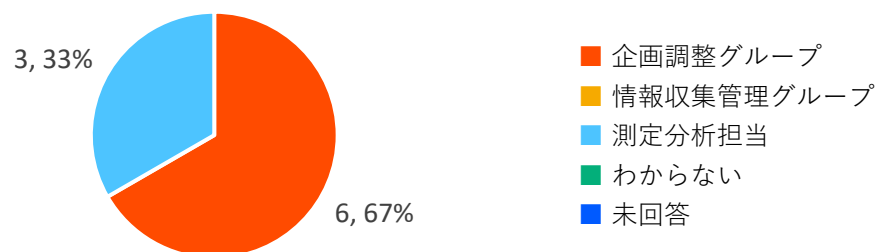




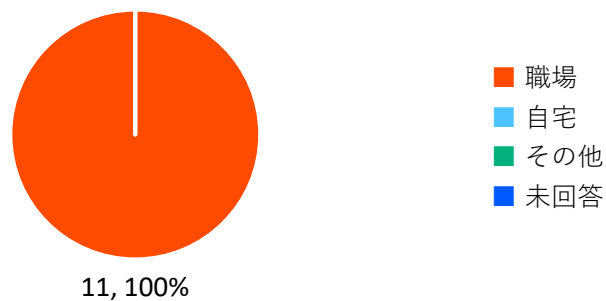
7) 原子力災害発生時の役割



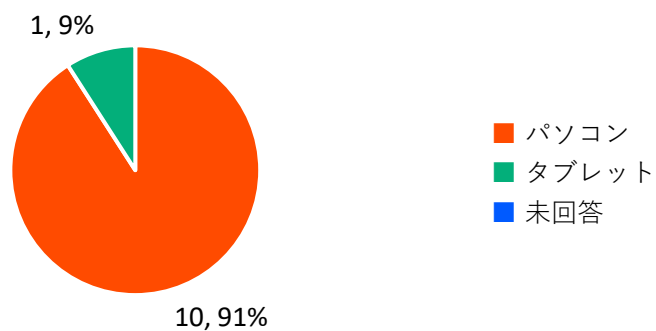
EMC活動における役割 ※前質問でEMC要員と回答した者のみ



8) 受講場所

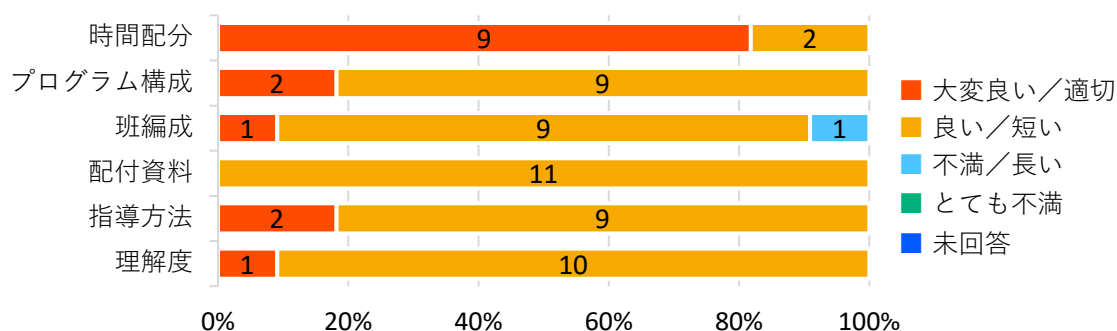
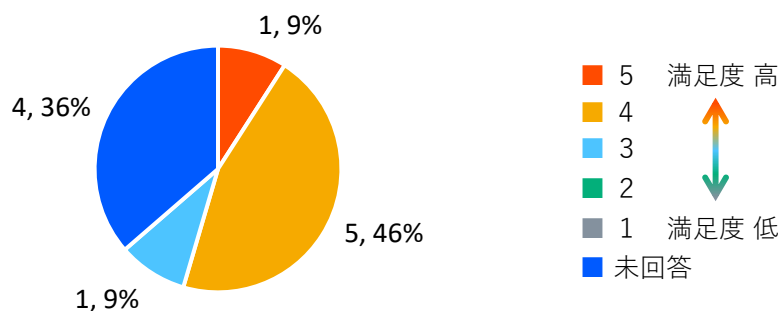


9) 使用デバイス



2. 本講座を内容及び受講環境に関する評価について

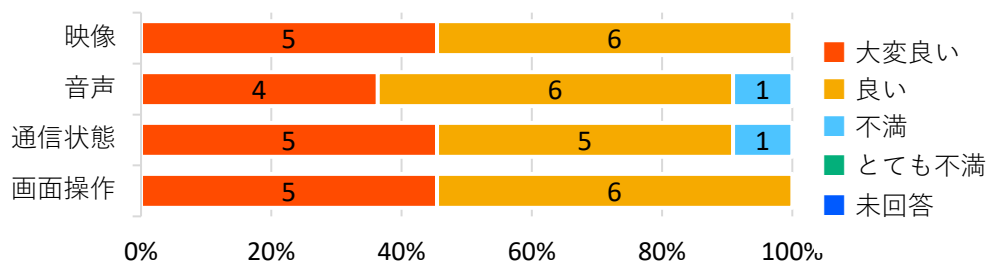
1) 内容について



自由記述

- 満足度4；EMCの企画調整グループ訓練に参加したことが無く、理解が浅かったが、複数の講師の皆様に様々な考えを教えていただいたため。
- 満足度4；EMC設置自治体の指示書様式を参考に見直した方がよいと感じた。
- 未回答；他県の方の指示書についての説明が参考となるので、もっと多くの説明を聞きたいと思った。
- 未回答；事前課題提出にあたって、指示書の作成方法や作成例の講座、ガイダンスがあればよいと思った。
- 未回答；経験が浅いため、他県の指示書の内容が参考となり、イメージがわき、有意義なものとなりました。

2) 受講環境について

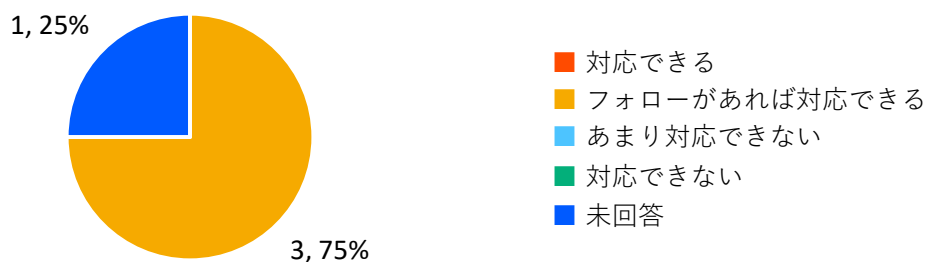


自由記述

- ・ ラグもなく、通信環境が良好であったため。
- ・ 音声映像とも良好だったので受講環境に問題はございませんでした。
- ・ 事前に接続テストがあつて、大変よかったです。
- ・ 映像、音声が良好であった。
- ・ 通信が二度ほど切れました。当方の通信環境が悪かったようです。
- ・ ノイズがひどかったです。

3. 本講座を受講しての所感等について

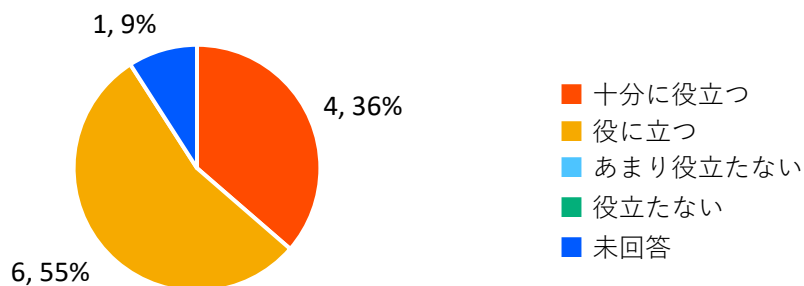
1) 本講座を受講したことで、指示書作成について対応できるようになりましたか。



自由記述

- ・ 対応できる；採取地点数等疑問に思っていたこと、不足していた情報について教えていただけたので、作成時より対応に自信がもてた。
- ・ フォローがあれば対応できる；文書形態を紙から電子へ移行している最中であり、昨年度の作成元の指示書のフォーマットが見つけにくかったため、県に応じてどのようなフォーマットか例があると助かると感じました。
- ・ フォローがあれば対応できる；指示書作成のポイントについて、もっと具体的な判断思考を教えて欲しかった。（こういう事象が発生しているから、こういう指示が必要等）
- ・ フォローがあれば対応できる；大枠は理解したが、測定業務の詳細については把握し切れていないので、検査担当者の意見を聞きながら対応したい。
- ・ フォローがあれば対応できる；早く指示がだせるような指示書様式の見直しが必要だと感じた。
- ・ フォローがあれば対応できる；緊急時モニタリングの目的や施設の事態進展ごとのモニタリングの実施内容について、改めて整理できたが、訓練経験がまだ必要と思う。

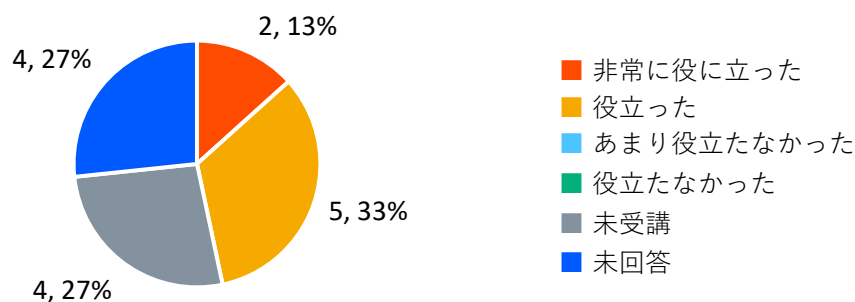
2) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・十分に役に立つ；活動内容について、イメージがついたため。
- ・十分に役に立つ；測定分析Gのため、活動指示書を作成することになるが、どのような考えで指示書が作られるか、そこから必要な情報を活動指示書にどのように落とし込むか考える機会となった。
- ・十分に役に立つ；EMC設置自治体の取組（マニュアル作成等）についての理解を深めることができました。
- ・役に立つ；EMC要員の安定ヨウ素剤の服用にあって、アレルギーや持病等により服用の可否を考慮しなければならない点について、検討できていないので参考にしたいと思った。
- ・役に立つ；他県状況を全く知らなかったもので、講座で得た知識を今後の参考にしたい。
- ・役に立つ；当日の講師や上席からの質問や確認事項を聞くことができ、指示書作成の考え方やポイントが分かった。

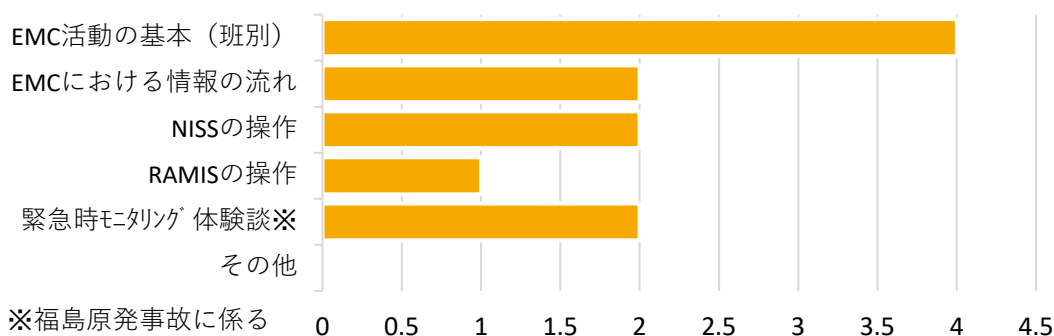
4-1) eラーニングは、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・非常に役に立った；放射能の基本から学べたことが大きい。
- ・役立った；本研修資料だけでなく、緊急時モニタリングセンター設置要領及び地方公共団体の緊急時モニタリング計画等を参考にしながら、指示書は作成できますが、講座で実感がもてます。
- ・未回答；業務都合により受講できなかった。

4-2) 拡充してほしいeラーニングコンテンツを選んでください。



その他の意見

- ・ なし

4. 講座全般に関する意見・要望

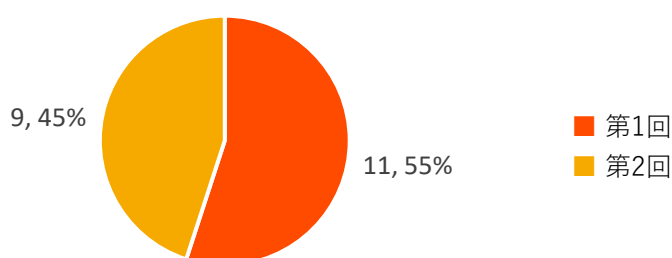
- ・ 緊急時モニタリング実施計画が、施設敷地緊急事態、全面緊急事態、放出前、放出中、放出後でほぼ定型的なものしか出てこないのなら、指示書もそれに対応したものをあらかじめ作っておけばいいのではないかと思った。もっと違うパターンがあるのであれば、参加者と議論しながら指示書の作成ができるのではと思った。

実践演習「緊急時モニタリング企画コース」
受講者アンケート集計結果

実施日	:	第1回	2024	年	7	月	5	日
		第2回	2024	年	7	月	8	日

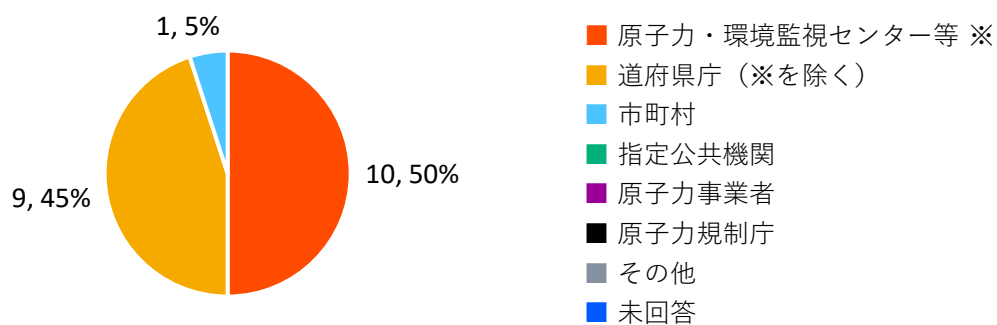
回答者数	:	20	名	受講者数	:	23	名

受講した開催回

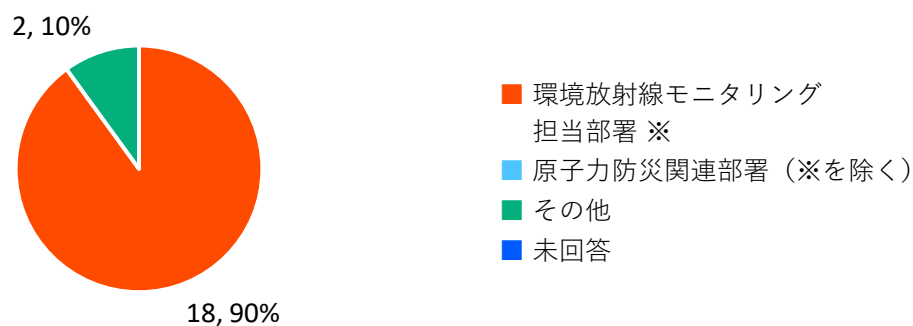


1. 受講者自身及び受講環境について

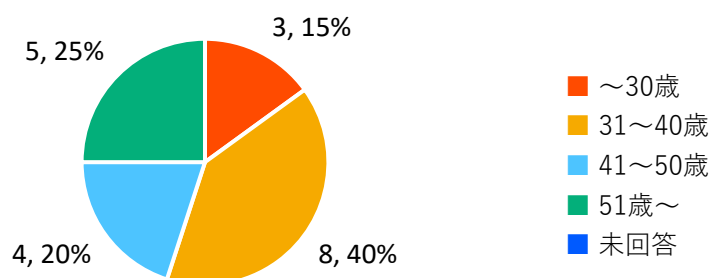
1) 所属



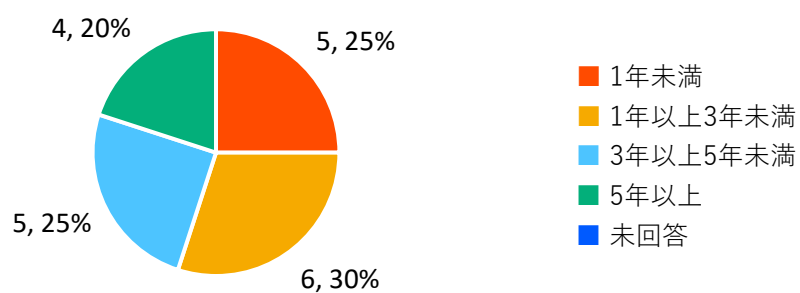
2) 所属部署の属性



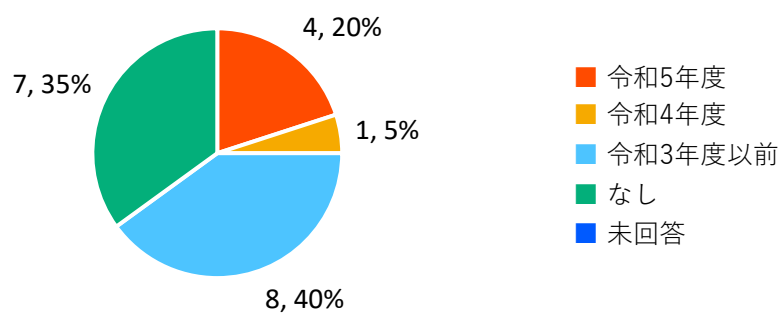
3) 年齢



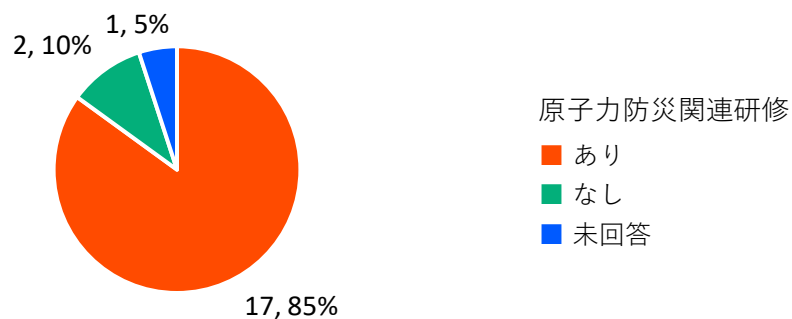
4) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数

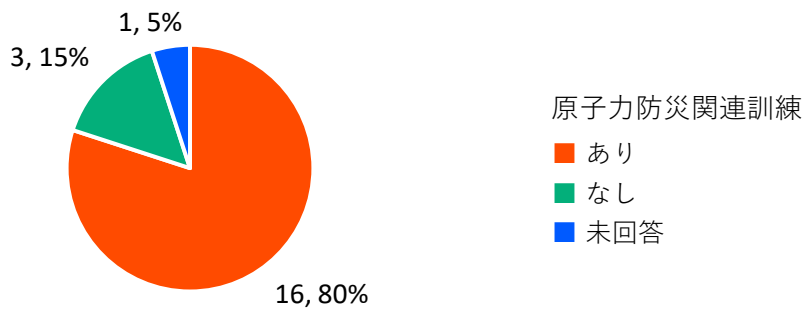


5) モニタリング技術に関する基礎的な講座への参加経験

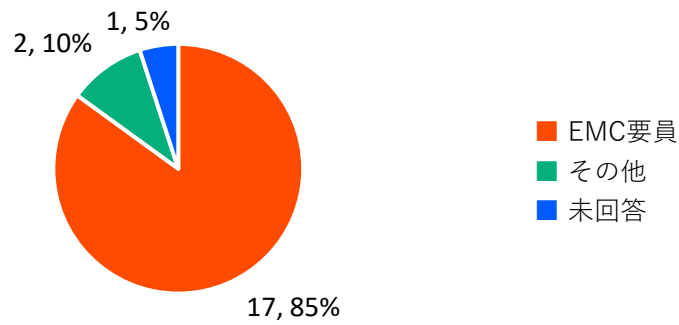


6) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

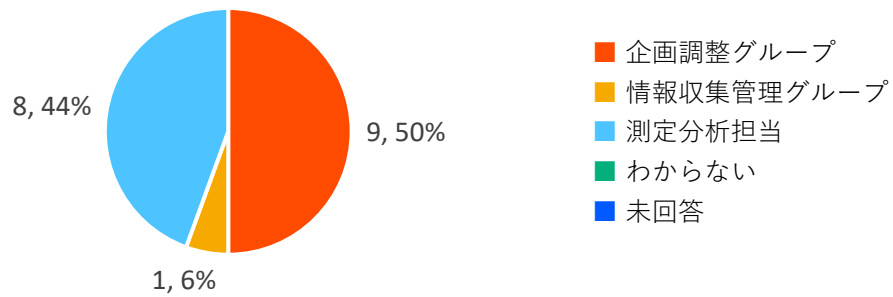




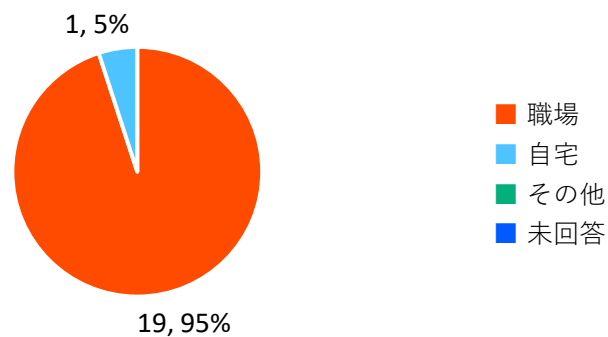
7) 原子力災害発生時の役割



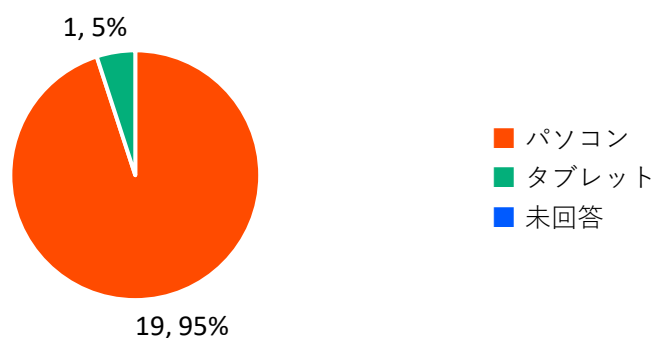
EMC活動における役割 ※前質問でEMC要員と回答した者のみ



8) 受講場所

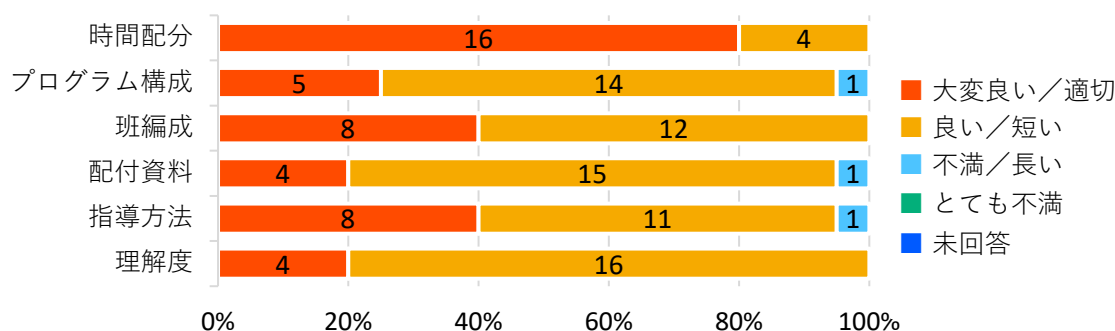
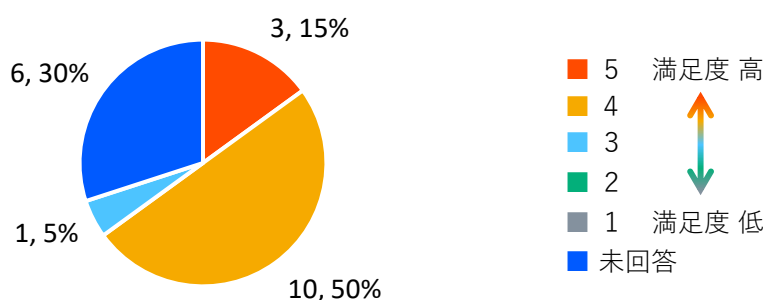


9) 使用デバイス



2. 本講座を内容及び受講環境に関する評価について

1) 内容について

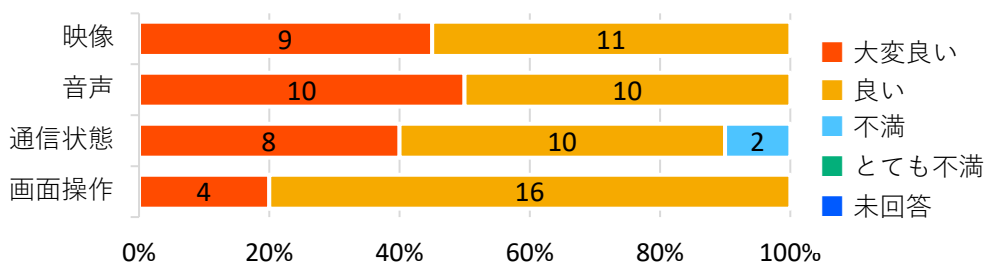


自由記述

- 満足度5；課題だけを見た時は、途方に暮れる状態だったが、班の中に経験者の方がおられて、議論を導いていただけたので、大変助かった。（班構成で、経験者の方を配分して、最初の課題でリーダーになっていただくことで、その後の課題に対する観点等がかなり整理された。）
- 満足度5；原子力行政1年目のため、プログラム構成「設問内容」への対応が困難でしたが、班内メンバーや講師に恵まれ、非常に勉強になりました。
- 満足度4；課題について、多少事前に考えていたので、研修時間は適当な配分だったと思いました。
- 満足度4；企画調整グループとしての考え方を学ぶことができた。機会があれば、様々な事象について検討してみたい。
- 満足度4；4名／班という人数は、1人1人の発言の機会が多く、議論に積極的に参加しやすいため、非常によいと感じました。
- 満足度4；また、グループワークが終了後に講師から解答をいただきましたが、グループワークの最中に模範解答をいただき、その模範解答に対してグループワーク参加者同士で「なるほど」と言い合い、必要に応じて進行役の講師と質疑応答させていただける時間があってもよかったかなと個人的に思いました。

- ・ 満足度4；時間が短いせいか、講師の方が回答に導くように感じられたのが残念だった。
- ・ 満足度4；現場で実際に判断を求められると思われる実践的な内容であり、かつあいまいであった知識の再確認もできて有意義であったと思います。若干、時間が短く感じられました。
- ・ 満足度4；e-ラーニングの基礎知識しかありませんでしたが、班員がベテランの方々だったので、グループワークでとても勉強になりました。
- ・ 満足度4；以前より研修等は受けていたが、今回の研修のレベルについていけるほどの知識や応用力は身に付けていなかったため、議論に参加することが困難であった。
- ・ 満足度3；課題1つの検討時間10分は無駄に間延びしたりせずスピーディに進んでよかったです。配布資料に各課題の論点やポイントなどがあれば、グループワークでも議論がしやすくなると思いました。
- ・ 未回答；企画調整グループ及び測定分析担当が一緒になって参加すると良い研修だと思いました。
- ・ 未回答；課題5において、当方が道府県Dの地理に疎いため、走行サーベイのルートの口頭説明で戸惑いました。容易ではないと思いますが、道路のルートを口頭説明しやすいような工夫をお願いします。

2) 受講環境について

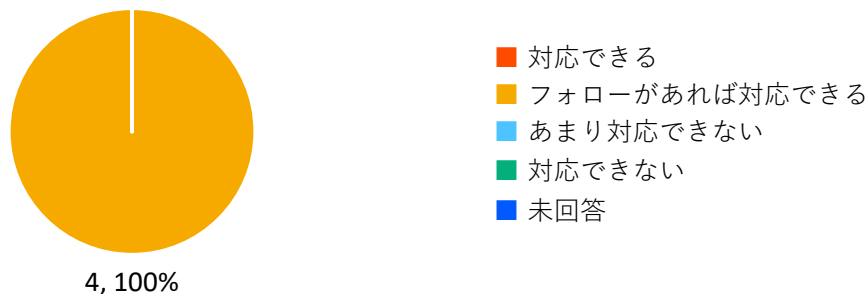


自由記述

- ・ タブレットでの資料共有に少し手間取りましたが、概ね問題なく受講できました。
- ・ 特に問題は感じられなかったため。
- ・ 映像、音声ともに良好であった。Zoomの操作が不慣れであるため、画面共有に時間を要してしまった。
- ・ 映像は不要かと感じました。
- ・ 問題なく、受講させていただきました。
- ・ 走行サーベイのルートを自ら記入することができませんでしたが、他のメンバーは実施できていたようでしたので、自身のスキル不足が原因と思われます。ご迷惑をおかけしました。
- ・ 説明者や講師の音声が途切れ、映像が固まる状況がありました。
- ・ リモートを活用したよい研修であったと思います。ただし、回線の状態のためか解説中に音声途切れる場面が数回あったのが残念でした。
- ・ 当方の都合で強制退出してしまったりなどありましたが、電話でスタッフの方にサポートしていただけて復帰出来ました。
- ・ 特に不満はありません。
- ・ 一部参加者の映像音声が悪くなかったようですが、私は問題ありませんでした。

3. 本講座を受講しての所感等について

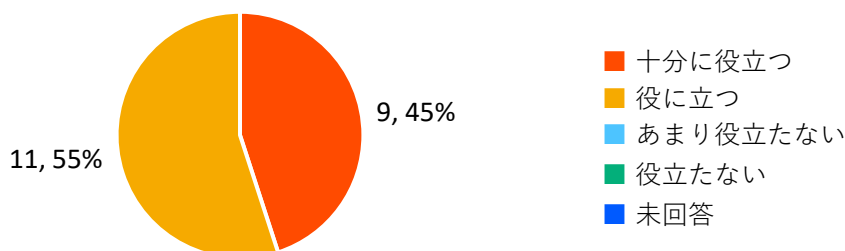
1) 本講座を受講したことで、緊急時モニタリング要員として対応できますか。



自由記述

- ・ 対応できる；研修の中で示された視点は、緊急時モニタリング要員として大変有用なものでした。
- ・ 対応できる；課題への対応を考える中で、原子力災害対策指針の内容を再確認できました。また、講師の解説や説明を通して、緊急時モニタリング活動の対応の考え方をより理解できました。
- ・ フォローがあれば対応できる；本県の状況も確認したうえで、どのような対応となるか確認したいと思います。
- ・ フォローがあれば対応できる；走行サーベイの際のルート検討などで、低線量区域→高線量区域で設定する等々、まだ多角的に見ることができていないため、フォローが必要と考えている。
- ・ フォローがあれば対応できる；まだまだ知識が不十分であるため。
- ・ フォローがあれば対応できる；測定分析担当をメインに担当してきたので、少々まだ不安に感じます。
- ・ フォローがあれば対応できる；経験は浅いが、本研修を通じて様々な事案をシミュレーションできたので、測定担当のフォローをもらいながらであれば対応可能と感じた。
- ・ フォローがあれば対応できる；一人ではまだ力不足ですが、周りのメンバーと協議しながら、適切な対応をとっていきたいと思います。
- ・ フォローがあれば対応できる；自分に欠けた視点の存在に気づかされました。
- ・ フォローがあれば対応できる；モニタリング資機材の操作が不慣れなため
- ・ フォローがあれば対応できる；まだ自分一人で要員の振り分けやモニタリングの優先順位などを判断する自信がないので、相談しながらしかし迅速にできればと思う。
- ・ あまり対応できない；上記回答は、決して否定的な意味ではなく、今回のグループワークは具体的事象に対する検討であったため、今回の演習に参加したことを以て要員として万能的に対応できるわけではないと思ったという趣旨です。
何でもそうですが、場数を踏まないとなかなか対応力が身に付かないため、このような具体的事象に基づく検討を行える機会は貴重ですし、スキルアップに大変役立つと感じました。
- ・ あまり対応できない；企画調整班の基本的な考えは学べたと思うが、実際にどのような作業を行うかという点はなかったので、緊急時モニタリング要員として対応できるかと言われると、難しいと思いました。

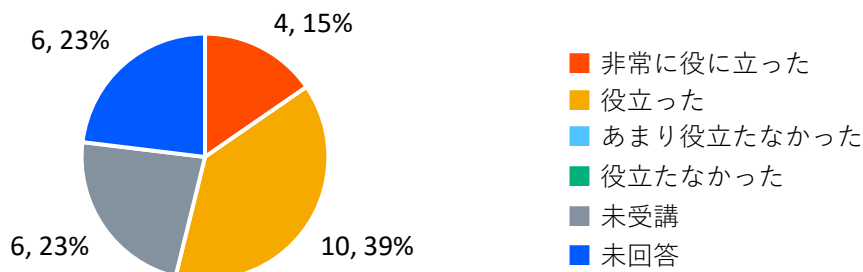
2) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・ 十分に役に立つ；緊急時モニタリングのオペレーションを検討する上で役立つと感じました。
- ・ 十分に役に立つ；モニタリングだけでなく、要員の被ばく対策、道路状況等検討の際の考え方が理解できた。
- ・ 十分に役に立つ；企画調整グループとして、検討の判断材料として勉強になった。
- ・ 十分に役に立つ；モニタリング等に対する考え方を学ぶ機会となり、想定とはずれた場合の対応について考えることを意識する必要性を認識できました。
- ・ 十分に役に立つ；放射能の基本知識を学んでいるところではあるが、研修を通してより具体的な対応方法を知ることができた。
- ・ 十分に役に立つ；様々な想定での対応を学習することができ、緊急モニタリングの目的等を確認することができました。
- ・ 十分に役に立つ；スキルの高い方々と話しながら学ぶことができて良かった。
- ・ 役に立つ；実際の活動に近い検討ができたため役立つように思いました。
- ・ 役に立つ；上記回答は、決して否定的な意味ではなく、今回のグループワークは具体的事象に対する検討であったため、今回の演習に参加したことを以て要員として万能的に対応できるわけではないと思ったという趣旨です。
何でもそうですが、場数を踏まないとなかなか対応力が身に付かないため、このような具体的事象に基づく検討を行える機会は貴重ですし、スキルアップに大変役立つと感じました。
- ・ 役に立つ；課題への対応を討論する中で、他研修者の発言から気付きがあったほか、原子力災害対策指針の考え方等を具体的にイメージすることができました。
- ・ 役に立つ；企画調整班の基本的な考えを学べました。

4-1) e ラーニングは、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。

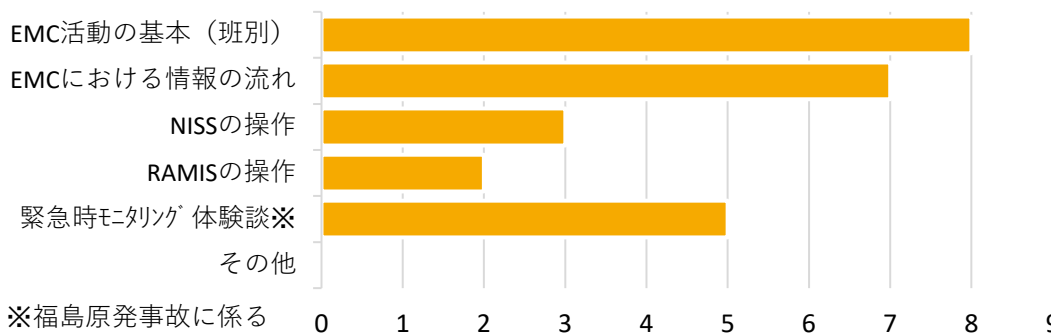


自由記述

- ・ 非常に役に立った；小職は測定分析担当の立場であり、緊急時モニタリングの作業内容を検討する上で研修の中で参加者間で話し合うこと、さらに講師の助言などいずれも有用なものでありました。
- ・ 非常に役に立った；e ラーニングの場合、時間を確保しやすいので、助かります。
- ・ 未回答；時間がなく受講できなかった。

- ・ 非常に役に立った；放射能の基本から学べたことが大きい。
- ・ 非常に役に立った；eラーニングだけでは言葉を覚えていただけだったが、グループワークでほかのメンバーの方が話されている中で理解が深まった、
- ・ 役立った；テストができたので理解が深まりました。
- ・ 未回答；事前に全てのeラーニングを受講できたわけではありませんが、事前にeラーニングでウォーミングアップしてから演習に臨めるため、理解を深めるのに役立ったと思います。
- ・ 役立った；一部のみ受講しましたが、勉強になりました。引き続き活用させていただきたいと思います。
- ・ 役立った；EMCの各班の役割や活動内容を再確認できました。
- ・ 役立った；クロノロジーシステムを知らない受講者も多いと思うので、システム概要をコンテンツに含めてほしい。

4-2) 拡充してほしいeラーニングコンテンツを選んでください。



その他の意見

- ・ なし

4. 講座全般に関する意見・要望

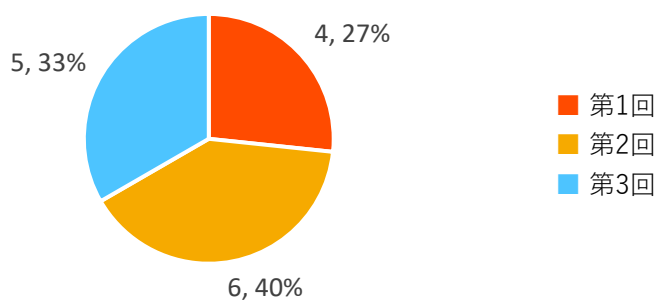
- ・ 原子力災害に限らず、地震や風水害等の自然災害との複合災害時におけるオペレーションも課題に盛り込んで研修参加者に検討してもらうことも考えていただきたい。
- ・ Web会議システムでよく感じる誰かの発話が完全に終わるまで待つ、といった討論では少々もどかしい状況もあったかと思うので、対面開催のほうが進行がスムーズになるのではと感じました。
- ・ eラーニングについて、視聴環境が悪い場合はDVDをお送りいただけるとのことですが、視聴環境に関わらずDVDをお送りいただければ、他の要員も学習できるため、レベルの底上げにつながり、非常にありがたいです。いろいろとご事情はあると推察しますが、ぜひご検討の程よろしく願いいたします。
- ・ ダストモニタ、ヨウ素サンプラ、大気モニタのことも課題に挙げて欲しい。
- ・ 今年度、指示書作成講座で企画調整Gの視点、企画コースで企画調整G、測定分析担当（総括）の視点で事象を検討したが、情報Gについても何を思慮して業務を行うべきなのか、また違った視点や検討が必要なのか、研修をして欲しい。（測定分析結果の評価のやり方等）

実践演習「緊急時モニタリング実施コース」
受講者アンケート集計結果

実施日	:	第1回	2025年	1月	23日
		第2回	2025年	1月	29日
		第3回	2025年	1月	30日

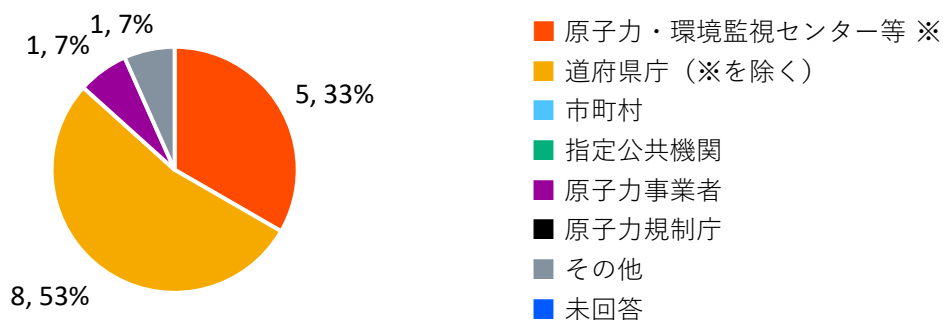
回答者数 : 15 名 受講者数 : 16 名

受講した開催回

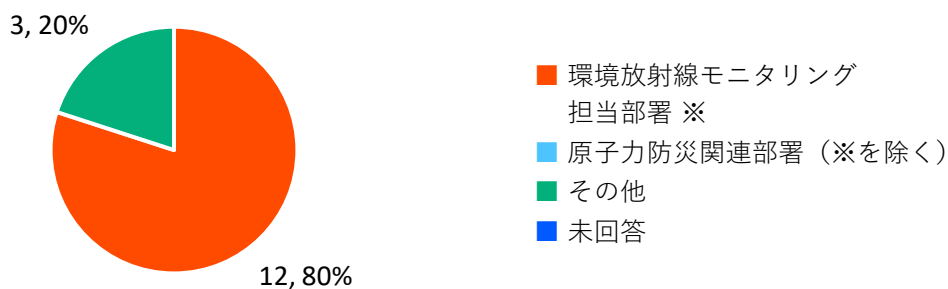


1. 受講者自身及び受講環境について

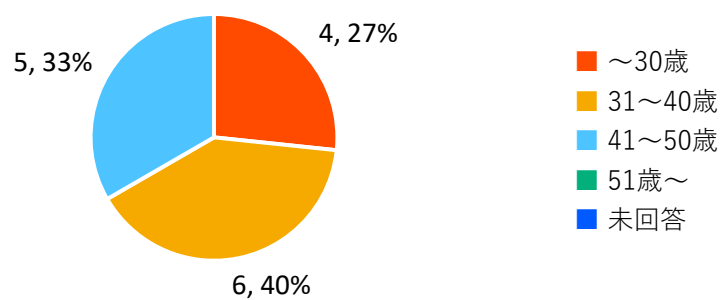
1) 所属



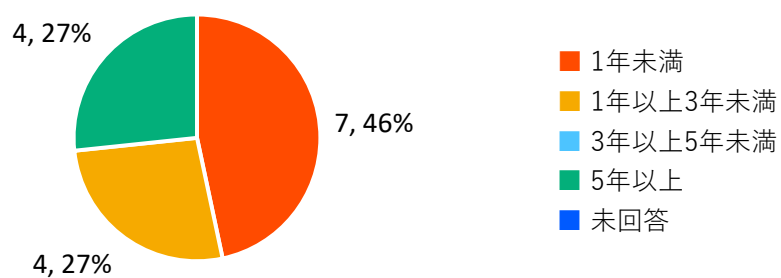
2) 所属部署の属性



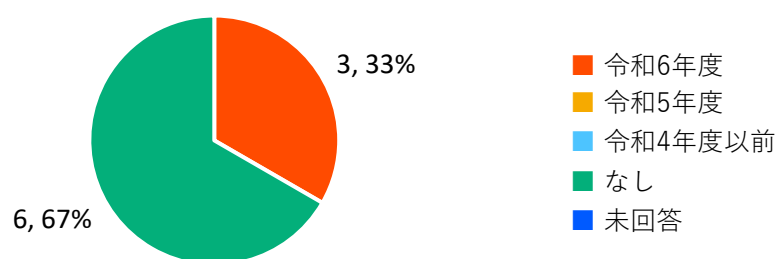
3) 年齢



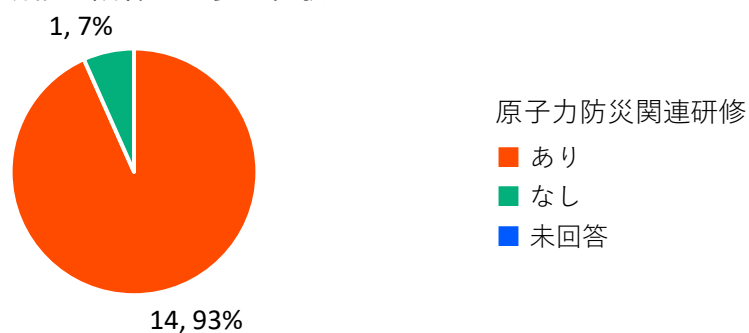
4) 原子力防災・放射線関連業務の経験年数

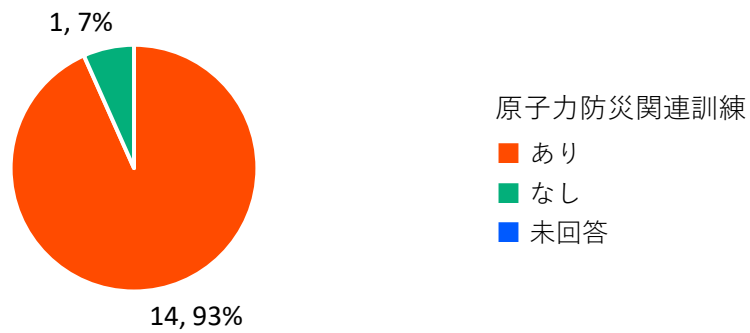


5) モニタリング技術に関する基礎的な講座への参加経験

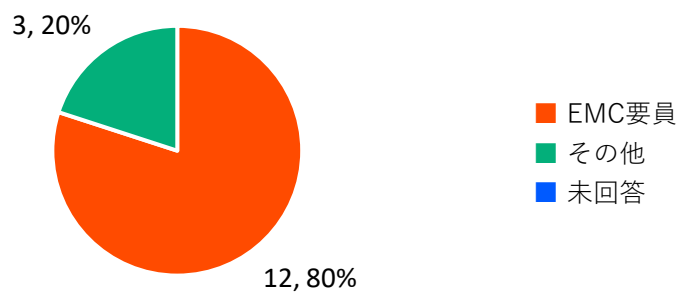


6) 原子力防災関連研修・訓練への参加経験

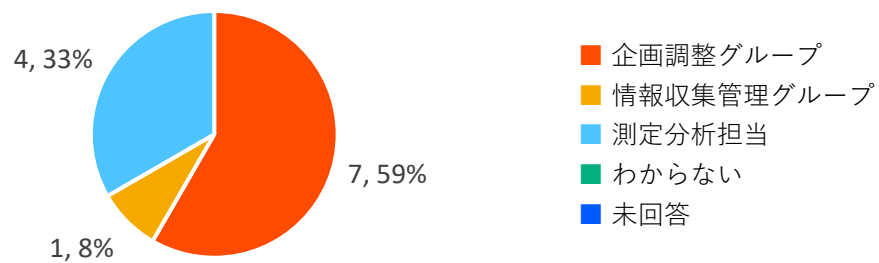




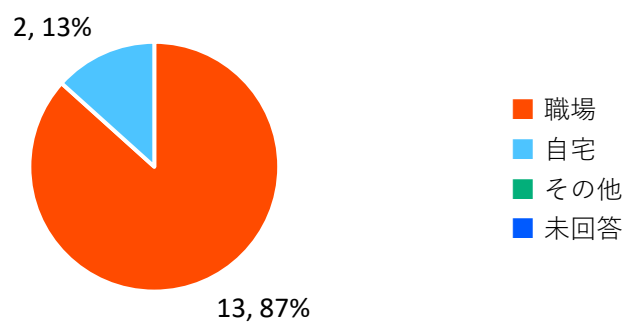
7) 原子力災害発生時の役割



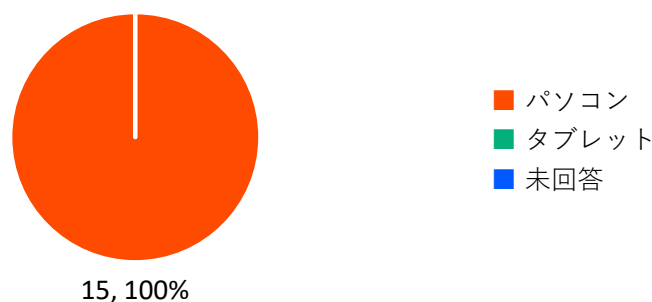
EMC活動における役割 ※前質問でEMC要員と回答した者のみ



8) 受講場所

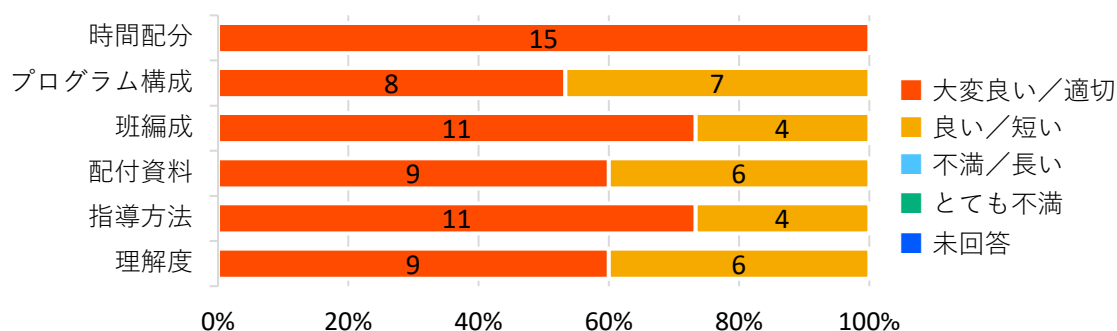
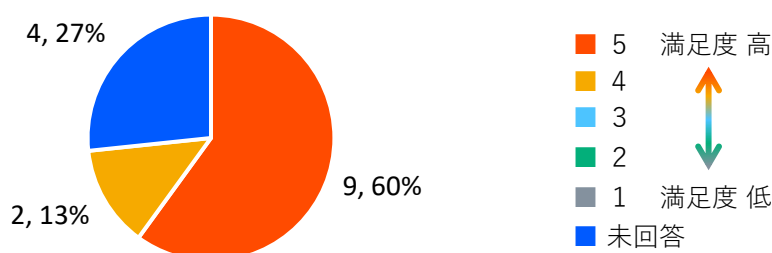


9) 使用デバイス



2. 本講座を内容及び受講環境に関する評価について

1) 内容について

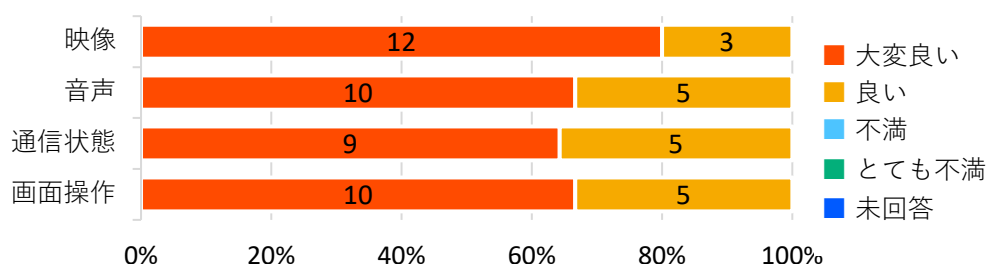


自由記述

- 満足度5；実際のモニタリングを行っている方の意見を聞ける貴重な時間でした。
- 満足度5；各班に講師の方が1名ずつついており、適切なフォローやアドバイスをしてもらえ、満足できる内容だった。
- 満足度5；EMC測定分析担当（実働要員）として訓練等に参加した経験はなく、提示された課題が解決できるか不安だったが、講師からの御指導により課題が解決できた。また、様々な知見も得ることができた。
- 満足度5；各課題の時間配分について、今回は統一的に10分の時間を設けられていたが、設問によって所要時間が変わることもあるため、終了目安を重点に案内があると良いかもしれません。
- 満足度5；起こりうる事象に対する対応の検討ができよかった。
- 満足度5；特に不満はありませんでした。1F事故における緊急時モニタリングで実際に起きた事例についてディスカッションでき、大変有意義な講座だったと思います。
- 未回答；適切な時間配分と班構成人数で、与えられた課題に対して、十分な議論ができた。
- 未回答；講師の方の手助けや、解説わかりやすかった。

- ・ 未回答；異常時の対応について、情報もないまま「どう対応するか？」を考えるのは、実践的に役に立つと思いました。また、他県の情報も得られて有意義でした。

2) 受講環境について

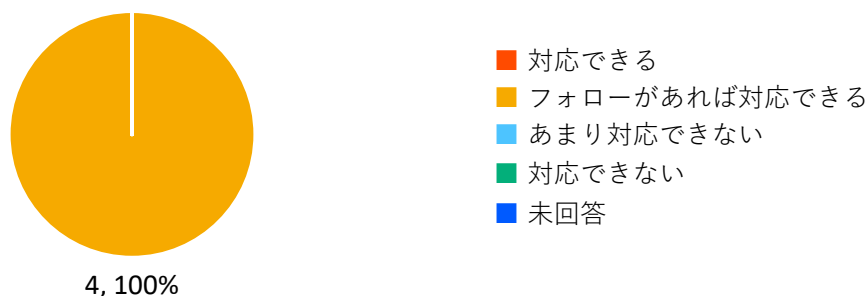


自由記述

- ・ 事前に接続テストで必要な操作について、教えていただいていたので、スムーズに作業ができた。
- ・ 特に支障なく受講できたため。
- ・ 動作不良等なく受講できた。音声、映像の乱れもなかった。
- ・ 画面共有が同時にはできないので、その切り替えがスムーズにできればよりよいと思います。
- ・ 問題なく使用・受講できました。
- ・ こちらに通信環境のせいか一時音声途切れることがあった。
- ・ 通信状態の関係でスライドの同期が遅れた場面があったが、進行に大きな問題はなかったと思います。

3. 本講座を受講しての所感等について

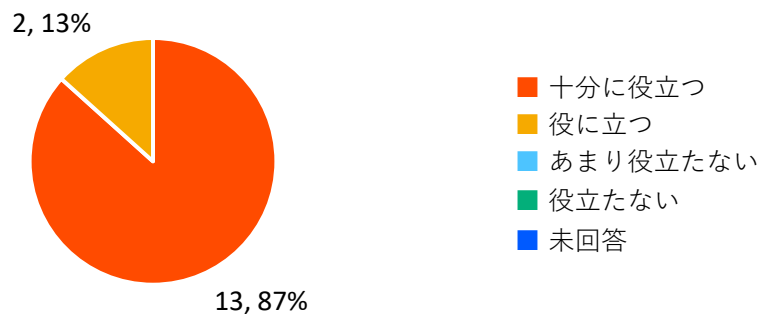
1) 本講座を受講したことで、緊急時モニタリング要員として対応できますか。



自由記述

- ・ 対応できる；モニタリングの目的をしっかりと理解し活動できると考える。
- ・ フォローがあれば対応できる；これまで検討していない事例が多くありましたので、大変勉強になりました。
- ・ フォローがあれば対応できる；自分は知らない実際のモニタリングの話を聞いたことで、少しは対応できる知識が身に付いたと思います。
- ・ フォローがあれば対応できる；課題で提示された以外にも様々なイレギュラーが発生すると考えられるので、まだフォローが必要と考える。
- ・ フォローがあれば対応できる；本講座で検討した課題の他にも、様々なトラブルが発生する可能性があるため。
- ・ フォローがあれば対応できる；自分だけで本当にこの判断で正しいか、という迷いがぬぐい切れなかったため。
- ・ フォローがあれば対応できる；発生から終結までの流れをおさえたわけではないから。ただ、本講座を受講したことで対応時に起きる問題の解決能力は向上したと思う。
- ・ あまり対応できない；判断に必要な情報の収集など知ることができた。ただし講習で出た以外の対応は自信がない。

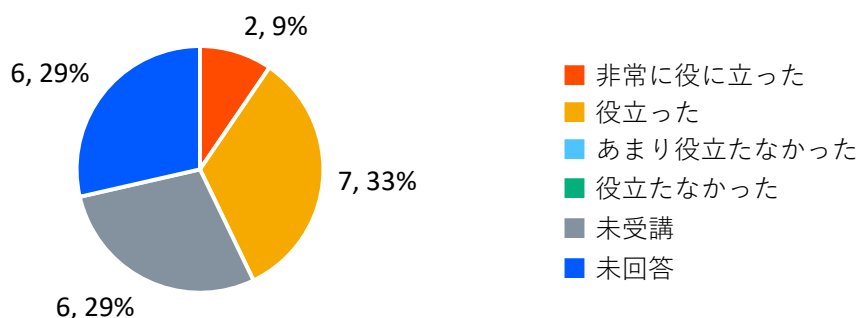
2) 本訓練は、ご自身の知識やスキルの向上に役立ちましたか。



自由記述

- ・十分に役に立つ；トラブル対応に役立つ内容だと感じました。
- ・十分に役に立つ；実際の話を聞くことで自分の知識が増えました。
- ・十分に役に立つ；規格調整グループとして活動する際にも、現地で発生するイレギュラーへの対応に関する知識が必要なため。
- ・十分に役に立つ；放射線関連業務の経験年数が浅いため、知識を深めることができた。
- ・十分に役に立つ；現実には起こりうる状況のシミュレーションができて、有意義でした。
- ・十分に役に立つ；マニュアル等の文書だけでは理解し難い部分も、演習を通じて理解することができた。
- ・十分に役に立つ；緊急事態対応時に起きるトラブルの事例とその解決策を学べた。実際にそのようなトラブルが起きたときに対応できるようになったと思う。
- ・十分に役に立つ；様々な課題に対する対応について考え、意見を交わすことができ、頭の体操になるとともに、新たな気づきもあり有用であった。
- ・役に立つ；訓練でも想定していなかった状況を考えることができ、より本番に近い内容だとおもった。

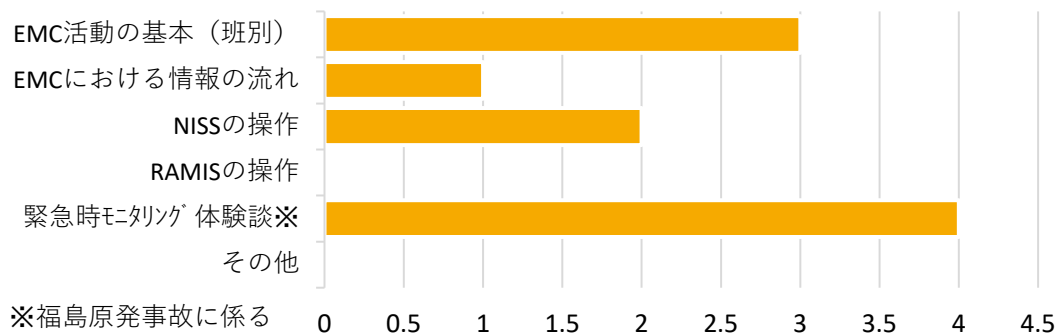
4-1) e ラーニングは、本訓練の理解を深めるのに役立ちましたか。



自由記述

- ・役立った；基礎を確認することができたため。

4-2) 拡充してほしいeラーニングコンテンツを選んでください。



その他の意見

- ・ なし

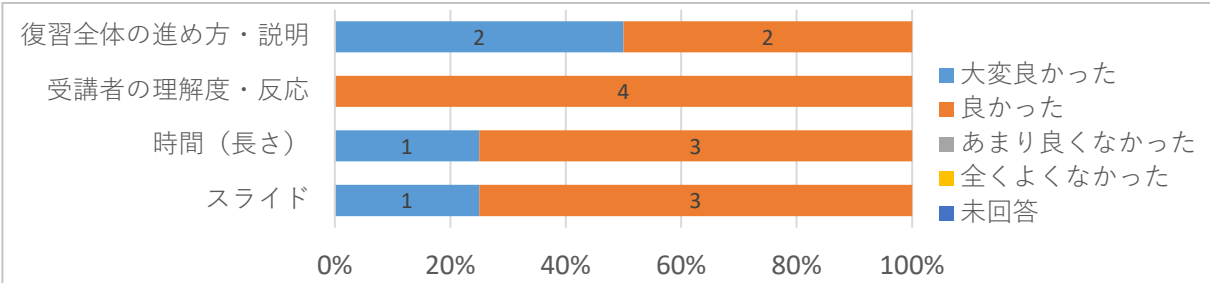
4. 講座全般に関する意見・要望

- ・ 当日の回答例のスライドを提供してほしい。
- ・ 原子力防災に関して、知識がなく実際に作業する資機材に関しても見たこともなく大した意見もできず、班員に迷惑をかけてしまったと思うが、個人的には大変勉強になりました、貴重な意見、知識を共有していただき今後の業務に活かしていきたいと感じた。
- ・ 回答例として、理想的な正解だけではなく、迷うポイントや複数選択肢のメリット・デメリットも掲載いただけるとありがたいです。

実践演習「緊急時モニタリング指示書作成講座」
講師アンケート集計結果

実施日	2024年7月3日・4日	回答者数	4	名
(計2回)				

1. カリキュラムについて



自由記述

- 自治体の立地状況(立地一周辺、単独・複数等)によって、自地域と異なる状況の地域における活動について実感できないということを改めて理解した。
相互に見学等、交流を行い、異なる状況での活動を学ぶことが、お互いへの新しい気づきに繋がるのではないかと感じた。

(例)道府県E:浄水場が無人のためモニタリング要員が採取に回る、このため採取時刻を指定することが困難。
隣接地域:測定分析担当要員から見ると、EMCに派遣された道府県の要員が隣接地域宛での指示書を作成、発行しているように見えること。
道府県I:放出中に関する記載事項は良。放出停止を受けて回収に出た際に再放出に遭った際の備えとして記載してはどうか。

- 【各自治体担当者様への御提案】
今回の演習では、放射性物質放出時の蛇口水の採取についてフォーカスされていたので、ちょっと思ったことを。
市役所(支所)、町村役場等の放射性物質放出中に蛇口水を採取する地点には、あらかじめ採水容器を配布しておくことが望ましい、と考えます。

既に実施済みの自治体も多いと思いますが、更に、
1 採水容器と一緒に採水マニュアルを配布しておく。
2 配布した採水容器が行方不明にならないように、年1回程度は配布先を巡回して採水容器の保管場所、保管状況(健全性)を確認する。
3 容器配布先の職員も人事異動で人が替わるでしょうから、上記2の容器の確認に合わせて、採水担当(予定)者に対して、採水方法をレクチャーする。
といったことも考えていただけると有り難いと思いました。

既に実施済みであれば結構ですし、そんなことやってる時間はない、と叱られるのかも知れませんが、採水容器配布後のアフターケアというかフォローアップも必要ではないか、と考えた次第です。

2. 指導のポイントやQA集として講師が共有するとよいと思われる事項

- 各県で予め整備されている地域毎の資料については、素晴らしいものが多く見られた。
(例)
道府県M: 飲料水地点資料(写真、道順等)
道府県H: 水道管路
参加自治体へ、協会さんから水平展開されてはいかがか。

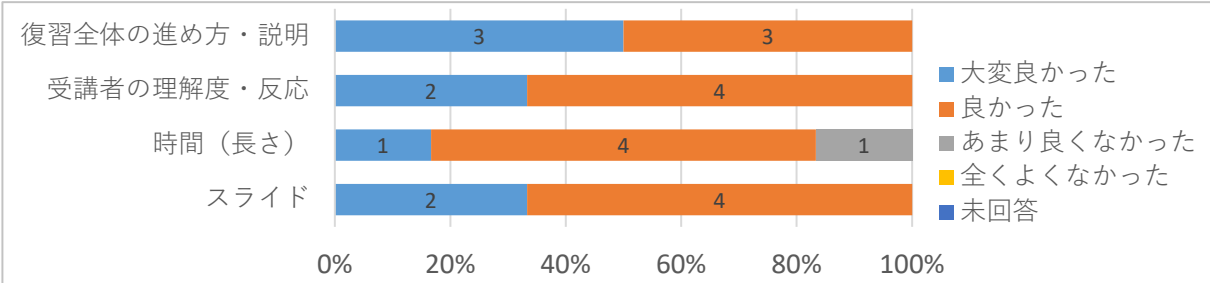
3. その他の気づきの事項

- 分析結果の報告時刻に関する記載が見られたが、放出時の蛇口水について回収、分析を時刻指定することは困難。
採取時刻を定期時刻に整理する方が現実的と思われる。離島におけるモニタリング問題は難しいが、(可能ならば)離島内で完結するモニタリングが理想的。
例としては、総合防災訓練(H29)の際に、隣接県が離島に走行モニタリングシステム、サーベイメータ等を整備し、島内のモニタリングは島内要員、資機材で賄う方針で実施した事例がある。
(島内要員での実動訓練も実施)
同訓練では、反対に小さな離島では敢えて飲料水分析を行わない、という検討結果も出された。そこでは離島における試料採取、運搬、分析が実施困難なため、割り切って備蓄水のみを飲用するよう防災上の対応を行った。(備蓄水が不足したら、自衛隊が空輸して浜辺にパラシュート投下するというアクロバティックな対応までがワンセット)
モニタリングだけでは対応出来ない状況について、防災も絡めて対応する頭の体操も現実的には必要かと思われる。

実践演習「緊急時モニタリング企画コース」
講師アンケート集計結果

実施日	2024年7月5日・8日	回答者数	6	名
(計2回)				

1. カリキュラムについて



自由記述

- 1班4名体制で各人の意見を十分に聞くことができた。
 - 時間をあと10分あると良かった。
 - ① 課題が昨年度と同内容だったため、年度毎に見直し等行っていたいただきたいと感じた。
 - ② UPZ外のモニタリングについて、国の所管であると認識している方は多いが、EMCでは、国・自治体の線引きなく一体として活動を行うことを認識している方は少ないように感じられた。（例：UPZ外については国に依頼する、等）
- UPZ外緊急時モニタリング計画はEMC運営要領内に記載されている内容であり、今後の本研修を含めた訓練・研修活動において、EMCはUPZ内外を問わず活動を行う組織であることを周知・啓蒙する必要があると強く感じた。
- 出水上席も指摘していたように、課題が多すぎるため、時間が足りないのかもしれないです。演習時間は、これ以上延ばせないと思うので、課題を減らす方向ですかね。
参加者の練度にもよりますが、時間が足りないと不完全燃焼になるおそれがあるので。
また、時間が足りなくなってしまうことを気にして余りコメントしなかったのですが、コメントしようと思えばどの課題に対してもコメント出来ました。せっかく上席が同席しているので、時間があれば、各課題の最後に上席からのコメントを促していただける時間があると良かったと思います。

課題2について

水源地の近くをブルームが通過したからといって直ちに水源で採水する必要はないと思います。そもそも緊モニ実施計画では水源で採水することになっていませんし、自治体の環境試料採取地点リストには、放出中の屋内採取場所と浄水場として整理されている（水源地で採水することになっていない）ものと思います。浄水場の水を採取して測定すれば目的は達成されるのではないのでしょうか？重要なのは、「汚染された可能性のある水源の水を取水している浄水場がどこなのか、直ちに判断できる体制になっている」ことではないのでしょうか？そのためにどのような資料を整理しておくべきか、自治体の職員が気付いて準備してくれることを期待します。また、測定分析担当がEMCと離れた場所にある場合には、連絡が疎遠になりがちであるため、EMCとの連絡を密にすることを意識付けることも、この課題の役割かと思います。指示書の手戻りや修正を減らすために出来ることは積極的に実施してほしいと思います。それが迅速にモニタリング結果を出すことに繋がるのだと思います。

更に、汚染可能性水源の下流にある浄水場の水の測定についての優先順位が上になるはずなので、それを意識していれば、当該浄水場の水の回収、測定を真っ先に行うためのチーム編成や分析班への指示に繋がるものと思います。

課題4について

走行サーベイルートが4ルートあって、走行サーベイ車が4台あるので、4ルート全部走行させがちですが、果たしてそうですかね？

最初の走行サーベイの目的が、OIL2エリアの染み出し(はみ出し?)の有無であるならば、線量が上昇していない走行ルートは後回し(もしくは実施しない)のではないのでしょうか？私だったら、OIL2越が疑われる基幹ルートを走らせるのと同時に、基幹ルートではないけれども、走行して確認した方がいい道路があるのであれば、そちらを真っ先に走行するよう指示を出したいですね。結果的に走行サーベイ4チーム8人は変わらないですが。

課題5について

防護区域の地区は、MPが黄色を叩いた時点で一時移転区域と判定される(ギリ20 μ Sv/hだったら違う判断があるかもしれませんが、明らかに20 μ Sv/h越えであれば)と思いますので、EMCとしては地区に隣接している防護区域の境界線辺りを走行モニタリングして、隣接地区にOIL2がしみ出していないことを確認するのではないかと思います。こうすることで走行サーベイ車の汚染も要員の被ばくも低減できるものと思います。

また、時間的優先順位はOIL2の境界線把握の方なので、0.5越境界線把握の方は後回しになるように思います。(リソースが十分あるなら同時でもいいですが)

PAZ内は住民避難が完了して人がいないのであれば測定する必要もないですね。(わざわざPAZに入る必要はない。)

UPZ外の0.5 μ Sv/h越えエリア(市町村)の確認は、UPZ外のモニタリング拠点到別のリソース(国+電力)が参集しているのであれば、それを使ってOIL2越えエリア把握と同時にUPZ外の走行モニタリングをして確認するものと思います。

2. 指導のポイントやQA集として講師が共有するとよいと思われる事項

- ・UPZ外の測定分析拠点については、各地域で整備・調整が進められている。
- ・発災時には、周辺地域の上席放射線防災専門官が参集することとなっている。
- ・業務範囲としては空間放射線量率測定とされている。
- ・UPZ外走行モニタリングルートについては、自治体が定めるUPZ内走行モニタリングルート同様に、予め基幹ルートが定められている。

また、EMC活動訓練、総合防災訓練等でも、UPZ外拠点との通信連絡訓練が実施されており、防災携帯、RAMISタブレットを用いた指示書等の情報伝達についても自治体側でも周知の事実となってきた。

国主催の研修事業である本研修において、研修内容がUPZ外モニタリングに関する国の運用状況とズレの無いよう、講師の皆様にもご認識いただき、受講生各位に正しく伝えていただきたいと、切にお願いする次第。

・ 課題1

蛇口水の回収のタイミングを想像できるようなコメントをする。(直ちに回収されない可能性もあるため、保存やあらかじめ配布する容器数についても考慮する必要がある。)

課題2

・水源地で採水する必要性？

・総括連絡班という立場で、どう行動すべきか？がポイントであり、その視点で考えること(気付いた時点で総括連絡班から指示書を作成する企画調整Gへの連絡等)

課題3

企画調整Gとして、UPZ内の走行サーベイルートとUPZ外の走行サーベイルートで抜けがないように指示書を作成すること等

課題4

・優先順位の付け方とリソース(要員・車)の配分の仕方の考え方

基幹ルート近傍に浄水場や土壌採取地点があると、走行サーベイと一緒にやっってしまうと考えがちであるが、走行サーベイの優先順位が上ならば、走行サーベイ専門チームを編成することが望ましい。OIL2越地区の判断には時間的制約(1日以内)があるため、他の業務も兼ねてしまうと試料採取用の資機材の準備や採取に時間を取られてしまうためNG。またリソースが豊富にあるなら、水と土壌は分けるべき(コンタミのリスクを減らすため)と考えます。リソースが少ない場合には、応援を頼みつつも水と土壌を効率的に採取するため同一チームが実施する場合もありか。

課題5

走行サーベイの目的を考えて欲しい。まずはOIL2の地域がどこまでなのかを把握すること。

土壌の採取地点は、緊急時モニタリング補足参考資料にはOIL2を超過したMP近傍の他に、「大気モニタ設置地点」もあるため、大気モニタ設置地点も地図に入れるべきでは？同様に浄水場(飲料水)の位置も地図にあれば、具体的な採取ルートを考えられる。

他に行うべきモニタリングについては、〇〇市、●●市での走行サーベイ(0.5 μ 越えの市町村把握)の他にも、大気モニタのろ紙・ヨウ素サンプラのカートリッジ回収が必要な場合がある。

3. その他の気づきの事項

- ・参加者の意見で、企画コースという事で、企画班から参加させたが、設問で総括・連絡班の設定もあり、それであれば総括・連絡班の要員も出席させたかった。
案内を明確にした方が良い。
- ・課題5について
道府県D地域だけではなく、他の地域でも同様の課題を作成してみたら如何か？条件としては、防護区域とモニタリングポストの紐付けの図が作成されていること。

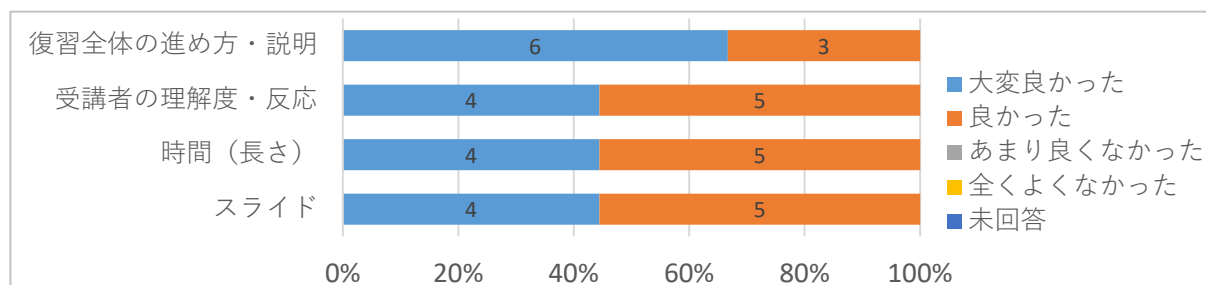
実践演習「緊急時モニタリング実施コース」 講師アンケート集計結果

実施日 : 2025年1月23日・29日・30日

回答者数 : 9 名

(計3回)

1. カリキュラムについて



自由記述

- ・ 時間が3時間と長すぎると思います。2時間位にした方が良い。
問題数を減らして、ステップ1(4問)、ステップ2(4問)とするのもよいのではないのでしょうか。
- ・ 受講者からは、各課題において適切な意見が出され、有意義な認識の共有が図られていたように思われる。
- ・ A班の受講者はサーベイメータを知らない方や実働の経験はないが、OFCの放射線班として訓練に参加した方など経験レベルに差があったが、リーダーが皆さんの意見をうまく引き出して頂き、さくさくと進めることができました。
- ・ 多少、時間が余ったので、アドバイザーとして参加された女川原子力事務所の河村上席放射線専門官から各課題に関してアドバイスを頂けたのも良かったと思います。
- ・ 現在自治体で使用しているラミセス情報端末は国の指示により廃止となるとの情報が河村上席よりありました。
- ・ 各自の自己紹介における、各県の資機材紹介で、ハザードトーク、タブレット等の連絡機器に関する情報が参加者より提示されました。普段、この段階では出てこない機器について紹介され、非常に興味深く拝聴しました。また、ハザードトークは通話のみならず、画像の撮影共有(事後)も可能であり、有用なツールであると感じました。
ウォーミングアップ時の協議内容ではありますが、このような有用な情報についても事後、整理し、参加者全員(別日参加者も含む)へ共有することも有意義ではないかと思われます。

2. 指導のポイントやQA集として講師が共有するとよいと思われる事項

- ・ 今回使用された課題については、不足ないように感じられるが、従来と異なるバージョンも御準備いただけると、更に有意義な講習になると思われます。
- ・ 今回初めて、全体進行を担当させていただきました。良い経験でした。
- ・ 解答(解説)時にどうしても、PPTの文章を読んでしまいがちで、出席者は退屈かもしれない。PPTはポイントを箇条書きにして、講師は補足しながら説明するのが良いかもしれない。
- ・ 積雪の際の解説時に、豪雪の地域や雪のない地域の出席者に話を振って、対話形式を試みてみました。一方通行にならないように、他の設問でも、もう少しやればよかったかな? 事前にネタを仕入れておく必要がありますけどね。

- ・ 今回解説に図表を4つ追加し、理解を深める試みを実施しました。参加者の反応はどうだったのだろう？ 解説には、文章だけでなくもう少し、図表を追加しビジュアルに印象に残るようにしたい。
 - ・ 帰還時にBG指示値が5倍の箇所、何Bqの汚染くらいで指示値が上昇するか？出席者に感覚を伝えたい。(ちょっと実験or計算が必要ですけどね)
 - ・ 規制庁よりラミセスは廃止方向であるとの情報があつた。
 - ・ 今回のチーム(Bチーム)は比較的経験の少ない者が多かったため、意見が活発には出ず、出される意見も少々自信なさげな印象でした。
やはり、チーム分けの効果は大きいと感じられました。(その分、素直な印象ではありましたが)
- 住民対応に関する設問では、基本的に正しい回答が出ていたが、EMCとして出来ないので断る、だけではなく、原子力防災全体としての動きを鑑みて、それを担当する部署へ引継ことも含めて解説されてはいいかがか。
- ・ 今日の回答にもありましたが、課題③と⑥において、サーベイメータの故障(が疑われる)の場合には、当該サーベイメータを識別(故障表示をする)等して、間違つて使用されることのないようにする措置をしておくといいと思います。

3. その他の気づきの事項

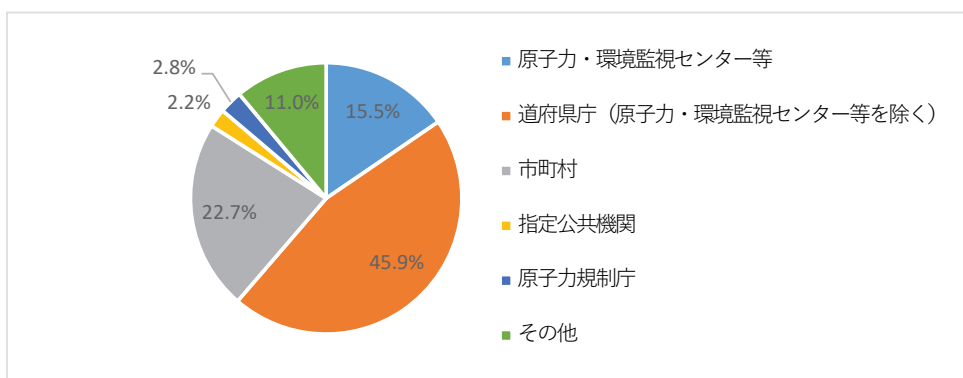
- ・ 今回の参加者は、偶然と思われますが、福島事故経験者から今年度からの経験者、年配の方から若年者、積雪する地域、しない地域等、取り混ぜたチームになっており、非常にバランスが良く、そのためか議論も活発に行われていたように感じられました。
参加数が多い場合、議論が弾むようなチーム編成は、おそらく従来から留意されてるかと思われますが、研修効果的に非常に重要であると感じました。
- ・ グループワークは2班で実施したが、進捗にばらつきがあり
A班は、定刻の10分前に設問8まで完了。
B班は、定刻の5分すぎて、設問7までで打ち切り。という結果であつた。
改善案として
①各班にリーダー、書記の他にタイムキーパーを設けてはいかがだろうか？
②各班のリーダーの力量にもよるので、アドバイザー(講師)が解答を言わないにしても、進行の手伝いをしたほうがよさそうです。
③ウォーミングアップの設問は、アドバイザー(講師)がリーダーを務め、時間管理も含めて進行の見本を見せるのが、良いかもしれない。
④規制庁の上席が各班につき、設問毎にコメント、アドバイスをやるケースがあるが、これらのコメントは、当該班だけでなく、他の班にも情報共有したいので、全体会議の時に発言いただくよう、あらかじめ言っておいたほうがいいかもしれない。班内で質問があつた場合には、お答えいただくのはGOODです。
- ・ グループワークでは自由に話をする方法で進めてたが、リーダーが無言となつたまま進まない時間があつた。順番を決めて話をさせるようにすれば良かったと反省をしている。
- ・ 各質問事項で全て10分を超えていた。最初に時間配分の説明をしっかりとるようにすべきであつた。
- ・ 毎回書いて、申し訳ありませんが、従来と異なるバージョンも御準備いただけると、更に有意義な講習になると思われます。来年度に向けて、期待しております。

- ・ ウォーミングアップで緊急時モニタリングに使用する主な資機材で出てこないことが多いのですが、本日、ちょっと気付きました。発電所社員や規制事務所職員が業務で発電所内を移動する際には、必ずヘルメットを被ります。1F構内で作業する際には、イエローゾーン以上であれば、防護服等を装備した上で最後に屋外用ヘルメットを被って現場に出ます。現場に行くモニタリング要員も複合災害(特に地震)で図上からの落下物が想定される場合には、作業安全上ヘルメットを被っていくべきだと思うのですが、研修や訓練においてもヘルメットの話は余り出ていない気がします。日常的に作業現場に入る人達にとっては作業安全上の一般常識かもしれませんが、ヘルメット着用について一言付け加えてもいいのかな?と思いました。
ついでに、サイズがあるものはキット化に向いていませんが、持って行く物のチェックリスト(サイズがある物も含めて)を付けてキット化しておくことで、忘れ物防止&誰が準備しても間違えずに迅速に出動するための一助になると思います。(緊急時モニタリングの沈着後の出動までには、ある程度時間的余裕があるでしょうから、例えばSEになって一から持ち物を準備したとしても間に合うことは十分考えられますが、緊急時という通常とは異なる状態で慌てていると凡ミスすることも有り得るので、出来ることは平常時の段階で準備しておくのがよろしいのでは、と思っています。)
- ・ 最後に参加者から感想を聞いたことはよかった。

令和6年度 緊急時モニタリング要員育成
eラーニングアンケート集計
モニタリング技術に関する基礎的な講座コンテンツ
回答者 181名

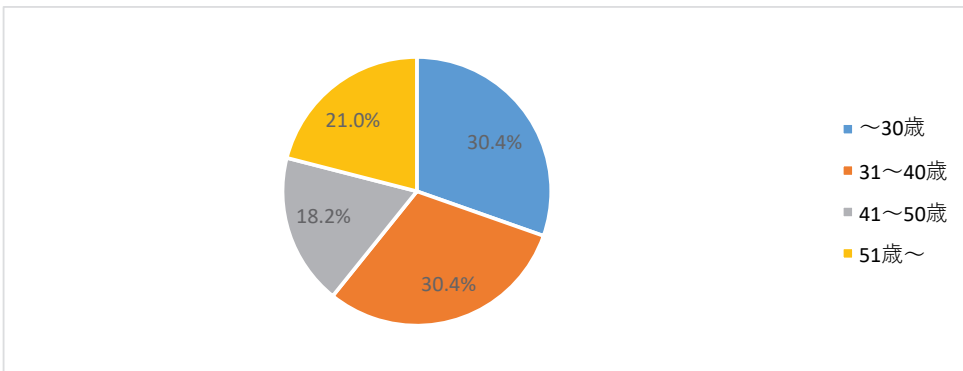
問1 所属

	原子力・ 環境監視 センター 等	道府県庁 (原子 力・環境 監視セン ター等を 除く)	市町村	指定公共 機関	原子力規 制庁	その他
回答数	28	83	41	4	5	20
割合	15.5%	45.9%	22.7%	2.2%	2.8%	11.0%



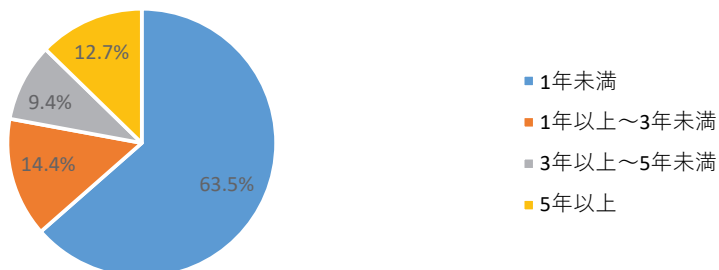
問2 年齢

	～30歳	31～40歳	41～50歳	51歳～
回答数	55	55	33	38
割合	30.4%	30.4%	18.2%	21.0%



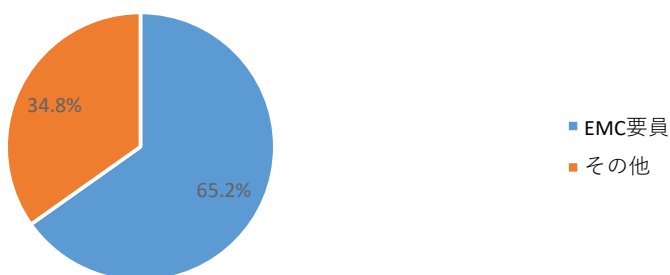
問3 経験年数

	1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上
回答数	115	26	17	23
割合	63.5%	14.4%	9.4%	12.7%



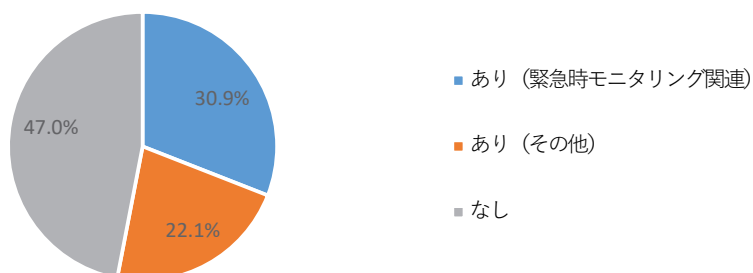
問4 原子力災害時に緊急時モニタリング要員として活動されますか。

	EMC要員	その他
回答数	118	63
割合	65.2%	34.8%



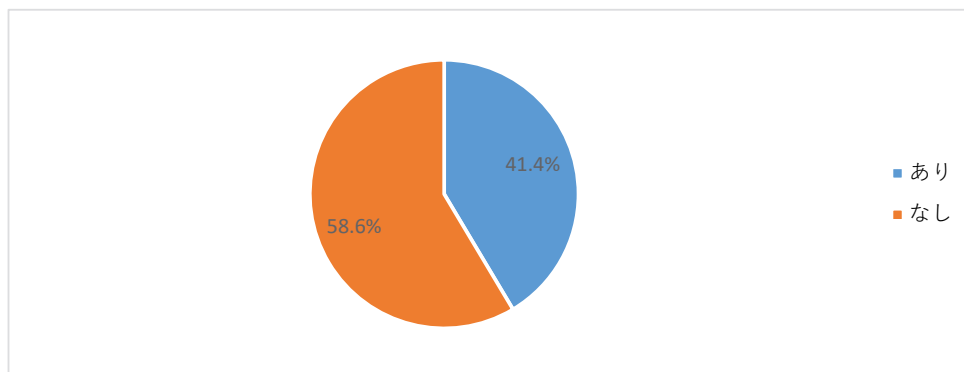
問5 これまでの原子力防災関連研修への参加経験

	あり（緊急時モニタリング関連）	あり（その他）	なし
回答数	56	40	85
割合	30.9%	22.1%	47.0%



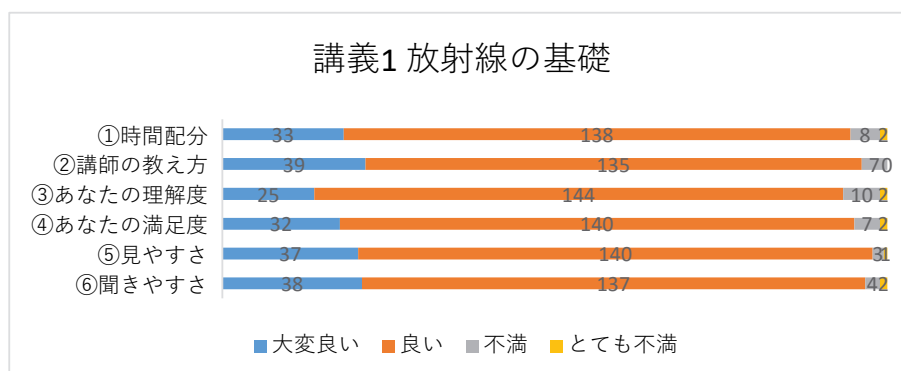
問6 これまでの原子力防災訓練への参加経験

	あり	なし
回答数	75	106
割合	41.4%	58.6%



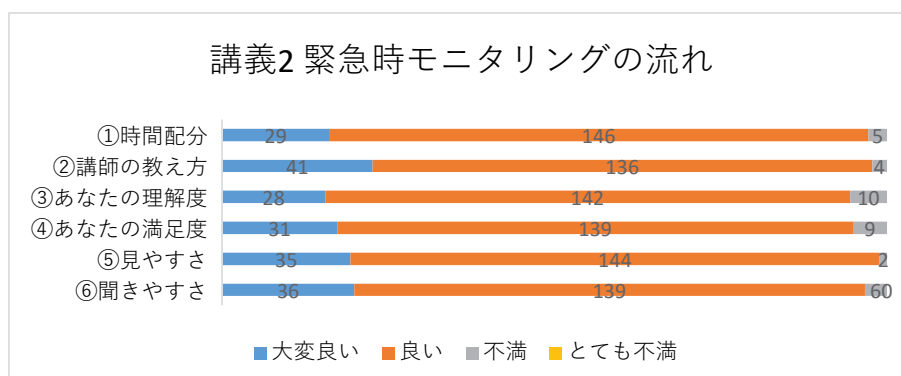
問7 講義1 放射線の基礎

	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	33	18.2%	138	76.2%	8	4.4%	2	1.1%
②講師の教え方	39	21.5%	135	74.6%	7	3.9%	0	0.0%
③あなたの理解度	25	13.8%	144	79.6%	10	5.5%	2	1.1%
④あなたの満足度	32	17.7%	140	77.3%	7	3.9%	2	1.1%
⑤見やすさ	37	20.4%	140	77.3%	3	1.7%	1	0.6%
⑥聞きやすさ	38	21.0%	137	75.7%	4	2.2%	2	1.1%



講義2 緊急時モニタリングの流れ

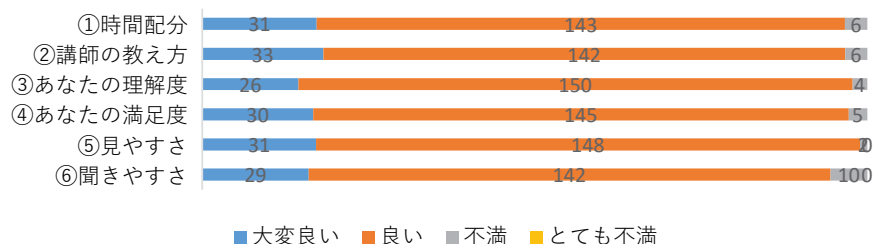
	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	29	16.1%	146	81.1%	5	2.8%		0.0%
②講師の教え方	41	22.7%	136	75.1%	4	2.2%		0.0%
③あなたの理解度	28	15.6%	142	78.9%	10	5.6%		0.0%
④あなたの満足度	31	17.3%	139	77.7%	9	5.0%		0.0%
⑤見やすさ	35	19.3%	144	79.6%	2	1.1%		0.0%
⑥聞きやすさ	36	19.9%	139	76.8%	6	3.3%	0	0.0%



講義3 緊急時モニタリングの実際

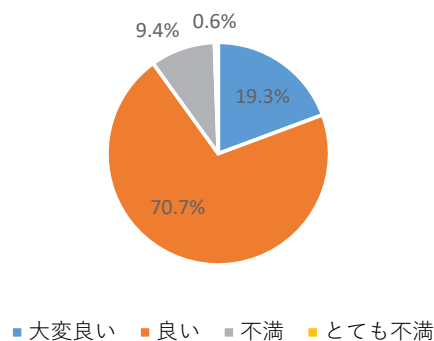
	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	31	17.2%	143	79.4%	6	3.3%		0.0%
②講師の教え方	33	18.2%	142	78.5%	6	3.3%		0.0%
③あなたの理解度	26	14.4%	150	83.3%	4	2.2%		0.0%
④あなたの満足度	30	16.7%	145	80.6%	5	2.8%		0.0%
⑤見やすさ	31	17.1%	148	81.8%	2	1.1%	0	0.0%
⑥聞きやすさ	29	16.0%	142	78.5%	10	5.5%	0	0.0%

講義3 緊急時モニタリングの実際



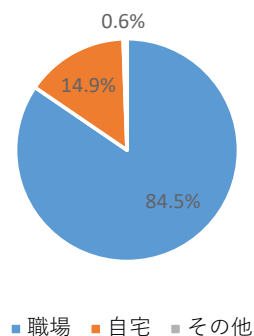
問8 操作性

	大変良い	良い	不満	とても不満
回答数	35	128	17	1
割合	19.3%	70.7%	9.4%	0.6%



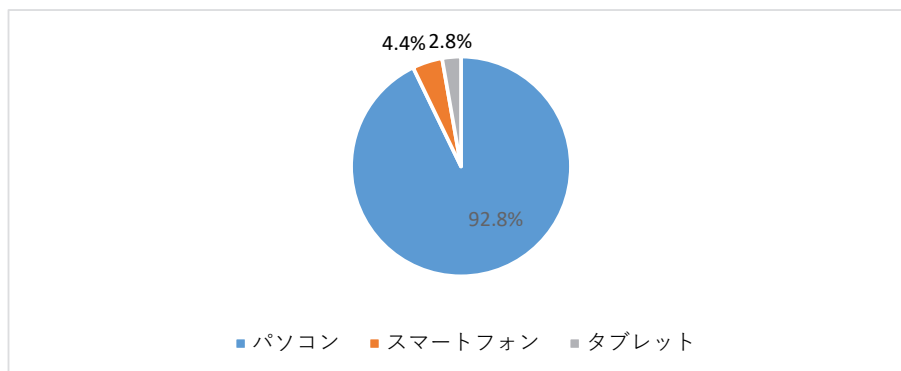
問9 受講場所

	職場	自宅	その他
回答数	153	27	1
割合	84.5%	14.9%	0.6%



問10 デバイス

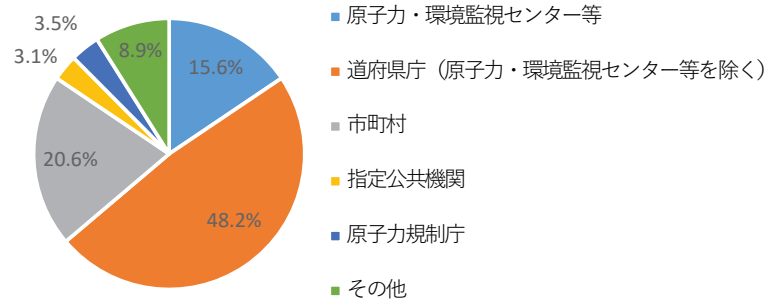
	パソコン	スマートフォン	タブレット
回答数	168	8	5
割合	92.8%	4.4%	2.8%



令和6年度 緊急時モニタリング要員育成
eラーニングアンケート集計
基礎講座コンテンツ 理解度確認テスト
回答者 257名

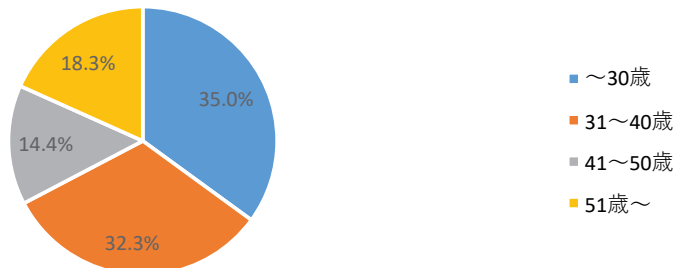
問1 所属

	原子力・環境監視センター等	道府県庁（原子力・環境監視センター等を除く）	市町村	指定公共機関	原子力規制庁	その他
回答数	40	124	53	8	9	23
割合	15.6%	48.2%	20.6%	3.1%	3.5%	8.9%



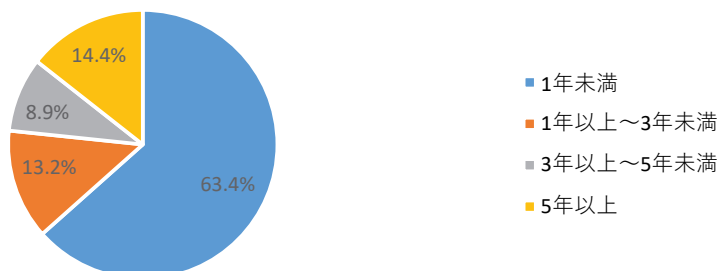
問2 年齢

	～30歳	31～40歳	41～50歳	51歳～
回答数	90	83	37	47
割合	35.0%	32.3%	14.4%	18.3%



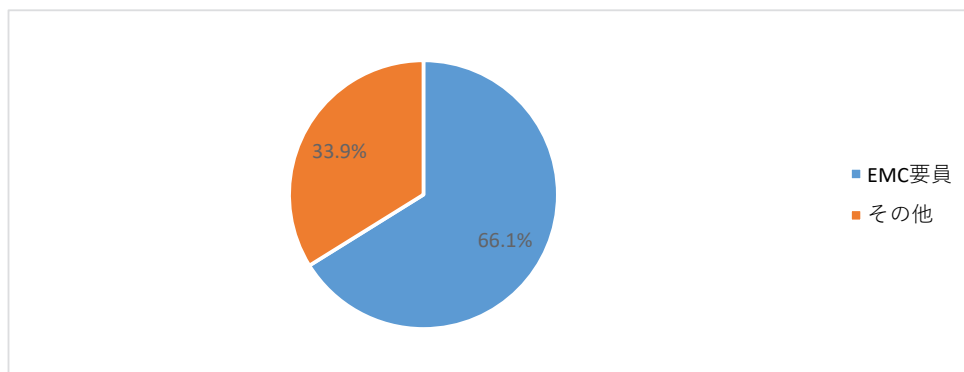
問3 経験年数

	1年未満	1年以上～3年未満	3年以上～5年未満	5年以上
回答数	163	34	23	37
割合	63.4%	13.2%	8.9%	14.4%



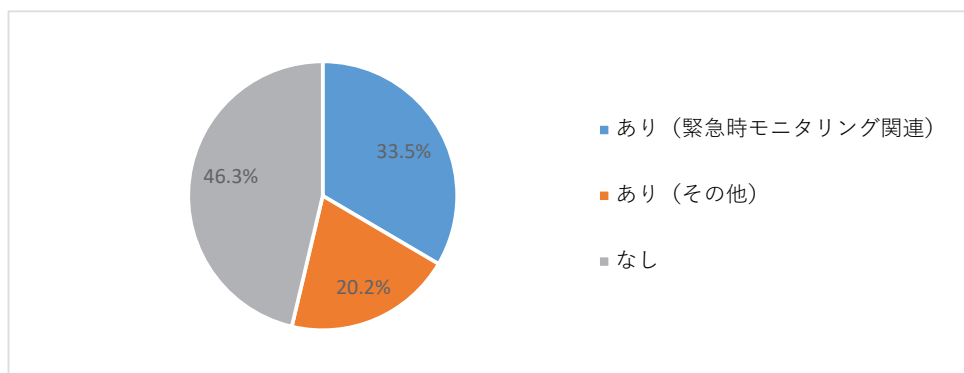
問4 原子力災害時に緊急時モニタリング要員として活動されますか。

	EMC要員	その他
回答数	170	87
割合	66.1%	33.9%



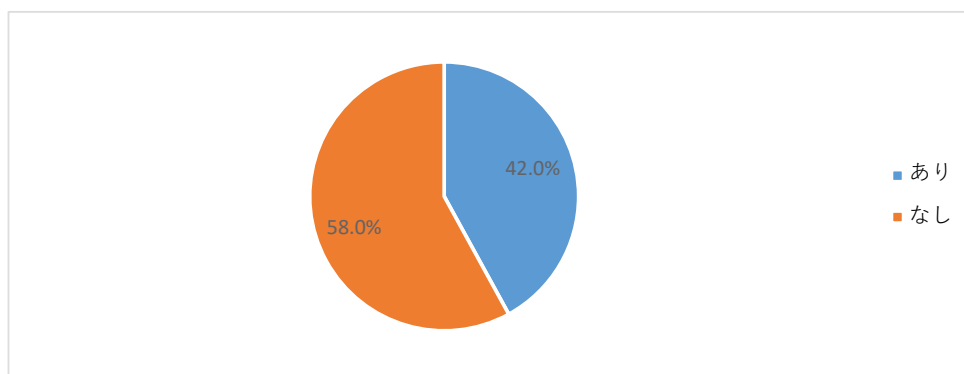
問5 これまでの原子力防災関連研修への参加経験

	あり（緊急時モニタリング関連）	あり（その他）	なし
回答数	86	52	119
割合	33.5%	20.2%	46.3%



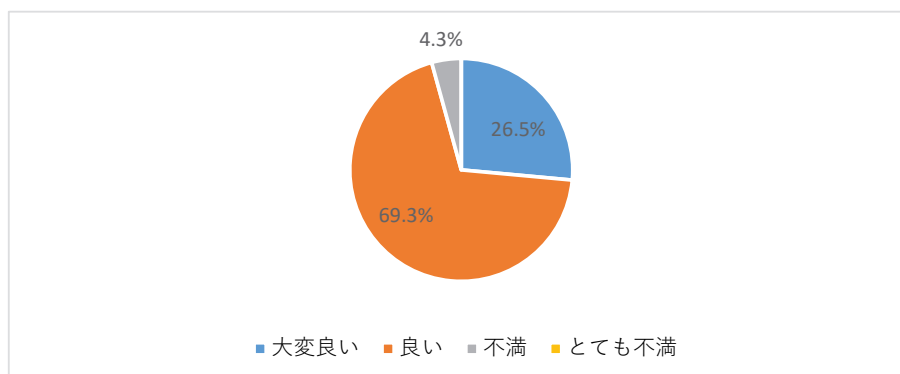
問6 これまでの原子力防災訓練への参加経験

	あり	なし
回答数	108	149
割合	42.0%	58.0%



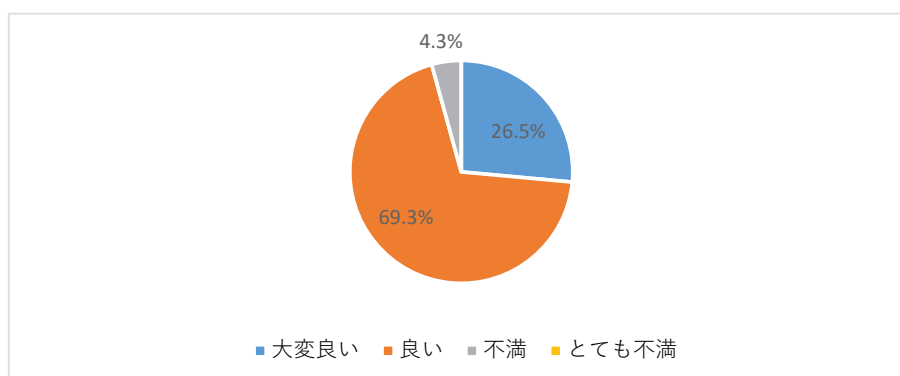
問7 理解度確認テストについて

	大変良い	良い	不満	とても不満
回答数	70	186	1	0
割合	27.2%	72.4%	0.4%	0.0%



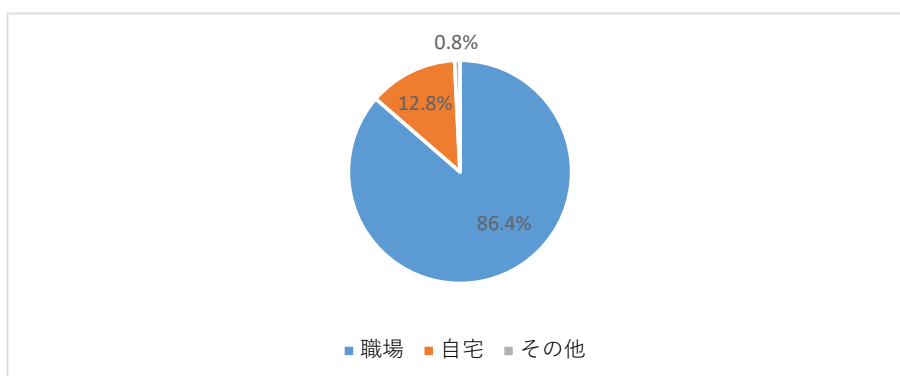
問8 操作性

	大変良い	良い	不満	とても不満
回答数	68	178	11	0
割合	26.5%	69.3%	4.3%	0.0%



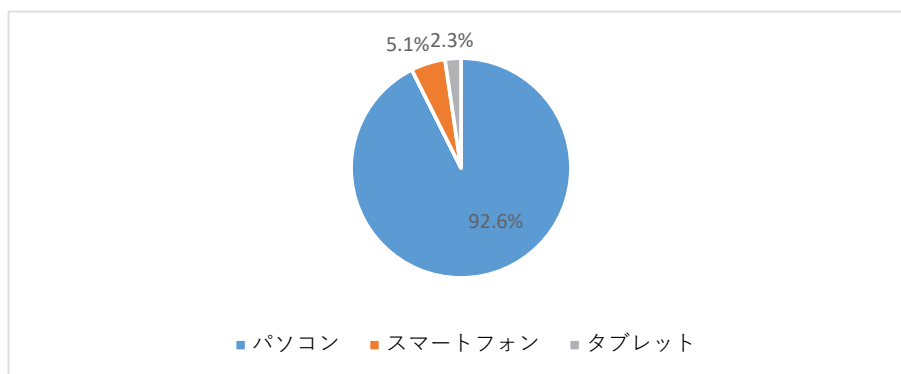
問9 受講場所

	職場	自宅	その他
回答数	222	33	2
割合	86.4%	12.8%	0.8%



問10 デバイス

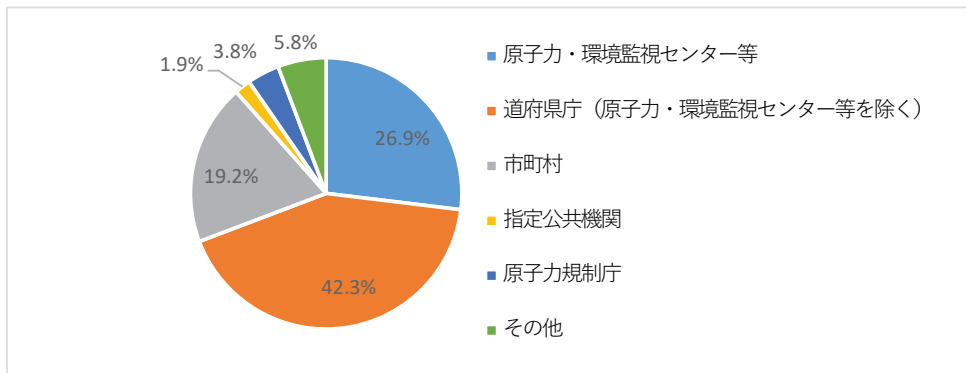
	パソコン	スマートフォン	タブレット
回答数	238	13	6
割合	92.6%	5.1%	2.3%



令和6年度 緊急時モニタリング要員育成
eラーニングアンケート集計
EMC活動訓練コンテンツ
回答者 52名

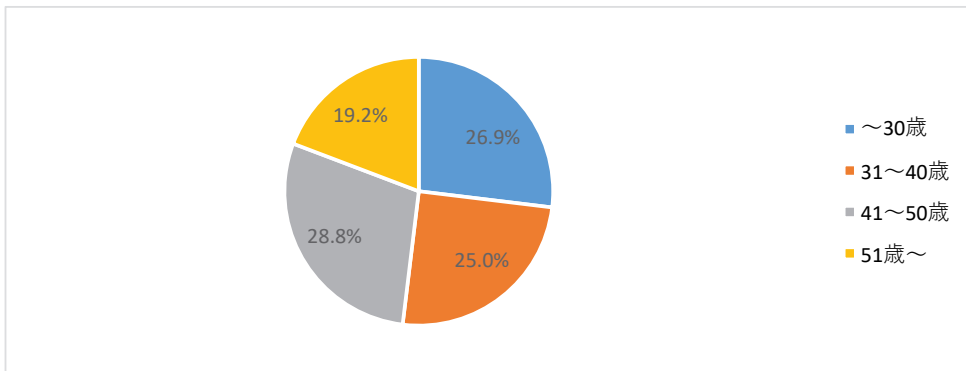
問1 所属

	原子力・ 環境監視 センター 等	道府県庁 (原子 力・環境 監視セン ター等を 除く)	市町村	指定公共 機関	原子力規 制庁	その他
回答数	14	22	10	1	2	3
割合	26.9%	42.3%	19.2%	1.9%	3.8%	5.8%



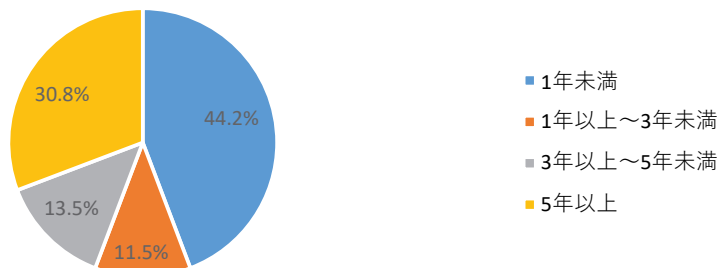
問2 年齢

	～30歳	31～40歳	41～50歳	51歳～
回答数	14	13	15	10
割合	26.9%	25.0%	28.8%	19.2%



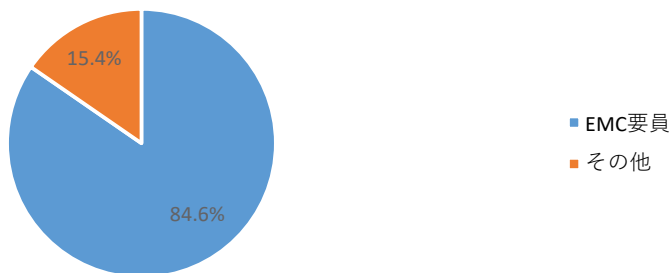
問3 経験年数

	1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上
回答数	23	6	7	16
割合	44.2%	11.5%	13.5%	30.8%



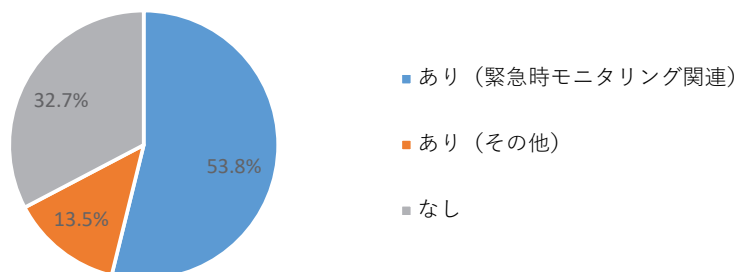
問4 原子力災害時に緊急時モニタリング要員として活動されますか。

	EMC要員	その他
回答数	44	8
割合	84.6%	15.4%



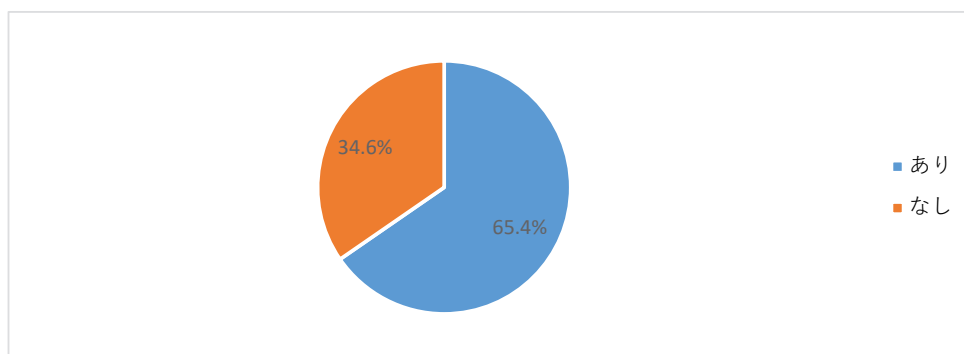
問5 これまでの原子力防災関連研修への参加経験

	あり（緊急時モニタリング関連）	あり（その他）	なし
回答数	28	7	17
割合	53.8%	13.5%	32.7%



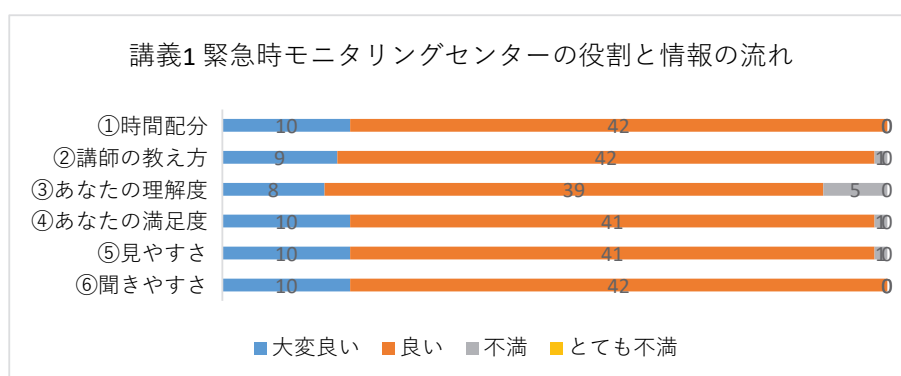
問6 これまでの原子力防災訓練への参加経験

	あり	なし
回答数	34	18
割合	65.4%	34.6%



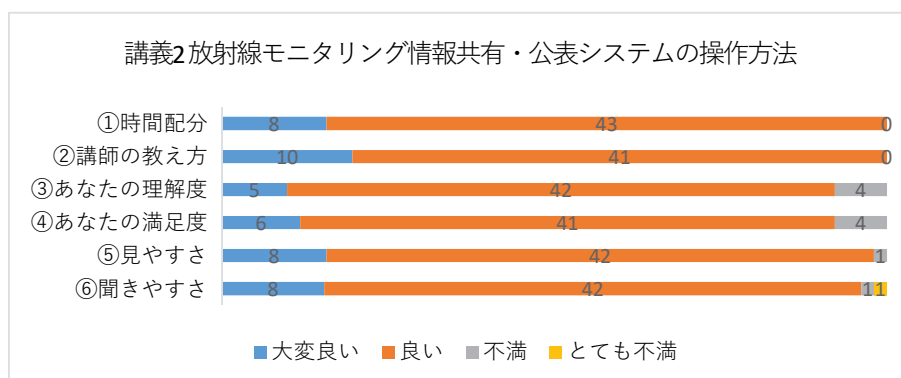
問7 講義1 緊急時モニタリングセンター（EMC）の役割と情報の流れ

	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	10	19.2%	42	80.8%	0	0.0%	0	0.0%
②講師の教え方	9	17.3%	42	80.8%	1	1.9%	0	0.0%
③あなたの理解度	8	15.4%	39	75.0%	5	9.6%	0	0.0%
④あなたの満足度	10	19.2%	41	78.8%	1	1.9%	0	0.0%
⑤見やすさ	10	19.2%	41	78.8%	1	1.9%	0	0.0%
⑥聞きやすさ	10	19.2%	42	80.8%	0	0.0%	0	0.0%



講義2 放射線モニタリング情報共有・公表システム（RAMIS）の操作方法

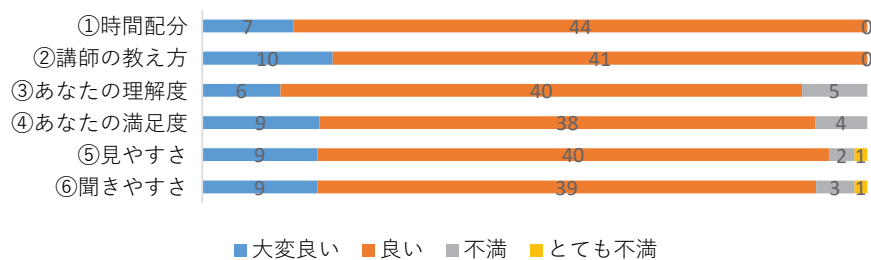
	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	8	15.7%	43	84.3%	0	0.0%		0.0%
②講師の教え方	10	19.6%	41	80.4%	0	0.0%		0.0%
③あなたの理解度	5	9.8%	42	82.4%	4	7.8%		0.0%
④あなたの満足度	6	11.8%	41	80.4%	4	7.8%		0.0%
⑤見やすさ	8	15.7%	42	82.4%	1	2.0%		0.0%
⑥聞きやすさ	8	15.4%	42	80.8%	1	1.9%	1	1.9%



講義3 クロノロジーシステム（原子力防災システム）（NISS）の操作方法

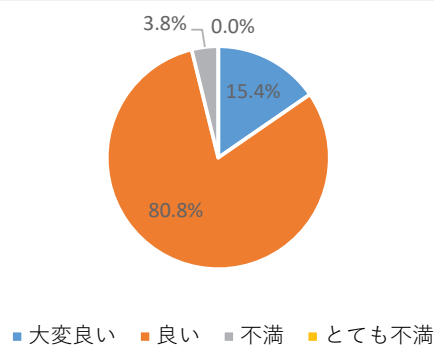
	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	7	13.7%	44	86.3%	0	0.0%		0.0%
②講師の教え方	10	19.6%	41	80.4%	0	0.0%		0.0%
③あなたの理解度	6	11.8%	40	78.4%	5	9.8%		0.0%
④あなたの満足度	9	17.6%	38	74.5%	4	7.8%		0.0%
⑤見やすさ	9	17.3%	40	76.9%	2	3.8%	1	1.9%
⑥聞きやすさ	9	17.3%	39	75.0%	3	5.8%	1	1.9%

講義3クロノロジーシステム（原子力防災システム）の操作方法



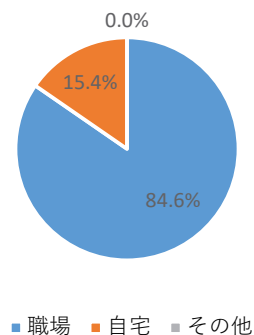
問8 操作性

	大変良い	良い	不満	とても不満
回答数	8	42	2	0
割合	15.4%	80.8%	3.8%	0.0%



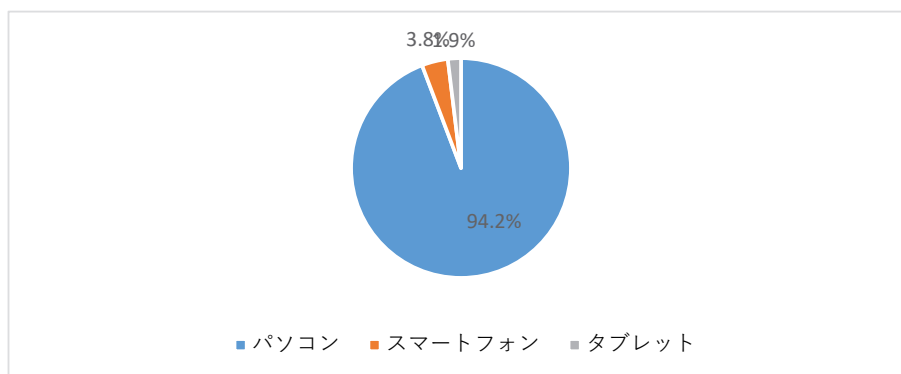
問9 受講場所

	職場	自宅	その他
回答数	44	8	0
割合	84.6%	15.4%	0.0%



問10 デバイス

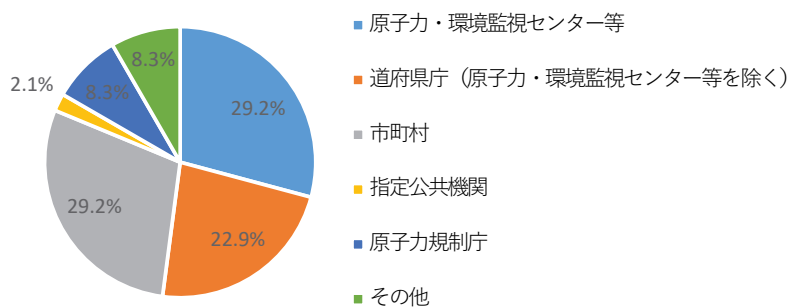
	パソコン	スマートフォン	タブレット
回答数	49	2	1
割合	94.2%	3.8%	1.9%



令和6年度 緊急時モニタリング要員育成
eラーニングアンケート集計
福島原発事故コンテンツ 福島原発事故の緊急時モニタリング活動について（国の対応）
回答者 48名

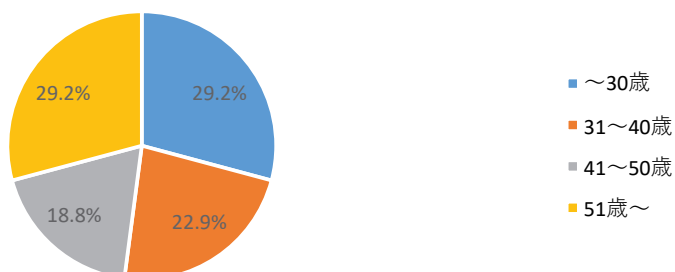
問1 所属

	原子力・環境監視センター等	道府県庁（原子力・環境監視センター等を除く）	市町村	指定公共機関	原子力規制庁	その他
回答数	14	11	14	1	4	4
割合	29.2%	22.9%	29.2%	2.1%	8.3%	8.3%



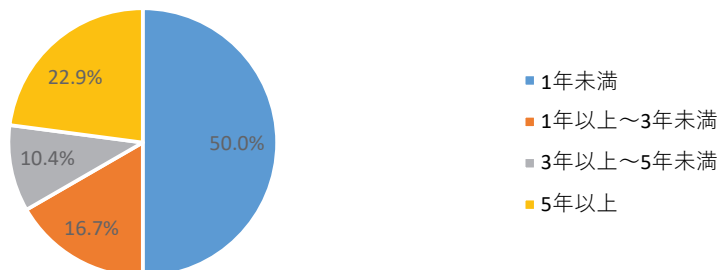
問2 年齢

	～30歳	31～40歳	41～50歳	51歳～
回答数	14	11	9	14
割合	29.2%	22.9%	18.8%	29.2%



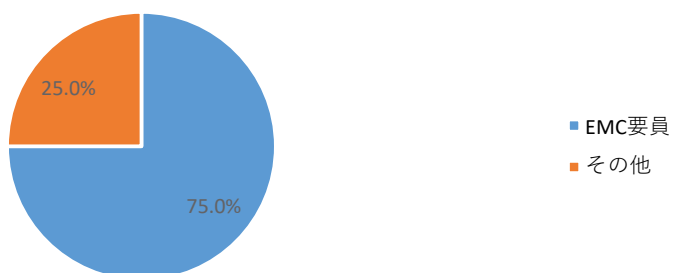
問3 経験年数

	1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上
回答数	24	8	5	11
割合	50.0%	16.7%	10.4%	22.9%



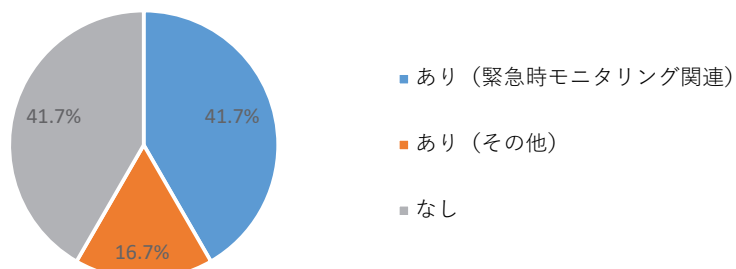
問4 原子力災害時に緊急時モニタリング要員として活動されますか。

	EMC要員	その他
回答数	36	12
割合	75.0%	25.0%



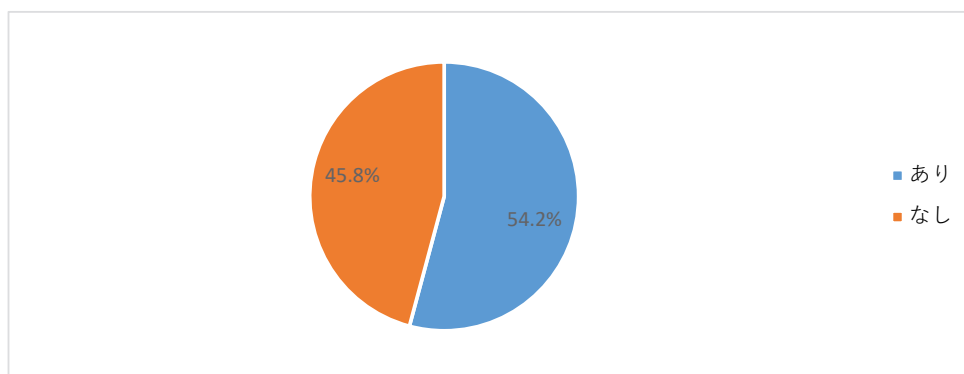
問5 これまでの原子力防災関連研修への参加経験

	あり（緊急時モニタリング関連）	あり（その他）	なし
回答数	20	8	20
割合	41.7%	16.7%	41.7%



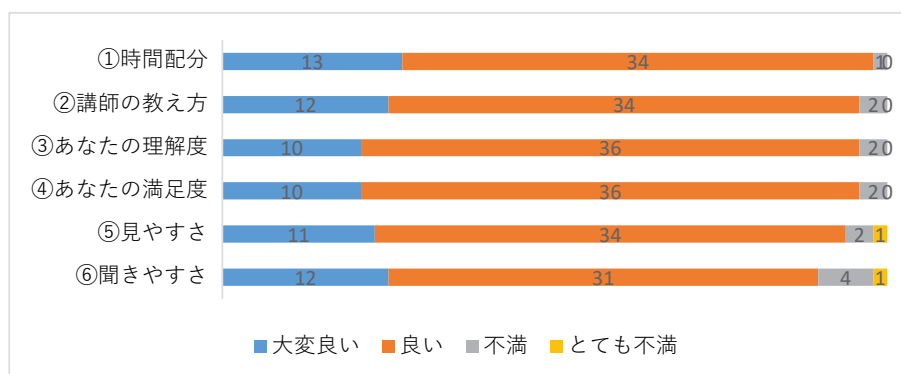
問6 これまでの原子力防災訓練への参加経験

	あり	なし
回答数	26	22
割合	54.2%	45.8%



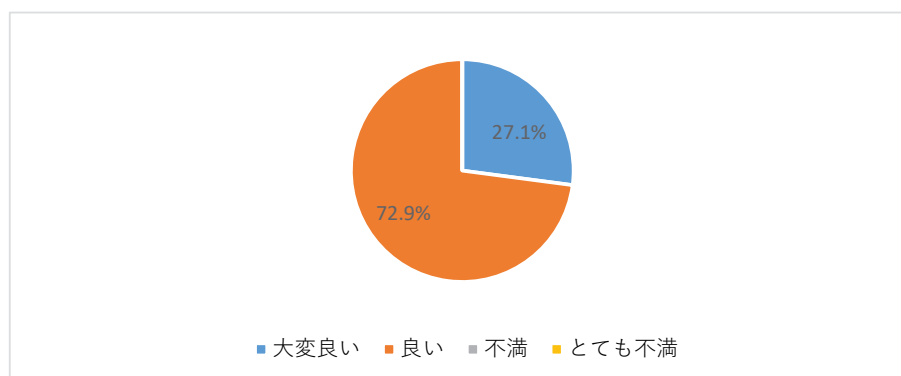
問7

	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	13	27.1%	34	70.8%	1	2.1%	0	0.0%
②講師の教え方	12	25.0%	34	70.8%	2	4.2%	0	0.0%
③あなたの理解度	10	20.8%	36	75.0%	2	4.2%	0	0.0%
④あなたの満足度	10	20.8%	36	75.0%	2	4.2%	0	0.0%
⑤見やすさ	11	22.9%	34	70.8%	2	4.2%	1	2.1%
⑥聞きやすさ	12	25.0%	31	64.6%	4	8.3%	1	2.1%



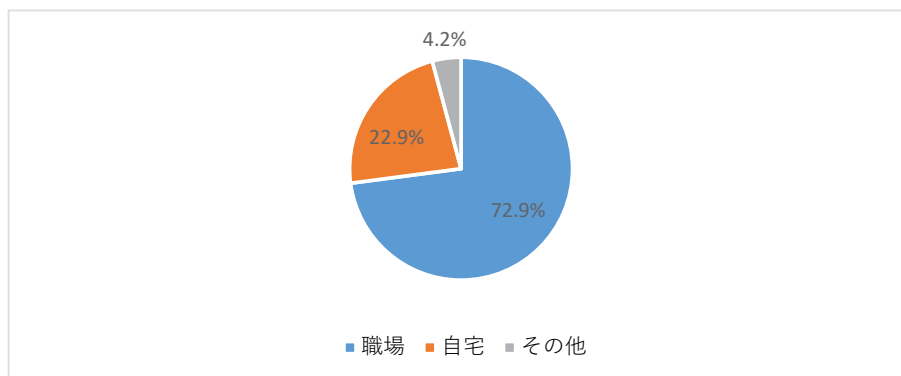
問8 操作性

	大変良い	良い	不満	とても不満
回答数	13	35	0	0
割合	27.1%	72.9%	0.0%	0.0%



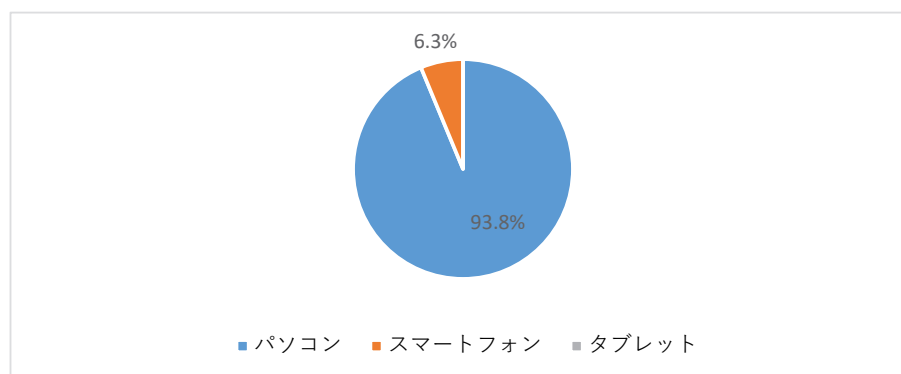
問9 受講場所

	職場	自宅	その他
回答数	35	11	2
割合	72.9%	22.9%	4.2%



問10 デバイス

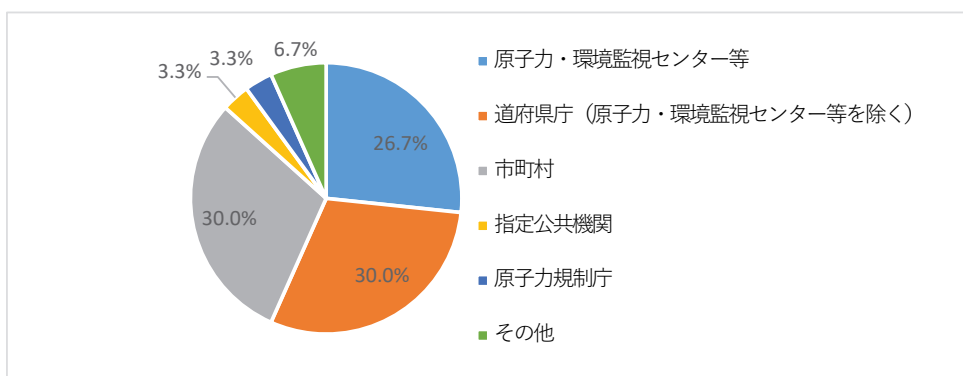
	パソコン	スマートフォン	タブレット
回答数	45	3	0
割合	93.8%	6.3%	0.0%



令和6年度 緊急時モニタリング要員育成
eラーニングアンケート集計
福島原発事故の緊急時モニタリング活動の実際と課題
回答者 30名

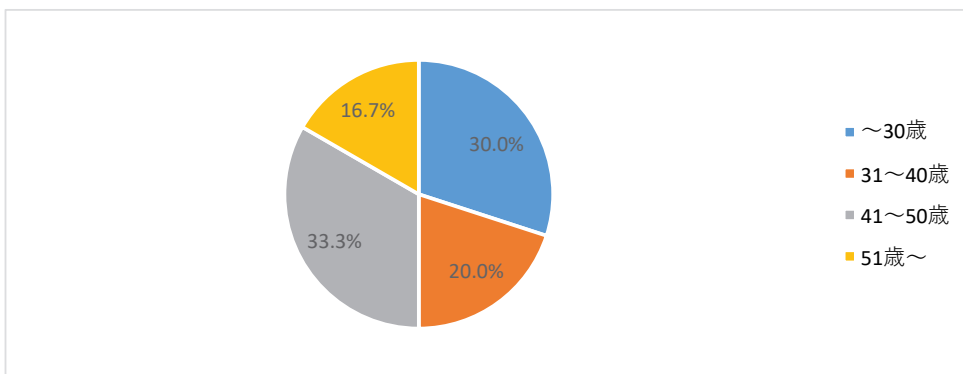
問1 所属

	原子力・ 環境監視 センター 等	道府県庁 (原子 力・環境 監視セン ター等を 除く)	市町村	指定公共 機関	原子力規 制庁	その他
回答数	8	9	9	1	1	2
割合	26.7%	30.0%	30.0%	3.3%	3.3%	6.7%



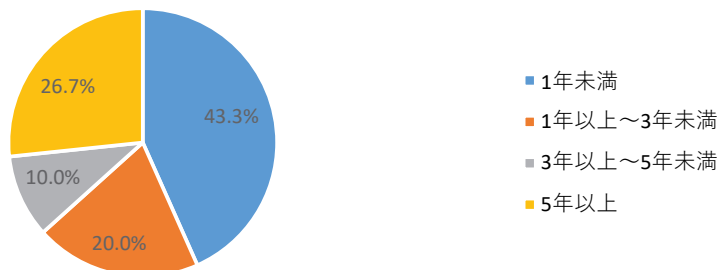
問2 年齢

	～30歳	31～40歳	41～50歳	51歳～
回答数	9	6	10	5
割合	30.0%	20.0%	33.3%	16.7%



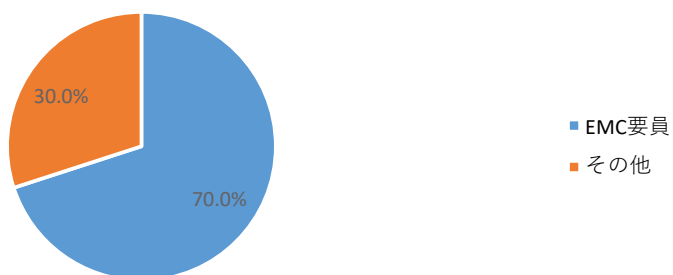
問3 経験年数

	1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上
回答数	13	6	3	8
割合	43.3%	20.0%	10.0%	26.7%



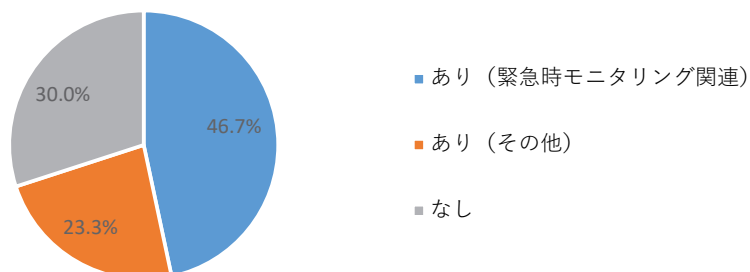
問4 原子力災害時に緊急時モニタリング要員として活動されますか。

	EMC要員	その他
回答数	21	9
割合	70.0%	30.0%



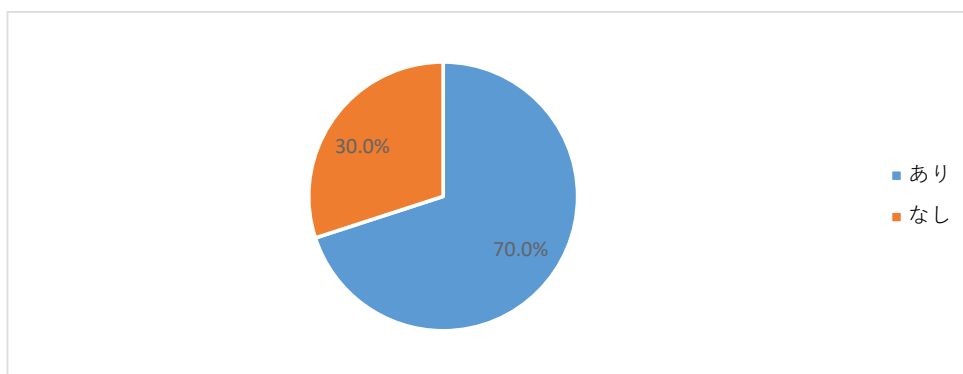
問5 これまでの原子力防災関連研修への参加経験

	あり（緊急時モニタリング関連）	あり（その他）	なし
回答数	14	7	9
割合	46.7%	23.3%	30.0%



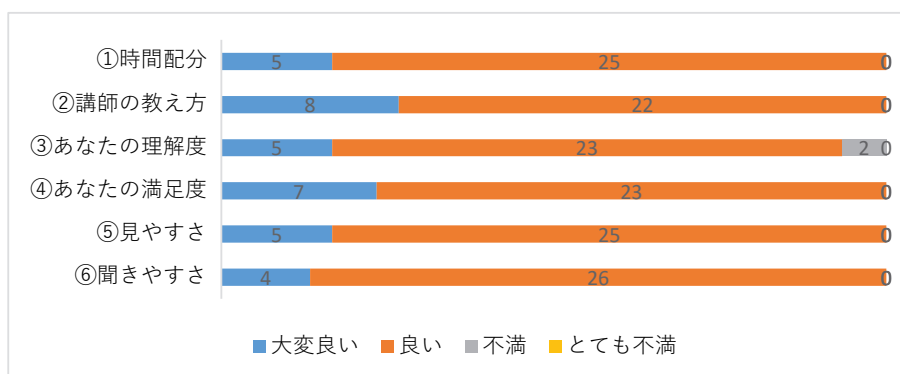
問6 これまでの原子力防災訓練への参加経験

	あり	なし
回答数	21	9
割合	70.0%	30.0%



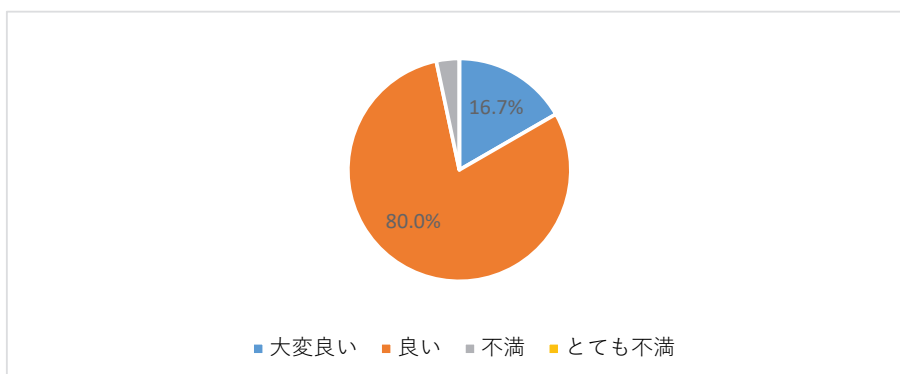
問7

	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	5	16.7%	25	83.3%	0	0.0%	0	0.0%
②講師の教え方	8	26.7%	22	73.3%	0	0.0%	0	0.0%
③あなたの理解度	5	16.7%	23	76.7%	2	6.7%	0	0.0%
④あなたの満足度	7	23.3%	23	76.7%	0	0.0%	0	0.0%
⑤見やすさ	5	16.7%	25	83.3%	0	0.0%	0	0.0%
⑥聞きやすさ	4	13.3%	26	86.7%	0	0.0%	0	0.0%



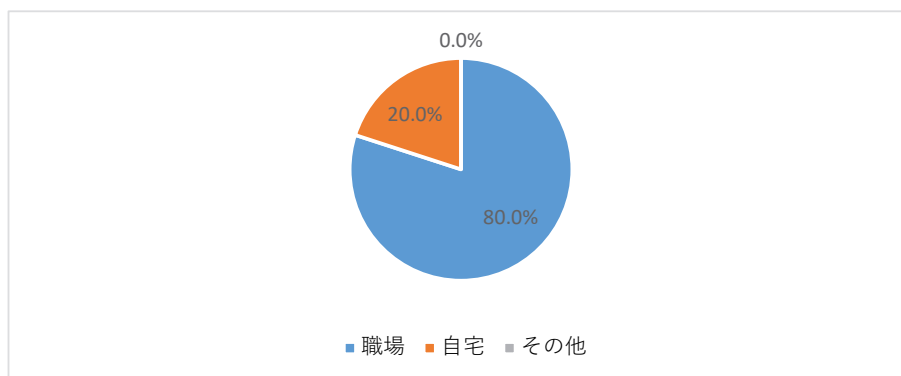
問8 操作性

	大変良い	良い	不満	とても不満
回答数	5	24	1	0
割合	16.7%	80.0%	3.3%	0.0%



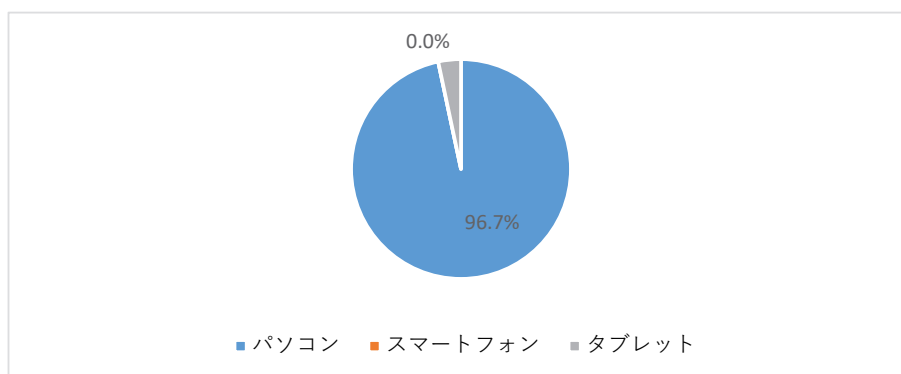
問9 受講場所

	職場	自宅	その他
回答数	24	6	0
割合	80.0%	20.0%	0.0%



問10 デバイス

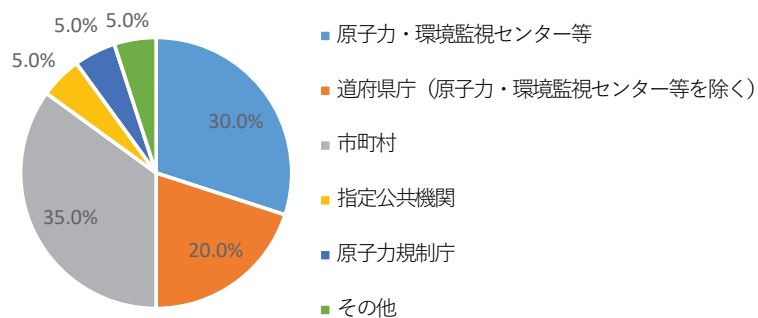
	パソコン	スマートフォン	タブレット
回答数	29	0	1
割合	96.7%	0.0%	3.3%



令和6年度 緊急時モニタリング要員育成
eラーニングアンケート集計
福島原発事故コンテンツ 福島原発事故のOFC及び原子力センターでの対応
回答者 20名

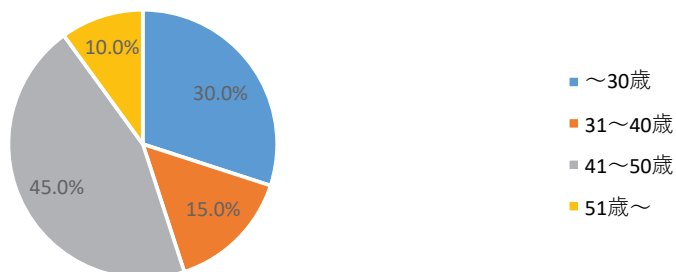
問1 所属

	原子力・環境監視センター等	道府県庁（原子力・環境監視センター等を除く）	市町村	指定公共機関	原子力規制庁	その他
回答数	6	4	7	1	1	1
割合	30.0%	20.0%	35.0%	5.0%	5.0%	5.0%



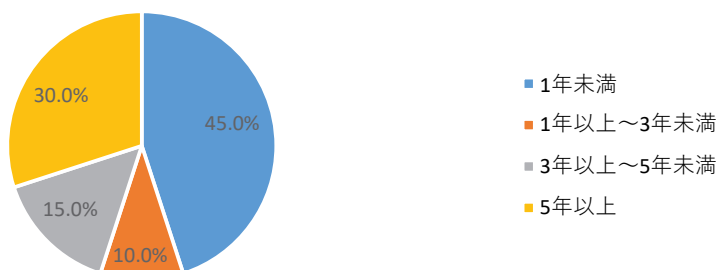
問2 年齢

	～30歳	31～40歳	41～50歳	51歳～
回答数	6	3	9	2
割合	30.0%	15.0%	45.0%	10.0%



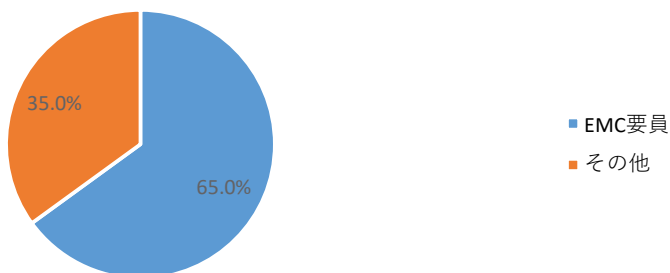
問3 経験年数

	1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上
回答数	9	2	3	6
割合	45.0%	10.0%	15.0%	30.0%



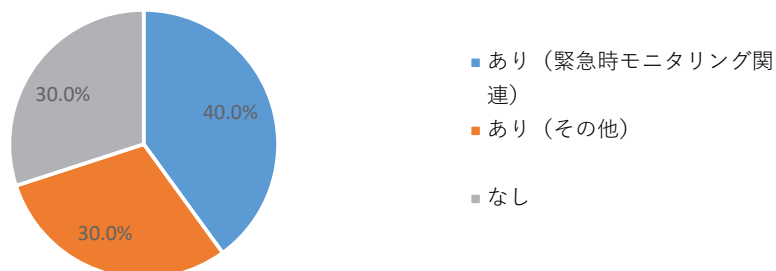
問4 原子力災害時に緊急時モニタリング要員として活動されますか。

	EMC要員	その他
回答数	13	7
割合	65.0%	35.0%



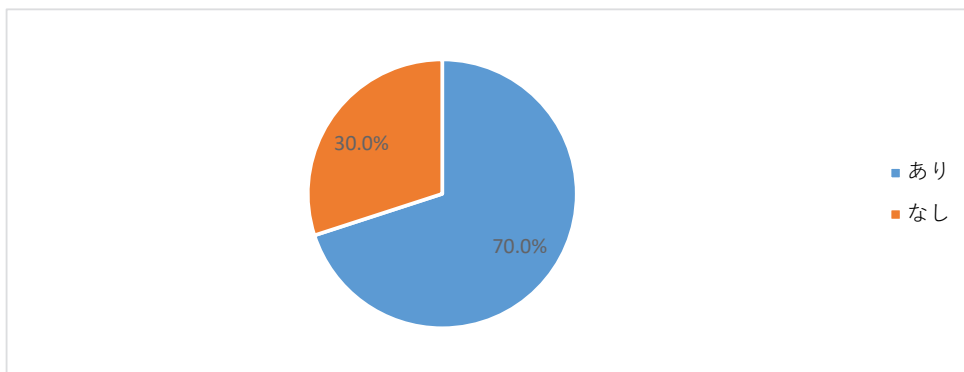
問5 これまでの原子力防災関連研修への参加経験

	あり（緊急時モニタリング関連）	あり（その他）	なし
回答数	8	6	6
割合	40.0%	30.0%	30.0%



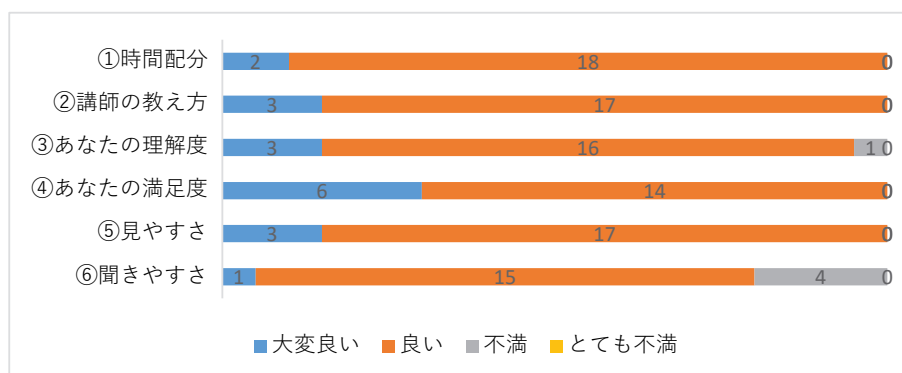
問6 これまでの原子力防災訓練への参加経験

	あり	なし
回答数	14	6
割合	70.0%	30.0%



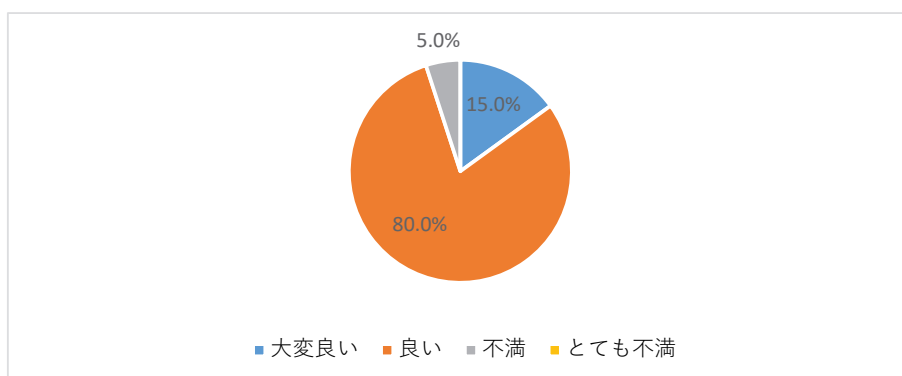
問7

	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	2	10.0%	18	90.0%	0	0.0%	0	0.0%
②講師の教え方	3	15.0%	17	85.0%	0	0.0%	0	0.0%
③あなたの理解度	3	15.0%	16	80.0%	1	5.0%	0	0.0%
④あなたの満足度	6	30.0%	14	70.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑤見やすさ	3	15.0%	17	85.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑥聞きやすさ	1	5.0%	15	75.0%	4	20.0%	0	0.0%



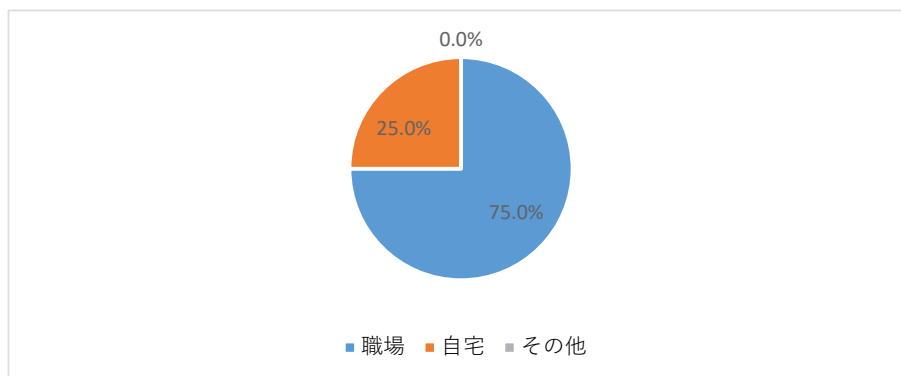
問8 操作性

	大変良い	良い	不満	とても不満
回答数	3	16	1	0
割合	15.0%	80.0%	5.0%	0.0%



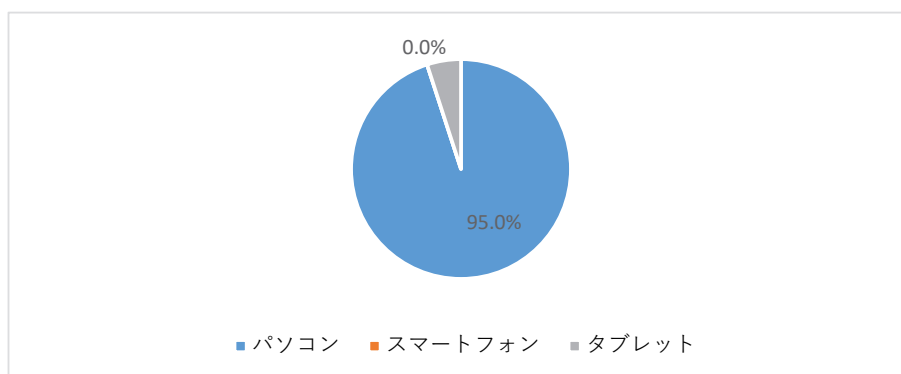
問9 受講場所

	職場	自宅	その他
回答数	15	5	0
割合	75.0%	25.0%	0.0%



問10 デバイス

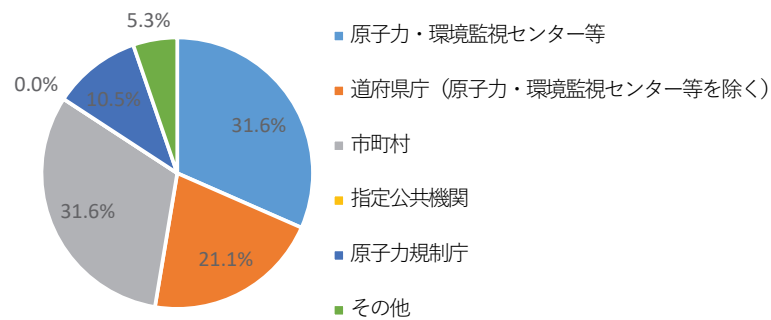
	パソコン	スマートフォン	タブレット
回答数	19	0	1
割合	95.0%	0.0%	5.0%



令和6年度 緊急時モニタリング要員育成
eラーニングアンケート集計
福島原発事故コンテンツ 福島原発事故の緊急時モニタリング活動（佐賀県の対応と支援）
回答者 19名

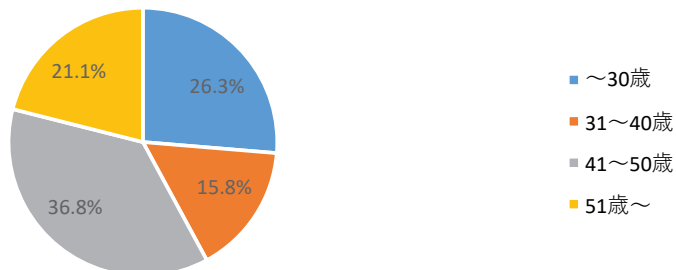
問1 所属

	原子力・環境監視センター等	道府県庁（原子力・環境監視センター等を除く）	市町村	指定公共機関	原子力規制庁	その他
回答数	6	4	6	0	2	1
割合	31.6%	21.1%	31.6%	0.0%	10.5%	5.3%



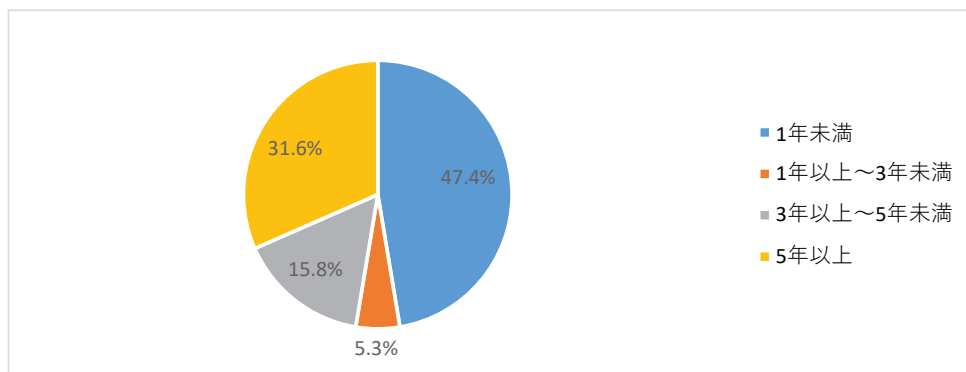
問2 年齢

	～30歳	31～40歳	41～50歳	51歳～
回答数	5	3	7	4
割合	26.3%	15.8%	36.8%	21.1%



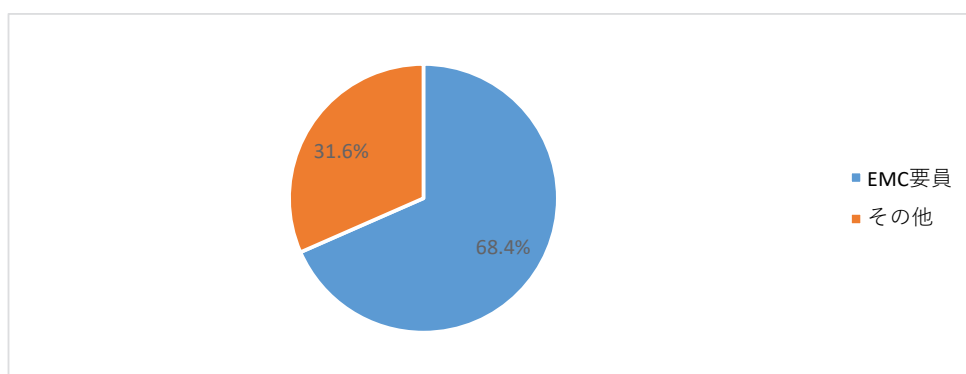
問3 経験年数

	1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上
回答数	9	1	3	6
割合	47.4%	5.3%	15.8%	31.6%



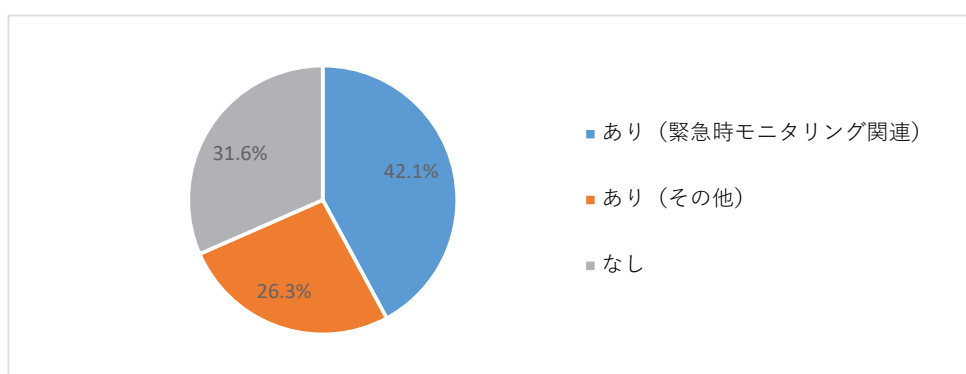
問4 原子力災害時に緊急時モニタリング要員として活動されますか。

	EMC要員	その他
回答数	13	6
割合	68.4%	31.6%



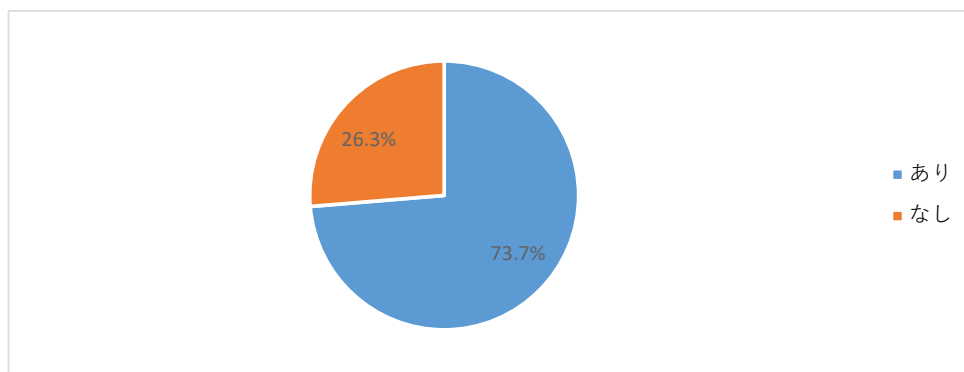
問5 これまでの原子力防災関連研修への参加経験

	あり（緊急時モニタリング関連）	あり（その他）	なし
回答数	8	5	6
割合	42.1%	26.3%	31.6%



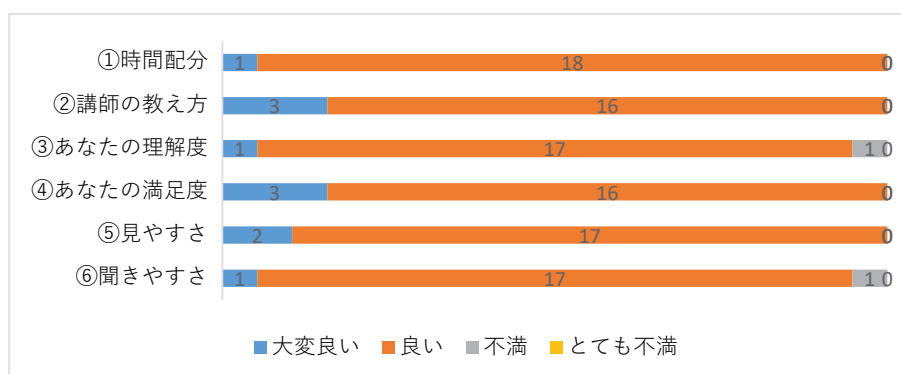
問6 これまでの原子力防災訓練への参加経験

	あり	なし
回答数	14	5
割合	73.7%	26.3%



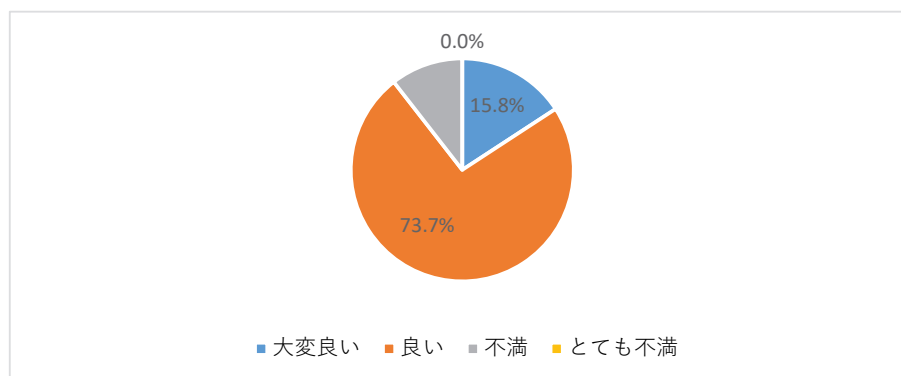
問7

	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	1	5.3%	18	94.7%	0	0.0%	0	0.0%
②講師の教え方	3	15.8%	16	84.2%	0	0.0%	0	0.0%
③あなたの理解度	1	5.3%	17	89.5%	1	5.3%	0	0.0%
④あなたの満足度	3	15.8%	16	84.2%	0	0.0%	0	0.0%
⑤見やすさ	2	10.5%	17	89.5%	0	0.0%	0	0.0%
⑥聞きやすさ	1	5.3%	17	89.5%	1	5.3%	0	0.0%



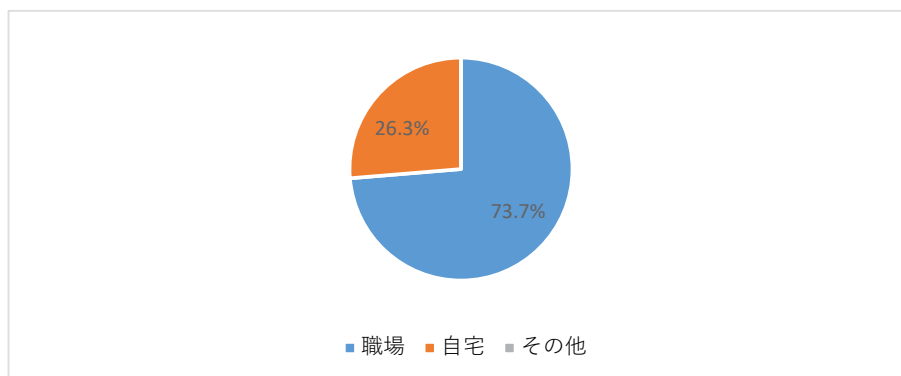
問8 操作性

	大変良い	良い	不満	とても不満
回答数	3	14	2	0
割合	15.8%	73.7%	10.5%	0.0%



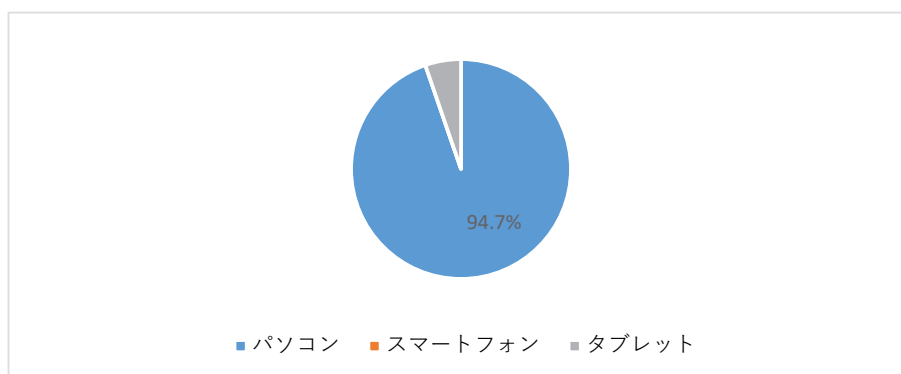
問9 受講場所

	職場	自宅	その他
回答数	14	5	0
割合	73.7%	26.3%	0.0%



問10 デバイス

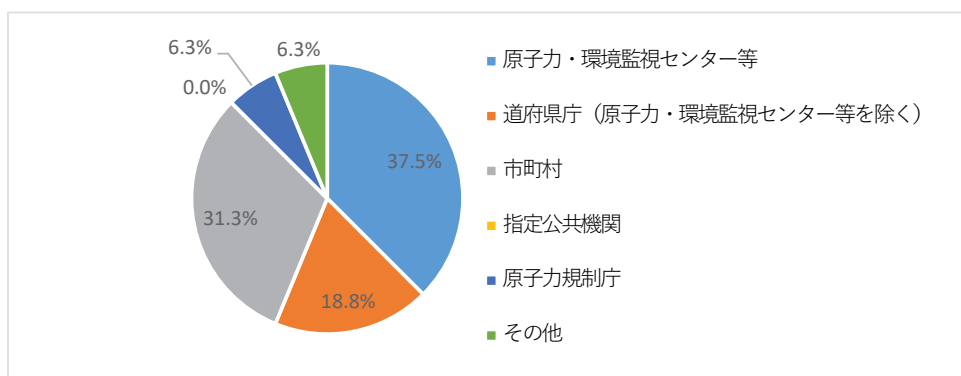
	パソコン	スマートフォン	タブレット
回答数	18	0	1
割合	94.7%	0.0%	5.3%



令和6年度 緊急時モニタリング要員育成
eラーニングアンケート集計
福島原発事故コンテンツ 福島原発事故の福島県における緊急時モニタリング活動
回答者 16名

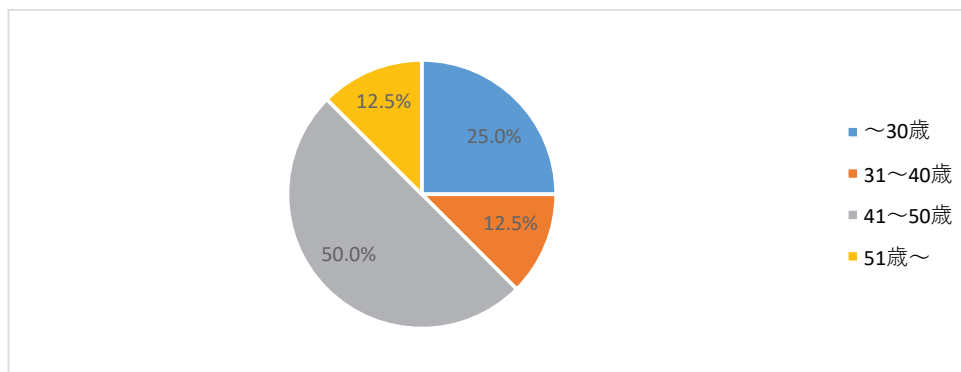
問1 所属

	原子力・環境監視センター等	道府県庁（原子力・環境監視センター等を除く）	市町村	指定公共機関	原子力規制庁	その他
回答数	6	3	5	0	1	1
割合	37.5%	18.8%	31.3%	0.0%	6.3%	6.3%



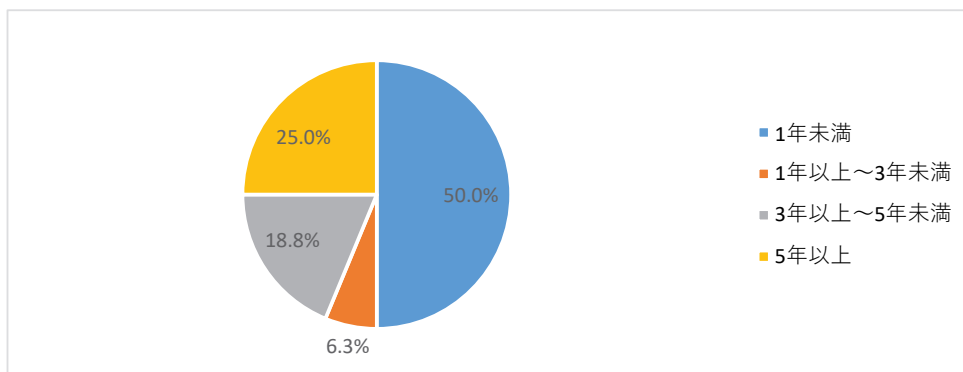
問2 年齢

	～30歳	31～40歳	41～50歳	51歳～
回答数	4	2	8	2
割合	25.0%	12.5%	50.0%	12.5%



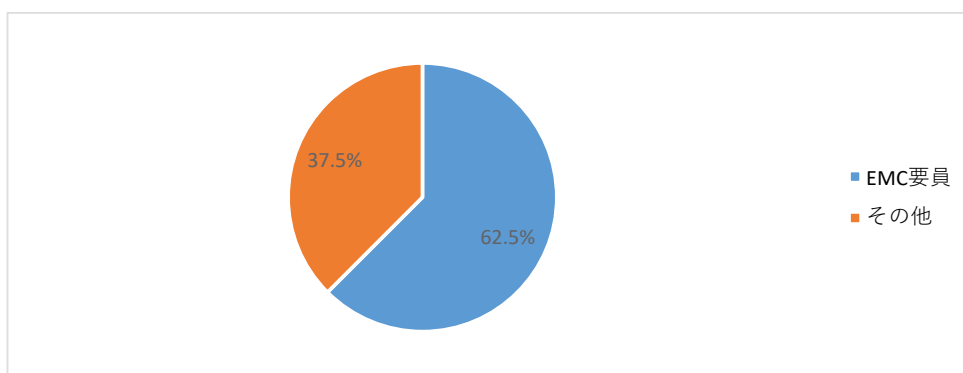
問3 経験年数

	1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上
回答数	8	1	3	4
割合	50.0%	6.3%	18.8%	25.0%



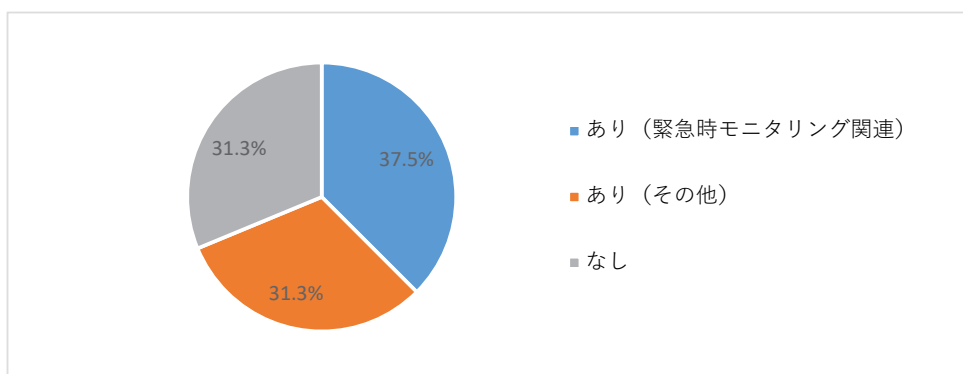
問4 原子力災害時に緊急時モニタリング要員として活動されますか。

	EMC要員	その他
回答数	10	6
割合	62.5%	37.5%



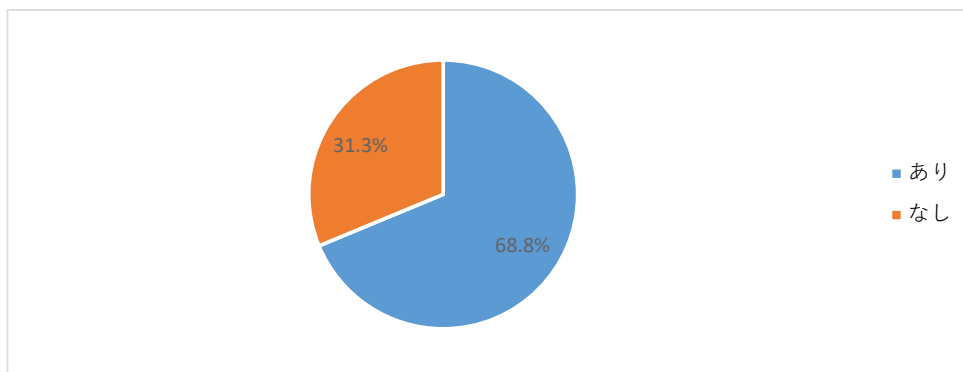
問5 これまでの原子力防災関連研修への参加経験

	あり（緊急時モニタリング関連）	あり（その他）	なし
回答数	6	5	5
割合	37.5%	31.3%	31.3%



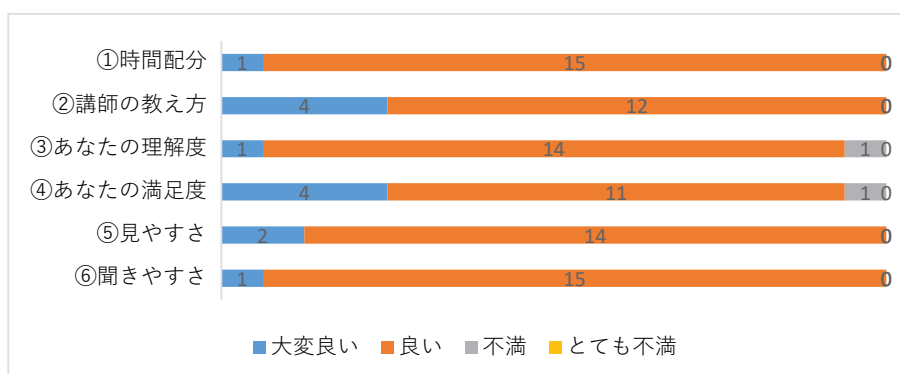
問6 これまでの原子力防災訓練への参加経験

	あり	なし
回答数	11	5
割合	68.8%	31.3%



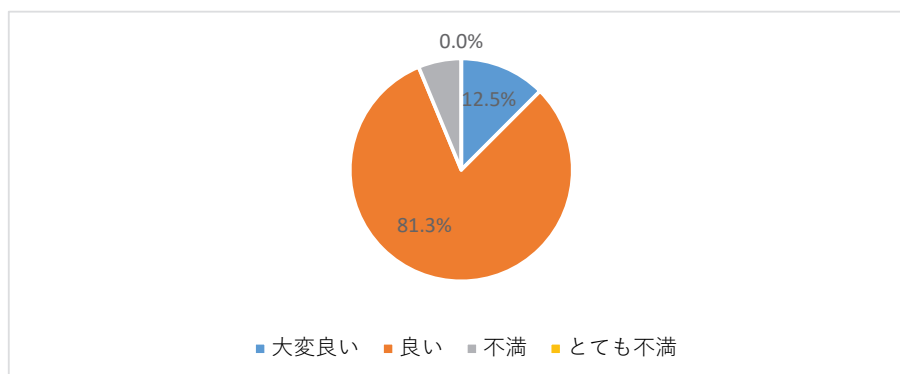
問7

	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	1	6.3%	15	93.8%	0	0.0%	0	0.0%
②講師の教え方	4	25.0%	12	75.0%	0	0.0%	0	0.0%
③あなたの理解度	1	6.3%	14	87.5%	1	6.3%	0	0.0%
④あなたの満足度	4	25.0%	11	68.8%	1	6.3%	0	0.0%
⑤見やすさ	2	12.5%	14	87.5%	0	0.0%	0	0.0%
⑥聞きやすさ	1	6.3%	15	93.8%	0	0.0%	0	0.0%



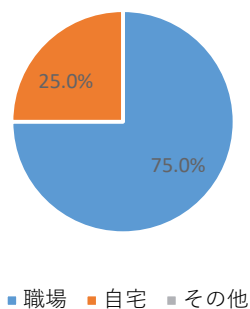
問8 操作性

	大変良い	良い	不満	とても不満
回答数	2	13	1	0
割合	12.5%	81.3%	6.3%	0.0%



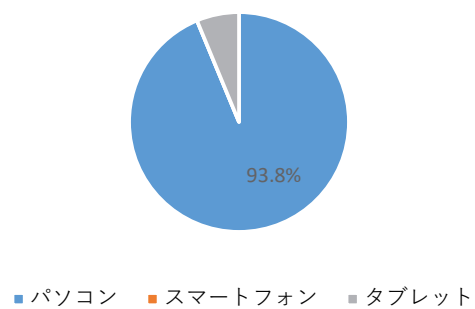
問9 受講場所

	職場	自宅	その他
回答数	12	4	0
割合	75.0%	25.0%	0.0%



問10 デバイス

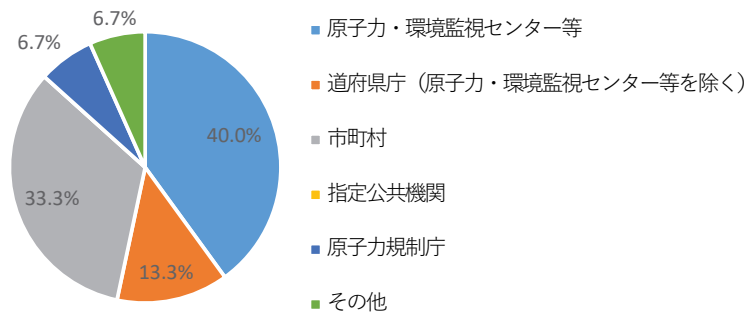
	パソコン	スマートフォン	タブレット
回答数	15	0	1
割合	93.8%	0.0%	6.3%



令和6年度 緊急時モニタリング要員育成
eラーニングアンケート集計
福島原発事故コンテンツ ふくしまの今
回答者 15名

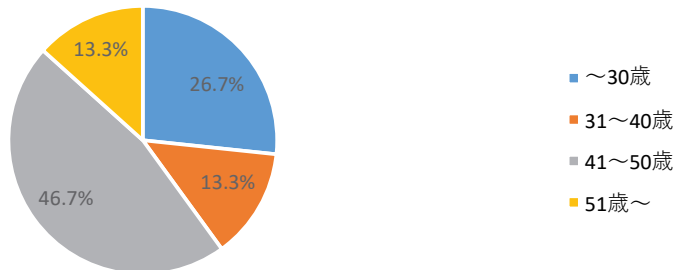
問1 所属

	原子力・ 環境監視 センター 等	道府県庁 (原子 力・環境 監視セン ター等を 除く)	市町村	指定公共 機関	原子力規 制庁	その他
回答数	6	2	5	0	1	1
割合	40.0%	13.3%	33.3%	0.0%	6.7%	6.7%



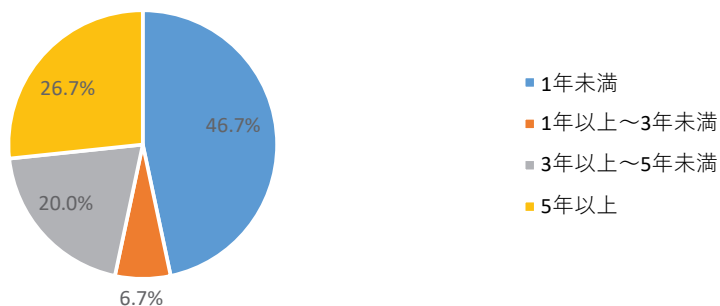
問2 年齢

	～30歳	31～40歳	41～50歳	51歳～
回答数	4	2	7	2
割合	26.7%	13.3%	46.7%	13.3%



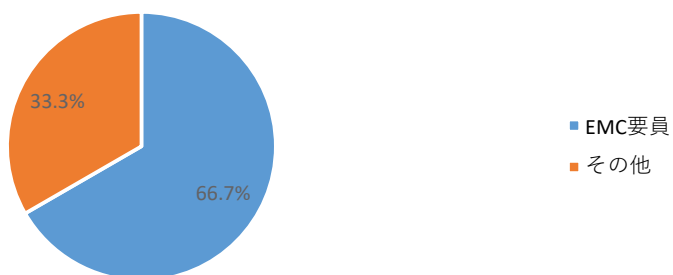
問3 経験年数

	1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上
回答数	7	1	3	4
割合	46.7%	6.7%	20.0%	26.7%



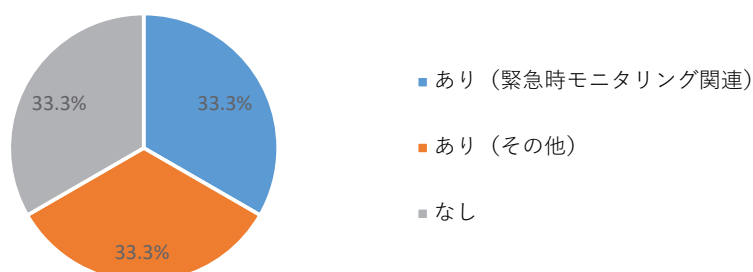
問4 原子力災害時に緊急時モニタリング要員として活動されますか。

	EMC要員	その他
回答数	10	5
割合	66.7%	33.3%



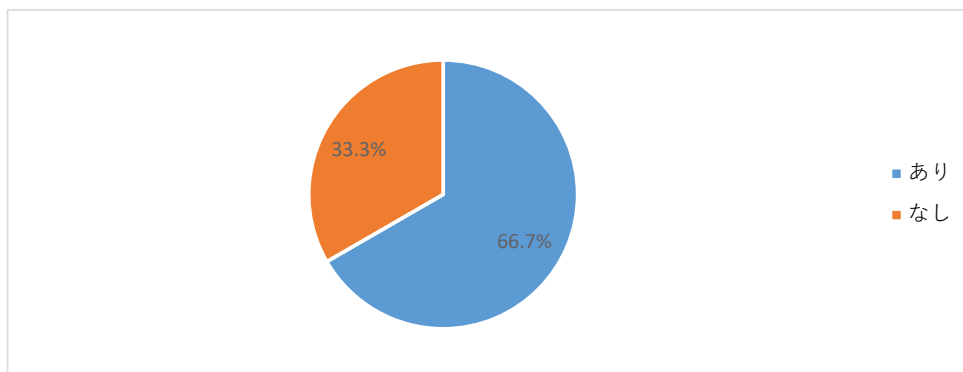
問5 これまでの原子力防災関連研修への参加経験

	あり（緊急時モニタリング関連）	あり（その他）	なし
回答数	5	5	5
割合	33.3%	33.3%	33.3%



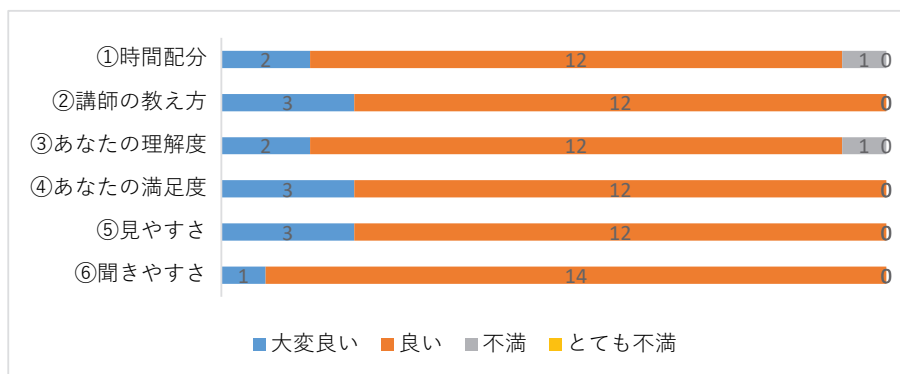
問6 これまでの原子力防災訓練への参加経験

	あり	なし
回答数	10	5
割合	66.7%	33.3%



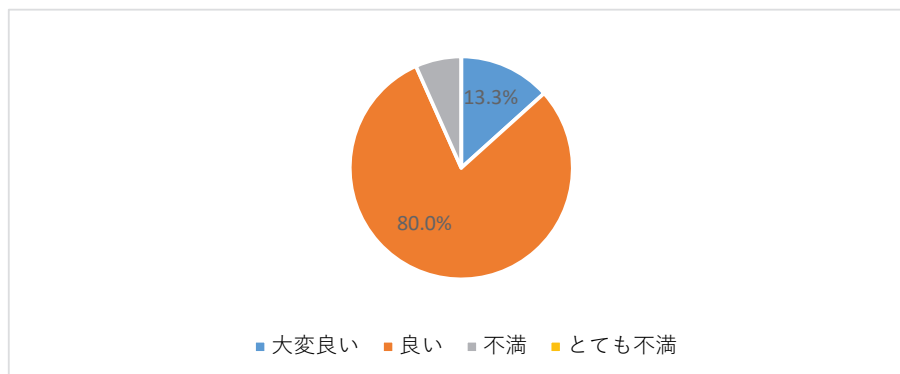
問7

	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	2	13.3%	12	80.0%	1	6.7%	0	0.0%
②講師の教え方	3	20.0%	12	80.0%	0	0.0%	0	0.0%
③あなたの理解度	2	13.3%	12	80.0%	1	6.7%	0	0.0%
④あなたの満足度	3	20.0%	12	80.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑤見やすさ	3	20.0%	12	80.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑥聞きやすさ	1	6.7%	14	93.3%	0	0.0%	0	0.0%



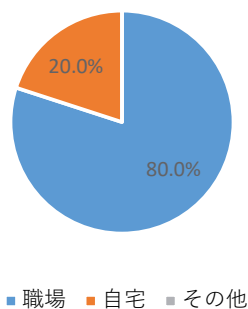
問8 操作性

	大変良い	良い	不満	とても不満
回答数	2	12	1	0
割合	13.3%	80.0%	6.7%	0.0%



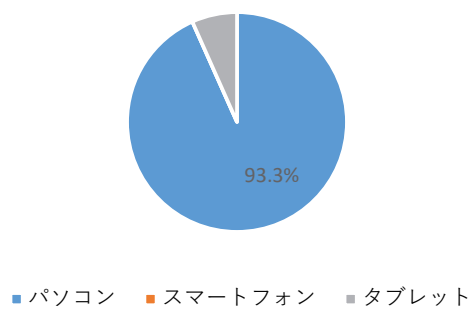
問9 受講場所

	職場	自宅	その他
回答数	12	3	0
割合	80.0%	20.0%	0.0%



問10 デバイス

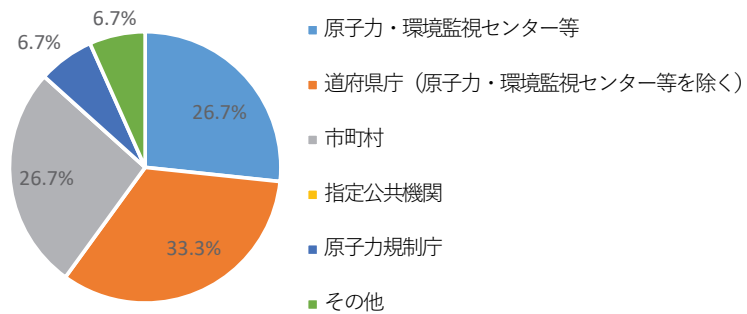
	パソコン	スマートフォン	タブレット
回答数	14	0	1
割合	93.3%	0.0%	6.7%



令和6年度 緊急時モニタリング要員育成
eラーニングアンケート集計
自己学習コンテンツ 放射線の性質確認
回答者 30名

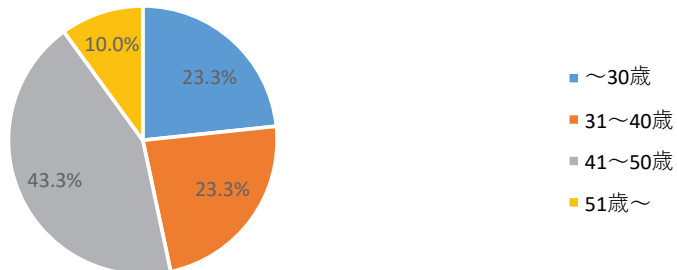
問1 所属

	原子力・ 環境監視 センター 等	道府県庁 (原子 力・環境 監視セン ター等を 除く)	市町村	指定公共 機関	原子力規 制庁	その他
回答数	8	10	8	0	2	2
割合	26.7%	33.3%	26.7%	0.0%	6.7%	6.7%



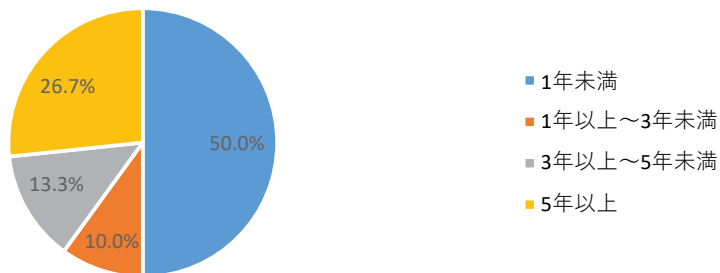
問2 年齢

	～30歳	31～40歳	41～50歳	51歳～
回答数	7	7	13	3
割合	23.3%	23.3%	43.3%	10.0%



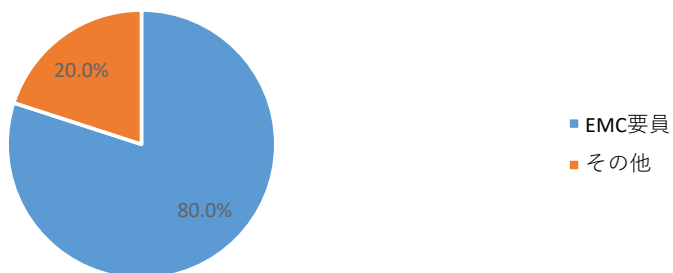
問3 経験年数

	1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上
回答数	15	3	4	8
割合	50.0%	10.0%	13.3%	26.7%



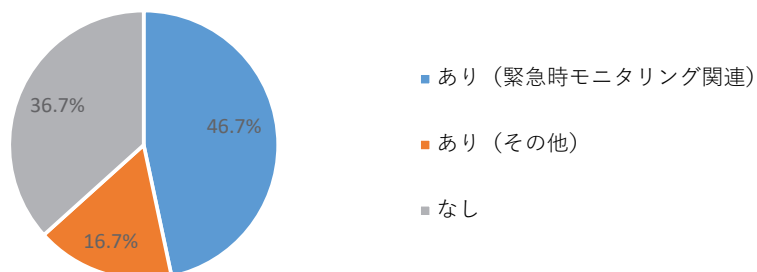
問4 原子力災害時に緊急時モニタリング要員として活動されますか。

	EMC要員	その他
回答数	24	6
割合	80.0%	20.0%



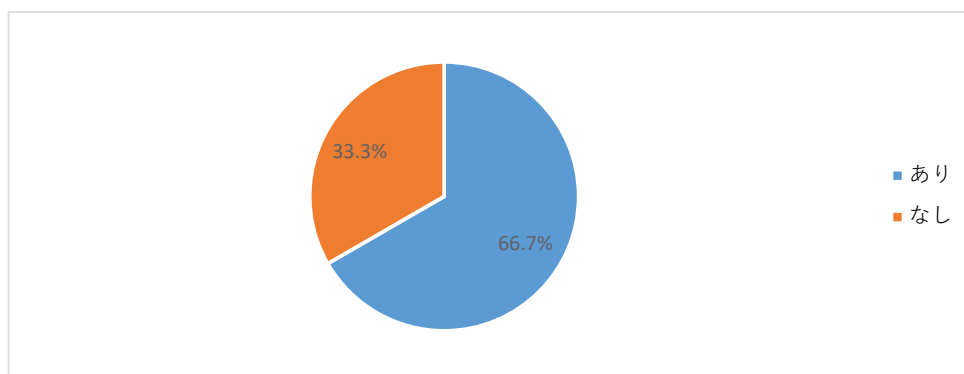
問5 これまでの原子力防災関連研修への参加経験

	あり（緊 急時モニ タリング 関連）	あり（そ の他）	なし
回答数	14	5	11
割合	46.7%	16.7%	36.7%



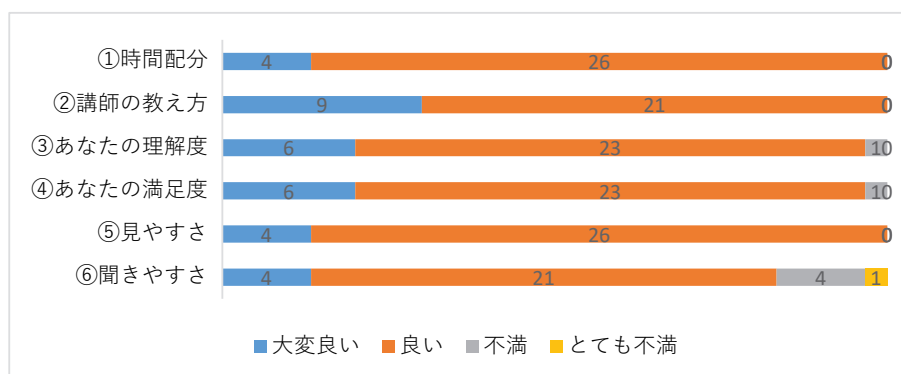
問6 これまでの原子力防災訓練への参加経験

	あり	なし
回答数	20	10
割合	66.7%	33.3%



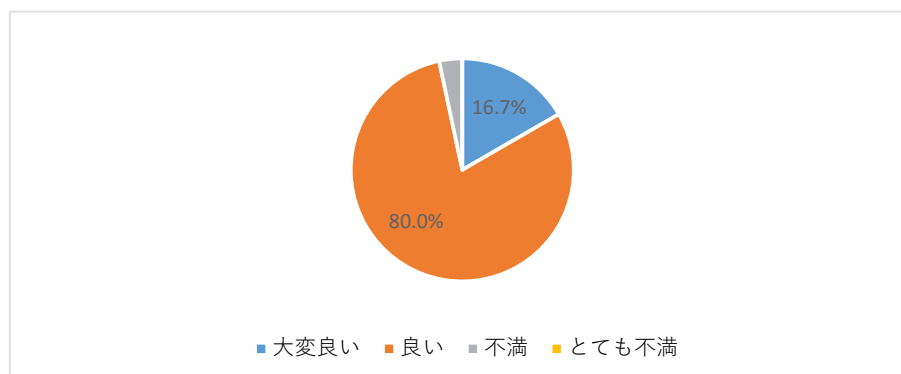
問7

	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	4	13.3%	26	86.7%	0	0.0%	0	0.0%
②講師の教え方	9	30.0%	21	70.0%	0	0.0%	0	0.0%
③あなたの理解度	6	20.0%	23	76.7%	1	3.3%	0	0.0%
④あなたの満足度	6	20.0%	23	76.7%	1	3.3%	0	0.0%
⑤見やすさ	4	13.3%	26	86.7%	0	0.0%	0	0.0%
⑥聞きやすさ	4	13.3%	21	70.0%	4	13.3%	1	3.3%



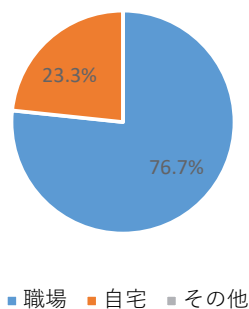
問8 操作性

	大変良い	良い	不満	とても不満
回答数	5	24	1	0
割合	16.7%	80.0%	3.3%	0.0%



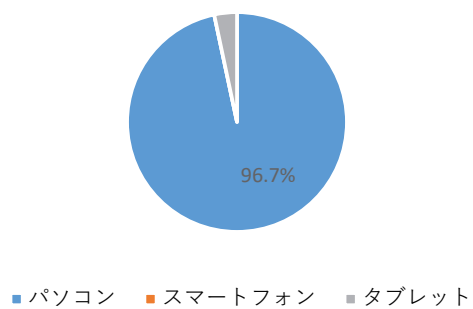
問9 受講場所

	職場	自宅	その他
回答数	23	7	0
割合	76.7%	23.3%	0.0%



問10 デバイス

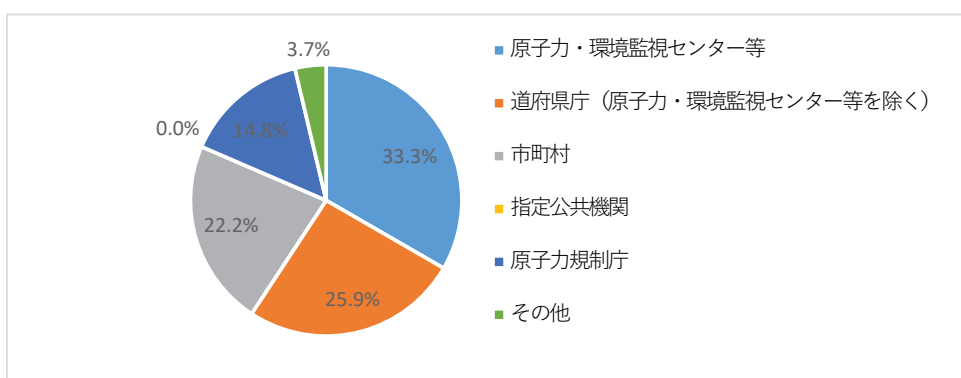
	パソコン	スマートフォン	タブレット
回答数	29	0	1
割合	96.7%	0.0%	3.3%



令和6年度 緊急時モニタリング要員育成
eラーニングアンケート集計
自己学習コンテンツ 空間放射線量率の測定
回答者 27名

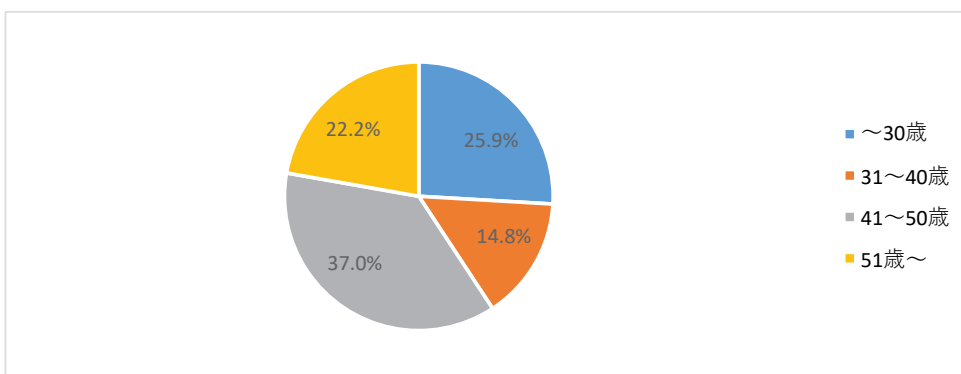
問1 所属

	原子力・ 環境監視 センター 等	道府県庁 (原子 力・環境 監視セン ター等を 除く)	市町村	指定公共 機関	原子力規 制庁	その他
回答数	9	7	6	0	4	1
割合	33.3%	25.9%	22.2%	0.0%	14.8%	3.7%



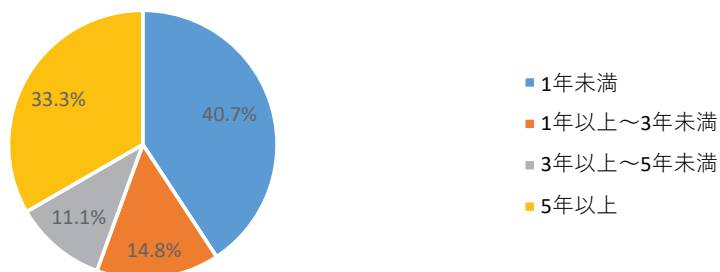
問2 年齢

	～30歳	31～40歳	41～50歳	51歳～
回答数	7	4	10	6
割合	25.9%	14.8%	37.0%	22.2%



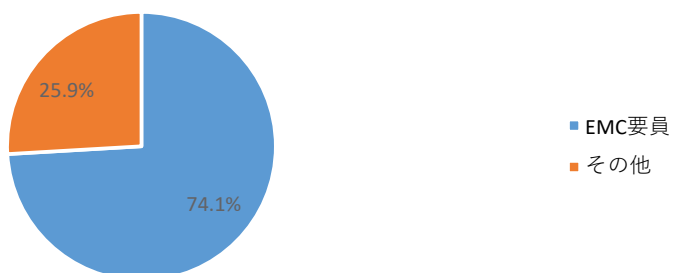
問3 経験年数

	1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上
回答数	11	4	3	9
割合	40.7%	14.8%	11.1%	33.3%



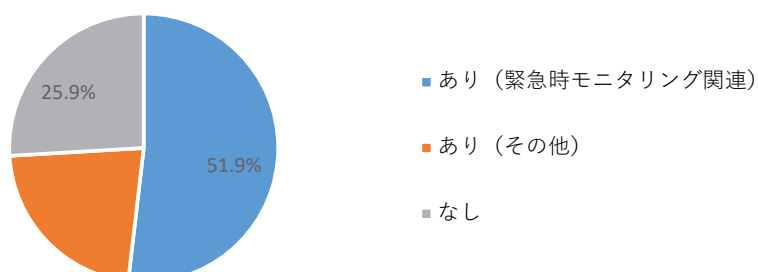
問4 原子力災害時に緊急時モニタリング要員として活動されますか。

	EMC要員	その他
回答数	20	7
割合	74.1%	25.9%



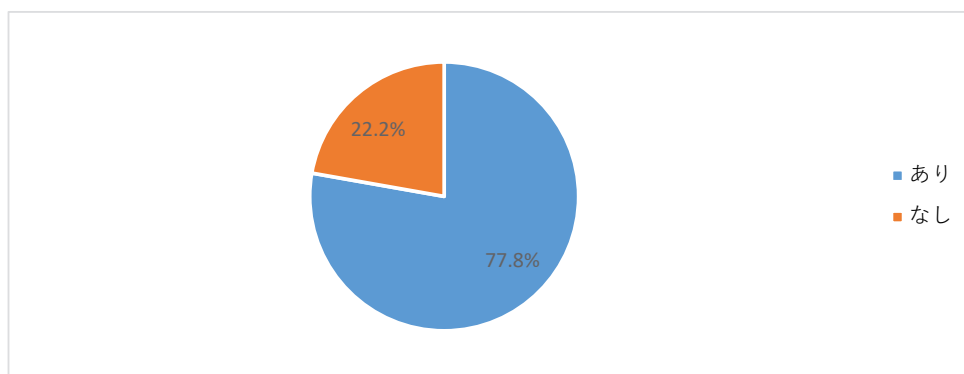
問5 これまでの原子力防災関連研修への参加経験

	あり（緊 急時モニ タリング 関連）	あり（そ の他）	なし
回答数	14	6	7
割合	51.9%	22.2%	25.9%



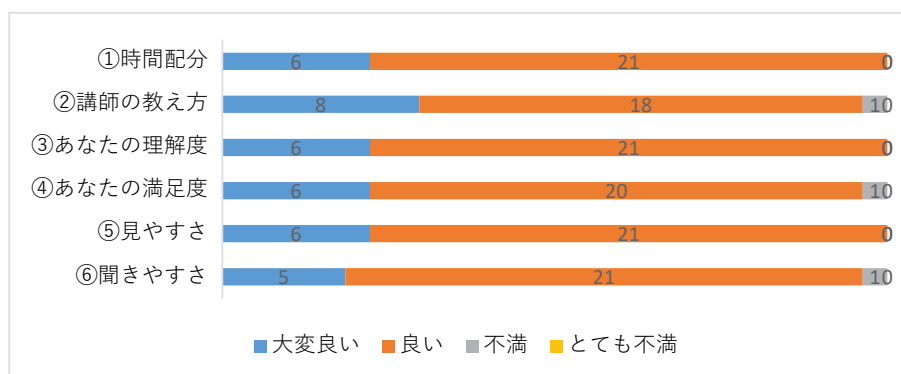
問6 これまでの原子力防災訓練への参加経験

	あり	なし
回答数	21	6
割合	77.8%	22.2%



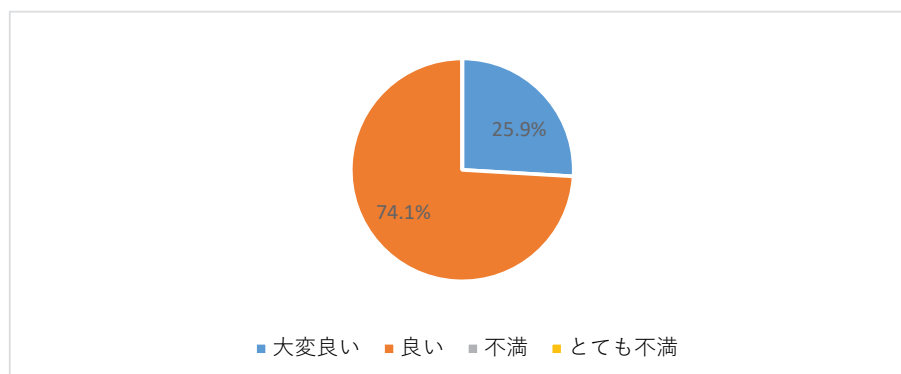
問7

	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	6	22.2%	21	77.8%	0	0.0%	0	0.0%
②講師の教え方	8	29.6%	18	66.7%	1	3.7%	0	0.0%
③あなたの理解度	6	22.2%	21	77.8%	0	0.0%	0	0.0%
④あなたの満足度	6	22.2%	20	74.1%	1	3.7%	0	0.0%
⑤見やすさ	6	22.2%	21	77.8%	0	0.0%	0	0.0%
⑥聞きやすさ	5	18.5%	21	77.8%	1	3.7%	0	0.0%



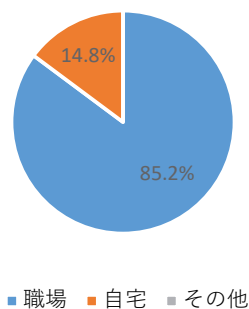
問8 操作性

	大変良い	良い	不満	とても不満
回答数	7	20	0	0
割合	25.9%	74.1%	0.0%	0.0%



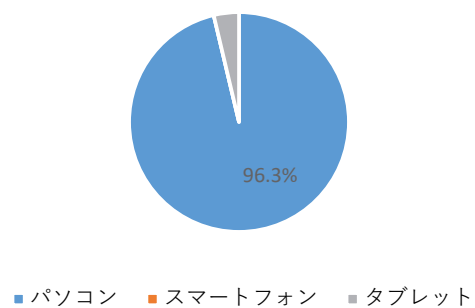
問9 受講場所

	職場	自宅	その他
回答数	23	4	0
割合	85.2%	14.8%	0.0%



問10 デバイス

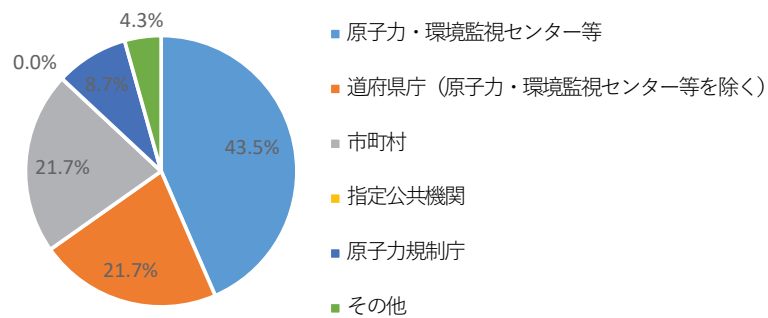
	パソコン	スマートフォン	タブレット
回答数	26	0	1
割合	96.3%	0.0%	3.7%



令和6年度 緊急時モニタリング要員育成
eラーニングアンケート集計
自己学習コンテンツ 可搬型モニタリングポストの組立て方法
回答者 23名

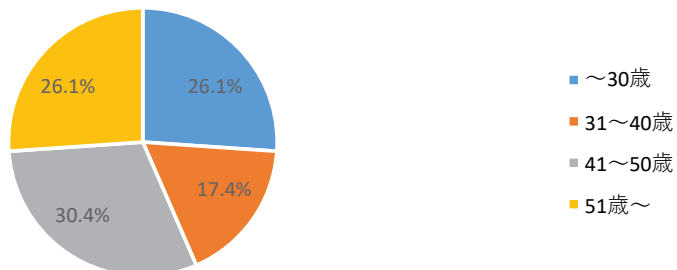
問1 所属

	原子力・ 環境監視 センター 等	道府県庁 (原子 力・環境 監視セン ター等を 除く)	市町村	指定公共 機関	原子力規 制庁	その他
回答数	10	5	5	0	2	1
割合	43.5%	21.7%	21.7%	0.0%	8.7%	4.3%



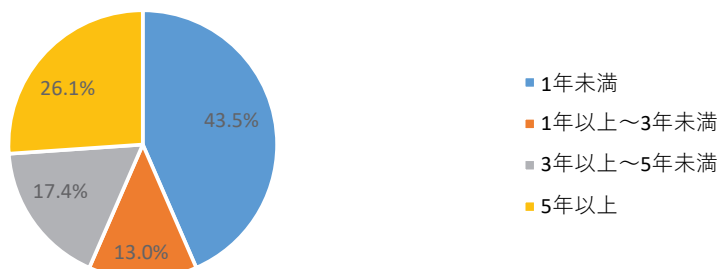
問2 年齢

	～30歳	31～40歳	41～50歳	51歳～
回答数	6	4	7	6
割合	26.1%	17.4%	30.4%	26.1%



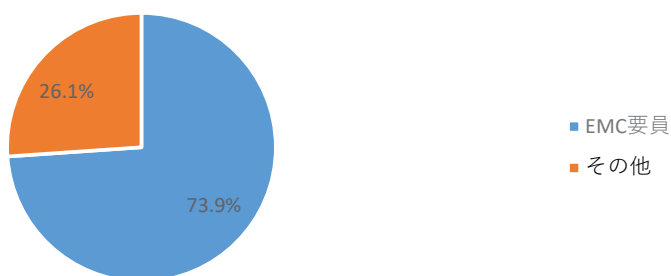
問3 経験年数

	1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上
回答数	10	3	4	6
割合	43.5%	13.0%	17.4%	26.1%



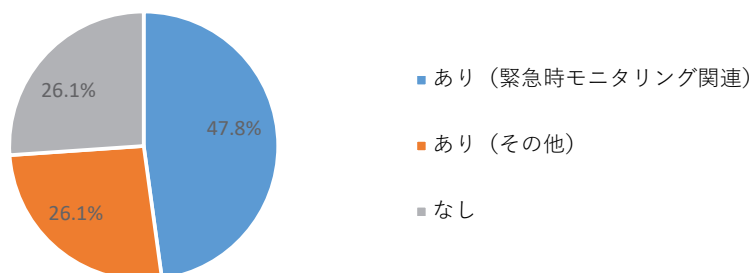
問4 原子力災害時に緊急時モニタリング要員として活動されますか。

	EMC要員	その他
回答数	17	6
割合	73.9%	26.1%



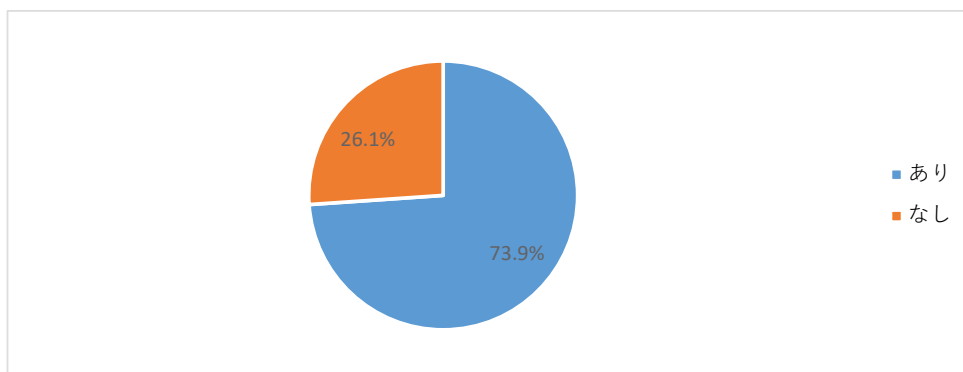
問5 これまでの原子力防災関連研修への参加経験

	あり（緊急時モニタリング関連）	あり（その他）	なし
回答数	11	6	6
割合	47.8%	26.1%	26.1%



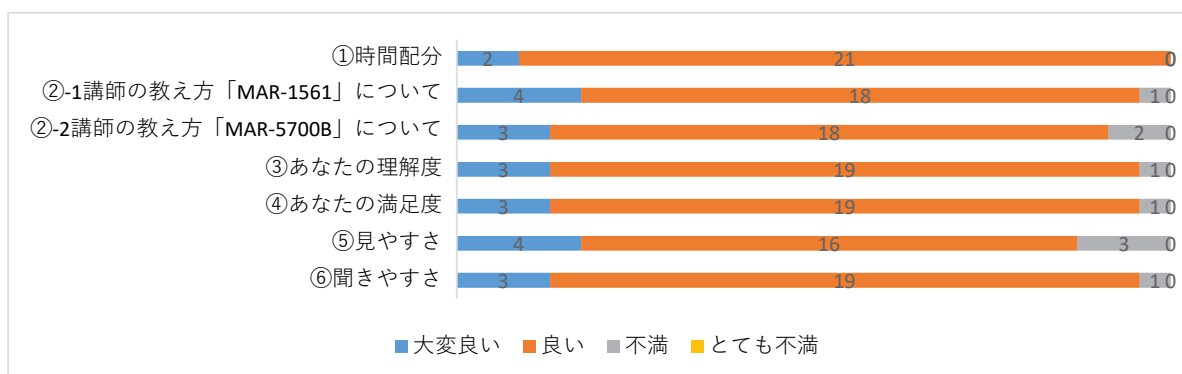
問6 これまでの原子力防災訓練への参加経験

	あり	なし
回答数	17	6
割合	73.9%	26.1%



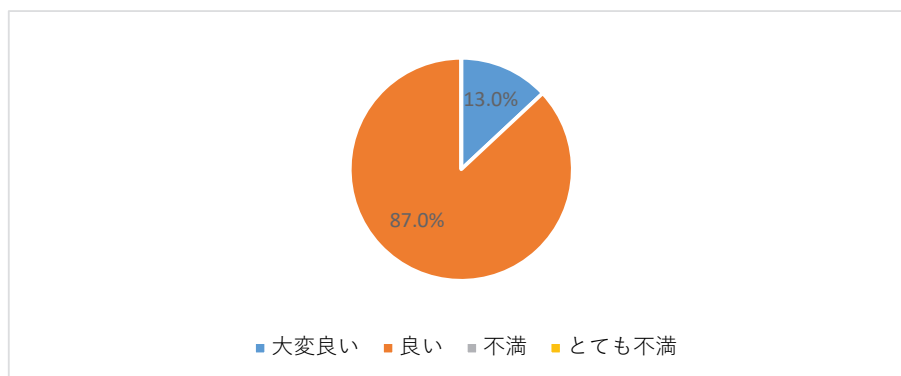
問7

	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	2	8.7%	21	91.3%	0	0.0%	0	0.0%
②-1講師の教え方「MAR-1561」について	4	17.4%	18	78.3%	1	4.3%	0	0.0%
②-2講師の教え方「MAR-5700B」について	3	13.0%	18	78.3%	2	8.7%	0	0.0%
③あなたの理解度	3	13.0%	19	82.6%	1	4.3%	0	0.0%
④あなたの満足度	3	13.0%	19	82.6%	1	4.3%	0	0.0%
⑤見やすさ	4	17.4%	16	69.6%	3	13.0%	0	0.0%
⑥聞きやすさ	3	13.0%	19	82.6%	1	4.3%	0	0.0%



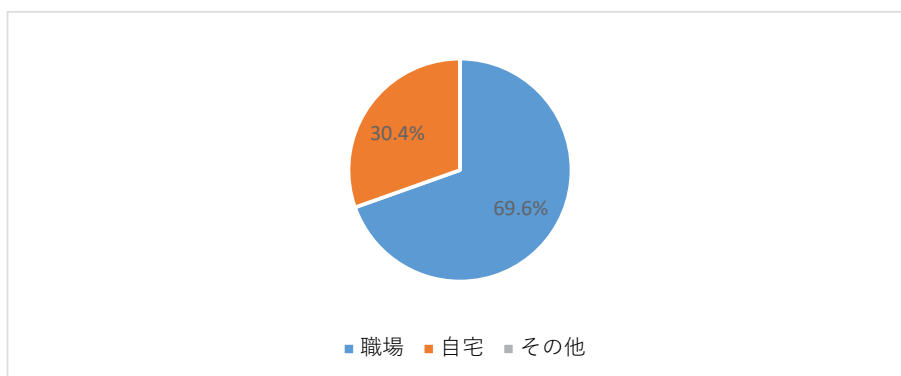
問8 操作性

	大変良い	良い	不満	とても不満
回答数	3	20	0	0
割合	13.0%	87.0%	0.0%	0.0%



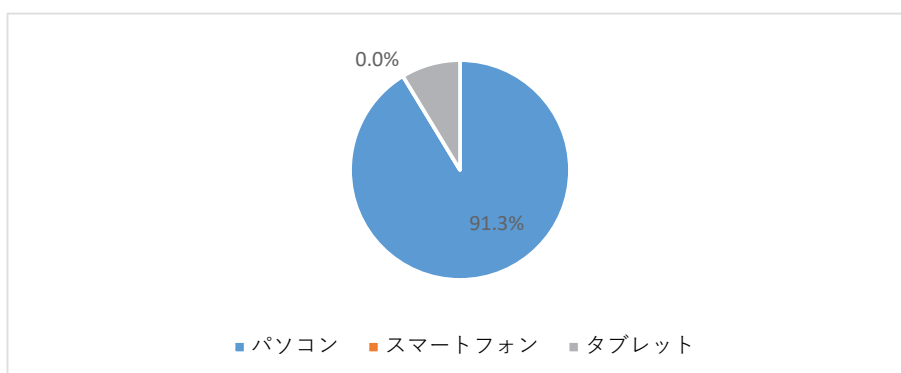
問9 受講場所

	職場	自宅	その他
回答数	16	7	0
割合	69.6%	30.4%	0.0%



問10 デバイス

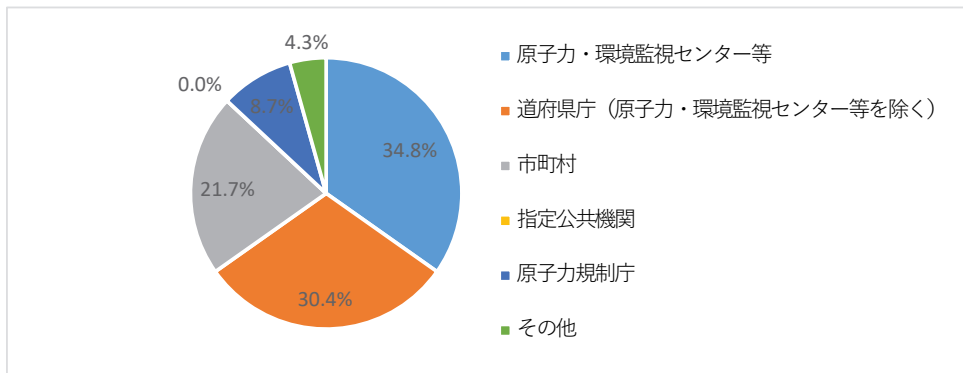
	パソコン	スマートフォン	タブレット
回答数	21	0	2
割合	91.3%	0.0%	8.7%



令和6年度 緊急時モニタリング要員育成
eラーニングアンケート集計
自己学習コンテンツ 環境試料の採取
回答者 23名

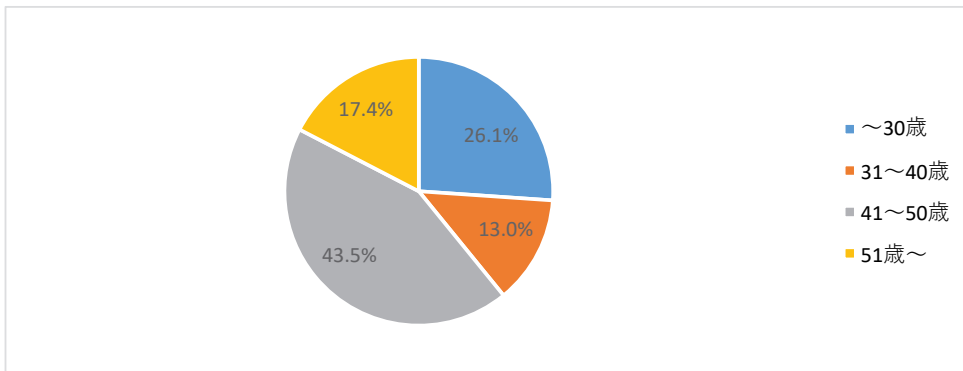
問1 所属

	原子力・ 環境監視 センター 等	道府県庁 (原子 力・環境 監視セン ター等を 除く)	市町村	指定公共 機関	原子力規 制庁	その他
回答数	8	7	5	0	2	1
割合	34.8%	30.4%	21.7%	0.0%	8.7%	4.3%



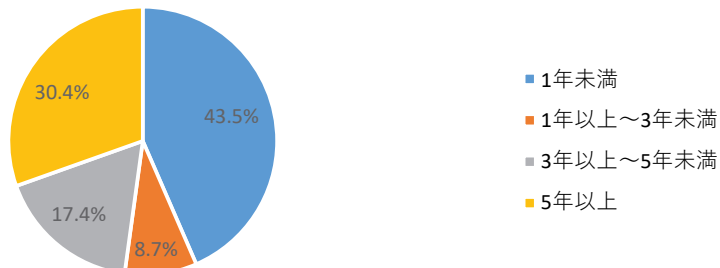
問2 年齢

	～30歳	31～40歳	41～50歳	51歳～
回答数	6	3	10	4
割合	26.1%	13.0%	43.5%	17.4%



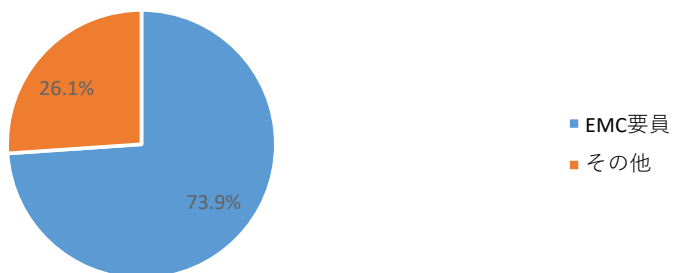
問3 経験年数

	1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上
回答数	10	2	4	7
割合	43.5%	8.7%	17.4%	30.4%



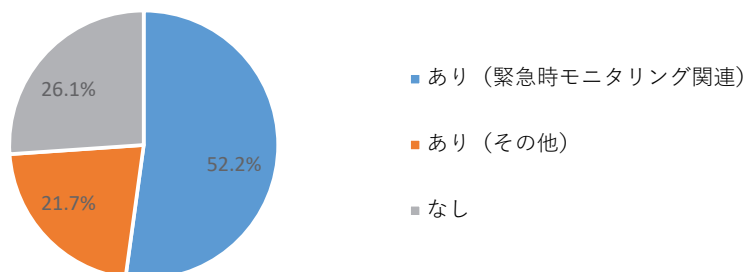
問4 原子力災害時に緊急時モニタリング要員として活動されますか。

	EMC要員	その他
回答数	17	6
割合	73.9%	26.1%



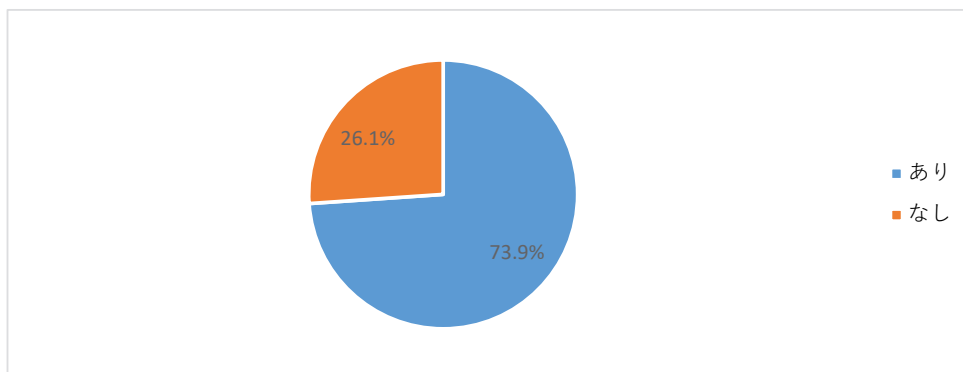
問5 これまでの原子力防災関連研修への参加経験

	あり（緊 急時モニ タリング 関連）	あり（そ の他）	なし
回答数	12	5	6
割合	52.2%	21.7%	26.1%



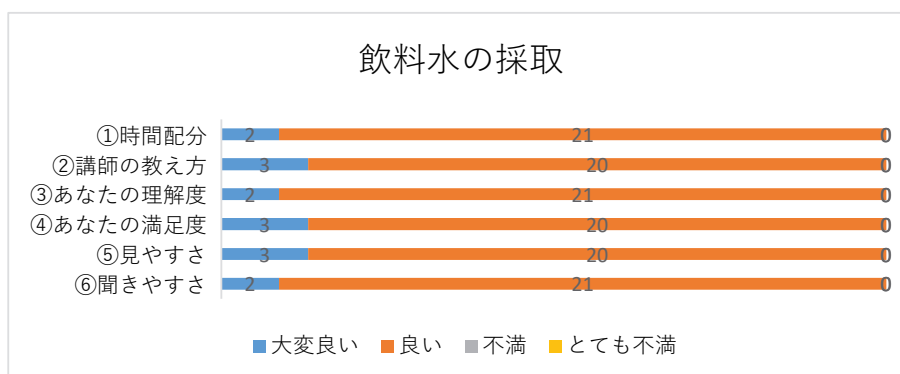
問6 これまでの原子力防災訓練への参加経験

	あり	なし
回答数	17	6
割合	73.9%	26.1%



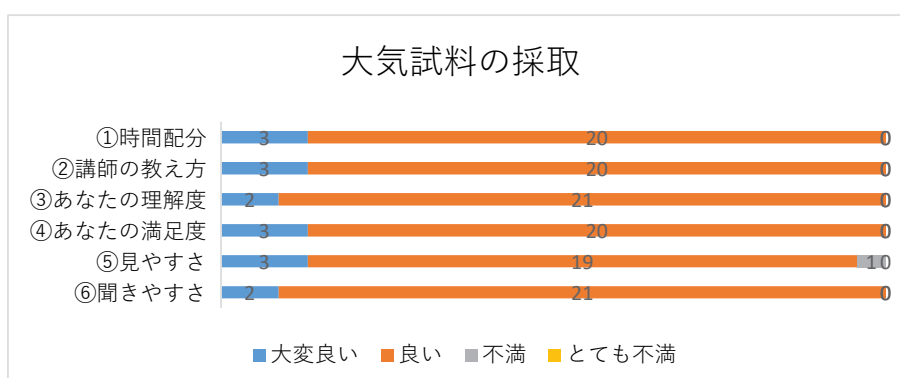
問7 飲料水の採取

	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	2	8.7%	21	91.3%	0	0.0%	0	0.0%
②講師の教え方	3	13.0%	20	87.0%	0	0.0%	0	0.0%
③あなたの理解度	2	8.7%	21	91.3%	0	0.0%	0	0.0%
④あなたの満足度	3	13.0%	20	87.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑤見やすさ	3	13.0%	20	87.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑥聞きやすさ	2	8.7%	21	91.3%	0	0.0%	0	0.0%



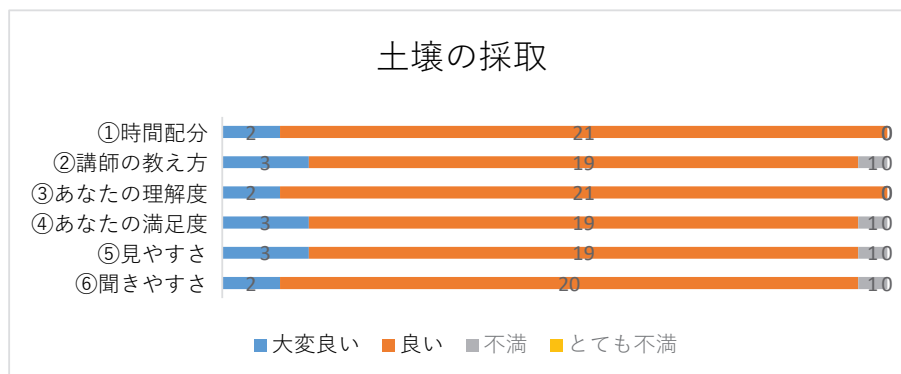
大気試料の採取

	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	3	13.0%	20	87.0%	0	0.0%	0	0.0%
②講師の教え方	3	13.0%	20	87.0%	0	0.0%	0	0.0%
③あなたの理解度	2	8.7%	21	91.3%	0	0.0%	0	0.0%
④あなたの満足度	3	13.0%	20	87.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑤見やすさ	3	13.0%	19	82.6%	1	4.3%	0	0.0%
⑥聞きやすさ	2	8.7%	21	91.3%	0	0.0%	0	0.0%



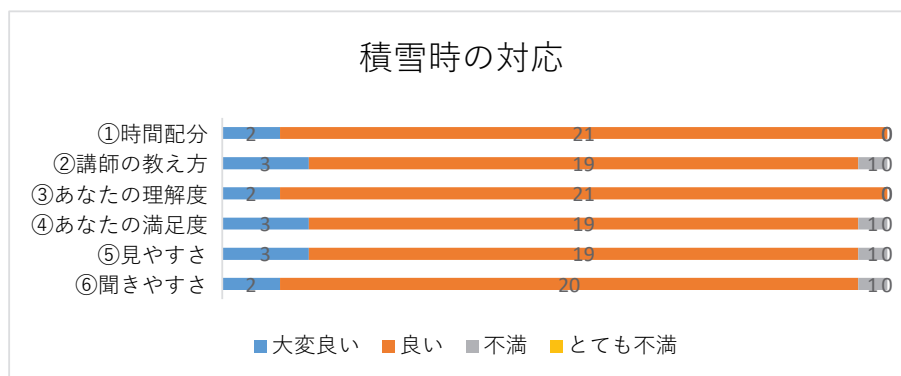
土壌の採取

	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	2	8.7%	21	91.3%	0	0.0%	0	0.0%
②講師の教え方	3	13.0%	19	82.6%	1	4.3%	0	0.0%
③あなたの理解度	2	8.7%	21	91.3%	0	0.0%	0	0.0%
④あなたの満足度	3	13.0%	19	82.6%	1	4.3%	0	0.0%
⑤見やすさ	3	13.0%	19	82.6%	1	4.3%	0	0.0%
⑥聞きやすさ	2	8.7%	20	87.0%	1	4.3%	0	0.0%



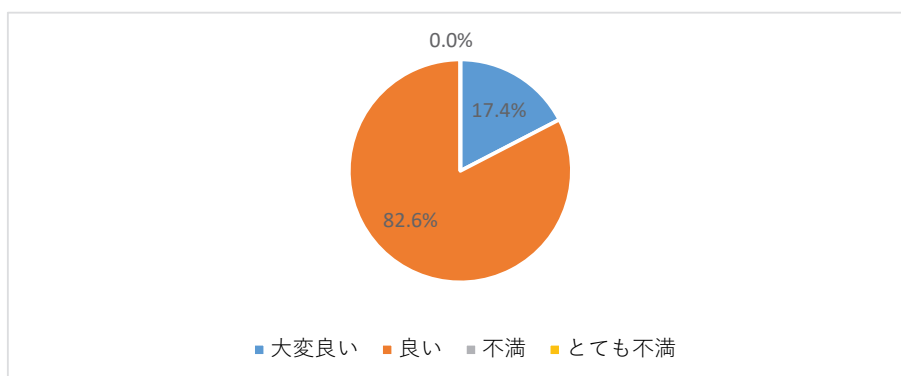
積雪時の対応

	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	6	26.1%	17	73.9%	0	0.0%	0	0.0%
②講師の教え方	7	30.4%	16	69.6%	0	0.0%	0	0.0%
③あなたの理解度	5	21.7%	18	78.3%	0	0.0%	0	0.0%
④あなたの満足度	6	26.1%	17	73.9%	0	0.0%	0	0.0%
⑤見やすさ	6	26.1%	17	73.9%	0	0.0%	0	0.0%
⑥聞きやすさ	5	21.7%	18	78.3%	0	0.0%	0	0.0%



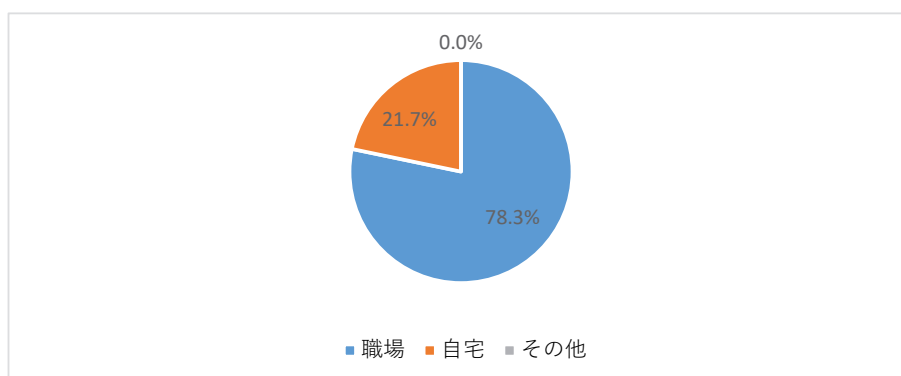
問8 操作性

	大変良い	良い	不満	とても不満
回答数	4	19	0	0
割合	17.4%	82.6%	0.0%	0.0%



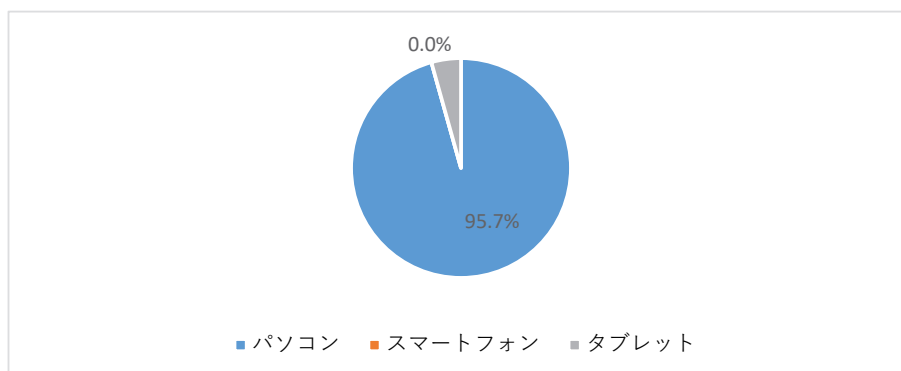
問9 受講場所

	職場	自宅	その他
回答数	18	5	0
割合	78.3%	21.7%	0.0%



問10 デバイス

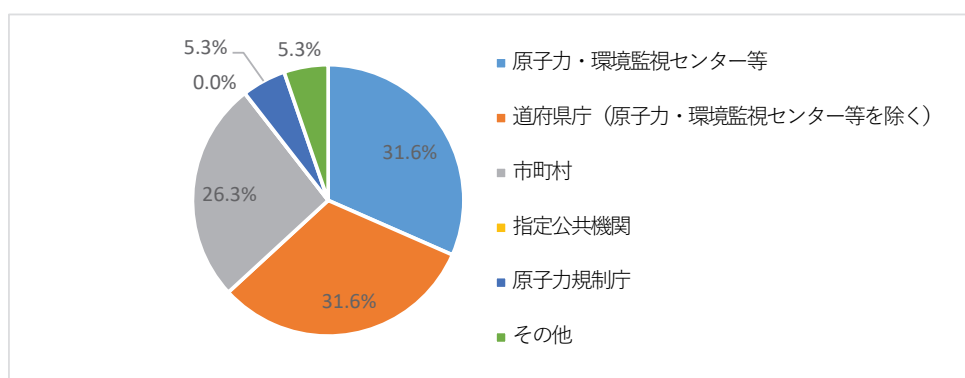
	パソコン	スマートフォン	タブレット
回答数	22	0	1
割合	95.7%	0.0%	4.3%



令和6年度 緊急時モニタリング要員育成
eラーニングアンケート集計
自己学習コンテンツ 放射線防護
回答者 19名

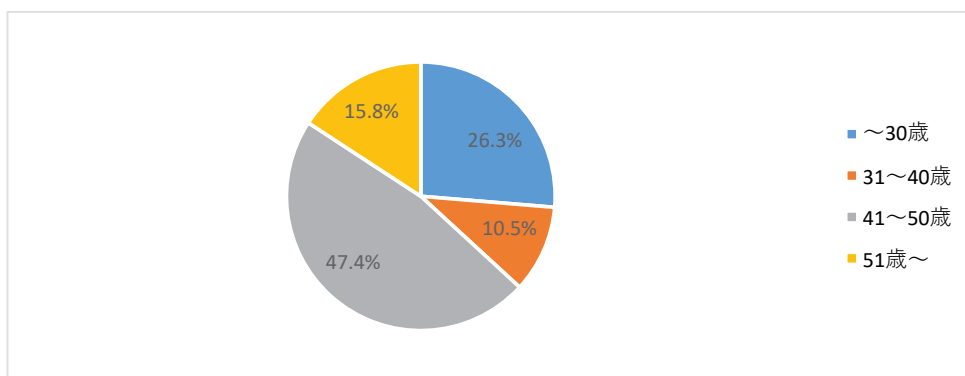
問1 所属

	原子力・ 環境監視 センター 等	道府県庁 (原子 力・環境 監視セン ター等を 除く)	市町村	指定公共 機関	原子力規 制庁	その他
回答数	6	6	5	0	1	1
割合	31.6%	31.6%	26.3%	0.0%	5.3%	5.3%



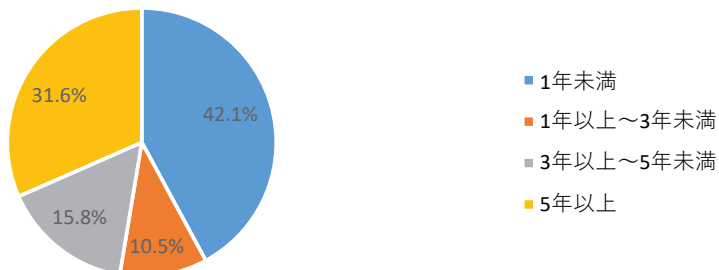
問2 年齢

	～30歳	31～40歳	41～50歳	51歳～
回答数	5	2	9	3
割合	26.3%	10.5%	47.4%	15.8%



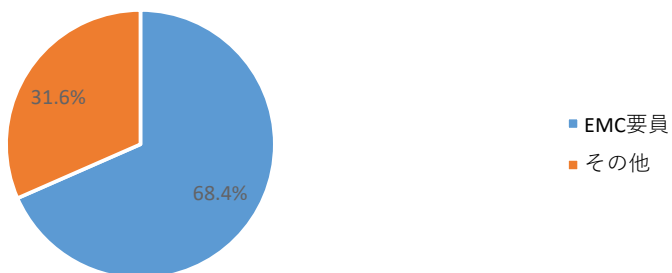
問3 経験年数

	1年未満	1年以上～ 3年未満	3年以上～ 5年未満	5年以上
回答数	8	2	3	6
割合	42.1%	10.5%	15.8%	31.6%



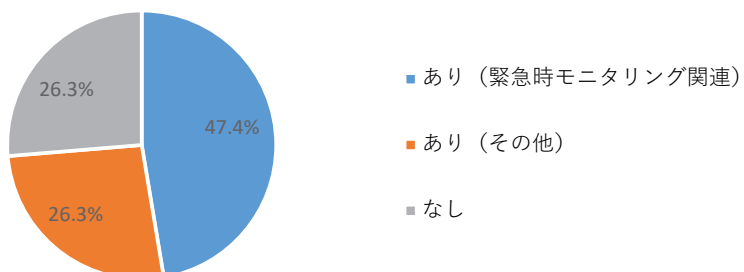
問4 原子力災害時に緊急時モニタリング要員として活動されますか。

	EMC要員	その他
回答数	13	6
割合	68.4%	31.6%



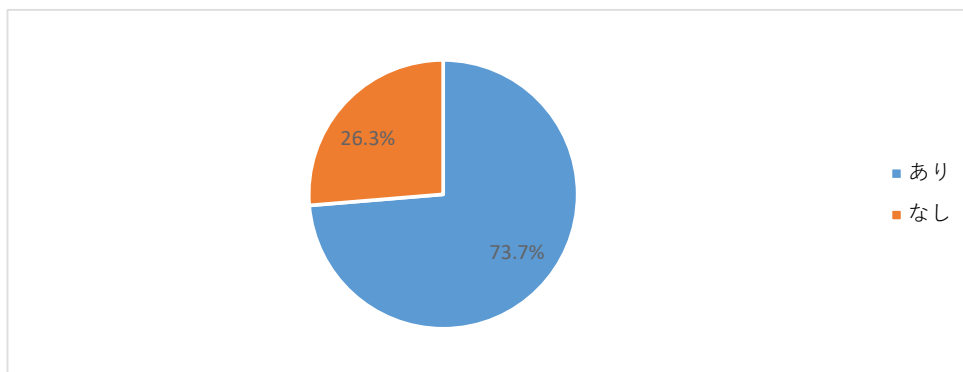
問5 これまでの原子力防災関連研修への参加経験

	あり（緊急時モニタリング関連）	あり（その他）	なし
回答数	9	5	5
割合	47.4%	26.3%	26.3%



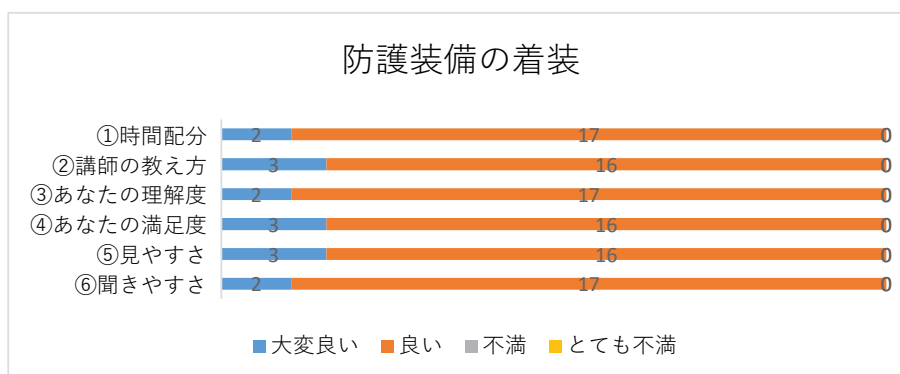
問6 これまでの原子力防災訓練への参加経験

	あり	なし
回答数	14	5
割合	73.7%	26.3%



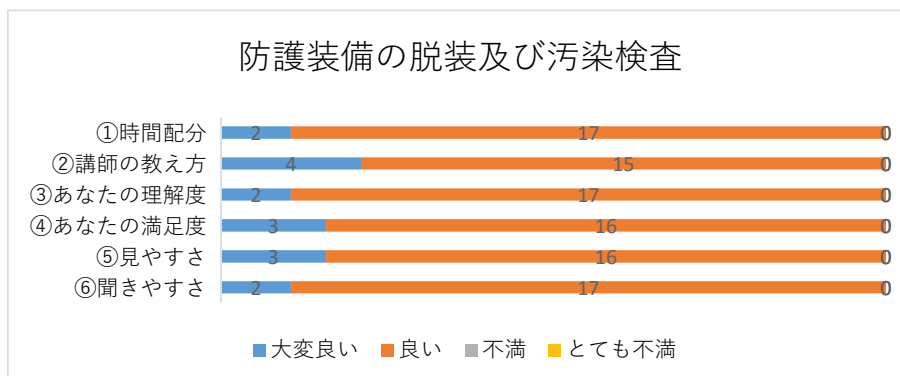
問7 防護装備の着装

	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	2	10.5%	17	89.5%	0	0.0%	0	0.0%
②講師の教え方	3	15.8%	16	84.2%	0	0.0%	0	0.0%
③あなたの理解度	2	10.5%	17	89.5%	0	0.0%	0	0.0%
④あなたの満足度	3	15.8%	16	84.2%	0	0.0%	0	0.0%
⑤見やすさ	3	15.8%	16	84.2%	0	0.0%	0	0.0%
⑥聞きやすさ	2	10.5%	17	89.5%	0	0.0%	0	0.0%



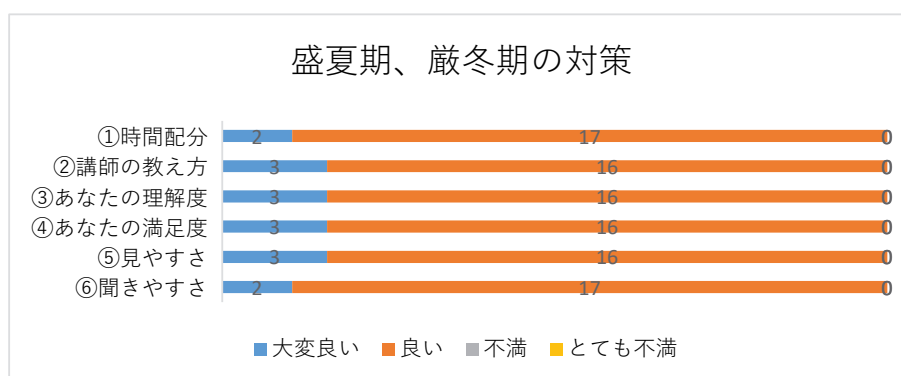
防護装備の脱装及び汚染検査

	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	2	10.5%	17	89.5%	0	0.0%	0	0.0%
②講師の教え方	4	21.1%	15	78.9%	0	0.0%	0	0.0%
③あなたの理解度	2	10.5%	17	89.5%	0	0.0%	0	0.0%
④あなたの満足度	3	15.8%	16	84.2%	0	0.0%	0	0.0%
⑤見やすさ	3	15.8%	16	84.2%	0	0.0%	0	0.0%
⑥聞きやすさ	2	10.5%	17	89.5%	0	0.0%	0	0.0%



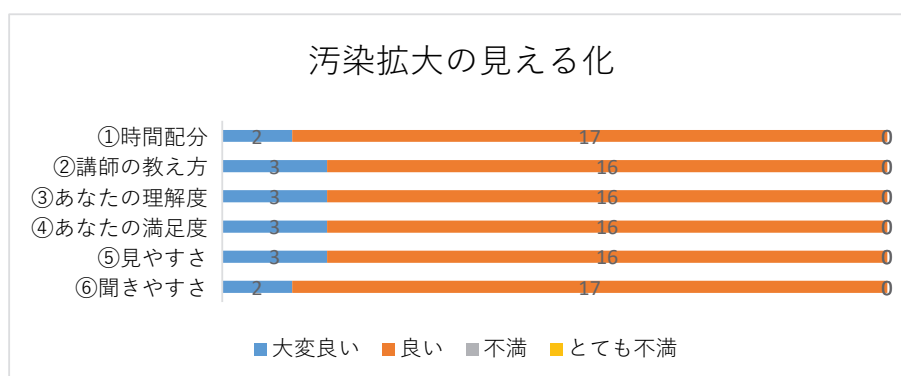
盛夏期、厳冬期の対策

	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	2	10.5%	17	89.5%	0	0.0%	0	0.0%
②講師の教え方	3	15.8%	16	84.2%	0	0.0%	0	0.0%
③あなたの理解度	3	15.8%	16	84.2%	0	0.0%	0	0.0%
④あなたの満足度	3	15.8%	16	84.2%	0	0.0%	0	0.0%
⑤見やすさ	3	15.8%	16	84.2%	0	0.0%	0	0.0%
⑥聞きやすさ	2	10.5%	17	89.5%	0	0.0%	0	0.0%



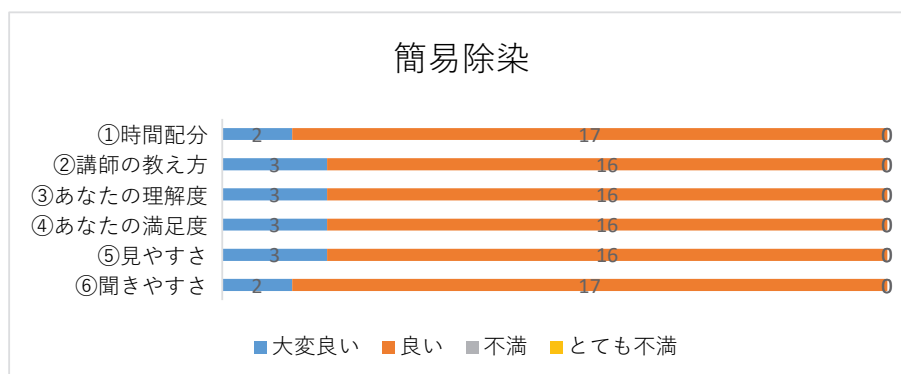
汚染拡大の見える化

	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	2	10.5%	17	89.5%	0	0.0%	0	0.0%
②講師の教え方	3	15.8%	16	84.2%	0	0.0%	0	0.0%
③あなたの理解度	2	10.5%	17	89.5%	0	0.0%	0	0.0%
④あなたの満足度	3	15.8%	16	84.2%	0	0.0%	0	0.0%
⑤見やすさ	3	15.8%	16	84.2%	0	0.0%	0	0.0%
⑥聞きやすさ	1	5.3%	18	94.7%	0	0.0%	0	0.0%



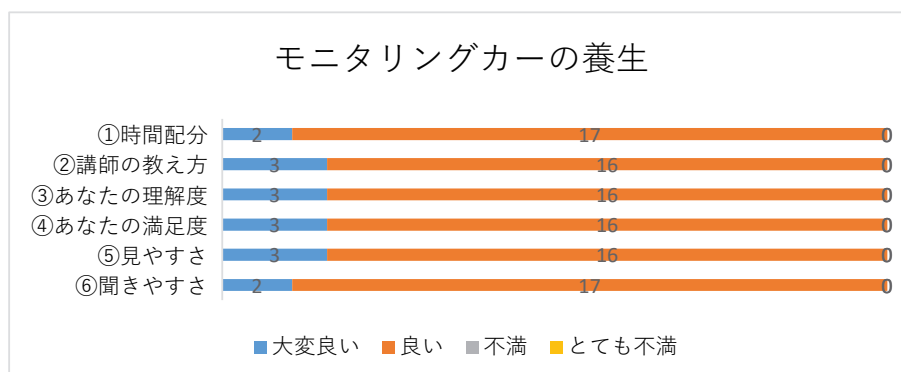
簡易除染

	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	2	10.5%	17	89.5%	0	0.0%	0	0.0%
②講師の教え方	3	15.8%	16	84.2%	0	0.0%	0	0.0%
③あなたの理解度	2	10.5%	17	89.5%	0	0.0%	0	0.0%
④あなたの満足度	3	15.8%	16	84.2%	0	0.0%	0	0.0%
⑤見やすさ	3	15.8%	16	84.2%	0	0.0%	0	0.0%
⑥聞きやすさ	2	10.5%	16	84.2%	1	5.3%	0	0.0%



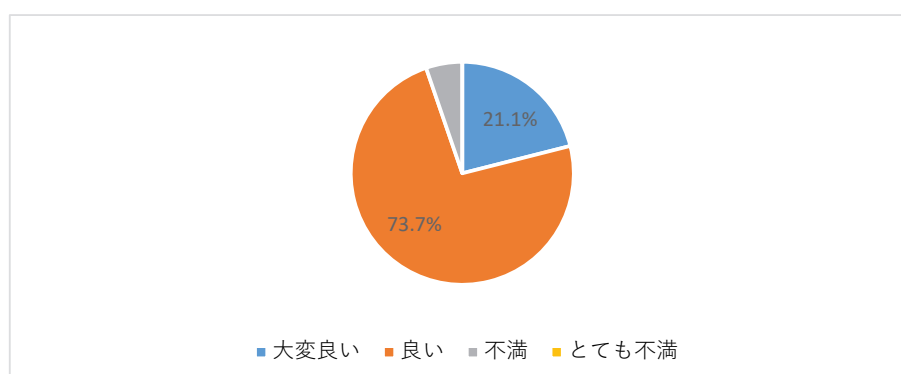
モニタリングカーの養生

	大変良い	大変良い	良い	良い	不満	不満	とても不満	とても不満
①時間配分	2	10.5%	17	89.5%	0	0.0%	0	0.0%
②講師の教え方	4	21.1%	15	78.9%	0	0.0%	0	0.0%
③あなたの理解度	3	15.8%	16	84.2%	0	0.0%	0	0.0%
④あなたの満足度	5	26.3%	14	73.7%	0	0.0%	0	0.0%
⑤見やすさ	3	15.8%	16	84.2%	0	0.0%	0	0.0%
⑥聞きやすさ	2	10.5%	17	89.5%	0	0.0%	0	0.0%



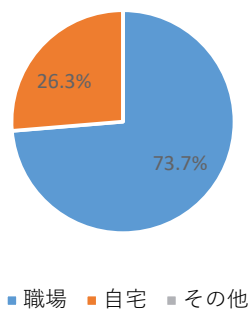
問8 操作性

	大変良い	良い	不満	とても不満
回答数	4	14	1	0
割合	21.1%	73.7%	5.3%	0.0%



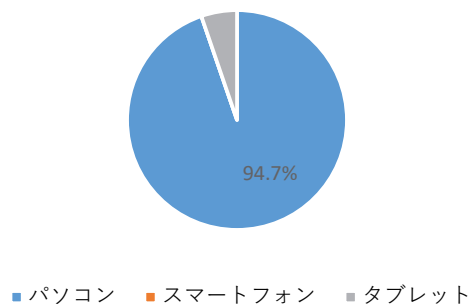
問9 受講場所

	職場	自宅	その他
回答数	14	5	0
割合	73.7%	26.3%	0.0%



問10 デバイス

	パソコン	スマートフォン	タブレット
回答数	18	0	1
割合	94.7%	0.0%	5.3%



緊急時モニタリング要員育成 e ラーニング
アンケート自由記述

目次

1. 基礎講座コンテンツ：放射線の基礎
2. 基礎講座コンテンツ：緊急時モニタリングの流れ
3. 基礎講座コンテンツ：緊急時モニタリングの実際
4. 基礎講座コンテンツ：理解度確認テスト
5. EMC 活動訓練コンテンツ：緊急時モニタリングセンターの役割と情報の流れ
6. EMC 活動訓練コンテンツ：放射線モニタリング情報共有・公表システム（RAMIS）の操作方法：ご意見・ご要望
7. EMC 活動訓練コンテンツ：クロノロジーシステム（原子力防災システム（NISS））の操作方法
8. EMC 活動訓練コンテンツ：電話の操作方法：ご意見・ご要望
9. 福島原発事故コンテンツ：福島原発事故の緊急時モニタリング活動の実際と課題
10. 福島原発事故コンテンツ：福島原発事故の緊急時モニタリング活動について（国の対応）
11. 福島原発事故コンテンツ：福島原発事故のオフサイトセンター及び原子力センターでの対応
12. 福島原発事故コンテンツ：福島原発事故の緊急時モニタリング活動（佐賀県の対応と支援）
13. 福島原発事故コンテンツ：福島原発事故の福島県における緊急時モニタリング活動
14. 福島原発事故コンテンツ：ふくしまの今（1,000 年に一度の地震と原子力複合災害を経験して）
15. 自己学習コンテンツ：放射線の性質確認
16. 自己学習コンテンツ：空間放射線量率の測定（福島県での測定）
17. 自己学習コンテンツ：可搬型モニタリングポスト組立て方法
18. 自己学習コンテンツ：大気試料の採取
19. 自己学習コンテンツ：飲料水の採取
20. 自己学習コンテンツ：土壌の採取
21. 自己学習コンテンツ：積雪時の対応
22. 自己学習コンテンツ：防護装備の着装
23. 自己学習コンテンツ：防護装備の脱装、汚染検査
24. 自己学習コンテンツ：防護服着装の工夫（盛夏期・厳冬期）
25. 自己学習コンテンツ：汚染拡大の見える化
26. 自己学習コンテンツ：簡易除染
27. 自己学習コンテンツ：モニタリングカーの養生
28. 追加してほしいコンテンツ
29. その他、全体的な感想、お気づきの点など

1. 基礎講座コンテンツ：放射線の基礎
 - ・不満はありません

- ・とても分かりやすく良かったと思います。
- ・分かりやすくまとめていたと思う。忘れたときに見返す資料になりそうです。
- ・要点だけまとめられており、分かりやすかった。
- ・各スライドの構成が、内容を一目で理解できるものになっており、わかりやすかった。また、説明が音声だけでなく、文字でも表示されるので、より理解しやすかった。
- ・長く感じるがしっかり聞くと全て重要なことばかりだった。
- ・基礎的内容がコンパクトにまとめられており、一定の知識があれば、復習としても確認することができるため、非常によい研修コンテンツと感じた。一方で、新人職員など、放射線の知識がない人間には、馴染みの薄い用語などの説明が淡白に行われていることから、もう少し具体的なイメージができるような内容を追加されると良いとも感じた。
- ・モニタリングに参加したことがないので少しでも学習した内容が生かせるようにしたいと考えます。
- ・自分の知識が不足している。
- ・放射線の基礎は難しいので、もう少し時間をかけてお教えいただかないと理解が着いていなかったところがあります。
- ・再生速度の調整ができて便利だった。
- ・専門用語が多く、覚えるのが難しい。
- ・放射線に関する専門的な知識がたくさん出て来るので、もっと時間をかけて、じっくり教えていただかないと、理解がついていかない。
- ・基礎知識が不足しているからだと思うのですが、話されている内容が理解が十分にできたとは言えないと感じる。
- ・内容が難しすぎました。放射線を取り扱う上での基盤的知識だとは思いますが、今回の講座はモニタリング技術の基礎的な講座ですので、専門的な正しい説明はおいといて、概念的に放射線とはどのようなものなのかが理解できる内容でも良かったかと思います。
- ・原子力や物理の知識は、高校で習った初歩的なものでしかなく、また、学校を卒業してから何十年も経っているものにとっては難しすぎた。
- ・もう少し簡潔にまとめてほしい。何故か頭に残らない。
- ・物理量、防護量、実用量について、個別の説明をしながらそれらの相関を説明されても情報量が多くて整理が追いつかず、まとめのスライドで理解が追いついた状況だった。また、どの部分が重要なのか、どの実務においてどこを押さえるべきかなど一連の説明ではなかなか分かりづらかったので、説明の順序や説明量のメリハリなど工夫していただきたかった。
- ・進行速度が早く感じた。
- ・少々長い。(同意見 2 件)

2. 基礎講座コンテンツ：緊急時モニタリングの流れ

- ・ご説明が分かりやすかったです。
- ・とても分かりやすく良かったと思います。
- ・業務を行う中で、理解不足だった点等が体系的に理解することができた。
- ・消防の活動とは少し違うところがあるが他機関の活動を知ることができた。
- ・具体的なイメージがわかりやすく説明をされており、何をすべきかがわかりやすい研修コンテンツでした。特に平常時と緊急時の違いについて、具体的に説明が

なされており、現場で日常業務の中でやっているモニタリングと訓練でやっているモニタリングの違いを理解することが出来ました。

- ・昨年度は業務の都合で研修を受けることなく訓練に参加したため、緊急時の放射線測定を実施する意義がわからないまま、訓練に参加していたが、今回は測定をする目的が理解できた。
- ・研修や訓練の後に見るとよく内容ができると思う。
- ・理解すべき言葉（PAZ や UPZ など）を抑えるべきポイントとして繰り返し言っていたことはありがたかった。
- ・PAZ、UPZ の参考資料はとても参考になりました。
- ・略語の説明がわかりやすかった。
- ・アルファベット 3 文字の略語が多く登場し、やや混乱がみ。元の単語について、記載や説明があっても良かったかと思いました。
- ・アルファベット略字が使われる場合、初出の際に正式名称を示して欲しかった。特に ERC はピンとこなかった。
- ・専門用語が多く、覚えるのが難しい。
- ・理解度とトレードオフになるかもしれないが、個人的には聞きやすい速度でなかったもので、1.25 倍速で聞いた。
- ・時間をもっと短くしてほしい
- ・自分には情報量が多すぎて、定着していないと感じました。
- ・自分の知識が不足している。
- ・3 つの講義の中で最も話が複雑だったために動画だけでは理解が追い付かなかった。

3. 基礎講座コンテンツ：緊急時モニタリングの実際

- ・具体的な説明でわかりやすかった。
- ・とても分かりやすく良かったと思います。
- ・事例を交えて説明してくれているのがよかった。
- ・全体の流れを追いつつ、個々の役割の説明は非常に難しいと思うが、分かりやすくまとめられていた。
- ・実際のモニタリングの様子も理解できる非常によい研修コンテンツでした。一方で、折角の福島での事例について、いくつかご紹介がありましたが、福島で実際にされたことや失敗例（特に当初の段階で失敗があり、改善された事例など）を共有いただけると、実際の現場での対応時にも参考になるのではないかと感じた。
- ・測定の仕方などはあまりする機会がないので注意点が知れてよかった。
- ・実習でさらに理解を深めたい。
- ・自分の知識が不足している。
- ・EMC の要員として、測定に関わるということは理解していたが、おそらく説明が様々な立場の要員に向けて作られているからかと思われるが、自分の具体的な役割に引きつけて理解しにくかった。測定要員の所属ごとに説明を分けた方が良いかも知れないと思いました。
- ・測定要員の所属の違いに合わせて内容を少し変える方が良いかも知れないと思いました。
- ・講義 1 や講義 2 と内容が重複する内容があったと考えるので重複する内容を削るともう少し短くなるのではないかと。

- ・緊急時を想定しているので、組織と設置している機器に応じて説明を分けるというように感じた。私のところにはモニタリングカーの設置はないので、サーベイメーターの説明やその目的に特化するとかのほうが、実際の緊急事態には、やることが明確になって活動がしやすくなるのではないかと感じた。
- ・撮経路について冗長と感じた。
- ・時間をもっと短くしてほしい。
- ・講師の顔が見えないため、説明が単調に聞こえてしまい、講義内容の印象が薄くなってしまう。

4. 基礎講座コンテンツ：理解度確認テスト

- ・大変難しかったです。
- ・確認テストの分量をもっと増やしても良いかもしれません。
- ・再試験の際にいくらかは問題を変えてほしい。

5. EMC 活動訓練コンテンツ：緊急時モニタリングセンターの役割と情報の流れ

- ・ERC、OFC といった略語が多いが、何の略語か紹介されているものもあれば、何の説明もないものもある。初出時は紹介していただくほうが理解しやすいと思います。
- ・当初、略語の説明はあったが、出てくるものが多く、混乱が生じた。
- ・通常業務で使用しない用語等がなかなか頭に入ってこない。
- ・少し分かりにくい。

6. EMC 活動訓練コンテンツ：放射線モニタリング情報共有・公表システム（RAMIS）の操作方法：ご意見・ご要望

- ・実際の必要に応じて、自分で操作してみないと理解が深まらないと思う。
- ・予習復習のためのものだと思いますが、初めて習うシステムについて、ただ漫然と説明されても使えるイメージが持てません。講義内容について、もう少し工夫していただきたいです。例えば、「この RAMIS を使った場合と使わなかった場合で、どのようなメリットがあるのか」、「このシステムを使うことでモニタリング活動がどのように円滑に進むのか」など、具体的な操作方法の説明を漫然とお話いただくよりは、「RAMIS 自体を使えばこんなに良いことがある」ということをきちんと理解させてほしいです。「RAMIS というシステムがあるんだなあ」ということした頭に残りませんでした。
- ・動画の再生スピードを変えることができよかった。
- ・動画内の文字が小さくてみにくい。

7. EMC 活動訓練コンテンツ：クロノロジーシステム（原子力防災システム（NISS））の操作方法

- ・実際の操作方法をイメージできた。
- ・動画が多く、理解しやすかった。
- ・結局実際に操作しないと覚えられない。
- ・動画内の文字が見にくい。
- ・撮影はほぼ同じアングルで終始淡々と収録されていましたが、適宜、対象物をアップにするといった工夫があると理解度が高まると思いました。

8. EMC 活動訓練コンテンツ：電話の操作方法：ご意見・ご要望
回答なし
9. 福島原発事故コンテンツ：福島原発事故の緊急時モニタリング活動の実際と課題
回答なし
10. 福島原発事故コンテンツ：福島原発事故の緊急時モニタリング活動について（国の対応）
回答なし
11. 福島原発事故コンテンツ：福島原発事故のオフサイトセンター及び原子力センターでの対応
回答なし
12. 福島原発事故コンテンツ：福島原発事故の緊急時モニタリング活動（佐賀県の対応と支援）
・ 当時の経験談等、非常に参考になりました。
13. 福島原発事故コンテンツ：福島原発事故の福島県における緊急時モニタリング活動
回答なし
14. 福島原発事故コンテンツ：ふくしまの今（1,000 年に一度の地震と原子力複合災害を経験して）
回答なし
15. 自己学習コンテンツ：放射線の性質確認
回答なし
16. 自己学習コンテンツ：空間放射線量率の測定（福島県での測定）
・ 測定場所の条件についての説明があってもいいのかなと思いました。検出器を向ける方向が開けていること、測定場所の近傍に建物や木・林等がないこと、ある程度の面積（10m 四方？）の平地の中央で測定することが望ましい等、いろいろあると思います。
・ 福島での測定の様子の部分で、なぜ石段下を測定ポイントとして選定されたのか不思議に思いました。
17. 自己学習コンテンツ：可搬型モニタリングポスト組立て方法
・ 実際の現場で迷うような事についてお手本を示してほしいです。
・ バラバラに外して持ち込んだ機材をいかに早くケーブルを接続し測定を開始するコツ、養生方法、回収時の養生の外し方について、追加をお願いします。
・ 緊急時は防護服を着用するので、もっと作業しにくいはずです。講師も着用した状態で作業してほしいです。
・ MAR-5700B を組み立てたことがあり、本体やバッテリーなどの周辺機器の接続

が煩雑だった記憶がありますが、動画では LAN 線 1 本の接続で終わってしまし
たし、接続する端子部分が装置の陰で写っておらず、少し構成やカメラアングル
を工夫いただきたいと思いました。

・ MAR-1561 については、カメラが離れた位置固定で、ちょっと見づらいです。

18. 自己学習コンテンツ：大気試料の採取

回答なし

19. 自己学習コンテンツ：飲料水の採取

回答なし

20. 自己学習コンテンツ：土壌の採取

回答なし

21. 自己学習コンテンツ：積雪時の対応

- ・ 丁寧に編集されていて大変見やすかったです。
- ・ 適宜、図表やアニメーションが挿入される等、大変丁寧に作成されており、見やすくなりやすかったです。

22. 自己学習コンテンツ：防護装備の着装

回答なし

23. 自己学習コンテンツ：防護装備の脱装、汚染検査

回答なし

24. 自己学習コンテンツ：防護服着装の工夫（盛夏期・厳冬期）

回答なし

25. 自己学習コンテンツ：汚染拡大の見える化

回答なし

26. 自己学習コンテンツ：簡易除染

回答なし

27. 自己学習コンテンツ：モニタリングカーの養生

回答なし

28. 追加してほしいコンテンツ

- ・ 基礎としては充実していると思います。
- ・ 関係法令の解説がほしいです。
- ・ 全て必要なことだとは思いますが、特に必要なところはより詳しく説明していただけたらと思う。
- ・ 初めて受講する方には理解に苦しむようなところも多いことから、噛み砕いた別

のコンテンツも開設していただけたらと思います。

- ・ EMC 訓練の実際の活動状況動画と、その活動状況が何をしているところなのかの解説。
- ・ EMC で判断を行う上での留意点についての解説があれば良いのではないかな。
- ・ 国や道府県以外、原子力関連事業者等との協力方法などの具体例があると良いと思います。本県ではモニタリングポストの非常用発電機への給油等が協定で決まっているようです。
- ・ 実際起きた事故時の状況と反省点など、実例に基づいた説明があるとよりイメージしやすいと思いました。
- ・ 実例に基づいた説明があるとイメージしやすいと思います。
- ・ 福島での失敗例や苦労話など、現場で何が起こったことで、想定していたとおりのモニタリングが出来なかったとか、その際にどのような対応をされたとか、想定を超えた実際の事例がたくさんあると思います。失敗例を出すことは難しい面もありますが、関係者への研修だからこそ、本音での失敗例や苦労話を共有いただき、いざという時に様々なアイデアで現場対応ができるような訓練を積み重ねておくことが重要ではないかと感じました。
- ・ 1F 事故直後は、日本全体が混乱しており、多種多様な相談が各自治体の原子力センターに集中し、その対応にも追われることとなった。その辺りの状況についても e ラーニングに取り入れたら如何か。
- ・ 1F 事故直後に対応した福島県職員のお話も聞きたい。
- ・ 原発協・放調協の応援協定枠で福島に応援に行った職員と、全国知事会枠で福島に応援に行った職員では、活動の制限や活動報告、住環境等にも違いがあるように思うので、全国知事会枠で福島応援に行った立地自治体ではない自治体職員や立地自治体でモニタリング専門職として応援に行った職員の話も聴いてみたい。
- ・ 機器の操作方法の動画を希望します。
- ・ 動画があれば良い。
- ・ 動画教材があれば動画で見たいです。
- ・ 研修動画がわかりやすかったのも、後日復習のために保存できるとありがたいです。
- ・ 動画再生時の矢印キー、→で5秒スキップ、←で5秒バック機能
- ・ 可能でしたら、10 秒程度戻る、進むボタンがあれば、スマホでも操作しやすくなると思います。あるいは、YouTube チャンネルのように画面を長押ししてる間は2倍速になるなど。
- ・ 今回はパソコンで受講しました。動画の一時停止や少し巻き戻す操作をキーボードでできるようにしていただきたいと思いました。例えば、スペースキーで一時停止、矢印キーで5秒（もしくは10秒）戻す・進めるなどです。改善のご検討をお願い致します。

29. その他、全体的なご感想、お気づきの点など

- ・ 今まで受講した原子力の研修の中で一番確認しやすかったです。
- ・ 細かいところまでわかりやすくまとまっていたのがよかった。
- ・ 全体的にわかりやすく説明されており、理解しやすかった。
- ・ 非常に分かりやすく大変勉強になりました。
- ・ 非常にわかりやすかった。
- ・ とても勉強になりました。今後も本資料を参照させていただきたいです。

- ・大変勉強になりました。
- ・原子力関係についての業務経験がない状態でしたが、モニタリング業務に携るための知識が得られて良かったと思います。業務の合間に効率よく体系的に学習でき、テストで復習もできるので、良い学習システムと思います。
- ・わからなかったところを再度資料で確認し理解できるようなシステムなので、理解できていない部分を克服することができた。
- ・現状における自身の難易度は高かったが、一方で勉強になりました。
- ・オンラインで受講できるのがよかった。
- ・必要な知識なのだろうが、初心者にはやや内容が濃すぎた。
- ・原子力業務の経験がないので、eラーニングの内容は詳細にわたり、難しいものもあった。繰り返し、研修したい。
- ・学習する期間が2週間くらいあればよいと思います。
- ・使用している機器の通信環境がわるいと、途中で止まってしまったりして、進まないことが間々ありました。もう少しデータを軽くしたりは出来ないものでしょうか。
- ・パソコンの能力不足かもしれないが、時々データ読み込みのため一時停止することがあった。